
熊本市健康づくりに関する市民アンケート
調査報告書

令和5年11月

熊本市

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的	3
2	調査の内容	3
II	回答者の特性	5
III	成果指標	9
	成果指標（健康くまもと21）	11
	成果指標（食の安全安心）	12
	成果指標（食育）	13
	成果指標（歯科保健）	14
IV	調査結果　－健康くまもと21－（※太字は成果指標）	15
	がん検診の受診率の向上	17
	過去1年間（乳がん・子宮頸がんは過去2年間）に受診したがん検診	17
	受診した検診機関	18
	受診しない理由	22
	適当だと思うがん検診の自己負担割合	23
	COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度の向上	25
	COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度	25
	受動喫煙（家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関）の機会を有する者の割合の減少	27
	受動喫煙の状況	27
	受動喫煙をなくすために最も重要（必要）な対策	38
	喫煙の状況	40
	禁煙の取り組み意向	42
	禁煙を支援する取組として、最も重要（必要）なこと	44
	ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している市民の割合の増加	46
	ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度	46
	CKD（慢性腎臓病）の認知度	48
	内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防改善の取組	49
	日常生活における歩数の増加	51
	平日及び休日の歩数（1日の平均歩数）	51
	「健康寿命」の認知度	52
	「健康まちづくり」の認知度	54

「新型コロナウイルス感染症」の流行による変化	56
「新型コロナウイルス感染症」の流行による変化の内容	57
健康を維持するための災害時の備え	59
共食の増加（食事を1人で食べる子どもの割合の減少）	61
朝食を家族と一緒に食べる頻度	61
夕食を家族と一緒に食べる頻度	62
20歳代男性、30歳代男性の1週間あたりの朝食の欠食率の減少	63
1週間あたりの朝食を食べる頻度	63
60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加	65
80歳で20歯以上の自分の歯を有する者（8020達成）の増加	65

V 調査結果 一食の安全・安心（※太字は成果指標） 67

食の安全性確保のために意識して実践していることがある市民の割合	69
食の安全性確保のために意識して実践していることがあるか	69
食の安全性確保のために意識して実践していること	69
食品について安全性が高まってきていると感じている市民の割合	70
食品について安全性の高まりを感じる度合い	70
「残留農薬」について不安を感じる市民の割合	72
「食品添加物」について不安を感じる市民の割合	72
「食品の不正（偽装）表示」について不安を感じる市民の割合	72
「輸入食品」について不安を感じる市民の割合	72
食の安全性に不安を感じるもの	73
食品の安全性について不安を感じる時	76
食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合	77
食品の安全性に関する知識の有無	77
食事・食品等に関する正しい知識や情報を得ようと努めている市民の割合	79
栄養や食事・食品に関する正しい情報を得ようとする度合い	79
食品を購入する際に表示を確認している市民の割合	81
食品を購入する際の表示確認の有無	81
食品を購入する際に確認する表示	83
熊本市が食品の安全確保のため検査を実施していることの認知度	84
くまもとの農林漁業の生産者が行っている生産物の安全・安心のための取組	84
H A C C Pについて知っている市民の割合	85
H A C C Pの認知度	85
H A C C Pを実施している飲食店や食品販売店の認知度	88
飲食店や食品販売店を選ぶ際に、H A C C Pを実施していることを重視するか	88
H A C C Pを実施していることを消費者に伝える効果的な手段	89

食生活や食品に関して欲しい情報	90
「くまもとの食（安全安心のひろば・食育のひろば）」の認知度	91
食に関する情報の入手先	93
VI 調査結果 一食育一（※太字は成果指標）	95
食育に関心がある市民の割合	97
食育への関心	97
食事のとき楽しいですか	108
「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる」共食の回数の増加	113
朝食を家族と一緒に食べる頻度	113
夕食を家族と一緒に食べる頻度	117
友人や仲間、職場や地域の方と一緒に食事をする機会	121
1週間あたりの朝食の欠食率	124
1週間あたりの朝食を食べる頻度	124
朝食を食べない最も大きい理由	128
朝食のメニュー	130
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	134
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を食べる割合	134
野菜を1日に食べる量	138
生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を継続的に実践している市民の割合	141
生活習慣病の予防や改善のための適切な食事等の実践	141
ふだんゆっくりよく噛んで食べているか	146
自分の適正体重（BMI）を知っていますか	150
BMI判定	153
「食事バランスガイド」の認知度	155
「食事バランスガイド」の参考度	158
スーパーや飲食店等での栄養成分の表示の認知度	163
栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合	166
栄養成分を参考にしてメニューを選ぶか	166
外食や中食の頻度	171
進んで地元農産物を購入する市民の割合	177
地元産の農産物や水産物の購入	177
ふだんから実践していること	181
「くまもとらしさ」を感じる料理や食材	197
熊本市の良質な地下水がおいしさの基になっていると思う市民の割合	198
熊本市の良質な地下水が、地元の食材や料理の「おいしさ」の基になっていると思うか	198
家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合	202

家庭の食事での伝統料理や郷土料理の取り入れ状況	202
ごみを少なくするため『買いすぎ』『作りすぎ』をしないよう心がけている市民の割合	206
ごみを少なくするため『買いすぎ』『作りすぎ』をしないように心がけているか	206
行事等への参加（体験）経験と意向	214
農林漁業体験を経験した市民の割合	218
VII 調査結果 — 歯科保健 —（※太字は成果指標）	231
40歳代で喪失歯のない者の増加	233
喪失歯の有無	233
60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加	235
80歳で20歯以上の自分の歯を有する者（8020達成）の増加	235
現在の歯の本数	235
60歳代における咀嚼良好者の増加	237
咀嚼の状況	237
定期健診を受ける者の増加	239
歯科検診の受診状況	239
口の健康と喫煙の関係について知っている者の増加	241
喫煙が歯周病を進行させる要因であることの認知度	241
歯周病と関係がある病気の認知度	243
歯ブラシに加えて使用している清掃用具	245
「オーラルフレイル」の言葉と意味の認知度	246
VIII 「健康づくり」に関するご意見など	249
IX 調査票	269

I 調査概要

1 調査の目的

幼児期から高齢期まで、各ライフステージにおける市民の生活習慣や生活満足度、家族や近隣との交流、健康づくりについてニーズと課題・問題点を把握・分析を行う。また、第2次健康くまもと21基本計画、第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画、第3次熊本市歯科保健基本計画、熊本市健康まちづくり活動の計画の期間が令和5年度までであることを踏まえ、最終評価に向けて、掲げた目標値に対する現状値を把握するとともに、次期計画の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の内容

(1) 調査票

調査票は、14歳以下、15歳～64歳の方、65歳以上の3パターンとする。

(2) 対象者

熊本市在住の男女4,200人（住民基本台帳より無作為抽出）。

抽出数はライフステージ毎に以下の通り。

各年齢区分	対象者数
幼児期 1～5歳	600名
学童期 6～11歳	600名
中学生 12～14歳	300名
高校生 15～17歳	300名
青年期 18～24歳	600名
壮年期 25～44歳	600名
中年期 45～64歳	600名
高齢期（前期高齢者）65歳～74歳	300名
高齢期（後期高齢者）75歳以上	300名
計	4,200名

※14歳以下の対象者は、当該対象者の保護者に対しても設問を設け調査した。

(3) 実施期間

令和5年5月1日から令和5年5月26日まで。

(4) 実施方法

郵送で配布、郵送またはWebにより回収。

調査期間中に一度督促状を送付。

(5) 回収率

○調査票別

調査票種別	サンプル数	配付数	回収率
14歳以下	659	1,500	43.9%
14歳以下保護者	659	1,500	43.9%
15～64歳	590	2,100	28.1%
65歳以上	314	600	52.3%
合計	2,222	5,700	39.0%

※14歳以下と14歳以下保護者は同一の調査票で調査を行った。

○性別

性別	サンプル数
男性	815名
女性	1,351名
無回答	56名
合計	2,222名

■留意点

※集計表は小数点第2位を四捨五入しているため、回答割合の合計が100%にならない場合もあります。

※複数回答の回答割合の総和は100%を超えます。

※図表または文中に示す選択肢などの文章は適宜省略している場合があるため、調査票を参照してください。

※クロス集計表においては上段に「度数」、下段に「%」（行毎に標本数を100としたときの構成比）を表示しています。

※本書における成果指標とは第2次健康くまもと21基本計画、第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画、第3次熊本市歯科保健基本計画における成果指標のことです。

※取り組み項目及び成果指標は、アンケート結果に関わる項目を抜粋し記載しています。

Ⅱ 回答者の特性

■性別

	度数	%
男性	815	36.7%
女性	1,351	60.8%
無回答	56	2.5%
合計	2,222	100.0%

■年齢層

	度数	%
14歳以下	1,318	59.3%
15～64歳	590	26.6%
65歳以上	314	14.1%
合計	2,222	100.0%

	度数	%
幼児期	245	11.0%
学童期	280	12.6%
中・高校生期	214	9.6%
青年期	115	5.2%
壮年期	620	27.9%
中年期	384	17.3%
高齢期	306	13.8%
無回答	58	2.6%
合計	2,222	100.0%

	度数	%
～9歳	414	18.6%
10歳代	358	16.1%
20歳代	135	6.1%
30歳代	348	15.7%
40歳代	401	18.0%
50歳代	128	5.8%
60歳代	150	6.8%
70歳代	141	6.3%
80歳以上	89	4.0%
無回答	58	2.6%
合計	2,222	100.0%

■区役所別

	度数	%
中央区	530	23.9%
東区	553	24.9%
西区	267	12.0%
南区	421	18.9%
北区	393	17.7%
無回答	58	2.6%
全体	2,222	100.0%

■小学校区

区	校区	回答数	割合	区	校区	回答数	割合	区	校区	回答数	割合
中央区	壺川	29	1.3%	西区	春日	19	0.9%	北区	清水	35	1.6%
	碩台	7	0.3%		城西	40	1.8%		龍田	28	1.3%
	白川	30	1.4%		花園	23	1.0%		城北	21	0.9%
	城東	10	0.5%		池田	36	1.6%		高平台	35	1.6%
	慶徳	13	0.6%		白坪	33	1.5%		楠	16	0.7%
	一新	36	1.6%		高橋	8	0.4%		麻生田	18	0.8%
	五福	12	0.5%		池上	16	0.7%		武蔵	19	0.9%
	向山	31	1.4%		城山	44	2.0%		弓削	23	1.0%
	黒髪	28	1.3%		小島	12	0.5%		楡木	33	1.5%
	大江	42	1.9%		中島	3	0.1%		川上	40	1.8%
	本荘	8	0.4%		芳野	6	0.3%		西里	18	0.8%
	春竹	32	1.4%		河内	15	0.7%		北部東	31	1.4%
	出水	35	1.6%		日吉	26	1.2%		植木	9	0.4%
	砂取	36	1.6%		川尻	32	1.4%		山本	6	0.3%
	帯山	44	2.0%		力合	35	1.6%		田原	9	0.4%
	白山	42	1.9%		御幸	35	1.6%		菱形	10	0.5%
	帯山西	20	0.9%		田迎	22	1.0%		桜井	9	0.4%
	出水南	33	1.5%		城南	16	0.7%		山東	6	0.3%
	託麻原	42	1.9%		田迎南	35	1.6%		吉松	4	0.2%
	東区	画図	21		0.9%	南区	飽田東		17	0.8%	龍田西
健軍		40	1.8%	飽田南	4		0.2%	無回答	58	2.6%	
泉ヶ丘		15	0.7%	飽田西	6		0.3%	全体	2,222	100.0%	
若葉		24	1.1%	中緑	2		0.1%				
尾ノ上		36	1.6%	銭塘	8		0.4%				
西原		69	3.1%	奥古閑	8		0.4%				
託麻東		50	2.3%	川口	5		0.2%				
託麻西		27	1.2%	日吉東	21		0.9%				
託麻北		24	1.1%	富合	45		2.0%				
桜木		17	0.8%	杉上	20		0.9%				
東町		36	1.6%	隈庄	29		1.3%				
月出		24	1.1%	豊田	9		0.4%				
健軍東		16	0.7%	田迎西	15		0.7%				
託麻南		36	1.6%	力合西	31		1.4%				
山ノ内		32	1.4%								
長嶺		36	1.6%								
桜木東		9	0.4%								
東野		1	0.0%								
秋津		33	1.5%								
東町		1	0.0%								
錦ヶ丘		2	0.1%								
託麻		4	0.2%								
古町		12	0.5%								

Ⅲ 成果指標

成果指標（健康くまもと21）

※第2次健康くまもと21基本計画に掲げる成果指標のうち、今回アンケートにて徴収した成果指標のみ記載

■到達度凡例		
目標値超		↑
上昇		↗
維持		→
下降		↘

項目	対象	(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○がん検診の受診率の向上	肺がん	19.9%	29.0%	31.0%	24.9%	40.0%	↘	
	胃がん	28.7%	39.4%	38.9%	35.3%	40.0%	↘	
	大腸がん	27.9%	35.1%	37.4%	30.1%	40.0%	↘	
	乳がん(女性)	46.3%	48.6%	48.9%	55.7%	50.0%	↑	
	子宮頸がん(女性)	37.3%	47.4%	42.6%	58.8%	50.0%	↑	
項目		(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している市民の割合の増加		—	50.3%	52.2%	50.1%	80.0%	↘	
項目		(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○共食の増加(食事を1人で食べる子どもの割合の減少)	朝食	小学生	16.7%	11.3%	14.4%	22.9%	減少傾向へ	↘
		中学生	24.3%	27.0%	24.6%	39.2%	減少傾向へ	↘
	夕食	小学生	5.2%	3.6%	4.2%	6.2%	減少傾向へ	↘
		中学生	11.1%	9.2%	15.9%	10.0%	減少傾向へ	↗
項目		(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○20歳代男性、30歳代男性の1週間あたりの朝食の欠食率の減少	20歳代男性	29.4%	22.6%	20.0%	23.1%	15.0%	↘	
	30歳代男性	29.4%	16.2%	26.5%	20.3%	15.0%	↗	
項目		(H23年・基準)	H27年・参考値	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○日常生活における歩数の増加	20歳～64歳	男性	—	8,262歩	8,397歩	5,587歩	9,000歩	↘
		女性	—	8,058歩	9,302歩	4,831歩	9,500歩	↘
	65歳以上	男性	—	6,589歩	5,761歩	4,535歩	7,000歩	↘
		女性	—	7,053歩	8,656歩	4,090歩	9,000歩	↘
項目		(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度の向上		—	58.8%	55.6%	59.4%	80%	↗	
項目		(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○受動喫煙(家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関)の機会を有する者の割合の減少	行政機関	—	7.7%	7.4%	6.9%	0%	↗	
	医療機関	—	6.3%	6.6%	3.8%	0%	↗	
	職場	—	30.2%	30.1%	19.2%	受動喫煙のない職場の実現	↗	
	家庭	—	23.6%	24.5%	17.9%	3.0%	↗	
	飲食店	—	52.1%	47.2%	25.1%	15.0%	↗	
項目		(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加		63.9%	68.2%	76.1%	71.6%	80.0%	↘	
項目		(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○80歳で20歯以上の自分の歯を有する者(8020達成)の増加		38.3%	54.5%	62.0%	50.0%	65.0%	↘	

成果指標（食の安全安心）

※第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画に掲げる成果指標のうち、今回アンケートにて徴収した成果指標のみ記載

■到達度凡例	
目標値超	
上昇	
維持	
下降	

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
OHACCPについて知っている市民の割合	—	—	8.8%	14.2%	20%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○食の安全確保のために意識して実施していることがある市民の割合	—	—	65.9%	68.4%	80%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○食品を購入する際に表示を確認している市民の割合	—	—	79.1%	73.3%	90%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○食事・食品等に関する正しい知識や情報を得ようと努めている市民の割合	—	61.3%	60.5%	65.5%	75%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合	49.6%	62.6%	53.0%	52.4%	60%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○食品について安全性が高まってきていると感じている市民の割合	—	59.1%	63.7%	61.4%	65%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○「残留農薬」について不安を感じる市民の割合	55.7%	44.4%	48.6%	50.3%	40%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○「食品添加物」について不安を感じる市民の割合	63.3%	54.1%	54.7%	55.9%	40%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○「食品の不正(偽装)表示」について不安を感じる市民の割合	51.6%	55.3%	44.0%	44.9%	40%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○「輸入食品」について不安を感じる市民の割合	65.2%	56.6%	55.8%	50.6%	40%	

成果指標（食育）

※第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画に掲げる成果指標のうち、今回アンケートにて徴収した成果指標のみ記載

■到達度凡例		
目標値超		↑
上昇		↗
維持		→
下降		↘

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○食育に関心がある市民の割合	73.4%	69.1%	77.1%	88.2%	90%	↗	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる」共食の回数の増加 ※1週間のうち朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数	10回	10回	9回	10.4回	現状維持	↑	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○1週間あたりの朝食の欠食率 ※幼児期は毎日食べている割合	幼児期 (1歳～5歳)	95.3%	96.2%	97.3%	96.7%	100.0%	↘
	若い世代 【20歳代・30歳代】	29.4%	22.6%	18.5%	13.3%	10%以下	↗
	65歳以上	3.7%	1.8%	3.4%	2.3%	0.0%	↗
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○主食・主菜・副菜を合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日食べている市民の割合	全体	—	—	76.1%	77.7%	85%	↗
	若い世代 【20歳代・30歳代】	—	—	64.0%	74.6%	75%	↗
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合	69.0%	67.9%	63.4%	70.5%	80%	↗	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を継続して実践している市民の割合	全体	—	—	34.3%	31.8%	50%	↘
	若い世代 【20歳代・30歳代】	—	—	22.5%	23.4%	25%	↗
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○農林漁業体験を経験した市民の割合	37.7%	27.5%	32.5%	32.3%	50%	↘	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○進んで地元農産物を購入する市民の割合	69.4%	68.3%	73.8%	59.7%	80%	↘	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合	49.2%	45.5%	69.9%	59.1%	80%	↘	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○ごみを少なくするため「買いすぎ」「作りすぎ」をしないよう心がけている市民の割合	全体	69.9%	66.9%	74.6%	77.2%	85%	↘
	若い世代 【20歳代・30歳代】	—	—	68.5%	78.4%	75%	↑
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比	
○熊本市の良質な水がおいしさの基になっていると思う市民の割合	80.8%	81.8%	80.7%	81.3%	85%	↗	

成果指標（歯科保健）

※第3次熊本市歯科保健基本計画に掲げる成果指標のうち、今回アンケートにて徴収した成果指標のみ記載

■到達度凡例	
目標値超	
上昇	
維持	
下降	

項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○40歳代で喪失歯のない者の増加	68.5%	69.2%	71.5%	74.1%	75%	
項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加	63.9%	68.2%	76.1%	71.6%	80%	
項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○60歳代における咀嚼良好者の増加	51.6%	68.4%	79.0%	77.0%	80%	
項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○定期検診を受ける者の増加	25.4%	48.0%	55.6%	62.2%	65%	
項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○口の健康と喫煙の関係について知っている者の増加	29.5%	64.2%	68.2%	61.5%	70%	
項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(R5年・実績)	(R5年・目標)	到達度 ※H30比
○80歳で20歯以上の自分の歯を有する者（8020達成）の増加	38.3%	54.5%	62.0%	50.0%	65%	

IV 調査結果 -健康くまもと21-

◎がん検診の受診率の向上

がん検診の受診率については、「肺がん」24.9%、「胃がん」35.3%、「大腸がん」30.1%、「乳がん（女性）」55.7%、「子宮頸がん（女性）」58.8%となった。「乳がん（女性）」、「子宮頸がん（女性）」では目標を達成した一方、それ以外の検診では平成30年調査を下回り、目標には届かなかった。

項目	対象	(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○がん検診の受診率の向上	肺がん	19.9%	29.0%	31.0%	24.9%	40.0%
	胃がん	28.7%	39.4%	38.9%	35.3%	40.0%
	大腸がん	27.9%	35.1%	37.4%	30.1%	40.0%
	乳がん(女性)	46.3%	48.6%	48.9%	55.7%	50.0%
	子宮頸がん(女性)	37.3%	47.4%	42.6%	58.8%	50.0%

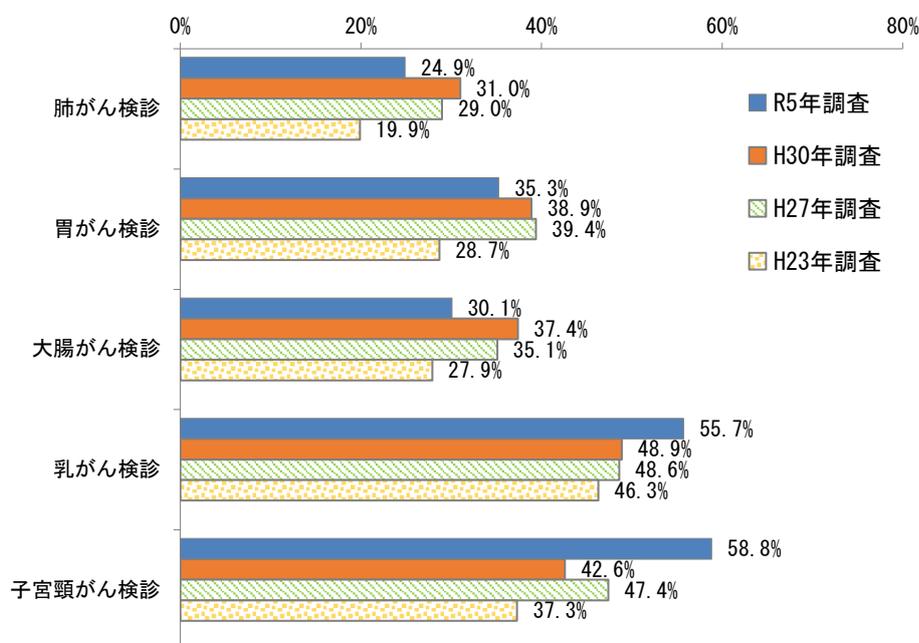
※それぞれ40歳～69歳（乳がんは女性、子宮頸がんは20歳～69歳女性）の回答者で、「肺がん検診」「胃がん検診」「大腸がん検診」「乳がん検診」「子宮頸がん検診」を選択した人の割合

<調査結果>

■過去1年間（乳がん・子宮頸がんは過去2年間）に受診したがん検診

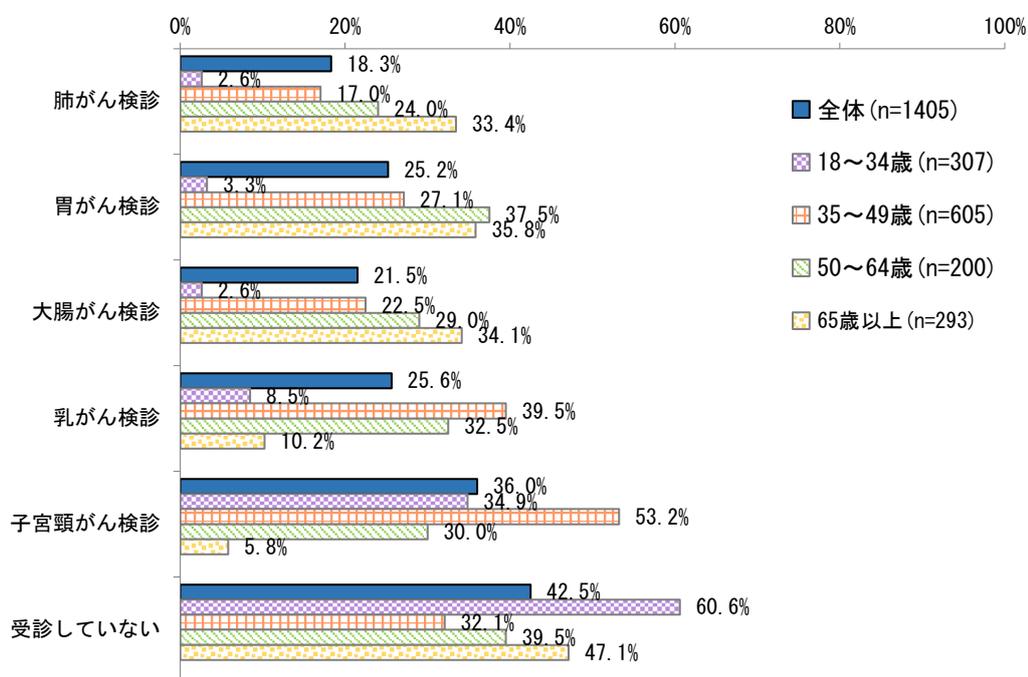
<40歳～69歳（子宮頸がんは20歳～69歳）>

平成30年調査と比較すると、「肺がん検診」は6.1ポイント、「胃がん検診」は3.6ポイント、「大腸がん検診」は7.3ポイント下回る。一方で、「乳がん検診」は6.8ポイント、「子宮頸がん検診」は16.2ポイント平成30年調査を上回る。



サンプル数	令和5年	平成30年	平成27年	平成23年
肺がん検診	n=679	n=452	n=487	n=366
胃がん検診				
大腸がん検診				
乳がん検診	n=461	n=278	n=278	n=188
子宮頸がん検診	n=831	n=390	n=454	n=287

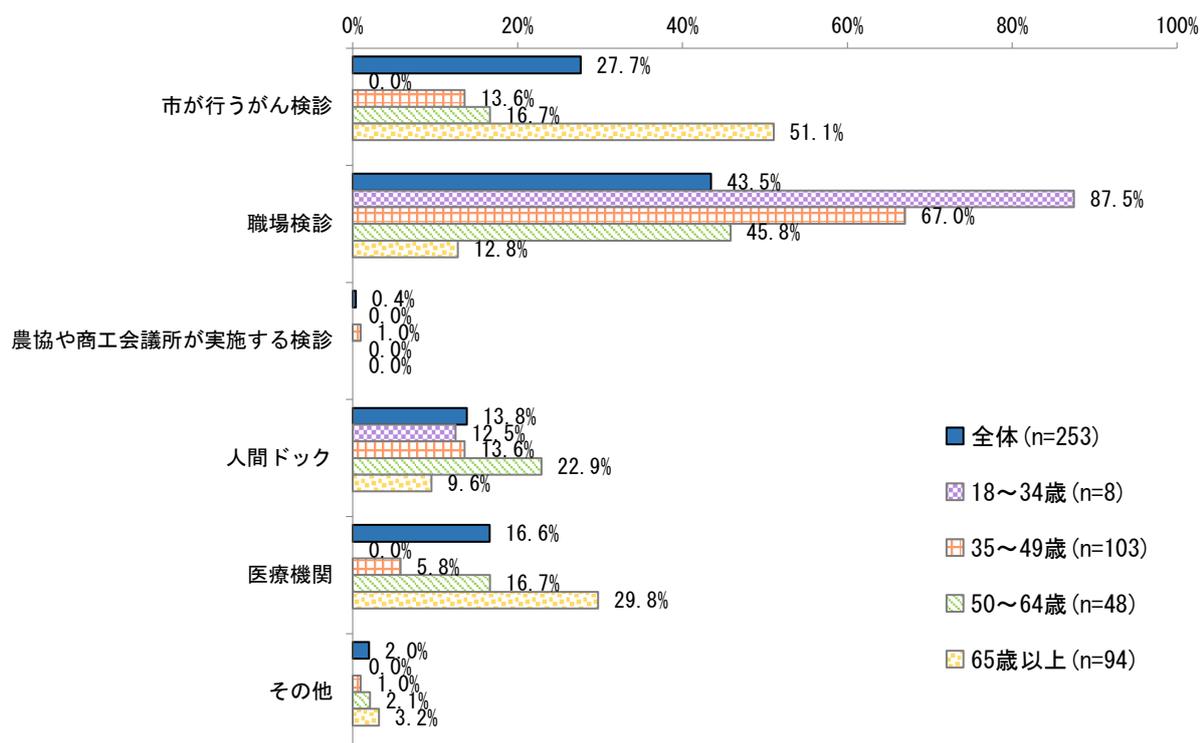
がん検診の受診率を年齢区分別で見ると、18～34歳では「受診していない」の割合が6割を占める。「肺がん検診」、「大腸がん検診」は年齢が高くなるにつれ受診率が上がる傾向がみられる。「胃がん検診」は50歳以上では約4割を占める。「乳がん検診」、「子宮頸がん検診」はいずれも35～49歳で最も高い受診率となっている。



■受診した検診機関 〈18歳以上〉

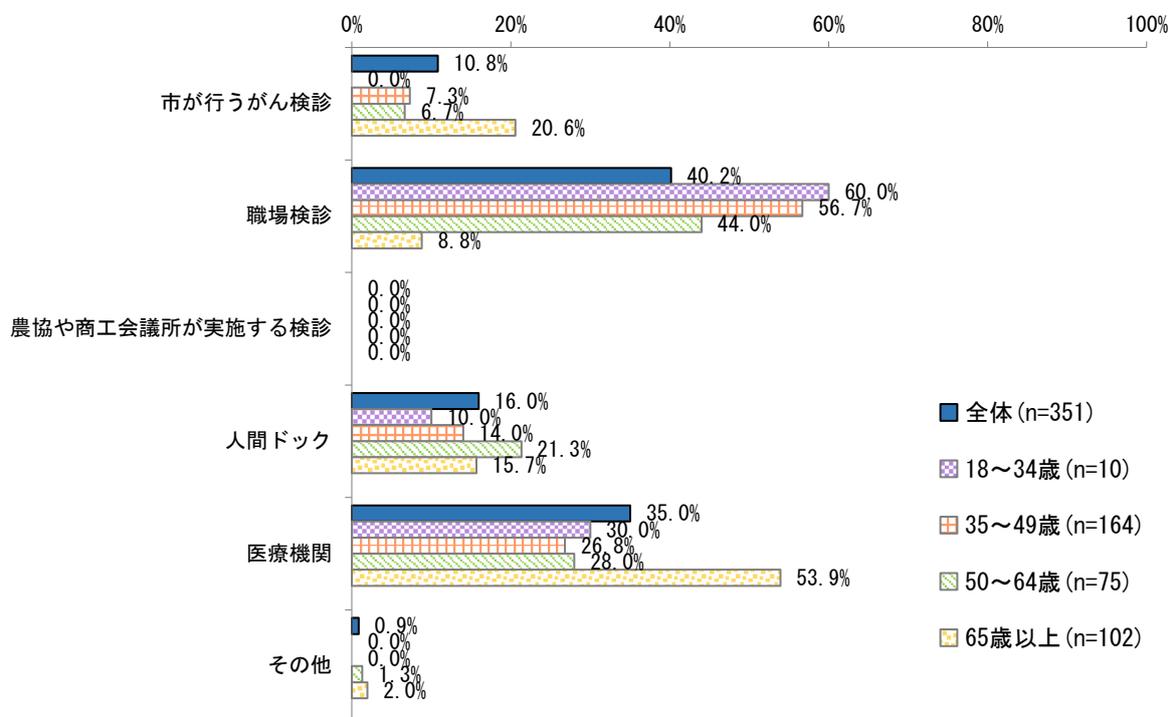
【肺がん検診】

「肺がん検診」については、65歳未満ではいずれも「職場検診」、65歳以上は「市が行うがん検診」の割合が最も高い。



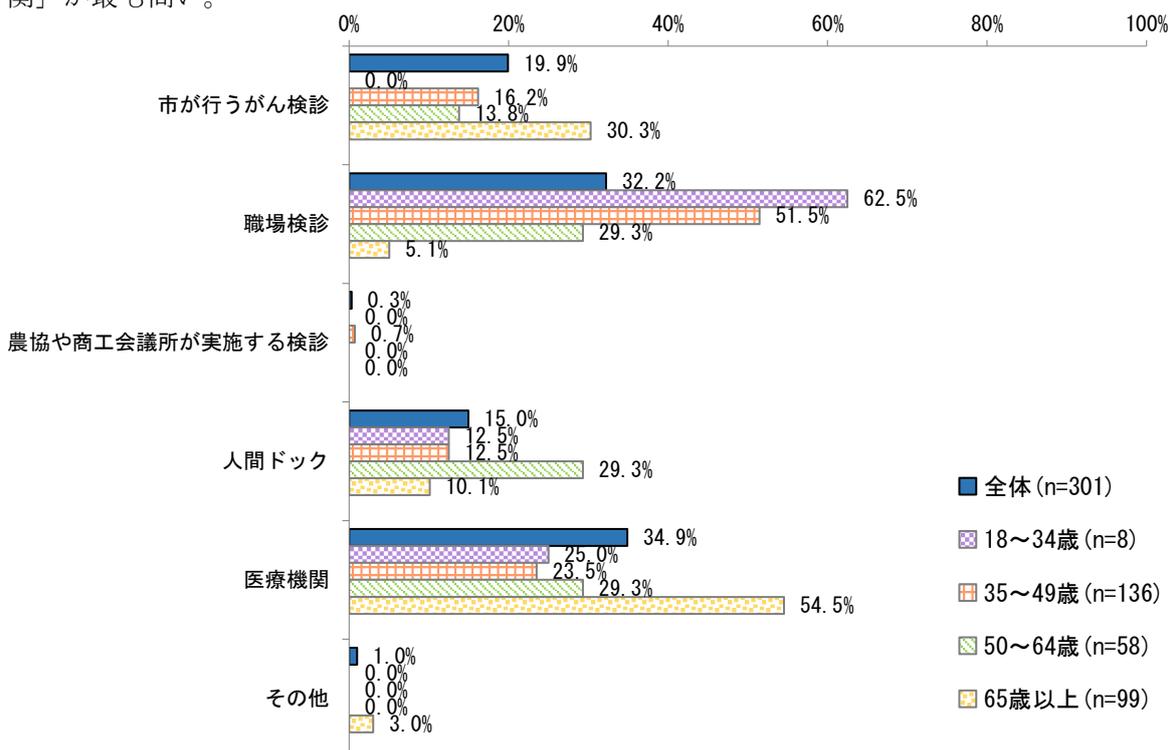
【胃がん検診】

「胃がん検診」については、65歳未満ではいずれも「職場検診」、65歳以上では「医療機関」の割合が最も高い。



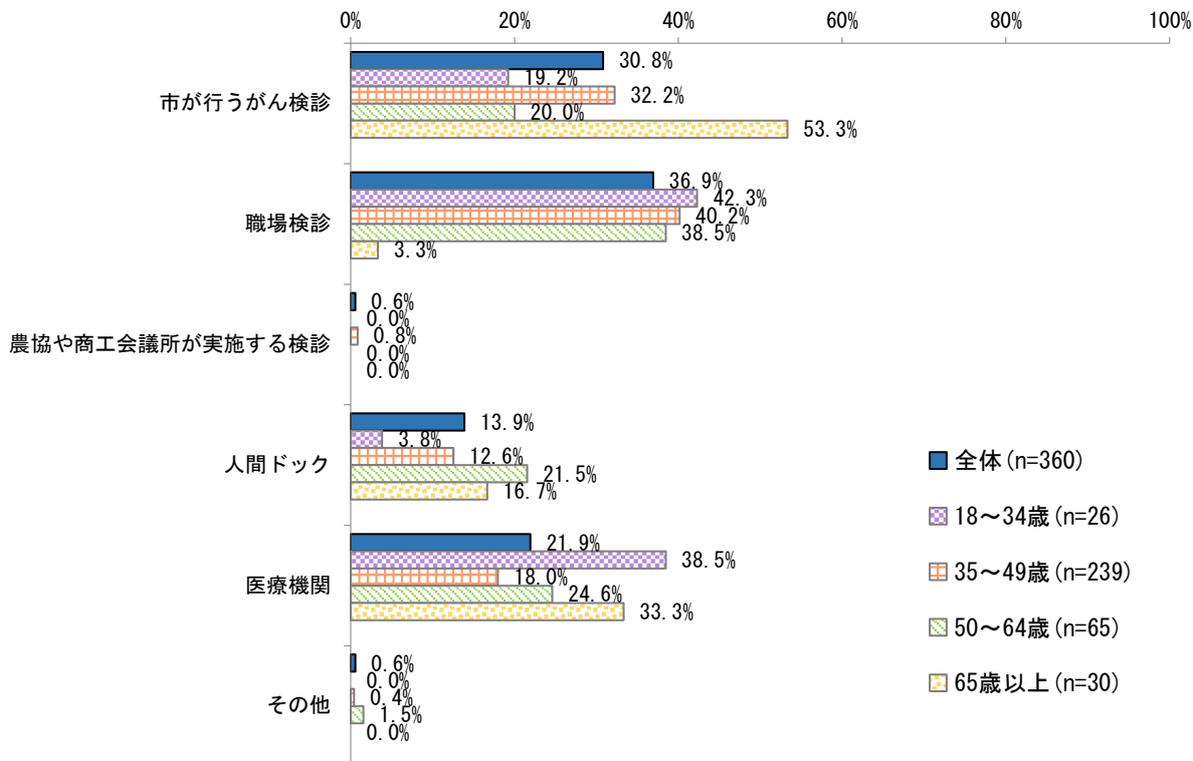
【大腸がん検診】

「大腸がん検診」については、18~49歳では「職場検診」が半数を超えている。50~64歳では「職場検診」、「人間ドック」、「医療機関」がいずれも3割を占める。65歳以上では「医療機関」が最も高い。



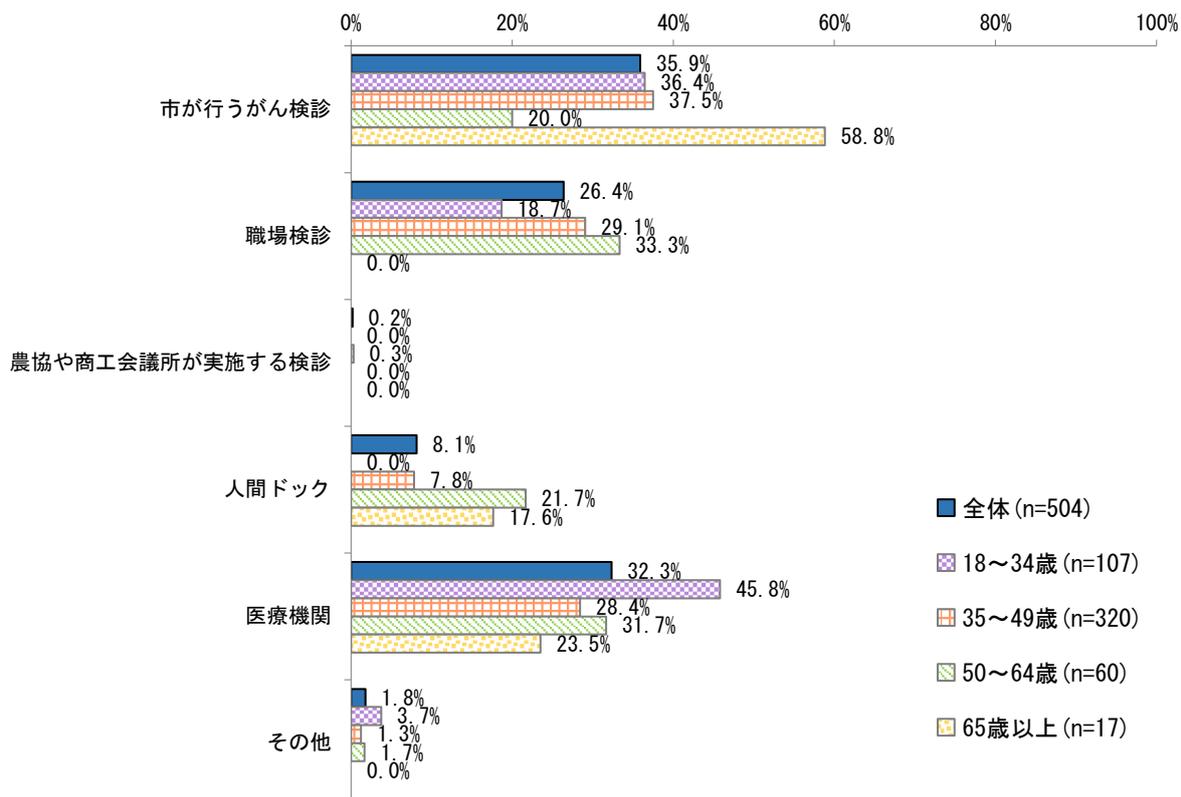
【乳がん検診（女性のみ）】

「乳がん検診」については、18～64歳ではいずれも「職場検診」、65歳以上では「市が行うがん検診」の割合が最も高い。



【子宮頸がん検診】

「子宮頸がん検診」については、18～34歳では「医療機関」、65歳以上では「市が行うがん検診」がいずれも最も高い。35～64歳では、「市が行うがん検診」、「職場検診」、「医療機関」の割合がいずれも2割を超えている。



【その他の検診】

「その他の検診」についての回答は、下記の通り。

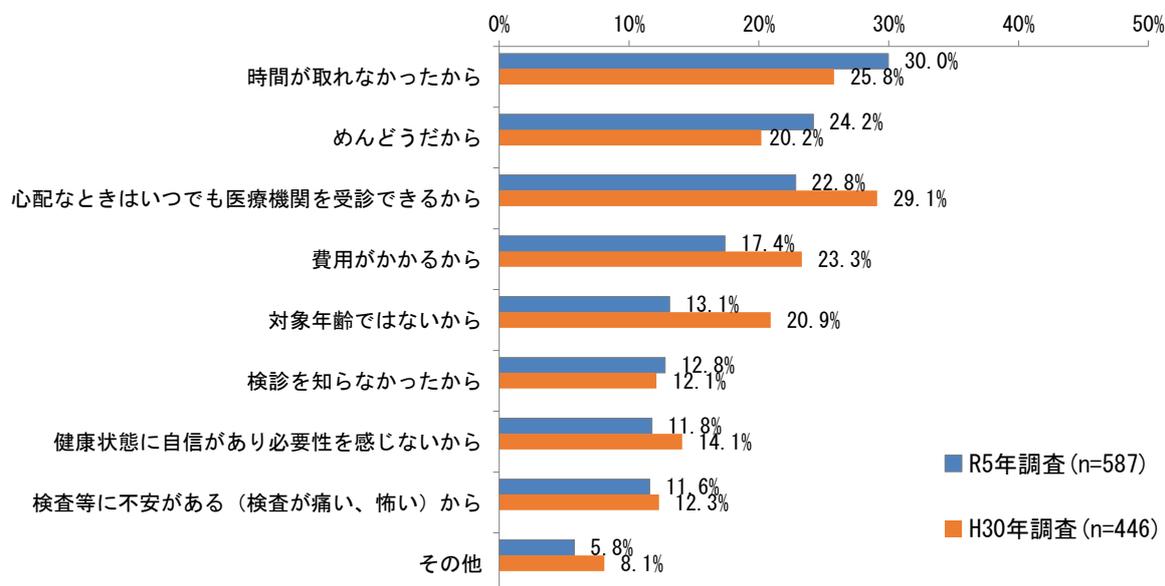
		受診した検診機関【その他の検診】						
		サンプル数	市が行うがん検診	職場検診	農協や商工会議所が実施する検診	人間ドック	医療機関	その他
複数回答のため合計は100%にならない 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目								
全体		6 -	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	3 50.0%	1 16.7%
年齢区分別	18～34歳	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	35～49歳	2 -	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
	50～64歳	1 -	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
	65歳以上	3 -	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%

回答内容	件数
前立腺がん	2
CT	1
子宮体癌健診	1
泌尿器科	1
卵巣癌	1

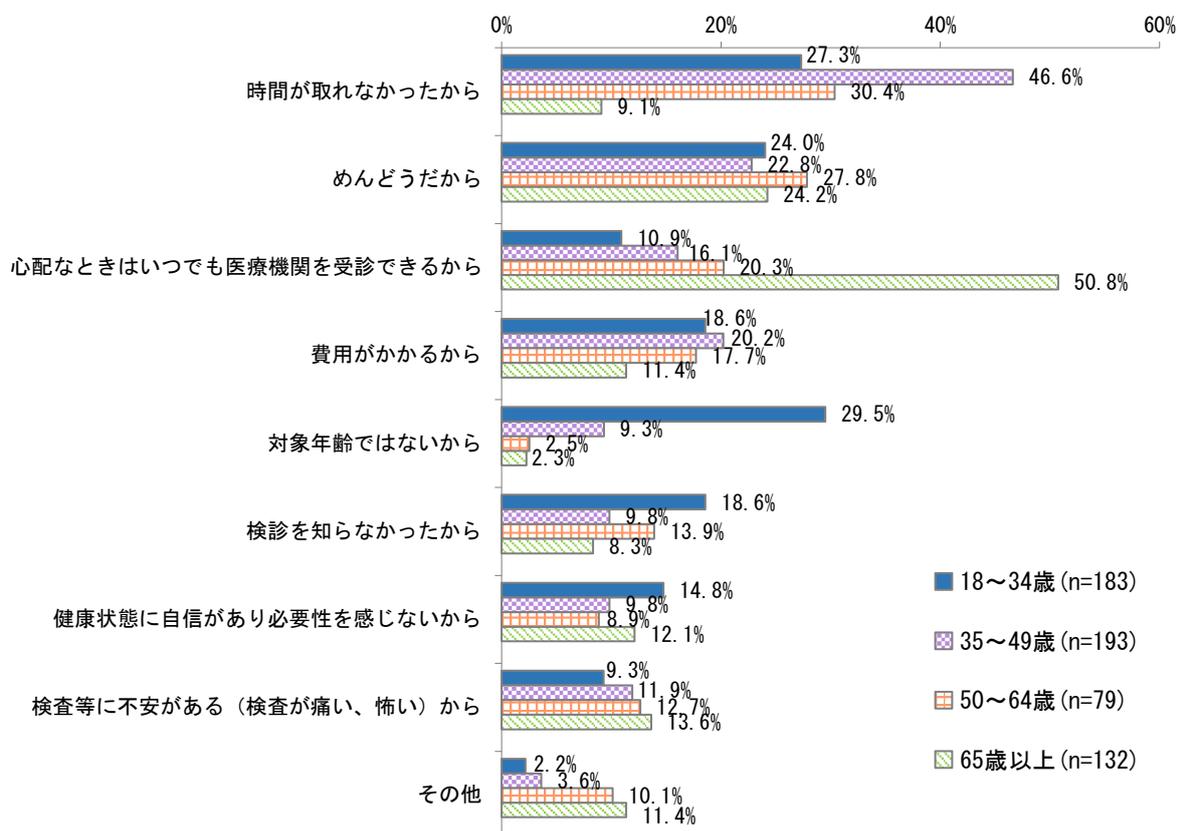
■受診しない理由 〈18歳以上〉

がん検診を受診しない理由は、「時間が取れなかったから」30.0%が最も高く、次いで「めんどうだから」24.2%、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」22.8%の順となった。

平成30年調査と比較して、「時間が取れなかったから」、「めんどうだから」と回答した割合がいずれも4ポイント以上増加した一方、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」、「費用がかかるから」、「対象年齢ではないから」はいずれも5.0ポイント以上減少している。



受診しなかった理由を年齢区分別でみると、18～34歳では「対象年齢ではないから」、35～49歳、50～64歳では「時間が取れなかったから」、65歳以上では「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」50.8%がそれぞれ最も高くなっている。

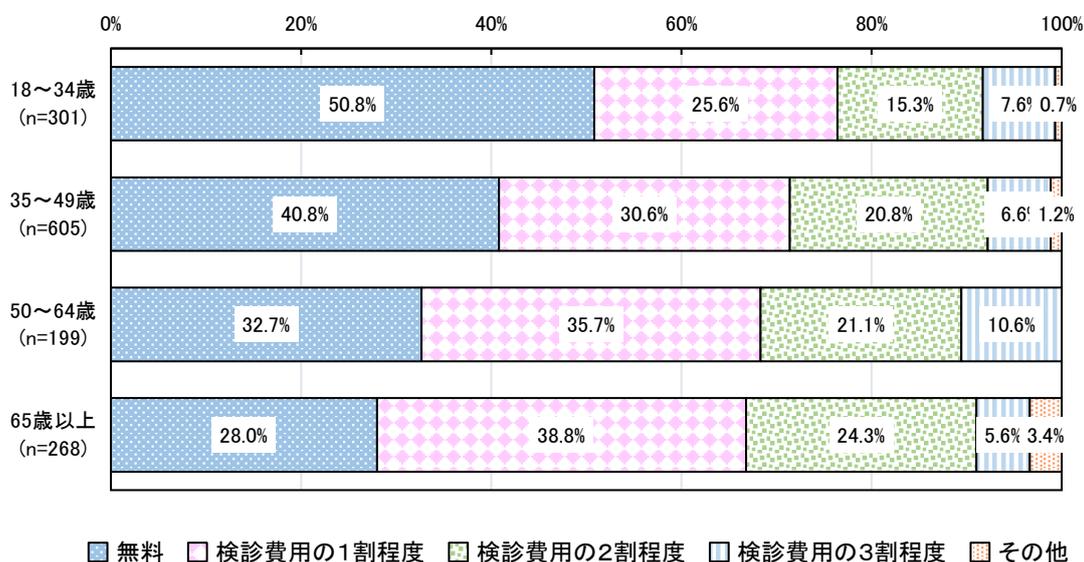
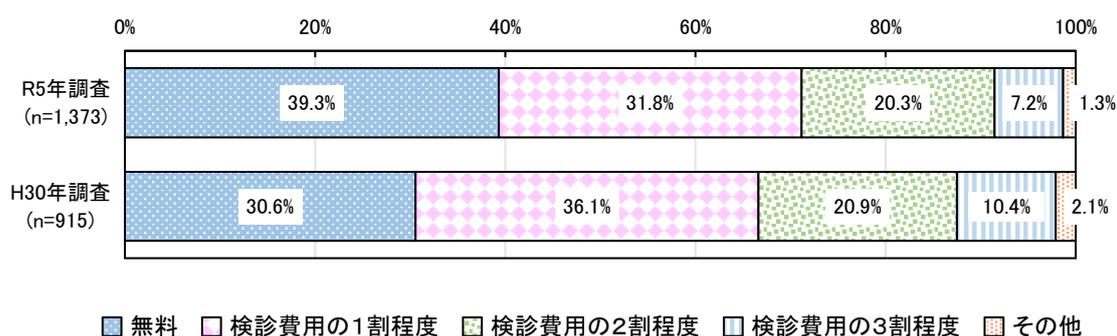


■ 適当だと思うがん検診の自己負担割合 〈18歳以上〉

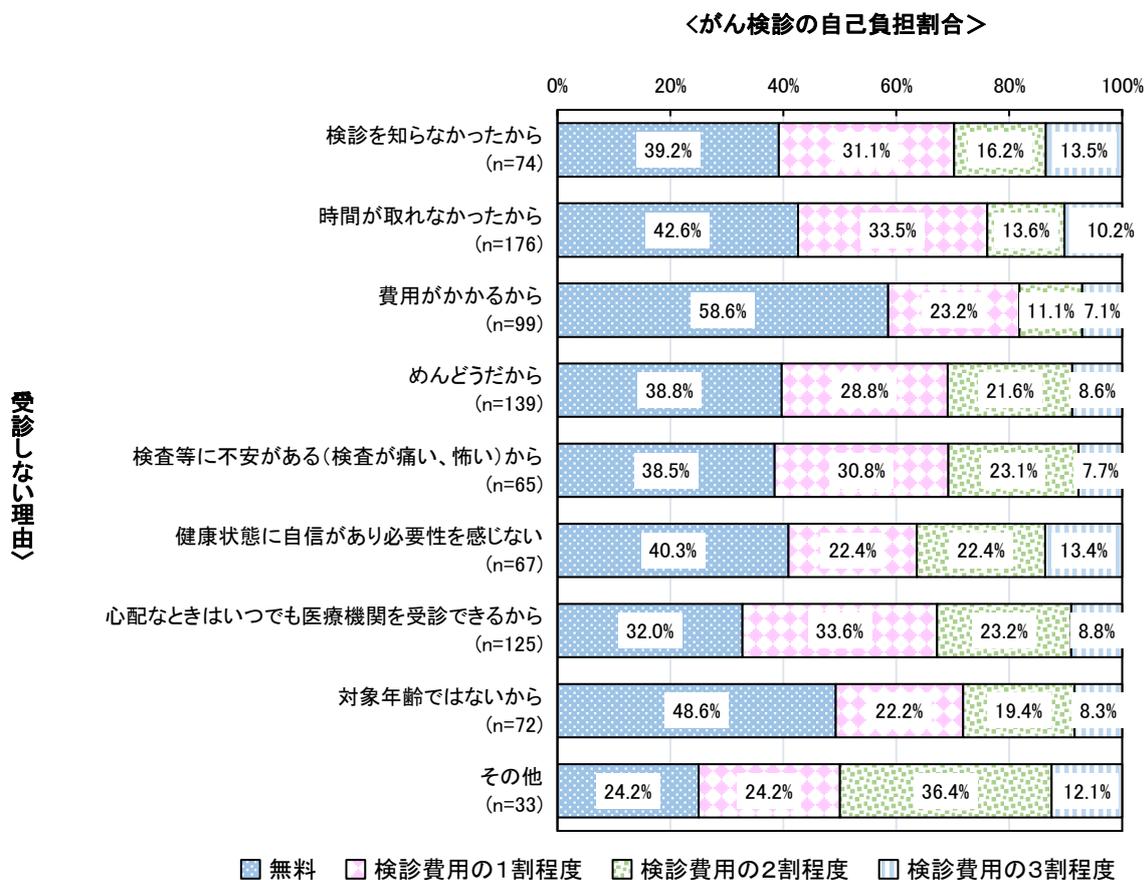
適当だと思うがん検診の自己負担割合について、「無料」39.3%が最も高く、次いで「検診費用の1割程度」31.8%、「検診費用の2割程度」20.3%の順となっている。

平成30年調査と比較して、「検診費用の1割程度」、「検診費用の2割程度」、「検診費用の3割程度」ではいずれも前回を下回るが、「無料」と回答した割合は8.7ポイント上回る。

年齢区分別でみると、18～34歳、35～49歳では「無料」と回答した割合が最も高く4割を超える。50～64歳、65歳以上では「検診費用の1割程度」が最も高く4割程度を占める。



「がん検診の自己負担割合」と「受診しない理由」でみると、適当だと思うがん検診の自己負担割合について「無料」と答えた人は、「費用がかかるから」、「対象年齢ではないから」と回答した割合が半数程度を占める。



◎ COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度の向上

COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度は 59.4% となり、平成 30 年調査と比較して 3.8 ポイント上回るが、目標を 20.6 ポイント下回る。

項目	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度の向上	58.8%	55.6%	59.4%	80%

※20 歳以上の回答者で、「どんな病気なのかよく知っている」+「名前は聞いたことがある」を選択した人の割合

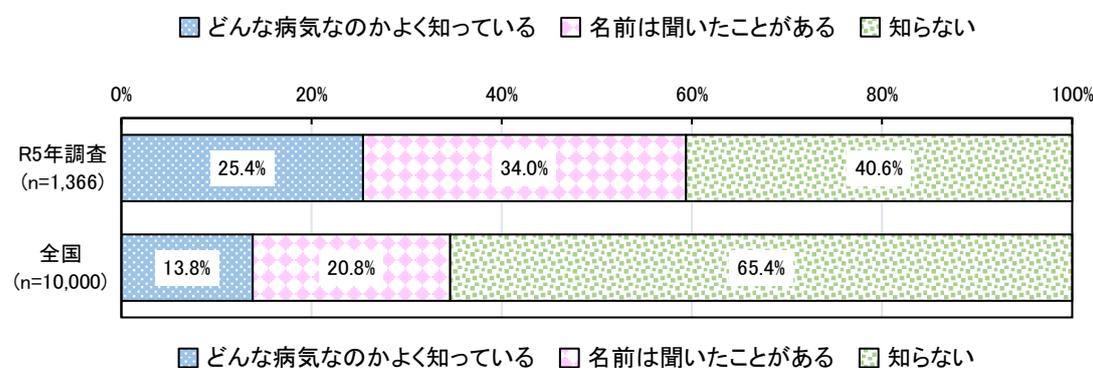
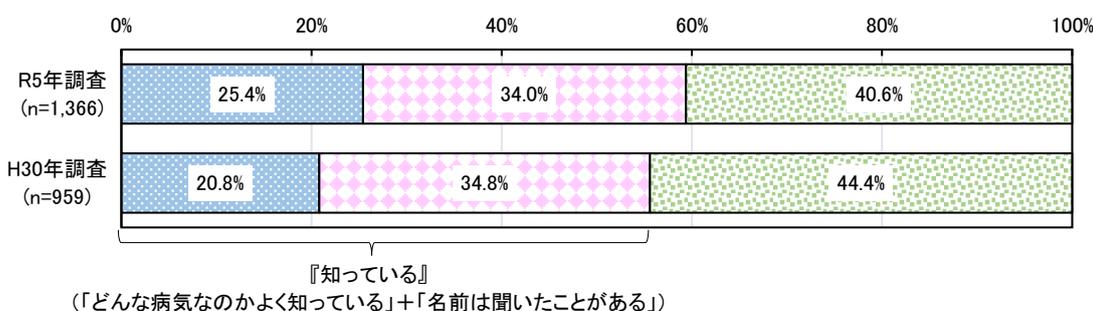
<調査結果>

■ COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度 〈20 歳以上〉

COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度について、「どんな病気なのかよく知っている」は 25.4%、「名前は聞いたことがある」は 34.0%と、合わせて 59.4%が『知っている』としている。

平成 30 年調査と比較して、『知っている』人の割合は 3.8 ポイント上回る。

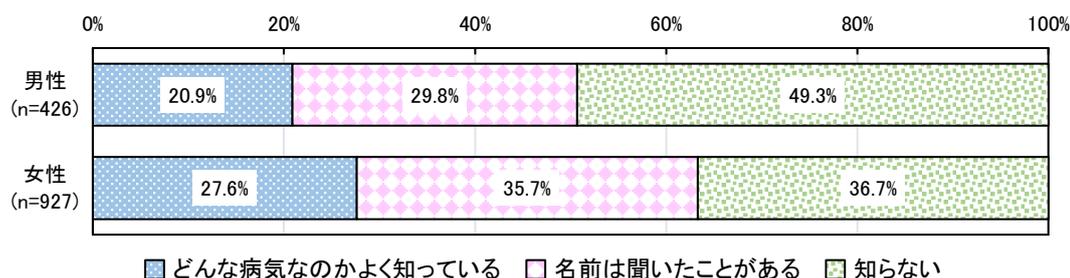
全国調査との比較では、『知っている』人の割合は、本市が全国を 24.8 ポイント上回る。



※一般社団法人 GOLD 日本委員会「COPD 認知度把握調査」(R4)

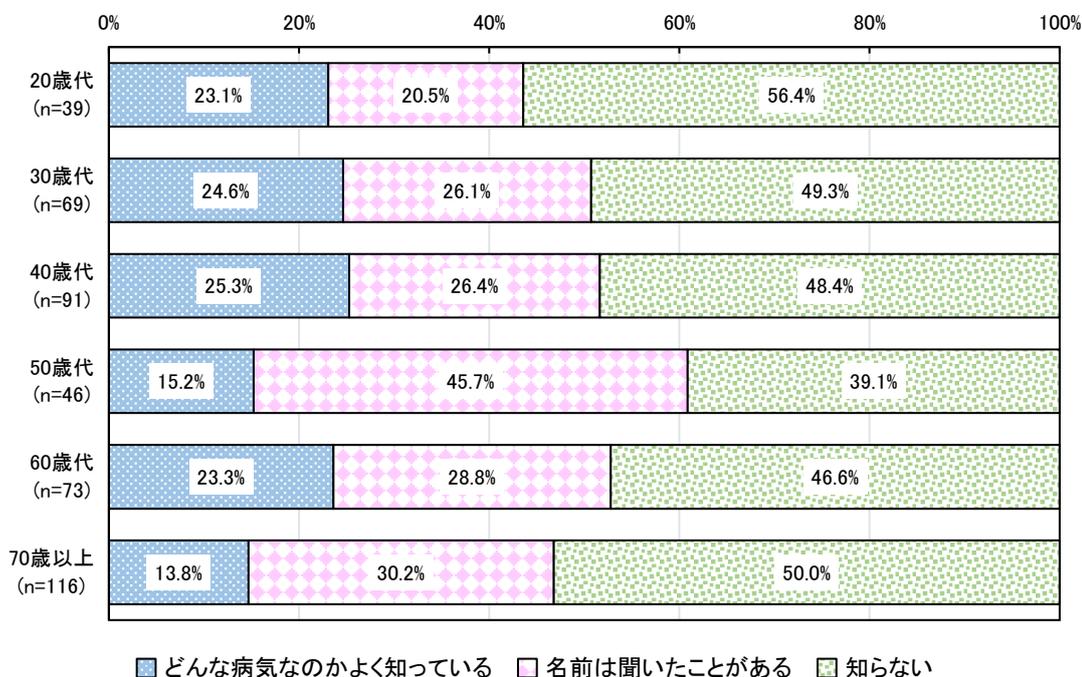
性別でみると、『知っている』人の割合は、男性 50.7%、女性 63.3% となり、女性が男性を 12.6 ポイント上回る。

【20 歳以上】

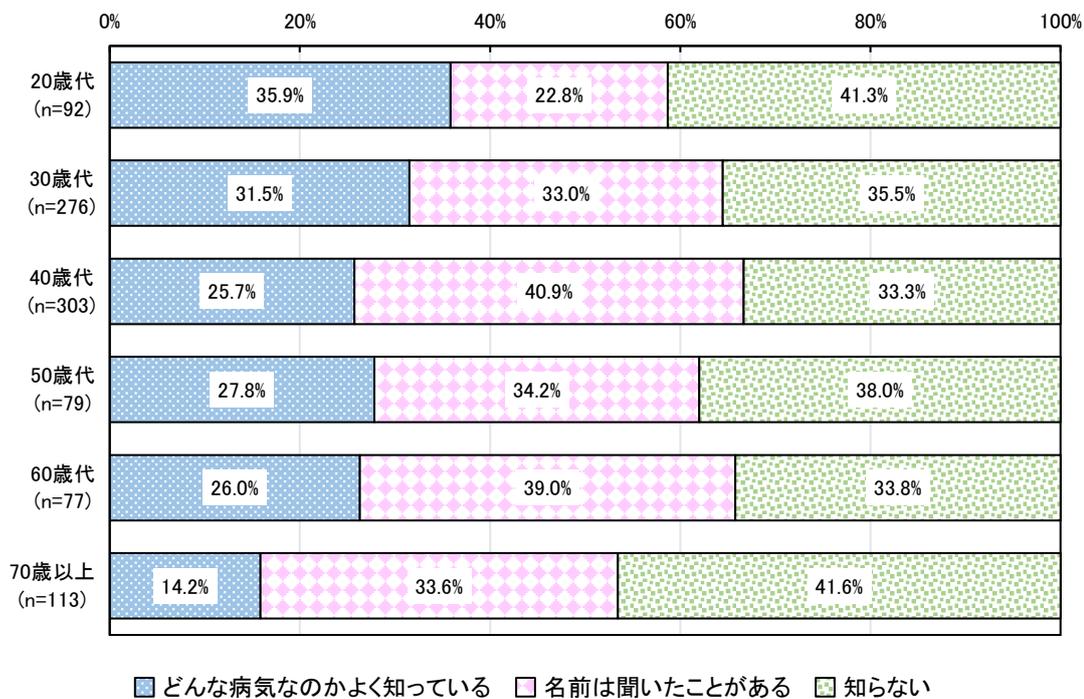


年齢区別でみると、『知っている』人の割合は、男性は50歳代の60.9%、女性は40歳代の66.6%が最も高い。全ての年代で『知っている』と回答した割合は、女性が男性を上回る。

【20歳以上（男性）】



【20歳以上（女性）】



◎受動喫煙（家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関）の機会を有する者の割合の減少

受動喫煙の機会とは、「行政機関」6.9%、「医療機関」3.8%、「職場」19.2%、「家庭」17.9%、「飲食店」25.1%となった。いずれの項目でも平成30年調査を下回るものの、目標には届かなかった。

項目	対象	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○受動喫煙(家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関)の機会を有する者の割合の減少	行政機関	7.7%	7.4%	6.9%	0%
	医療機関	6.3%	6.6%	3.8%	0%
	職場	30.2%	30.1%	19.2%	受動喫煙のない職場の実現
	家庭	23.6%	24.5%	17.9%	3.0%
	飲食店	52.1%	47.2%	25.1%	15.0%

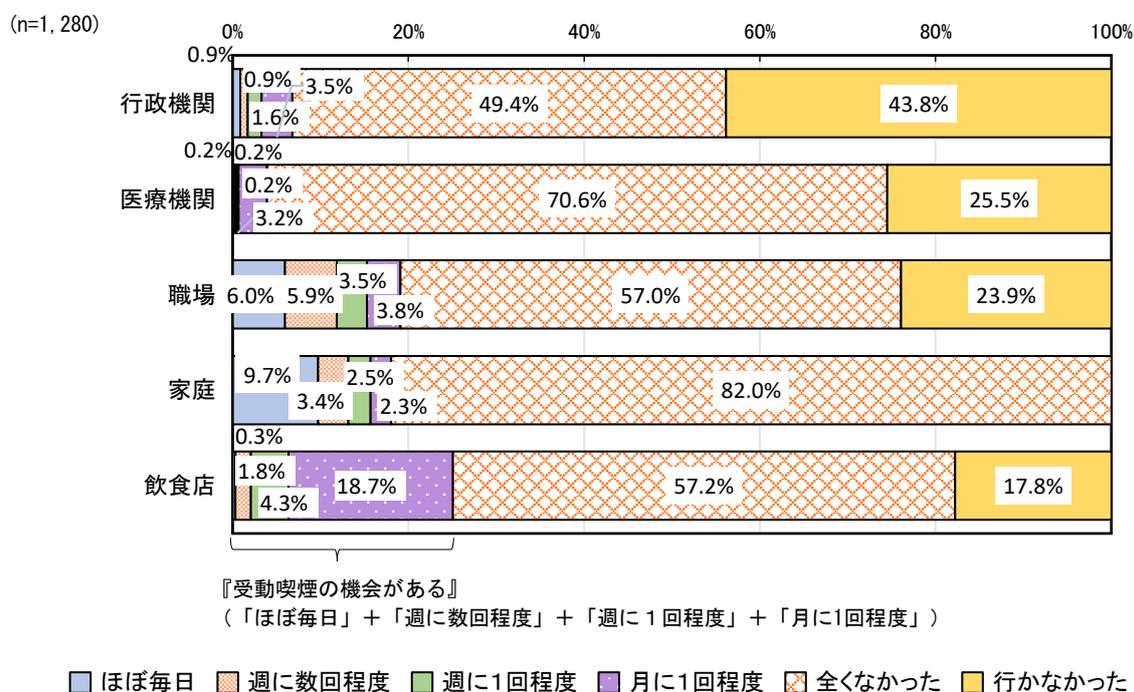
※それぞれ20歳以上の回答者で、「ほぼ毎日」+「週に数回程度」+「週に1回程度」+「月に1回程度」を選択した人の割合

<調査結果>

■受動喫煙の状況（20歳以上）

受動喫煙の状況について、『受動喫煙の機会がある』（「ほぼ毎日」+「週に数回程度」+「週に1回程度」+「月に1回程度」）と回答した割合が最も高いのは、「飲食店」の25.1%で、次いで「職場」19.2%、「家庭」17.9%の順となった。

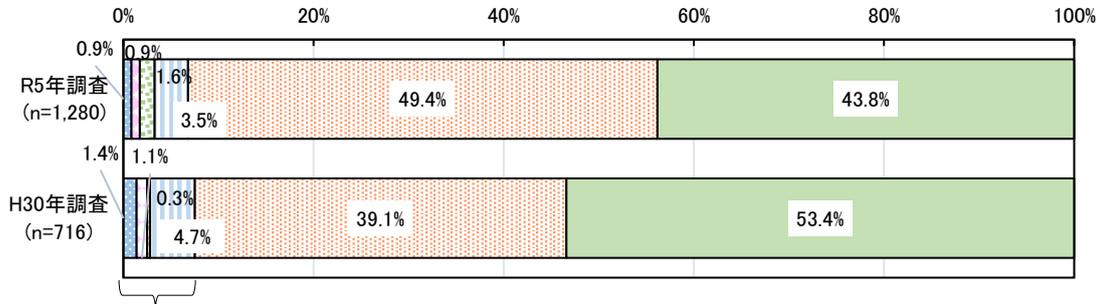
平成30年調査と比較して、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は、「飲食店」が22.1ポイント、「職場」10.9ポイント、「家庭」6.6ポイントといずれも大きく減少した。



① 行政機関

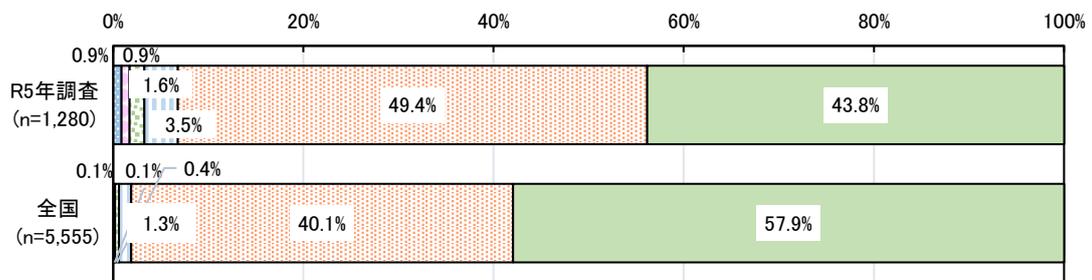
行政機関での受動喫煙の状況について、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は6.9%となった。平成30年調査と比較して、『受動喫煙の機会がある』は0.6ポイント下回る。

全国調査との比較では、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は本市が5.0ポイント上回る。



『受動喫煙の機会がある』
 (「ほぼ毎日」+「週に数回程度」+「週に1回程度」+「月に1回程度」)

■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった

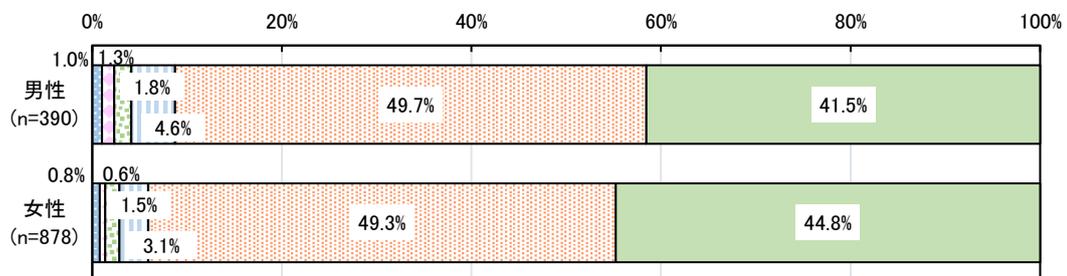


■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった

※全国データは厚生労働省「国民健康・栄養調査」(R元)から

性別でみると、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は、男性8.7%、女性6.0%となり、男性が女性を2.7ポイント上回る。

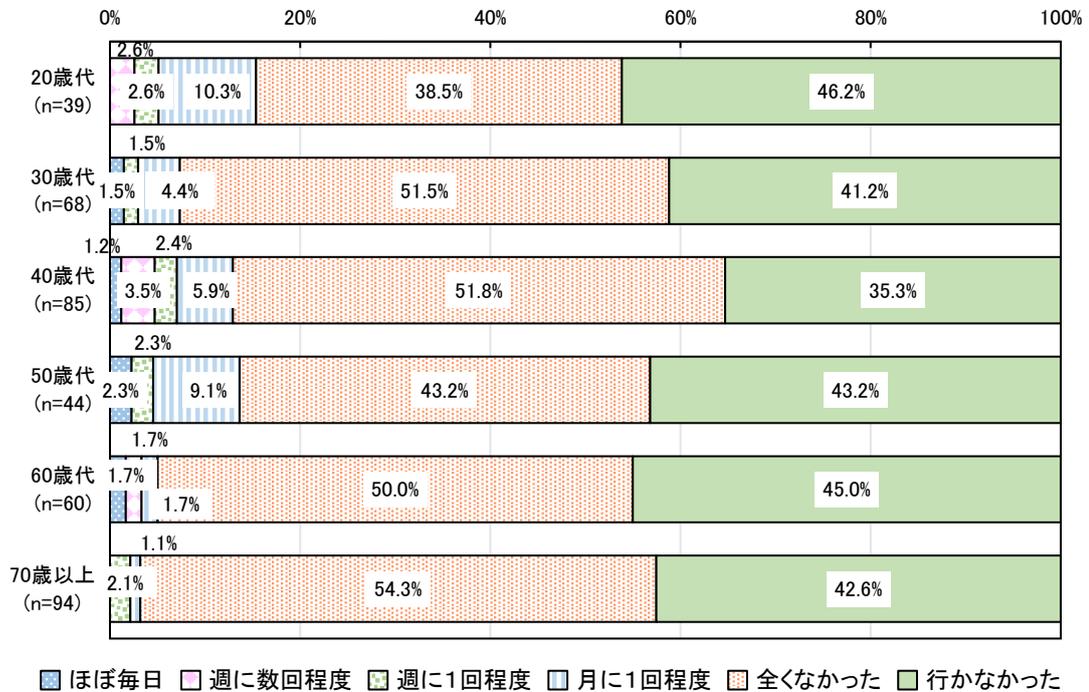
【20歳以上】



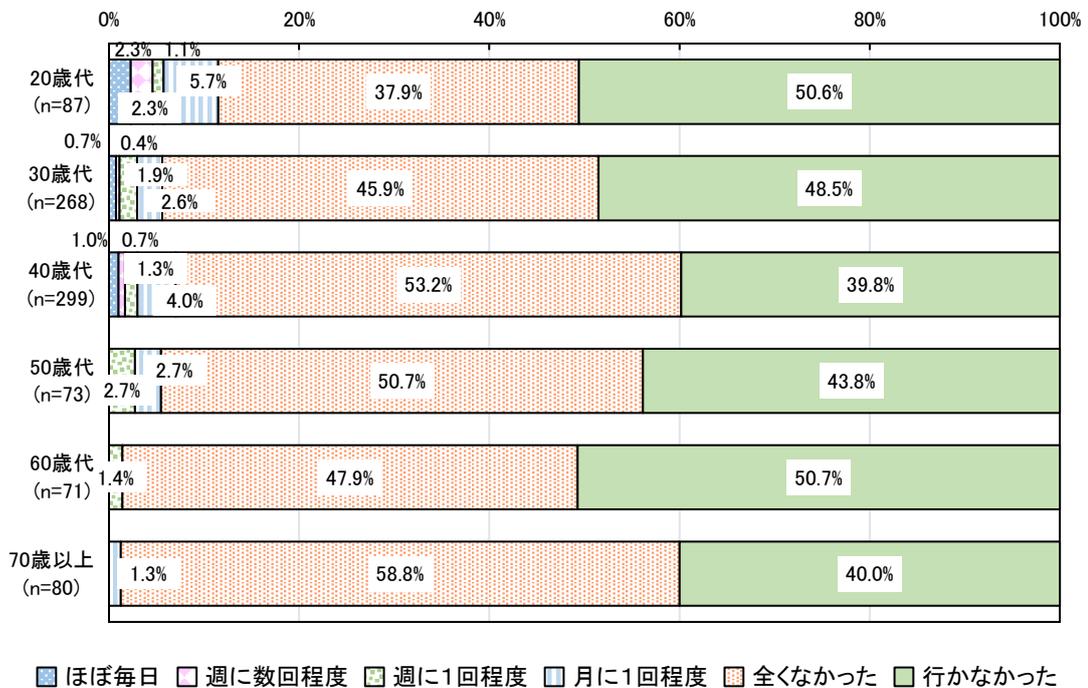
■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった

年齢区別で見ると、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は、男女ともに20歳代が最も高く、男性15.5%、女性11.4%を占める。40歳代、50歳代男性でも『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は1割を超えている。

【20歳以上（男性）】



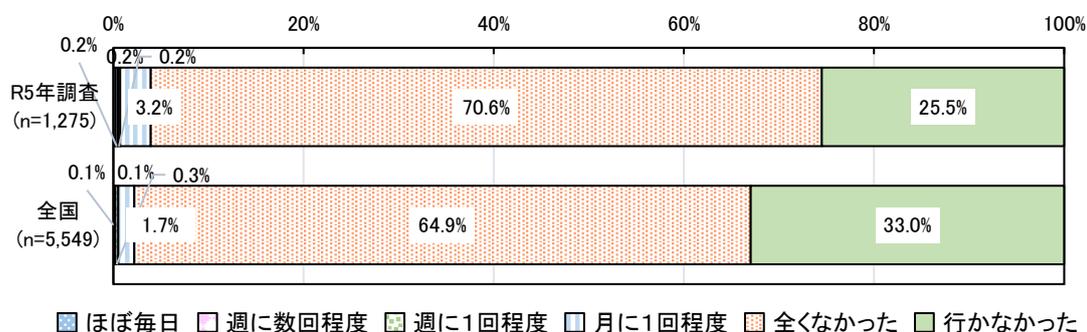
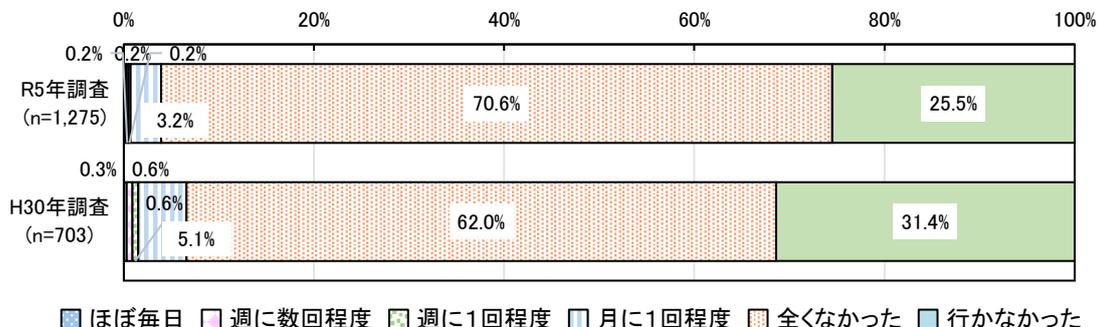
【20歳以上（女性）】



② 医療機関

医療機関での受動喫煙の状況について、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は3.8%となった。平成30年調査との比較して、『受動喫煙の機会がある』は2.8ポイント下回る。

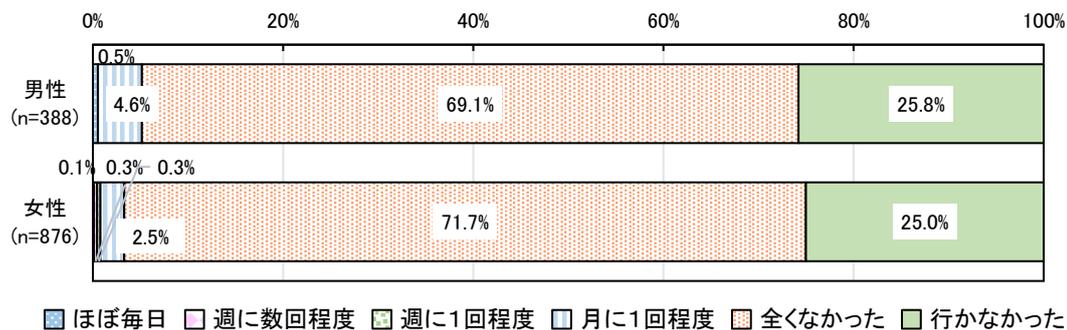
全国調査との比較では、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は本市が1.6ポイント上回る。



※全国データは厚生労働省「国民健康・栄養調査」(R元)から

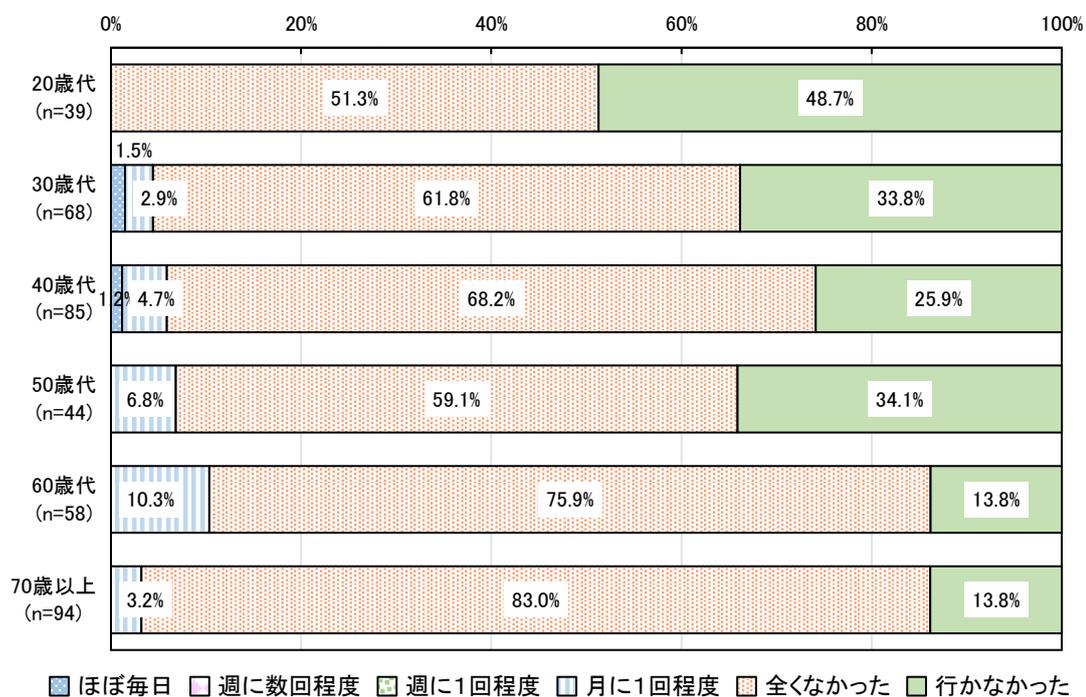
性別でみると、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は、男性5.1%、女性3.2%となり、男性が女性を1.9ポイント上回る。

【20歳以上】

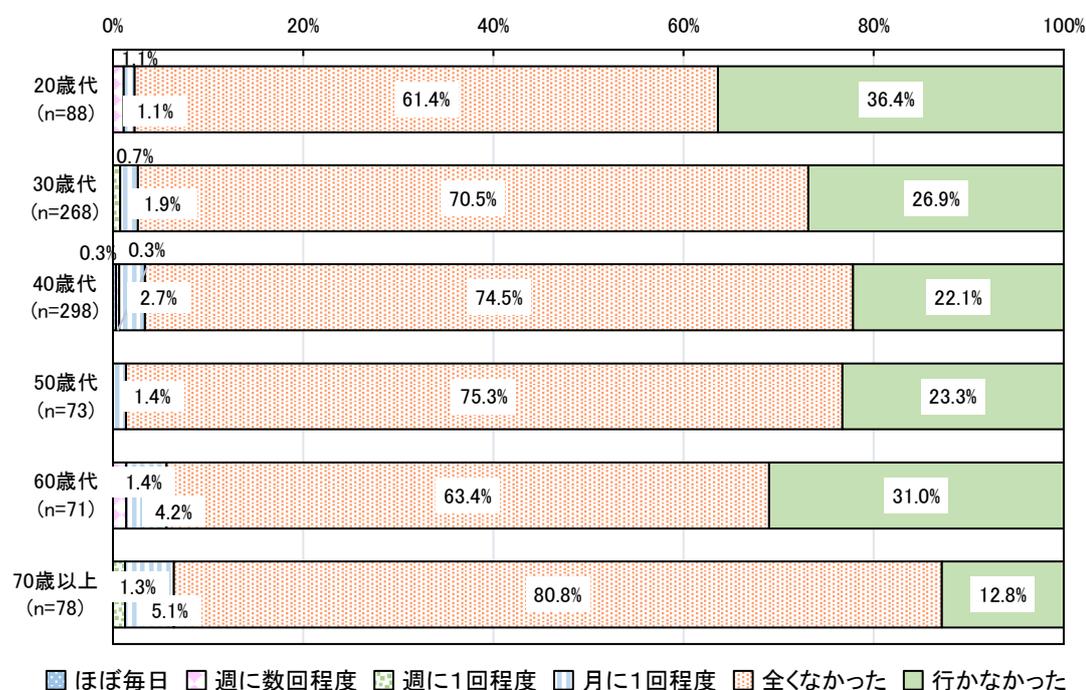


年齢区別でみると、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は、男性は60歳代の10.3%、女性は70歳以上の6.4%が最も高い。

【20歳以上（男性）】



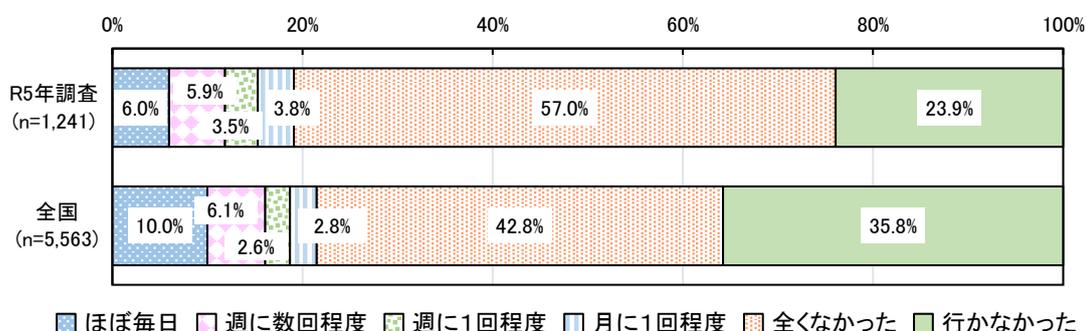
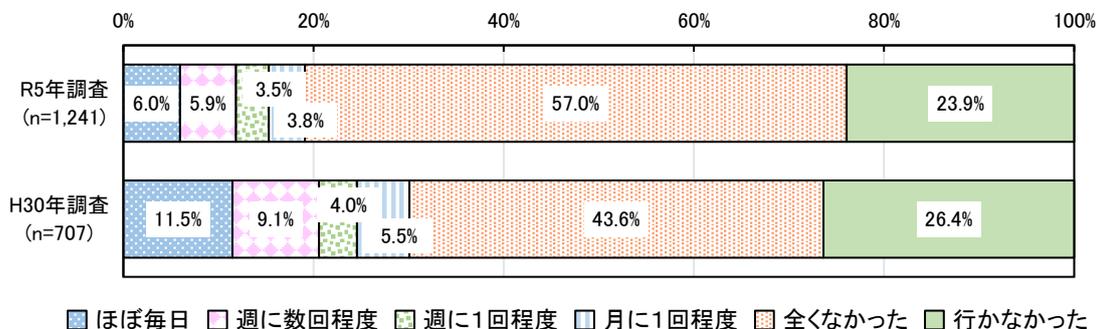
【20歳以上（女性）】



③ 職場

職場での受動喫煙の状況について、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は19.2%となった。平成30年調査と比較して、『受動喫煙の機会がある』は10.9ポイント下回る。

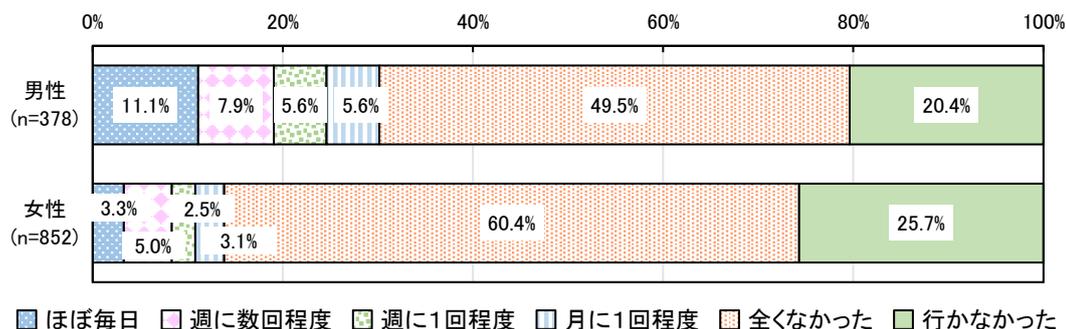
全国調査との比較では、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は本市が2.3ポイント下回る。※全国データは厚生労働省「国民健康・栄養調査」(R元)から



※全国データは厚生労働省「国民健康・栄養調査」(R元)から

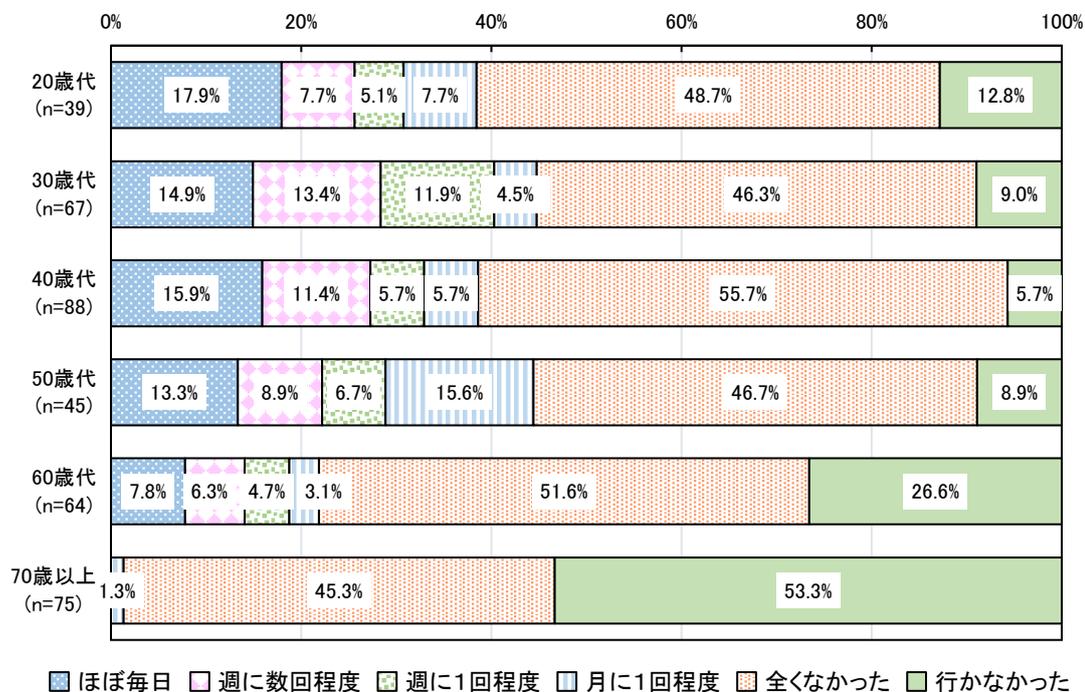
性別でみると、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は、男性30.2%、女性13.9%となり、男性が女性を16.3ポイント上回る。

【20歳以上】

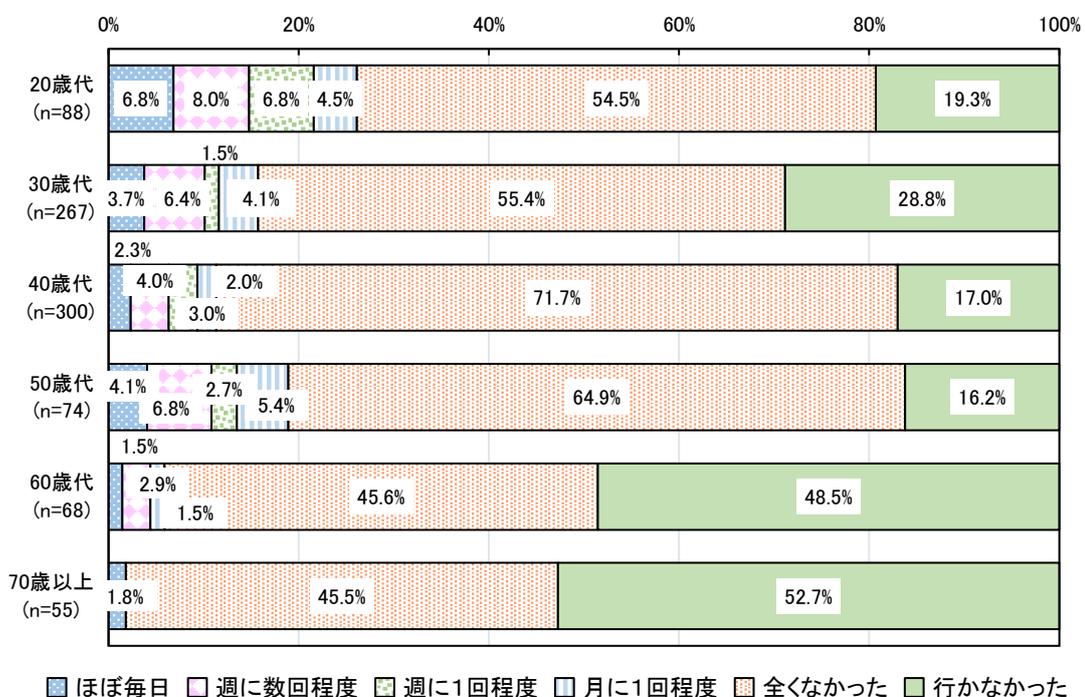


年齢区別でみると、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は、男女ともに20～50歳代が高く、男性では3割を超えている。女性は男性と比較して『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は低いものの、20歳代では26.1%を占める。

【20歳以上（男性）】



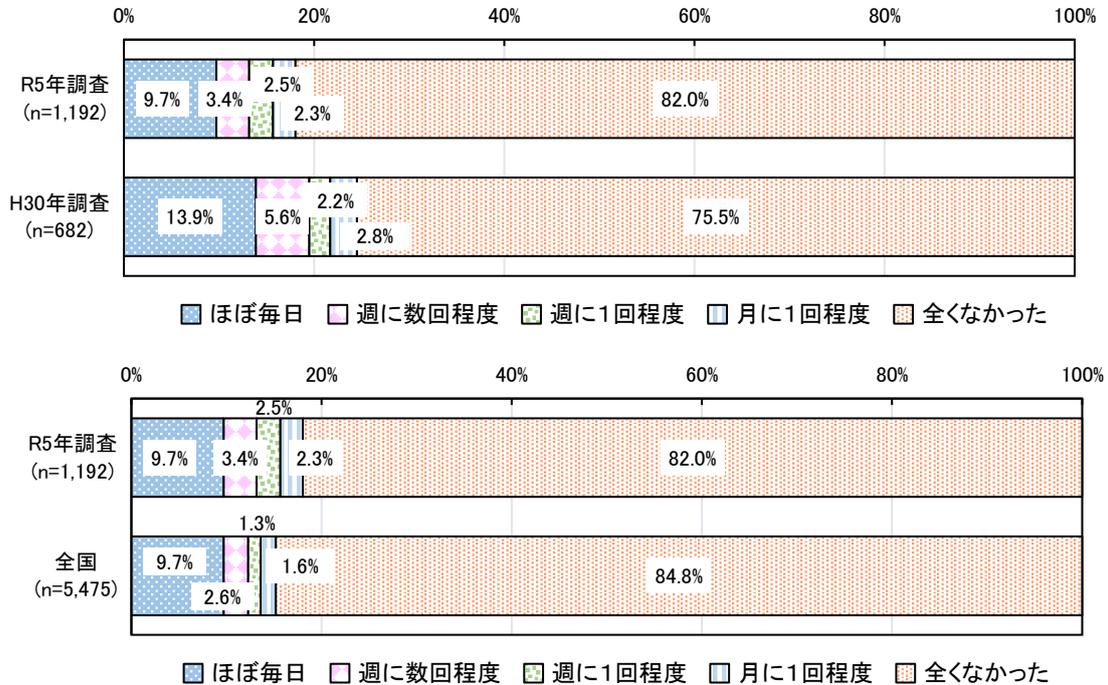
【20歳以上（女性）】



④ 家庭

家庭での受動喫煙の状況について、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は17.9%となった。平成30年調査と比較して、『受動喫煙の機会がある』は6.6ポイント下回る。

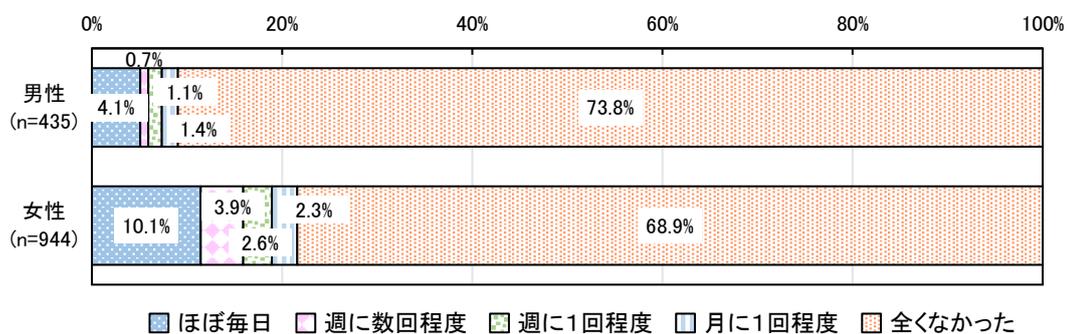
全国調査との比較では、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は本市が2.7ポイント上回る。



※全国データは厚生労働省「国民健康・栄養調査」(R元) から

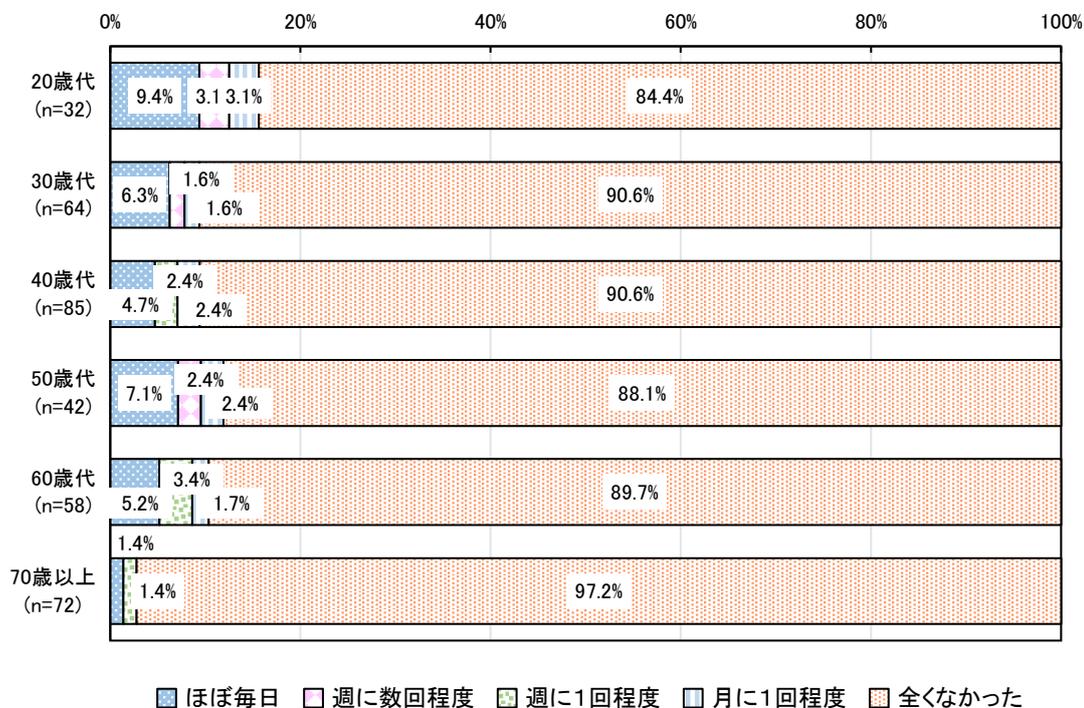
性別でみると、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は、男性7.3%、女性18.9%となり、女性が男性を11.6ポイント上回る。

【20歳以上】

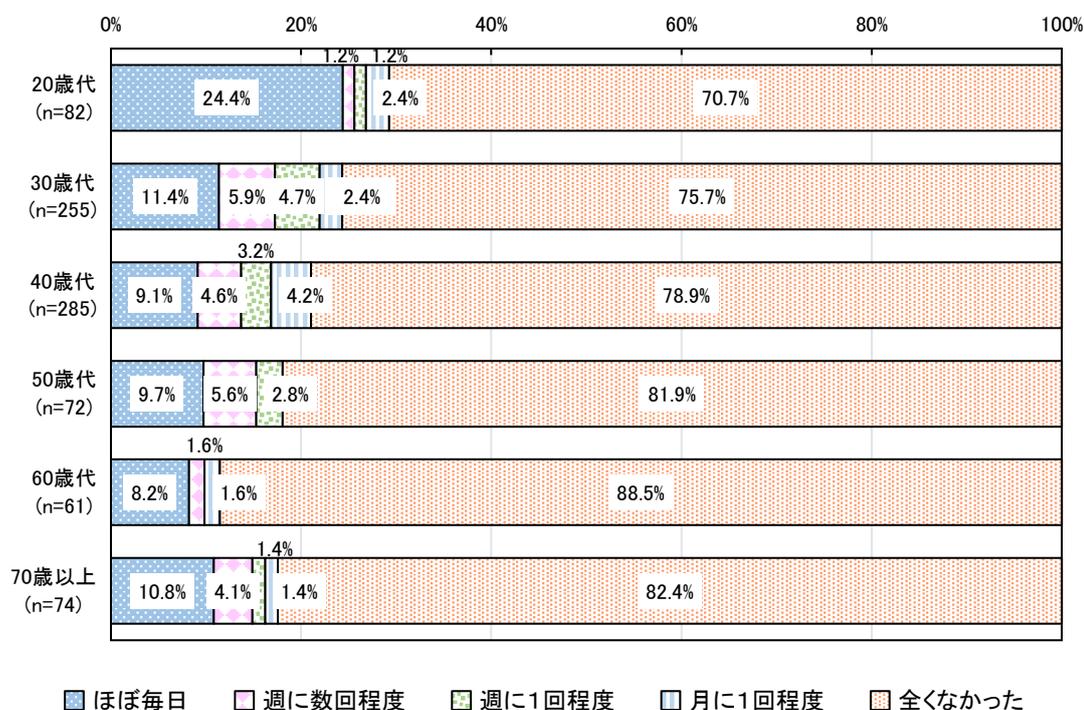


年齢区別でみると、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は、全ての年代で女性が男性を上回る。特に20～40歳代女性では『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は2割を超え、他の年代と比較して高い。

【20歳以上（男性）】



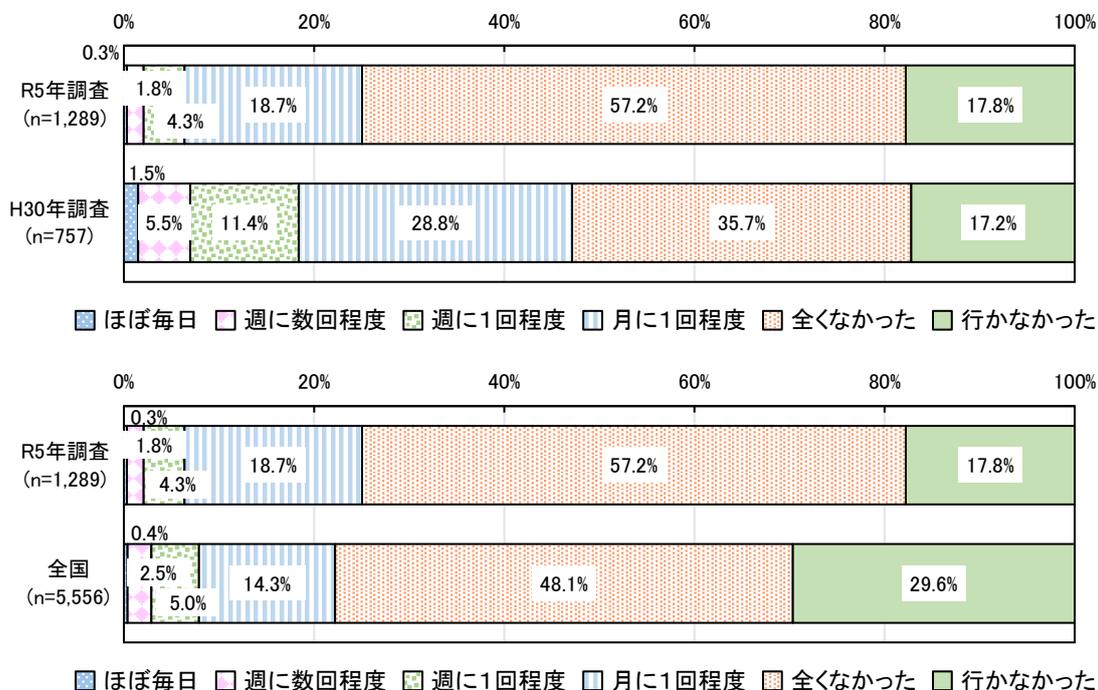
【20歳以上（女性）】



⑤ 飲食店

飲食店での受動喫煙の状況について、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は25.1%となった。平成30年調査と比較して、『受動喫煙の機会がある』は22.1ポイント下回る。

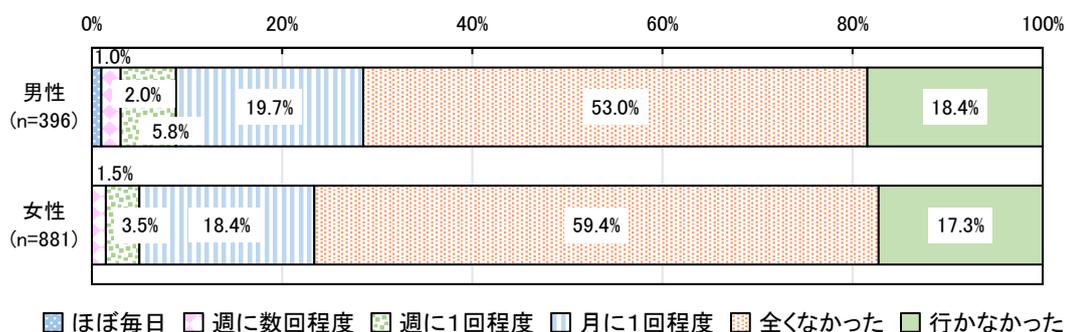
全国調査との比較では、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は本市が2.9ポイント上回る。



※全国データは厚生労働省「国民健康・栄養調査」(R元)から

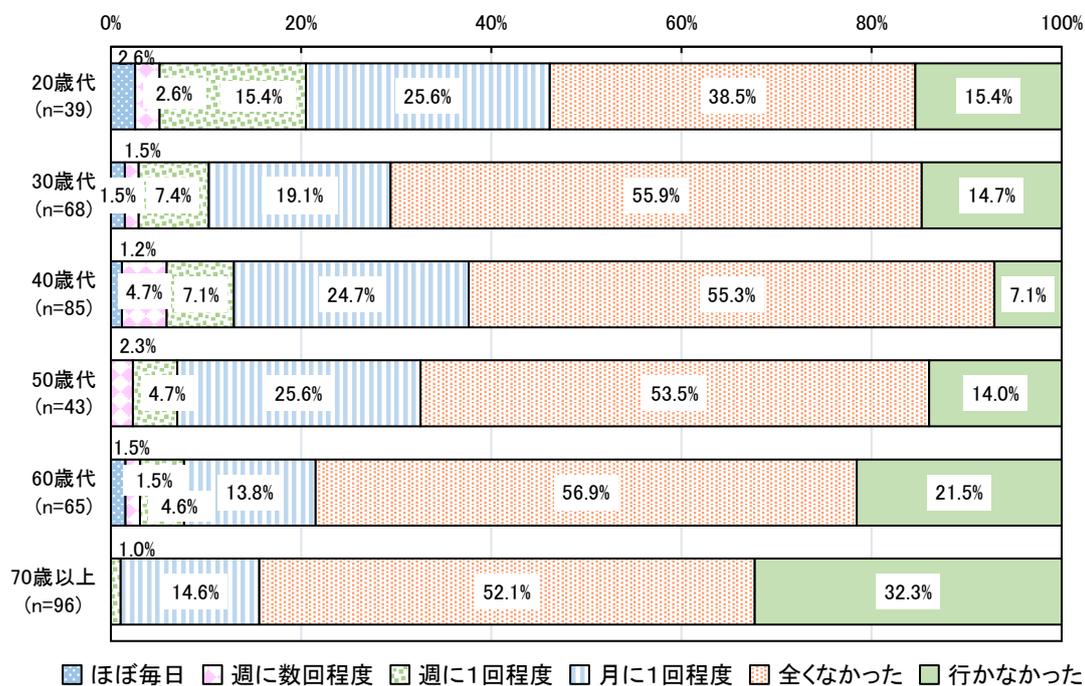
性別でみると、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は、男性28.5%、女性23.4%となり、男性が女性を5.1ポイント上回る。

【20歳以上】

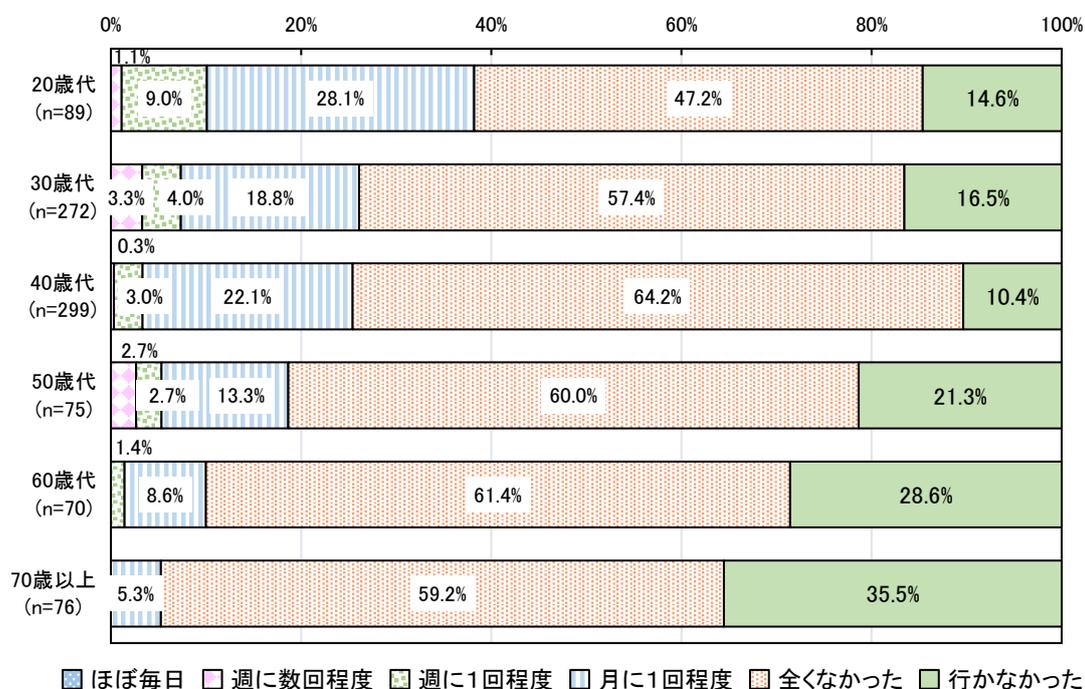


年齢区別でみると、『受動喫煙の機会がある』と回答した割合は、男女ともに20歳代が最も高く、男性では46.2%、女性では38.2%を占める。

【20歳以上（男性）】

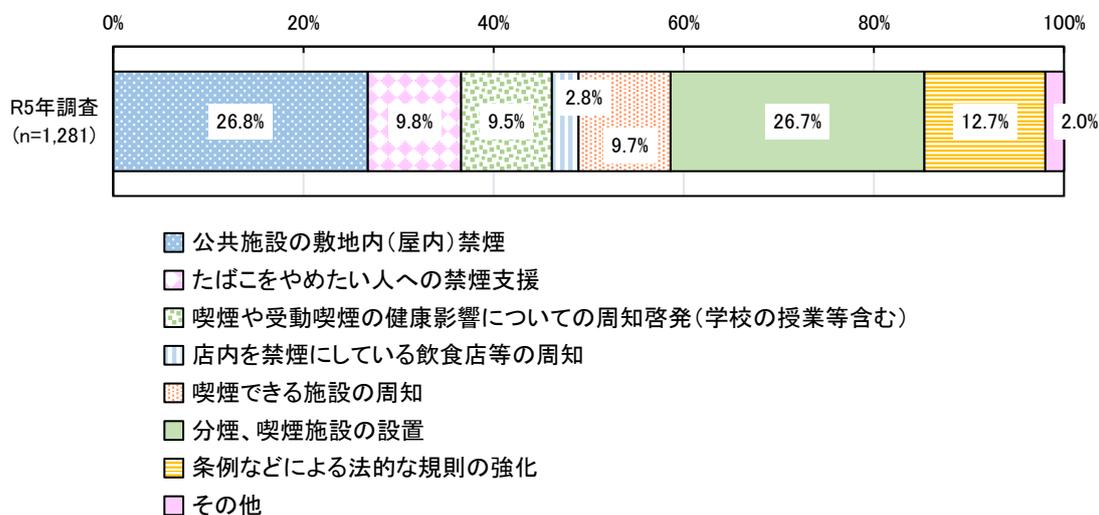


【20歳以上（女性）】



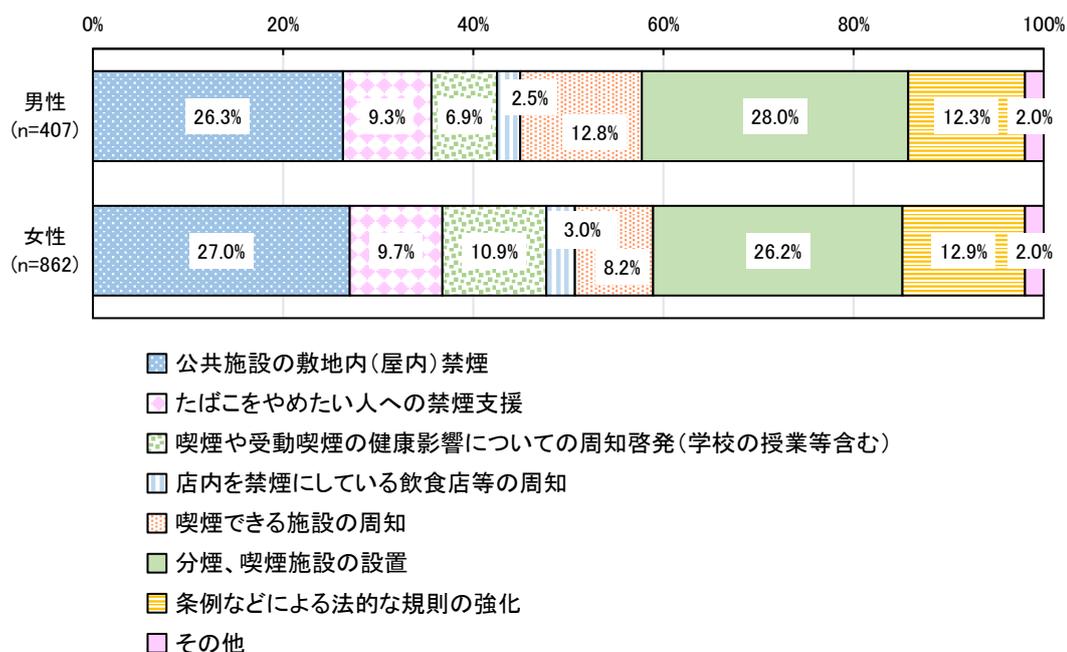
■受動喫煙をなくすために最も重要（必要）な対策 〈20歳以上〉

受動喫煙をなくすために最も重要（必要）な対策について、「公共施設の敷地内（屋内）禁煙」26.8%が最も高く、次いで「分煙、喫煙施設の設置」26.7%、「条例などによる法的な規則の強化」12.7%の順となった。



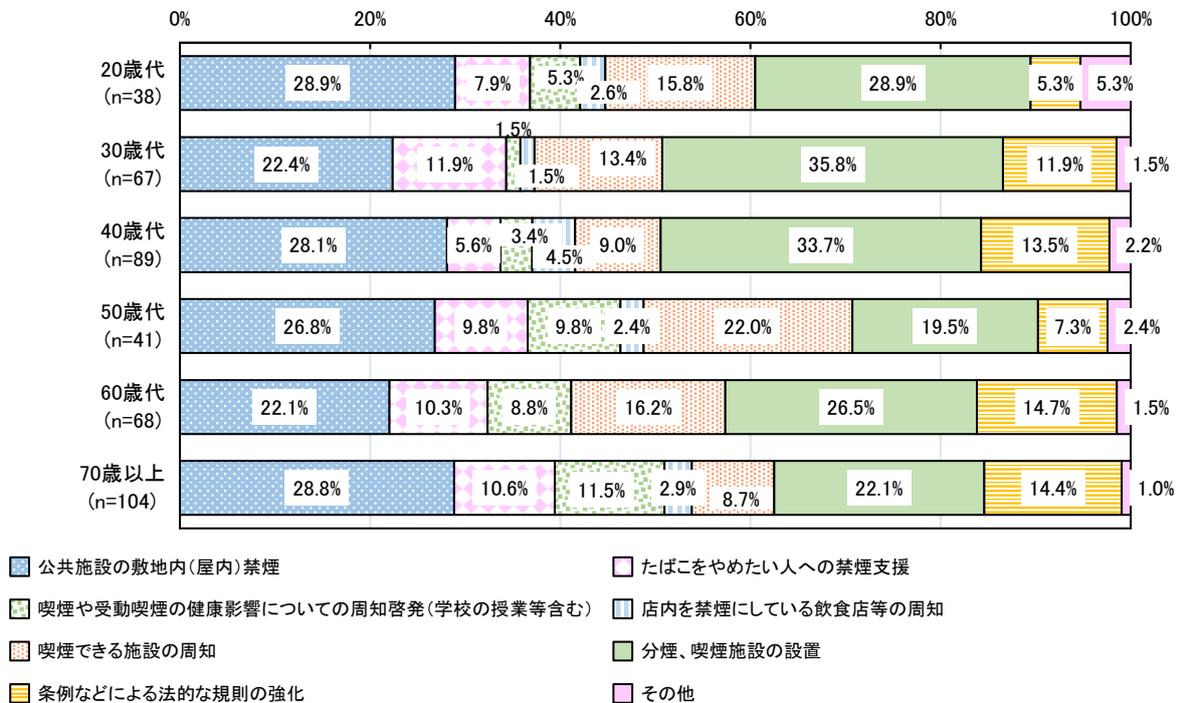
性別でみると、「喫煙できる施設の周知」は男性が女性を4.6ポイント上回る。一方、女性は「喫煙や受動喫煙の健康影響についての周知啓発（学校の授業等含む）」が男性を4.0ポイント上回る。

【20歳以上】

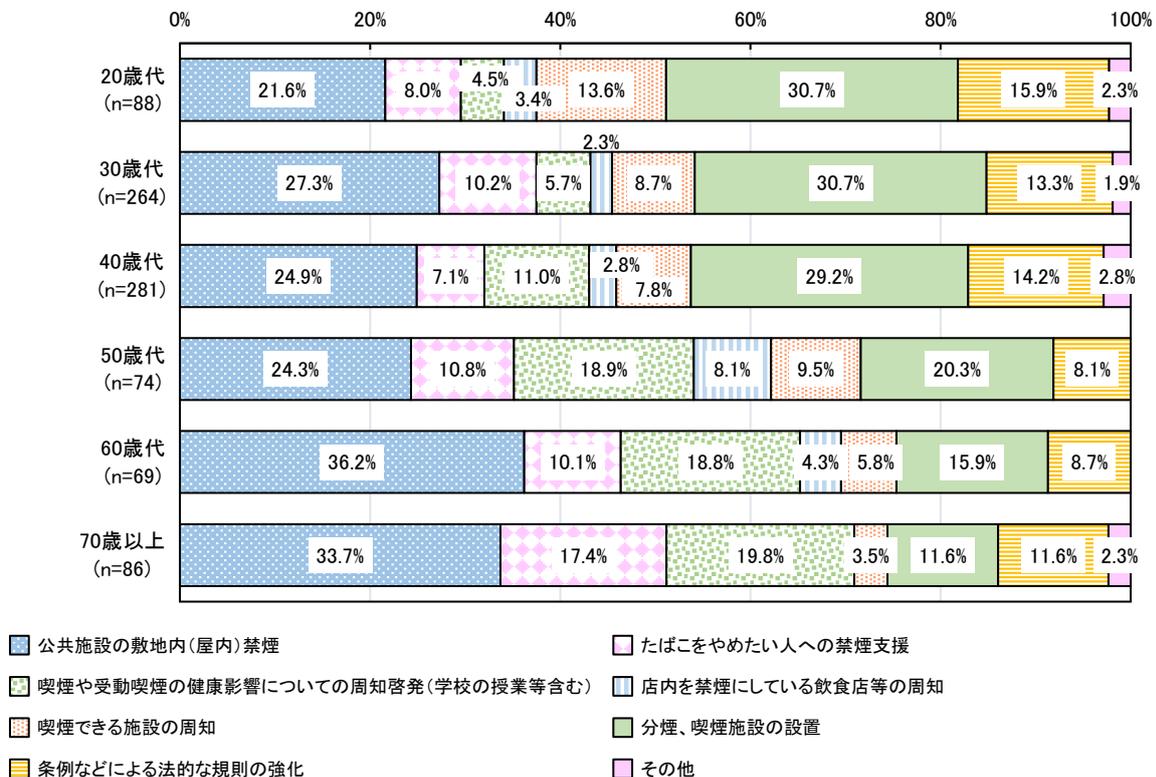


年齢区別でみると、全ての年代で「公共施設の敷地内（屋内）禁煙」が2割を超えている。20～40歳代では男女ともに「分煙、喫煙施設の設置」と回答した割合が最も高く3割程度を占める。

【20歳以上（男性）】



【20歳以上（女性）】

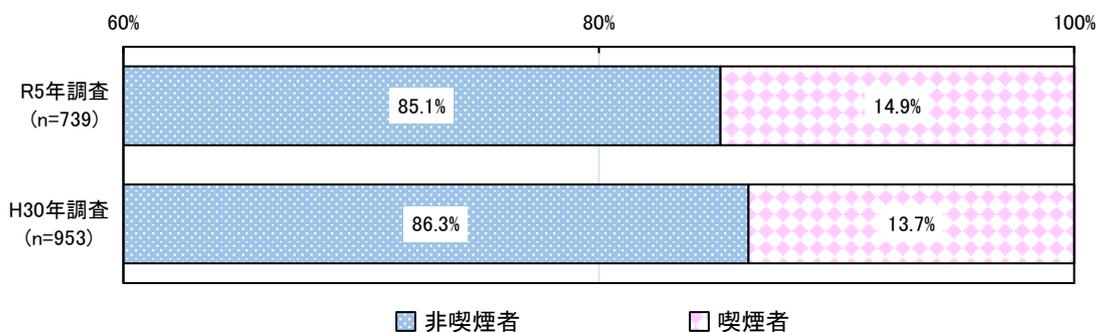


■喫煙の状況 〈20歳以上〉

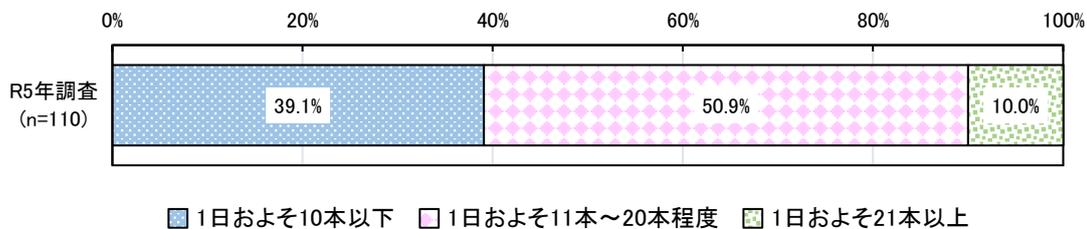
喫煙の状況について、「喫煙者」は14.9%、「非喫煙者」は85.1%となった。

平成30年調査と比較して、「喫煙者」は1.2ポイント上回るが、大きな差はみられない。

喫煙者が1日に吸うタバコの本数については、「1日およそ11本～20本程度」が50.9%を占める。

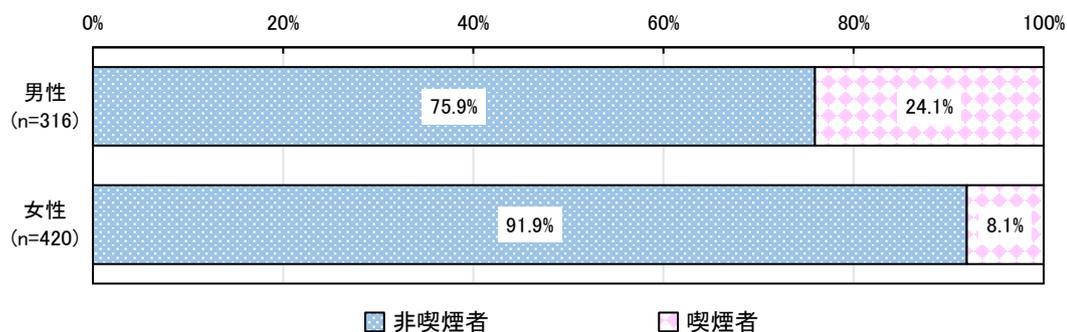


※『非喫煙者』とは、「吸わない」+「以前は吸っていたが、今はやめている」
 ※『喫煙者』とは、「1日およそ10本以下吸っている」+「1日およそ11本～20本程度吸っている」+「1日およそ21本以上吸っている」



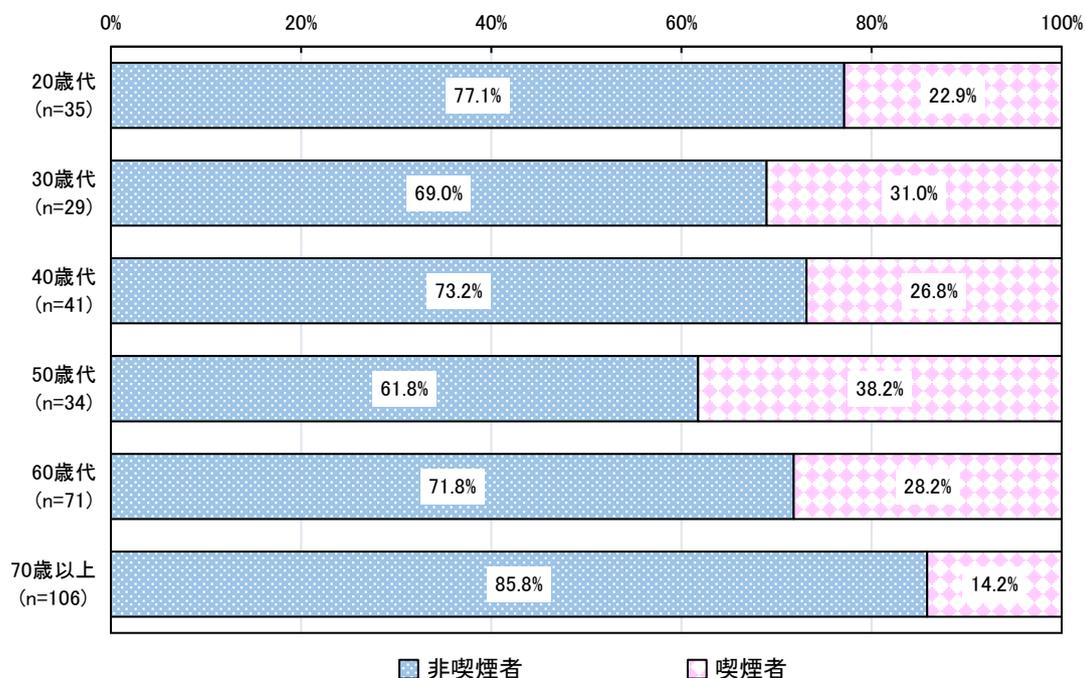
性別でみると、「喫煙者」は男性が24.1%、女性が8.1%となり、男性が女性を16.0ポイント上回る。

【20歳以上】

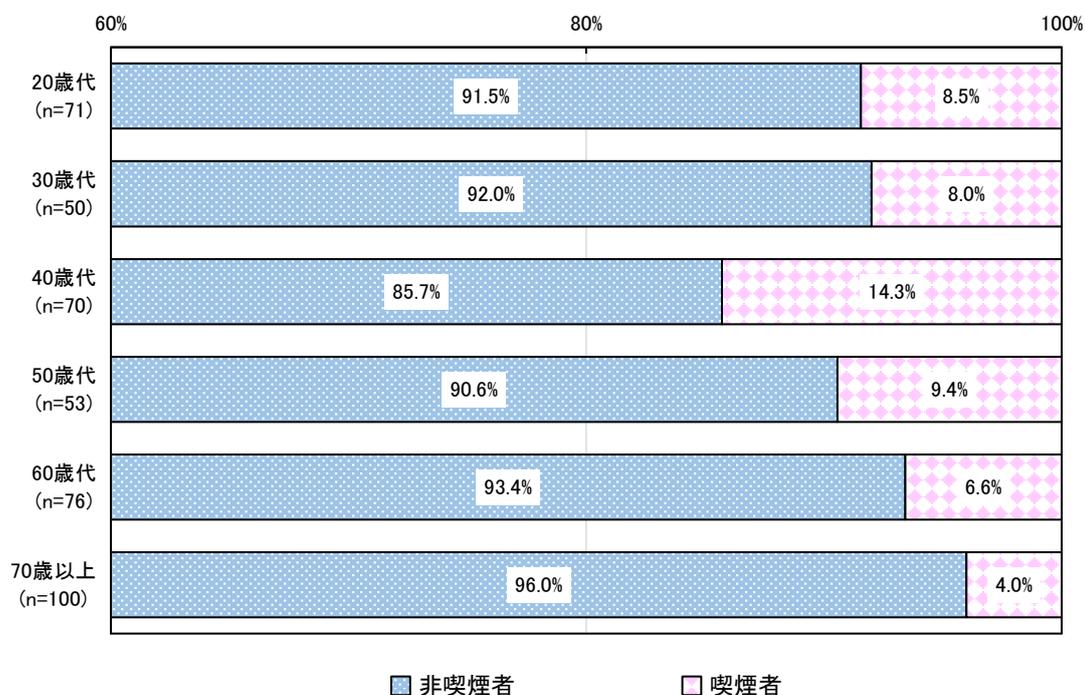


年齢区別でみると、「喫煙者」の割合が最も高いのは、男性では50歳代の38.2%、女性では40歳代の14.3%となっている。男性は50歳代以降、女性は40歳代以降では、年代が上がるにつれ「喫煙者」の割合は低くなる傾向がみられる。

【20歳以上（男性）】



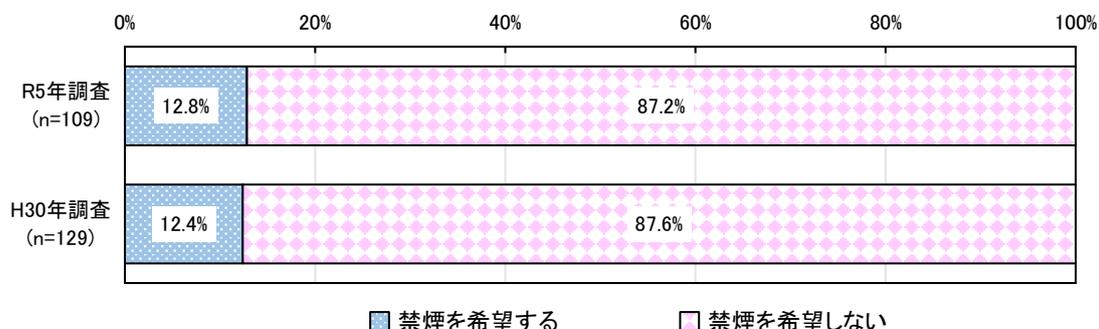
【20歳以上（女性）】



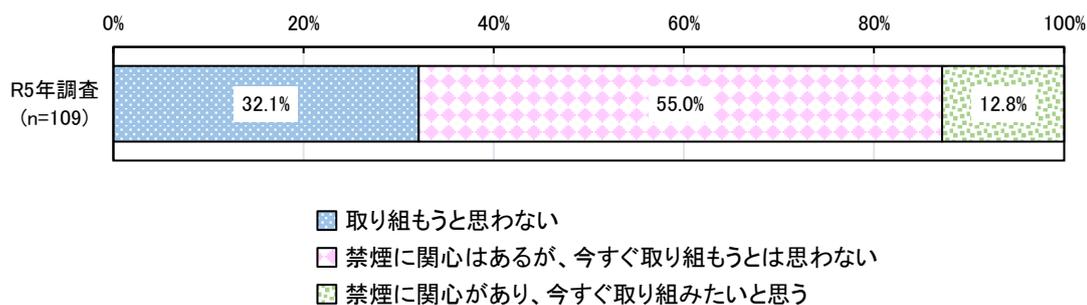
■禁煙の取り組み意向 〈20歳以上〉

喫煙者の禁煙の取組意向は、「禁煙を希望する」が12.8%、「禁煙を希望しない」が87.2%となった。「禁煙を希望しない」人のうち、「取り組もうと思わない」は32.1%、「禁煙に関心はあるが、今すぐ取り組もうとは思わない」は55.0%となった。

平成30年調査と比較して、大きな差はみられない。

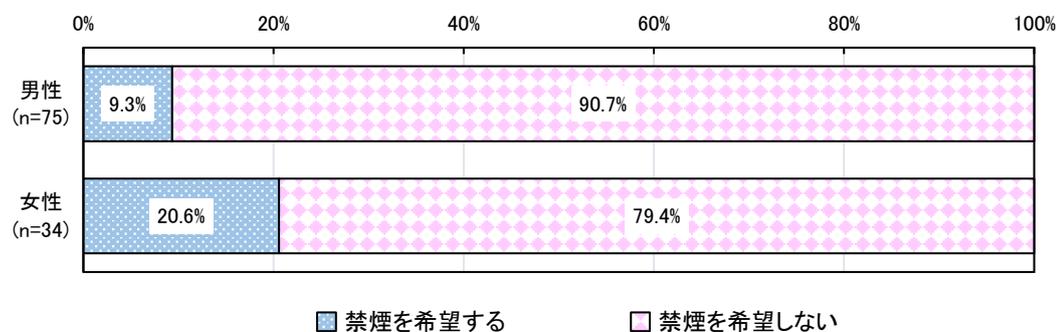


※『喫煙を希望する』は、「喫煙に関心があり、今すぐに取り組みたいと思う」
 ※『喫煙を希望しない』は、「取り組もうと思わない」 + 「禁煙に関心はあるが、今すぐ取り組もうとは思わない」



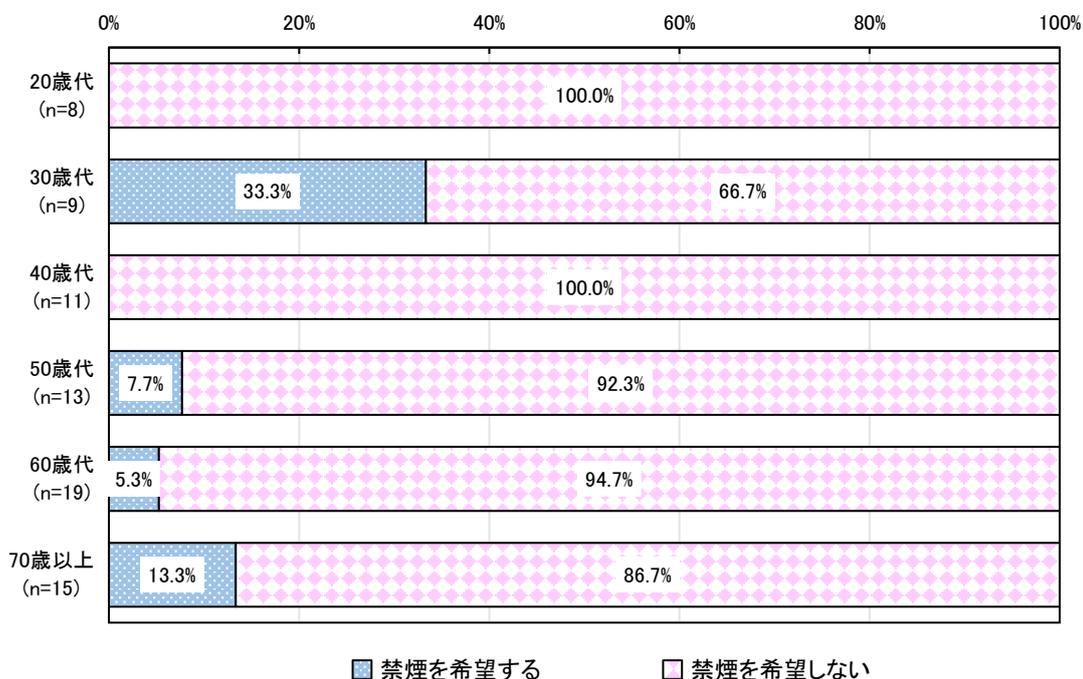
性別でみると、「禁煙を希望する」人は男性9.3%、女性は20.6%となり、女性が男性を11.3ポイント上回る。

【20歳以上】

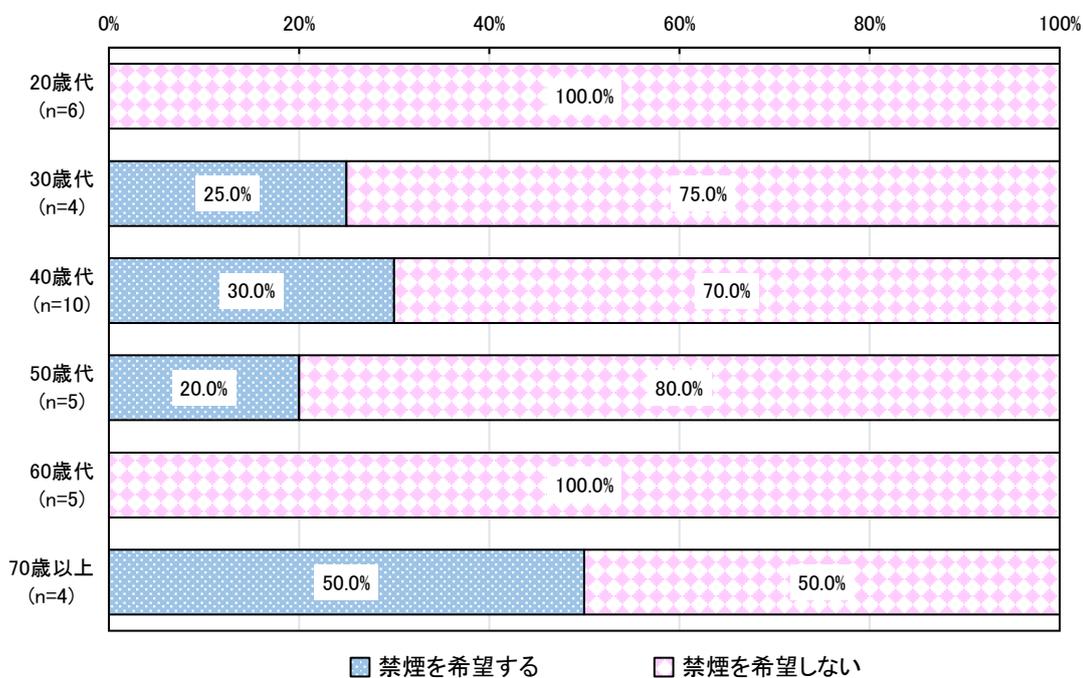


年齢区別でみると、「禁煙を希望する」と回答した割合は、男性では30歳代の33.3%、女性では70歳以上の50%が最も高い。

【20歳以上（男性）】

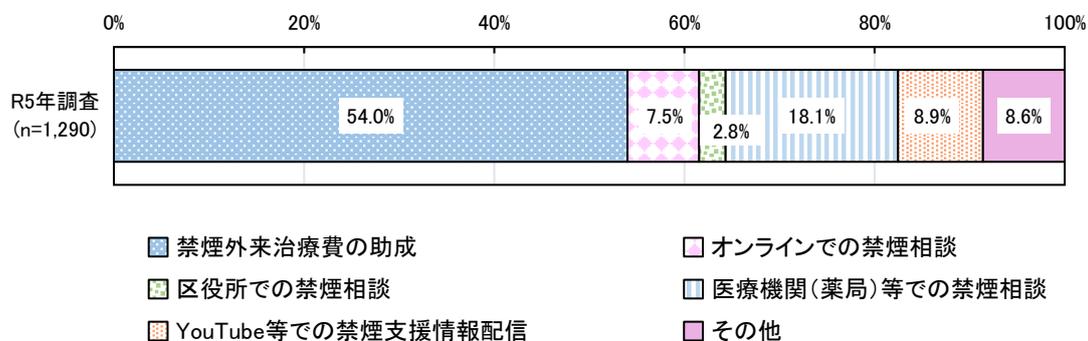


【20歳以上（女性）】



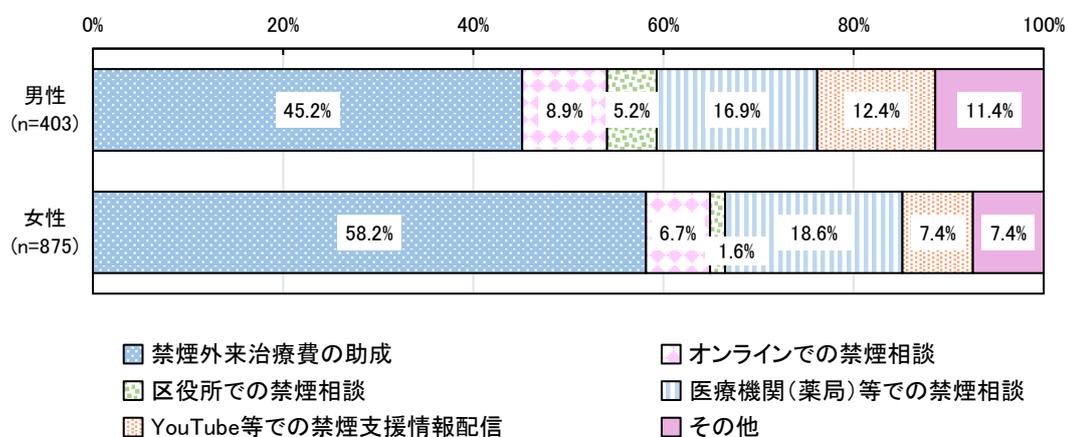
■禁煙を支援する取組として、最も重要（必要）なこと 〈20歳以上〉

禁煙を支援する取組として、最も重要（必要）なことについて、「禁煙外来治療費の助成」54.0%が最も高く、次いで「医療機関（薬局）等での禁煙相談」18.1%、「YouTube等での禁煙支援情報配信」8.9%の順となった。



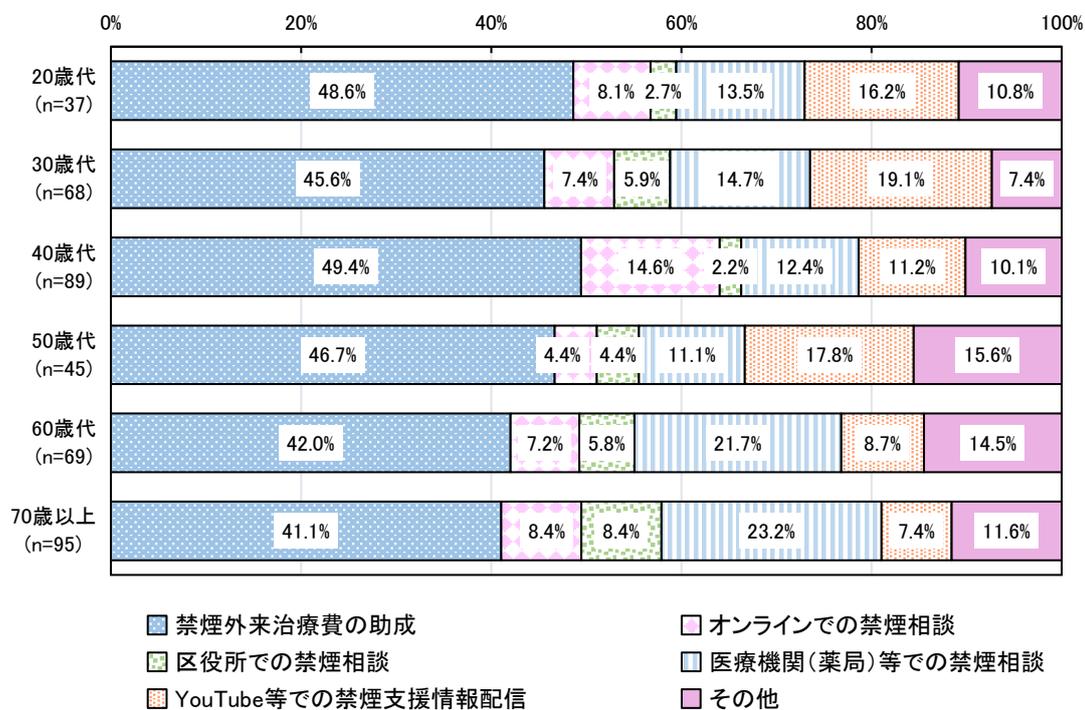
性別でみると、男女ともに「禁煙外来治療費の助成」が最も高く、男性は45.2%、女性は58.2%を占める。

【20歳以上】

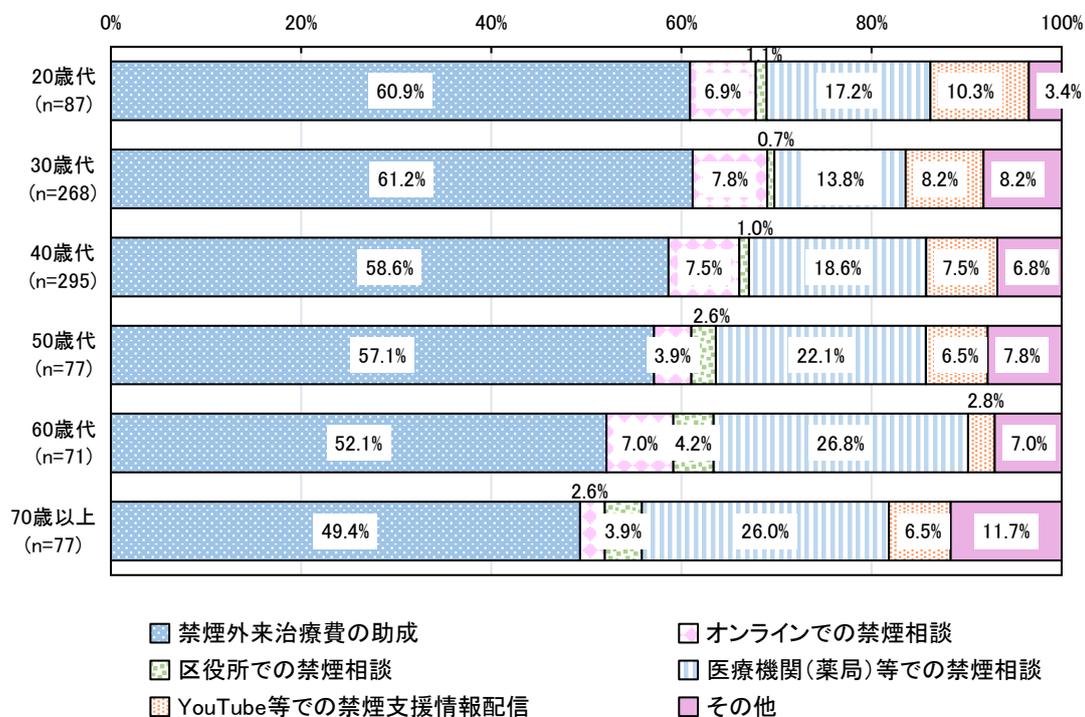


年齢区別でみると、「禁煙外来治療費の助成」は全ての年代で4割を超えている。「医療機関（薬局）等での禁煙相談」では男性は60歳以上、女性は50歳以上で2割を超える。

【20歳以上（男性）】



【20歳以上（女性）】



◎ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している市民の割合の増加

ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度は50.1%となり、平成30年調査を2.1ポイント、目標を29.9ポイント下回る。

項目	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している市民の割合の増加	50.3%	52.2%	50.1%	80.0%

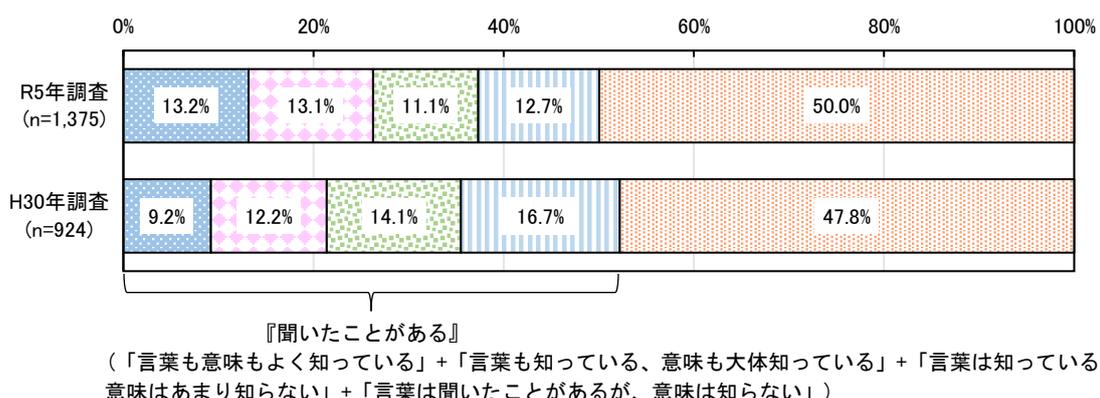
※20歳以上の回答者で、「言葉も意味もよく知っている」+「言葉も知っている、意味も大体知っている」+「言葉は知っている、意味はあまり知らない」+「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」を選択した人の割合

<調査結果>

■ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度 〈20歳以上〉

ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度について、「言葉も意味もよく知っている」13.2%、「言葉も知っている、意味も大体知っている」13.1%、「言葉は知っている、意味はあまり知らない」11.1%、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」12.7%を合わせて、50.1%が『聞いたことがある』としている。

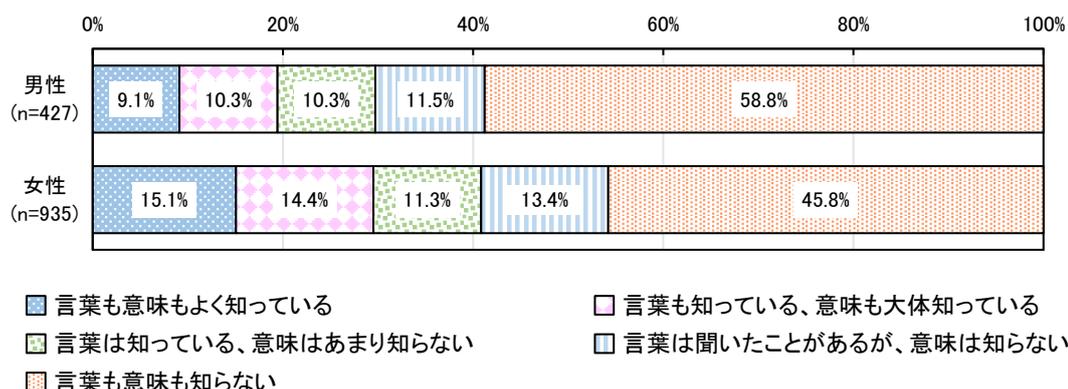
平成30年調査と比較して、『聞いたことがある』と回答した割合は、2.1ポイント下回る。



- 言葉も意味もよく知っている
- 言葉も知っている、意味も大体知っている
- 言葉は知っている、意味はあまり知らない
- 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない
- 言葉も意味も知らない

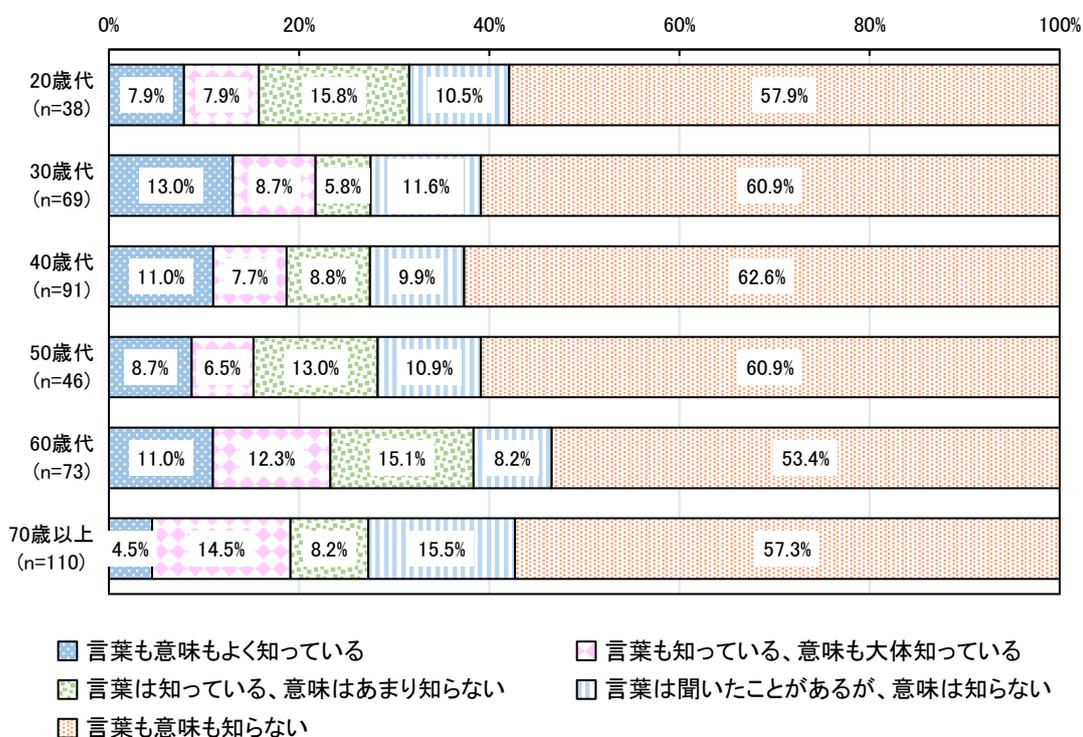
性別でみると、『聞いたことがある』と回答した割合は、男性41.2%、女性54.2%となり、女性が男性を13.0ポイント上回る。

【20歳以上】

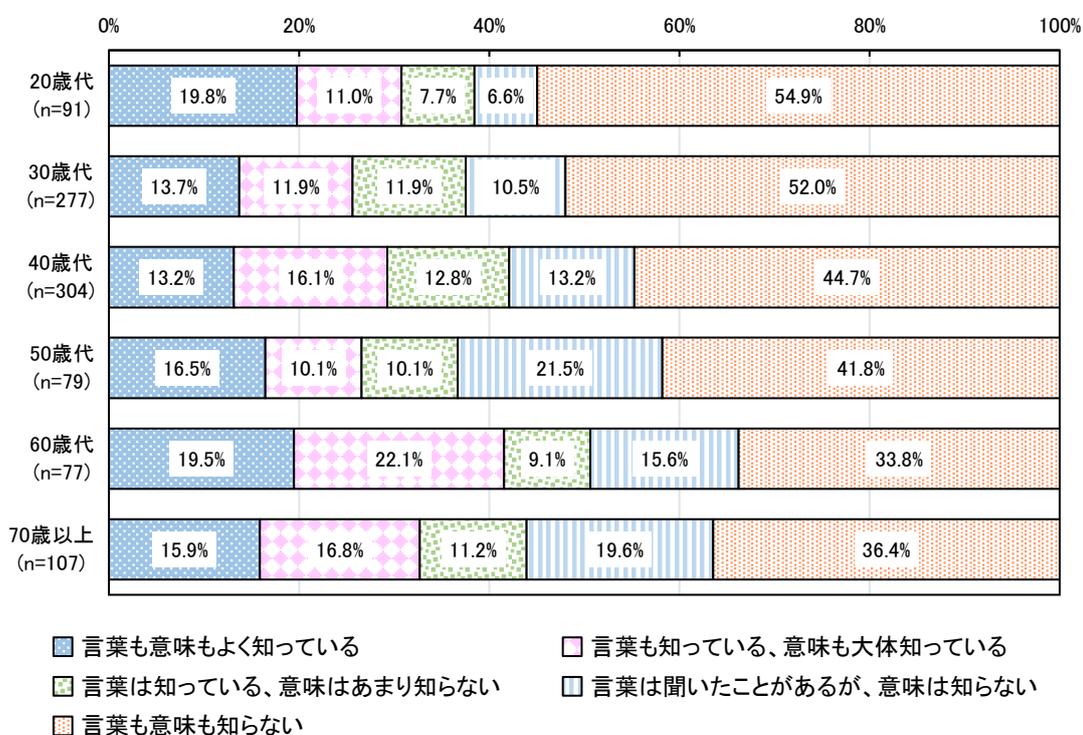


年齢区別でみると、『聞いたことがある』と回答した割合は、全ての年代で女性が男性を上回る。女性は40歳代以上では半数以上が『聞いたことがある』と回答している。

【20歳以上（男性）】



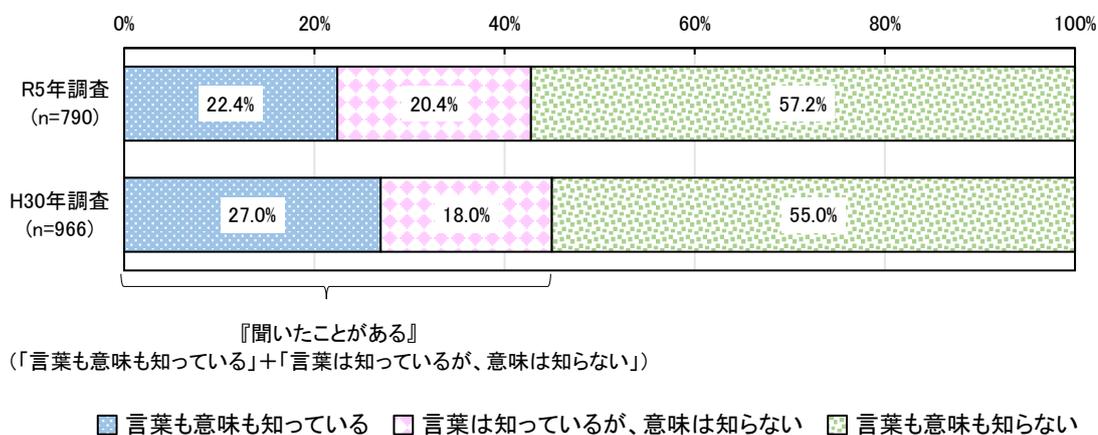
【20歳以上（女性）】



■ CKD（慢性腎臓病）の認知度 〈18歳以上〉

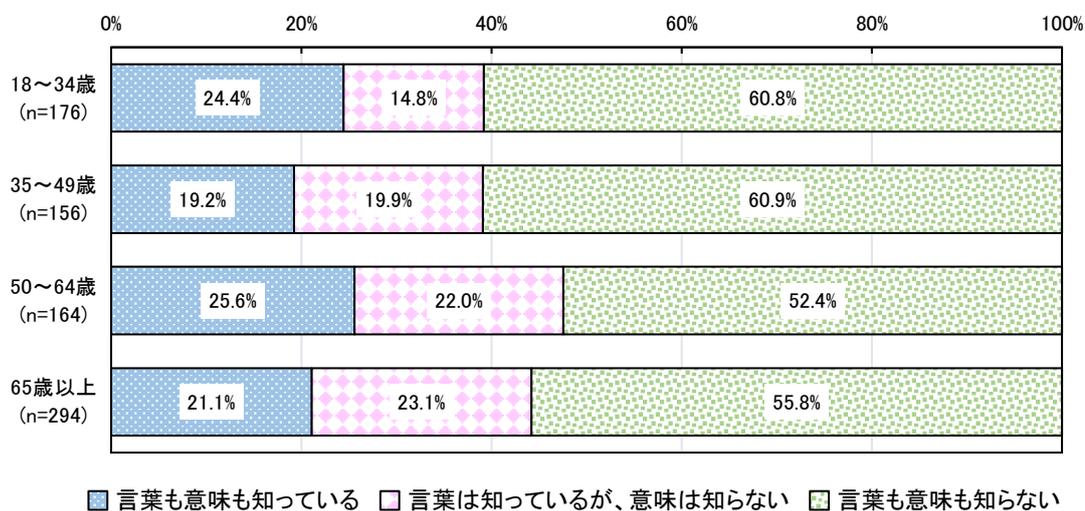
CKD（慢性腎臓病）の認知度について、「言葉も意味も知っている」は22.4%、「言葉は知っているが、意味は知らない」は20.4%と、合わせて42.8%が『聞いたことがある』としている。

平成30年調査と比較して、『聞いたことがある』人の割合は、2.2ポイント下回る。



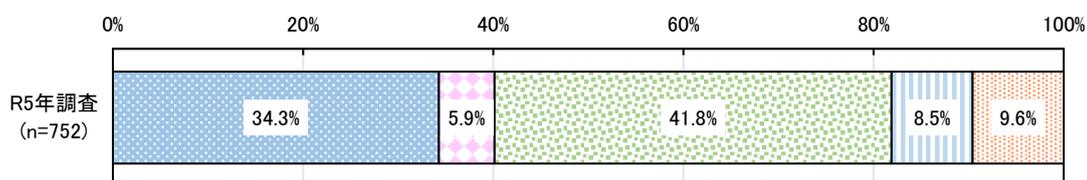
年齢区分別でみると、「言葉も意味も知らない」と回答した割合は全ての年代で半数を超えている。『聞いたことがある』人の割合は、50歳以上では4割を超える。

【18歳以上】



■内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防改善の取組 〈20歳以上〉

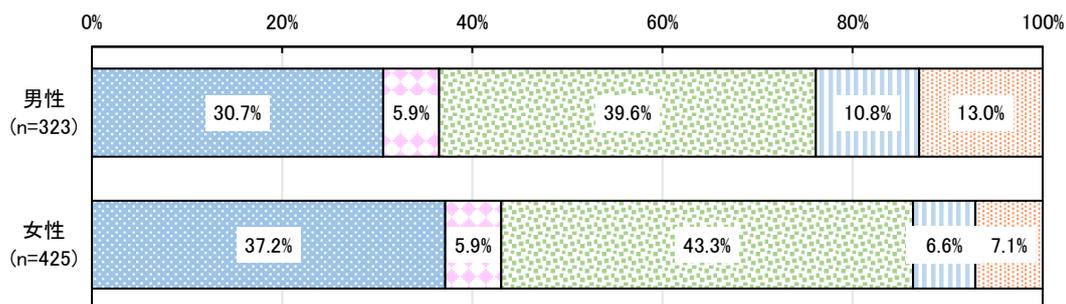
内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のために、適切な食事、定期的な運動、週に複数回の体重計測のいずれかを実践しているかについて、「時々気を付けているが、継続的ではない」41.8%が最も高く、次いで「実践しており、半年以上継続している」34.3%、「現在実践していないし、しようとも思わない」9.6%の順となった。



- 実践しており、半年以上継続している
- 実践しているが、半年未満である
- 時々気を付けているが、継続的ではない
- 現在は実践していないが、近いうちにしようと思っている
- 現在実践していないし、しようとも思わない

性別でみると、「実践しており、半年以上継続している」人の割合は、女性が男性を6.5ポイント上回る。一方男性は、『実践していない』（「現在は実践していないが、近いうちにしようと思っている」+「現在実践していないし、しようとも思わない」と回答した割合が女性を10.1ポイント上回る。

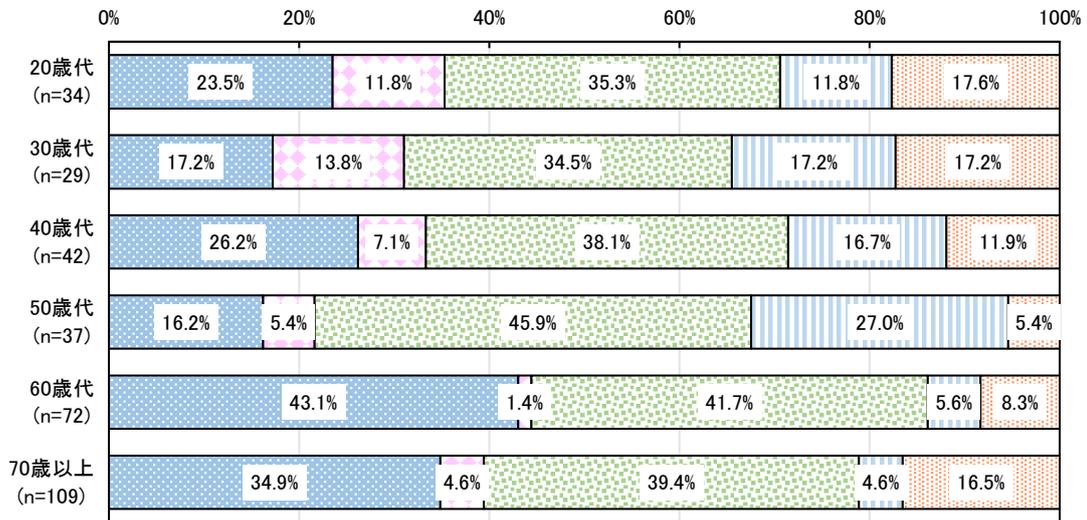
【20歳以上】



- 実践しており、半年以上継続している
- 実践しているが、半年未満である
- 時々気を付けているが、継続的ではない
- 現在は実践していないが、近いうちにしようと思っている
- 現在実践していないし、しようとも思わない

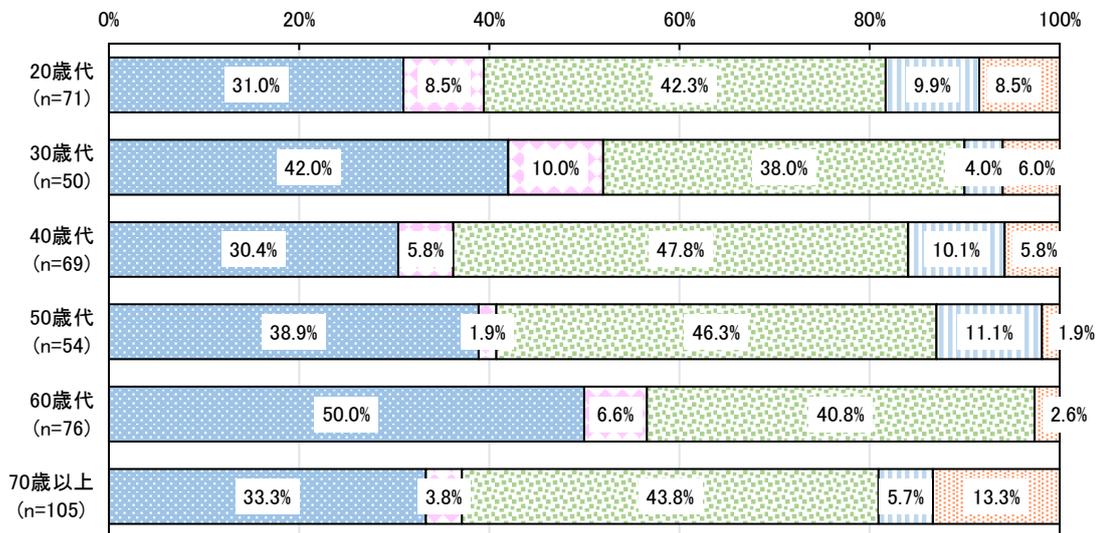
年齢区別でみると、「実践しており、半年以上継続している」人の割合が高いのは、男性は60歳代の43.1%、女性は30歳代の42.0%と60歳代の50%となった。その他の年代では「時々気を付けているが、継続的ではない」がいずれも最も高い。

【20歳以上（男性）】



- 実践しており、半年以上継続している
- 実践しているが、半年未満である
- 時々気を付けているが、継続的ではない
- 現在は実践していないが、近いうちにしようと思っている
- 現在実践していないし、しようとも思わない

【20歳以上（女性）】



- 実践しており、半年以上継続している
- 実践しているが、半年未満である
- 時々気を付けているが、継続的ではない
- 現在は実践していないが、近いうちにしようと思っている
- 現在実践していないし、しようとも思わない

◎日常生活における歩数の増加

日常生活における歩数は、20～64歳では、男性5,587歩、女性4,831歩となり、平成30年調査及び目標を大きく下回る。65歳以上では、男性4,535歩、女性4,090歩となり、こちらも平成30年調査、目標を大きく下回る結果となった。

項目	対象		(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
	○日常生活における歩数の増加	20歳～64歳	男性	8,262歩	8,397歩	5,587歩
女性			8,058歩	9,302歩	4,831歩	9,500歩
65歳以上		男性	6,589歩	5,761歩	4,535歩	7,000歩
		女性	7,053歩	8,656歩	4,090歩	9,000歩

※一日の平均歩数

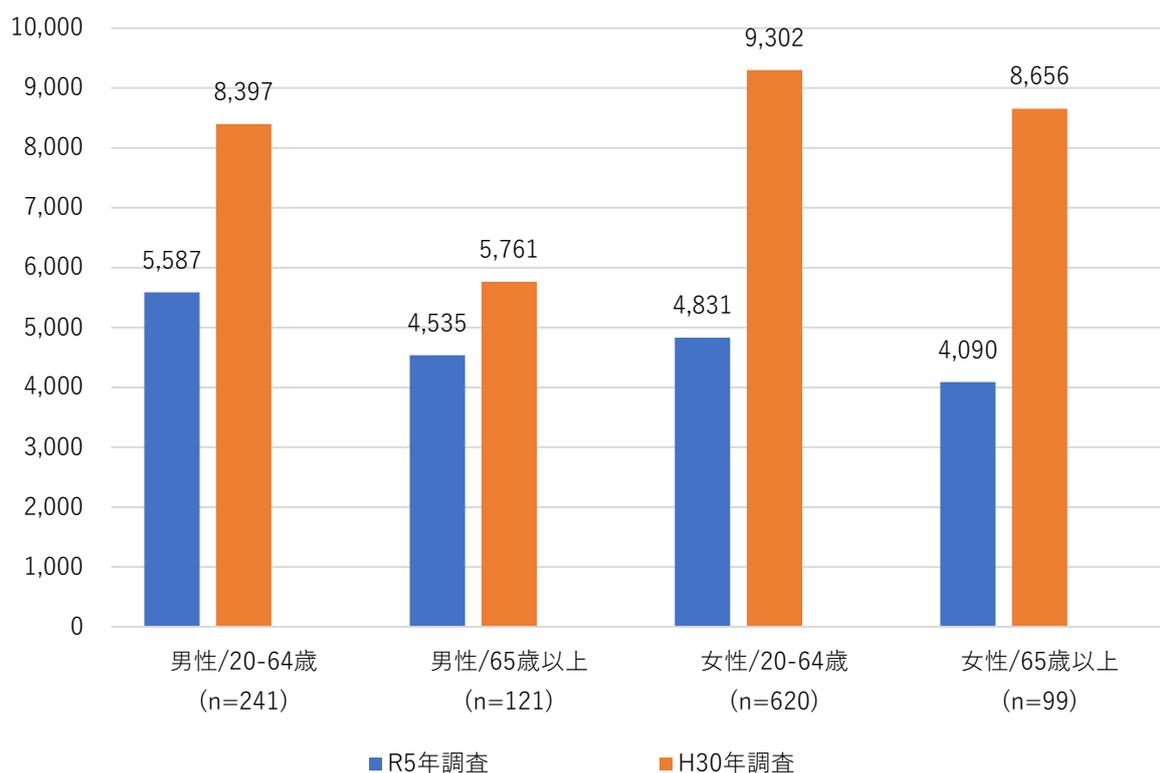
※今回調査より回答者自身の歩数計を利用した調査に変更した。

※平成30年調査までは対象者へ歩数計を同封し調査を行った。

<調査結果>

■平日及び休日の歩数（1日の平均歩数） 〈20歳以上〉

平日及び休日の1日の平均歩数は、全ての年齢区分で前回は大きく下回る。

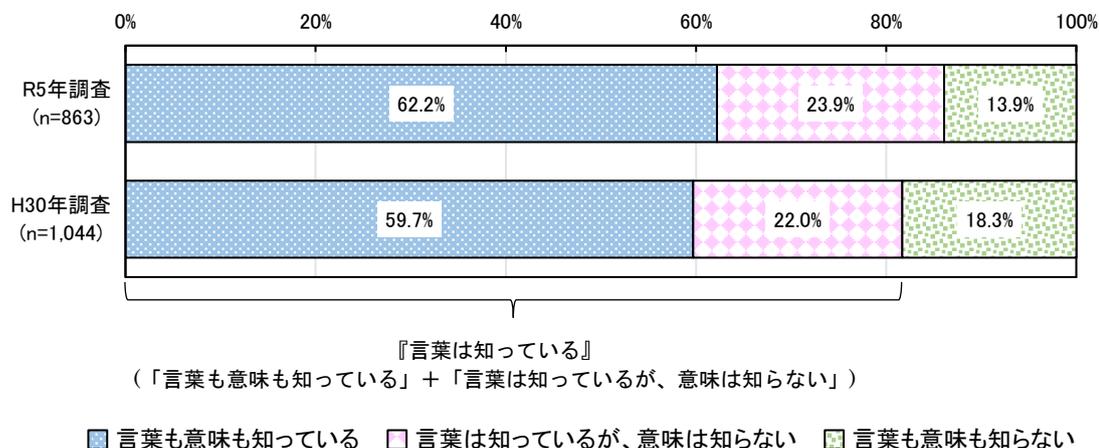


※平成30年調査のサンプル数 男性/20-64歳 (n=43) 男性/65歳以上 (n=8) 女性/20-64歳 (n=49) 女性/65歳以上 (n=24)

■ 「健康寿命」の認知度 〈15歳以上〉

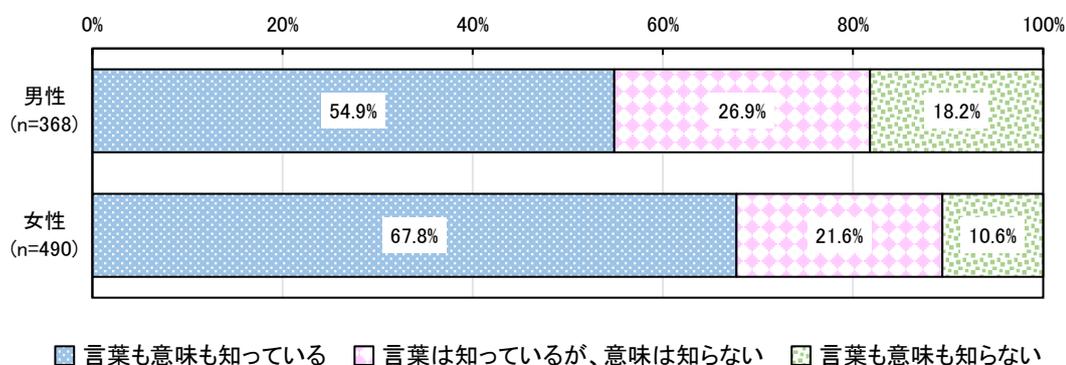
「健康寿命」の認知度について、「言葉も意味も知っている」は62.2%、「言葉は知っているが、意味は知らない」は23.9%と、合わせて86.1%が『言葉は知っている』としている。

平成30年調査と比較して、『言葉は知っている』と回答した割合は、4.4ポイント上回る。



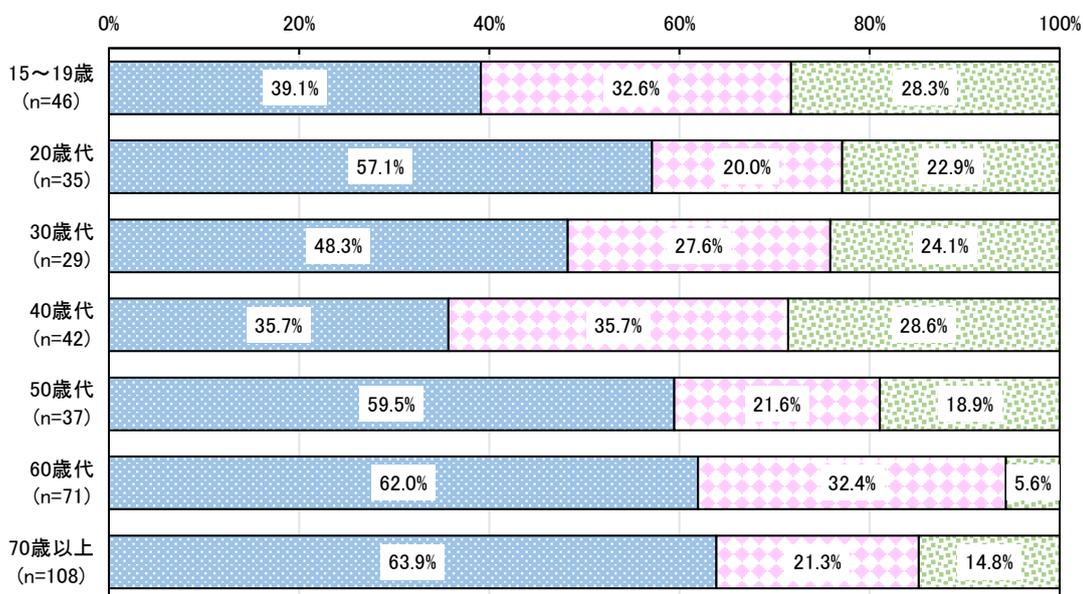
性別でみると、『言葉は知っている』は男性81.8%、女性89.4%となり、女性が男性を7.6ポイント上回る。

【15歳以上】



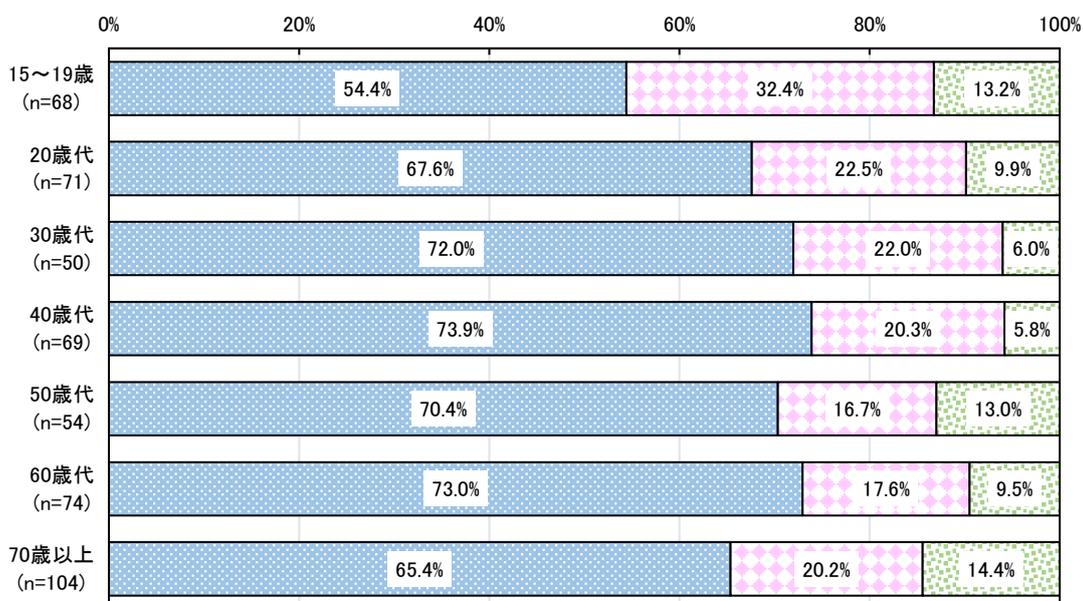
年齢区分別でみると、全ての年齢区分で「言葉も意味も知っている」と回答した割合が最も高く、女性は全ての年齢区分で半数以上を占める。15～19歳、40歳代の男性と15～19歳女性では「言葉は知っているが、意味は知らない」と回答した割合が3割を超え、他の年齢区分と比較して高い。

【15歳以上（男性）】



■ 言葉も意味も知っている □ 言葉は知っているが、意味は知らない ■ 言葉も意味も知らない

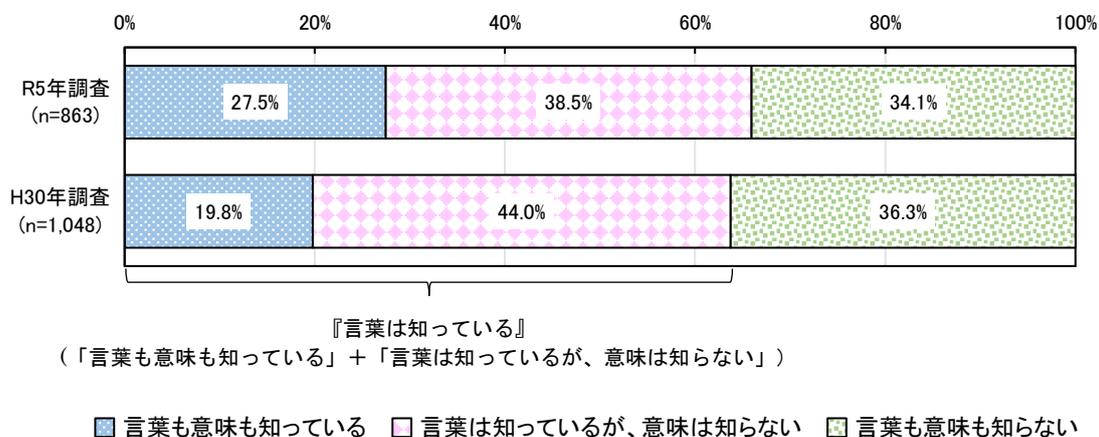
【15歳以上（女性）】



■ 言葉も意味も知っている □ 言葉は知っているが、意味は知らない ■ 言葉も意味も知らない

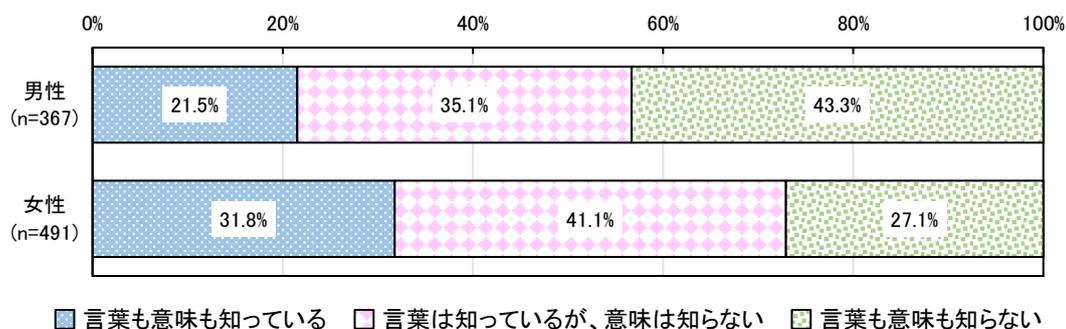
■「健康まちづくり」の認知度 〈15歳以上〉

「健康まちづくり」の認知度について、「言葉も意味も知っている」は27.5%、「言葉は知っているが、意味は知らない」は38.5%と、合わせて66.0%が『言葉は知っている』としている。平成30年調査と比較して、『言葉は知っている』と回答した割合は2.2ポイント上回る。



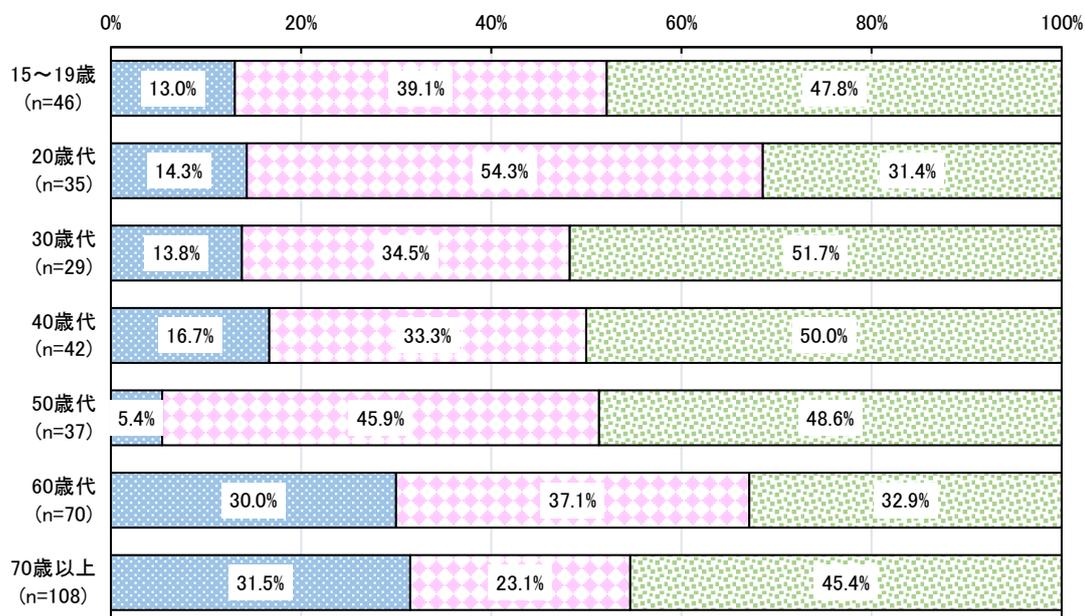
性別でみると、『言葉は知っている』は男性56.6%、女性72.9%となり、女性が男性を16.3ポイント上回る。

【15歳以上】



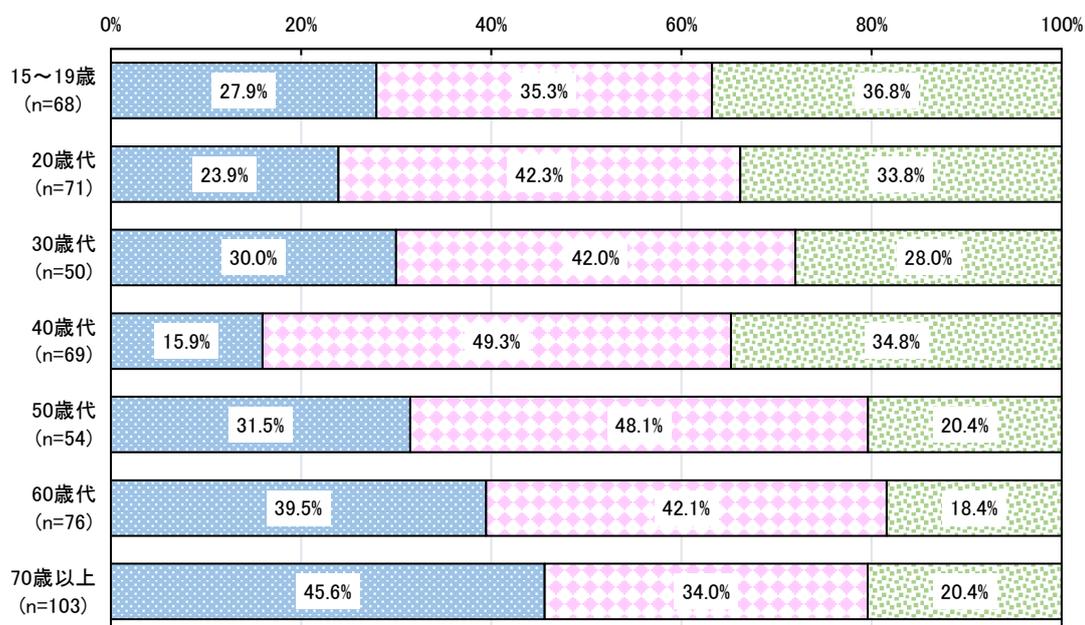
年齢区別でみると、女性は『言葉は知っている』と回答した割合が全ての年齢区分で6割を超え、50歳代以上では8割程度と高い。一方男性は、20歳代、60歳代を除く全ての年齢区分で「言葉も意味も知らない」と回答した割合が半数程度を占める。

【15歳以上（男性）】



■ 言葉も意味も知っている □ 言葉は知っているが、意味は知らない ▨ 言葉も意味も知らない

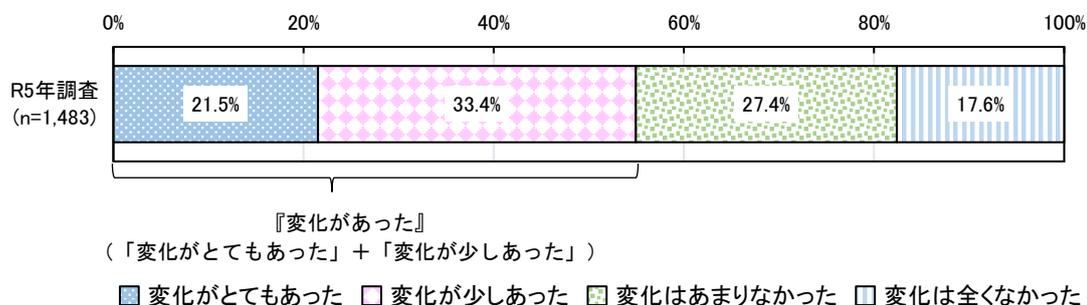
【15歳以上（女性）】



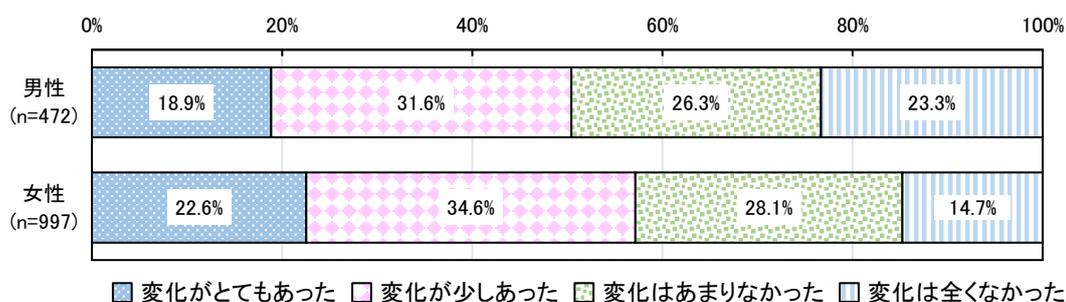
■ 言葉も意味も知っている □ 言葉は知っているが、意味は知らない ▨ 言葉も意味も知らない

■ 「新型コロナウイルス感染症」の流行による変化 〈15歳以上〉

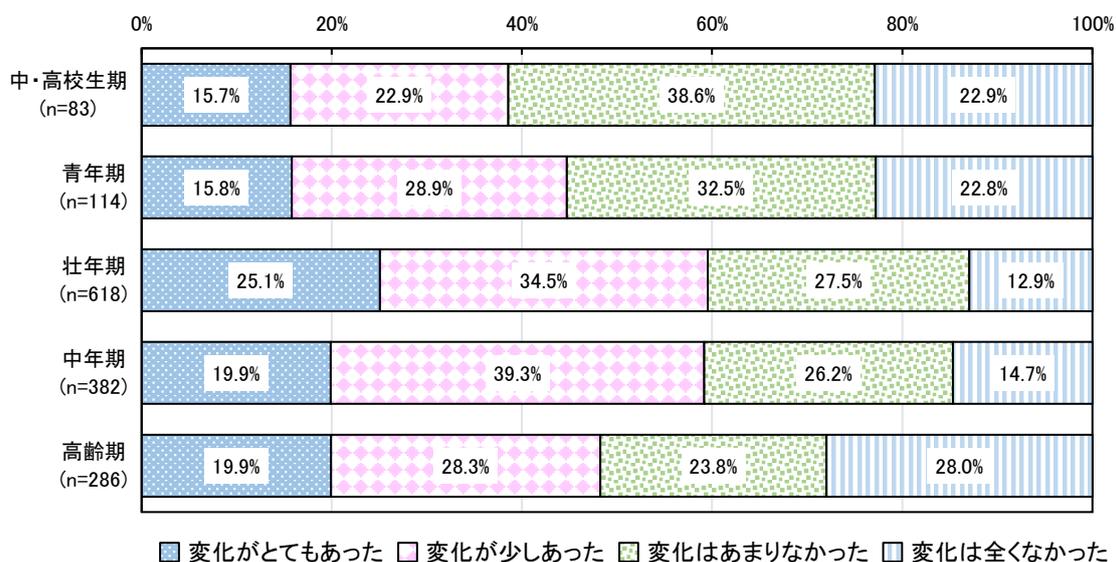
「新型コロナウイルス感染症」の流行により、健康状態や健康行動に変化があったかについて、「変化がとてもあった」は21.5%、「変化が少しあった」は33.4%と、合わせて54.9%が多少なり『変化があった』としている。



性別でみると、『変化があった』と回答した人は男性 50.5%、女性 57.2%となり、女性が男性を6.7ポイント上回る。

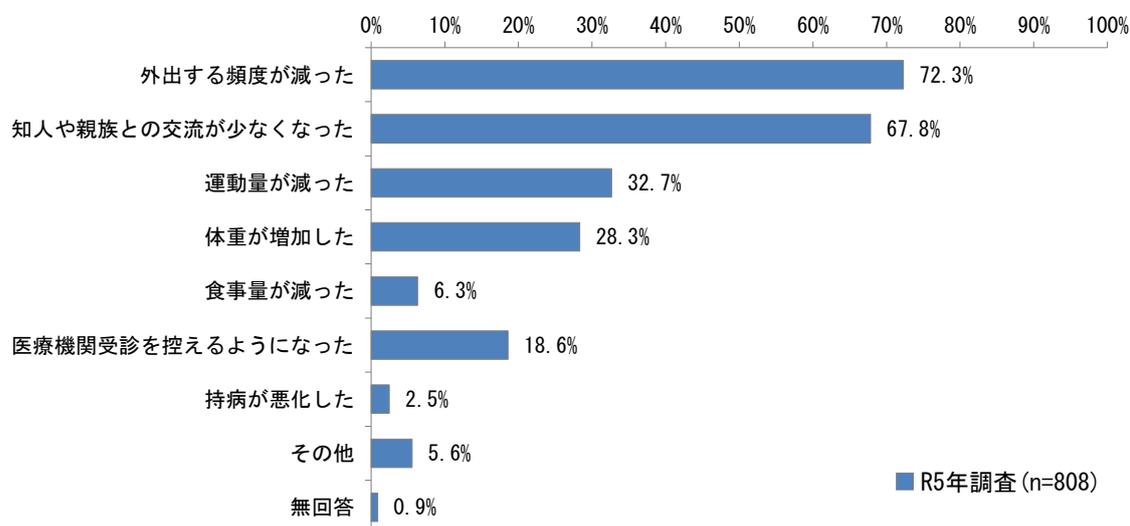


ライフステージ別でみると、『変化があった』と回答した割合は、壮年期、中年期ではほぼ6割を占め、他のライフステージと比較して高い。

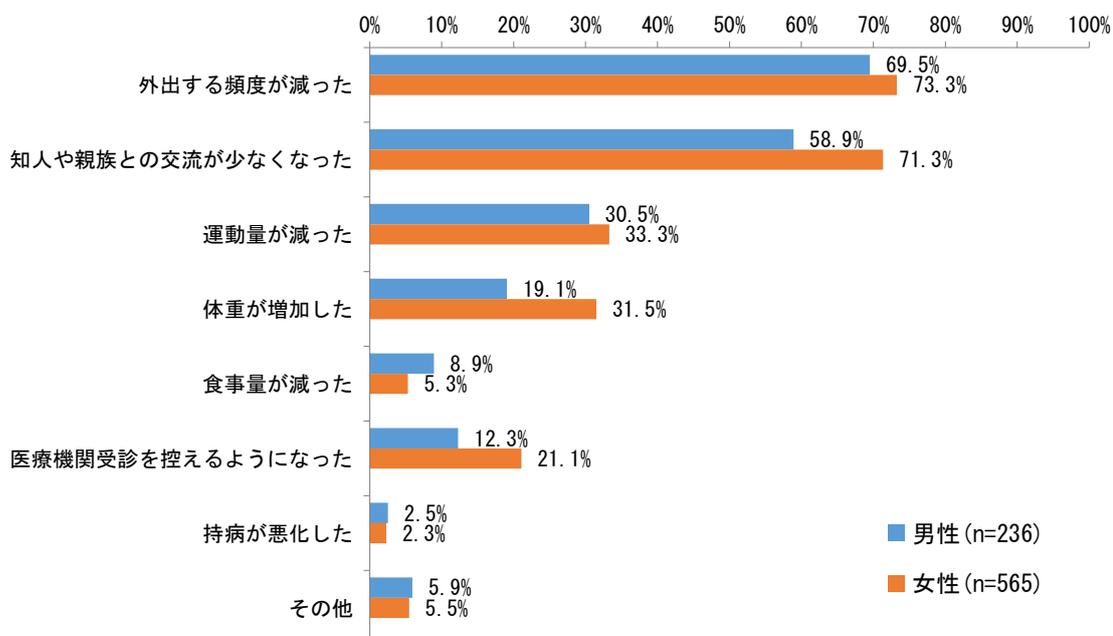


■ 「新型コロナウイルス感染症」の流行による変化の内容 〈15歳以上〉

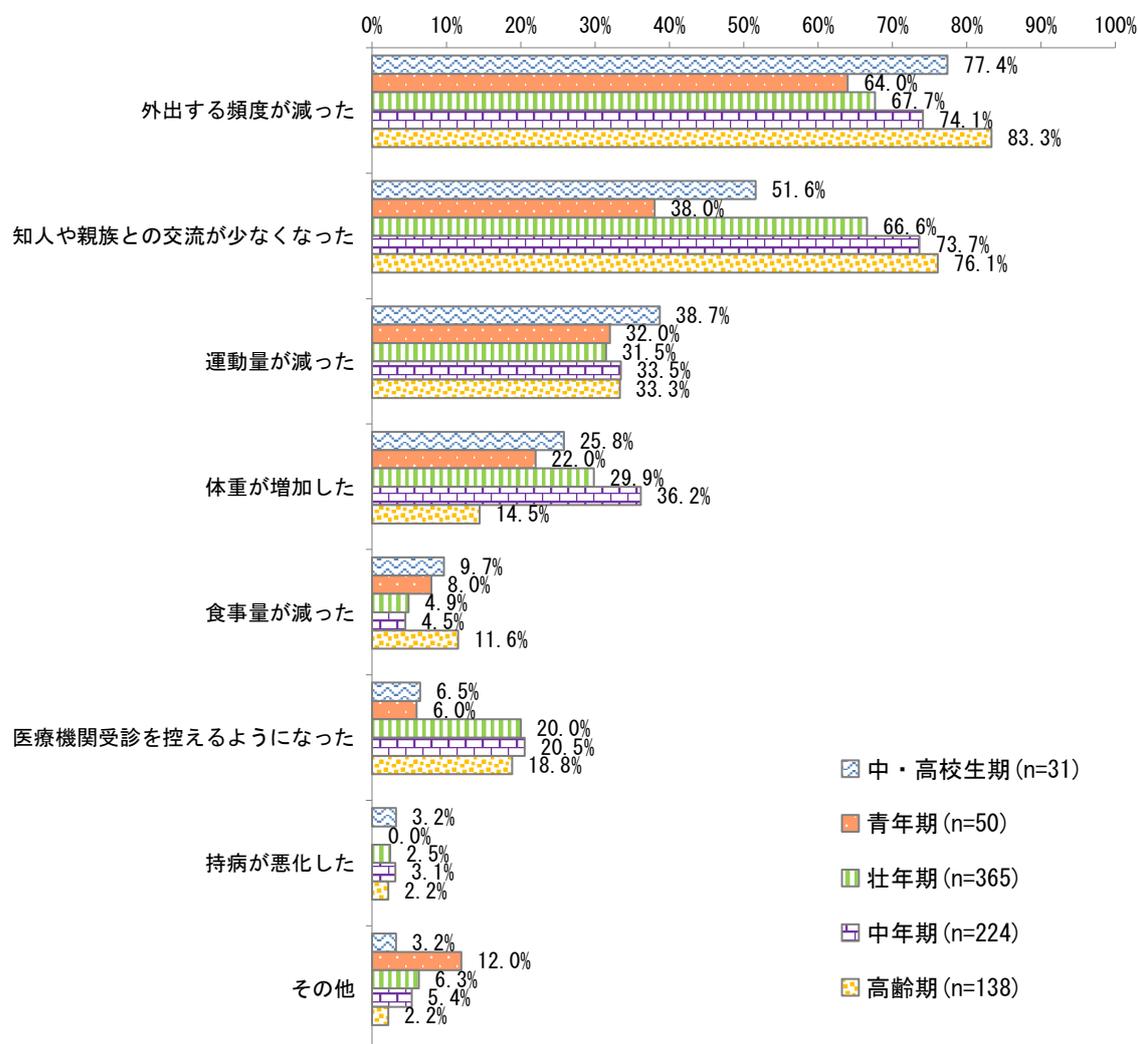
「新型コロナウイルス感染症」の流行により、健康状態や健康行動に生じた変化の内容について、「外出する頻度が減った」72.3%が最も高く、次いで「知人や親族との交流が少なくなった」67.8%、「運動量が減った」32.7%の順となった。



性別でみると、男女ともに「外出する頻度が減った」が最も高く7割程度を占める。男性は「食事が減った」と回答した割合が女性を3.6ポイント上回り、女性は「知人や親族との交流が少なくなった」、「体重が増加した」、「医療機関受診を控えるようになった」がいずれも8.0ポイント以上男性を上回る。

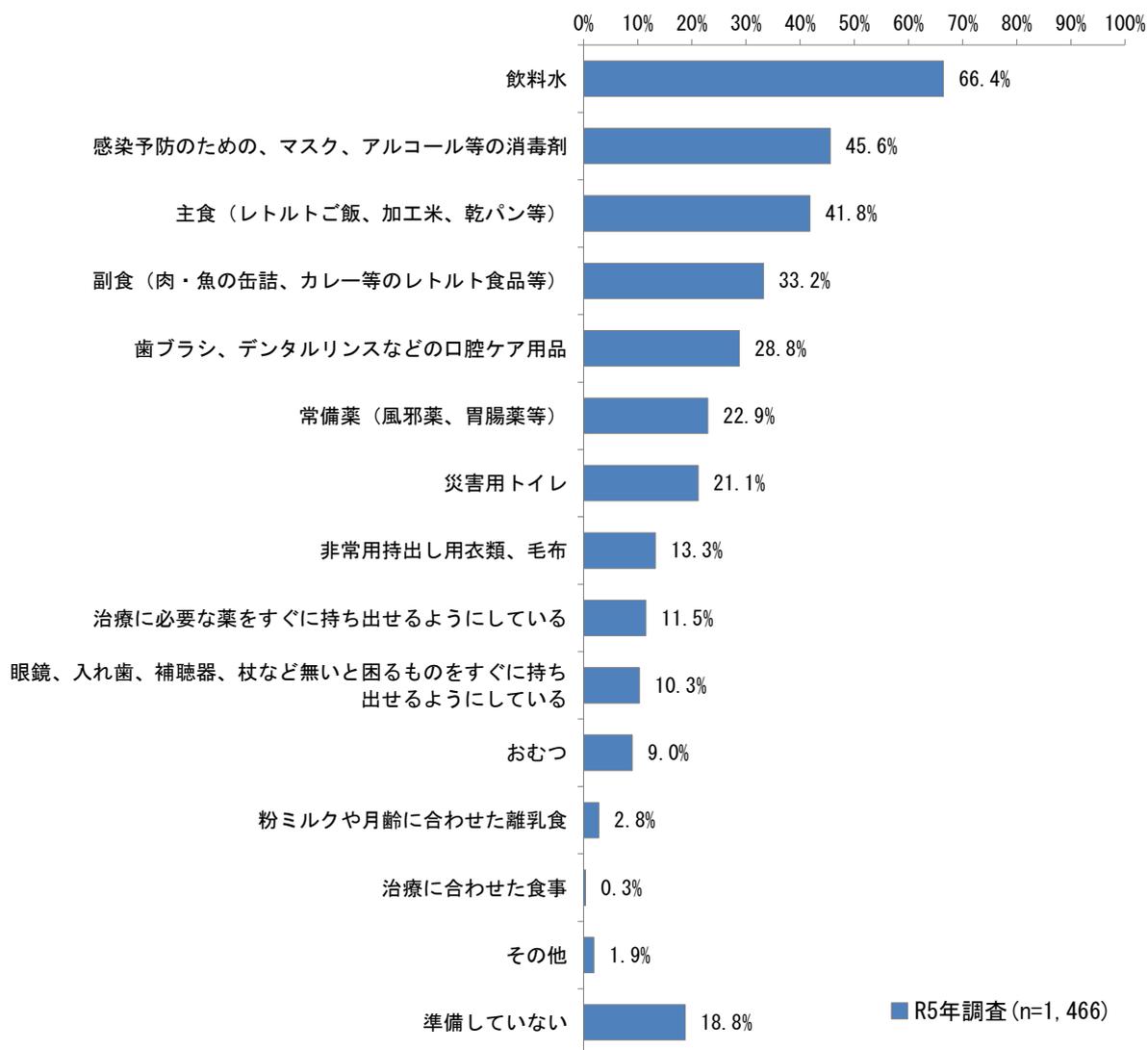


ライフステージ別でみると、全てのライフステージで「外出する頻度が減った」は6割を超えている。「医療機関受診を控えるようになった」と回答した割合は、壮年期、中年期、高齢期では2割程度を占める。

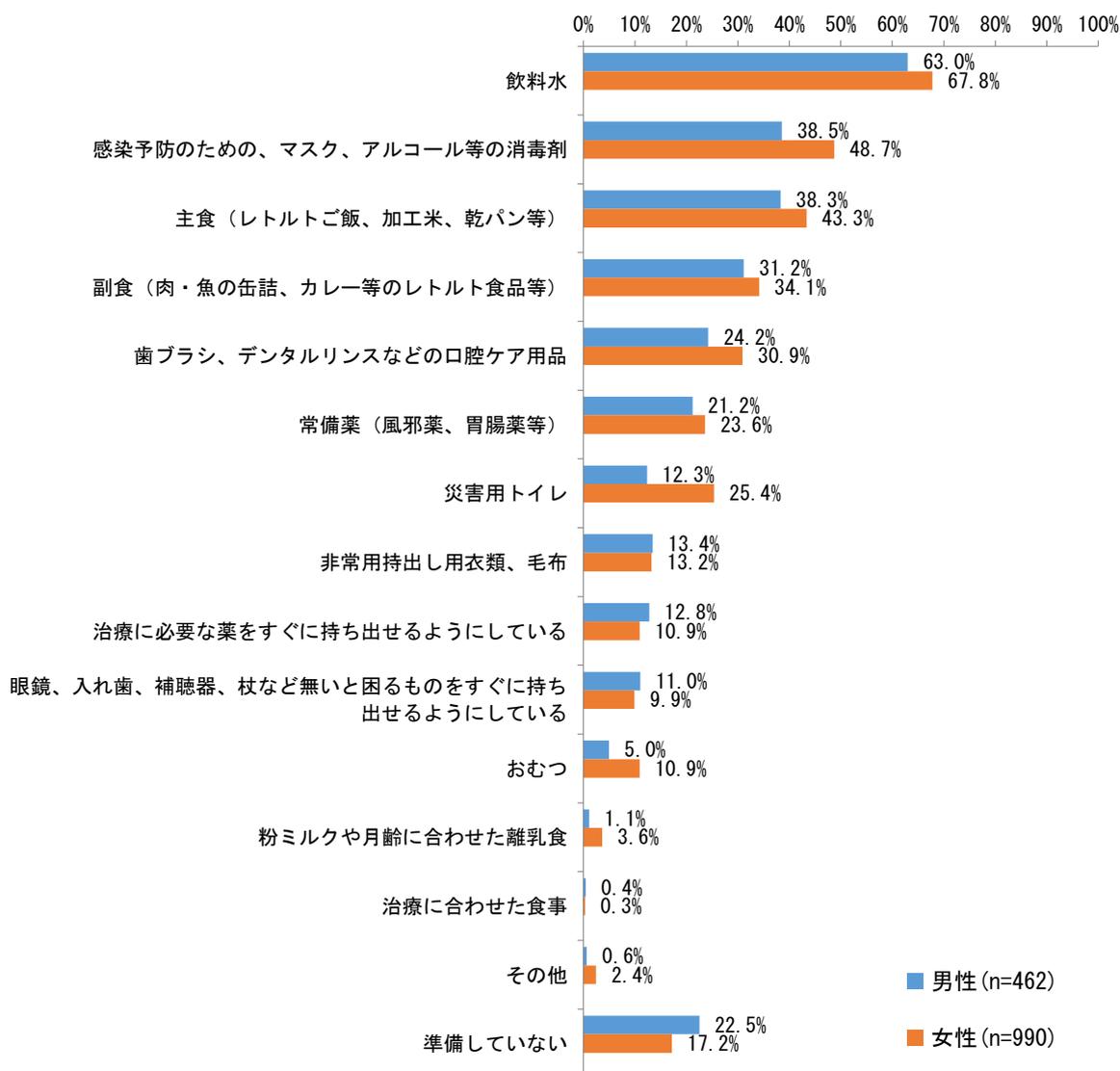


■健康を維持するための災害時の備え 〈15歳以上〉

健康を維持するための災害時の備えについて、「飲料水」66.4%が最も高く、次いで「感染予防のための、マスク、アルコール等の消毒剤」45.6%、「主食（レトルトご飯、加工米、乾パン等）」41.8%の順となった。一方、「準備していない」と回答したのは18.8%であった。



性別でみると、男女ともに「飲料水」が最も高く6割を超えている。ほとんどの項目で、女性の回答割合が男性を上回り、特に「感染予防のための、マスク、アルコール等の消毒剤」は女性が男性を10.2ポイント上回る。一方、男性は「準備していない」と回答した割合が、女性を5.3ポイント上回る。



◎共食の増加（食事を1人で食べる子どもの割合の減少）

食事を1人で食べる人が多い子どもの割合は、朝食では小学生が22.9%、中学生が39.2%、夕食では小学生が6.2%、中学生が10.0%となった。平成30年調査と比較して、中学生の夕食は5.9ポイント減少がみられたものの、朝食（小学生・中学生）及び小学生の夕食では食事を1人で食べる子どもの割合は増加している。

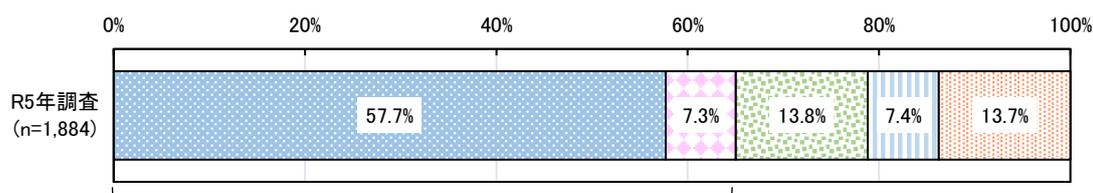
項目	対象		(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○共食の増加(食事を1人で食べる子どもの割合の減少)	朝食	小学生	16.7%	11.3%	14.4%	22.9%	減少傾向へ
		中学生	24.3%	27.0%	24.6%	39.2%	
	夕食	小学生	5.2%	3.6%	4.2%	6.2%	減少傾向へ
		中学生	11.1%	9.2%	15.9%	10.0%	

※「週に2～3日食べる」＋「週に1日程度食べる」＋「ほとんど食べない」を選択した人の割合

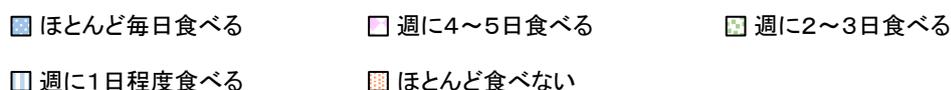
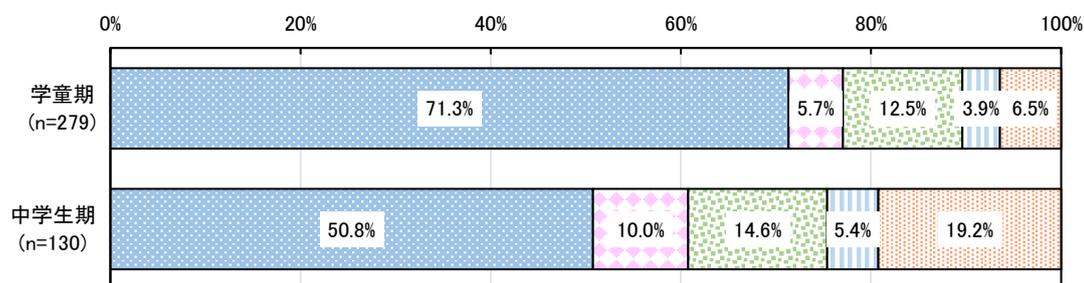
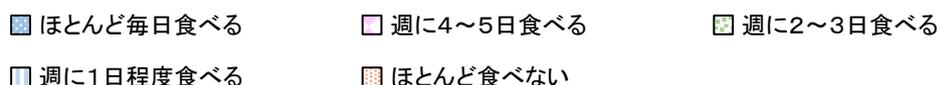
<調査結果>

■朝食を家族と一緒に食べる頻度（1歳以上）（114～117ページを参照）

朝食を家族と一緒に食べる頻度について、『共食している』（「ほとんど毎日食べる」＋「週に4～5回食べる」）人の割合は、学童期では77.0%、中学生期では60.8%となり、中学生期は学童期と比べ16.2ポイント下回る。

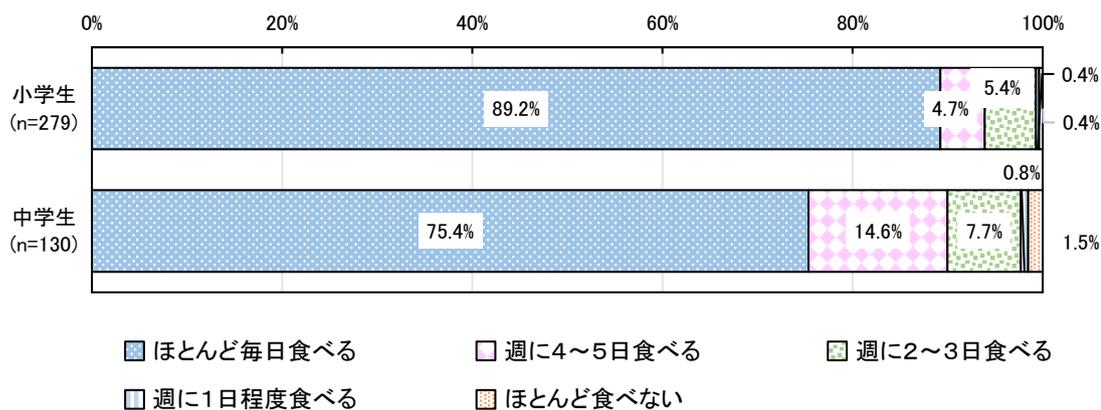
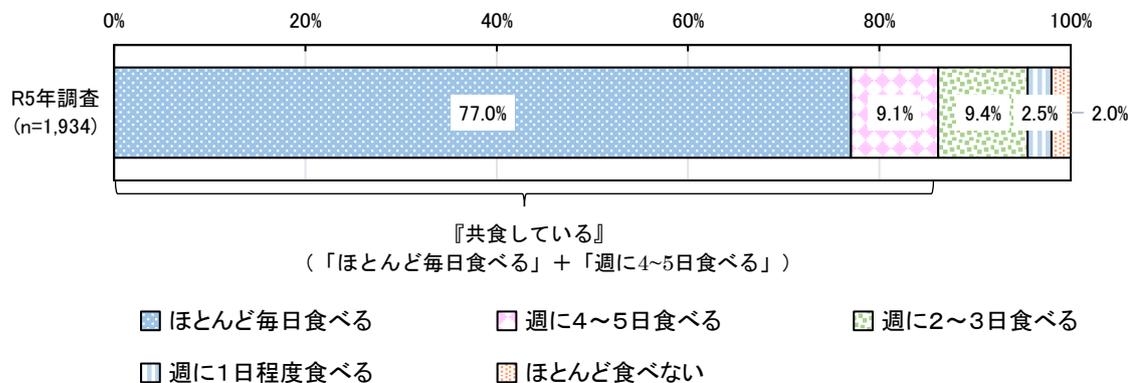


『共食している』
（「ほとんど毎日食べる」＋「週に4～5日食べる」）



■夕食を家族と一緒に食べる頻度 〈1歳以上〉 (118~121ページを参照)

夕食を家族と一緒に食べる頻度について、『共食している』（「ほとんど毎日食べる」＋「週に4～5回食べる」）人の割合は、学童期では93.9%、中学生期では90.0%となり、中学生期は学童期と比べ3.9ポイント下回る。



◎20 歳代男性、30 歳代男性の 1 週間あたりの朝食の欠食率の減少

男性の朝食の欠食率の割合は、20 歳代では 23.1%、30 歳代では 20.3%となった。20 歳代は 3.1 ポイント平成 30 年調査を上回り増加した。一方、30 歳代では平成 30 年調査を 6.2 ポイント下回るものの、目標には 5.3 ポイント届かなかった。

項目	対象	(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○20歳代男性、30歳代男性の1週間あたりの朝食の欠食率の減少	20歳代男性	29.4%	22.6%	20.0%	23.1%	15.0%
	30歳代男性	29.4%	16.2%	26.5%	20.3%	15.0%

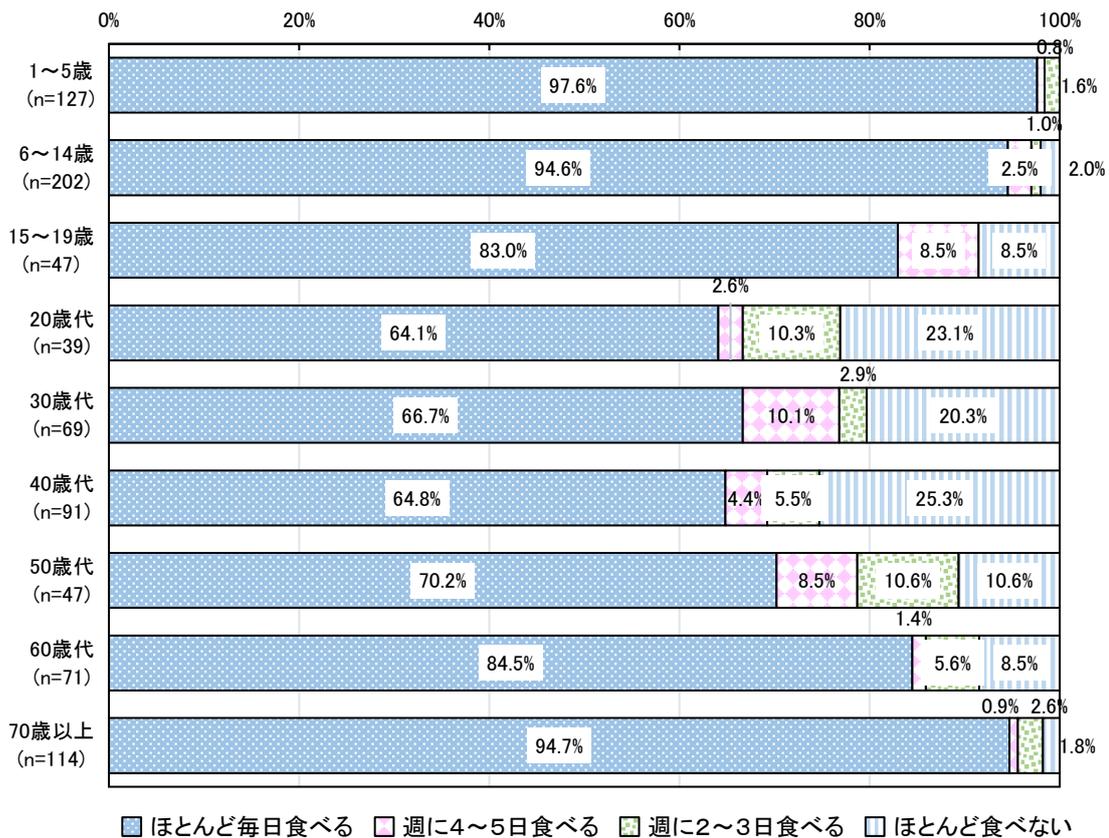
※「ほとんど食べない」を選択した人の割合

<調査結果>

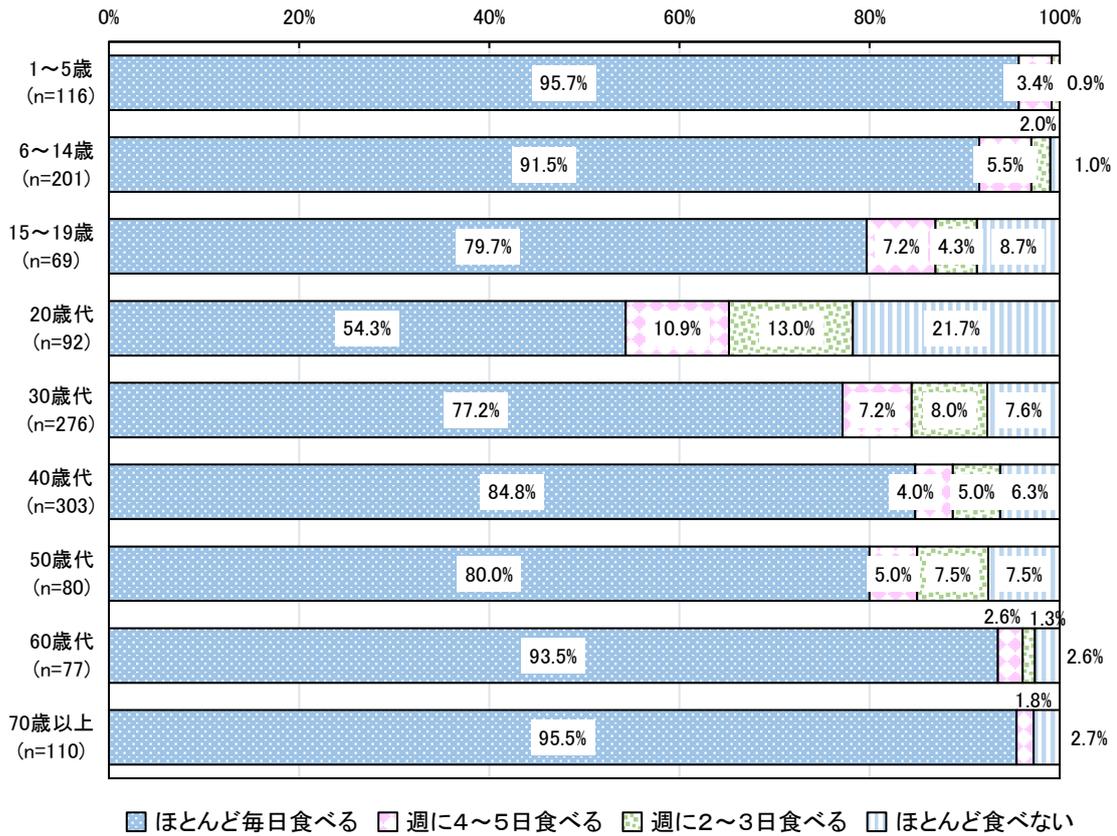
■ 1 週間あたりの朝食を食べる頻度 〈1 歳以上〉 (125~128 ページを参照)

朝食の欠食率を年齢区分別で見ると、男性は 20~40 歳代で欠食率が高く、20 歳代 23.1%、30 歳代 20.3%、40 歳代 25.3%となっている。女性は 20 歳代の欠食率が高く、21.7%を占める。

【1 歳以上 (男性)】



【1歳以上（女性）】



◎60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加

60歳で24歯以上の歯を有する人の割合は71.6%となった。平成30年調査と比較して4.5ポイント下回り、目標を8.4ポイント下回る。

項目	(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加	63.9%	68.2%	76.1%	71.6%	80.0%

※60歳～64歳の回答者で、歯の本数を24本以上と回答した人の割合

<調査結果>

■現在の歯の本数 <15歳以上> (235ページを参照)

◎80歳で20歯以上の自分の歯を有する者(8020達成)の増加

80歳で20歯以上の歯を有する人の割合は、50.0%となった。平成30年調査と比較して12.0ポイント下回り、目標を15.0ポイント下回る。

項目	(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○80歳で20歯以上の自分の歯を有する者(8020達成)の増加	38.3%	54.5%	62.0%	50.0%	65.0%

※75歳～84歳の回答者で、歯の本数を20本以上と回答した人の割合

(国の調査対象年齢75～84歳)

<調査結果>

■現在の歯の本数 <15歳以上> (235ページを参照)

V 調査結果 -食の安全・安心-

◎食の安全性確保のために意識して実践していることがある市民の割合

食の安全性確保のために意識して実践していることがある市民の割合は68.4%となり、平成30年調査と比較して2.5ポイント上回るが、目標を11.6ポイント下回る。

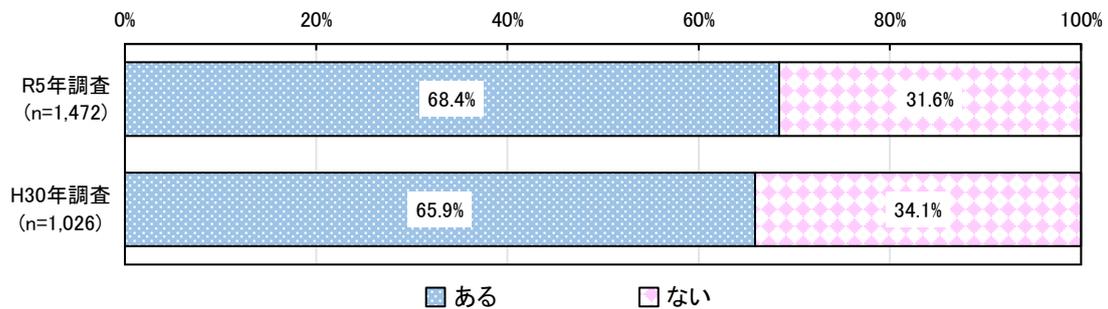
項目	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○食の安全確保のために意識して実施していることがある市民の割合	65.9%	68.4%	80%

※15歳以上の回答者で、「ある」を選択した人の割合

<調査結果>

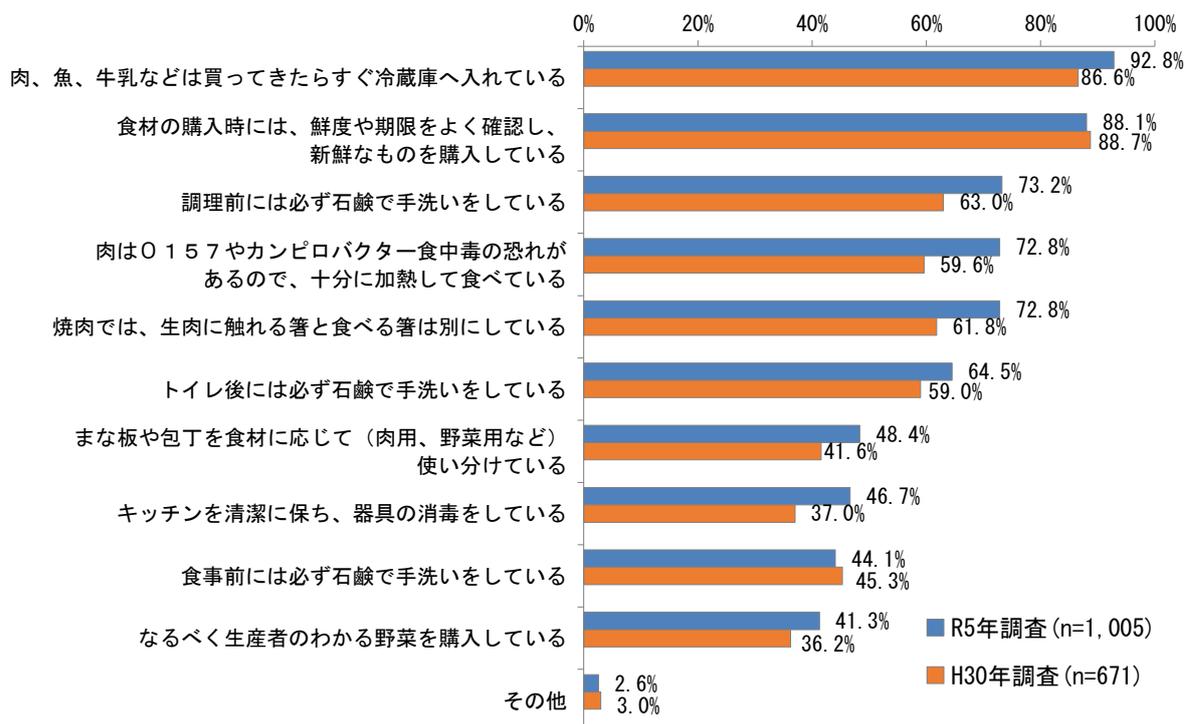
■食の安全性確保のために意識して実践していることがあるか 〈15歳以上〉

食の安全性確保のために意識して実践していることがあるかについて、「ある」68.4%、「ない」31.6%となった。平成30年調査と比較して「ある」と回答した割合は2.5ポイント上回る。



■食の安全性確保のために意識して実践していること 〈15歳以上〉

食の安全性確保のために意識して実践していることについては、「肉、魚、牛乳などは買ってきたらすぐ冷蔵庫へ入れている」92.8%が最も高く、次いで「食材の購入時には、鮮度や期限をよく確認し、新鮮なものを購入している」88.1%、「調理前には必ず石鹸で手洗いをしている」73.2%の順となった。平成30年調査との比較では、ほとんどの項目で前回は上回る。



◎食品について安全性が高まってきていると感じている市民の割合

食品について安全性が高まってきていると感じている市民の割合は 61.4%で、平成 30 年調査と比較して 2.3 ポイント、目標を 3.6 ポイント下回る。

項目	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○食品について安全性が高まってきていると感じている市民の割合	59.1%	63.7%	61.4%	65%

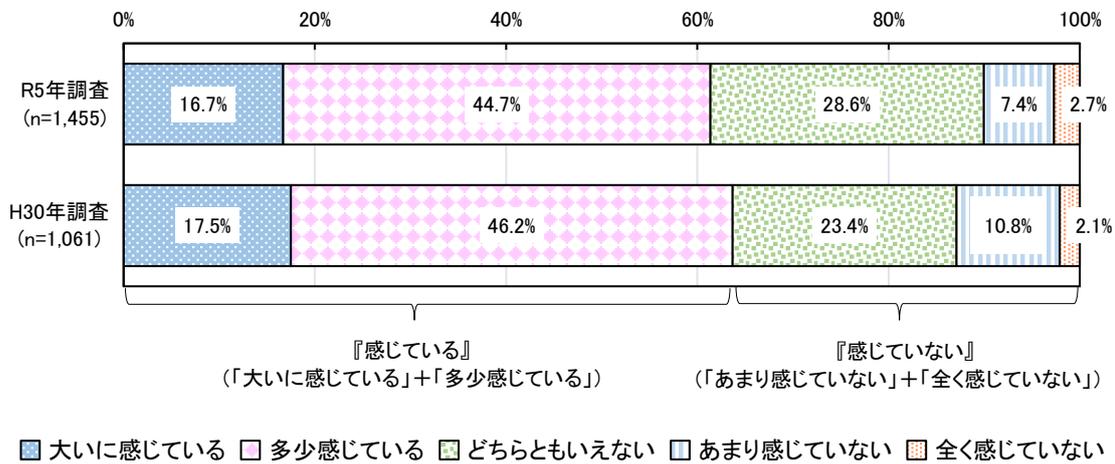
※15 歳以上の回答者で、「大いに感じている」+「多少感じている」を選択した人の割合

<調査結果>

■食品について安全性の高まりを感じる度合い 〈15 歳以上〉

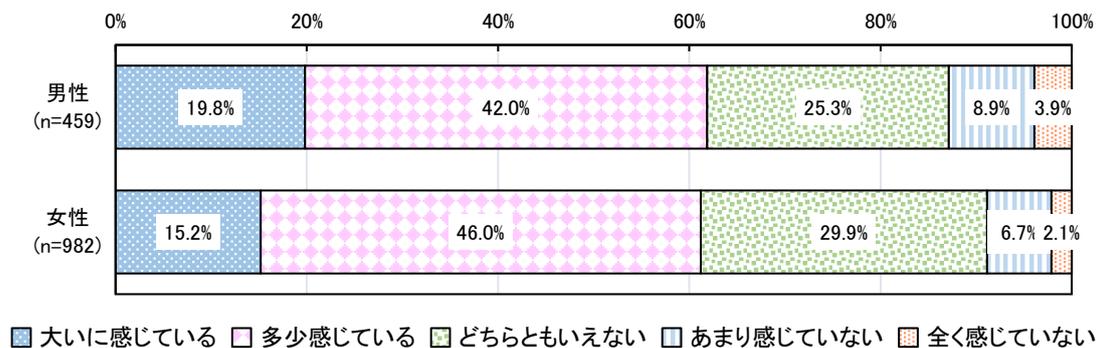
食品について安全性の高まりを感じる度合いについて、「大いに感じている」が 16.7%、「多少感じている」が 44.7%と、合わせて 61.4%が『感じている』としている。

平成 30 年調査と比較して、『感じている』（「大いに感じている」+「多少感じている」）と回答した割合は、2.3 ポイント下回る。



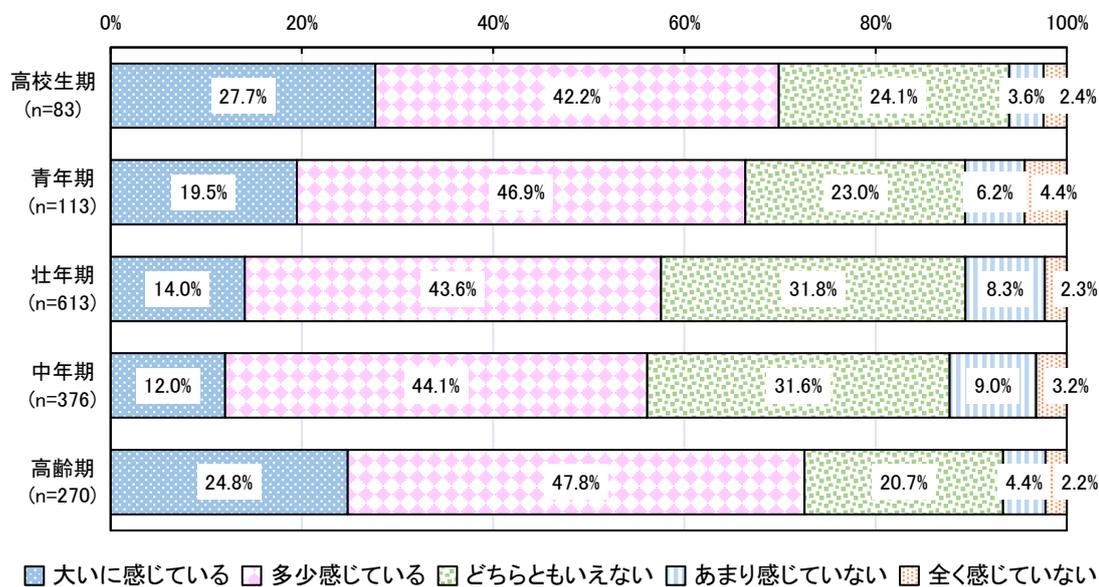
性別でみると、『感じている』人の割合に大きな差はみられない。男性は「大いに感じている」と回答した割合が女性を 4.6 ポイント上回り、一方女性は「多少感じている」と回答した割合が男性を 4.0 ポイント上回る。

【15 歳以上】



ライフステージ別でみると、『感じている』人の割合は全てのライフステージ別で半数を超えている。『感じている』人の割合が最も高いのは、高齢期の72.6%であった。

【15歳以上】



◎「残留農薬」について不安を感じる市民の割合

「残留農薬」について不安を感じる市民の割合は 50.3%となり、平成 30 年調査と比較して 1.7 ポイント増加した。目標とは 10.3 ポイント差となった。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○「残留農薬」について不安を感じる市民の割合	55.7%	44.4%	48.6%	50.3%	40%

※15 歳以上の回答者で、「残留農薬」を選択した人の割合

◎「食品添加物」について不安を感じる市民の割合

「食品添加物」について不安を感じる市民の割合は 55.9%となり、平成 30 年調査と比較して 1.2 ポイント増加した。目標とは 15.9 ポイント差となった。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○「食品添加物」について不安を感じる市民の割合	63.3%	54.1%	54.7%	55.9%	40%

※15 歳以上の回答者で、「食品添加物」を選択した人の割合

◎「食品の不正（偽装）表示」について不安を感じる市民の割合

「食品の不正（偽装）表示」について不安を感じる市民の割合は 44.9%となり、平成 30 年調査と比較して 0.9 ポイント増加した。目標とは 4.9 ポイント差となった。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○「食品の不正（偽装）表示」について不安を感じる市民の割合	51.6%	55.3%	44.0%	44.9%	40%

※15 歳以上の回答者で、「食品の不正（偽装）表示」を選択した人の割合

◎「輸入食品」について不安を感じる市民の割合

「輸入食品」について不安を感じる市民の割合は 50.6%となり、平成 30 年調査と比較して 5.2 ポイント減少した。目標とは 10.6 ポイント差となった。

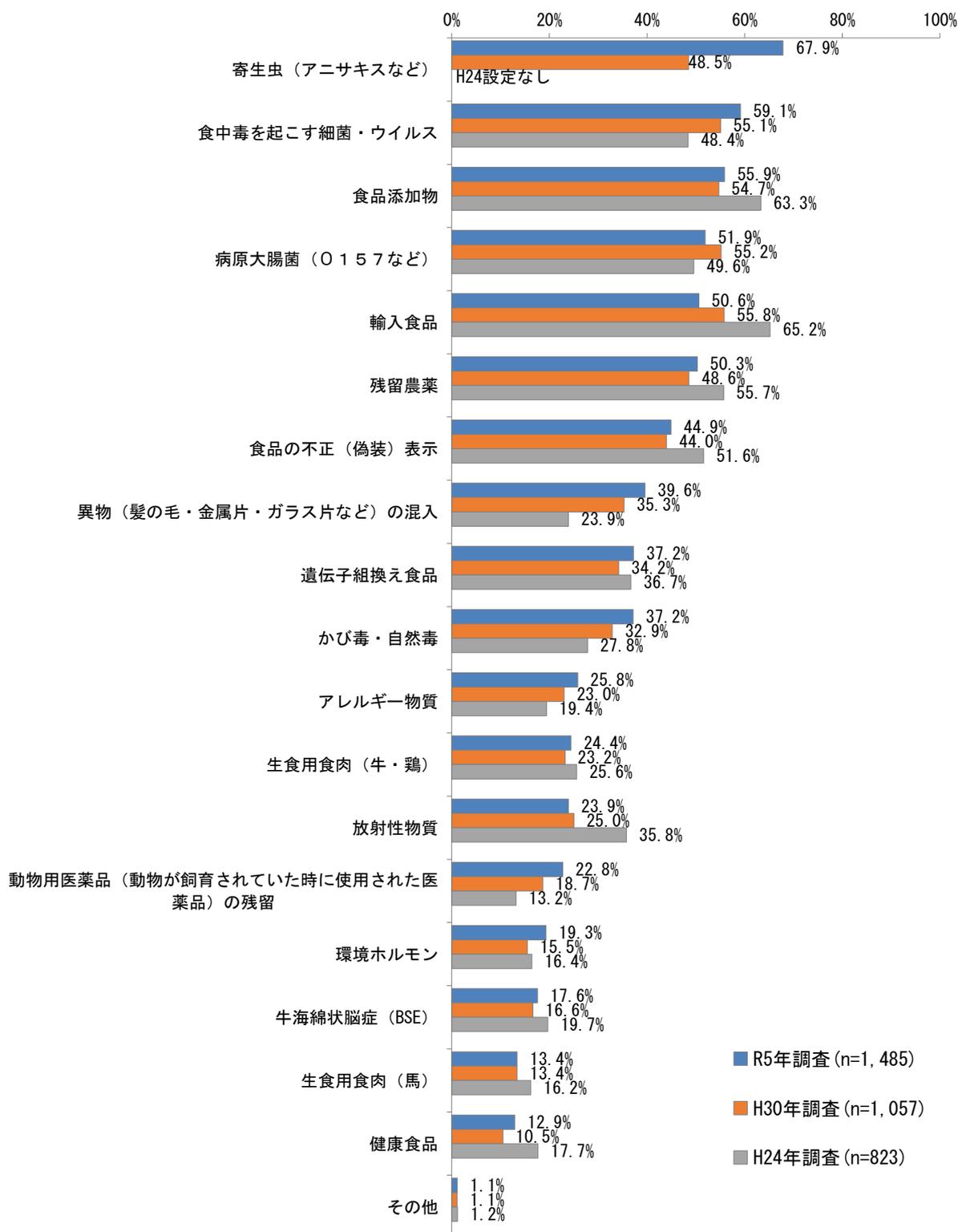
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○「輸入食品」について不安を感じる市民の割合	65.2%	56.6%	55.8%	50.6%	40%

※15 歳以上の回答者で、「輸入食品」を選択した人の割合

<調査結果>

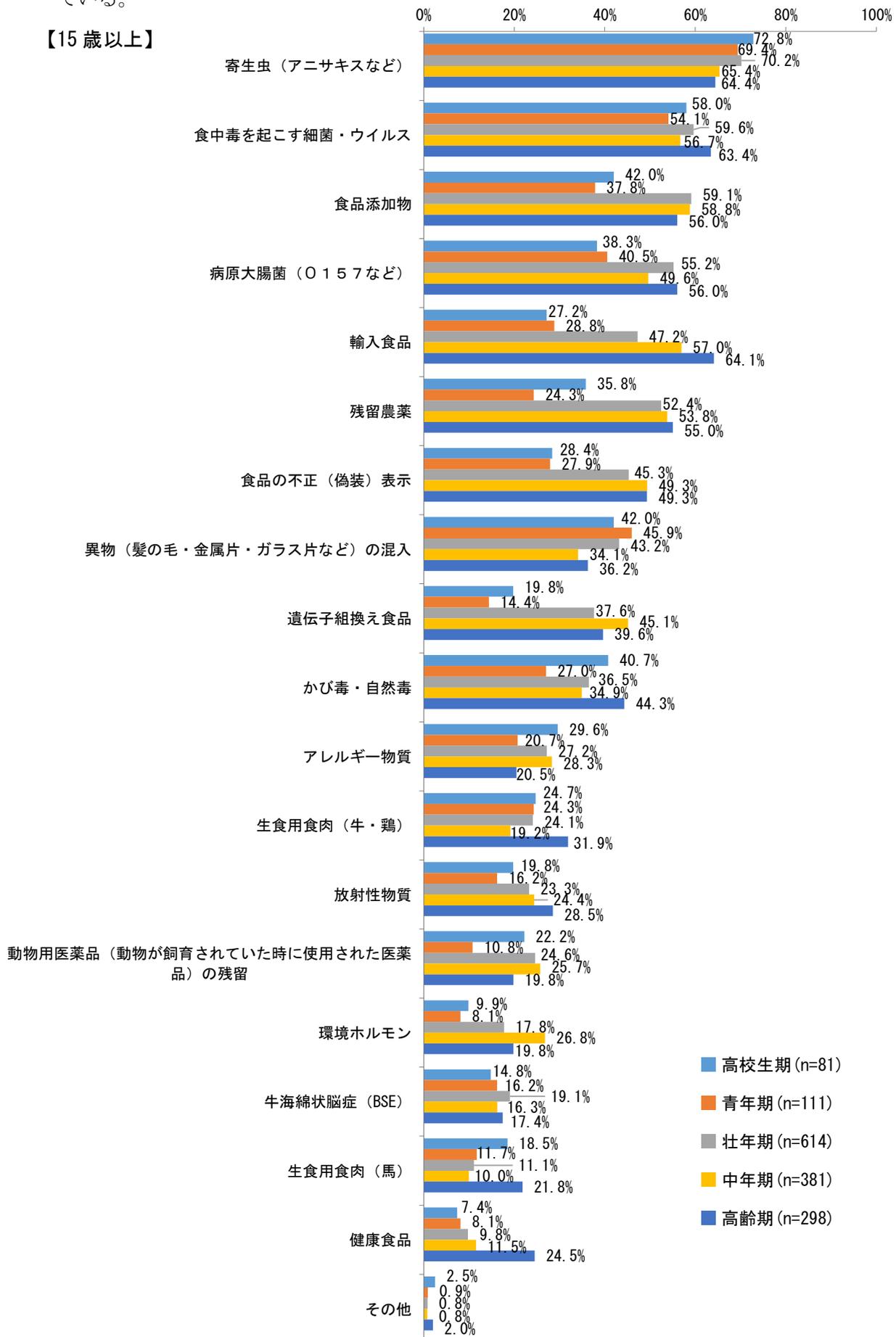
■食の安全性に不安を感じるもの 〈15歳以上〉

食の安全性に不安を感じるものは、「寄生虫（アニサキスなど）」67.9%が最も高く、次いで「食中毒を起こす細菌・ウイルス」59.1%、「食品添加物」55.9%の順となった。平成30年調査との比較では、平成30年調査では最も多かった「輸入食品」は5.2ポイント、「病原大腸菌（O157など）」は3.3ポイント下回る。一方で「寄生虫（アニサキスなど）」は19.4ポイント上回る。



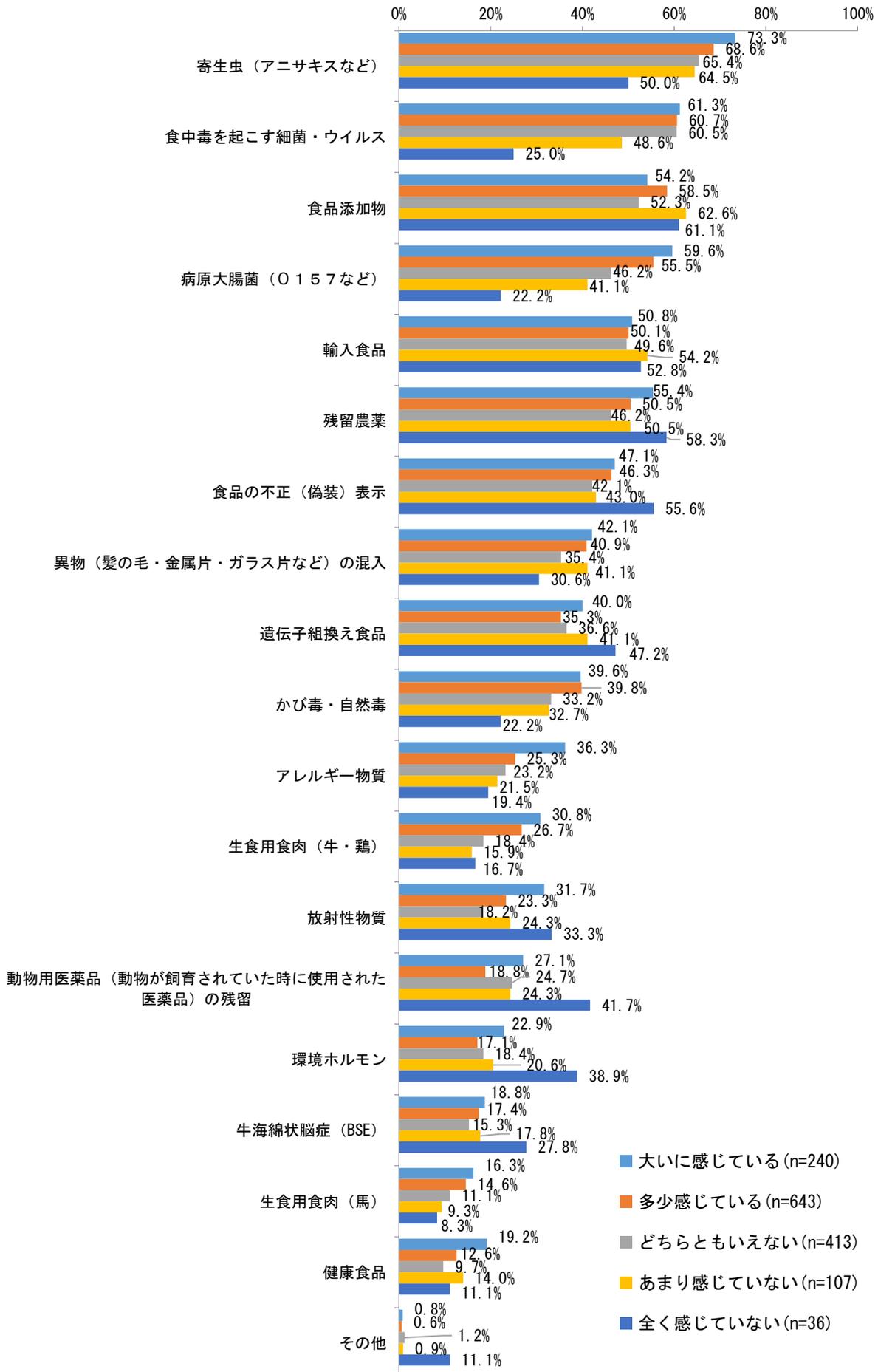
ライフステージ別でみると、共通して「寄生虫（アニサキスなど）」が最も高く、6割を超えている。

【15歳以上】



【15歳以上】

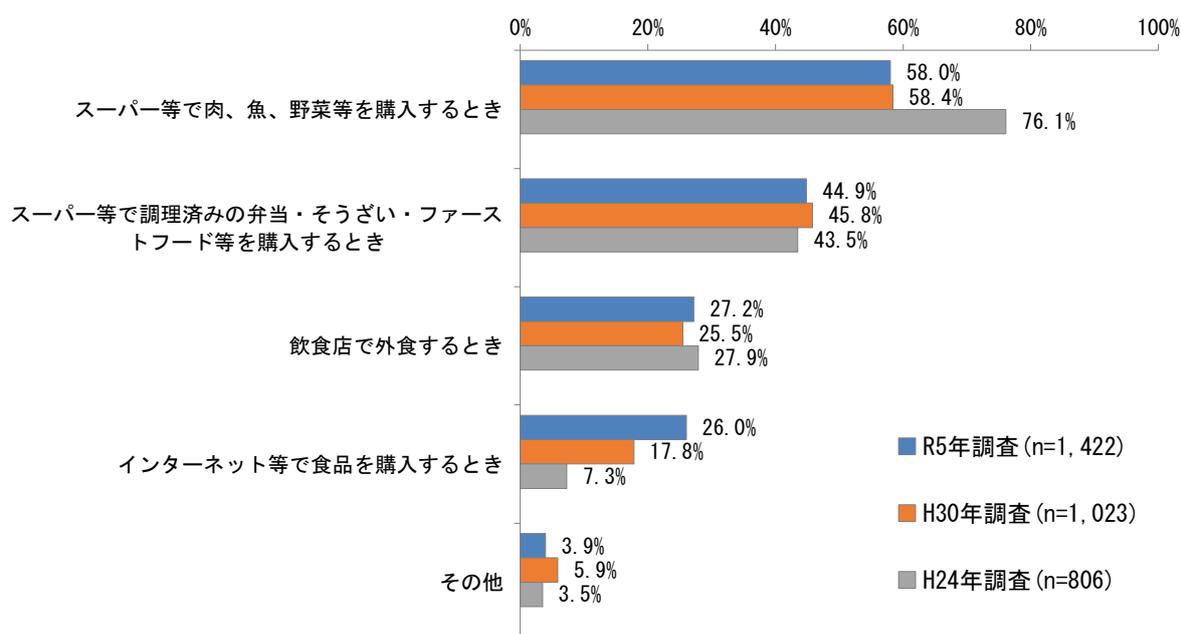
＜食の安全性の高まり×食品の安全性に不安を感じるもの＞



■食品の安全性について不安を感じるとき 〈15歳以上〉

食品の安全性について不安を感じるときは、「スーパー等で肉、魚、野菜等を購入するとき」58.0%が最も高く、次いで、「スーパー等で調理済みの弁当・そうざい・ファーストフード等を購入するとき」44.9%、「飲食店で外食するとき」27.2%、「インターネット等で食品を購入するとき」26.0%の順となった。

平成30年調査と比較して、「インターネット等で食品を購入するとき」と回答した割合は8.2ポイント上回る。



◎食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合

食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合は、52.4%となり、平成30年調査と比較して0.6ポイントわずかに下回り、目標には7.6ポイント届かなかった。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合	49.6%	62.6%	53.0%	52.4%	60%

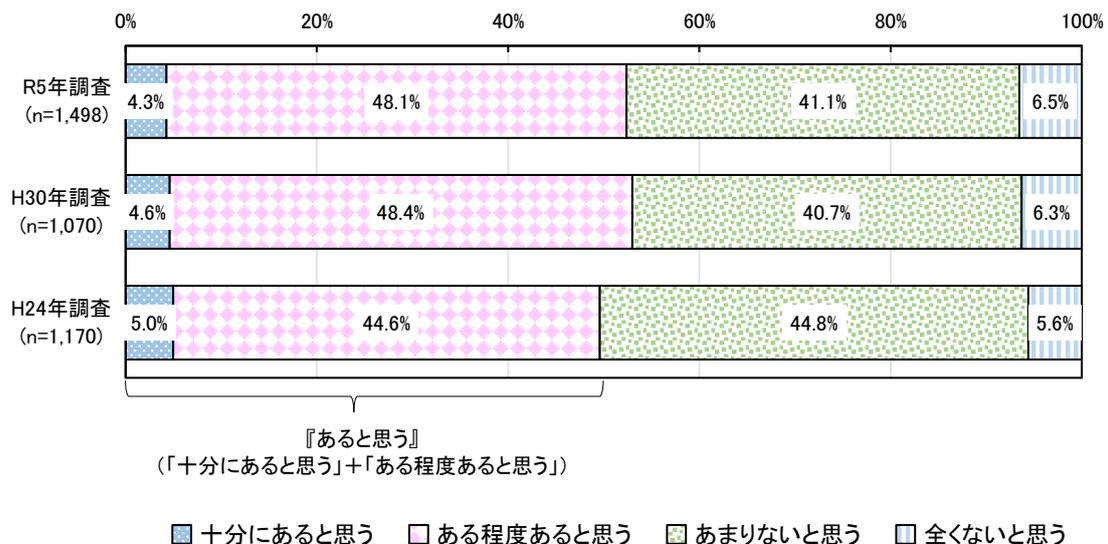
※15歳以上の回答者で、「十分にあると思う」+「ある程度あると思う」を選択した人の割合

<調査結果>

■食品の安全性に関する知識の有無 〈15歳以上〉

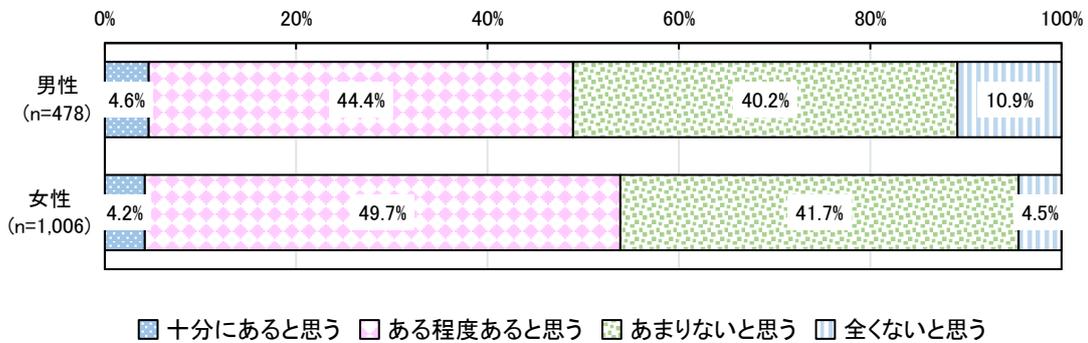
食品の安全性に関する知識の有無について、「十分にあると思う」が4.3%、「ある程度あると思う」が48.1%と、合わせて52.4%が『あると思う』としている。

平成30年調査との比較では大きな差はみられない。



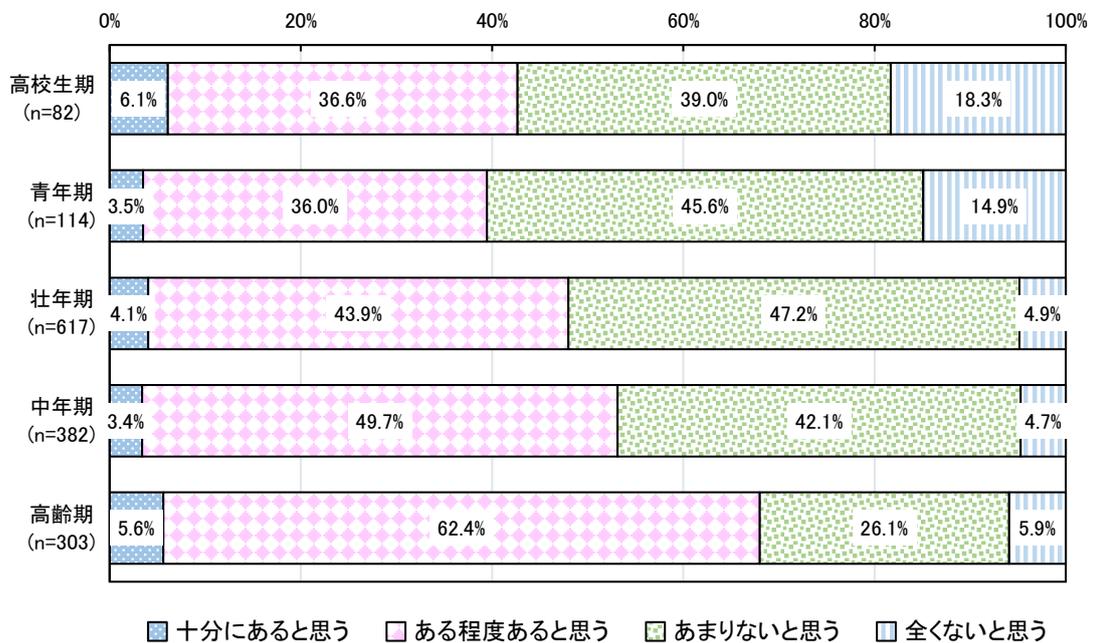
性別でみると、『あると思う』人の割合は、男性 49.0%、女性 53.9%となり、女性が男性を 4.9 ポイント上回る。一方、「全くないと思う」と回答した割合は、男性が女性を 6.4 ポイント上回る。

【15 歳以上】



ライフステージ別でみると、『あると思う』人の割合は、青年期以上ではライフステージが上がるにつれ高くなる傾向がみられる。中年期、高齢期では『あると思う』人の割合は半数を超えている。

【15 歳以上】



◎食事・食品等に関する正しい知識や情報を得ようと努めている市民の割合

食事・食品等に関する正しい知識や情報を得ようと努めている市民の割合は 65.5%となり、平成 30 年調査と比較して 5.0 ポイント上回るが、目標には 9.5 ポイント届かなかった。

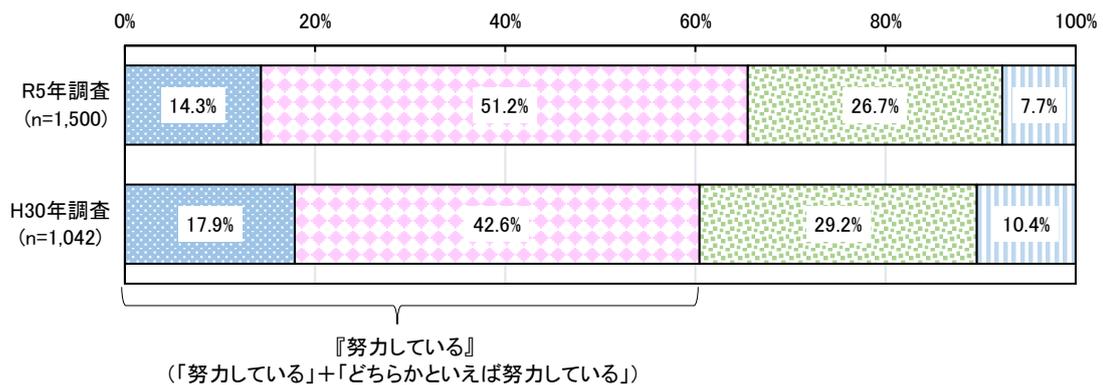
項目	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○食事・食品等に関する正しい知識や情報を得ようと努めている市民の割合	61.3%	60.5%	65.5%	75%

※15 歳以上の回答者で、「努力している」+「どちらかといえば努力している」を選択した人の割合

■栄養や食事・食品に関する正しい情報を得ようとする度合い 〈15 歳以上〉

栄養や食事・食品に関する正しい情報を得ようとする度合いについて、「努力している」は 14.3%、「どちらかといえば努力している」は 51.2%と、合わせて 65.5%が『努力している』としている。

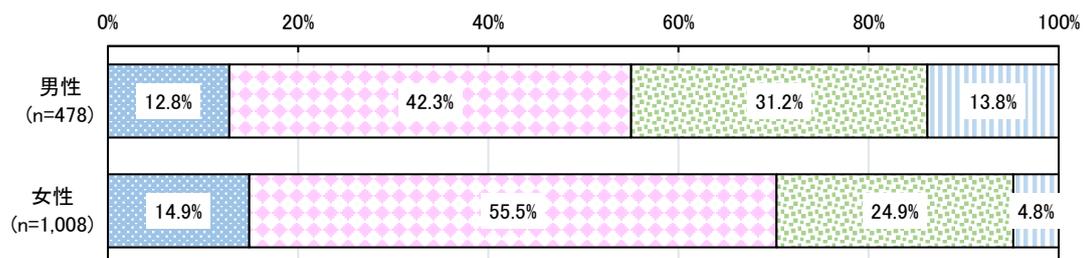
平成 30 年調査と比較して、『努力している』（「努力している」+「どちらかといえば努力している」）と回答した割合は 5.0 ポイント上回る。



■ 努力している ■ どちらかといえば努力している ■ どちらかといえば努力していない ■ 努力していない

性別でみると、『努力している』人の割合は、男性 55.1%、女性 70.4%となり、女性が男性を 15.3 ポイント上回る。一方、「努力していない」と回答した割合は、男性が女性を 9.0 ポイント上回る。

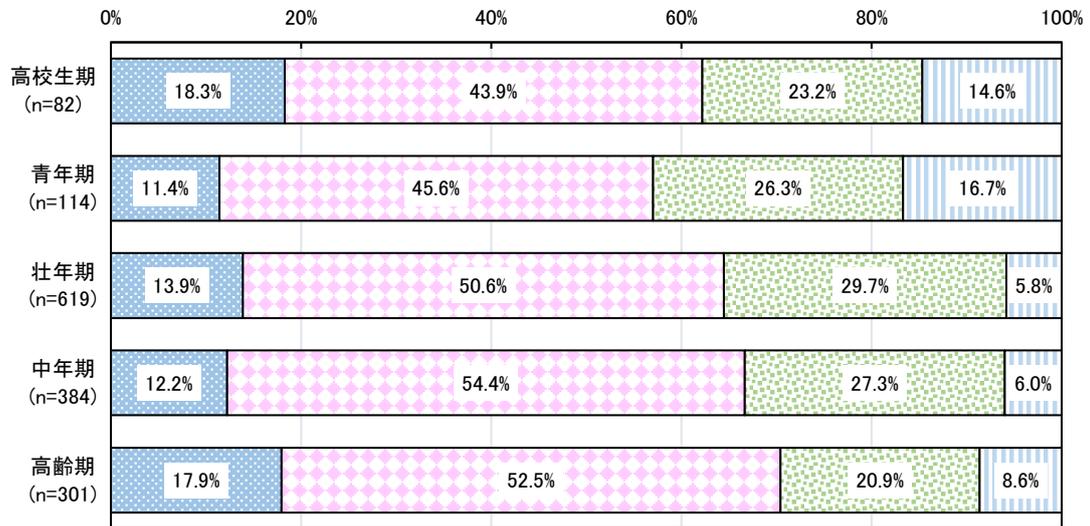
【15 歳以上】



■ 努力している ■ どちらかといえば努力している ■ どちらかといえば努力していない ■ 努力していない

ライフステージ別でみると、『努力している』人の割合は、全てのライフステージで半数を超えている。青年期以上ではライフステージが上がるにつれ高くなる傾向がみられる。

【15歳以上】



■ 努力している ■ どちらかといえば努力している ■ どちらかといえば努力していない ■ 努力していない

◎食品を購入する際に表示を確認している市民の割合

食品を購入する際に表示を確認している市民の割合は73.3%。平成30年調査と比較して5.8ポイント、目標を16.7ポイント下回る。

項目	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○食品を購入する際に表示を確認している市民の割合	79.1%	73.3%	90%

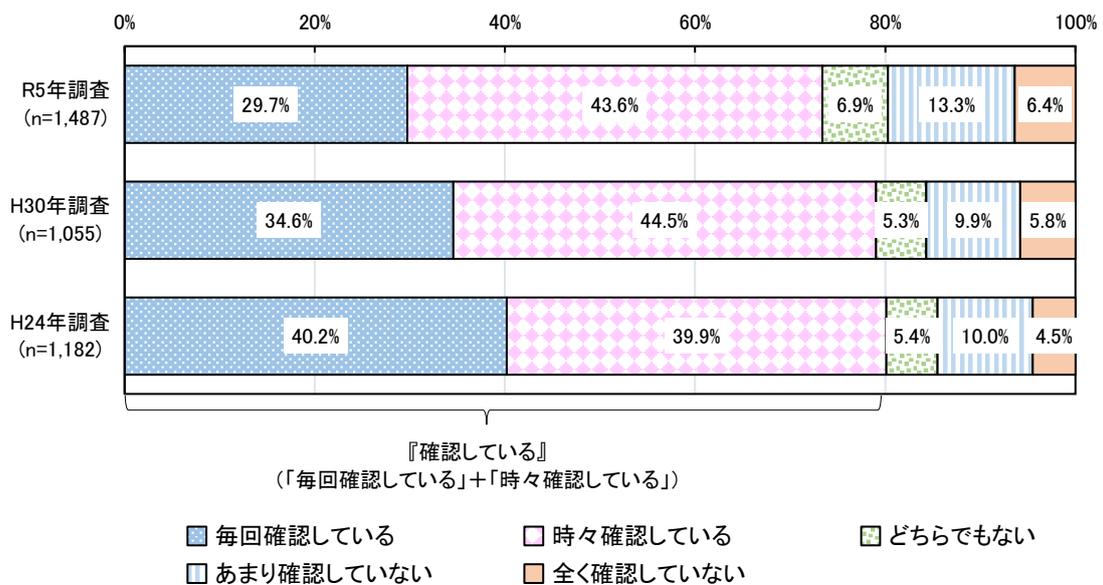
※15歳以上の回答者で「毎回確認している」+「時々確認している」と回答した割合

<調査結果>

■食品を購入する際の表示確認の有無 〈15歳以上〉

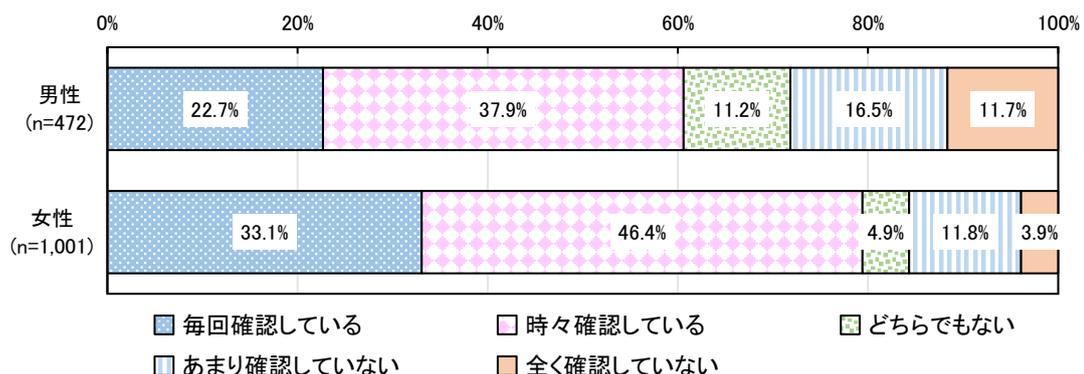
食品を購入する際の表示確認の有無について、「毎回確認している」は29.7%、「時々確認している」が43.6%と、合わせて73.3%が『確認している』としている。

平成30年調査と比較して、『確認している』（「毎回確認している」+「時々確認している」）人の割合は5.8ポイント下回る。



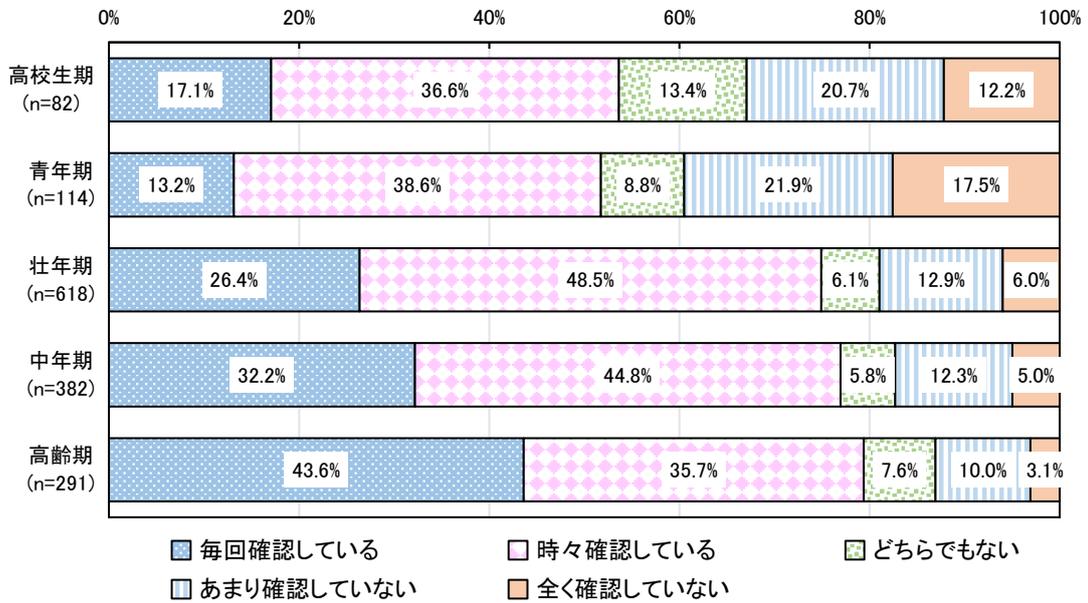
性別でみると、『確認している』人の割合は、男性60.6%、女性79.5%となり、女性が男性を18.9ポイント上回る。

【15歳以上】



ライフステージ別でみると、『確認している』人の割合は、全てのライフステージで半数を超え、壮年期以上では7割を超えている。青年期以上ではライフステージが上がるにつれ、『確認している』人の割合が高くなる傾向がみられる。

【15歳以上】

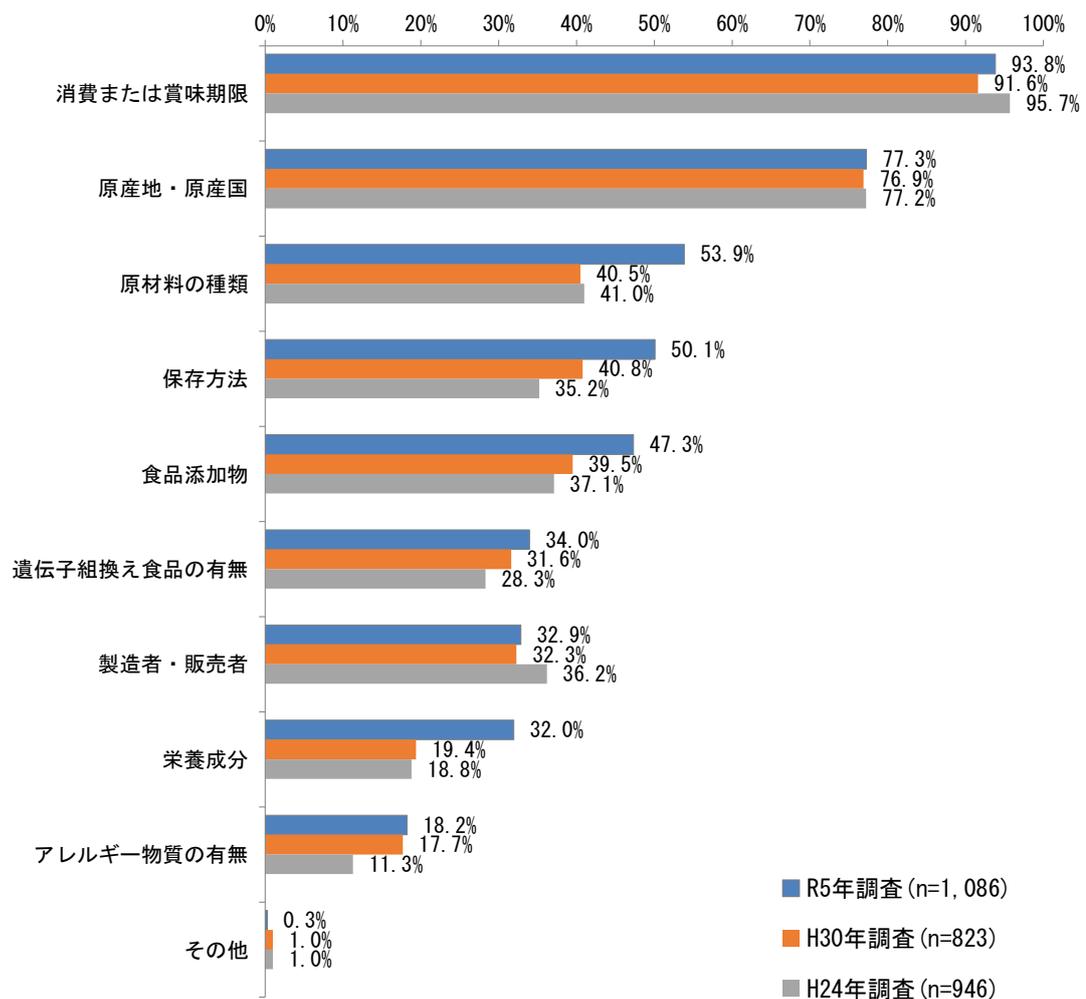


■食品を購入する際に確認する表示 〈15歳以上〉

＜食品を購入する際の表示確認で「毎回している」、「時々確認している」と回答した人を対象＞

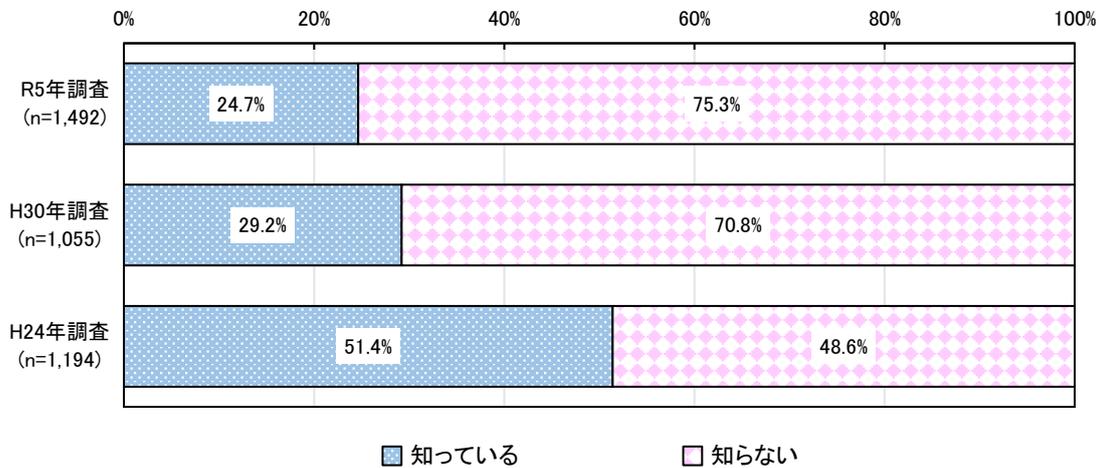
食品を購入する際に確認する表示は、「消費または賞味期限」93.8%が最も高く、次いで「原産地・原産国」77.3%、「原材料の種類」53.9%の順となった。

平成30年調査と比較して、ほとんどの項目で増加がみられ、特に「原材料の種類」、「保存方法」、「食品添加物」、「栄養成分」では前回は7.0ポイント以上上回る。



■熊本市が食品の安全確保のため検査を実施していることの認知度 〈15歳以上〉

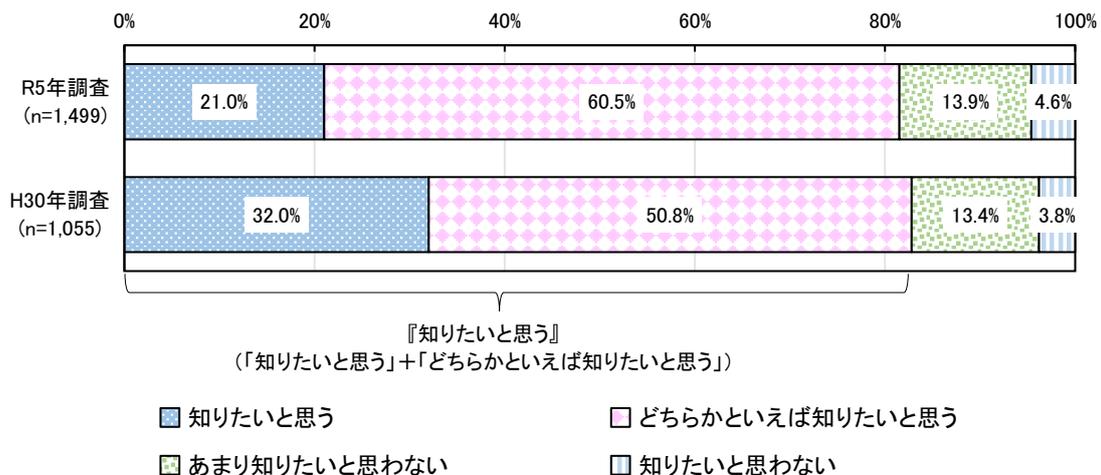
熊本市が食品の安全確保のため検査を実施していることの認知度について、「知っている」は24.7%に留まり、平成30年調査と比較して4.5ポイント下回る。



■くまもとの農林漁業の生産者が行っている生産物の安全・安心のための取組 〈15歳以上〉

熊本の農林漁業の生産者が行っている生産物の安心・安全のための取組について、「知りたいと思う」は21.0%、「どちらかといえば知りたいと思う」は60.5%と、合わせて81.5%が『知りたいと思う』としている。

平成30年調査と比較して、『知りたいと思う』（「知りたいと思う」+「どちらかといえば知りたいと思う」）は1.3ポイント、わずかに下回る。



◎HACCPについて知っている市民の割合

HACCPについて知っている市民の割合は14.2%。平成30年調査と比較して5.4ポイント上回るが、目標には5.8ポイント届かなかった。

項目	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○HACCPについて知っている市民の割合	8.8%	14.2%	20%

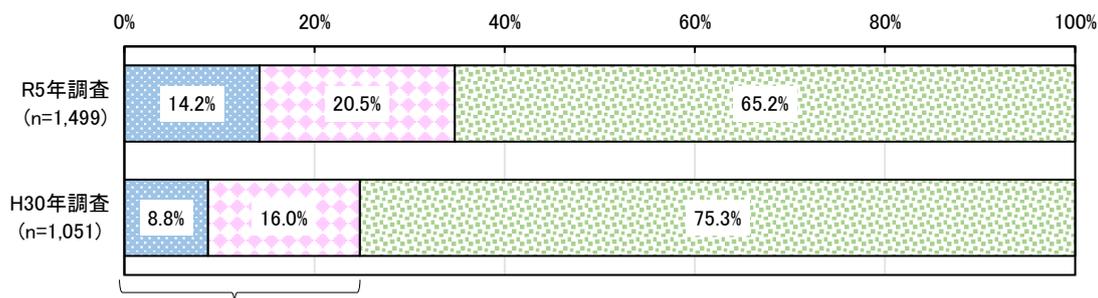
※15歳以上の回答者で「HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法だと知っている」と回答した割合

<調査結果>

■HACCPの認知度 〈15歳以上〉

HACCPの認知度について、「HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている」は14.2%、「言葉は知っているが意味は知らない」は20.5%と、合わせて34.7%が『言葉は知っている』としている。

平成30年調査と比較して、『言葉は知っている』（「HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている」+「言葉は知っているが意味は知らない」）人の割合は9.9ポイント上回る。

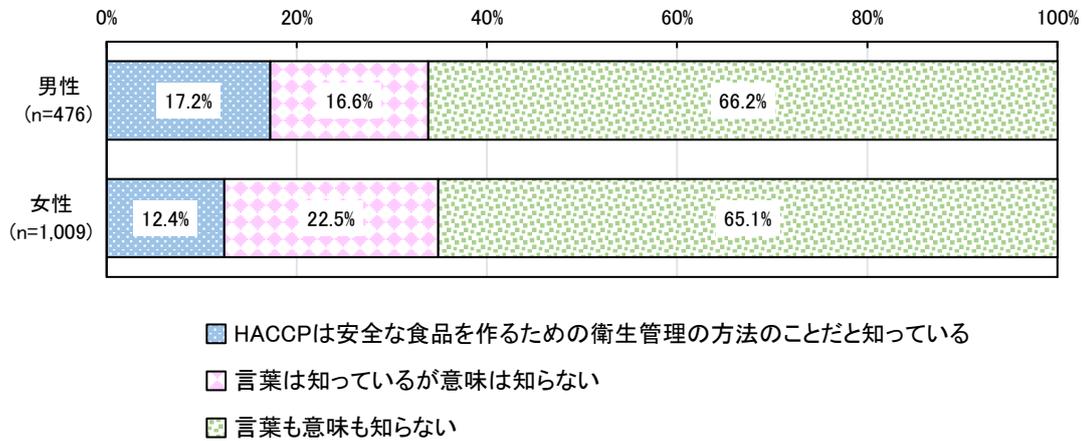


『言葉は知っている』
 (「HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている」+「言葉は知っているが意味は知らない」)

- HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている
- 言葉は知っているが意味は知らない
- 言葉も意味も知らない

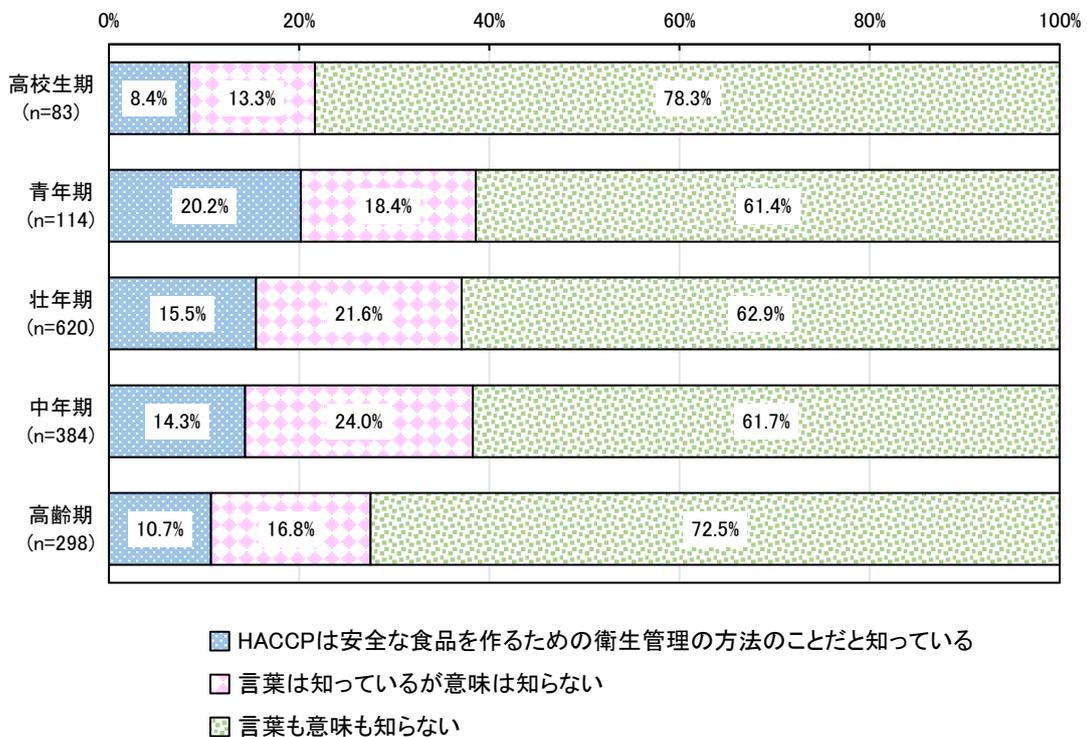
性別でみると、『言葉は知っている』人の割合については大きな差はみられないが、「HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている」と回答した割合は、男性が女性を4.8ポイント上回る。

【15歳以上】

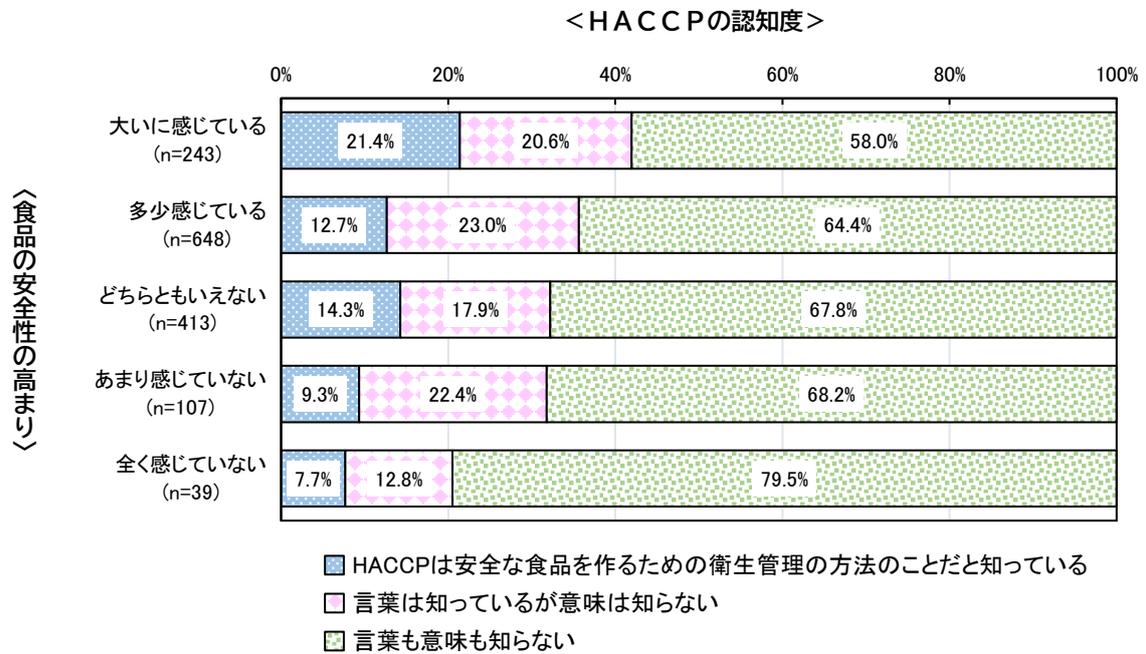


ライフステージ別でみると、『言葉は知っている』人の割合は、青年期、壮年期、中年期では3割を超え、他のライフステージと比較して高い。「HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている」と回答した割合は、青年期の20.2%が最も高い。

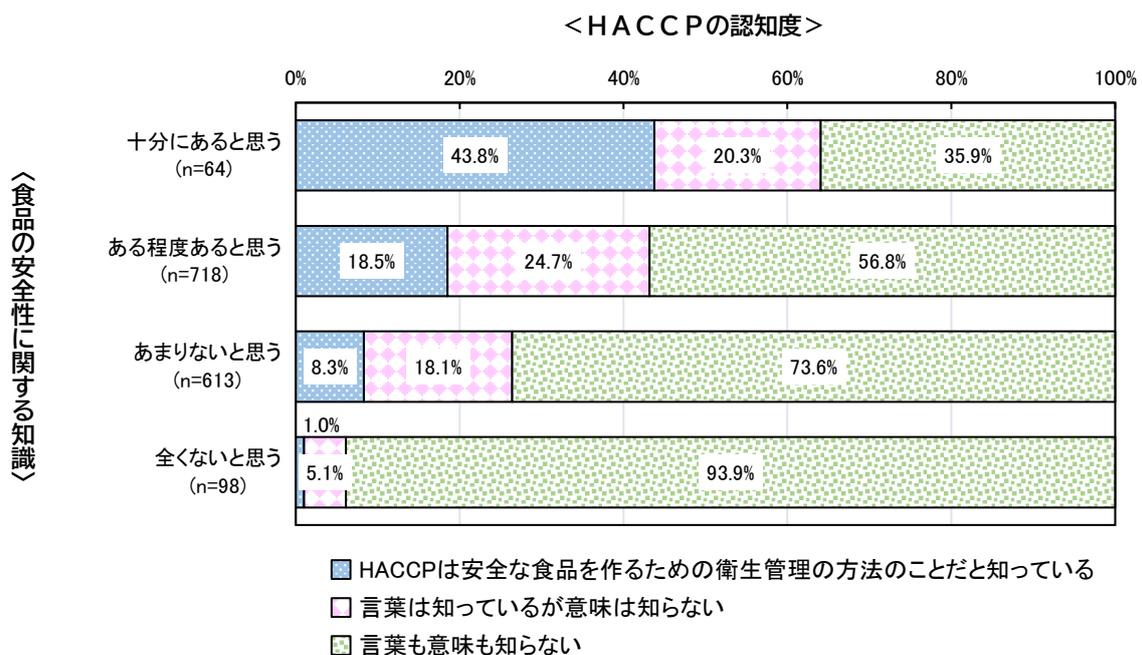
【15歳以上】



「HACCPの認知度」と「食品の安全性の高まり」でみると、食品の安全性の高まりを「大いに感じている」人は「HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている」と回答した割合が高く21.4%を占める。一方で、食品の安全性の高まりを「全く感じていない」人は「言葉も意味も知らない」が79.5%と他の区分と比較して高い。

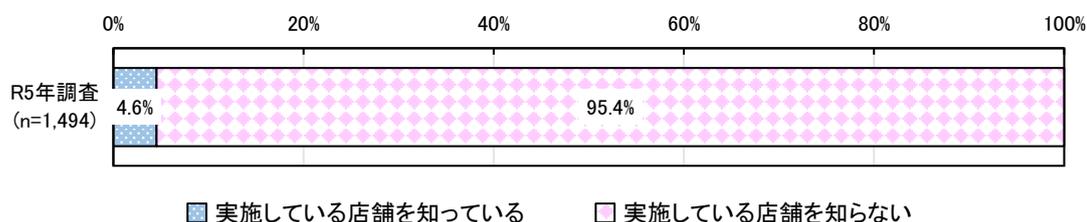


「HACCPの認知度」と「食品の安全性に関する知識」でみると、食品の安全性に関する知識が「十分にあると思う」人は、「HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている」と回答した割合は43.8%を占め、他の区分と比較して高い。



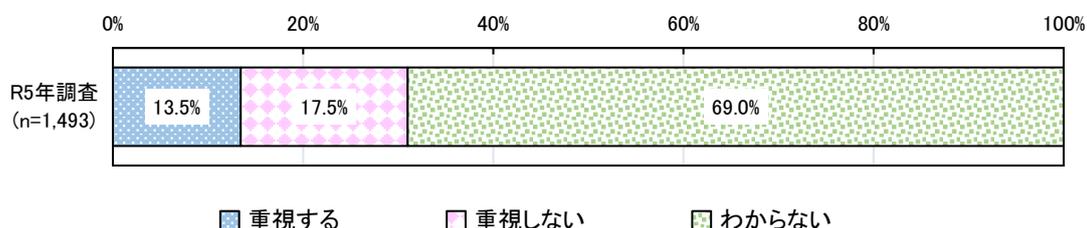
■ HACCPを実施している飲食店や食品販売店の認知度 〈15歳以上〉

HACCPを実施している飲食店や食品販売店の認知度について、「実施している店舗を知っている」と回答した割合は4.6%に留まり、9割以上が知らないと回答している。



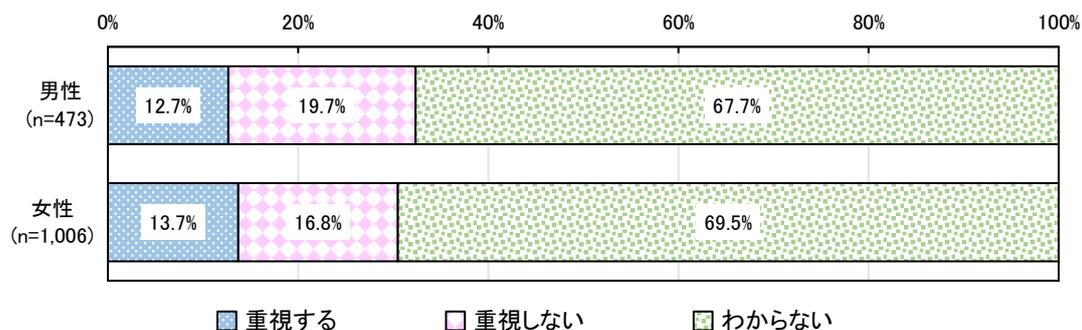
■ 飲食店や食品販売店を選ぶ際に、HACCPを実施していることを重視するか 〈15歳以上〉

飲食店や食品販売店を選ぶ際に、HACCPを実施していることを重視するかについて、「重視する」は13.5%に留まり、69.0%が「わからない」と回答している。



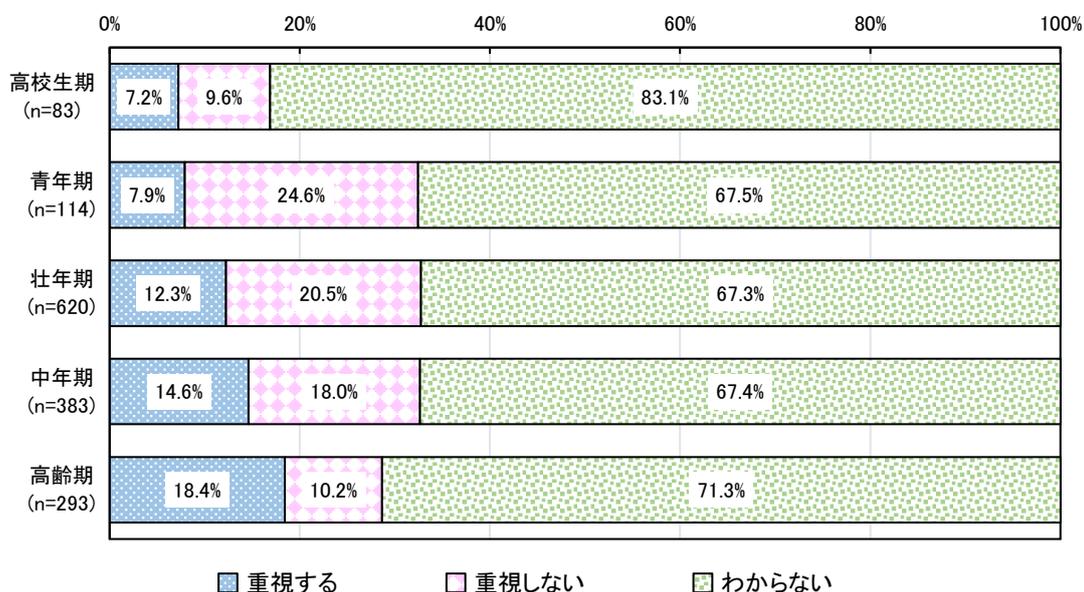
性別でみると、「重視しない」と回答した割合は、男性が女性を2.9ポイント上回る。

【15歳以上】



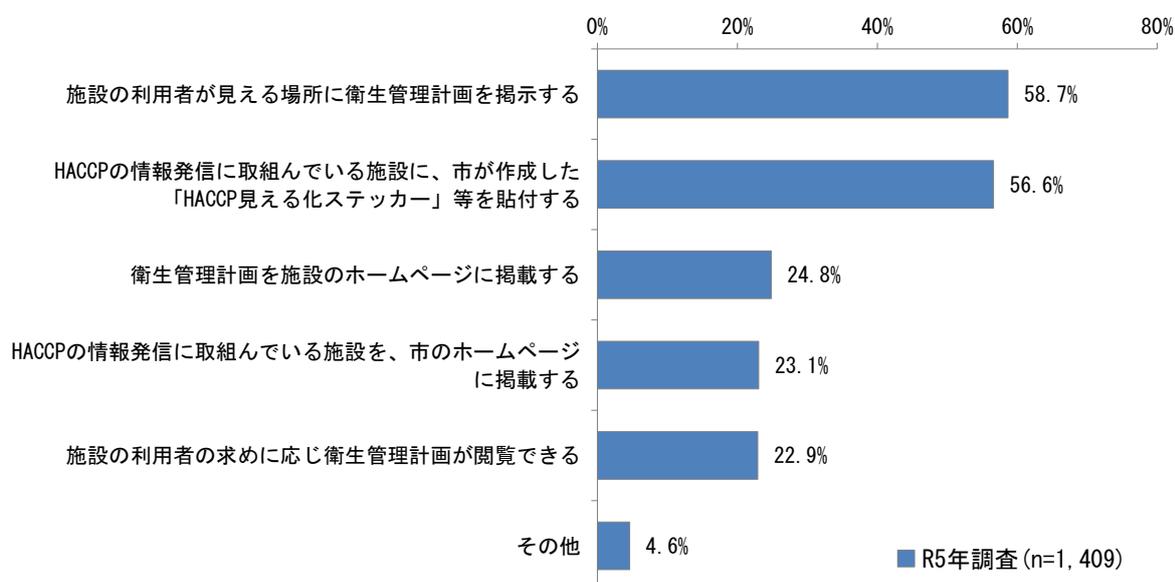
ライフステージ別でみると、「重視する」と回答した割合は、ライフステージが上がるにつれ高くなる傾向がみられる。

【15歳以上】



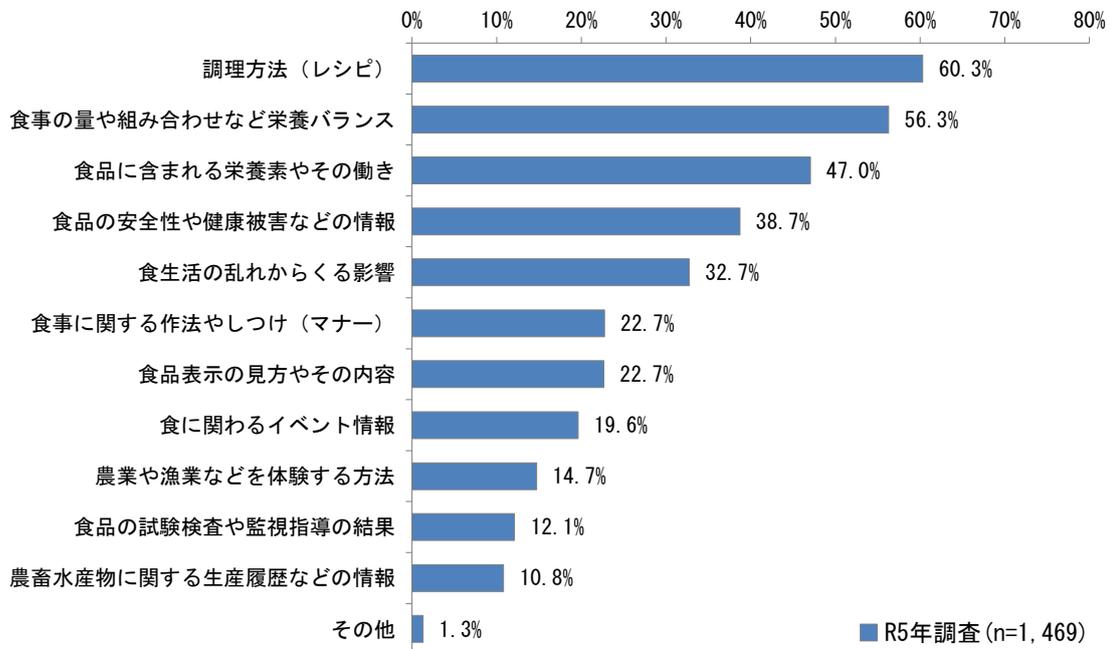
■ HACCPを実施していることを消費者に伝える効果的な手段 〈15歳以上〉

HACCPを実施していることを消費者に伝えるための効果的な手段について、「施設の利用者が見える場所に衛生管理計画を掲示する」58.7%が最も高く、次いで「HACCPの情報発信に取り組んでいる施設に、市が作成した「HACCP見える化ステッカー」等を貼付する」56.6%、「衛生管理計画を施設のホームページに掲載する」24.8%の順となった。



■食生活や食品に関して欲しい情報 〈15歳以上〉

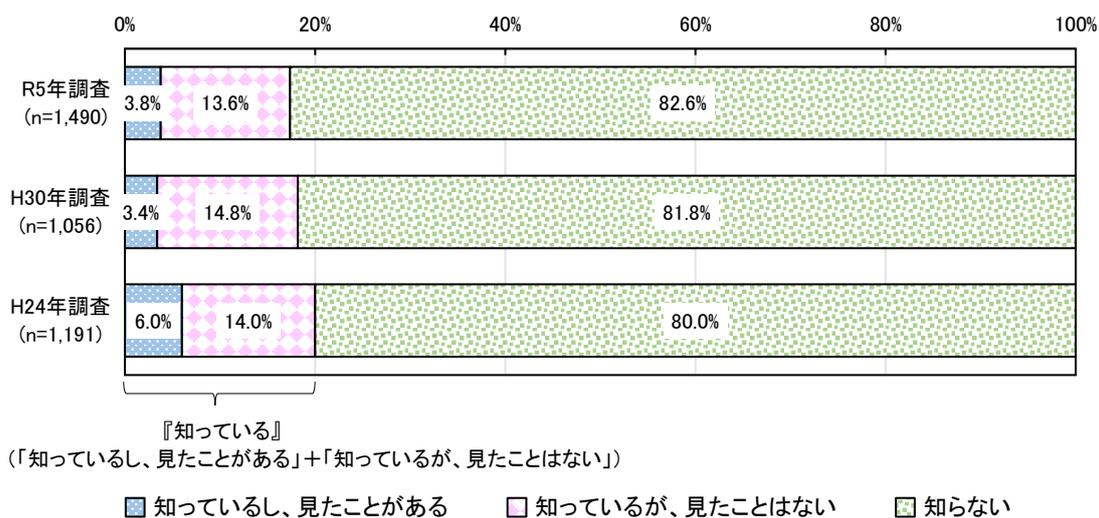
食生活や食品に関して欲しい情報について、「調理方法（レシピ）」60.3%が最も高く、次いで、「食事の量や組み合わせなど栄養バランス」56.3%、「食品に含まれる栄養素やその働き」47.0%の順となった。



■ 「くまもとの食（安全安心のひろば・食育のひろば）」の認知度 〈15歳以上〉

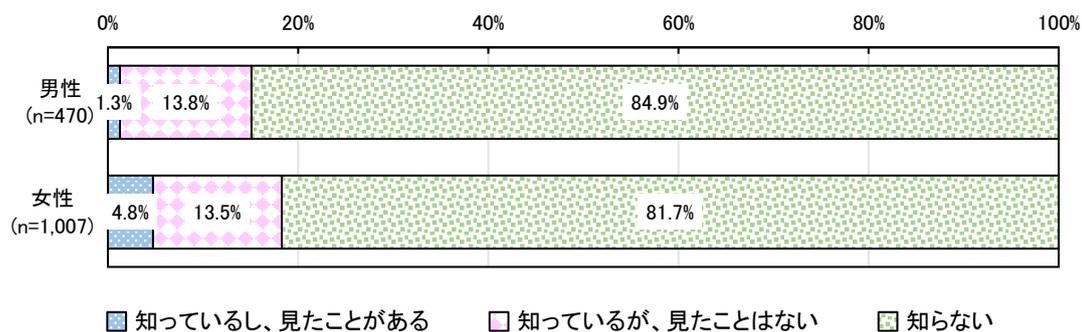
「くまもとの食（安全安心のひろば・食育のひろば）」の認知度について、「知っているし、見たことがある」は3.8%、「知っているが、見たことはない」は13.6%と、合わせて17.4%が『知っている』としている。

平成30年調査と比較して大きな差はみられない。



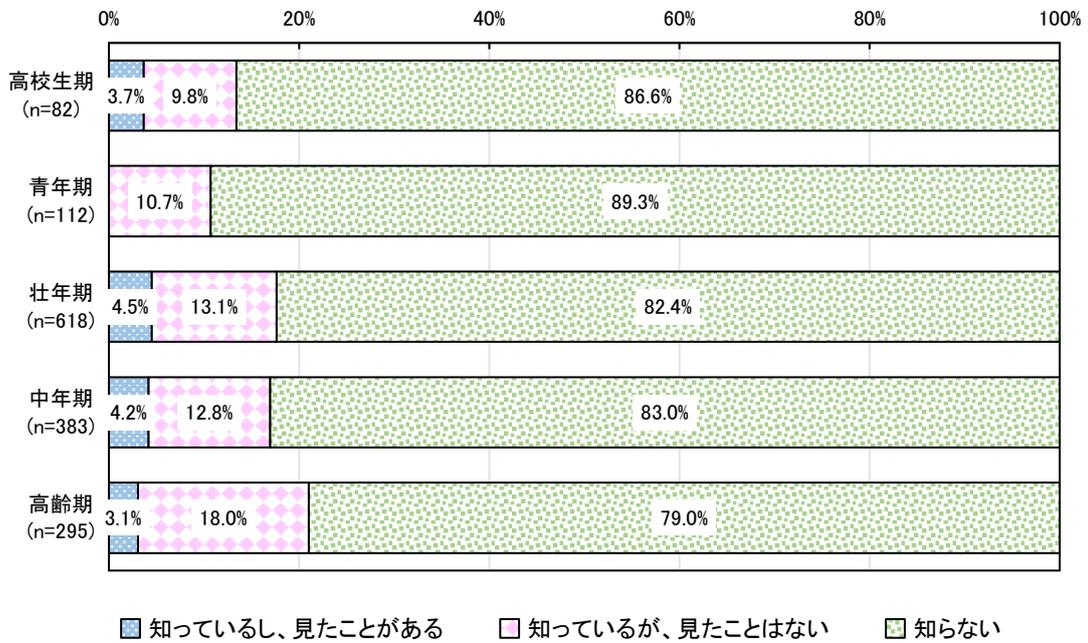
性別でみると、『知っている』（「知っているし、見たことがある」+「知っているが、見たことはない」）と回答した割合は、男性15.1%、女性18.3%となり、女性が男性を3.2ポイント上回る。

【15歳以上】



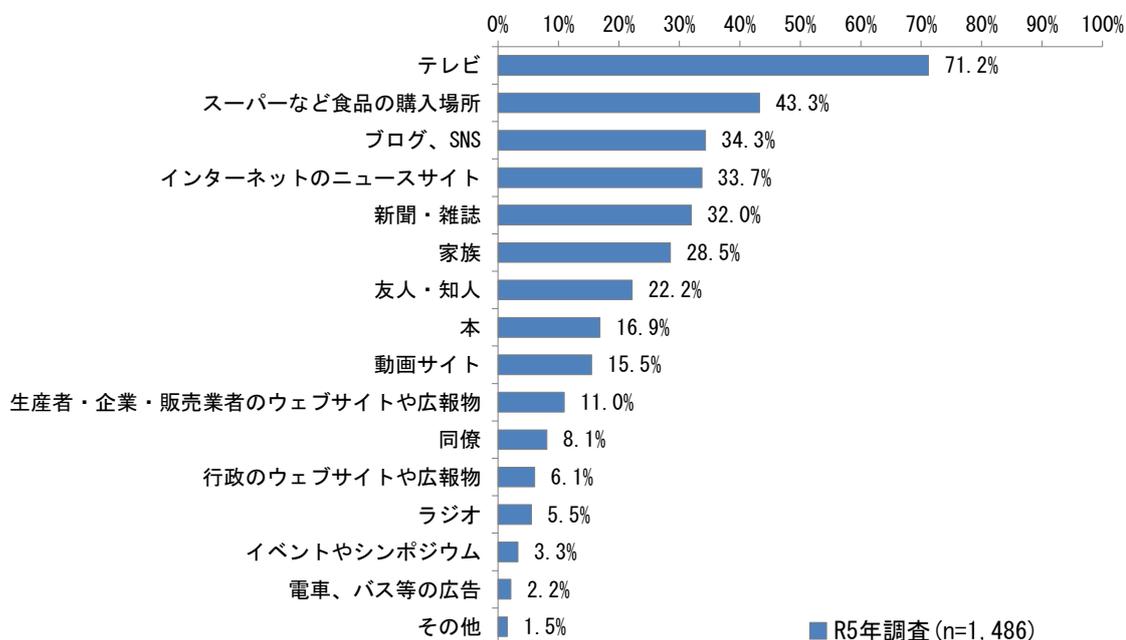
ライフステージ別でみると、『知っている』人の割合は、壮年期、中年期、高齢期では約2割割を占める。「知っているし、見たことがある」と回答した割合は、全てのライフステージで1割未満となっている。

【15歳以上】



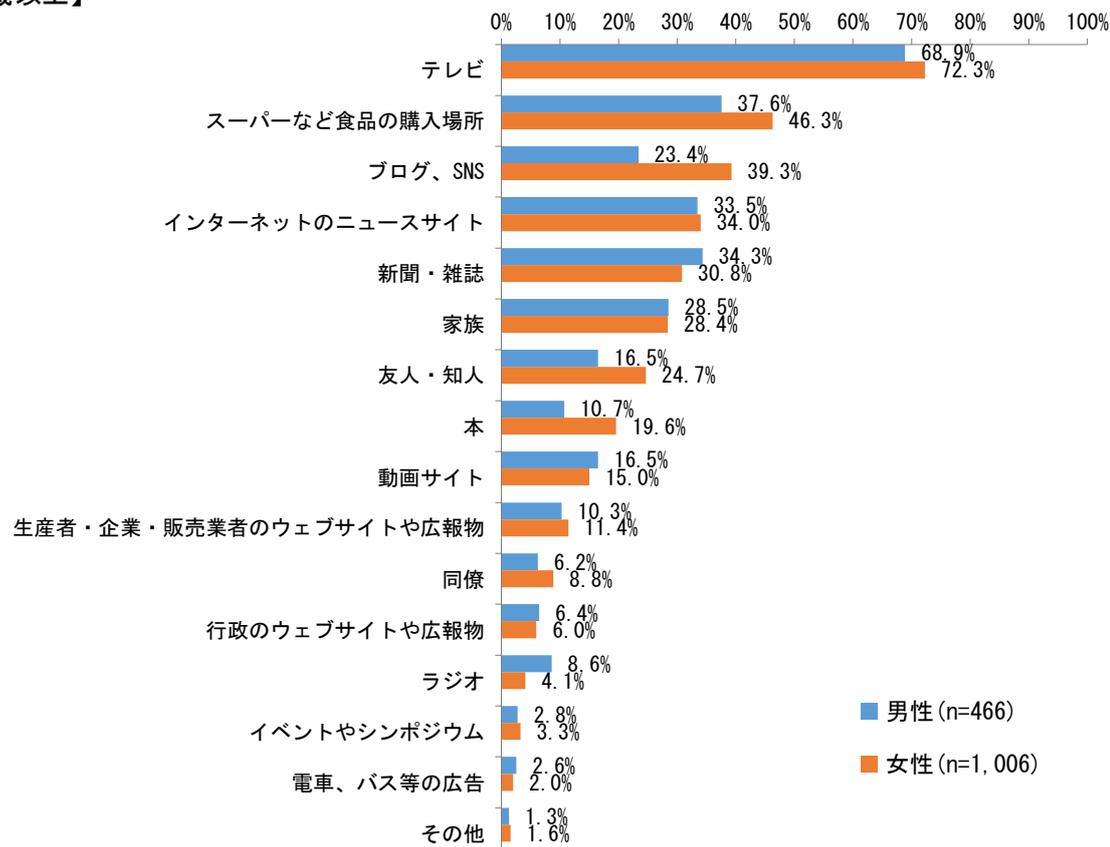
■食に関する情報の入手先 〈15歳以上〉

食に関する情報の入手先については、「テレビ」71.2%が最も高く、次いで「スーパーなど食品の購入場所」43.3%、「ブログ・SNS」34.3%の順となった。



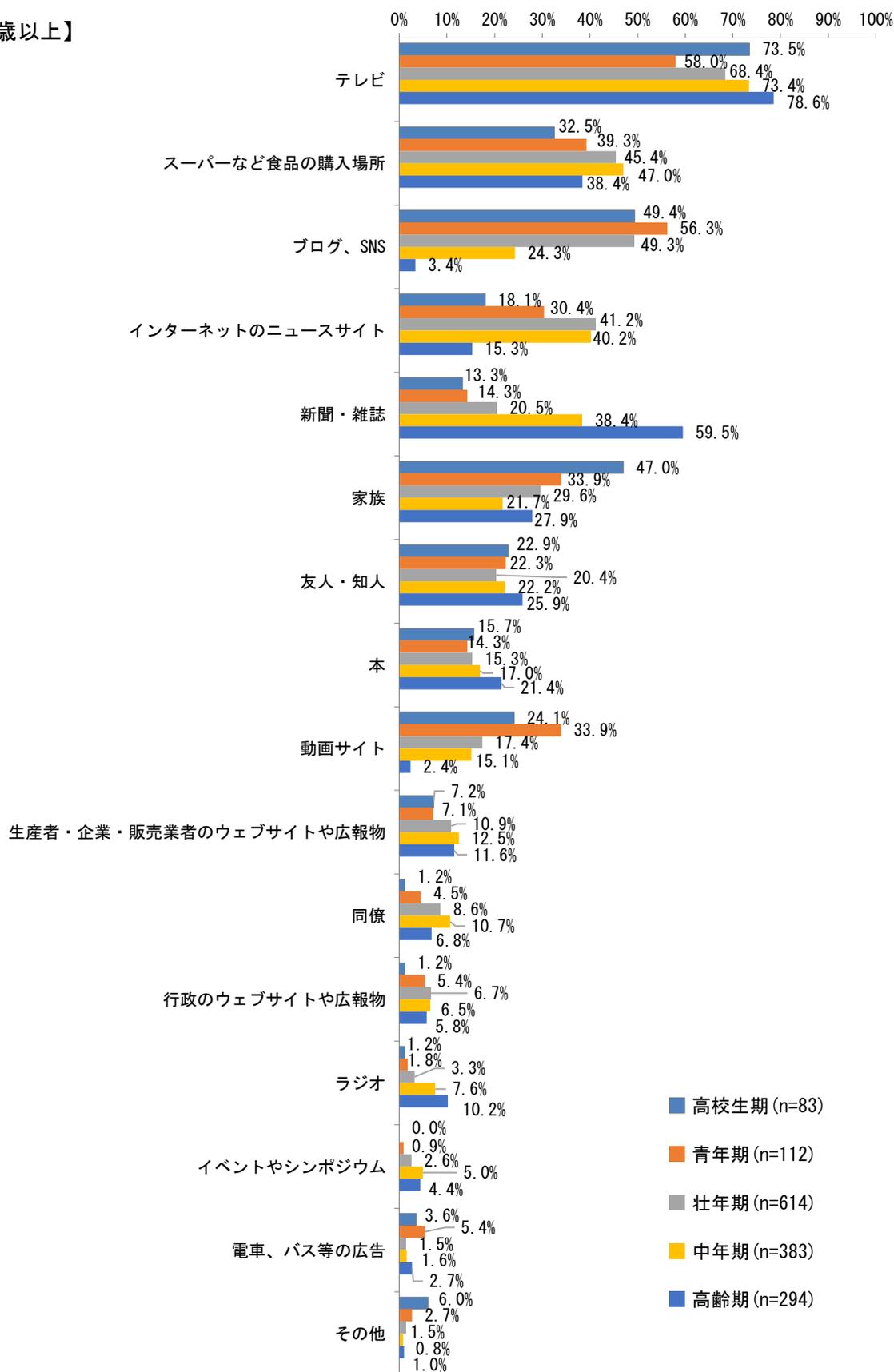
性別でみると、男性は「新聞・雑誌」、「ラジオ」が女性を3.0ポイント以上、女性は「スーパーなど食品の購入場所」、「本」、「友人・知人」、「ブログ、SNS」が男性を8.0ポイント以上上回る。

【15歳以上】



ライフステージ別でみると、「テレビ」は全てのライフステージで半数を超えている。「新聞、雑誌」と回答した割合は中年期、高齢期で高く、「ブログ、SNS」、「動画サイト」は青年期が他のライフステージと比較して高い。

【15歳以上】



VI 調查結果 - 食育 -

◎食育に関心がある市民の割合

20歳以上の食育に関心がある市民の割合は88.2%。平成30年調査と比較して11.1ポイント上昇したものの、目標を1.8ポイント下回る。

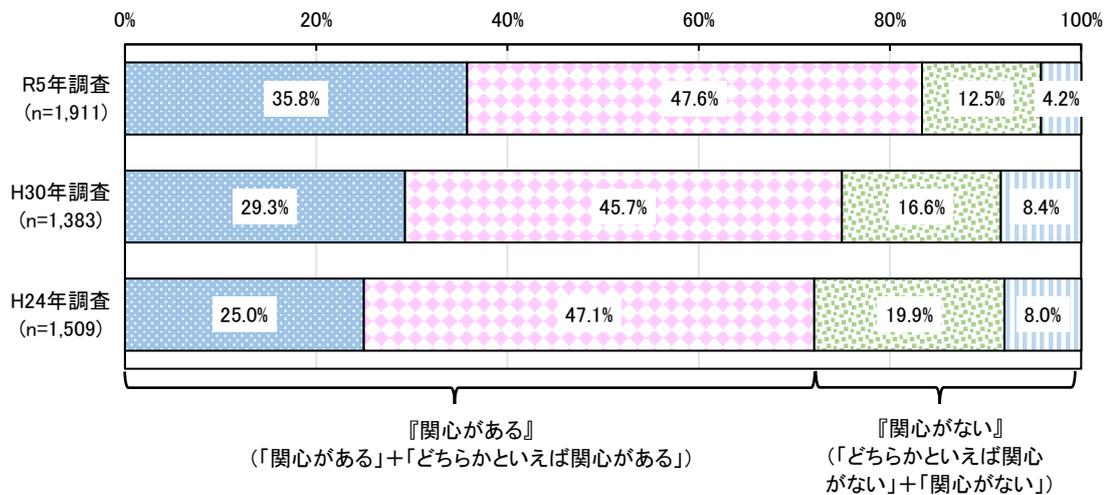
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○食育に関心がある市民の割合	73.4%	69.1%	77.1%	88.2%	90%

※20歳以上の回答者で、「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」を選択した割合

<調査結果>

■食育への関心 〈6歳以上〉

6歳以上でみると、「関心がある」は35.8%、「どちらかといえば関心がある」は47.6%と、合わせて83.4%が『関心がある』（「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」）としている。平成30年調査と比較して、8.4ポイント上回り、増加傾向である。



■ 関心がある □ どちらかといえば関心がある ■ どちらかといえば関心がない □ 関心がない

20歳以上でみると、「関心がある」は40.3%、「どちらかといえば関心がある」は47.9%と、合わせて88.2%が『関心がある』としている。平成30年調査と比較して、7.1ポイント上回る。

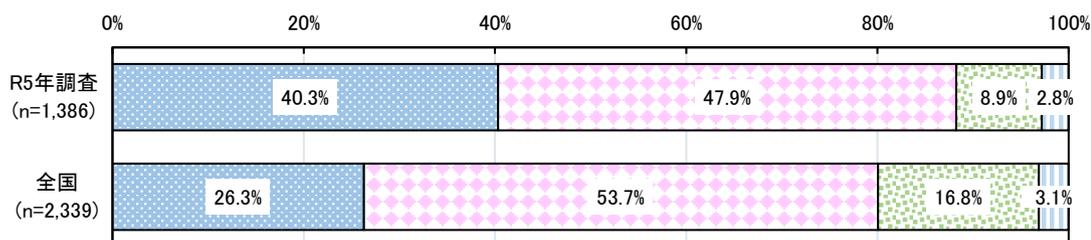
【20歳以上】



■ 関心がある □ どちらかといえば関心がある ■ どちらかといえば関心がない □ 関心がない

20歳以上で、『関心がある』人の割合は、全国と比較して8.2ポイント上回る。

【20歳以上】

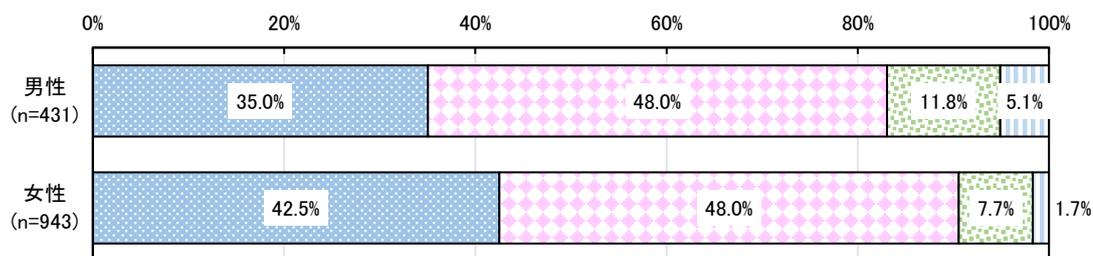


■ 関心がある □ どちらかといえば関心がある ■ どちらかといえば関心がない □ 関心がない

※農林水産省「食育に関する意識調査」(R5年3月)

性別でみると、『関心がある』人の割合は、男性が83.0%、女性90.5%で、女性が7.5ポイント上回る。

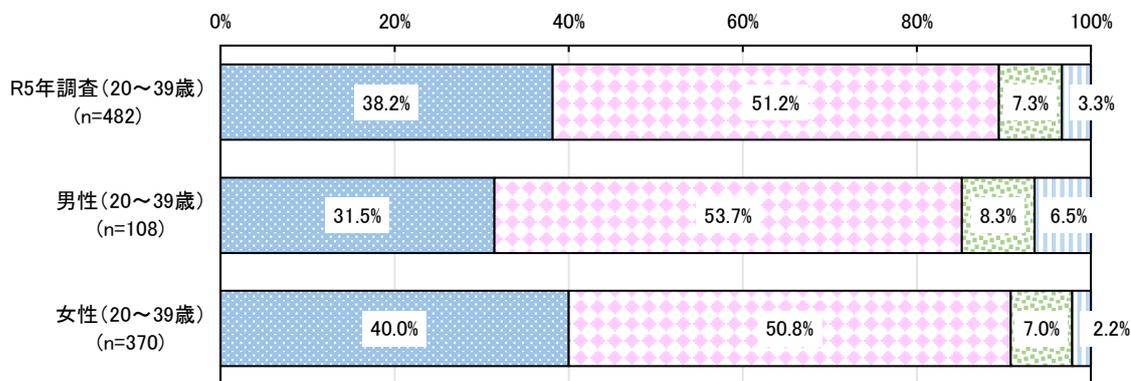
【20歳以上】



■ 関心がある □ どちらかといえば関心がある ■ どちらかといえば関心がない □ 関心がない

若い世代(20~39歳)でみると、全体では、『関心がある』人の割合は89.4%となった。性別でみると『関心がある』人の割合は、男性85.2%、女性90.8%で、女性が男性を5.6ポイント上回る。

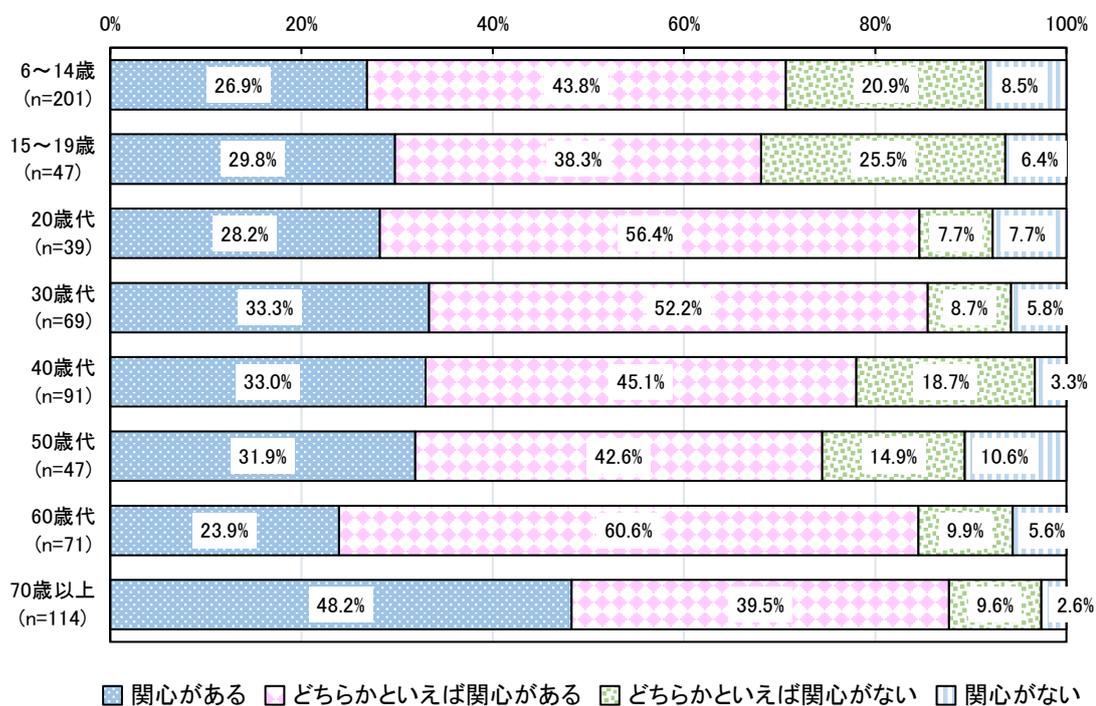
【若い世代(20~39歳)】



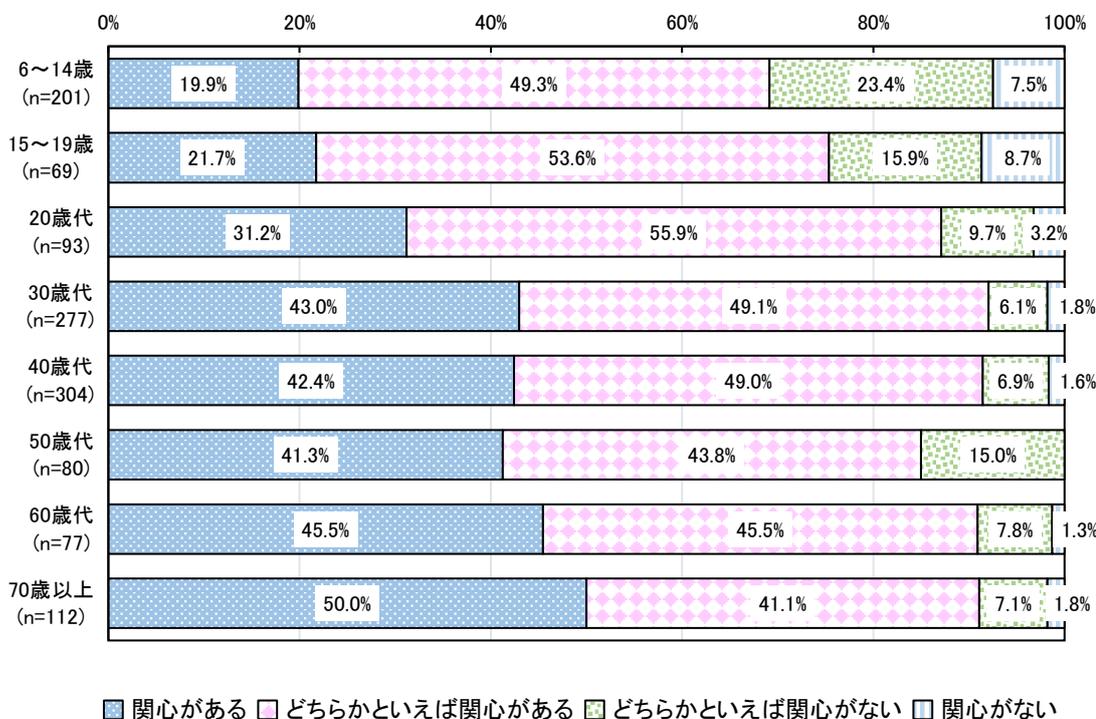
■ 関心がある □ どちらかといえば関心がある ■ どちらかといえば関心がない □ 関心がない

性・年齢別で見ると、『関心がある』人の割合は、20歳以上では男女ともに7割を超えている。19歳以下では『関心がある』人の割合は、他の年代と比較して低くなっている。

【6歳以上（男性）】

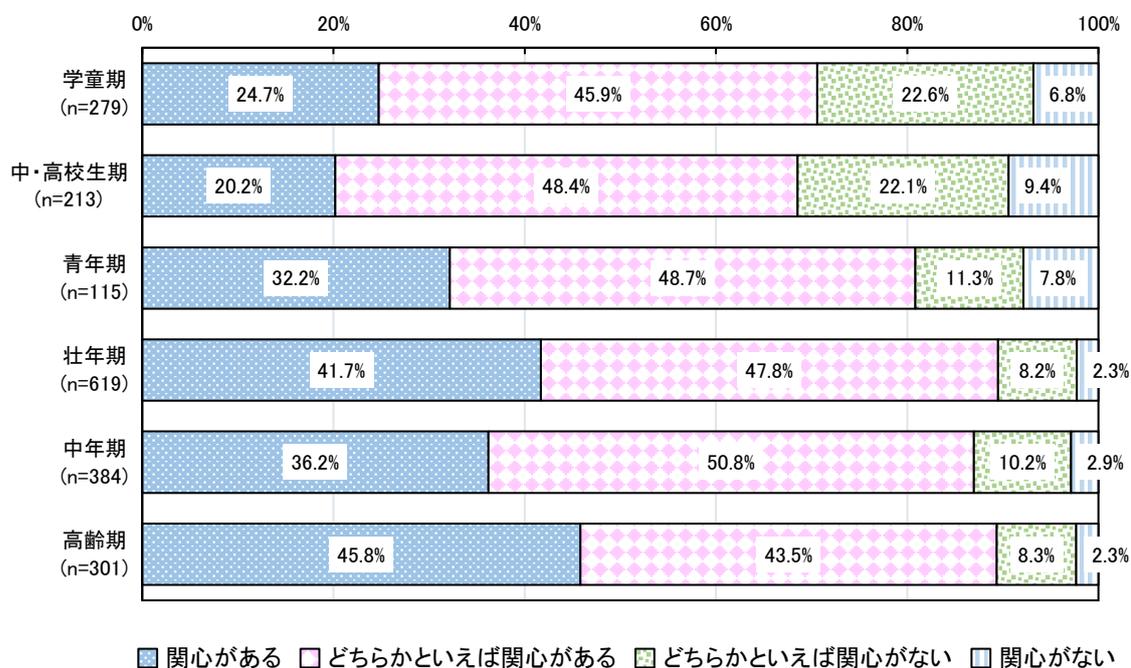


【6歳以上（女性）】



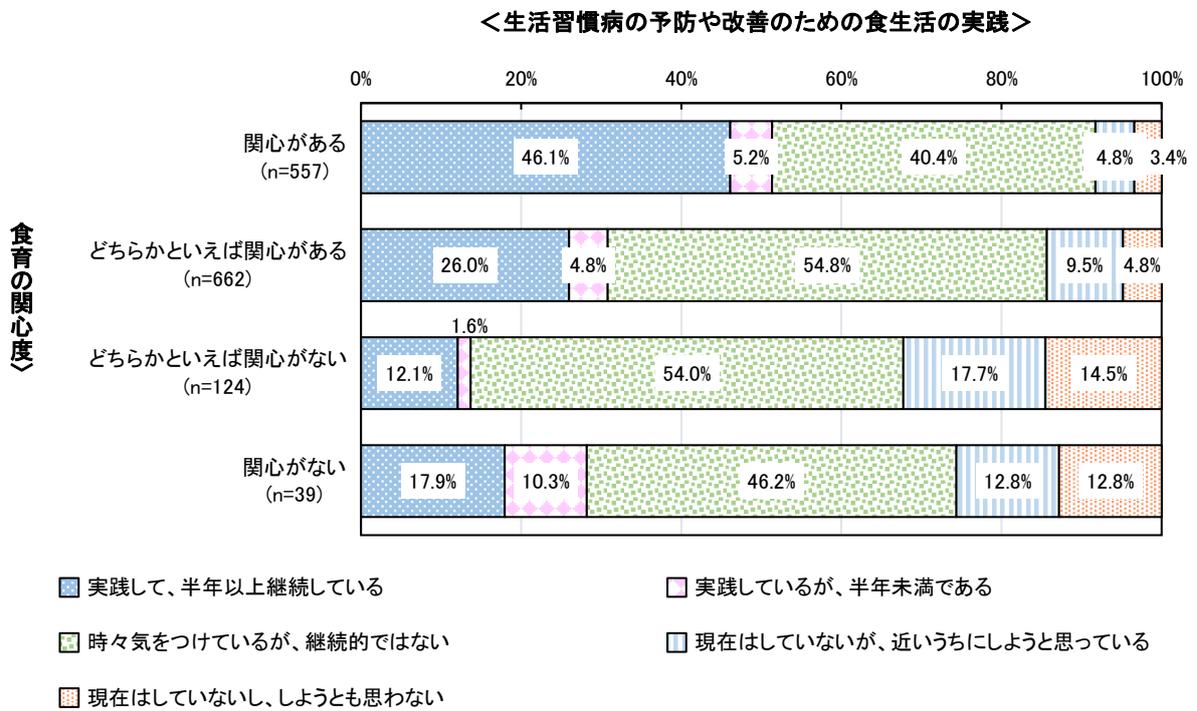
ライフステージ別でみると、『関心がある』人の割合は、青年期、壮年期、中年期、高齢期では8割を超えている。一方、学童期、中・高校生期では『関心がある』人の割合は他の年代と比較して低くなっている。

【6歳以上】



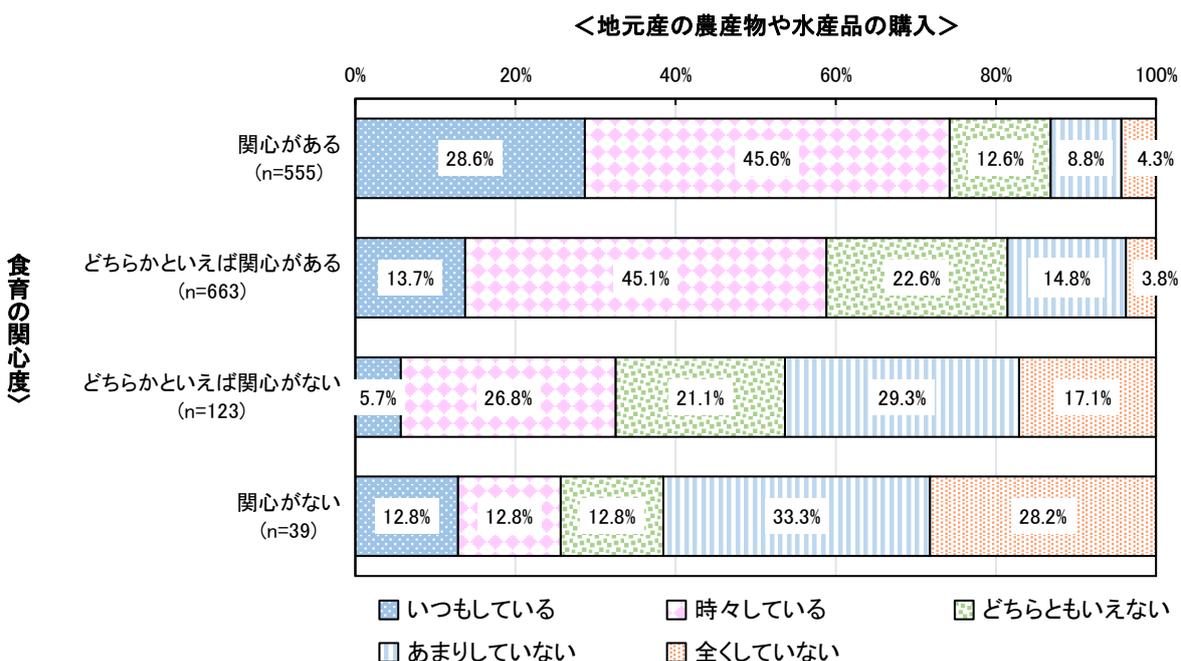
「生活習慣病の予防や改善のための食生活の実践」と「食育の関心度」でみると、「食育に関心がある」人は、「実践して、半年以上継続している」と回答した割合が46.1%と最も高い。

【20歳以上】



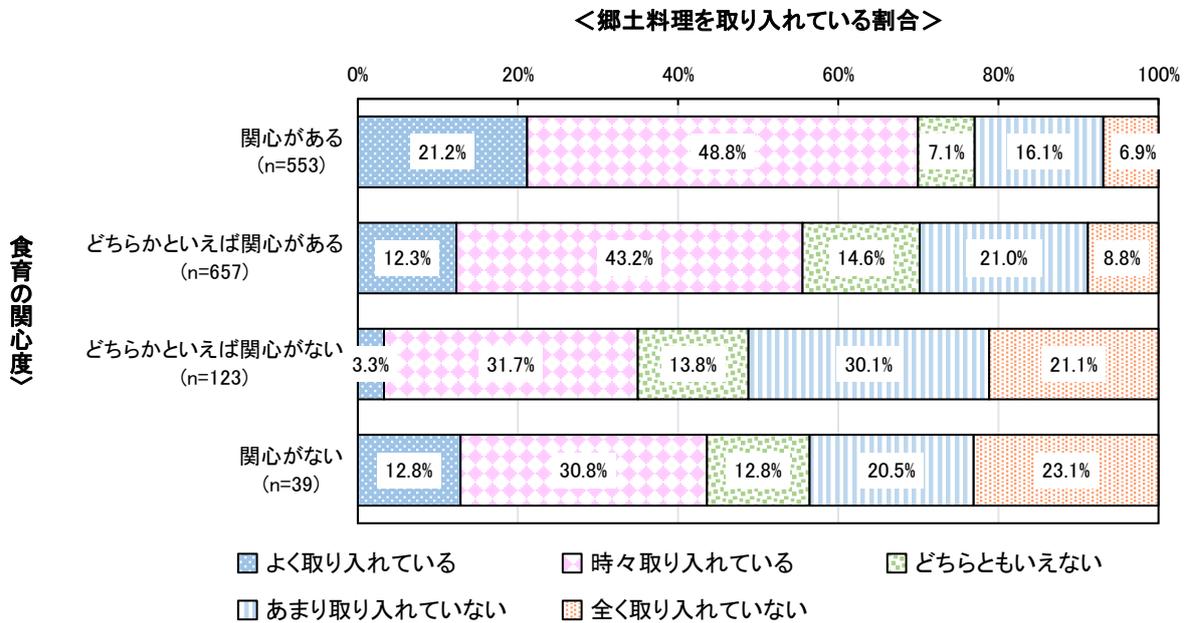
「地元産の農産物や水産品の購入」と「食育の関心度」でみると、「食育に関心がある」人は、「いつもしている」と回答した人が28.6%と最も高い。一方で、「食育に関心がない」人は、『していない』（「あまりしていない」＋「全くしていない」）と回答した割合が6割を占める。

【20歳以上】



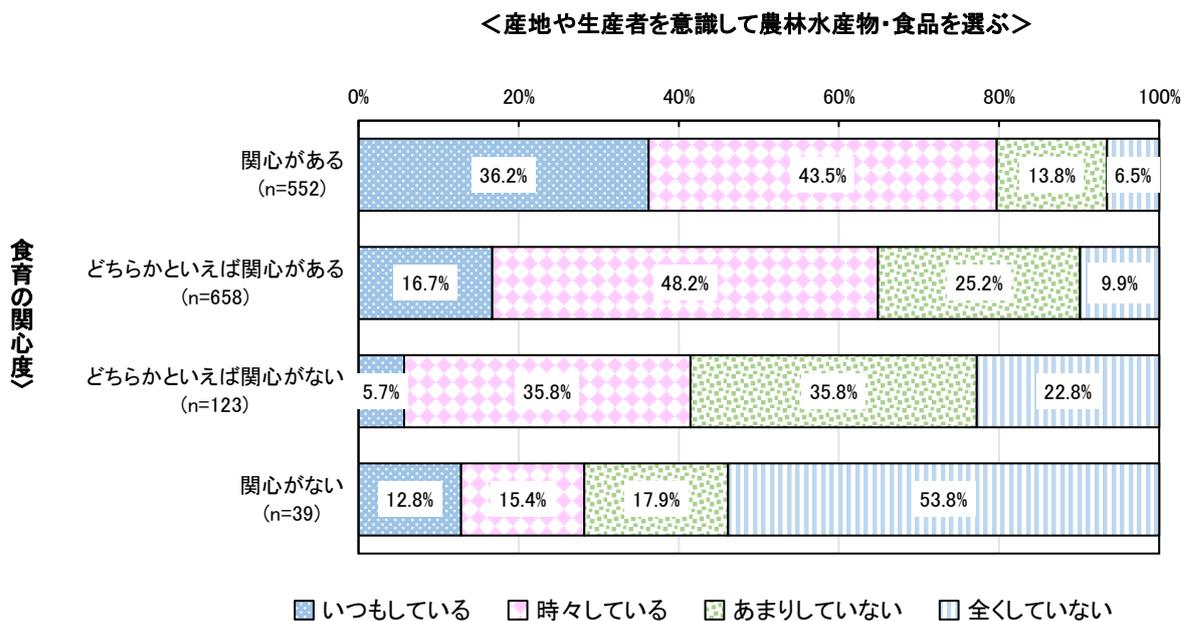
「郷土料理を取り入れている割合」と「食育の関心度」でみると、「食育に関心がある」人は「よく取り入れている」と回答した割合が21.2%と最も高い。一方で、「食育に関心がない」人は『取り入っていない』（「あまり取り入っていない」＋「全く取り入っていない」）と回答した割合が4割を占める。

【20歳以上】



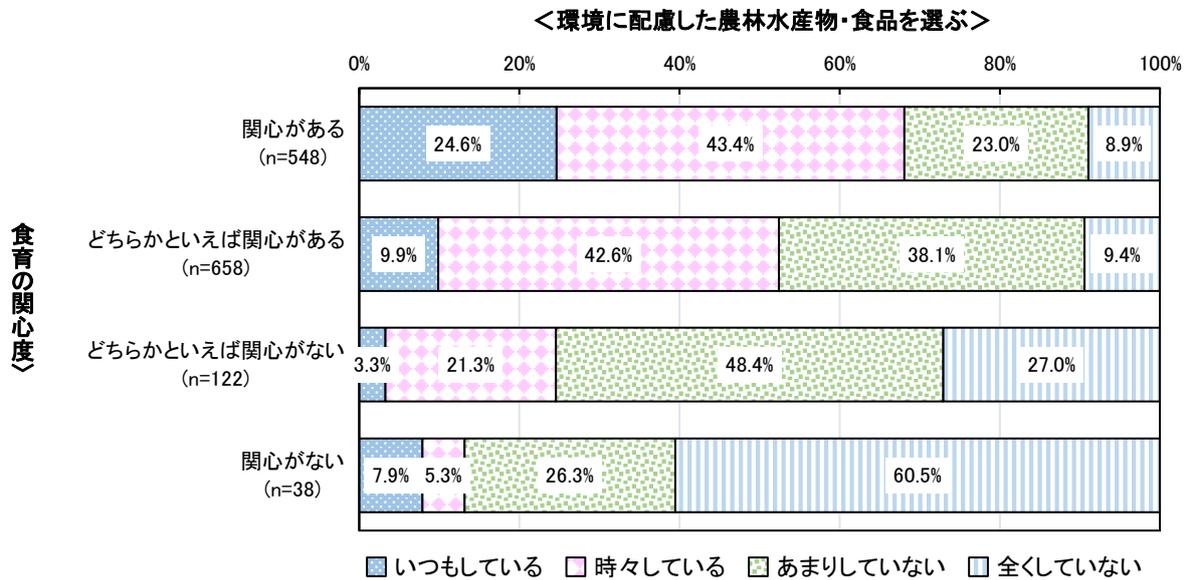
「産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ」と「食育の関心度」でみると、「食育に関心がある」人は「いつもしている」と回答した割合が36.2%と最も高い。一方で、「食育に関心がない」人は、『していない』（「あまりしていない」＋「全くしていない」）と回答した割合が7割を占める。

【20歳以上】



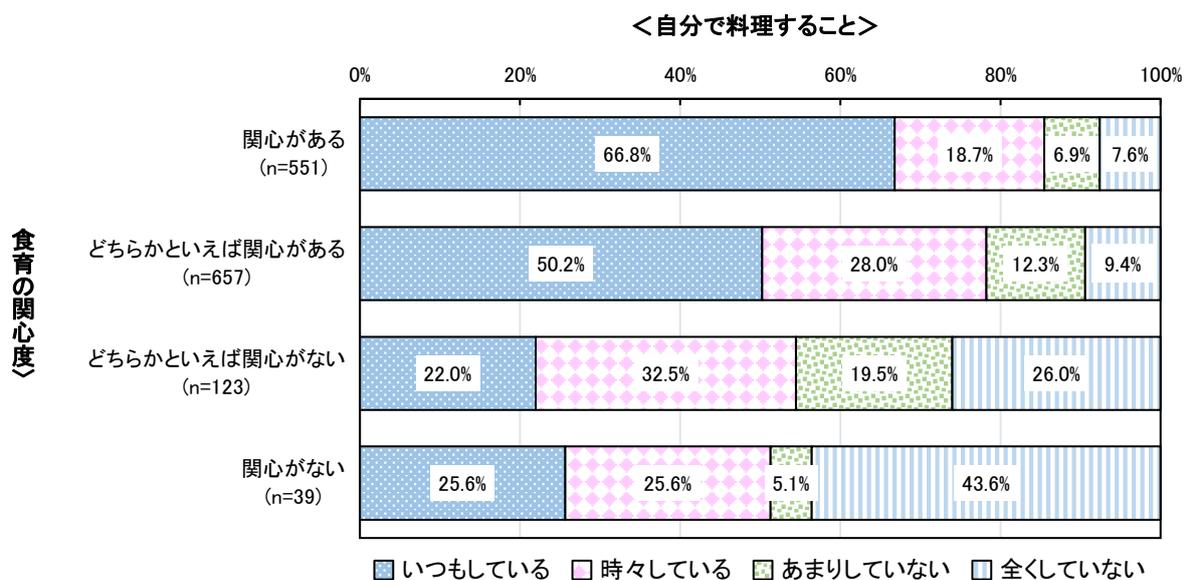
「環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ」と「食育の関心度」でみると、「食育に関心がある」人は「いつもしている」と回答した人が24.6%と最も高い。一方で、「食育に関心がない」と回答した人は、『していない』（「あまりしていない」＋「全くしていない」）と回答した割合が8割を超える。

【20歳以上】



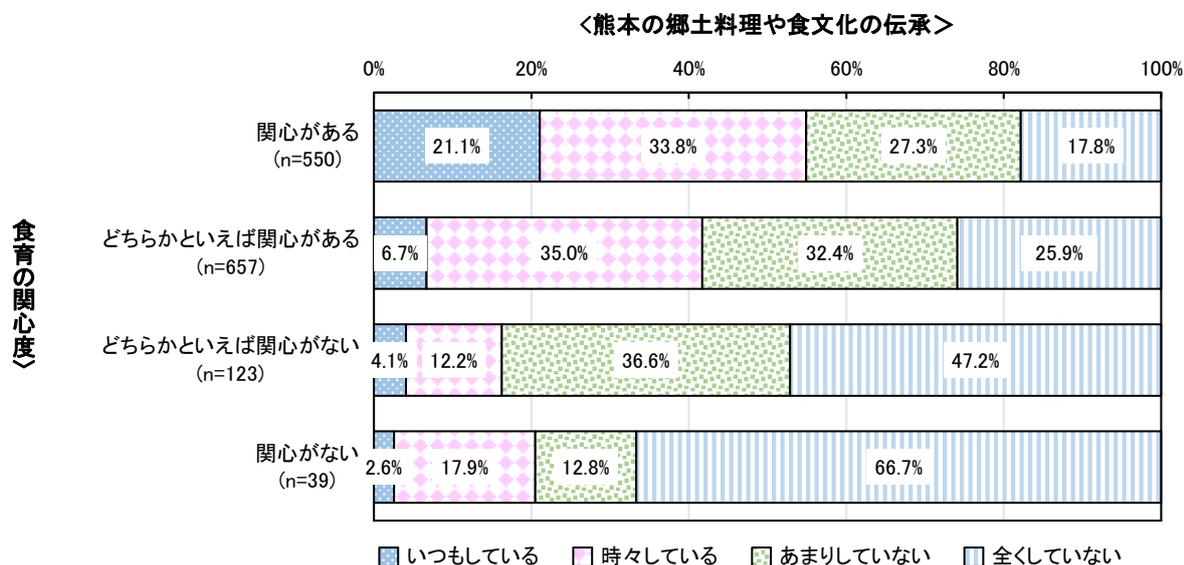
「自分で料理すること」と「食育の関心度」でみると、「食育に関心がある」人は「いつもしている」と回答した人が66.8%と最も高い。次いで「どちらかといえば関心がある」の50.2%となった。一方で、「食育に関心がない」と回答した人は、『していない』（「あまりしていない」＋「全くしていない」）と回答した割合が4割を超える。

【20歳以上】



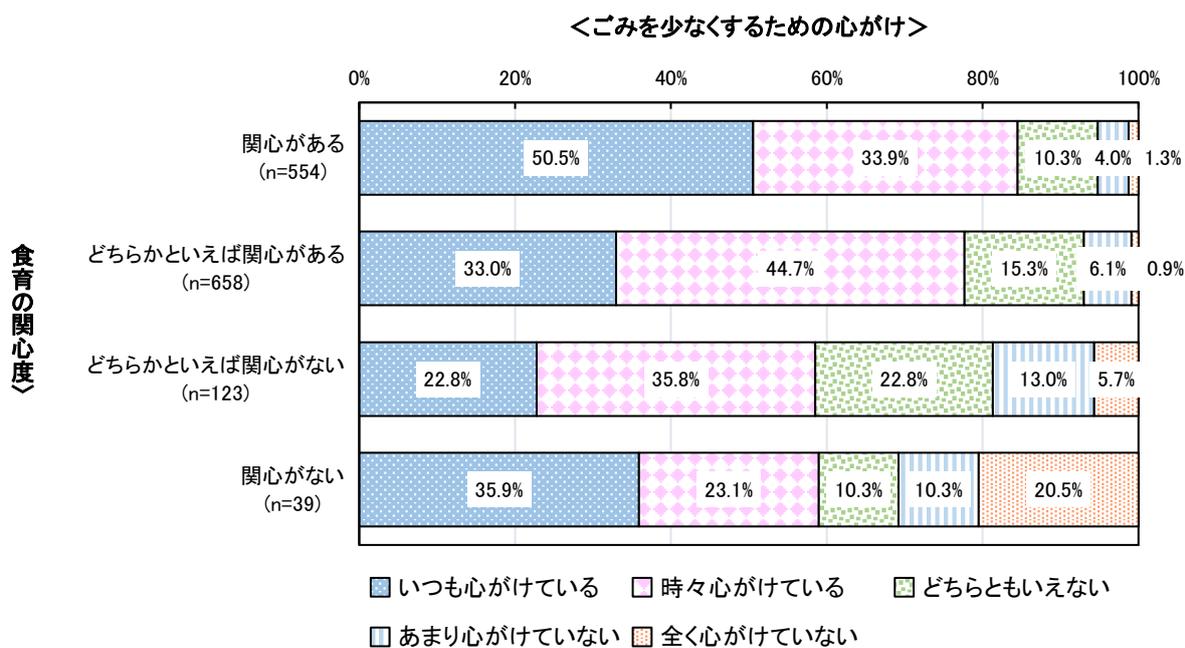
「熊本の郷土料理や食文化の伝承」と「食育の関心度」でみると、「食育に関心がある」人は「いつもしている」と回答した人が21.1%と最も高い。一方で、「食育に関心がない」と回答した人は、「全くしていない」と回答した割合が6割を超える。

【20歳以上】



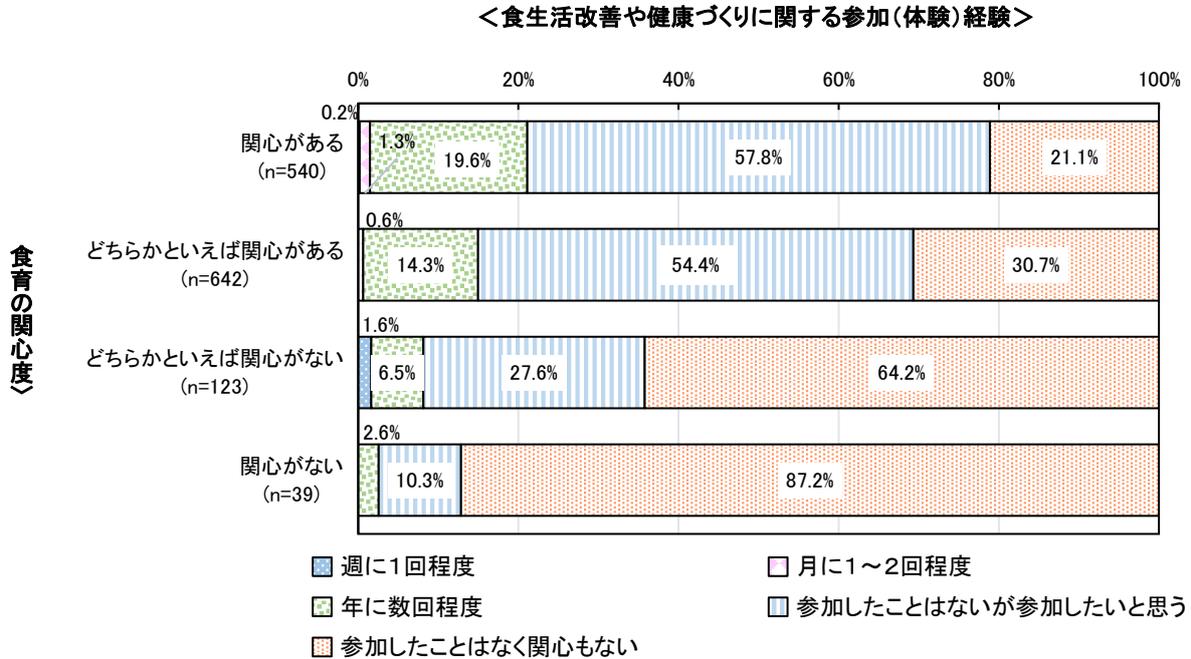
「ごみを少なくするための心がけ」と「食育の関心度」とでみると、「食育に関心がある」人は「いつも心がけている」と回答した人が50.5%と最も高い。一方で、「食育に関心がない」と回答した人は、『心がけていない』（「あまり心がけていない」+「全く心がけていない」）と回答した割合が3割を占める。

【20歳以上】



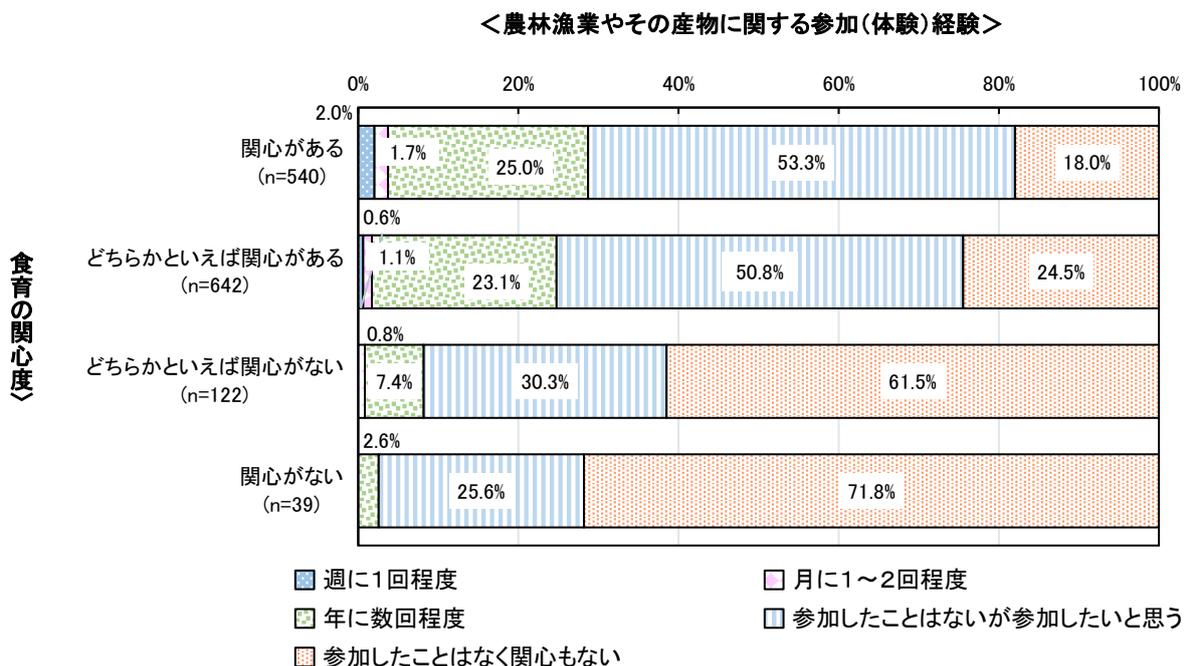
「食生活改善や健康づくりに関する参加（体験）経験」と「食育の関心度」とでみると、「食育に関心がある」人は『参加している』（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」＋「年に数回程度」）と回答した人が21.1%と最も高い。一方で、「食育に関心がない」と回答した人は、『参加している』と回答した割合は2.6%に留まる。

【20歳以上】



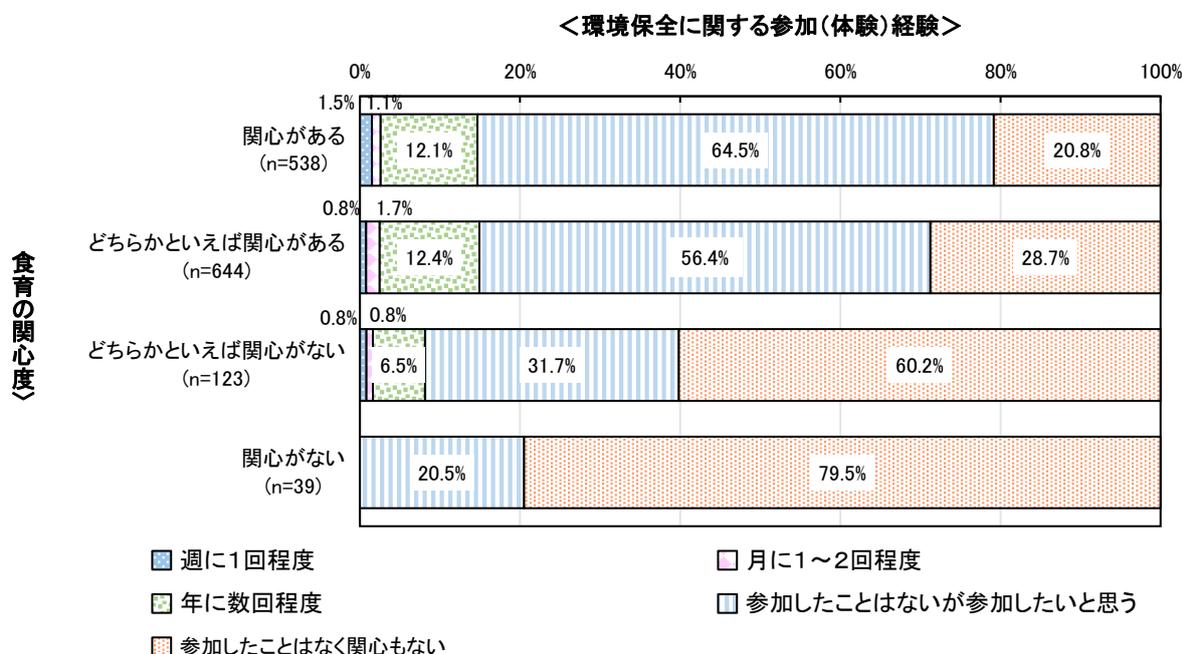
「農林漁業やその産物に関する参加（体験）経験」と「食育の関心度」とでみると、「食育に関心がある」人は『参加している』（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」＋「年に数回程度」）と回答した人が28.7%と最も高い。一方で、「食育に関心がない」と回答した人は、『参加している』と回答した割合は2.6%に留まる。

【20歳以上】



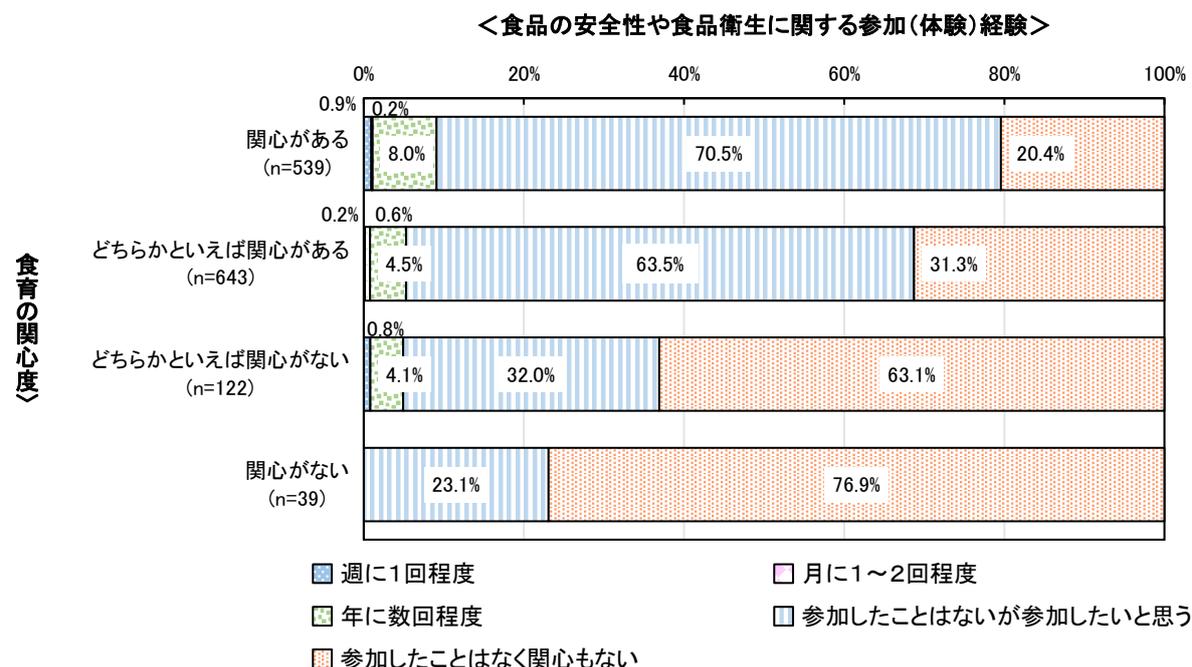
「環境保全に関する参加（体験）経験」と「食育の関心度」とでみると、「食育に関心がある」人は『参加している』（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」＋「年に数回程度」）と回答した人が14.7%と最も高い。一方で、「食育に関心がない」と回答した人は、参加（体験）経験がある人はいなかった。

【20歳以上】



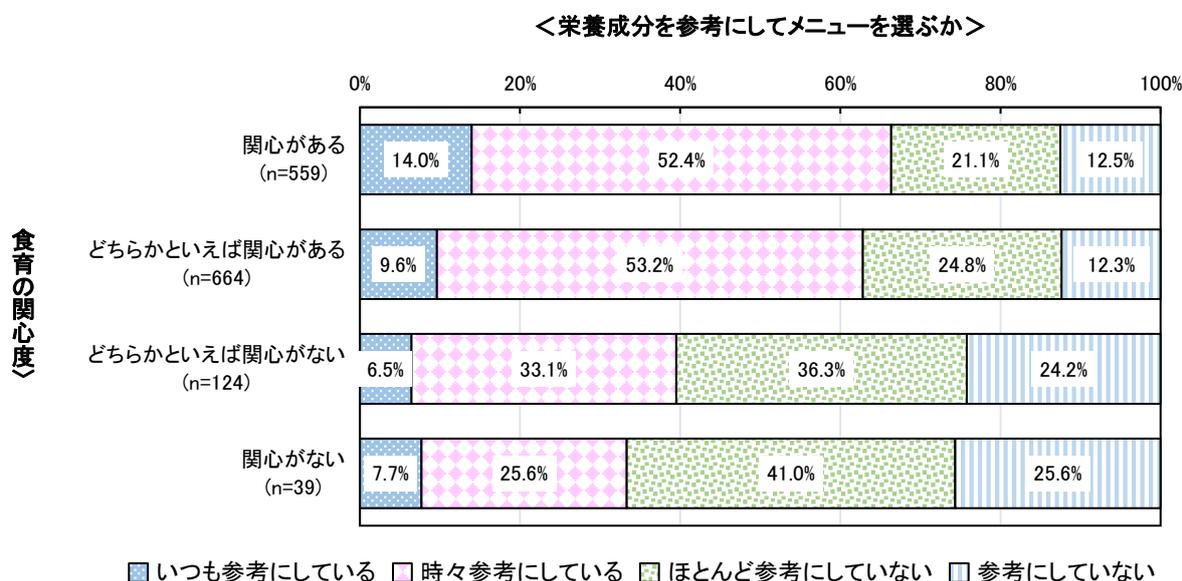
「食品の安全性や食品衛生に関する参加（体験）経験」と「食育の関心度」とでみると、「食育に関心がある」人は『参加している』（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」＋「年に数回程度」）と回答した人が9.1%と最も高い。一方で、「食育に関心がない」と回答した人は、参加（体験）経験がある人はいなかった。

【20歳以上】



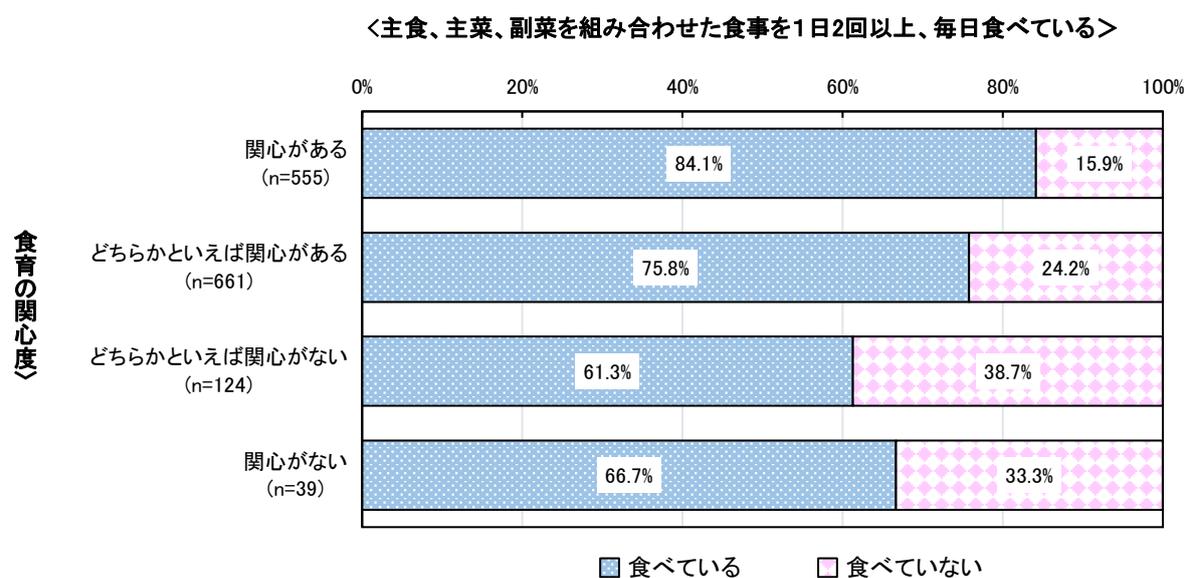
「栄養成分を参考にしてメニューを選ぶか」と「食育の関心度」でみると、「食育に関心がある」人は『参考にしている』（「いつも参考にしている」＋「時々参考にしている」）と回答した人が66.4%と最も高い。一方で、「食育に関心がない」と回答した人は『参考にしている』と回答した割合は33.3%に留まる。

【20歳以上】



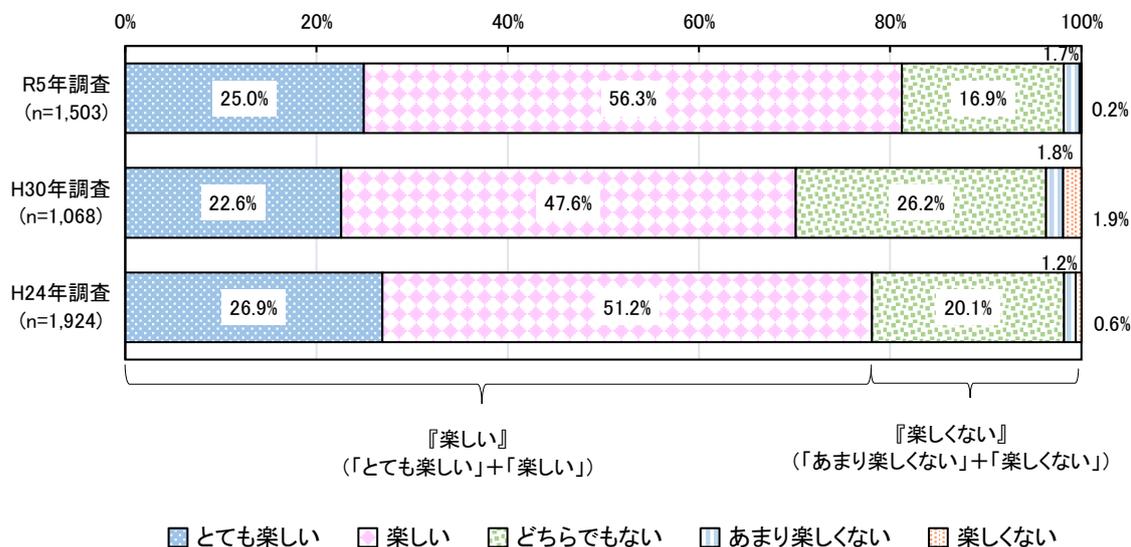
「主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、毎日食べている」と「食育の関心度」でみると、「食育に関心がある」人は「食べている」と回答した人が84.1%と最も高い。一方で、「食育にどちらかといえば関心がない」、「関心がない」と回答した人は、「食べていない」と回答した割合が3割を超える。

【20歳以上】



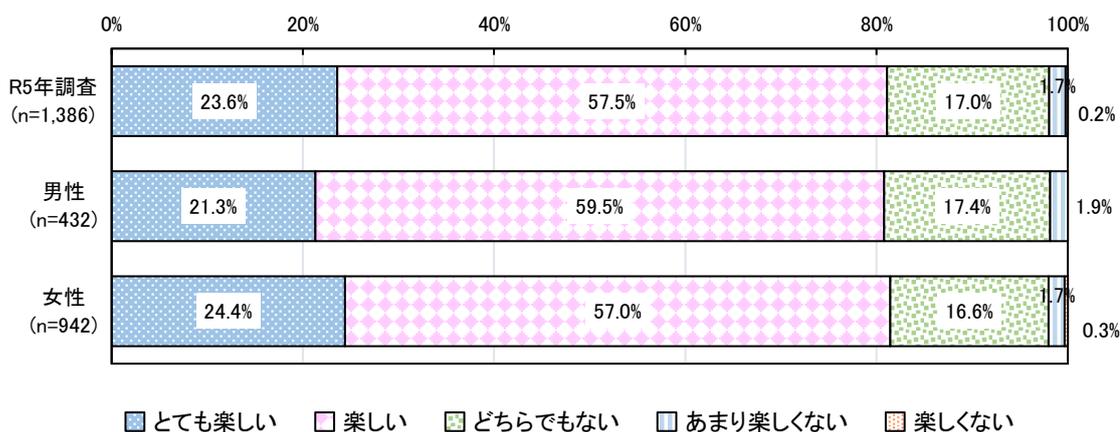
■食事のとき楽しいですか 〈15歳以上〉

食事のとき「とても楽しい」と回答した人は25.0%、「楽しい」と回答した人は56.3%と、合わせて81.3%が『楽しい』としている。平成30年調査と比較して、『楽しい』と回答した人は11.1ポイント上回り、増加傾向である。



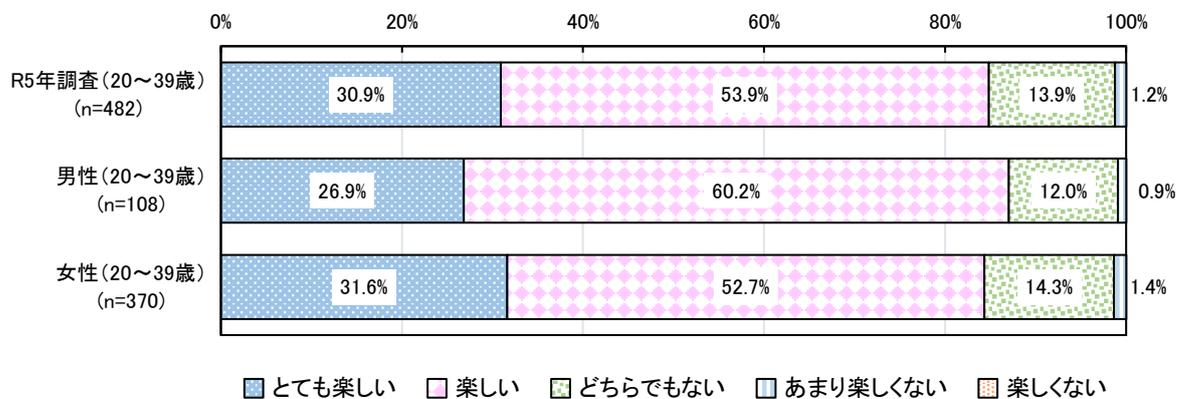
20歳以上でみると、全体では『楽しい』と回答した人は81.1%となった。性別でみると、「とても楽しい」と回答した人は女性が男性を3.1ポイント上回る。

【20歳以上】



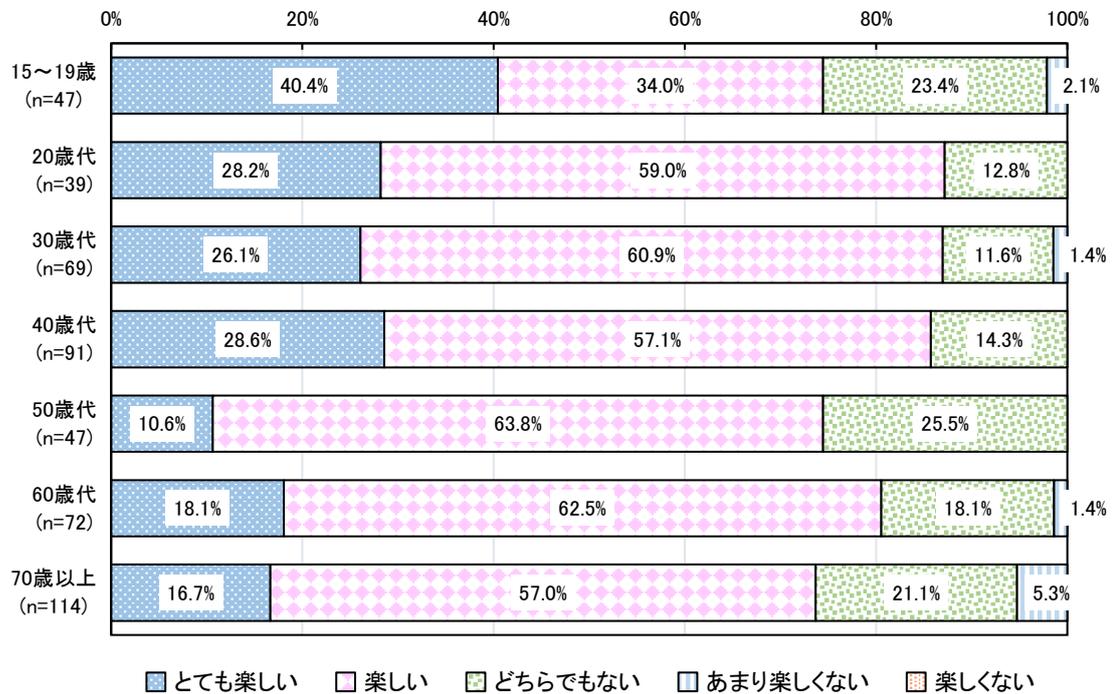
若い世代（20～39歳）で見ると、全体では『楽しい』と回答した人は84.8%となった。性別で見ると、男性は『楽しい』と回答した人が87.1%、女性は84.3%となり、男性が2.8ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】

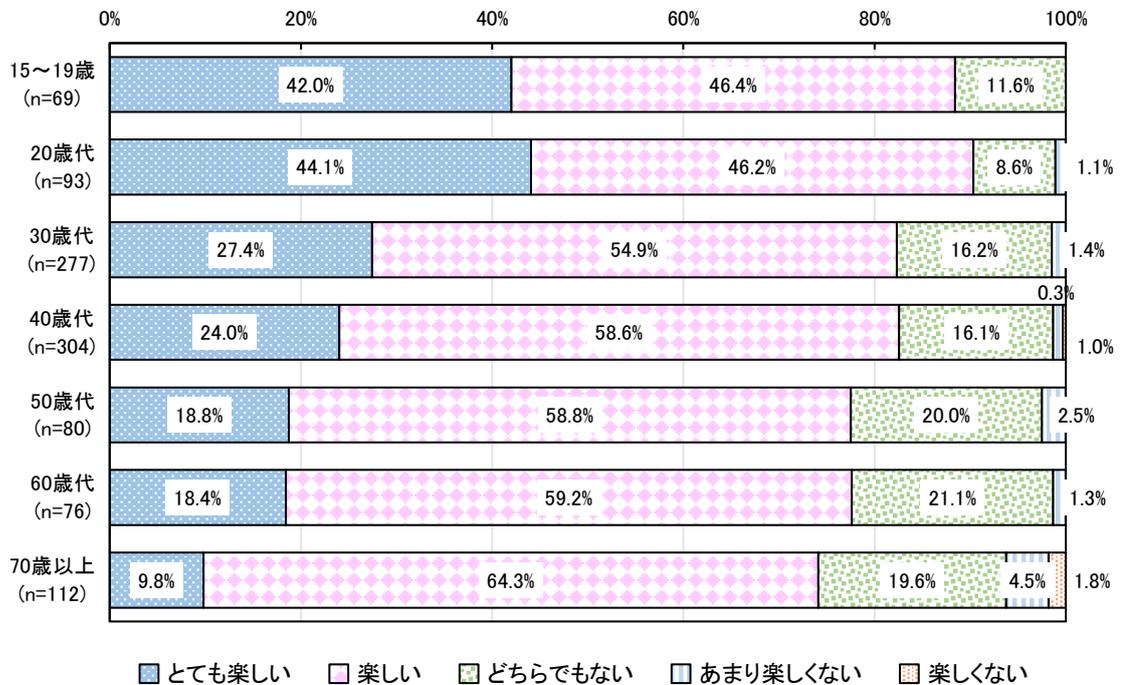


性・年齢別で見ると、『楽しい』人の割合は、男女ともに全ての年代で7割を超えている。20歳代では『楽しい』人の割合が、男性87.2%、女性90.3%と他の世代と比較して最も高い。

【15歳以上（男性）】

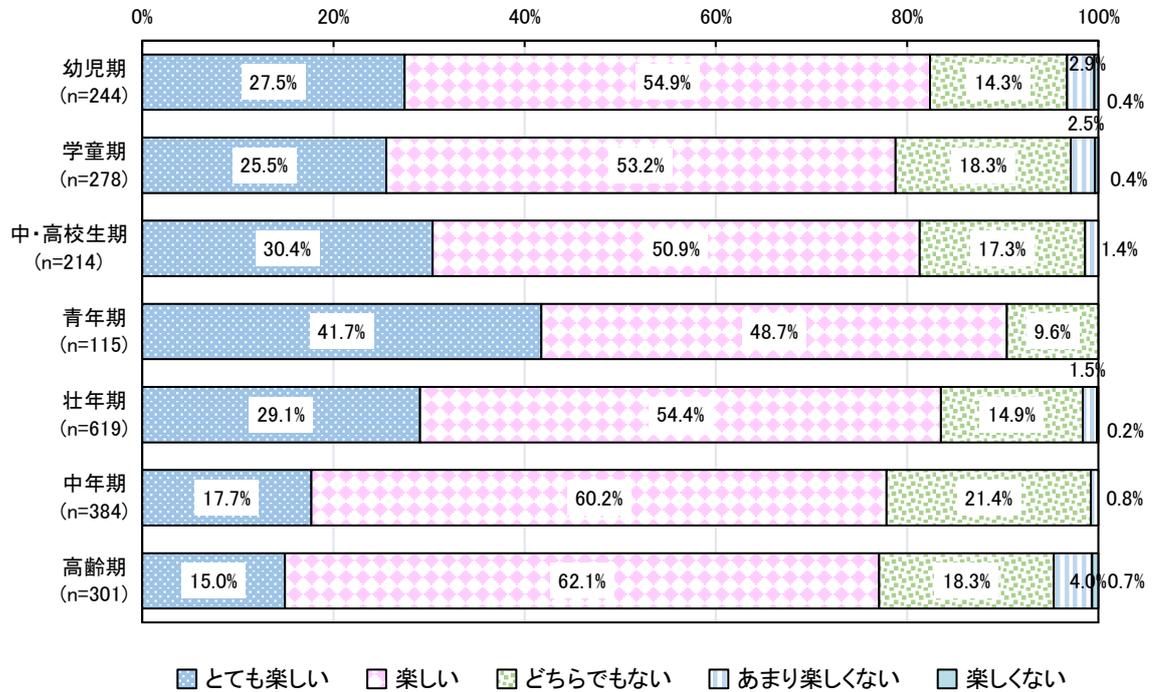


【15歳以上（女性）】



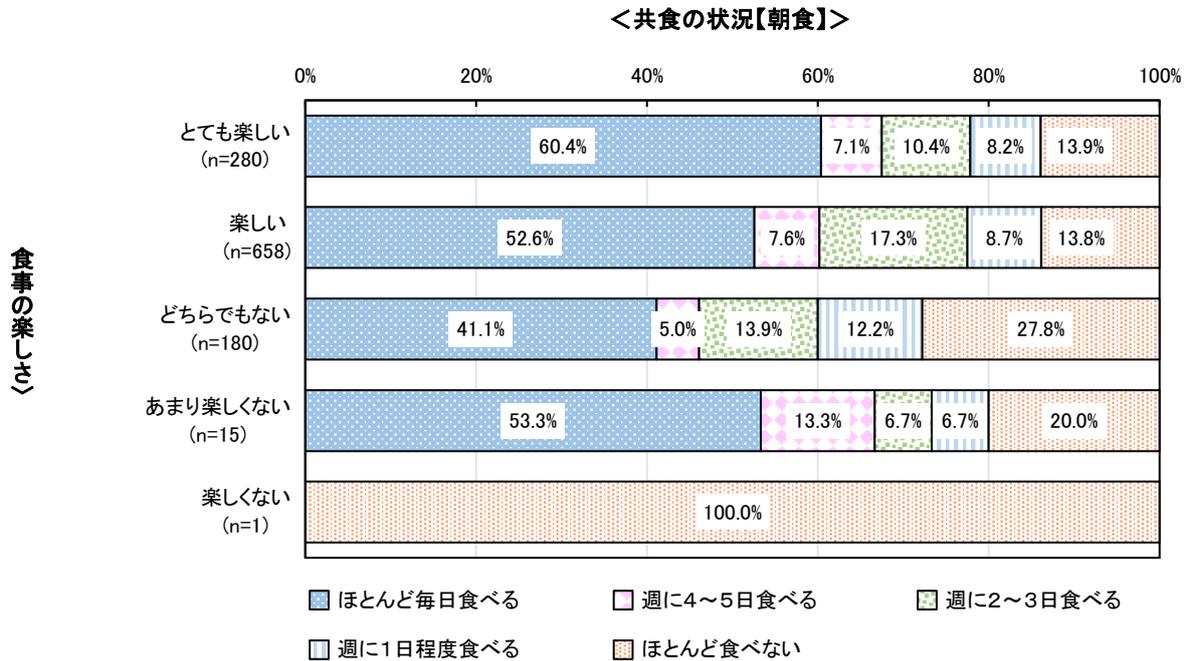
ライフステージ別でみると、『楽しい』人の割合は、青年期の90.4%が最も高く、幼児期、中・高校生期、壮年期でも『楽しい』と回答した人は8割を超えている。食事が『楽しい』と回答した人の割合は、青年期以降ではライフステージが上がるにつれ低くなる傾向がみられる。

【1歳以上】



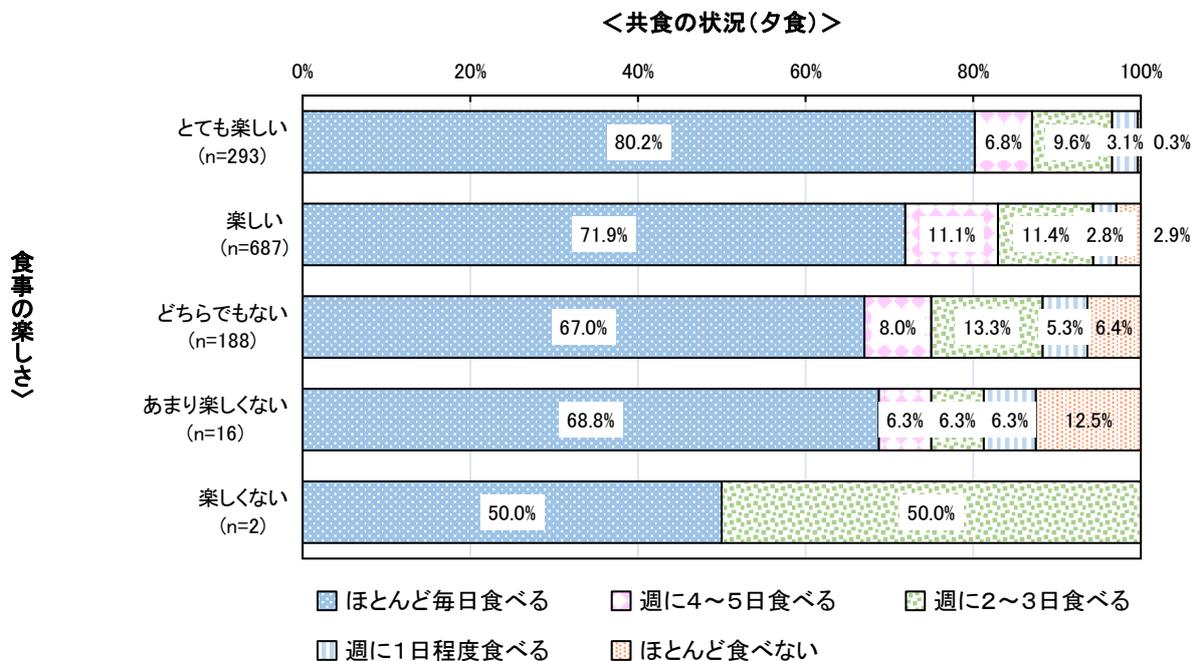
「共食の状況（朝食）」と「食事の楽しさ」でみると、「とても楽しい」と答えた人は「ほとんど毎日食べる（共食ができています）」と回答した人が60.4%と最も高い。

【20歳以上】



「共食の状況（夕食）」と「食事の楽しさ」でみると、「とても楽しい」と答えた人は「ほとんど毎日食べる（共食ができています）」と回答した人が80.2%と最も高い。

【20歳以上】



◎ 「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる」共食の回数の増加

「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる」共食の回数は1週間で10.4回となり、平成30年調査と比較して増加した。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)
○「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる」共食の回数の増加 ※1週間のうち朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数	10回	10回	9回	10.4回

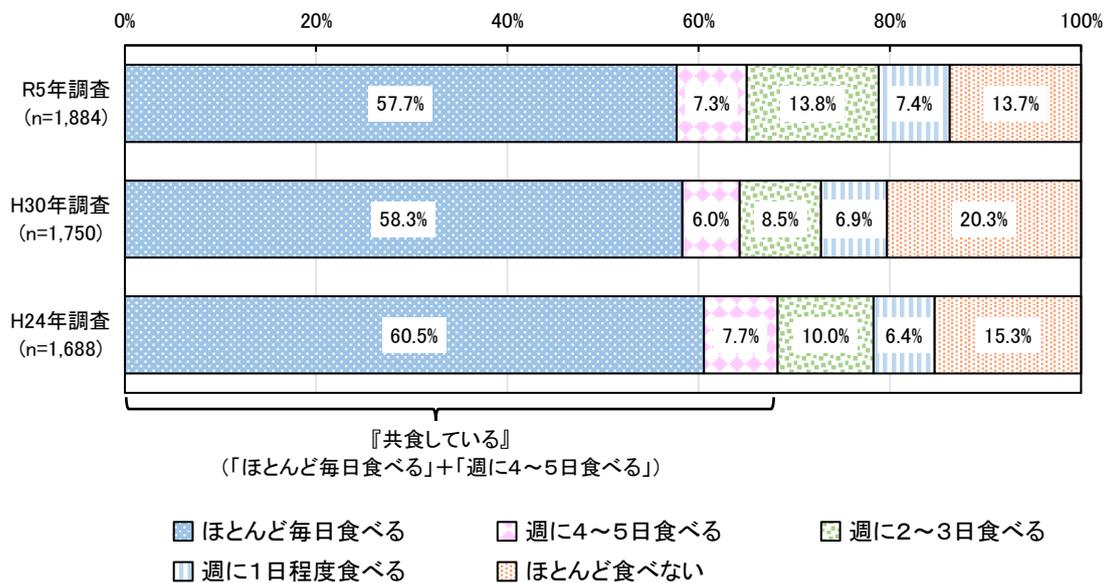
※20歳以上の回答者で、朝食・夕食それぞれで「ほとんど毎日食べる」を7回、「週に4～5日食べる」を4.5回、「週に2～3日食べる」を2.5回、「週に1日食べる」を1回、「ほとんど食べない」を0回とし、各選択肢の回答者数と乗じたものの合計を回答者数の総数で割り、朝食・夕食の平均回数を算出。朝食・夕食の平均回数を足し合わせた数値を共食の回数としている。

<調査結果>

■朝食を家族と一緒に食べる頻度 〈1歳以上〉

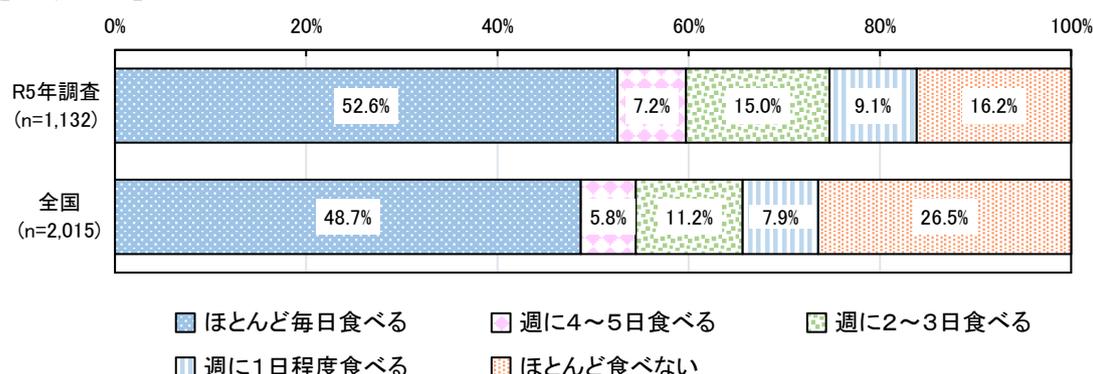
朝食を家族と一緒に食べる頻度は、「ほとんど毎日食べる」は57.7%、「週に4～5日食べる」は7.3%と、合わせて65.0%が『共食している』。平成30年調査と比較して、『共食している』（「ほとんど毎日食べる」＋「週に4～5日食べる」）の割合に大きな差はみられないものの、「ほとんど食べない」は前回は6.6ポイント下回り、「週に2～3日食べる」は5.3ポイント上回る。

【1歳以上】



20歳以上でみると、『共食している』人の割合は、全国と比較して5.3ポイント上回る。

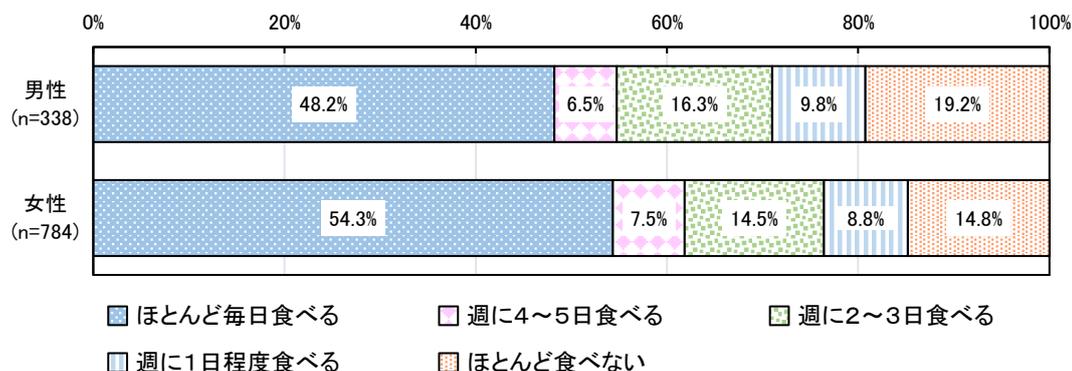
【20歳以上】



※農林水産省「食育に関する意識調査」(R5年3月)

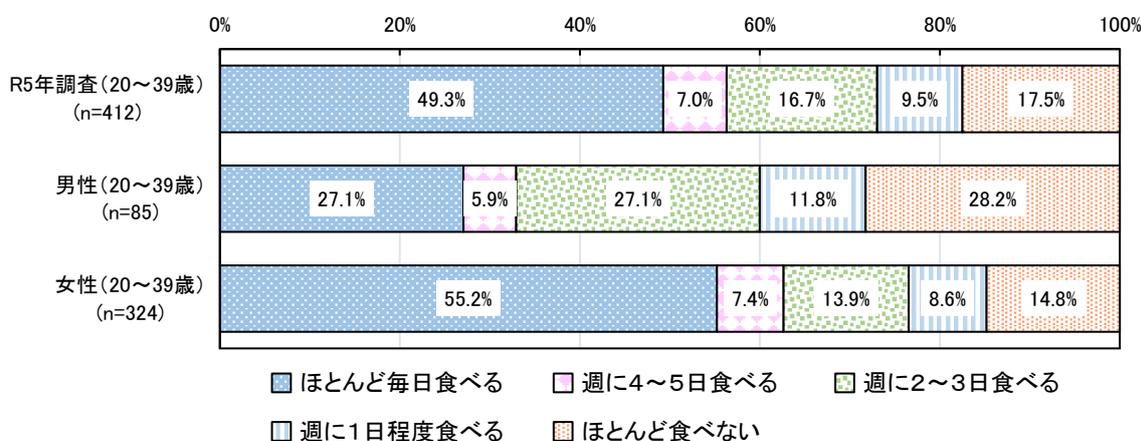
性別でみると、『共食している』人の割合は、女性が男性を7.1ポイント上回る。

【20歳以上】



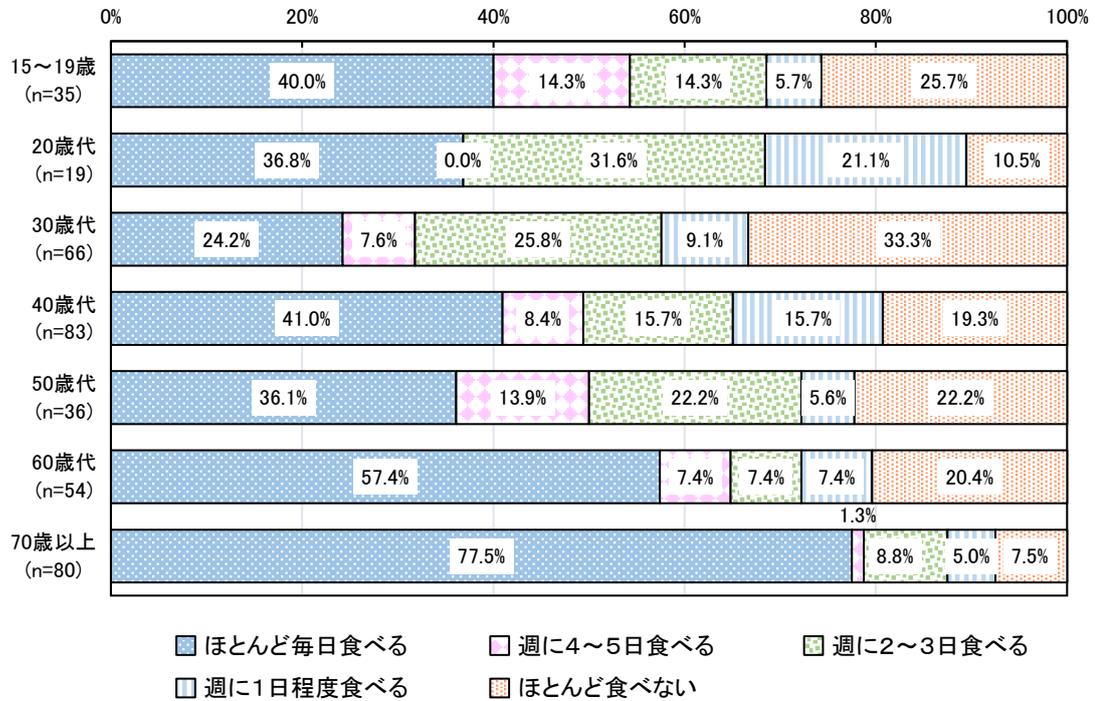
若い世代(20~39歳)でみると、『共食している』人の割合は、全体では56.3%となった。性別でみると、男性は33.0%、女性は62.6%と女性が男性を29.6ポイント上回る。

【若い世代(20~39歳)】

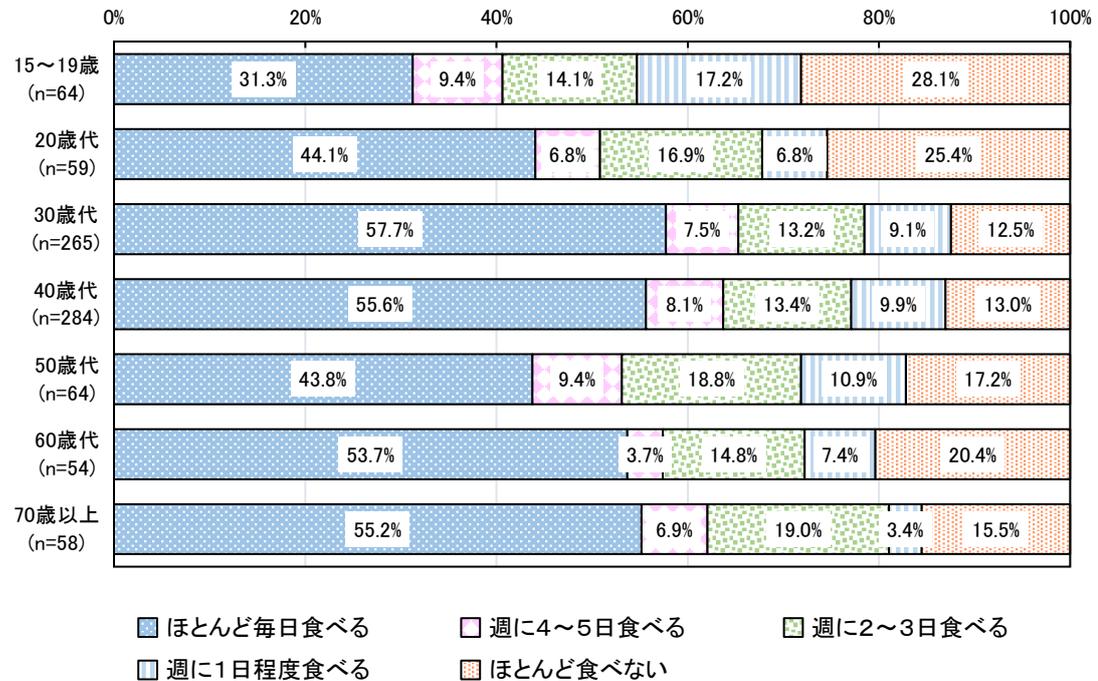


性・年齢別でみると、『共食している』人の割合は、男性では70歳以上の78.8%が最も高く、30歳代の31.8%が最も低い。一方女性は、30歳代の65.2%が最も高く、15～19歳の40.7%が最も低い。

【15歳以上（男性）】

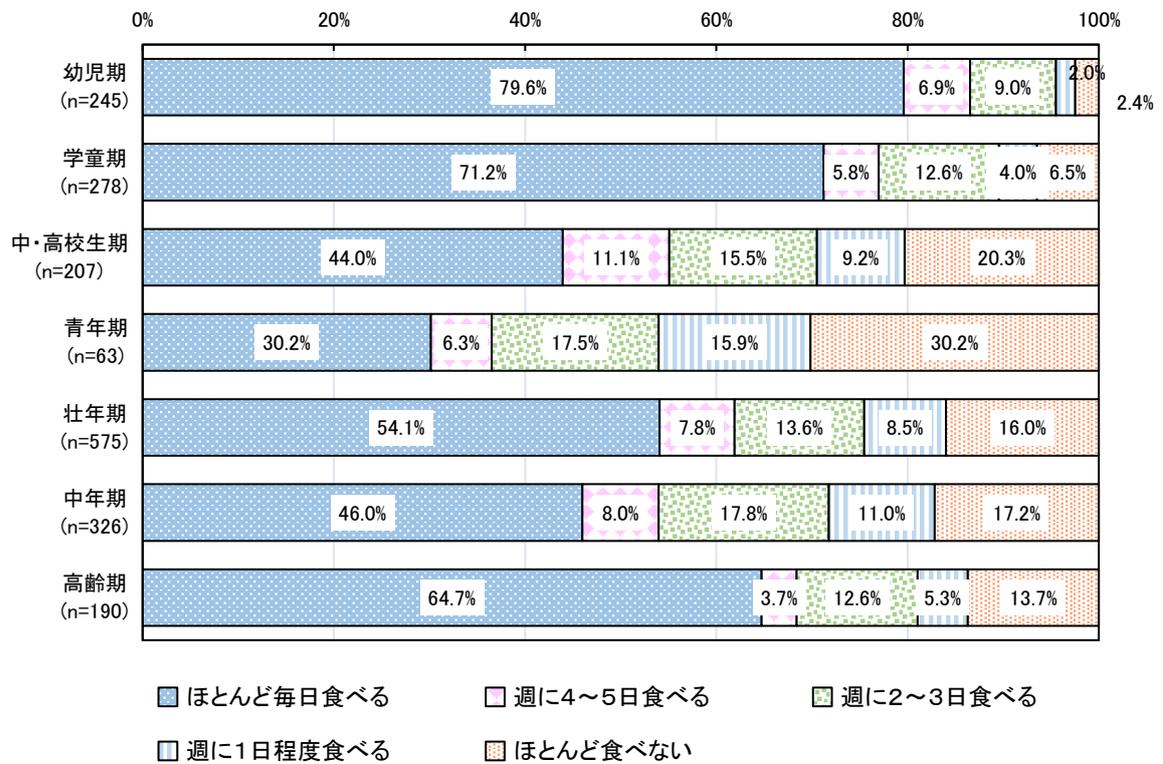


【15歳以上（女性）】



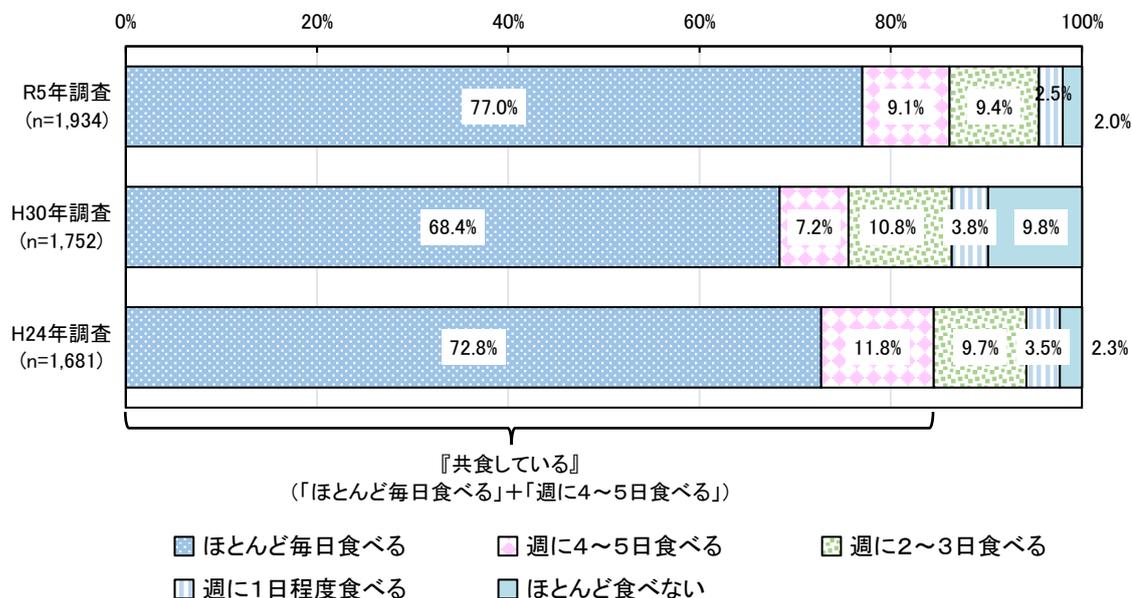
ライフステージ別でみると、『共食している』人の割合は、幼児期 86.5%が最も高く、青年期 36.5%が最も低い。

【1歳以上】



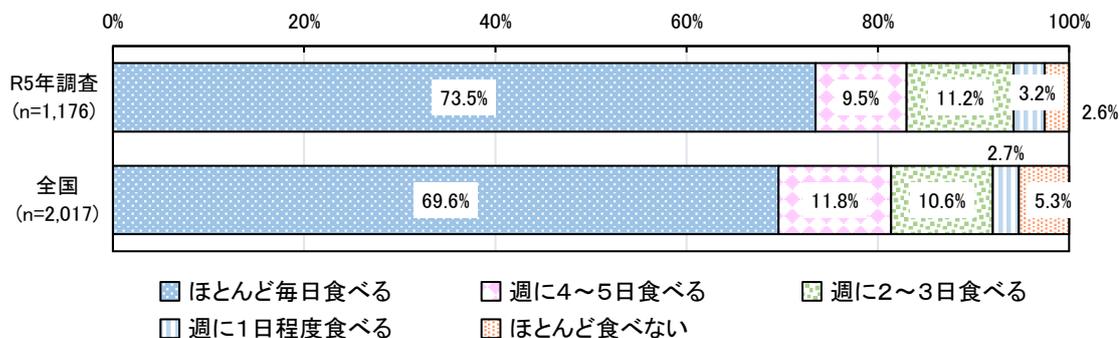
■夕食を家族と一緒に食べる頻度 〈1歳以上〉

夕食を家族と一緒に食べる頻度は、「ほとんど毎日食べる」は77.0%、「週に4～5日食べる」は9.1%と、合わせて86.1%が『共食している』。平成30年調査と比較して、『共食している』（「ほとんど毎日食べる」+「週に4～5日食べる」）は10.5ポイント上回り、増加傾向である。



20歳以上で見ると、『共食している』人の割合は、全国と比較して1.6ポイント上回る。

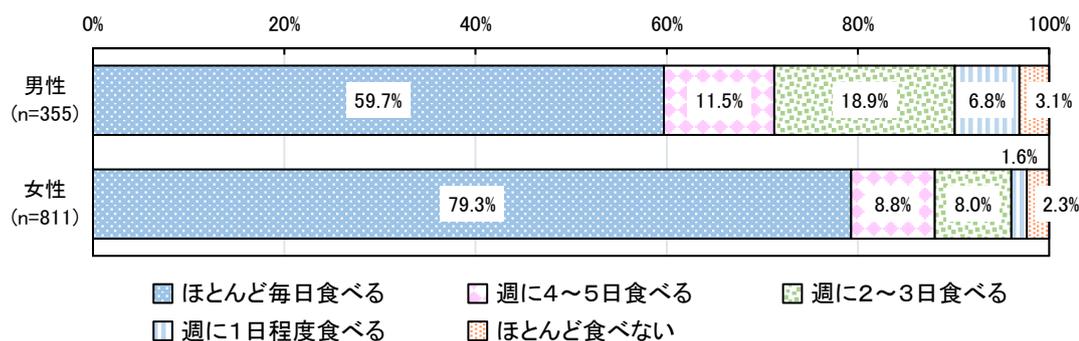
【20歳以上】



※農林水産省「食育に関する意識調査」(R5年3月)

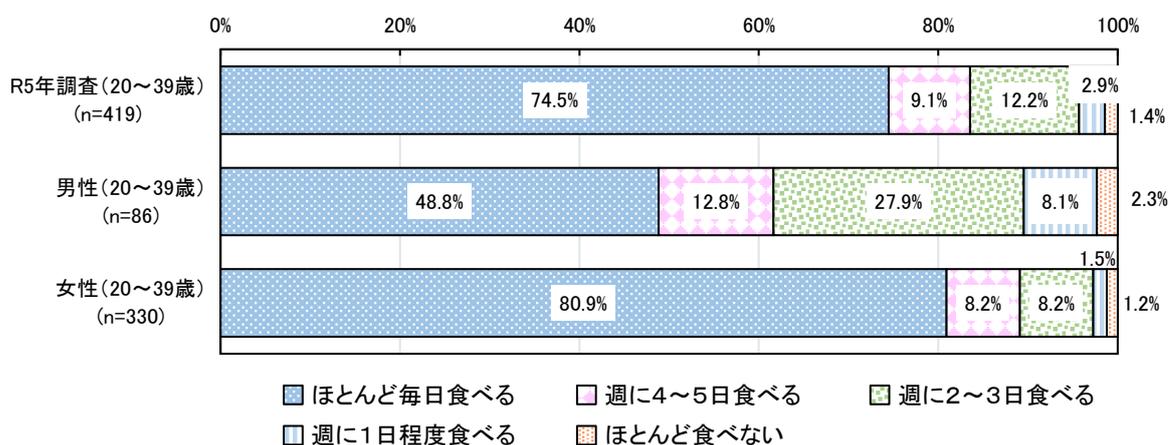
性別でみると、『共食している』人の割合は、女性が男性を 16.9 ポイント上回る。

【20 歳以上】



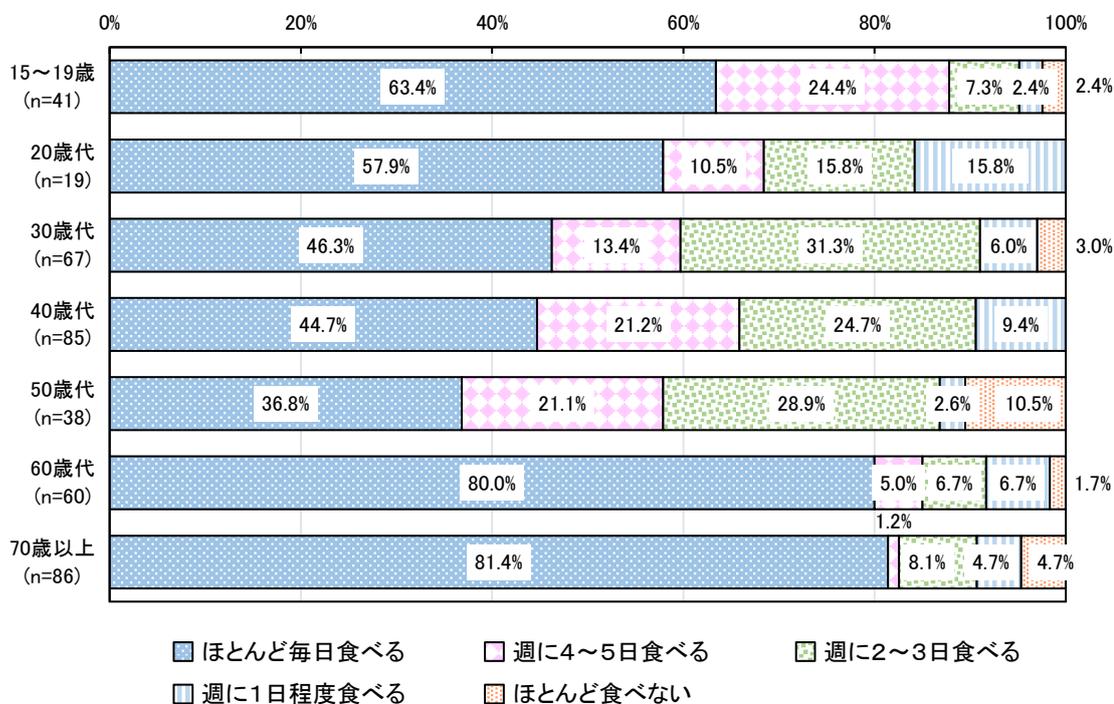
若い世代（20～39 歳）でみると、『共食している』人の割合は、全体では 83.6% となった。性別でみると、男性は 61.6%、女性は 89.1% となり、女性が男性を 27.5 ポイント上回る。

【若い世代（20～39 歳）】

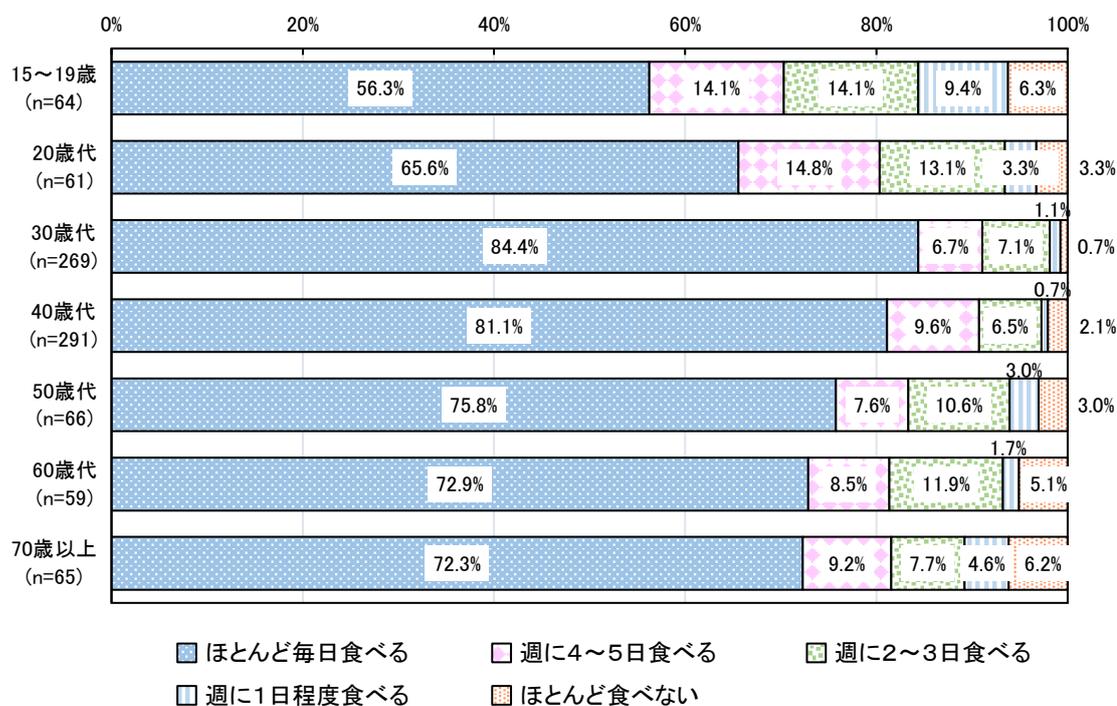


性・年齢別でみると、『共食している』人の割合は、男性では15～19歳代の87.8%が最も高く、50歳代の57.9%が最も低い。一方女性は、30歳代の91.1%が最も高く、15～19歳の70.4%が最も低い。

【15歳以上（男性）】

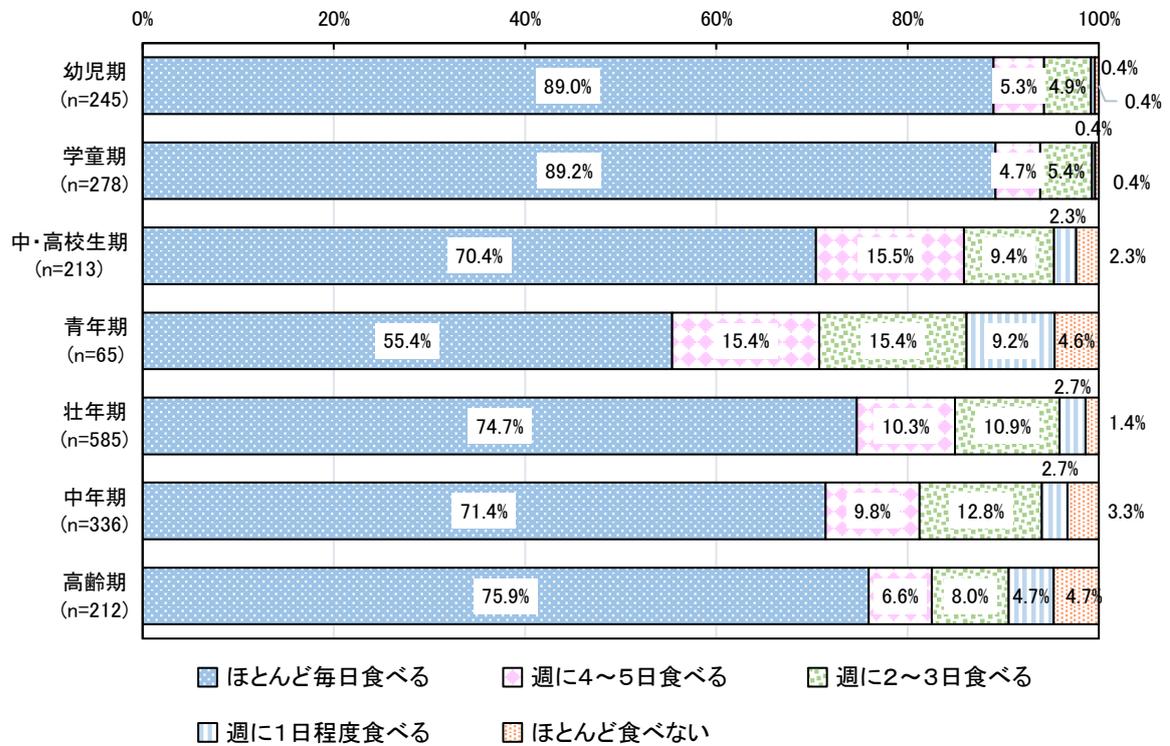


【15歳以上（女性）】



ライフステージ別でみると、『共食している』人の割合は、幼児期 94.3%が最も高く、次いで学童期 93.9%となった。一方、最も低いのは青年期で 70.8%であった。

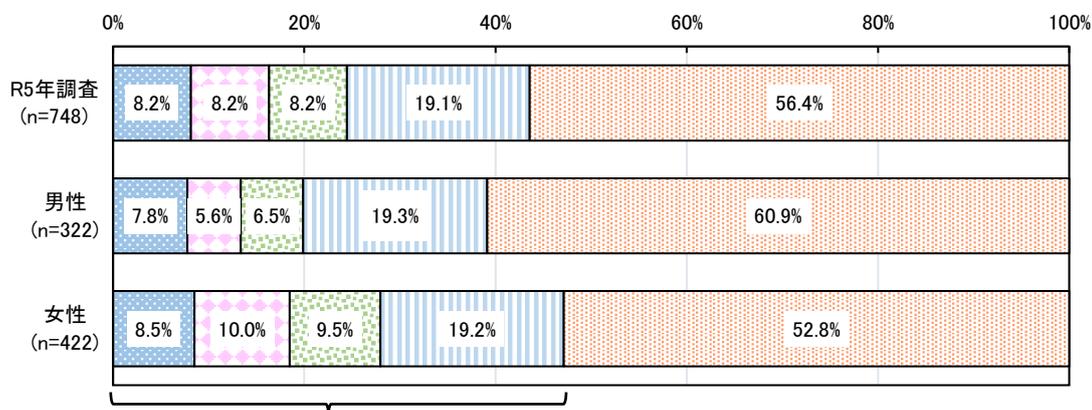
【1歳以上】



■友人や仲間、職場や地域の方と一緒に食事をする機会 〈20歳以上〉

友人や仲間、職場や地域の方と一緒に食事をする機会について、「週に1回程度以上ある」と回答した人は43.7%、「ほとんどない」は56.4%で、半数以上が共食の機会はないと回答している。

性別でみると、「共食の機会がほとんどない」は男性が女性を8.1ポイント上回る。



『共食の機会がある』
 (「ほとんど毎日ある」+「週に4～5日ある」+「週に2～3日ある」+「週に1日程度ある」)

■ ほとんど毎日ある □ 週に4～5日ある ■ 週に2～3日ある □ 週に1日程度ある ■ ほとんどない

若い世代(20～39歳)でみると、『共食の機会がある』(「ほとんど毎日ある」+「週に4～5日ある」+「週に2～3日ある」+「週に1日程度ある」)人の割合は、全体では65.8%となった。性別でみて大きな差はみられない。

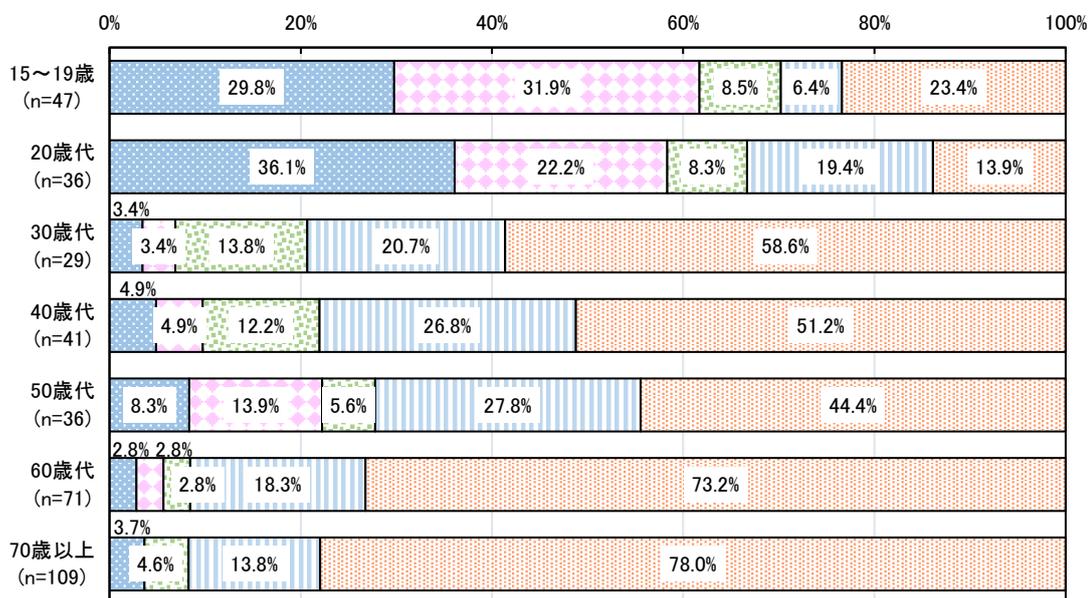
【若い世代(20～39歳)】



■ ほとんど毎日ある □ 週に4～5日ある ■ 週に2～3日ある □ 週に1日程度ある ■ ほとんどない

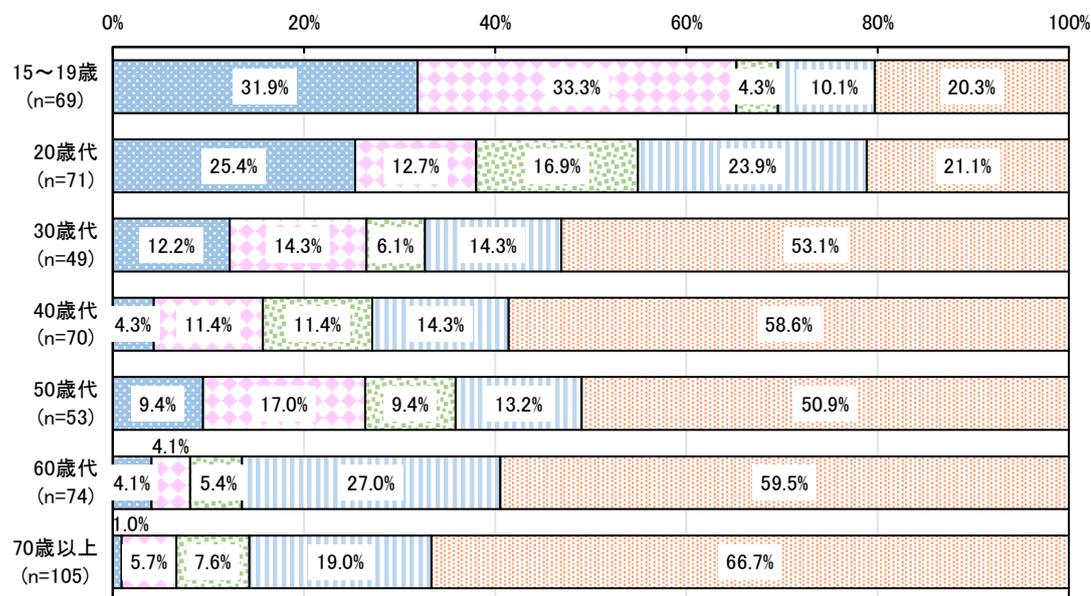
性・年齢別でみると、『共食の機会がある』人の割合は、男性は20歳代、女性は15～19歳が最も高い。最も低いのは男女とも70歳以上であった。

【15歳以上（男性）】



■ ほとんど毎日ある □ 週に4～5日ある ■ 週に2～3日ある □ 週に1日程度ある ■ ほとんどない

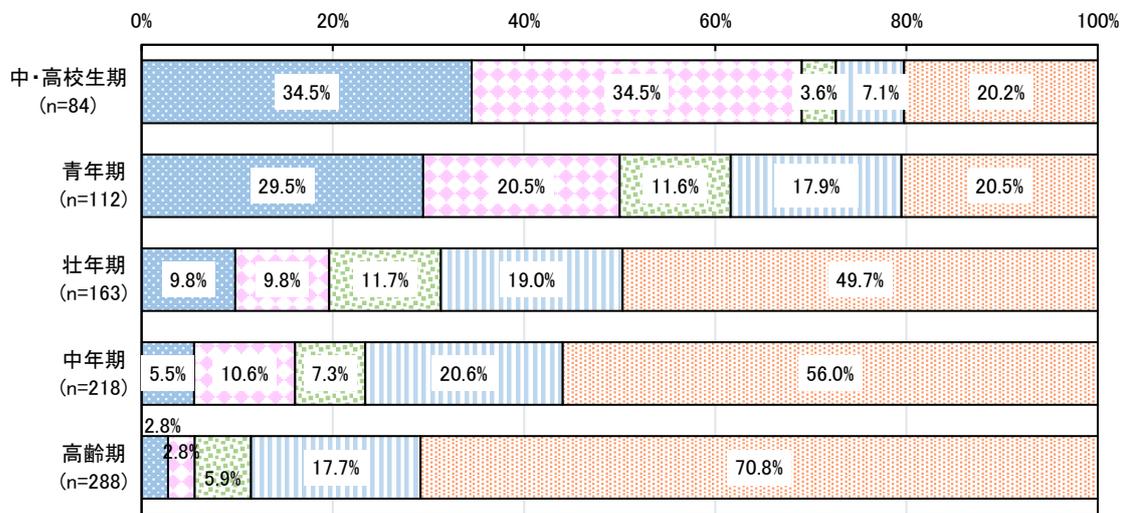
【15歳以上（女性）】



■ ほとんど毎日ある □ 週に4～5日ある ■ 週に2～3日ある □ 週に1日程度ある ■ ほとんどない

ライフステージ別でみると、『共食の機会がある』人の割合は、中高生期 79.7%が最も高く、次いで青年期 79.5%となった。一方、最も低いのは高齢期で 29.2%であった。

【15歳以上】



■ ほとんど毎日ある
 ■ 週に4~5日ある
 ■ 週に2~3日ある
 ■ 週に1日程度ある
 ■ ほとんどない

◎ 1週間あたりの朝食の欠食率

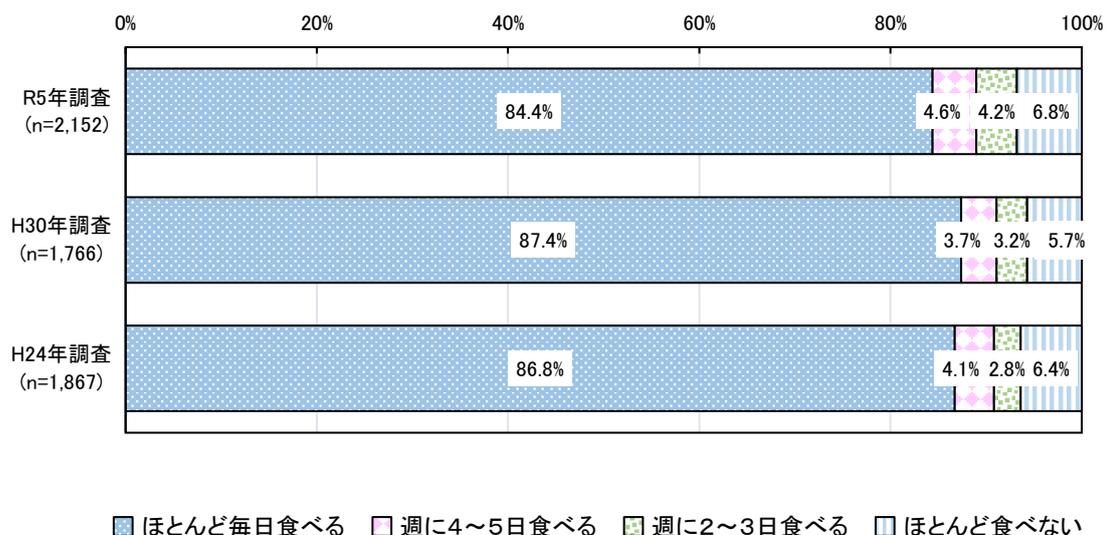
平成30年調査と比較して、幼児期（1歳～5歳）では朝食を毎日食べている割合が前回をわずかに下回った。その他の世代では、朝食の欠食率についていずれも減少がみられ、若い世代（20～39歳）では前回は5.2ポイント下回り目標に近付いた。

項目		(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○1週間あたりの朝食の欠食率 ※幼児期は毎日食べている割合	幼児期 (1歳～5歳)	95.3%	96.2%	97.3%	96.7%	100.0%
	若い世代 【20歳代・30歳代】	29.4%	22.6%	18.5%	13.3%	10%以下
	65歳以上	3.7%	1.8%	3.4%	2.3%	0.0%

<調査結果>

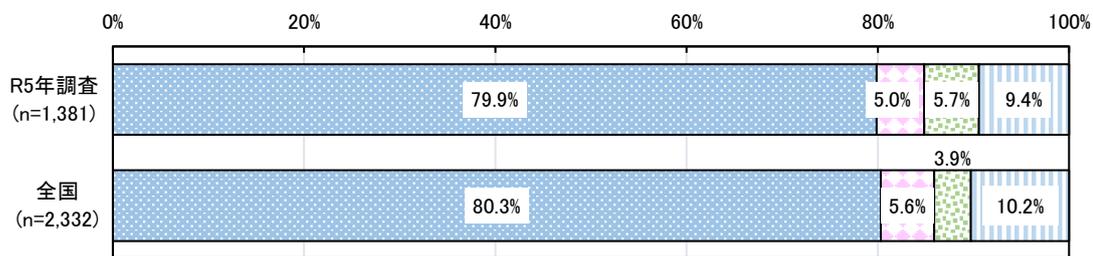
■ 1週間あたりの朝食を食べる頻度 〈1歳以上〉

1週間あたりの朝食を食べる頻度について、「ほとんど毎日食べる」人の割合は84.4%となった。一方、「ほとんど食べない」は6.8%であった。平成30年調査と比較すると、「ほとんど毎日食べる」は3.0ポイント下回り、「ほとんど食べない」が1.1ポイント上回る。



20歳以上でみると、「ほとんど食べない」とする朝食の欠食率は9.4%であった。全国との比較で大きな差はみられない。

【20歳以上】

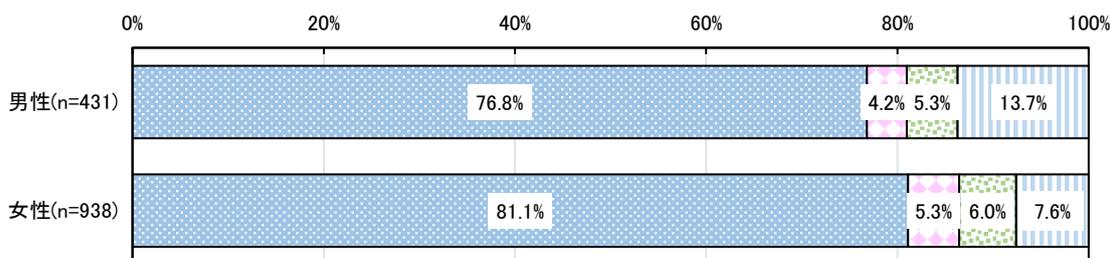


■ほとんど毎日食べる □週に4~5日食べる □週に2~3日食べる □ほとんど食べない

※農林水産省「食育に関する意識調査」(R5年3月)

性別でみると、「ほとんど毎日食べる」人の割合は、女性が男性より4.3ポイント上回る。「ほとんど食べない」人の割合は、男性が女性を6.1ポイント上回る。

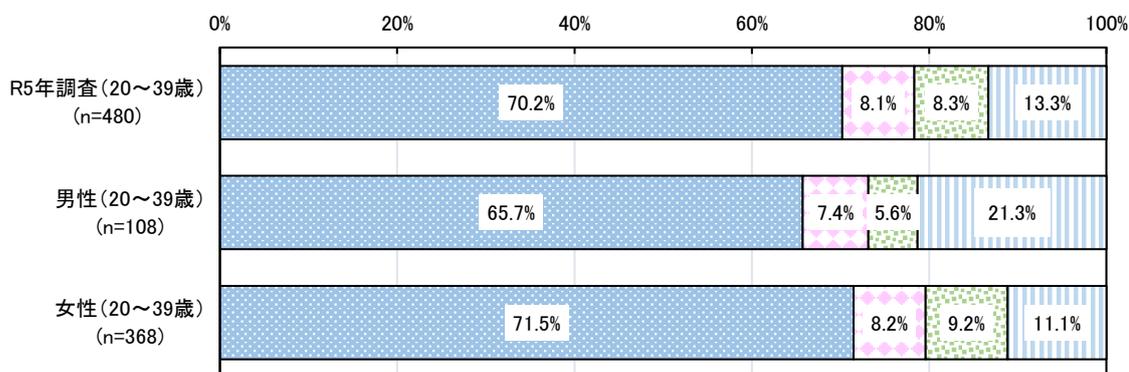
【20歳以上】



■ほとんど毎日食べる □週に4~5日食べる □週に2~3日食べる □ほとんど食べない

若い世代(20~39歳)でみると、「ほとんど毎日食べる」人の割合は、全体では70.2%となった。性別でみると、「ほとんど毎日食べる」人の割合は、男性65.7%、女性71.5%となり、女性が男性を5.8ポイント上回る。「ほとんど食べない」人の割合は、男性が女性を10.2ポイント上回る。

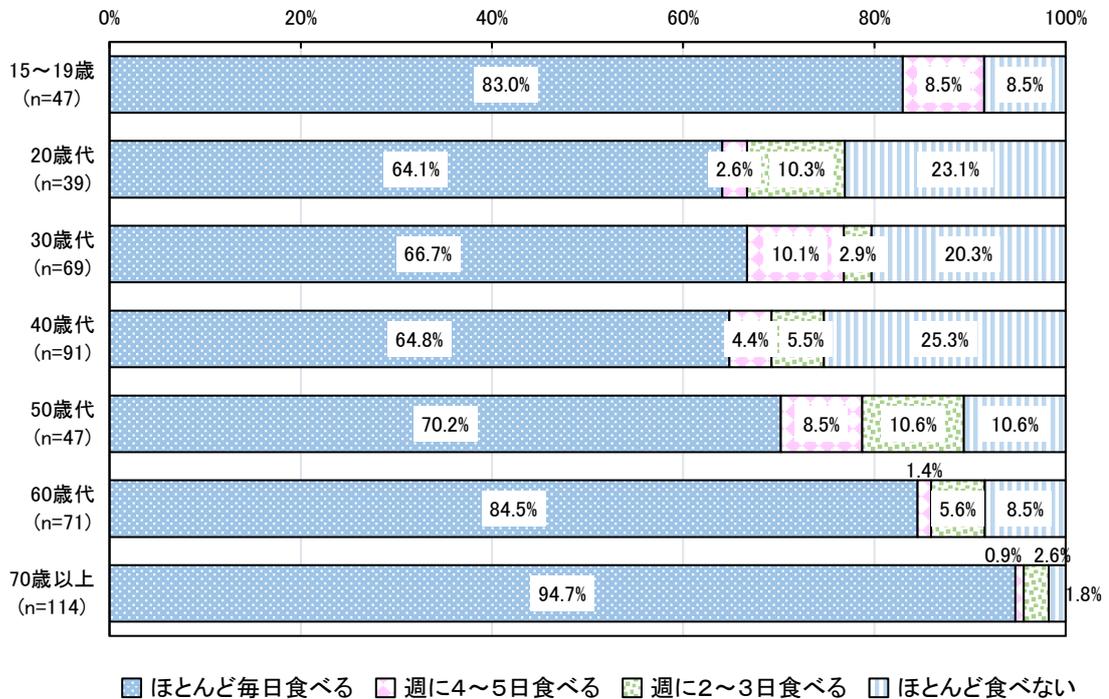
【若い世代(20~39歳)】



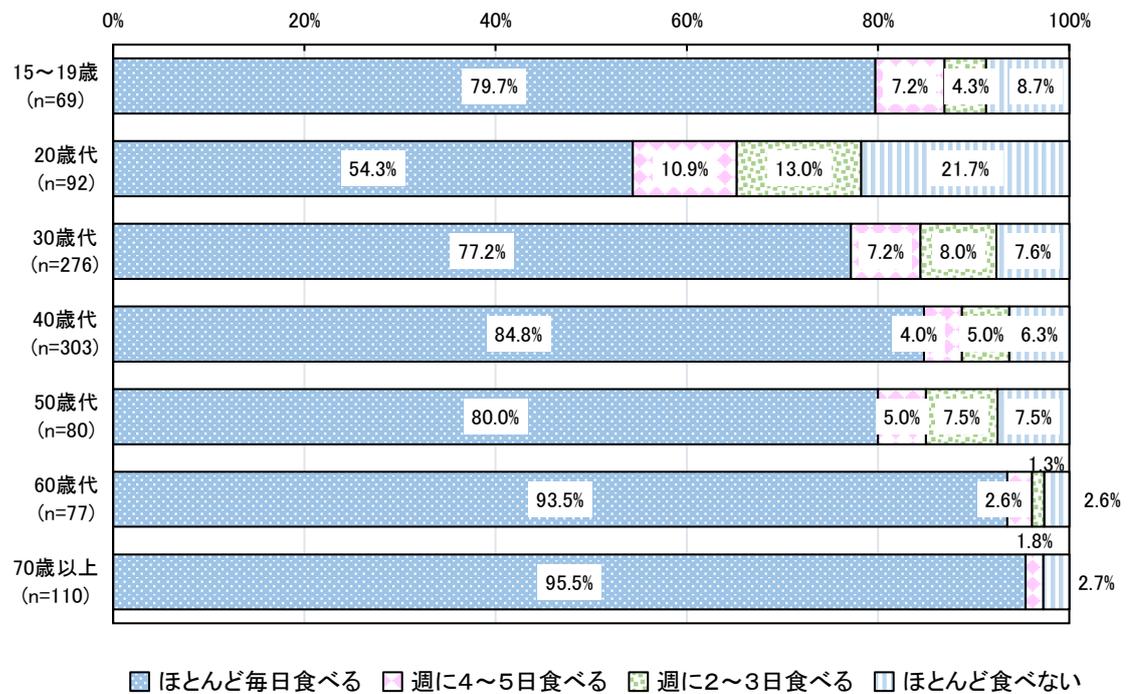
■ほとんど毎日食べる □週に4~5日食べる □週に2~3日食べる □ほとんど食べない

性・年齢別で見ると、「ほとんど毎日食べる」人の割合は、男女ともに70歳以上が最も高く、20歳代が最も低い。「ほとんど食べない」人の割合は、男性では40歳代の25.3%、女性では20歳代の21.7%が最も高い。

【15歳以上（男性）】

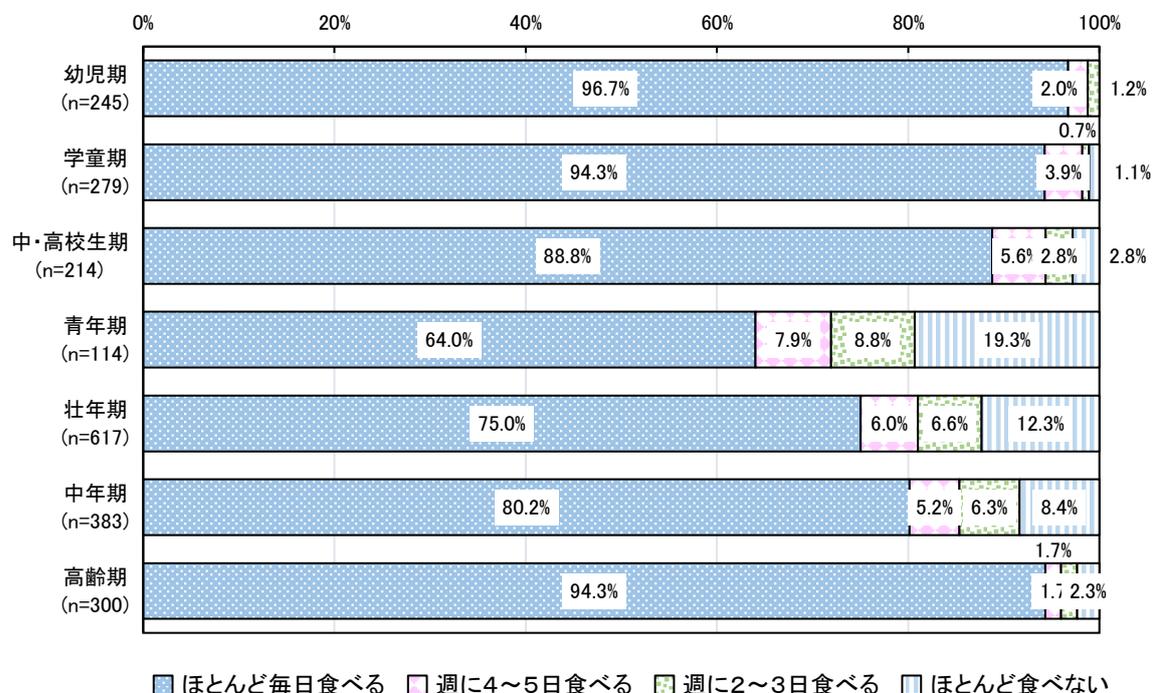


【15歳以上（女性）】



ライフステージ別で見ると、「ほとんど毎日食べる」人の割合は、幼児期、学童期、高齢期では9割を超えている。「ほとんど食べない」人の割合は、青年期の19.3%が最も高く、次いで壮年期の12.3%となった。

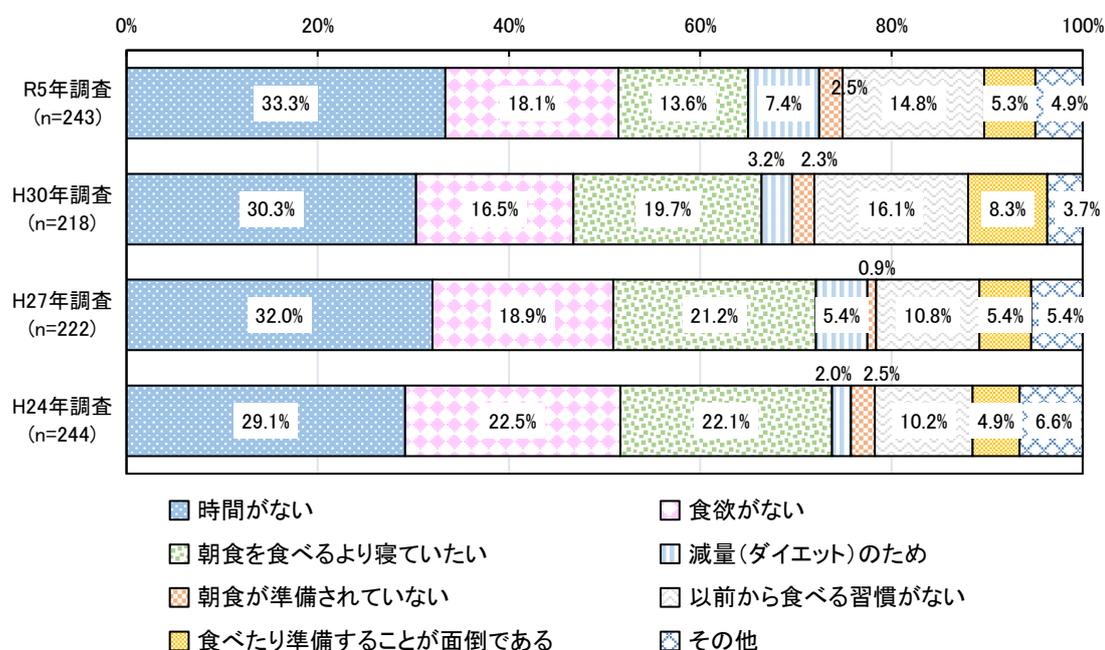
【1歳以上】



■朝食を食べない最も大きい理由 〈1歳以上〉

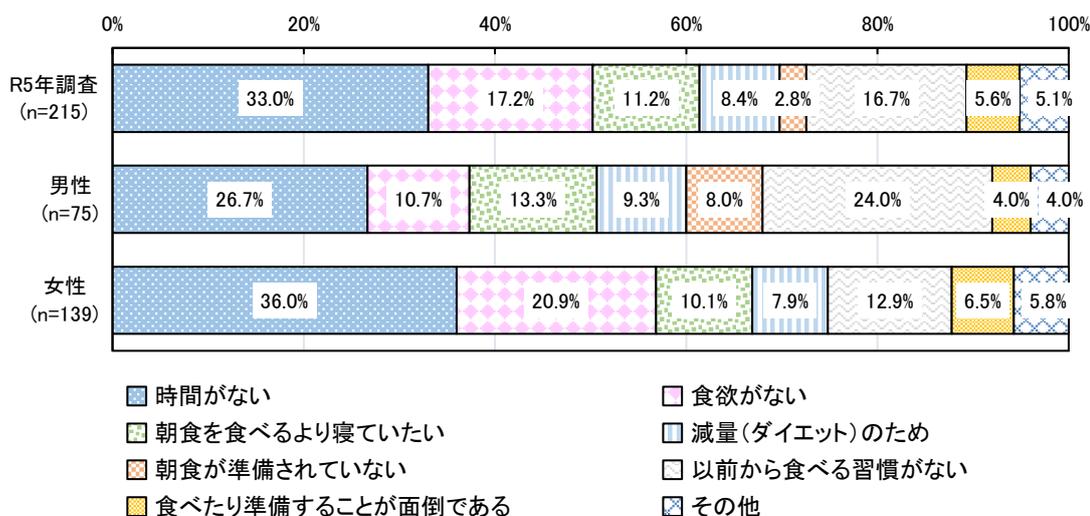
朝食を食べない最も大きい理由は、「時間がない」が33.3%で最も高く、次いで「食欲がない」18.1%、「以前から食べる習慣がない」14.8%の順となっている。

前回調査と比較して、「朝食を食べるより寝ていたい」は6.1ポイント下回り、一方で「減量（ダイエット）のため」は4.2ポイント上回る。



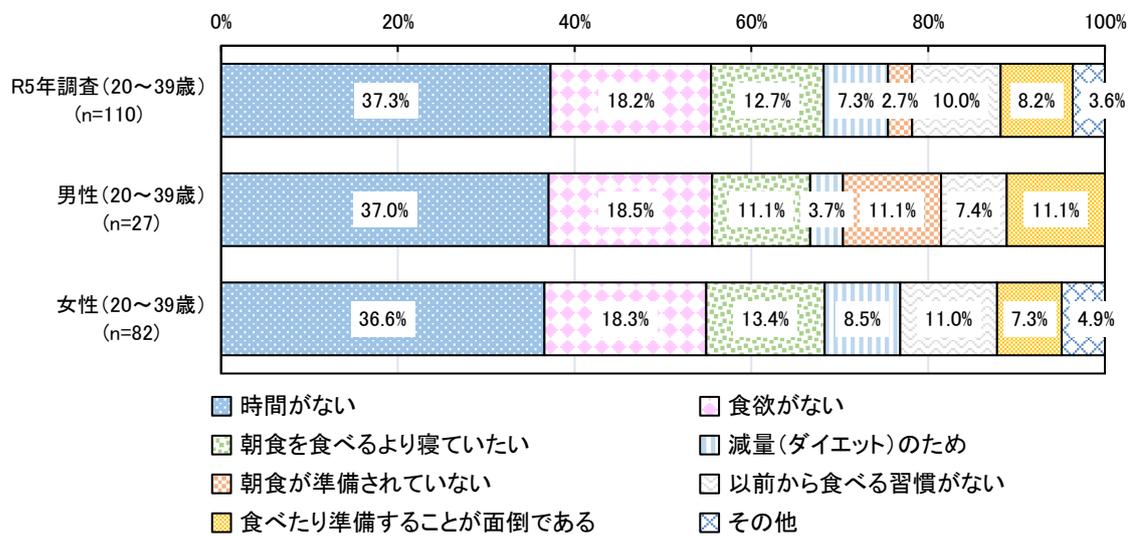
20歳以上でみると、全体では「時間がない」33.0%が最も高い。性別でみると、男性では「以前から食べる習慣がない」、女性では「食欲がない」と回答した割合がそれぞれを10.0ポイント以上上回る。

【20歳以上】



若い世代（20～39歳）でみると、全体では「時間がない」37.3%が最も高い。性別でみると、男性では「朝食が準備されていない」が女性を11.1ポイント上回り、女性では「減量（ダイエット）のため」と回答した割合が男性を4.8ポイント上回る。

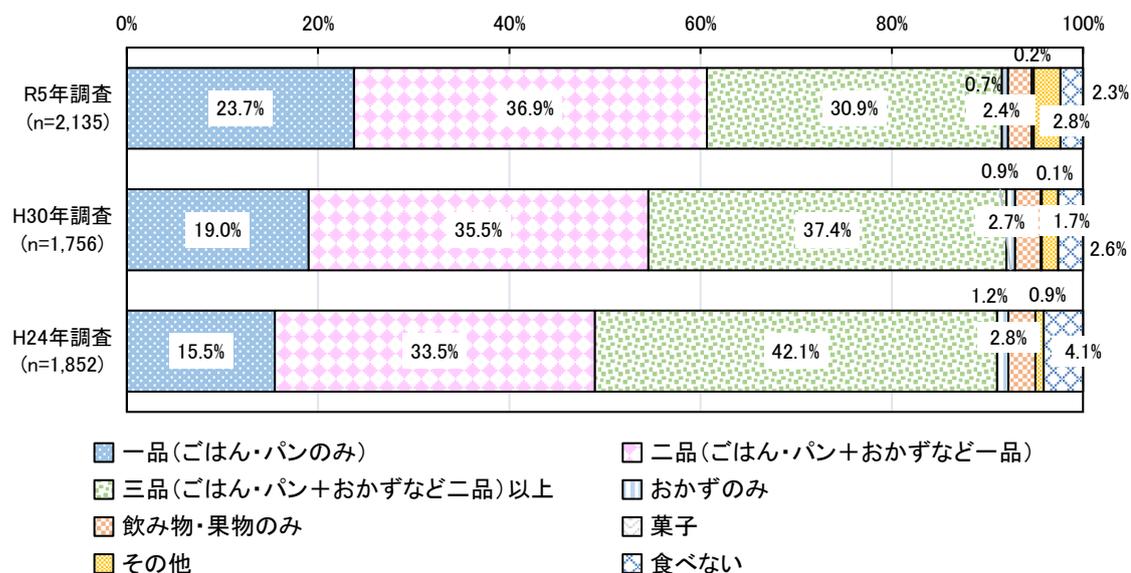
【若い世代（20～39歳）】



■朝食のメニュー 〈1歳以上〉

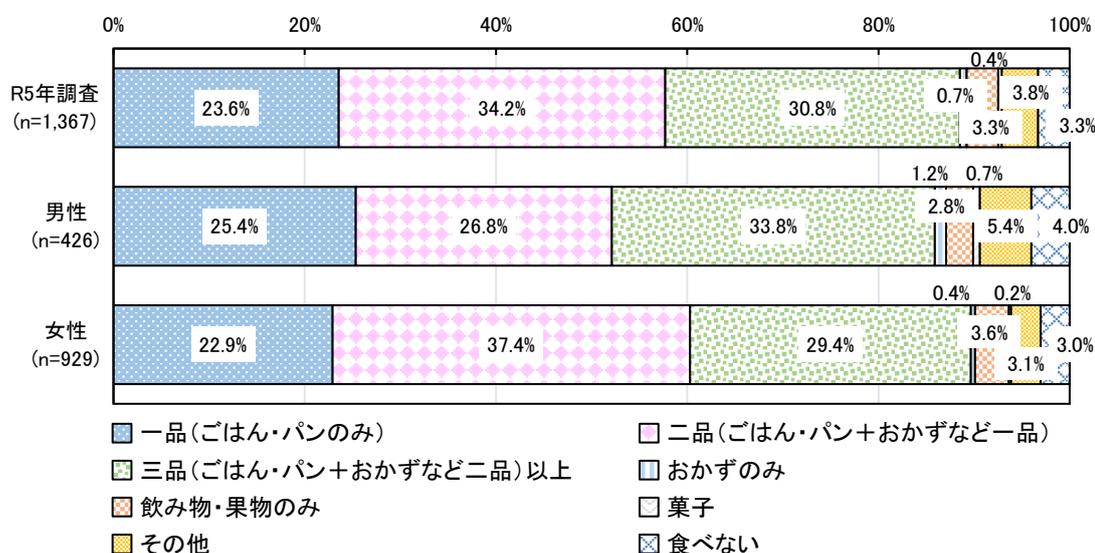
朝食のメニューは、「二品（ごはん・パン+おかずなど一品）」が36.9%で最も高く、次いで「三品（ごはん・パン+おかずなど二品）以上」30.9%、「一品（ごはん・パンのみ）」23.7%の順となっている。

前回調査と比較して、「三品（ごはん・パン+おかずなど二品）以上」は6.5ポイント下回り、「一品（ごはん・パンのみ）」は4.7ポイント上回る。



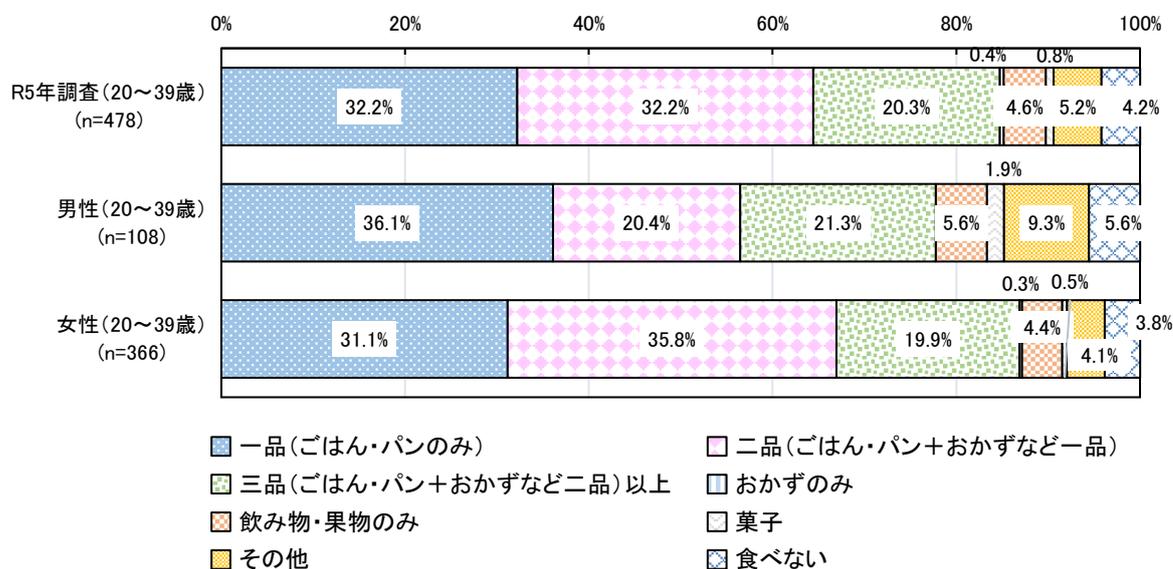
20歳以上で見ると、全体では「二品（ごはん・パン+おかずなど一品）」が最も高く34.2%となった。性別で見ると、男性では「三品（ごはん・パン+おかずなど二品）以上」が女性を4.4ポイント上回り、女性では「二品（ごはん・パン+おかずなど一品）」と回答した割合が男性を10.6ポイント上回る。

【20歳以上】



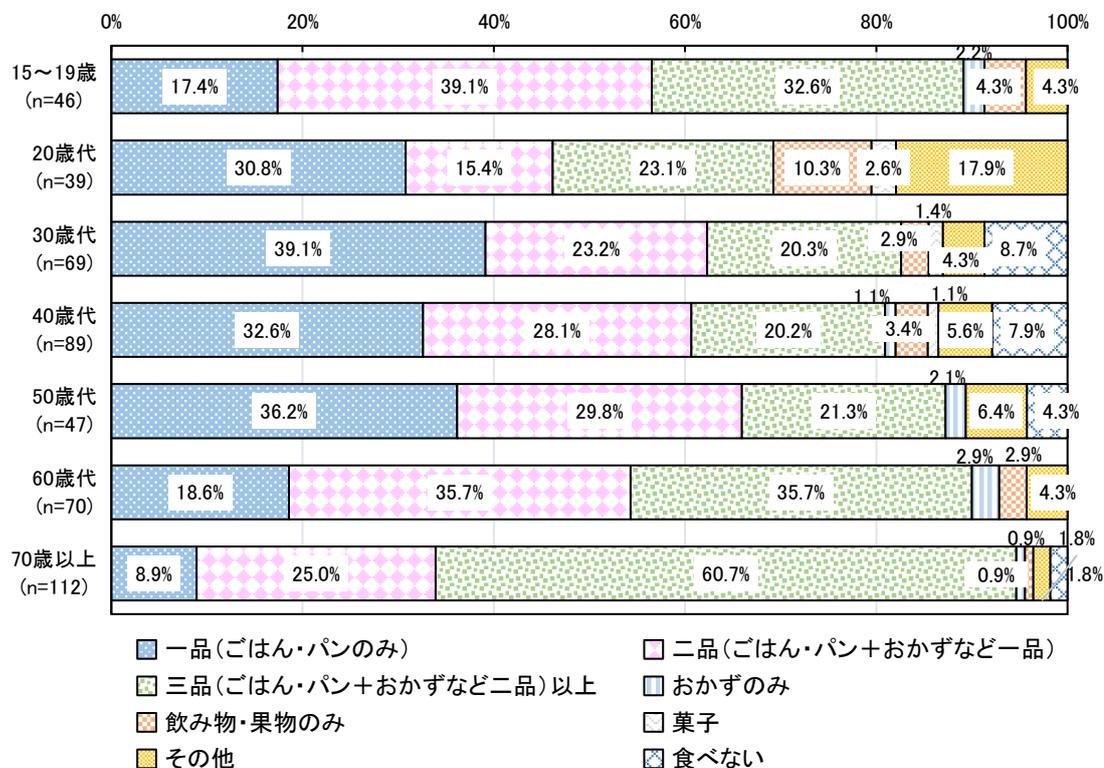
若い世代（20～39歳）でみると、全体では「一品（ごはん・パンのみ）」、「二品（ごはん・パン＋おかずなど一品）」がいずれも32.2%と最も高い。性別でみると、男性では「一品（ごはん・パンのみ）」が女性を5.0ポイント上回り、女性では「二品（ごはん・パン＋おかずなど一品）」と回答した割合が男性を15.4ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】

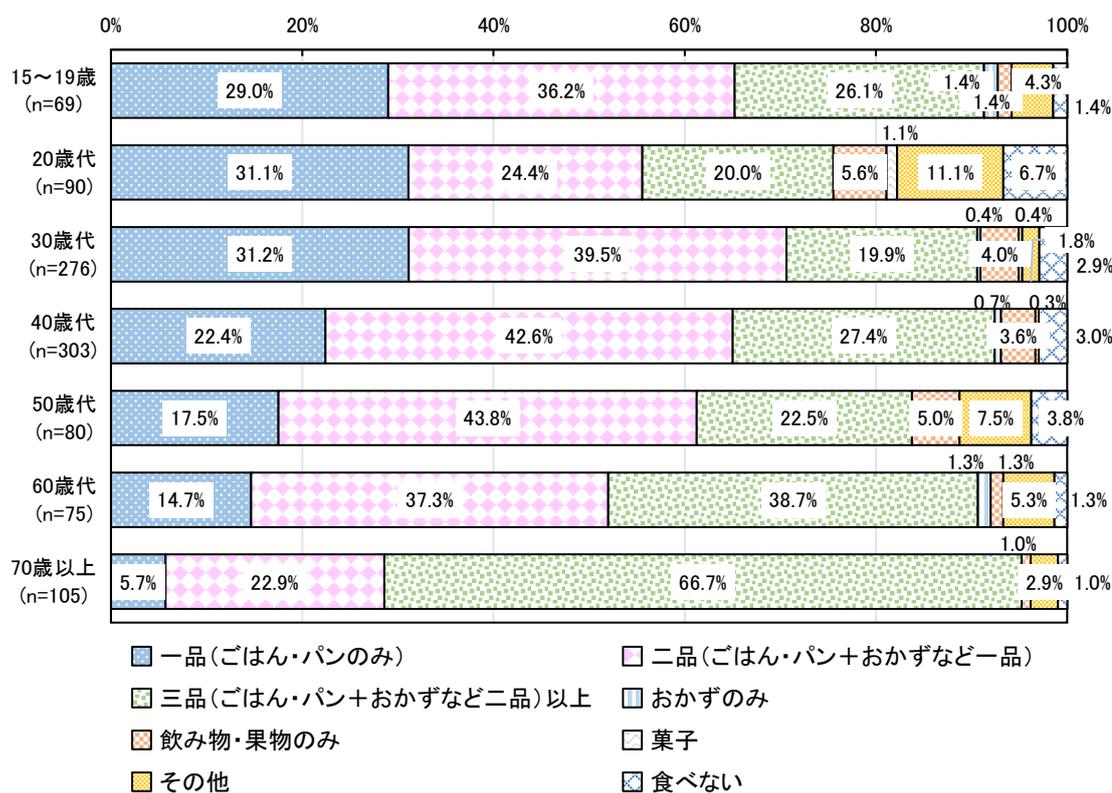


性・年齢別でみると、男性では40歳以上では「三品（ごはん・パン+おかずなど二品）以上」と回答した割合は年齢が上がる程高くなる傾向がみられる。女性では30歳以上では「一品（ごはん・パンのみ）」と回答した割合は年齢が上がる程低くなる傾向がみられる。

【15歳以上（男性）】

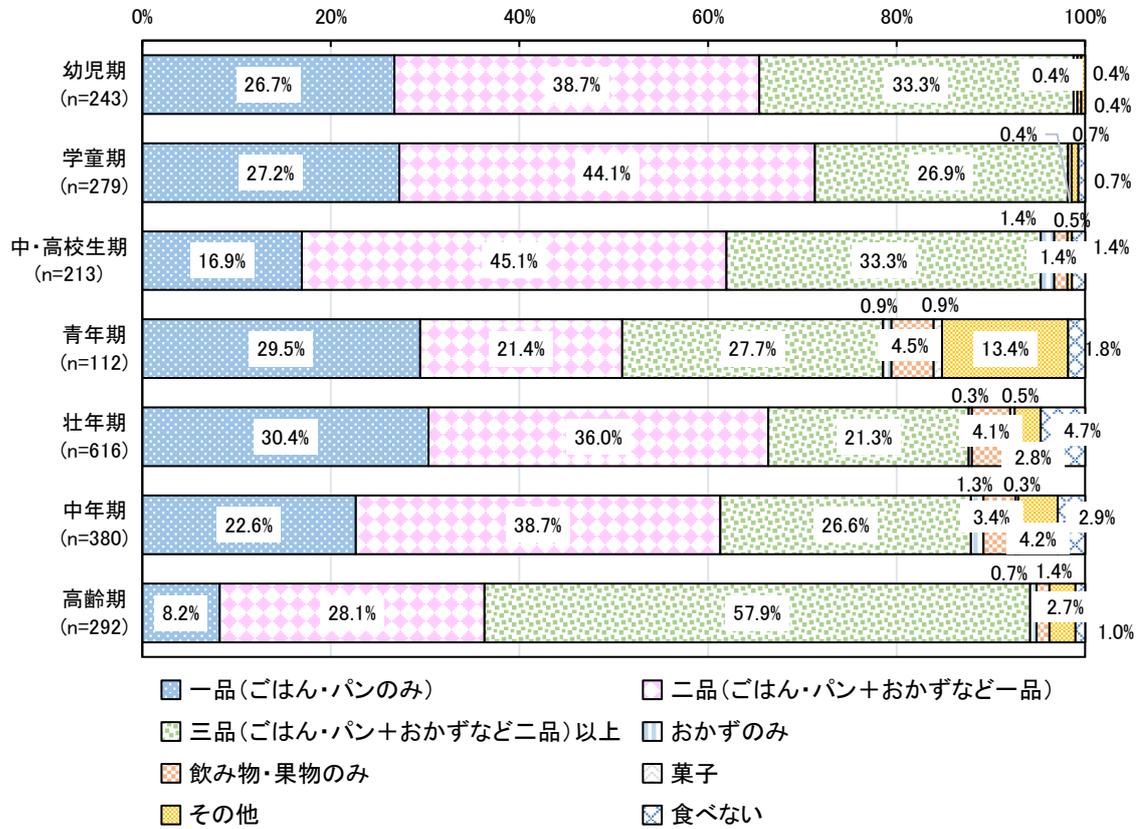


【15歳以上（女性）】



ライフステージ別でみると、青年期、高齢期を除き「二品（ごはん・パン+おかずなど一品）」が占める割合が高い。青年期では「一品（ごはん・パンのみ）」、高齢期では「三品（ごはん・パン+おかずなど二品）以上」の割合が高い。

【1歳以上】



◎主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合

平成30年調査と比較して、全体では前回は1.6ポイント上回るものの、目標を7.3ポイント下回る。若い世代（20歳代・30歳代）でみると、前回は10.6ポイント上回り、目標に大きく近づいた。

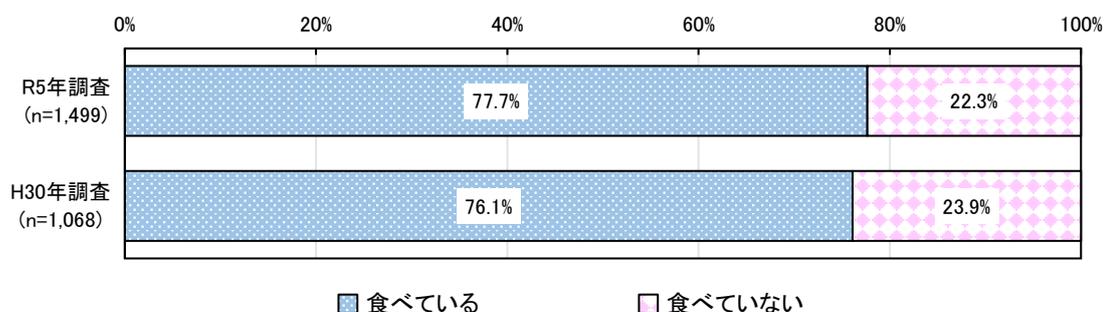
項目		(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日食べている市民の割合	全体	76.1%	77.7%	85%
	若い世代【20歳代・30歳代】	64.0%	74.6%	75%

<調査結果>

■主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を食べる割合 〈15歳以上〉

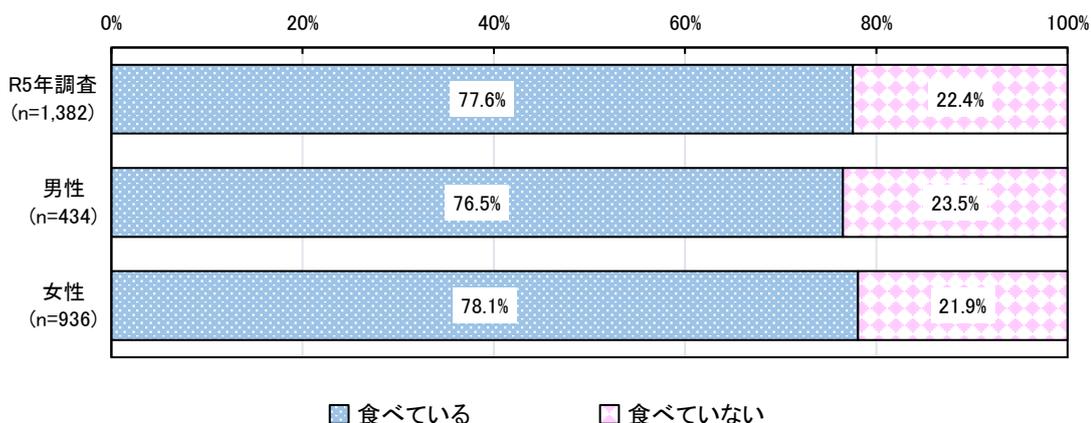
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を食べる割合は、「食べている」77.7%、「食べていない」22.3%となった。

前回調査と比較して大きな差はみられない。



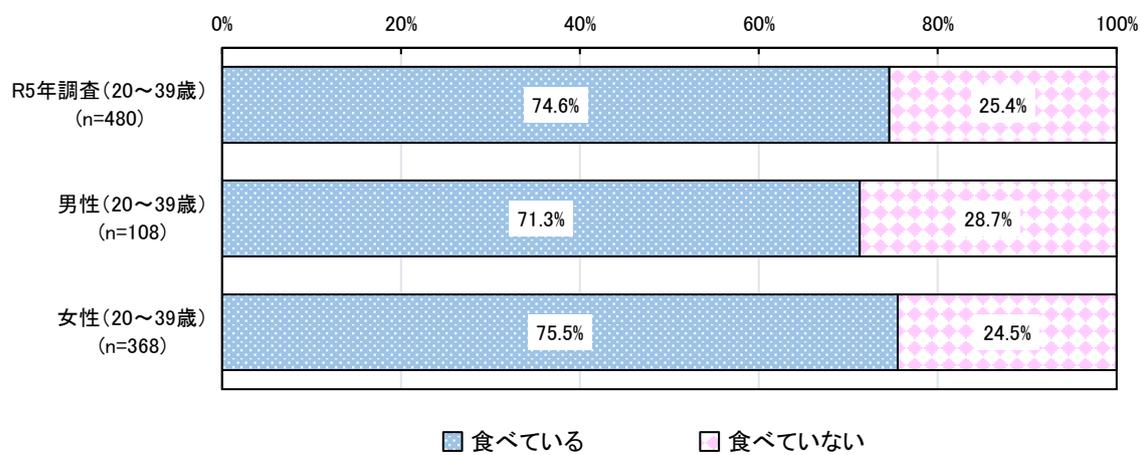
20歳以上でみると、「食べている」77.6%、「食べていない」22.4%となった。性別でみて大きな差はみられない。

【20歳以上】



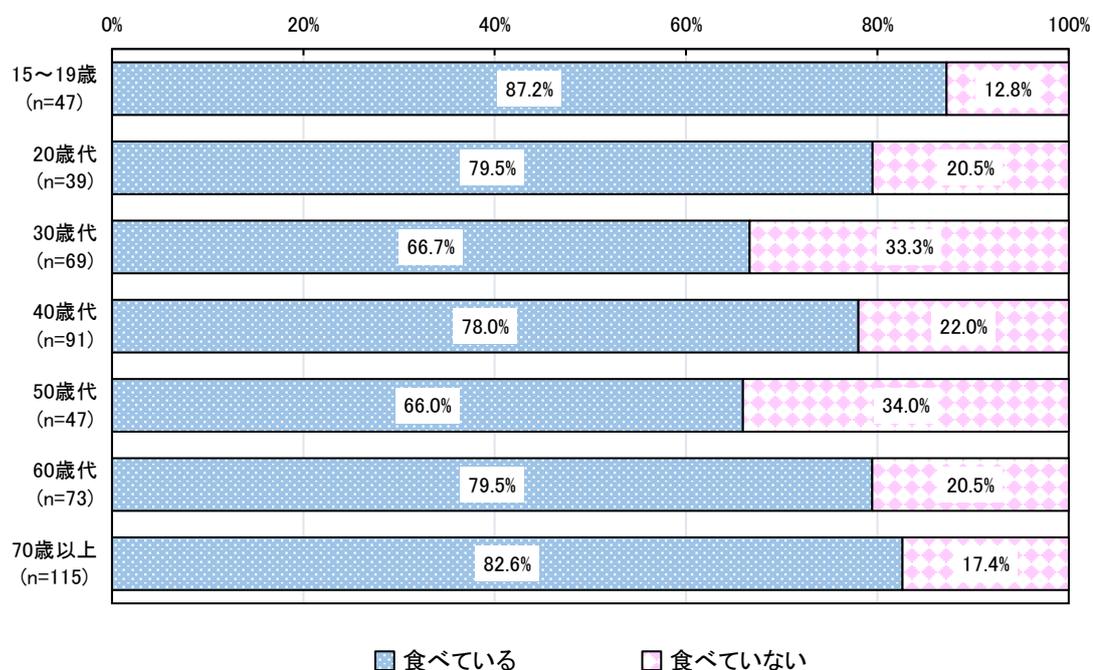
若い世代（20～39歳）で見ると、全体では「食べている」74.6%、「食べていない」25.4%となった。「食べていない」と回答した割合は男性が女性を4.2ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】

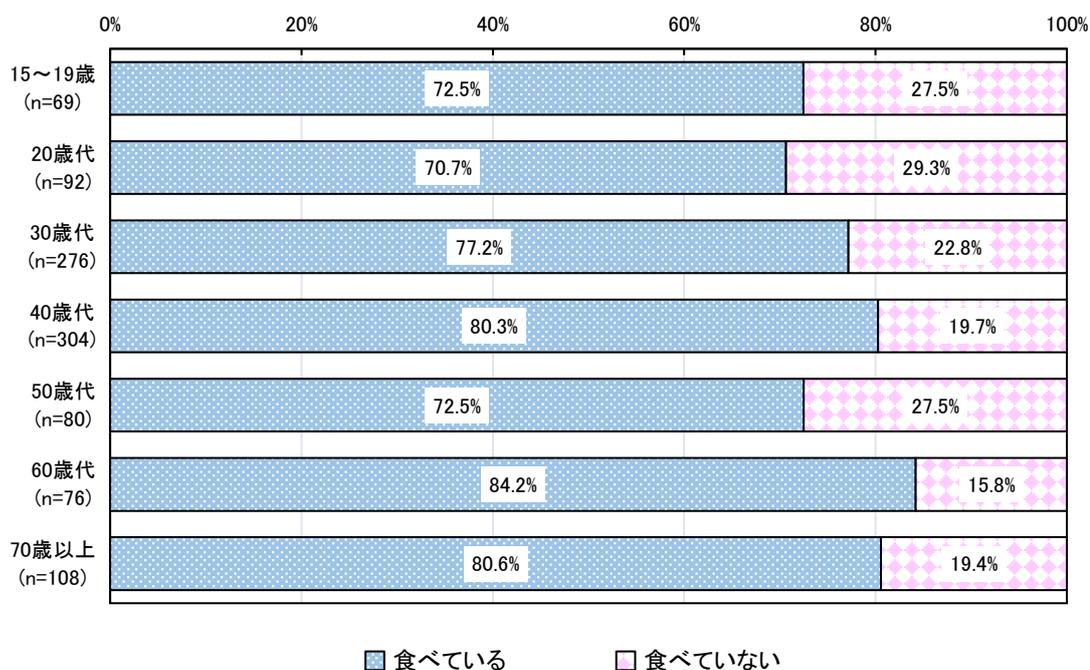


性・年齢別で見ると、「食べている」と回答した割合は、男性では15～19歳の87.2%、女性では60歳代の84.2%が最も高い。一方「食べていない」と回答した割合は、30歳代、50歳代男性で高く3割を占める。

【15歳以上（男性）】



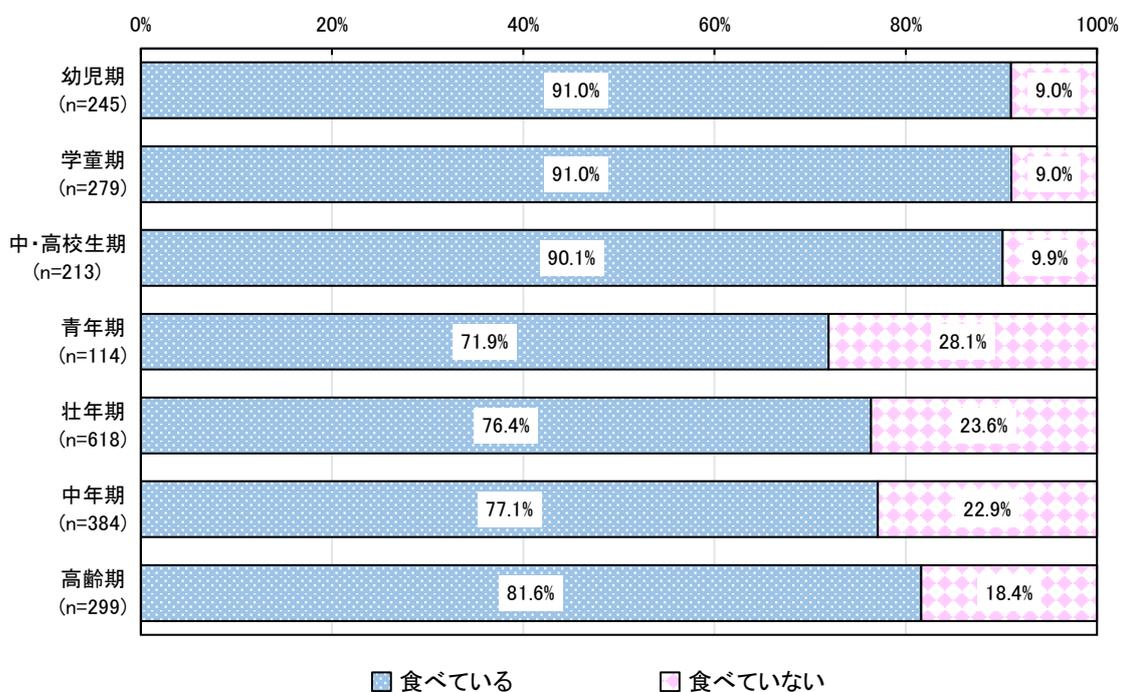
【15歳以上（女性）】



ライフステージ別でみると、「食べている」と回答した割合は幼児期、学童期、中・高校生期では9割を超えている。

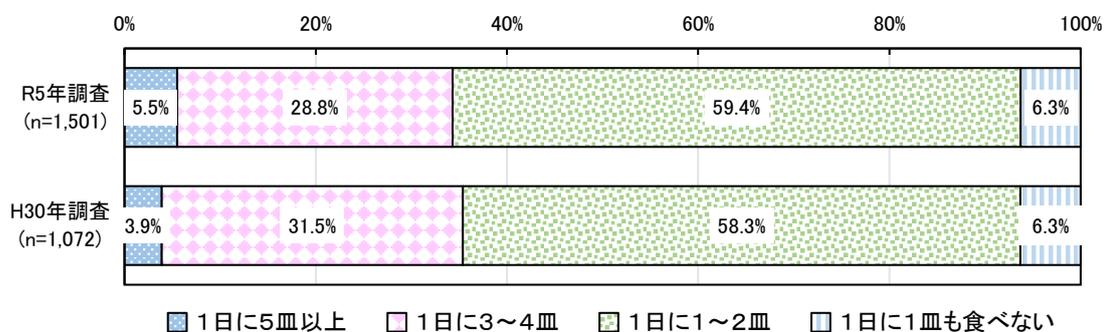
一方、「食べていない」と回答した割合は青年期の28.1%が最も高く、それ以降はライフステージが上がるごとに低くなる傾向がみられる。

【1歳以上】



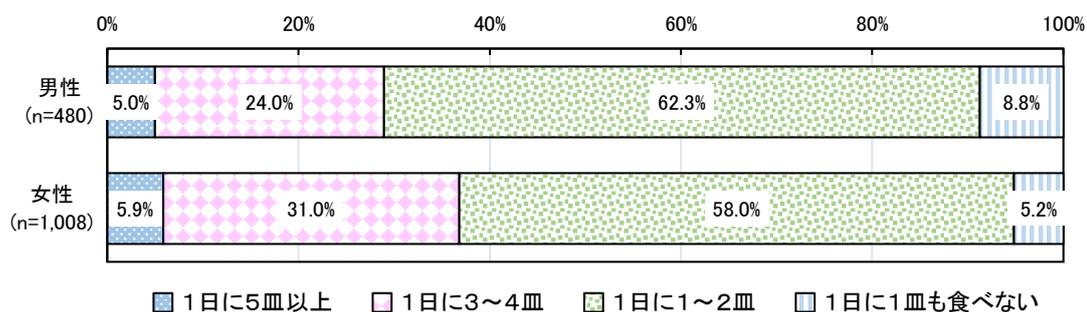
■野菜を1日に食べる量 〈15歳以上〉

野菜料理を小鉢1皿(70g)と考えて1日どのくらい食べているかは、「1日に1～2皿」59.4%が最も高く、次いで「1日に3～4皿」28.8%、「1日に1皿も食べない」6.3%の順となった。前回調査と比較して、大きな差はみられない。



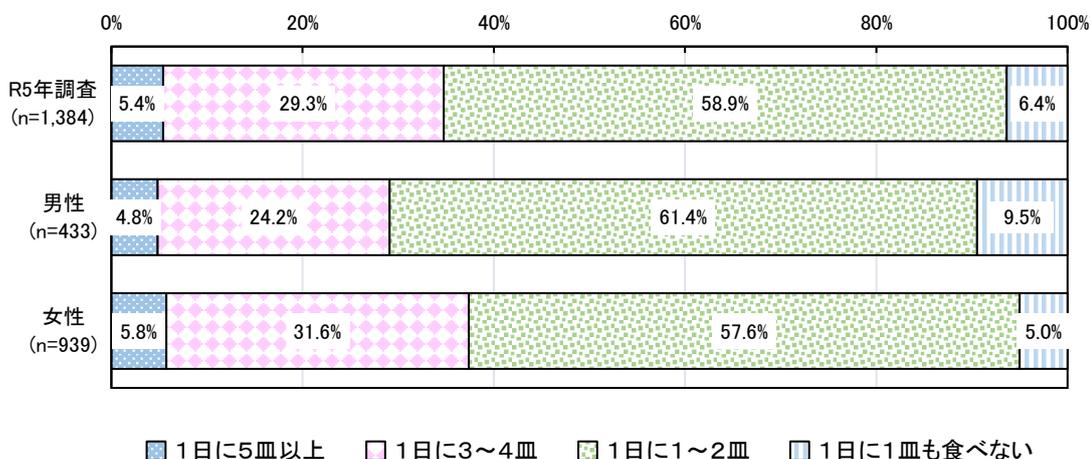
性別でみると、男性は「1日に1～2皿」と回答した割合が女性より4.3ポイント、「1日に1皿も食べない」は3.6ポイント高い。一方、女性は「1日に3～4皿」が男性より7.0ポイント高い。

【15歳以上】



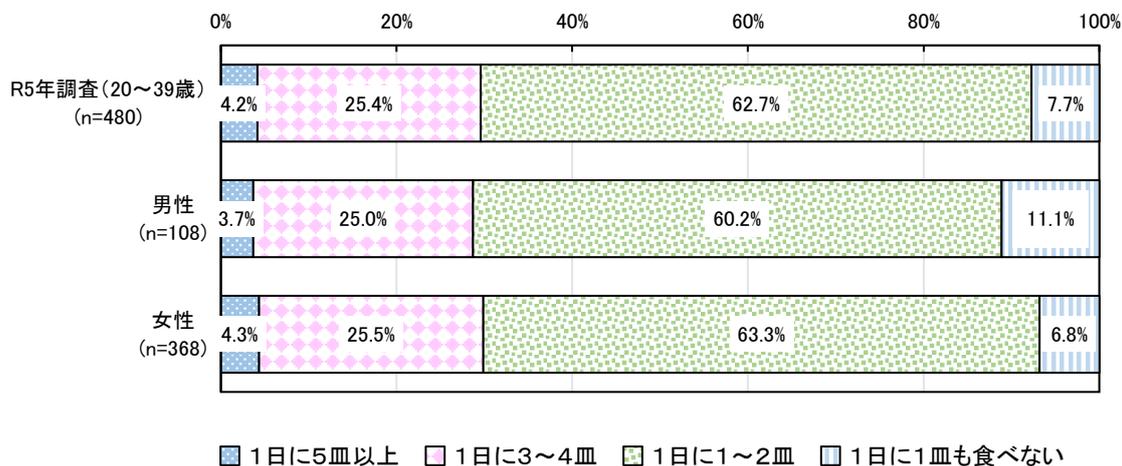
20歳以上でみると、全体では「1日に1～2皿」58.9%が最も高い。性別でみると、男性は「1日に1皿も食べない」が女性より4.5ポイント高く、女性は「1日に3～4皿」が男性より7.4ポイント高い。

【20歳以上】



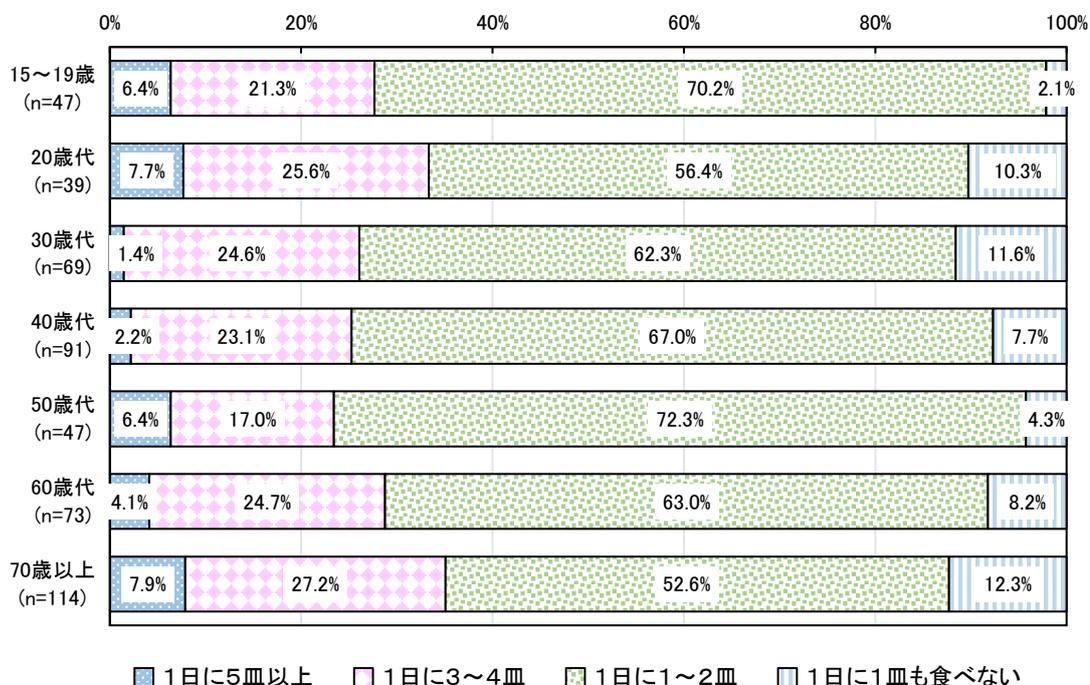
若い世代（20～39歳）でみると、全体では「1日に1～2皿」62.7%が最も高い。性別でみると、男性は「1日に1皿も食べない」が女性より4.3ポイント高く、女性は「1日に1～2皿」が男性より3.1ポイント高い。

【若い世代（20～39歳）】

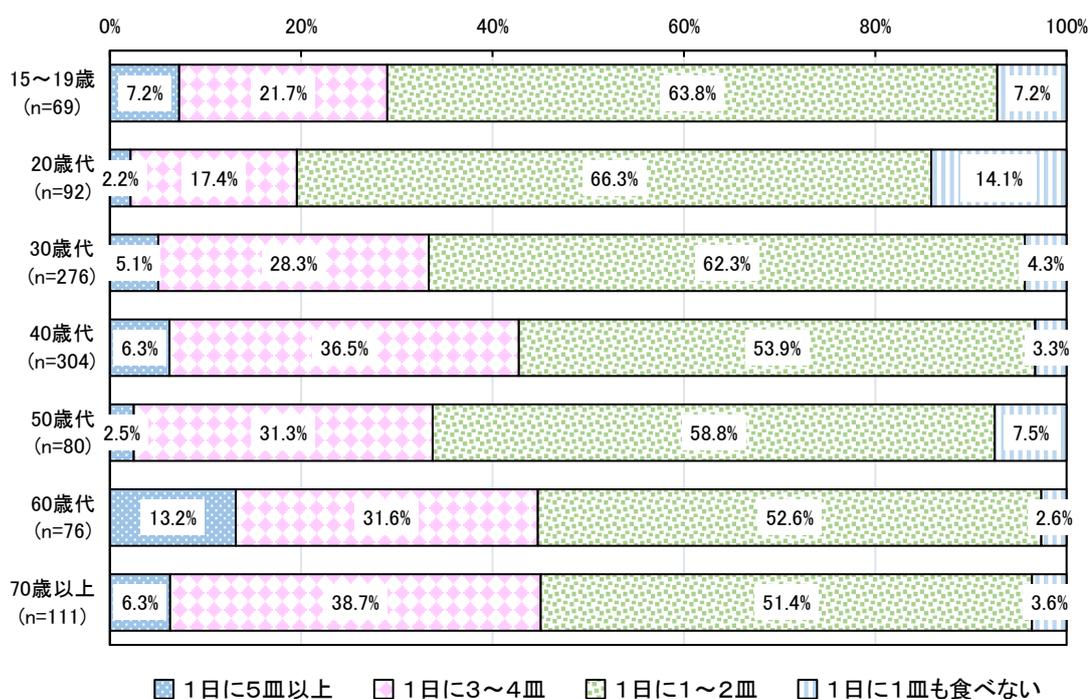


性・年齢別で見ると、「1日に1～2皿」の割合が全ての年代で半数を超えている。「1日に1皿も食べない」と回答した割合が高いのは、男性では20歳代、30歳代、70歳以上、女性では20歳代でいずれも1割を超えている。

【15歳以上（男性）】



【15歳以上（女性）】



◎生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を継続的に実践している市民の割合

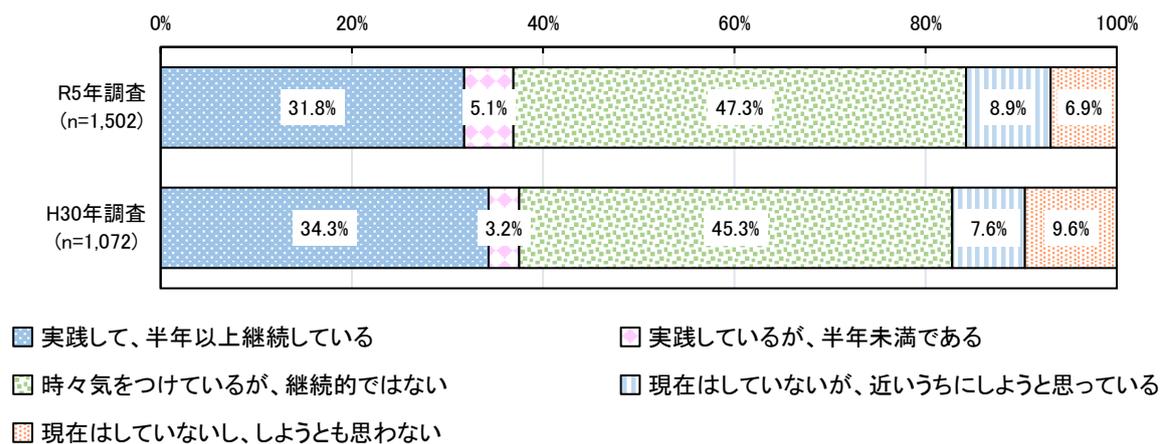
平成 30 年調査と比較して、全体では前回は 2.5 ポイント下回る。若い世代（20 歳代・30 歳代）でみると、平成 30 年調査を 0.9 ポイント上回るが、目標を 1.6 ポイント下回る。

項 目		(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を継続して実践している市民の割合	全体	34.3%	31.8%	50%
	若い世代【20歳代・30歳代】	22.5%	23.4%	25%

<調査結果>

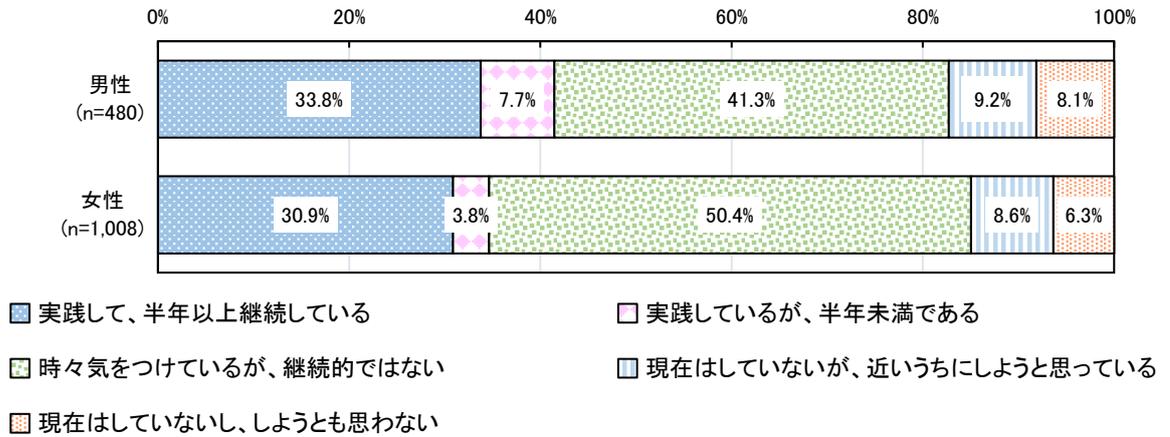
■生活習慣病の予防や改善のための適切な食事等の実践 〈15歳以上〉

生活習慣病の予防や改善のための適切な食事等の実践について、「時々気をつけているが、継続的ではない」が 47.3%と最も高く、次いで「実践して、半年以上継続している」が 31.8%、「現在はしていないが、近いうちにしようと思っている」が 8.9%の順となった。前回調査と比較して、「実践して、半年以上継続している」は 2.5 ポイント下回る。



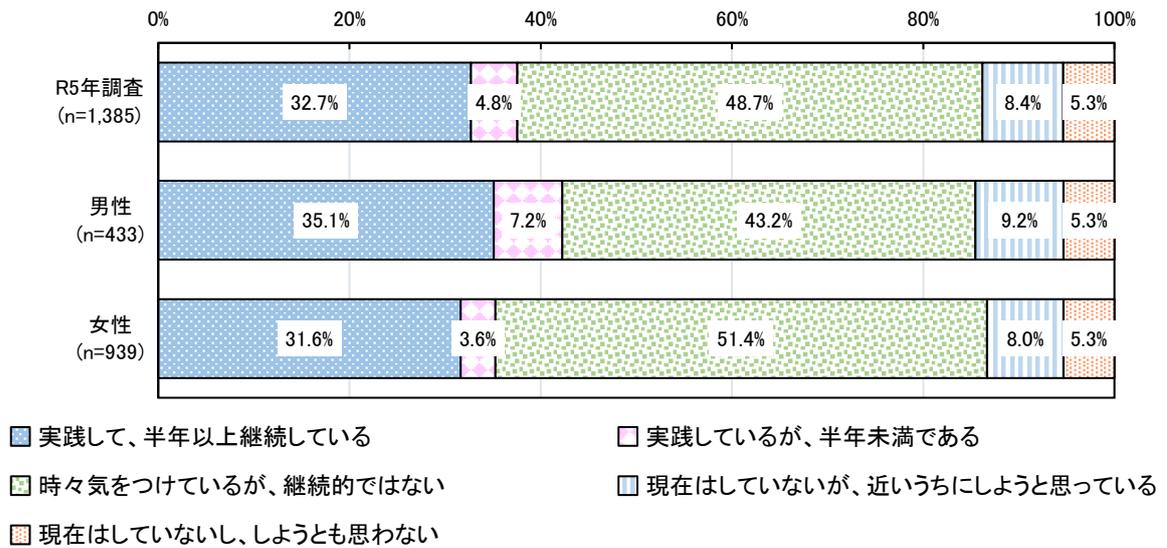
性別でみると、「実践して、半年以上継続している」は男性が女性を 2.9 ポイント上回る。

【15 歳以上】



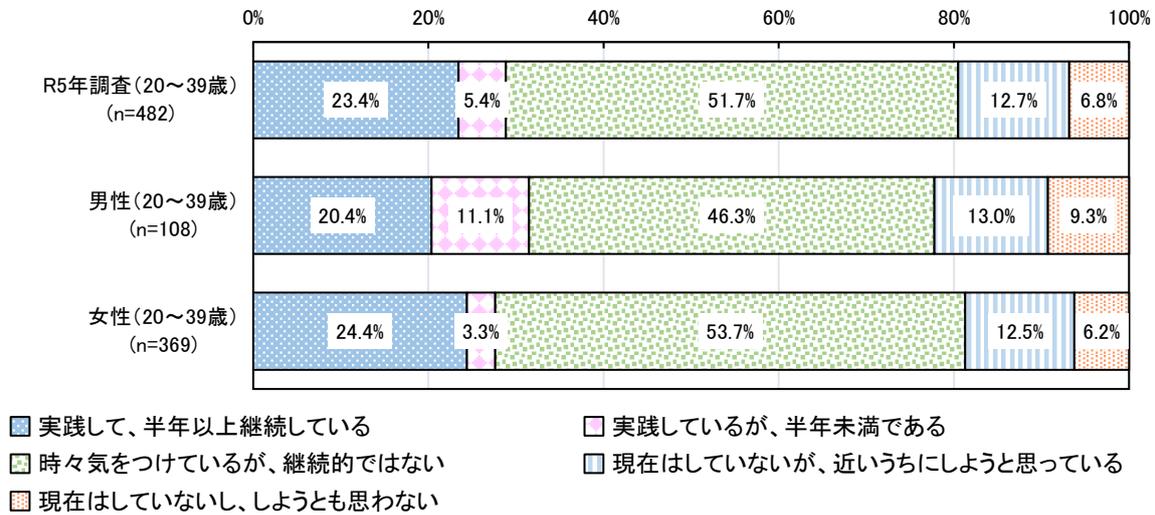
20 歳以上でみると、全体では「時々気をつけているが、継続的ではない」48.7%が最も高い。性別でみると、「実践して、半年以上継続している」は男性が女性を 3.5 ポイント上回る。

【20 歳以上】



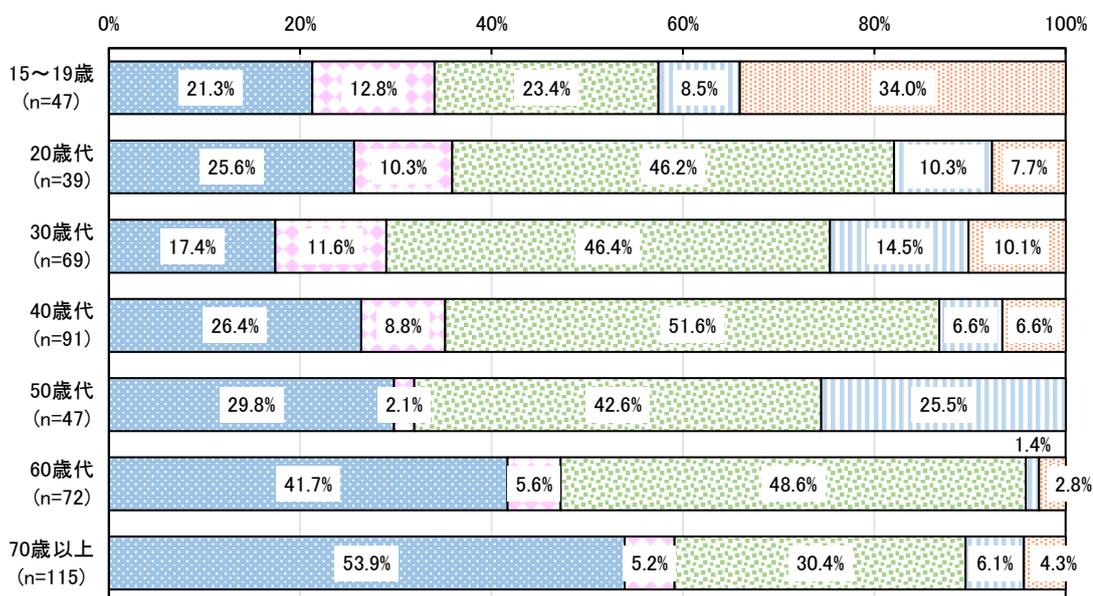
若い世代（20～39歳）でみると、全体では「時々気をつけているが、継続的ではない」51.7%が最も高い。性別でみると、「実践して、半年以上継続している」は女性が男性を4.0ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】



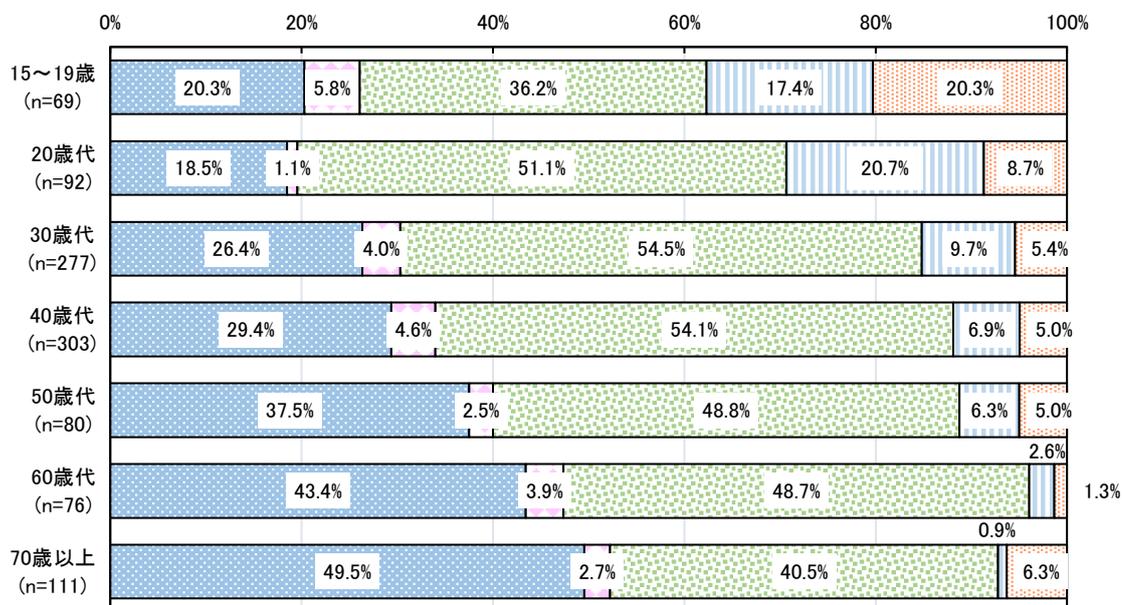
性・年齢別で見ると、30代以上では男女ともに、年代が上がるにつれ「実践して、半年以上継続している」の占める割合が高くなる。70歳以上では半数程度が「実践して、半年以上継続している」と回答している。

【15歳以上（男性）】



- 実践して、半年以上継続している
- 時々気をつけているが、継続的ではない
- 現在はしていないし、しようとも思わない
- 実践しているが、半年未満である
- 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている

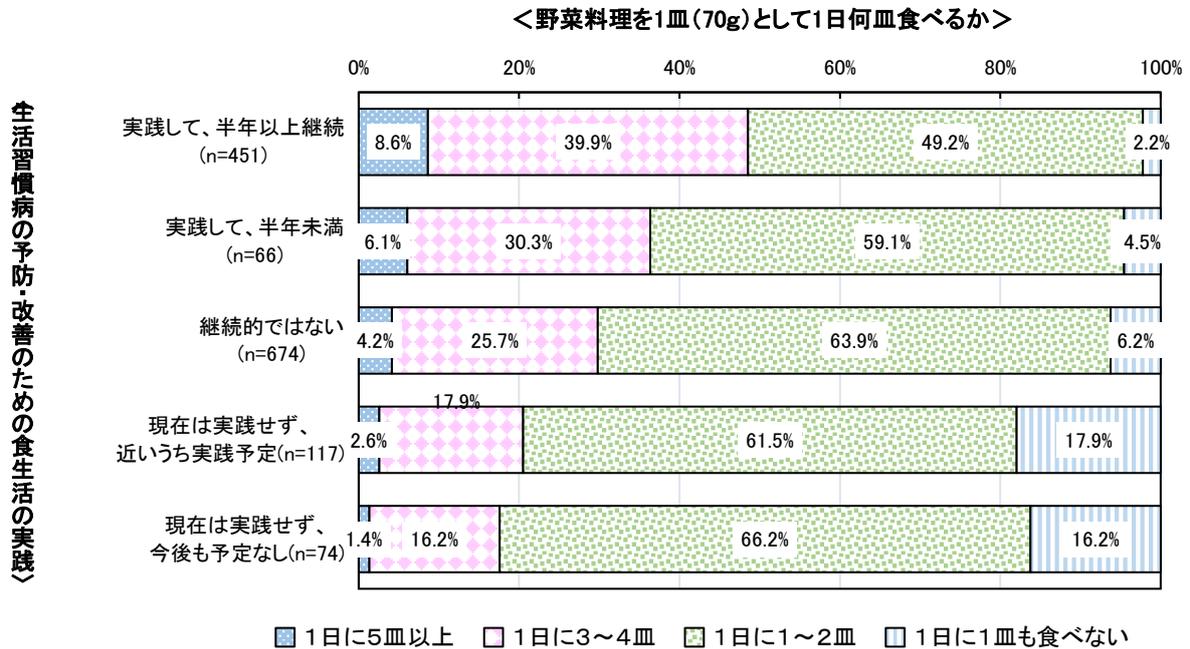
【15歳以上（女性）】



- 実践して、半年以上継続している
- 時々気をつけているが、継続的ではない
- 現在はしていないし、しようとも思わない
- 実践しているが、半年未満である
- 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている

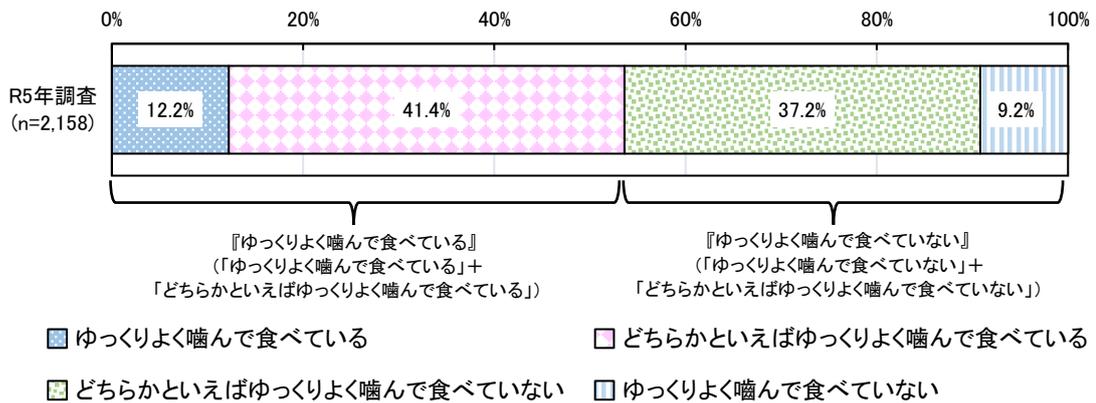
「野菜料理を1皿（70g）として1日何皿食べるか」と「生活習慣病の予防・改善のための食生活の実践」でみると、「実践して、半年以上継続している」人は「1日5皿以上」と回答した割合が8.6%と最も高い。食生活の実践が継続的にできている人程、野菜料理の皿数が多い。

【20歳以上】



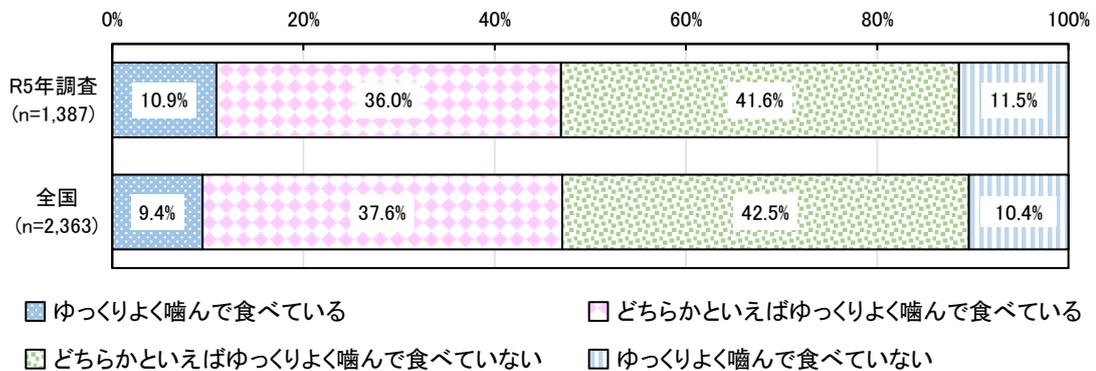
■ふだんゆっくりよく噛んで食べているか 〈1歳以上〉

ふだんゆっくりよく噛んで食べているかについて、「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている」41.4%が最も高く、次いで「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない」37.2%、「ゆっくりよく噛んで食べている」12.2%の順となった。『ゆっくりよく噛んで食べている』『ゆっくりよく噛んで食べている』+「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている」と回答した割合は53.6%であった。



20歳以上でみると、全体では『ゆっくりよく噛んで食べている』は46.9%であった。全国と比較して大きな差はみられない。

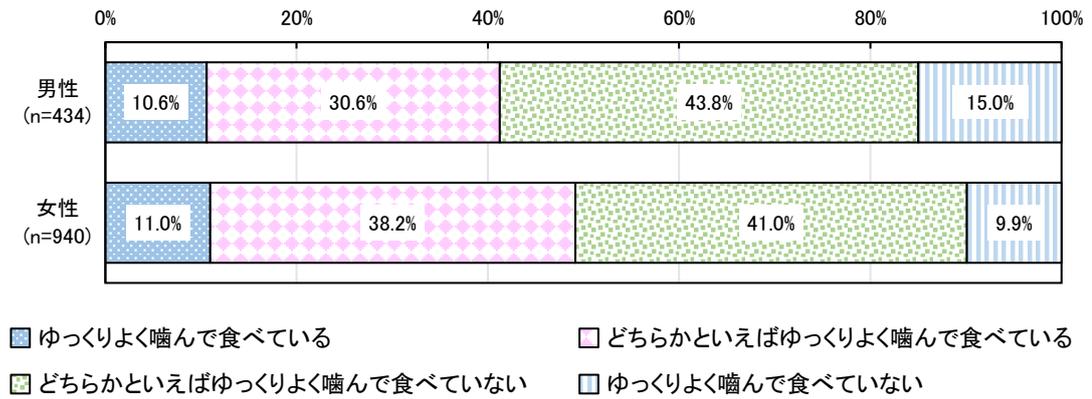
【20歳以上】



※農林水産省「食育に関する意識調査」(R5年3月)

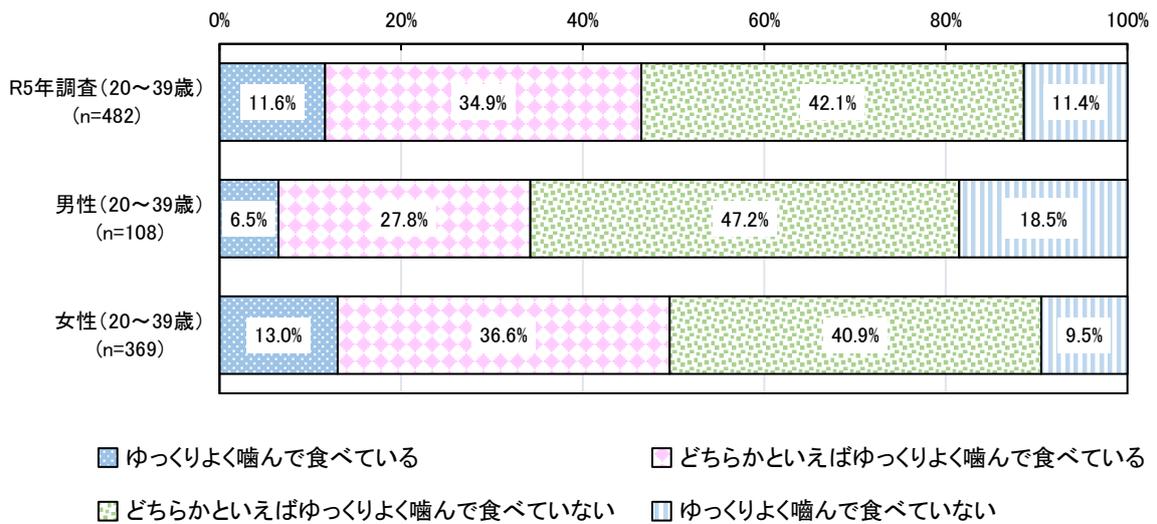
性別でみると、『ゆっくりよく噛んで食べている』は女性が男性を 8.0 ポイント上回る。

【20 歳以上】



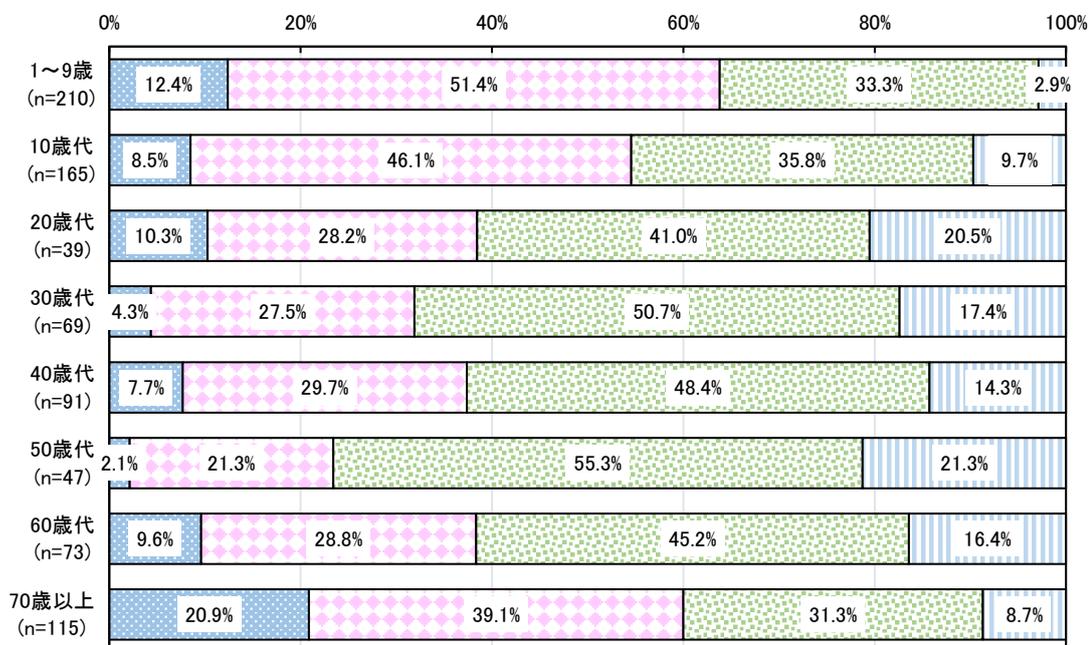
若い世代（20～39 歳）でみると、全体では『ゆっくりよく噛んで食べている』は 46.5%であった。性別でみると、『ゆっくりよく噛んで食べている』は女性が男性を 15.3 ポイント上回る。

【若い世代（20～39 歳）】



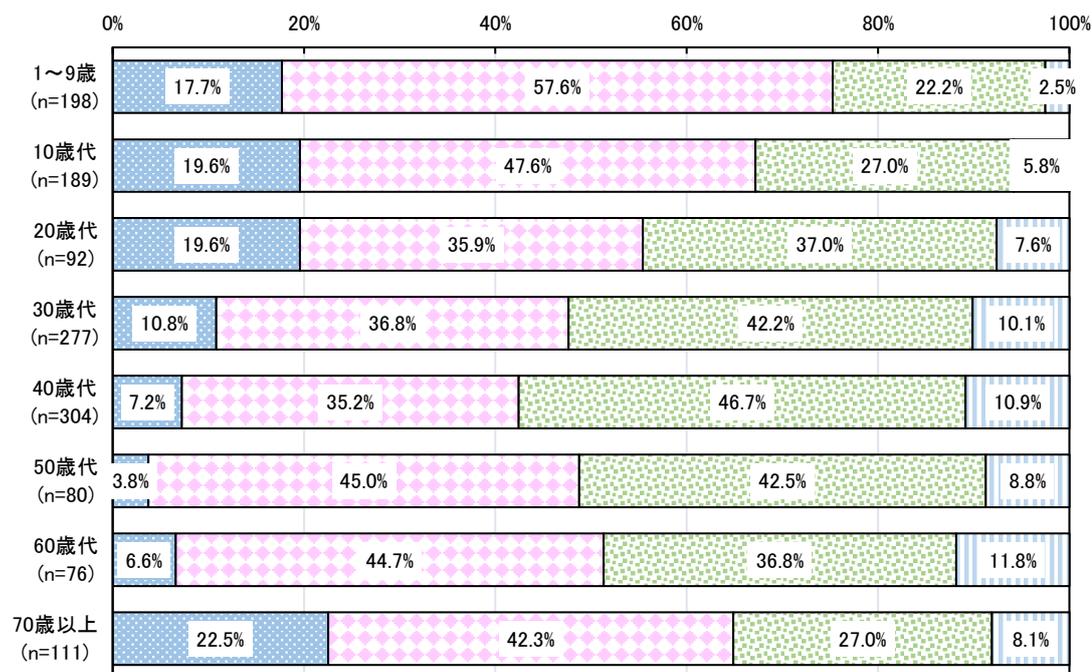
性・年齢別で見ると、『ゆっくりよく噛んで食べている』は、男性では19歳以下、70歳以上、女性では20歳代以下、60歳代以上で半数を超えている。一方、『ゆっくりよく噛んで食べていない』（「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない」＋「ゆっくりよく噛んで食べていない」）は全ての年代で男性が女性を上回る。

【1歳以上（男性）】



- ゆっくりよく噛んで食べている
- どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている
- どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない
- ゆっくりよく噛んで食べていない

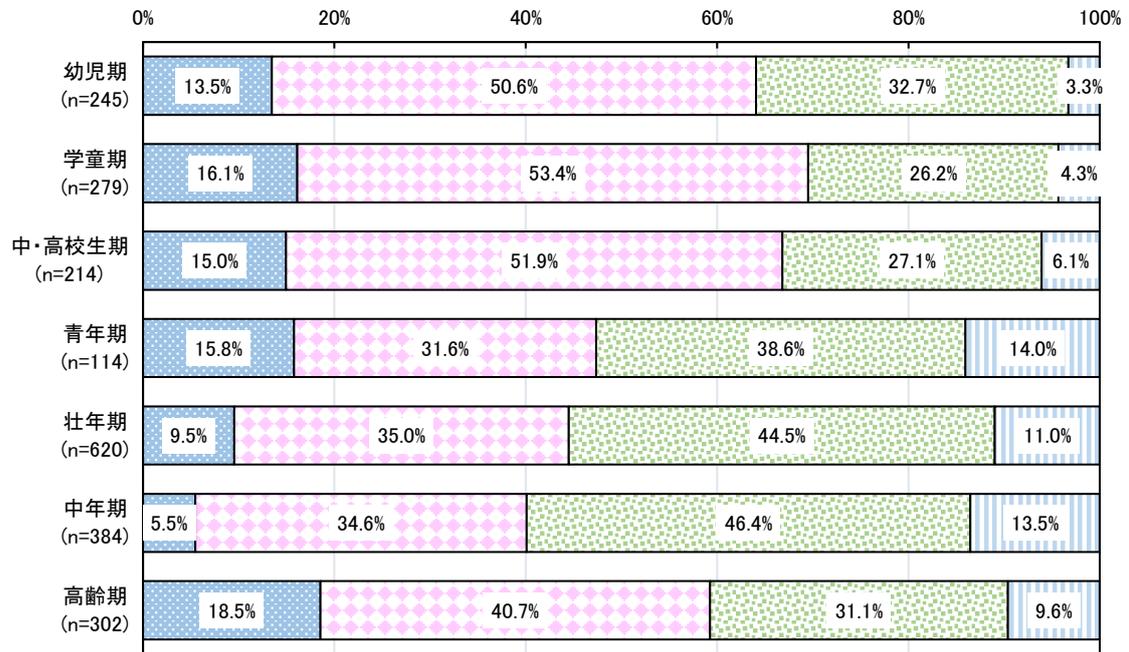
【1歳以上（女性）】



- ゆっくりよく噛んで食べている
- どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている
- どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない
- ゆっくりよく噛んで食べていない

ライフステージ別で見ると、『ゆっくりよく噛んで食べている』は幼児期、学童期、中・高校生期では6割、高齢期では5割を超えている。

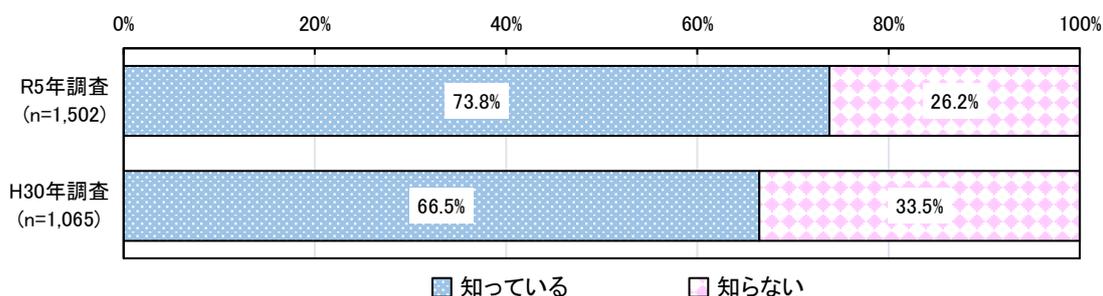
【1歳以上】



- ゆっくりよく噛んで食べている
- どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている
- どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない
- ゆっくりよく噛んで食べていない

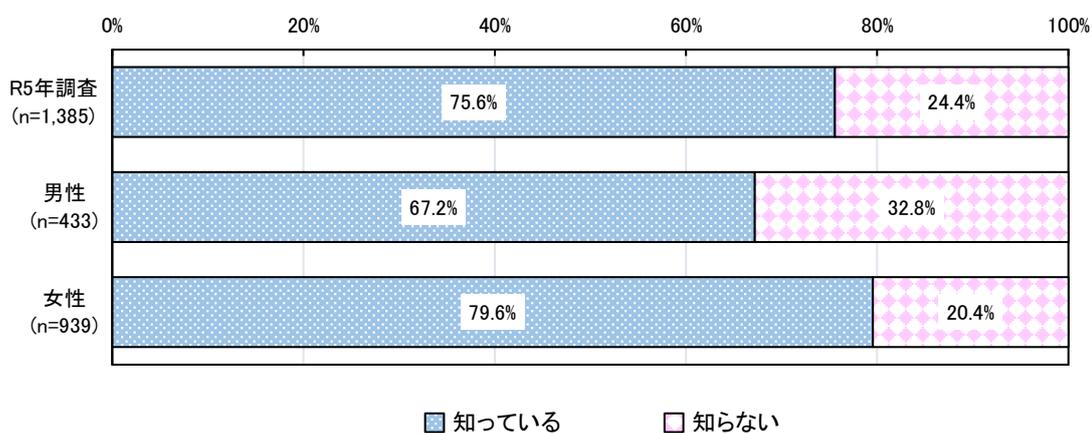
■自分の適正体重（BMI）を知っていますか 〈15歳以上〉

自分の適正体重（BMI）を知っているかについて、「知っている」が73.8%、「知らない」が26.2%となった。前回調査と比較して、「知っている」は7.3ポイント上回る。



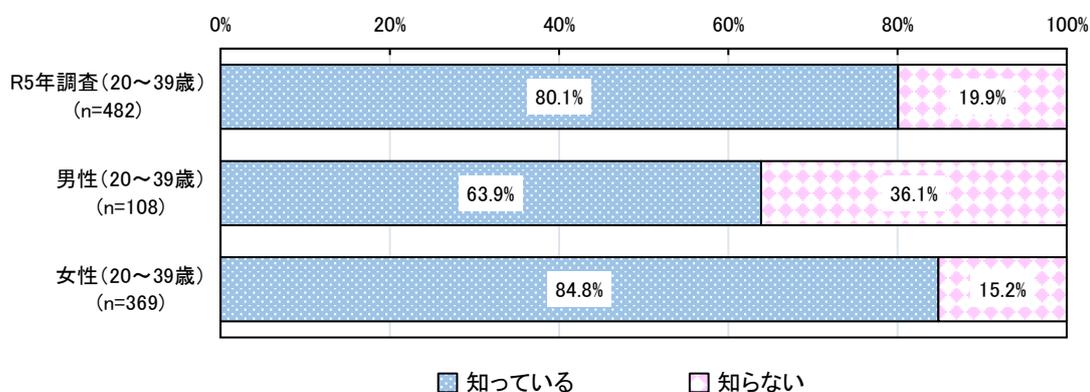
20歳以上でみると、全体では「知っている」が75.6%となった。性別でみると、「知っている」と回答した割合は、女性が男性を12.4ポイント上回る。

【20歳以上】



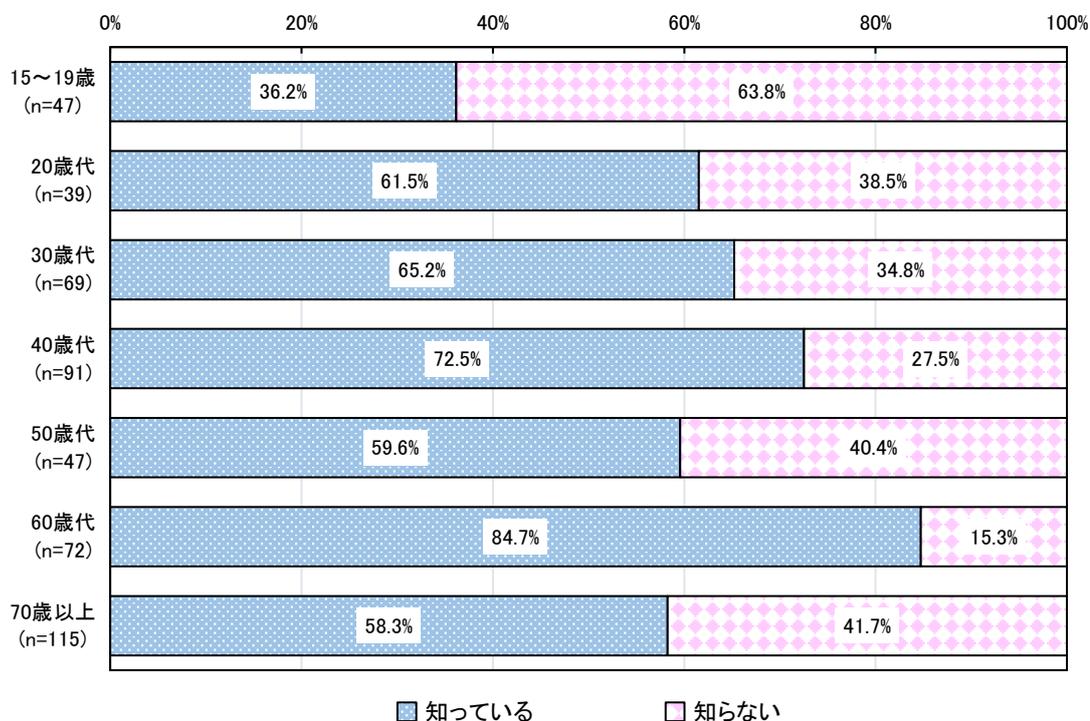
若い世代（20～39歳）でみると、全体では「知っている」が80.1%となった。性別でみると、「知っている」と回答した割合は、女性が男性を20.9ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】

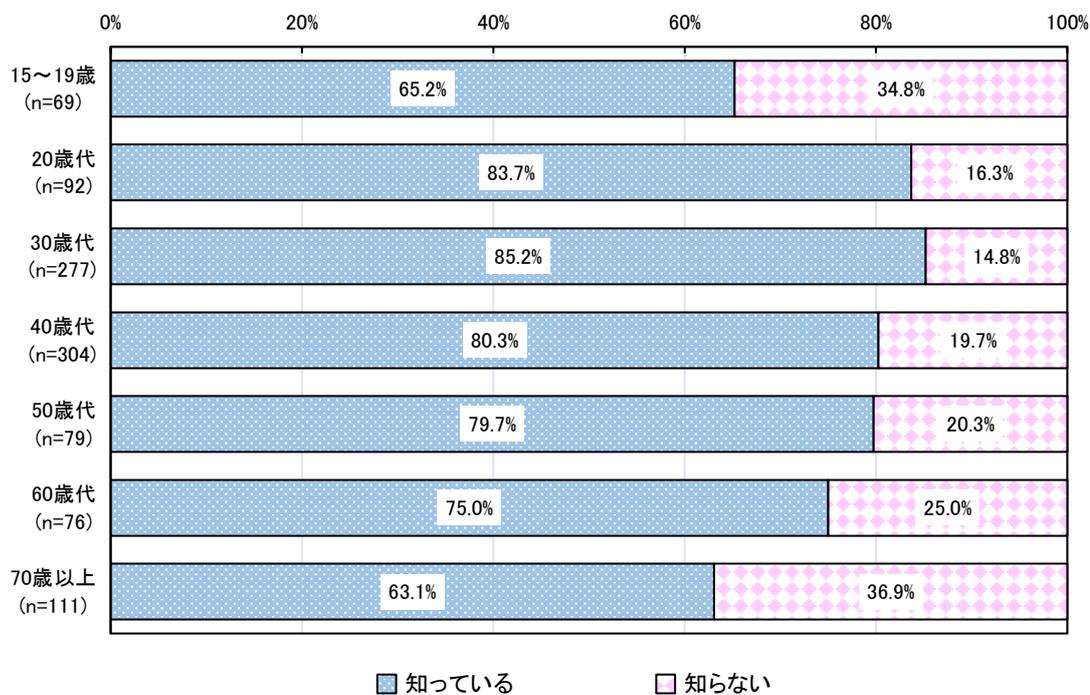


性・年齢別で見ると、「知っている」と回答した割合は、15～19歳男性を除いた全ての年代で半数を超えている。15～19歳男性では、「知っている」と回答した割合は36.2%に留まる。

【15歳以上（男性）】

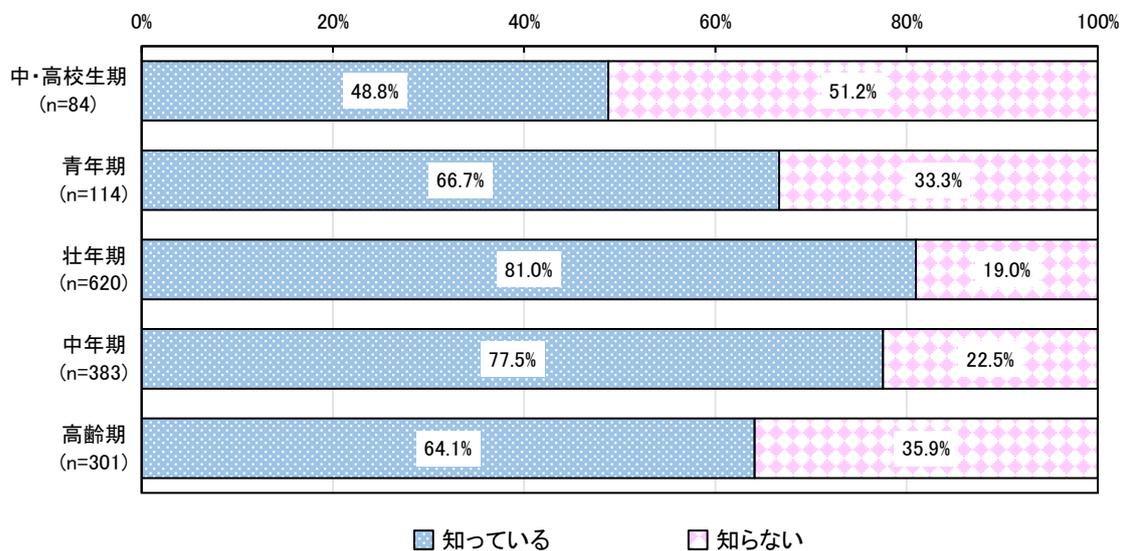


【15歳以上（女性）】



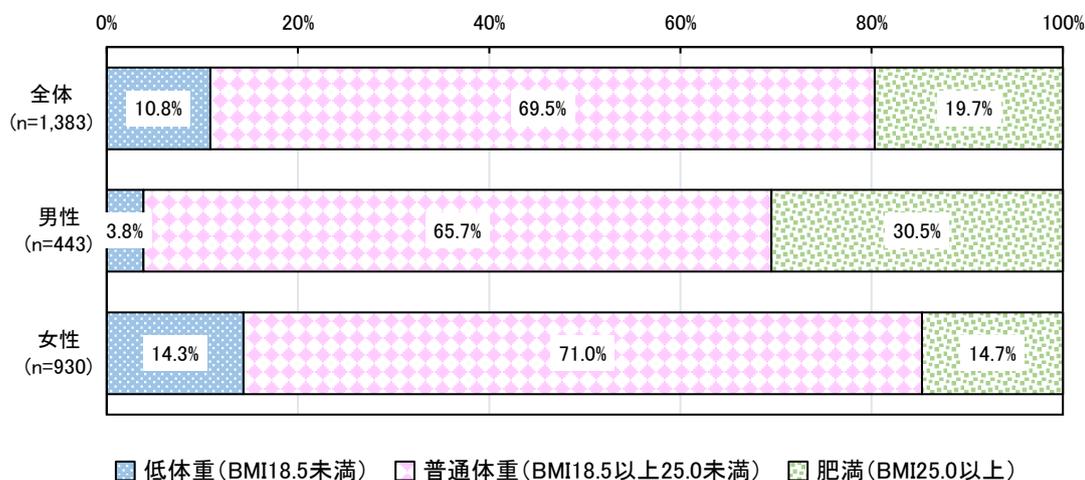
ライフステージ別でみると、「知っている」と回答した割合は、壮年期の81.0%が最も高い。青年期、中年期、高齢期でも「知っている」は半数を超えているが、中・高校生期では「知らない」が半数を超えている。

【15歳以上】



■BMI判定 〈18歳以上〉

成人（18歳以上）のBMIを判定したところ、「低体重（BMI 18.5未満）」が10.8%、「普通体重（BMI 18.5以上25.0未満）」が69.5%、「肥満（BMI 25.0以上）」が19.7%となった。性別でみると、男性は女性より「肥満（BMI 25.0以上）」の割合が15.8ポイント上回る。



※BMIとは、肥満度を表す指標として国際的に用いられている体格指数です。

計算式：【体重 (kg)】÷【身長 (m) の2乗】

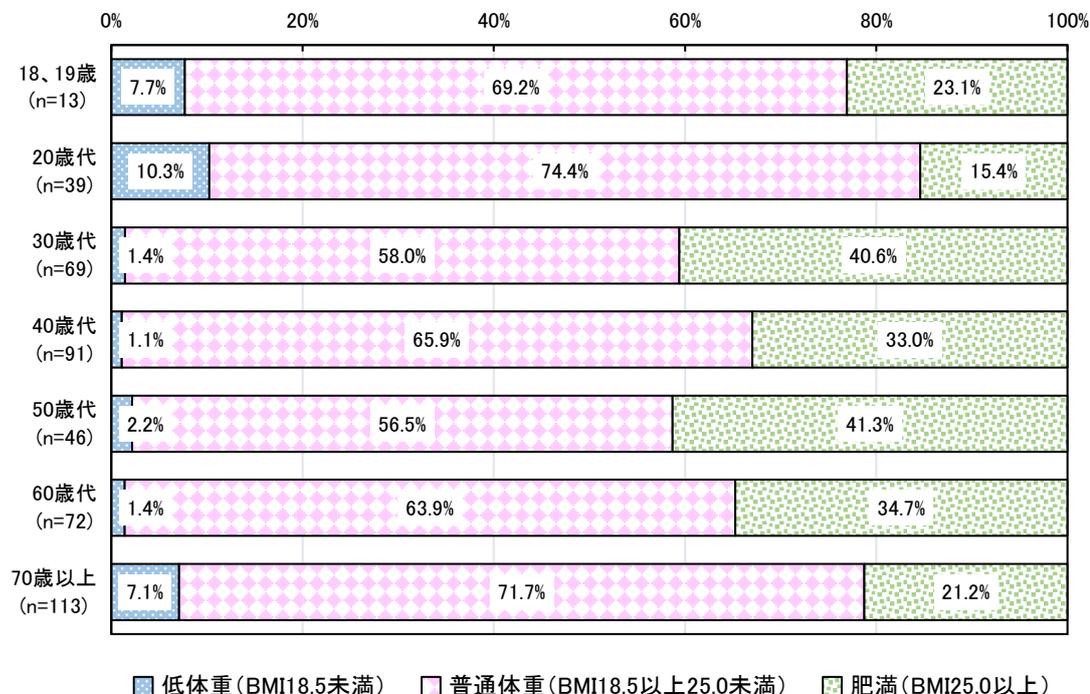
判定基準：低体重 (18.5未満)

普通体重 (18.5~25.0未満)

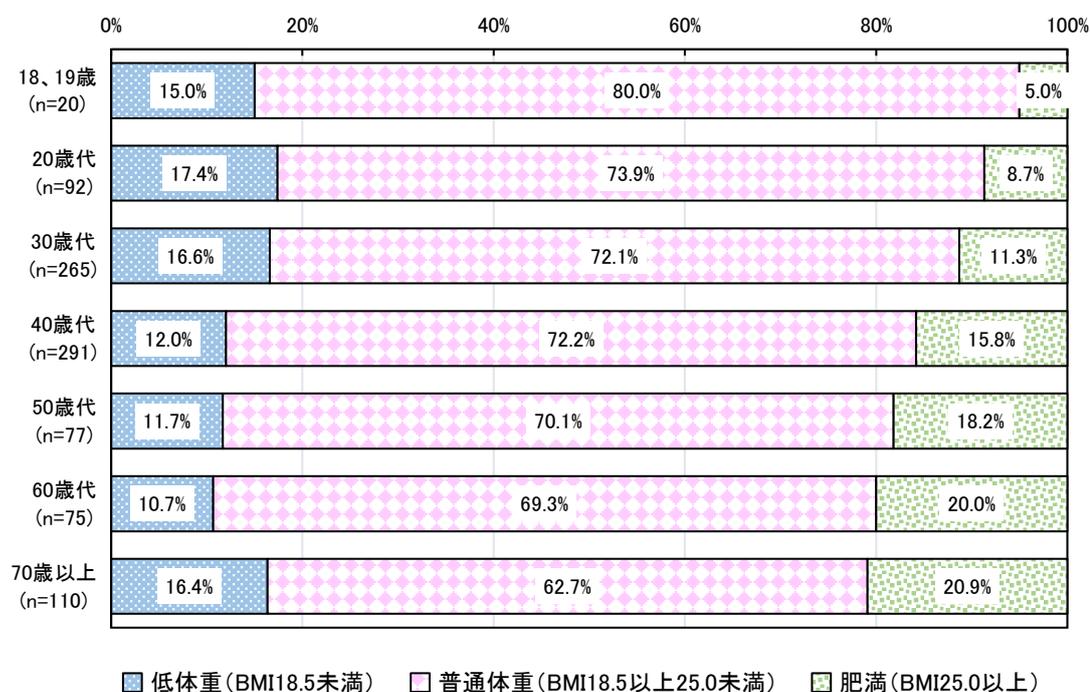
肥満 (25.0以上)

性・年齢別で見ると、男性は30歳代から60歳代で「肥満（BMI 25.0以上）」の割合が3割を超えている。女性は、年齢が上がる程「肥満（BMI 25.0以上）」の割合が高くなる傾向がみられる。

【18歳以上（男性）】



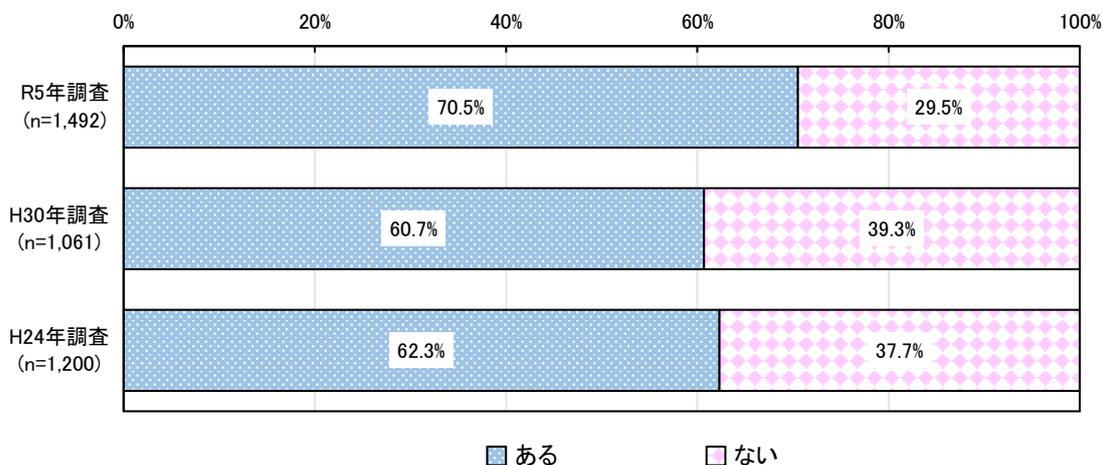
【18歳以上（女性）】



■「食事バランスガイド」の認知度 〈15歳以上〉

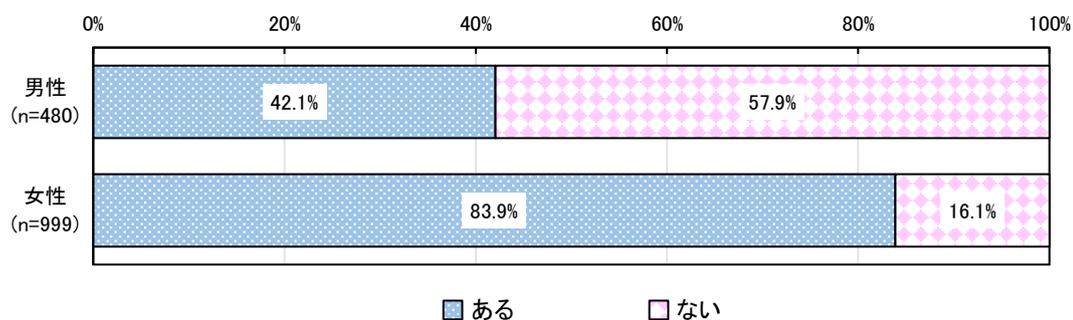
食事バランスガイドの認知度については、食事バランスガイドを見たことが「ある」が70.5%、「ない」が29.5%となった。

前回調査と比較して、「ある」は9.8ポイント上回る。



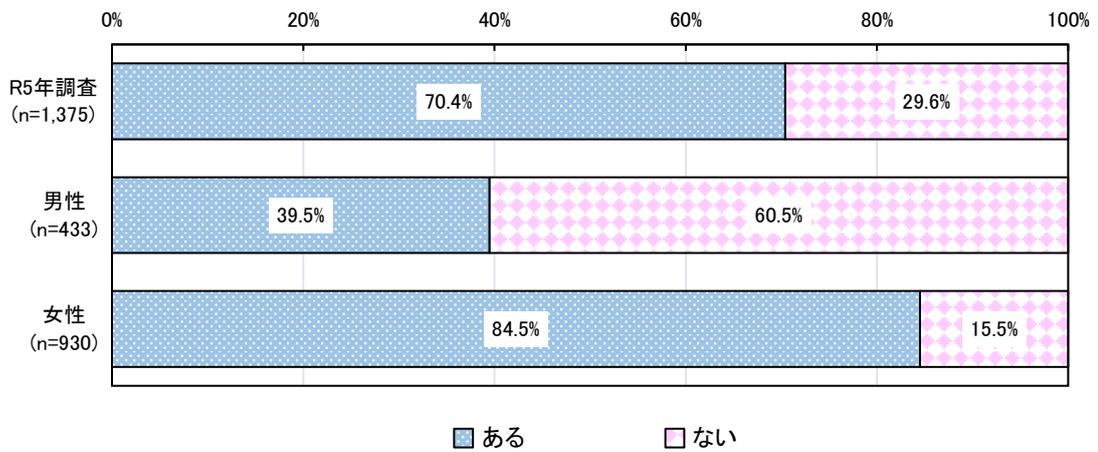
性別でみると、「ある」と回答した割合は、女性が男性を41.8ポイント上回る。

【15歳以上】



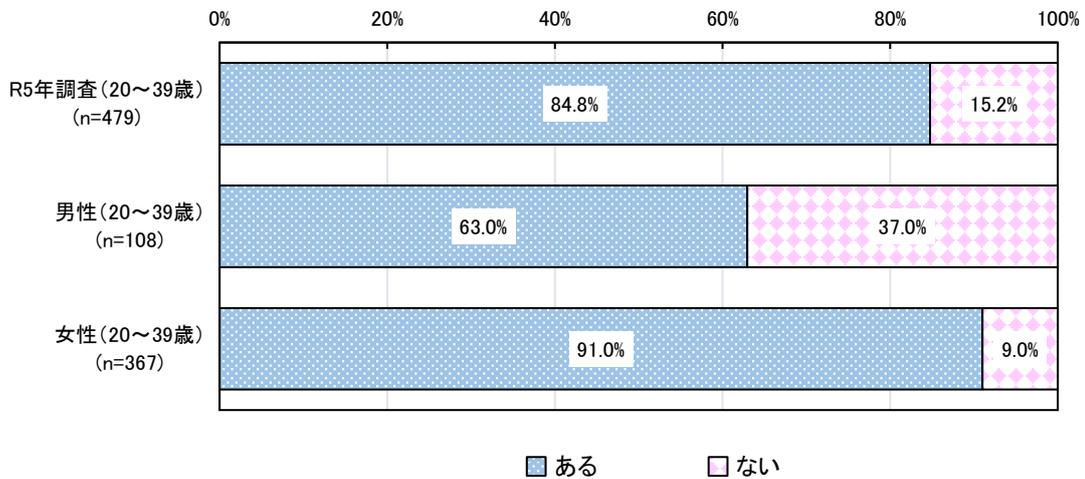
20歳以上でみると、「ある」が70.4%で最も高い。性別でみると、「ある」と回答した割合は女性が男性を45.0ポイント上回る。

【20歳以上】



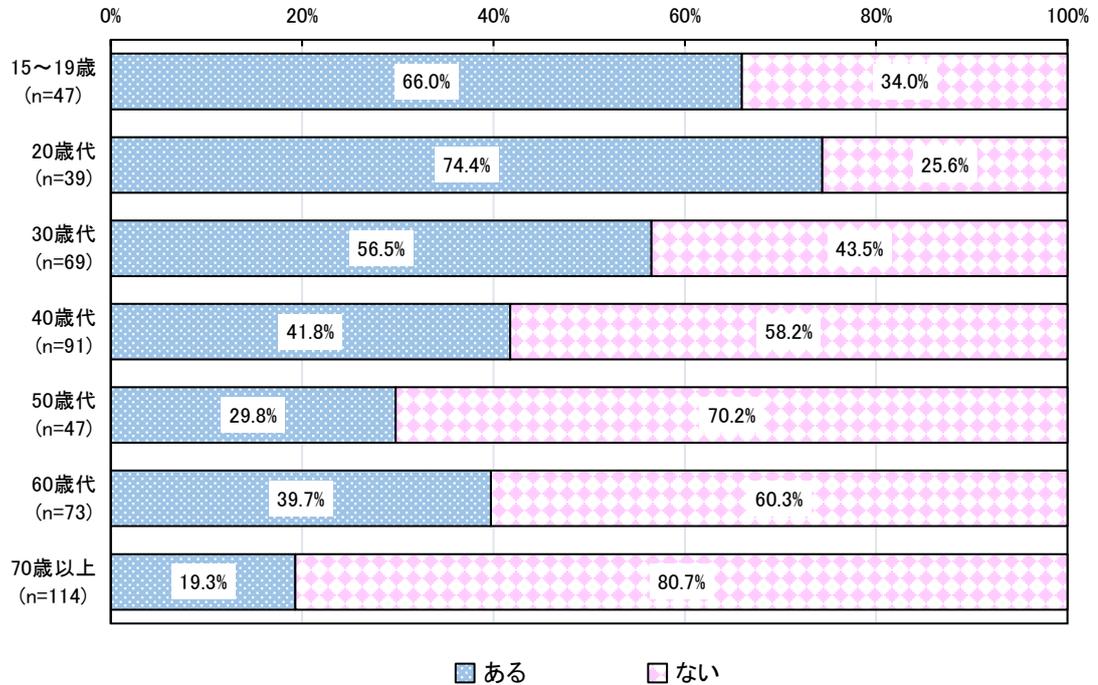
若い世代（20～39歳）でみると、全体では「ある」が84.8%で最も高い。性別でみると、「ある」と回答した割合は女性が男性を28.0ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】

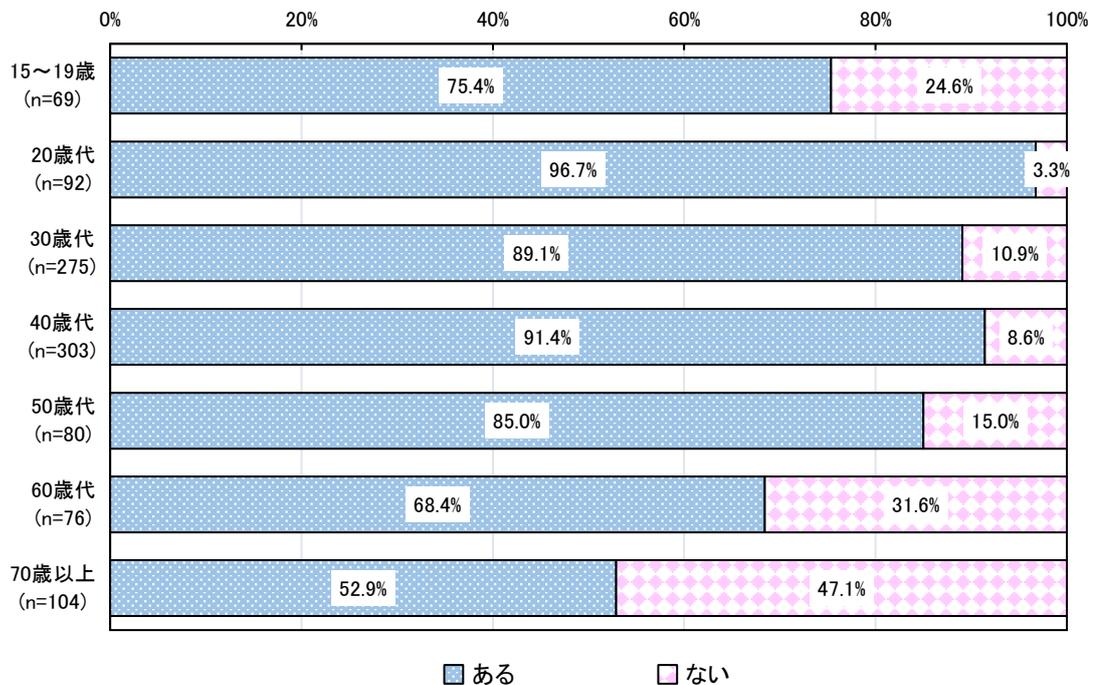


性・年齢別で見ると、男女ともに20歳代の認知度が最も高く、「ある」と回答した割合は全ての年代で女性が男性を上回る。20歳以降では、年代が上がる程認知度が低くなる傾向がみられる。

【15歳以上（男性）】



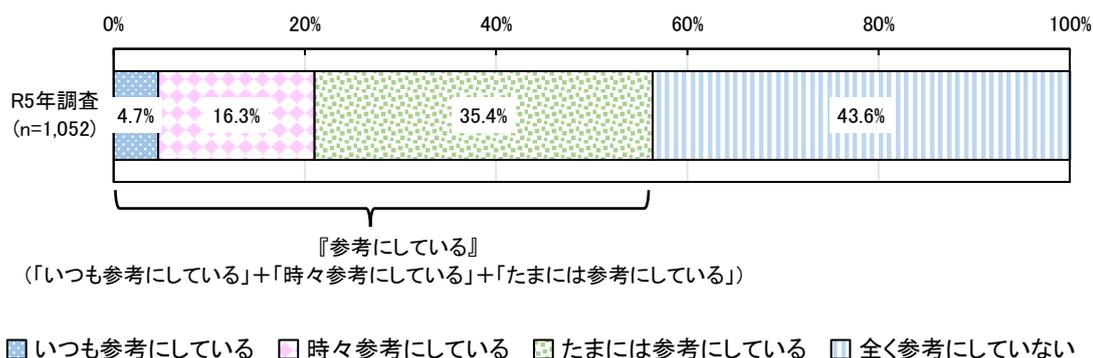
【15歳以上（女性）】



■「食事バランスガイド」の参考度 〈15歳以上〉

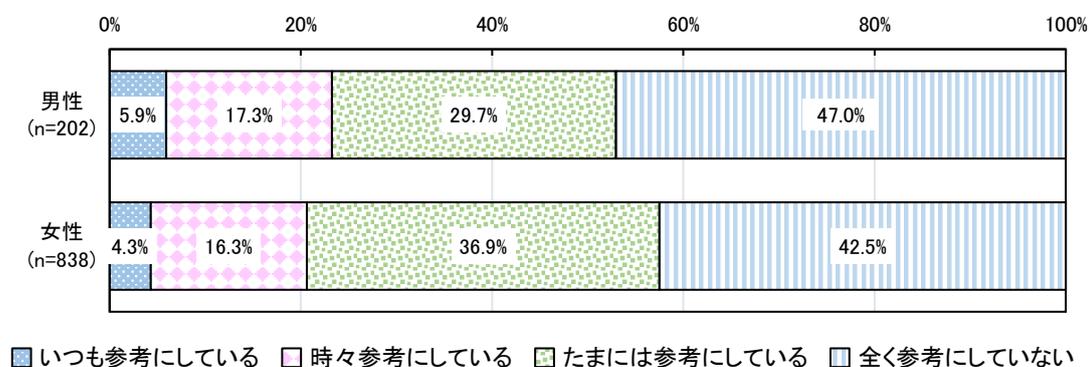
〈「食事バランスガイドの認知度」で「ある」と回答した人を対象〉

食事バランスガイドを見たことが「ある」と回答した人に、食事バランスガイドをどの程度参考に行っているかたずねたところ、「全く参考にしていない」43.6%が最も高く、次いで「たまには参考に行っている」35.4%、「時々参考に行っている」16.3%の順となった。『参考に行っている』（「いつも参考に行っている」+「時々参考に行っている」+「たまには参考に行っている」）人の割合は56.4%となった。



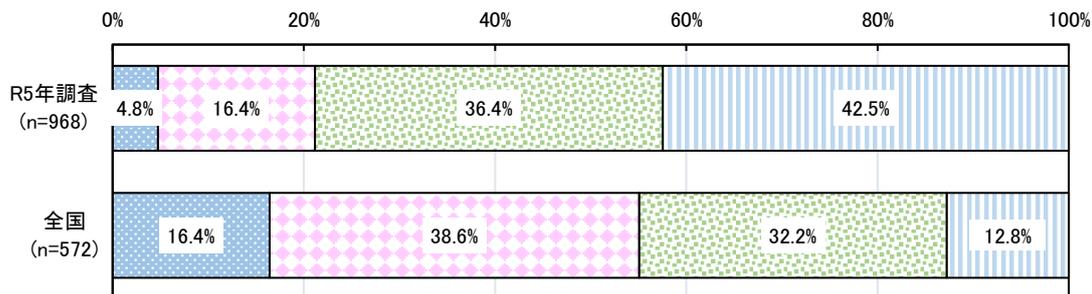
性別でみると、『参考に行っている』人の割合は、女性が男性を4.6ポイント上回る。

【15歳以上】



20歳以上でると、全体では『参考にしている』人の割合は57.6%となった。全国との比較では『参考にしている』人の割合は、全国を29.6ポイント下回る。

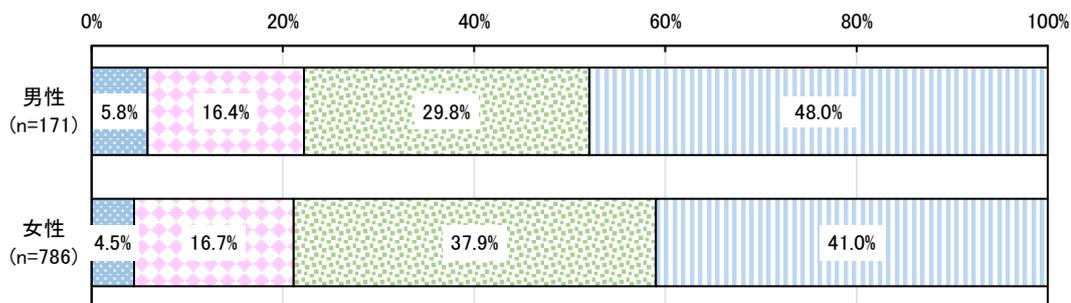
【20歳以上】



■ いつも参考にしている □ 時々参考にしている ■ たまには参考にしている □ 全く参考にしていない

※農林水産省「食育に関する意識調査」(R5年3月)

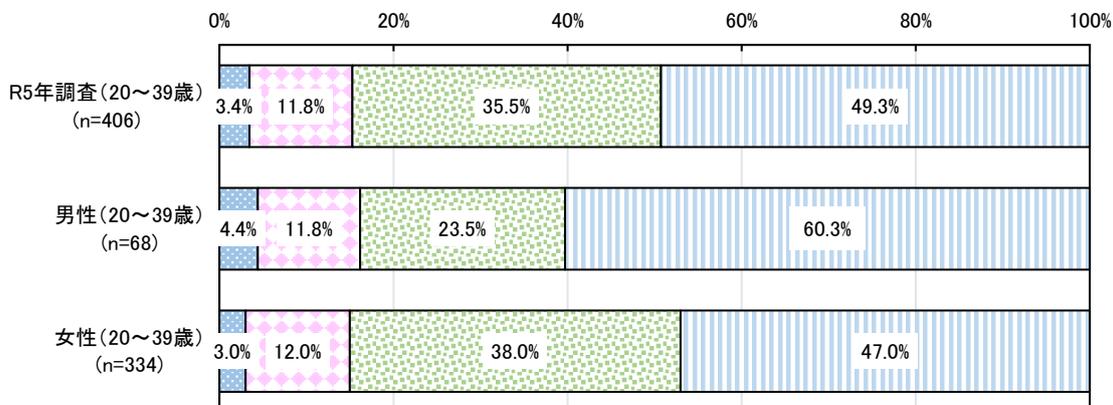
性別でみると、『参考にしている』人の割合は、女性が男性を7.1ポイント上回る。



■ いつも参考にしている □ 時々参考にしている ■ たまには参考にしている □ 全く参考にしていない

若い世代(20~39歳)でみると、全体では『参考にしている』人の割合は50.7%となった。性別でみると、男性は「全く参考にしていない」が6割を占め、女性を13.3ポイント上回る。

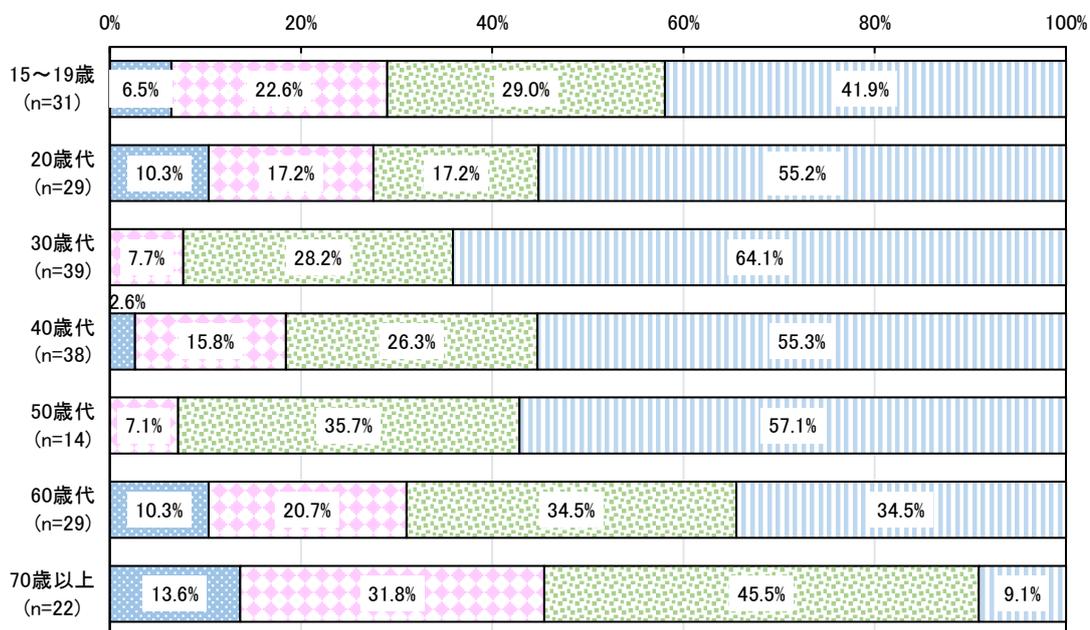
【若い世代(20~39歳)】



■ いつも参考にしている □ 時々参考にしている ■ たまには参考にしている □ 全く参考にしていない

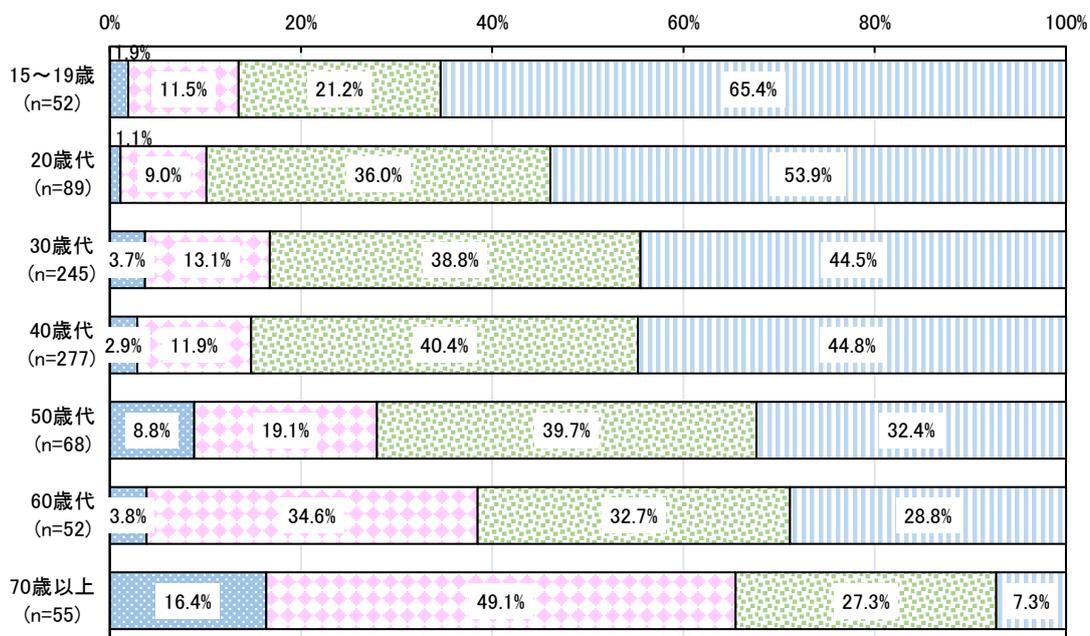
性・年齢別で見ると、『参考にしている』人の割合は、男女ともに70歳以上が最も高く9割を超えている。女性は『参考にしている』人の割合は、年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

【15歳以上（男性）】



■ いつも参考にしている □ 時々参考にしている ■ たまには参考にしている □ 全く参考にしていない

【15歳以上（女性）】

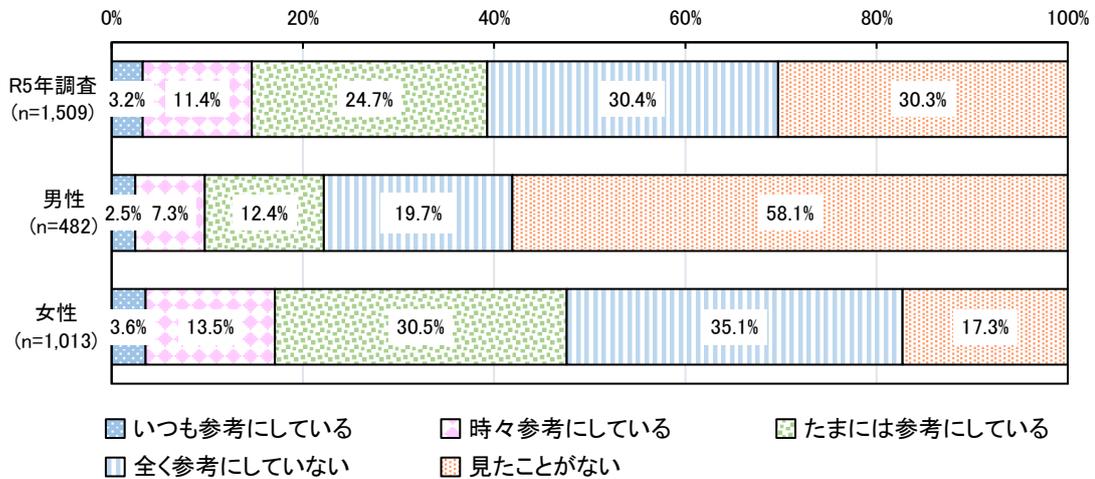


■ いつも参考にしている □ 時々参考にしている ■ たまには参考にしている □ 全く参考にしていない

■「食事バランスガイド」の参考度 〈15歳以上〉

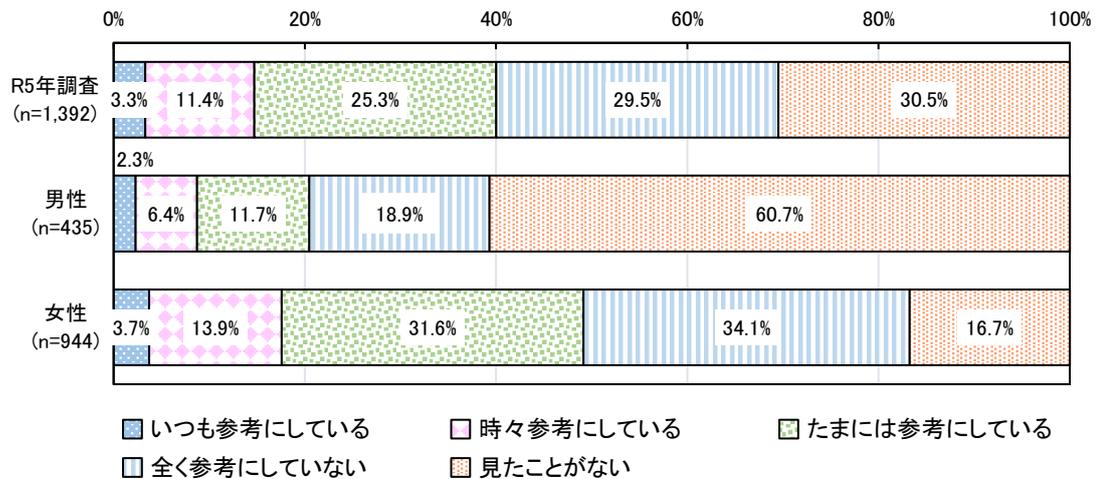
〈参考、回答者全員を対象〉

【15歳以上】

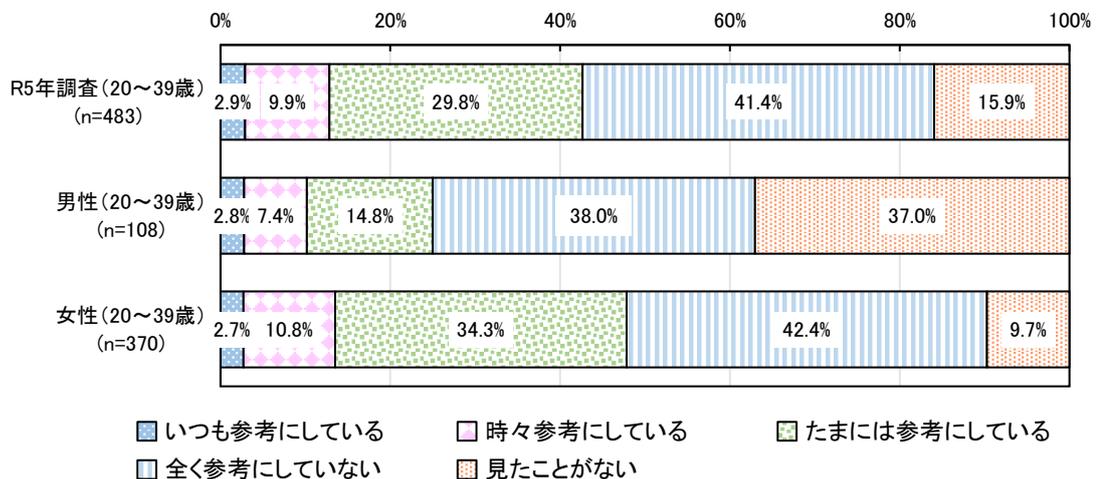


※「見たことがない」には「食事バランスガイドの参考度」で「ない」と回答した人及び無回答者の回答が含まれます。

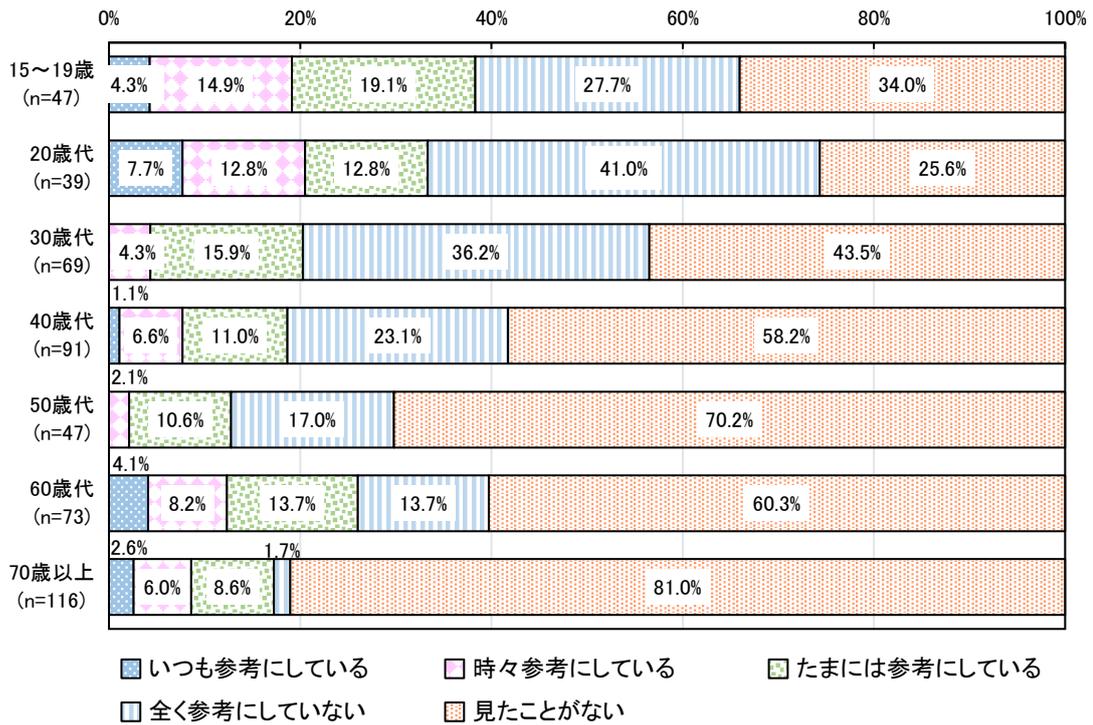
【20歳以上】



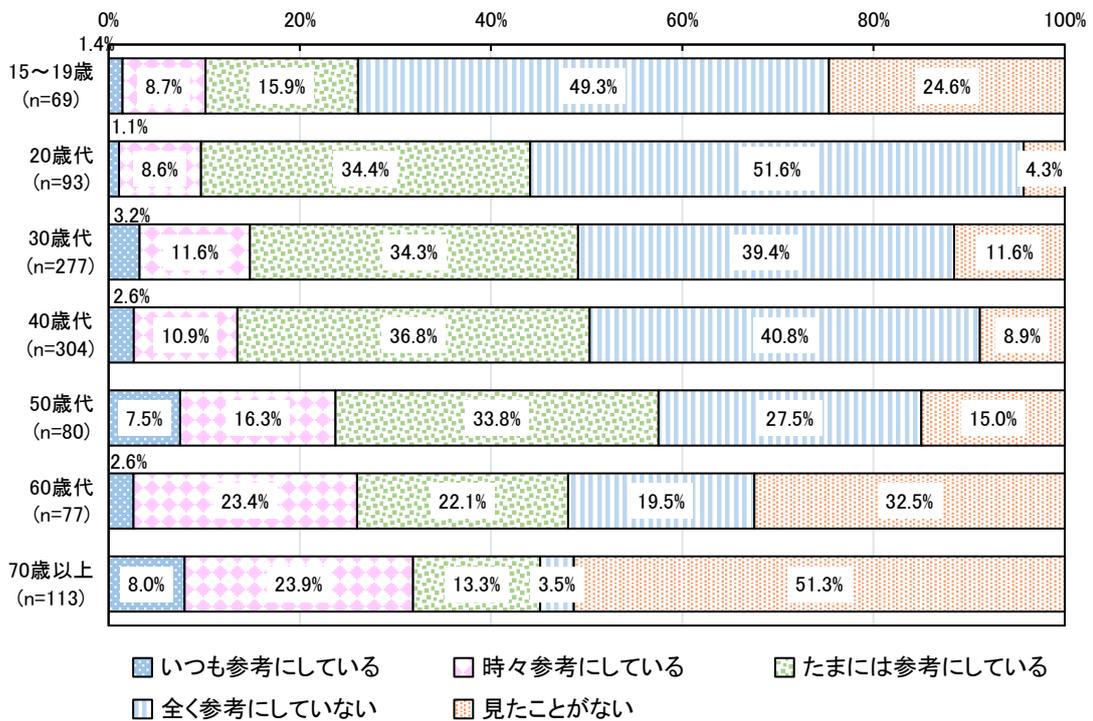
【若い世代 (20~39歳)】



【15歳以上（男性）】

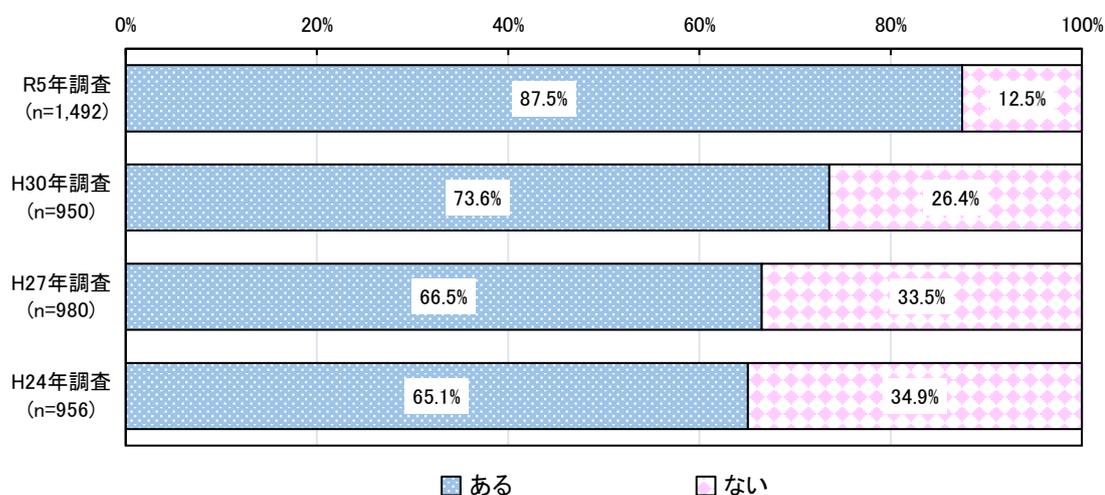


【15歳以上（女性）】



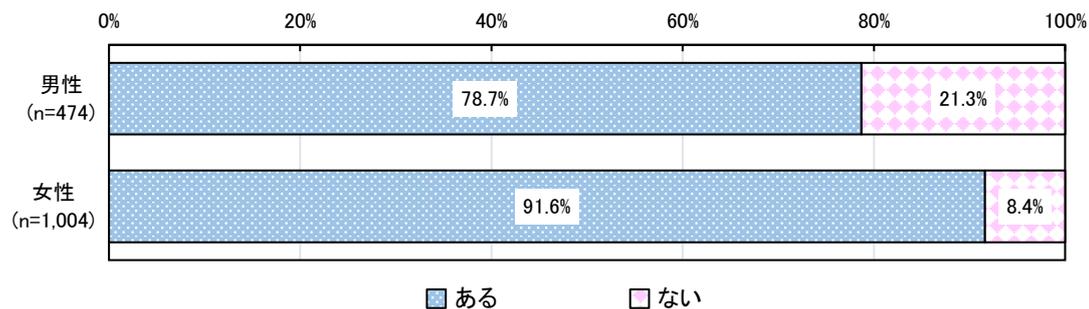
■スーパーや飲食店等での栄養成分の表示の認知度 〈15歳以上〉

スーパーや飲食店等で栄養成分の表示をみたことがあるかについては、「ある」が87.5%、「ない」が12.5%となった。前回調査と比較して、「ある」は13.9ポイント上回る。



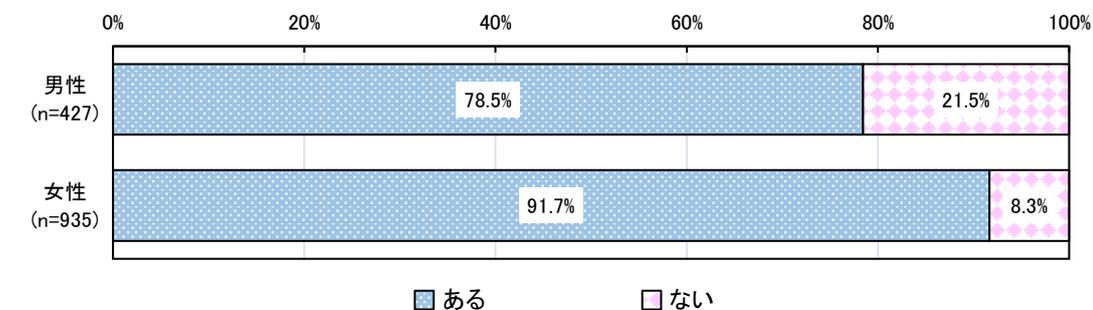
性別でみると、「ある」と回答した割合は、女性が男性を12.9ポイント上回る。

【15歳以上】



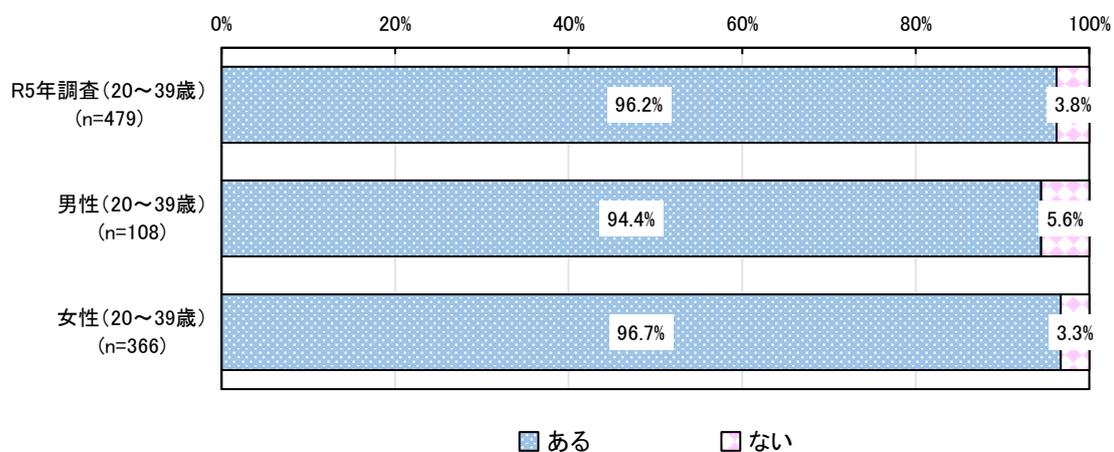
20歳以上でみると、「ある」と回答した割合は、女性が男性を13.2ポイント上回る。

【20歳以上】



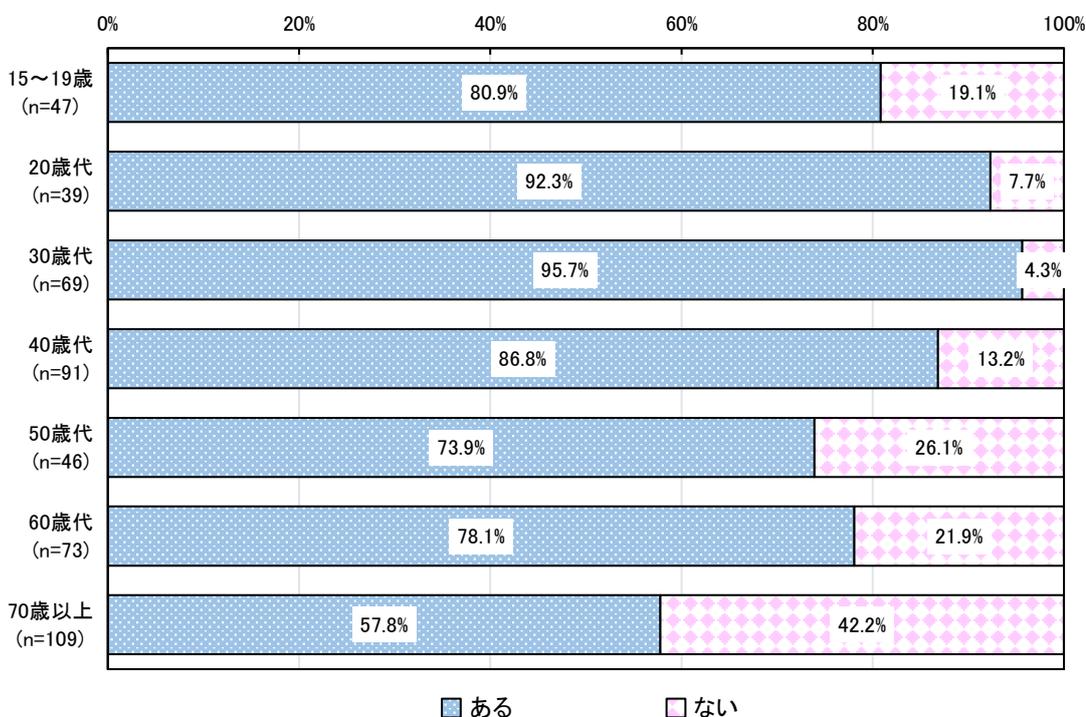
若い世代（20～39歳）で見ると、全体では「ある」は96.2%となり、認知度の高さがうかがえる。性別でみて、大きな差はみられない。

【若い世代（20～39歳）】

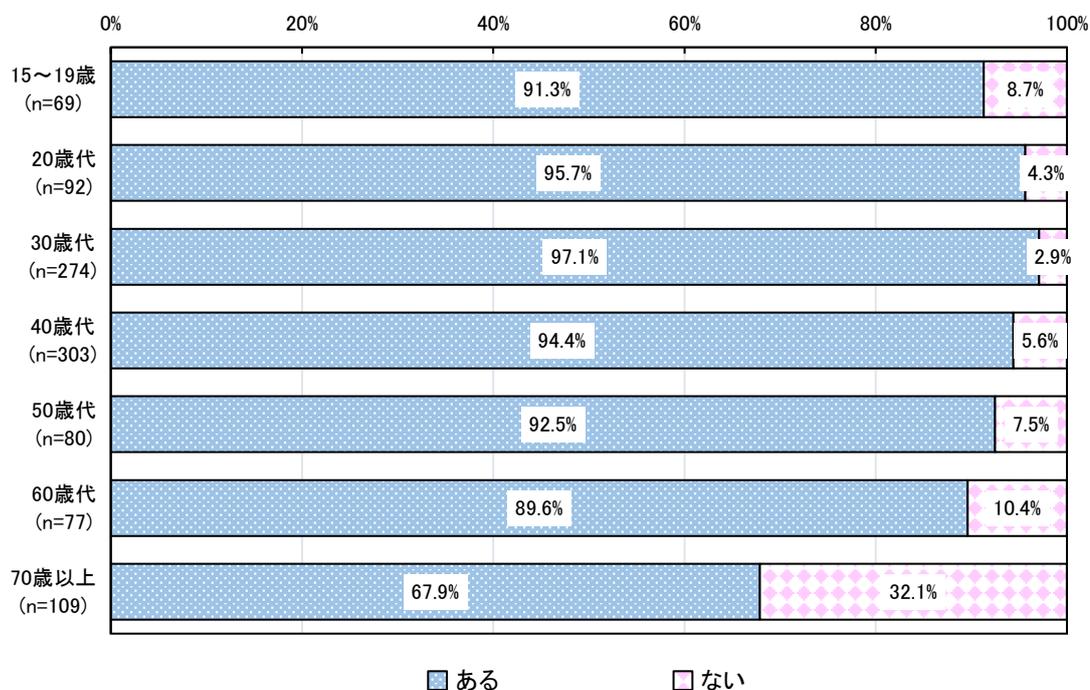


性・年齢別で見ると、男女ともに30歳代の認知度が最も高い。男性は20歳代から30歳代、女性は15歳から50歳代でいずれも「ある」と回答した割合は9割を超えている。男女ともに70歳以上では「ある」と回答した割合が、他の年代と比較して低い。

【15歳以上（男性）】



【15歳以上（女性）】



◎栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合

平成 30 年調査と比較して 7.1 ポイント上回り、目標を 9.5 ポイント下回る。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合	69.0%	67.9%	63.4%	70.5%	80%

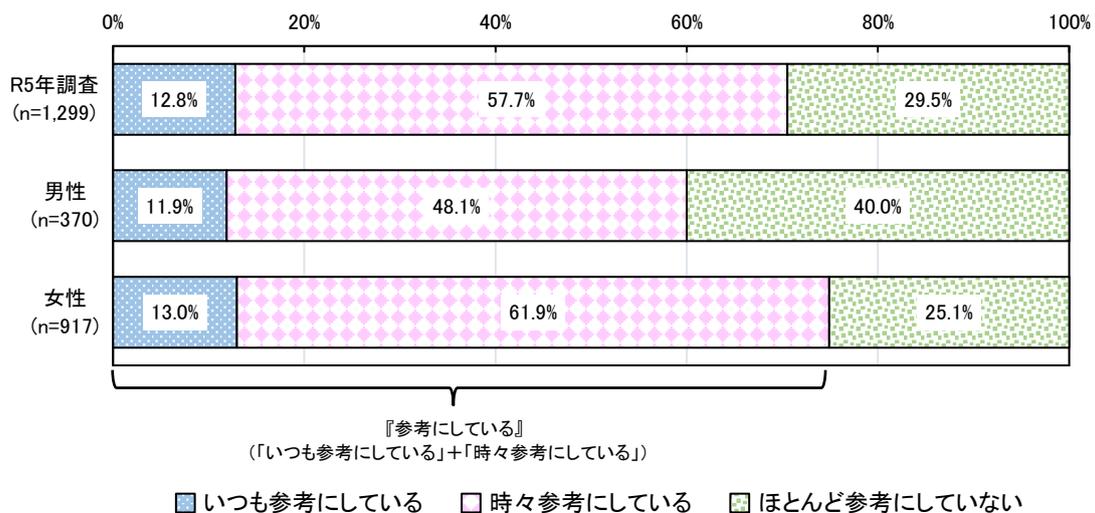
※第4次計画では、回答者全員を母数として、表示をみたことが「ある」と回答した人で、かつ「参考にしている」割合を指標とする。
(R5年現状値 60.7%、R17年目標 75%とする。)

<調査結果>

■栄養成分を参考にしてメニューを選ぶか 〈15歳以上〉

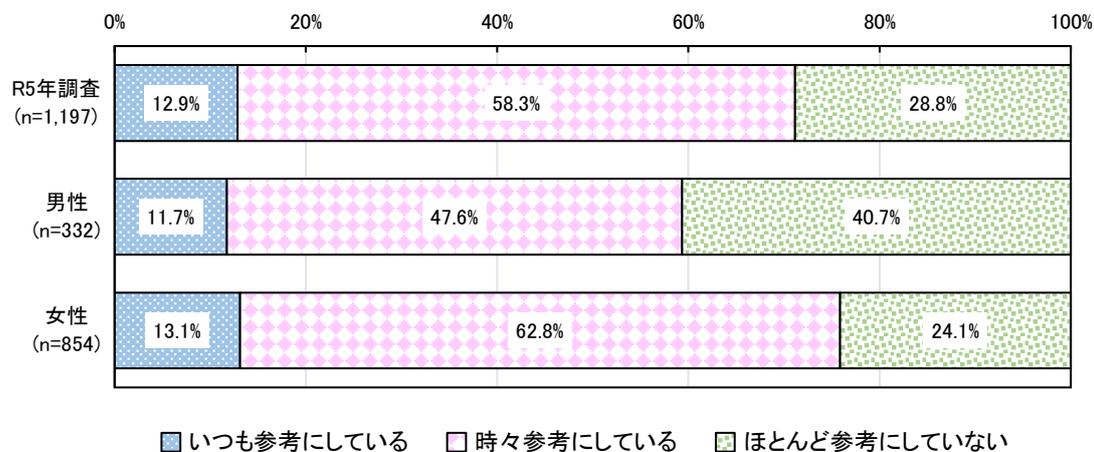
<「スーパーや飲食店等での栄養成分の表示の認知度」で「ある」と回答した人を対象>

栄養成分を参考にしてメニューを選ぶかをたずねたところ、「時々参考にしている」が 57.7%で最も高く、次いで「ほとんど参考にしていない」が 29.5%、「いつも参考にしている」が 12.8%となった。『参考にしている』(「いつも参考にしている」+「時々参考にしている」)人の割合は 70.5%となった。



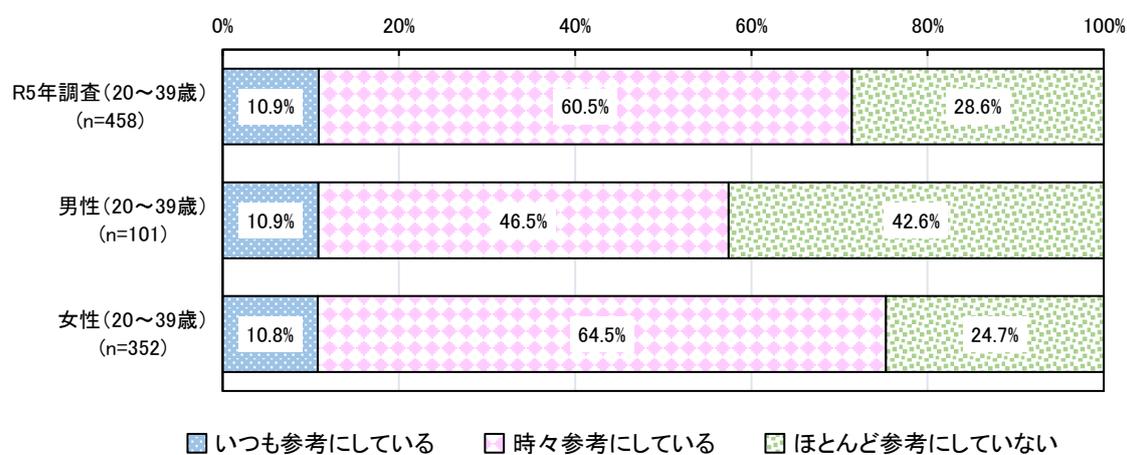
20歳以上でみると、全体では「時々参考にしている」が58.3%で最も高い。性別でみると、『参考にしている』人の割合は男性59.3%、女性75.9%と、女性が男性を16.6ポイント上回る。

【20歳以上】



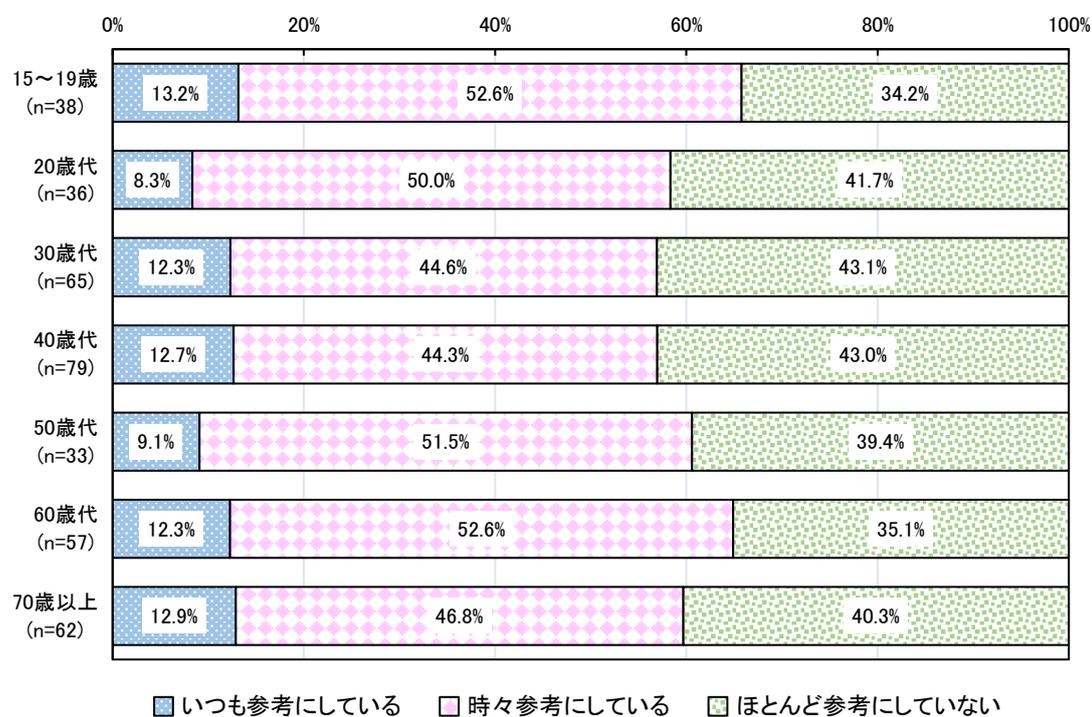
若い世代（20～39歳）でみると、「時々参考にしている」が60.5%で最も高い。性別でみると、『参考にしている』は男性57.4%、女性75.3%と、女性が男性を17.9ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】

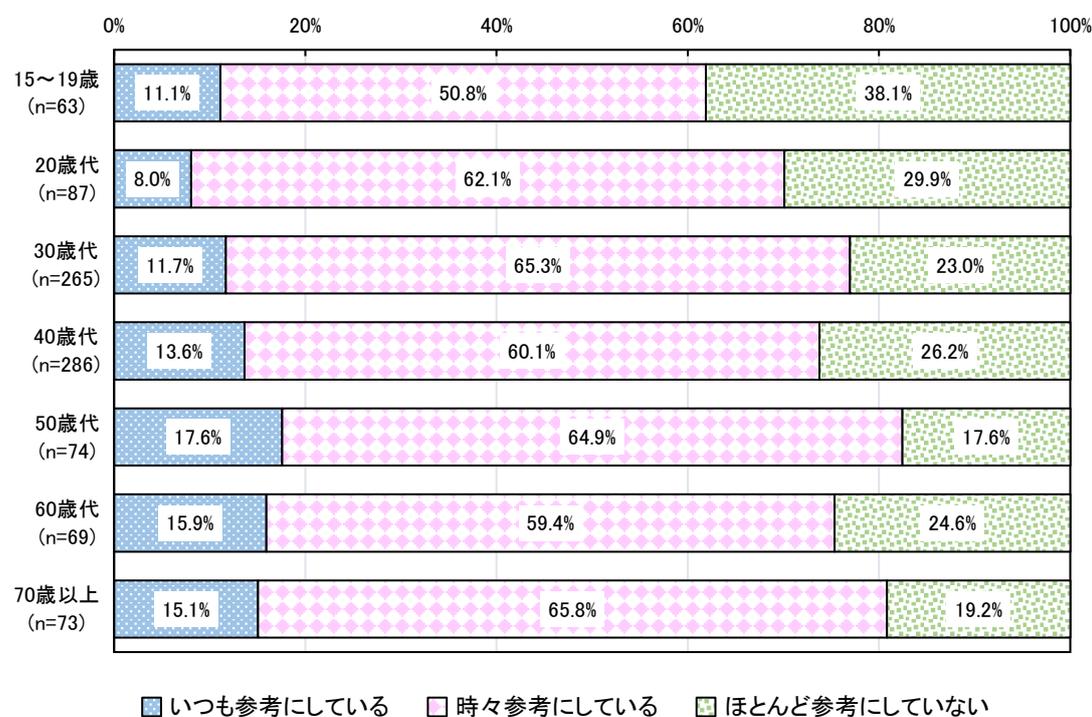


性・年齢別でみると、『参考にしている』は全ての年代で半数を超えている。男性は15～19歳の65.8%、60歳代の64.9%、女性は50歳代の82.5%がいずれも他の年代と比較して高い。

【15歳以上（男性）】

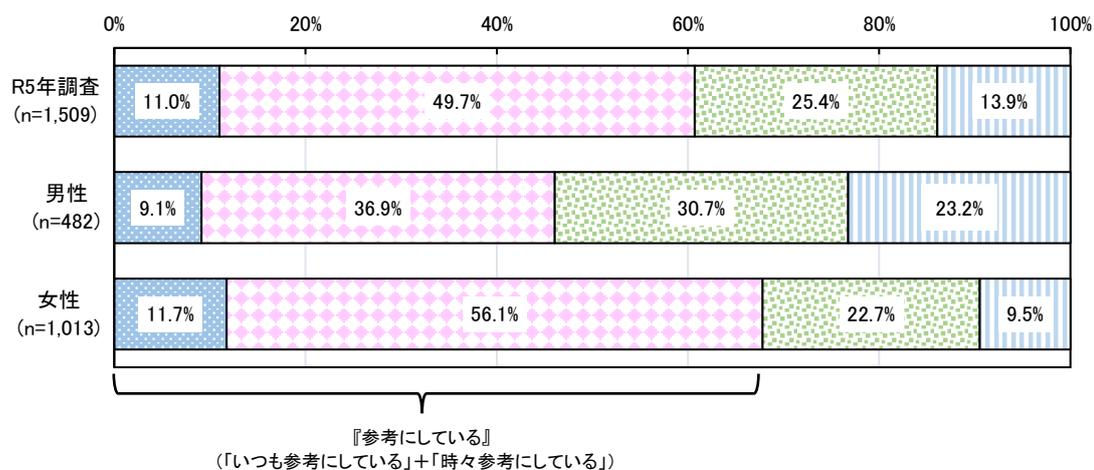


【15歳以上（女性）】



■栄養成分を参考にしてメニューを選ぶか 〈15歳以上〉

〈参考：回答者全員を対象〉



■ いつも参考にしている □ 時々参考にしている ■ ほとんど参考にしていない □ 参考にしていない

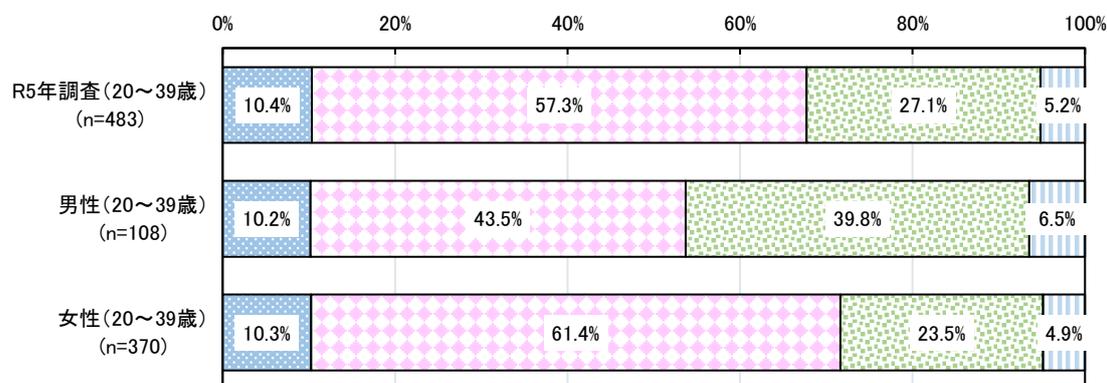
※ 「参考にしていない」には「スーパーや飲食店等での栄養成分の表示の認知度」で「ない」と回答した人及び無回答者の回答が含まれます。

【20歳以上】



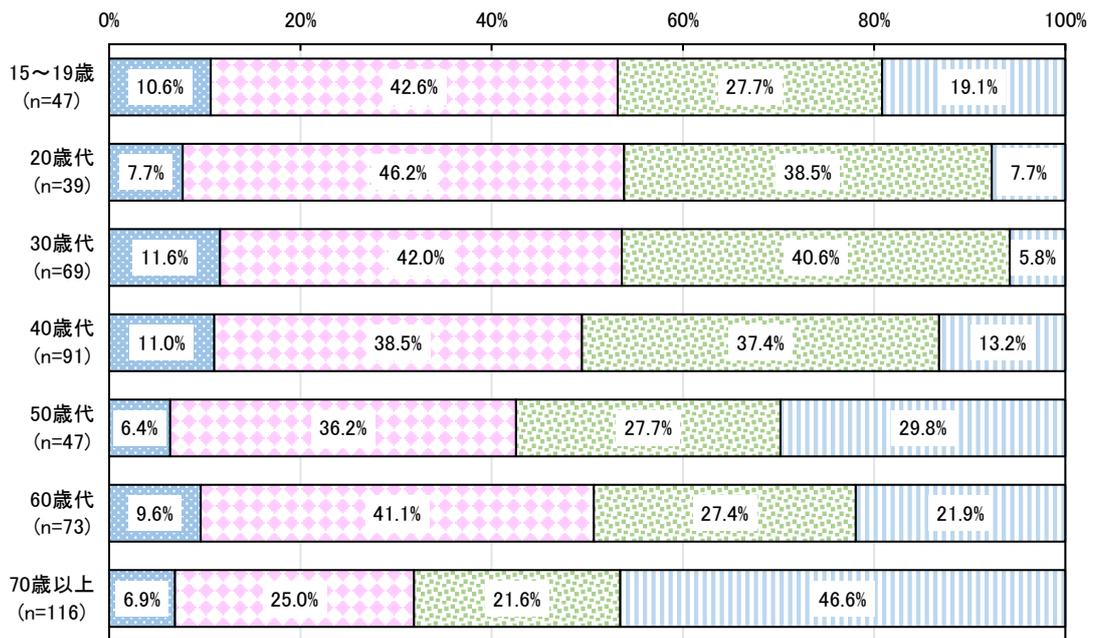
■ いつも参考にしている □ 時々参考にしている ■ ほとんど参考にしていない □ 参考にしていない

【若い世代 (20~39歳)】



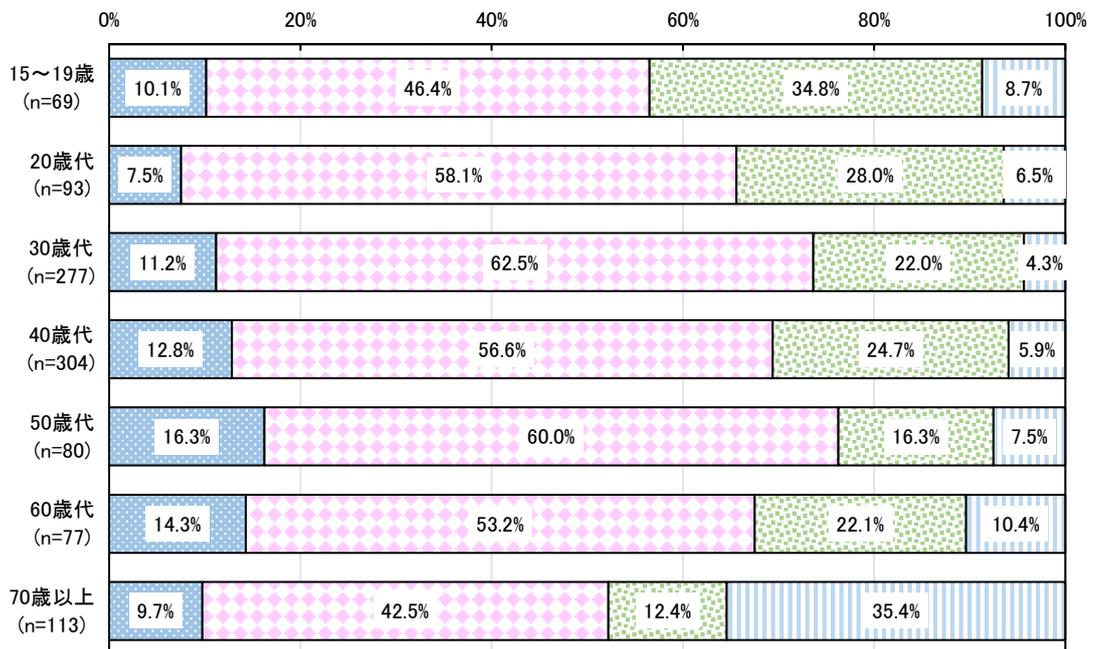
■ いつも参考にしている □ 時々参考にしている ■ ほとんど参考にしていない □ 参考にしていない

【15歳以上（男性）】



■ いつも参考にしている □ 時々参考にしている ■ ほとんど参考にしていない □ 参考にしていない

【15歳以上（女性）】

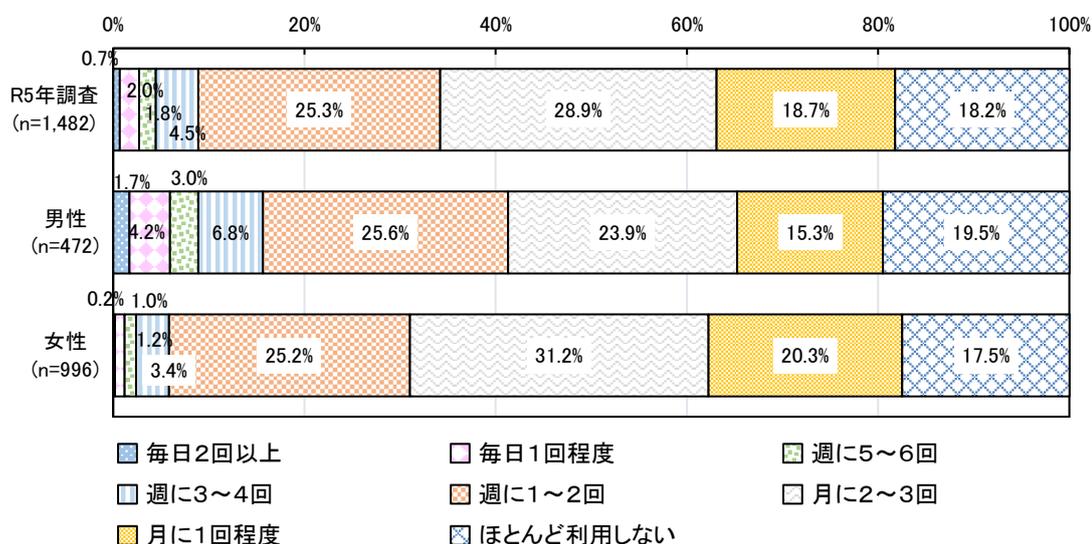


■ いつも参考にしている □ 時々参考にしている ■ ほとんど参考にしていない □ 参考にしていない

■ 外食や中食の頻度 〈15歳以上〉

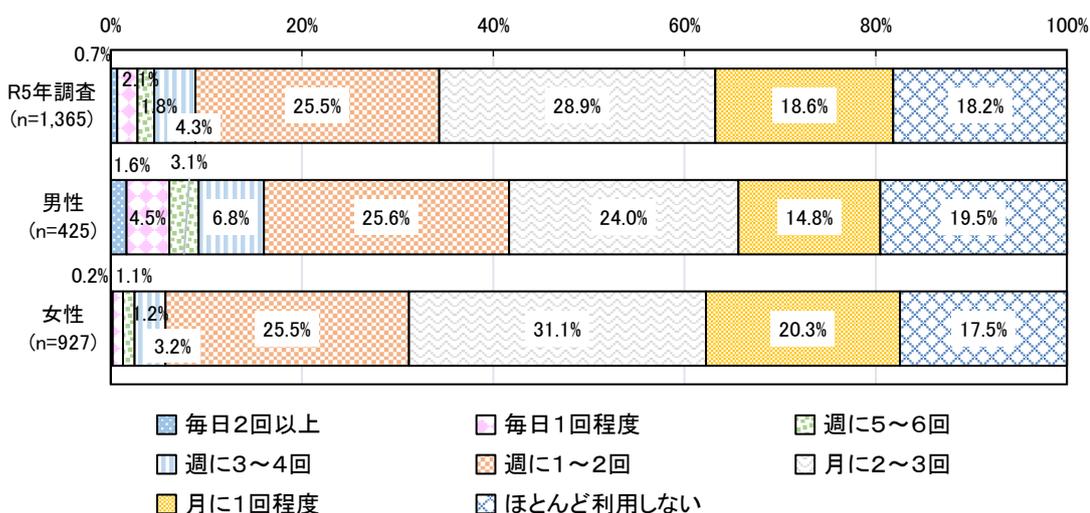
< 1. 外食 >

外食の頻度について、「月に2～3回」が28.9%で最も高く、次いで「週に1～2回」25.3%、「月に1回程度」18.7%の順となった。性別でみると、『週に1回以上』（「毎日2回以上」＋「毎日1回程度」＋「週に5～6回」＋「週に3～4回」＋「週に1～2回」）は男性が女性を10.3ポイント上回る。



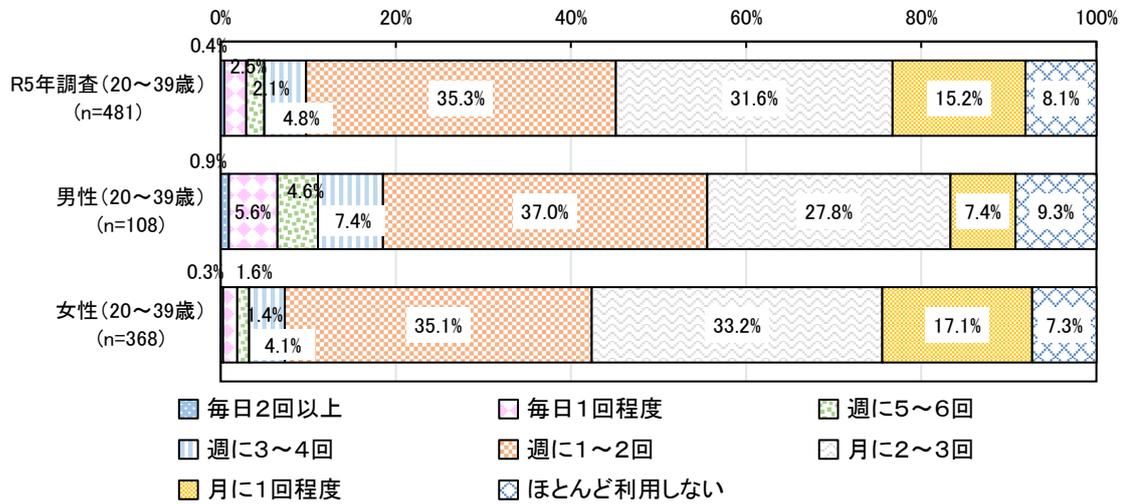
20歳以上でみると、全体では「月に2～3回」が28.9%で最も高い。性別でみると、『週に1回以上』は男性が女性を10.4ポイント上回る。

【20歳以上】



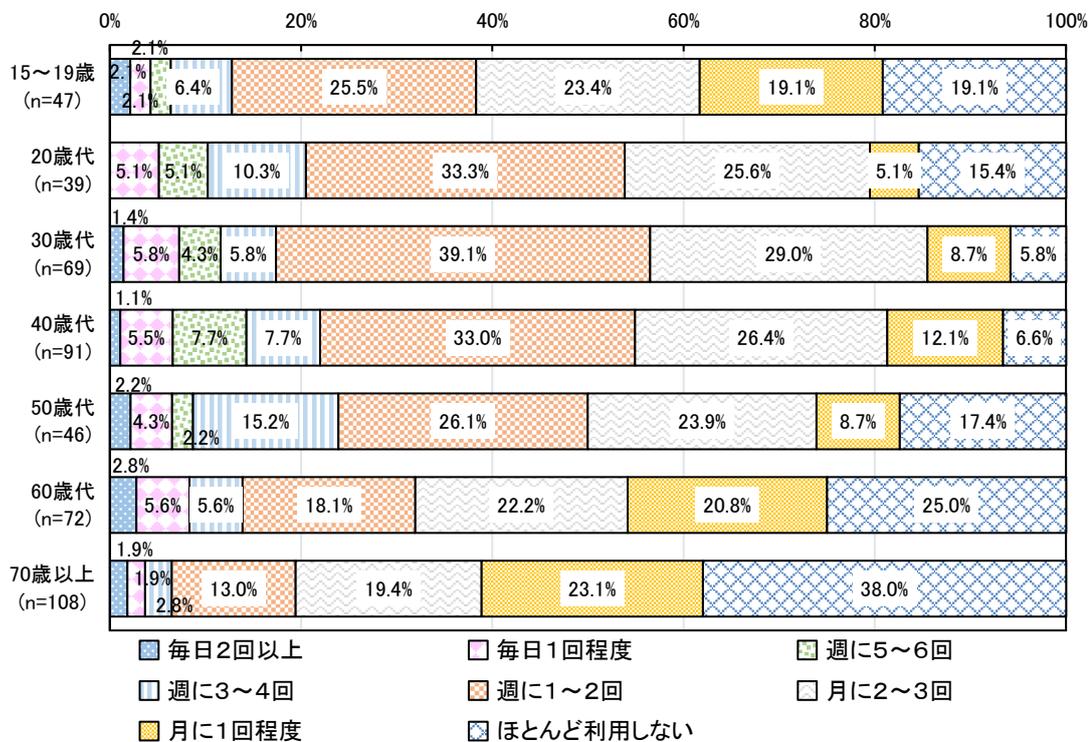
若い世代（20～39歳）で見ると、全体では「週に1～2回」が35.3%で最も高く、次いで「月に2～3回」31.6%、「月に1回程度」15.2%となった。『週に1回以上』は男性が女性を13.0ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】

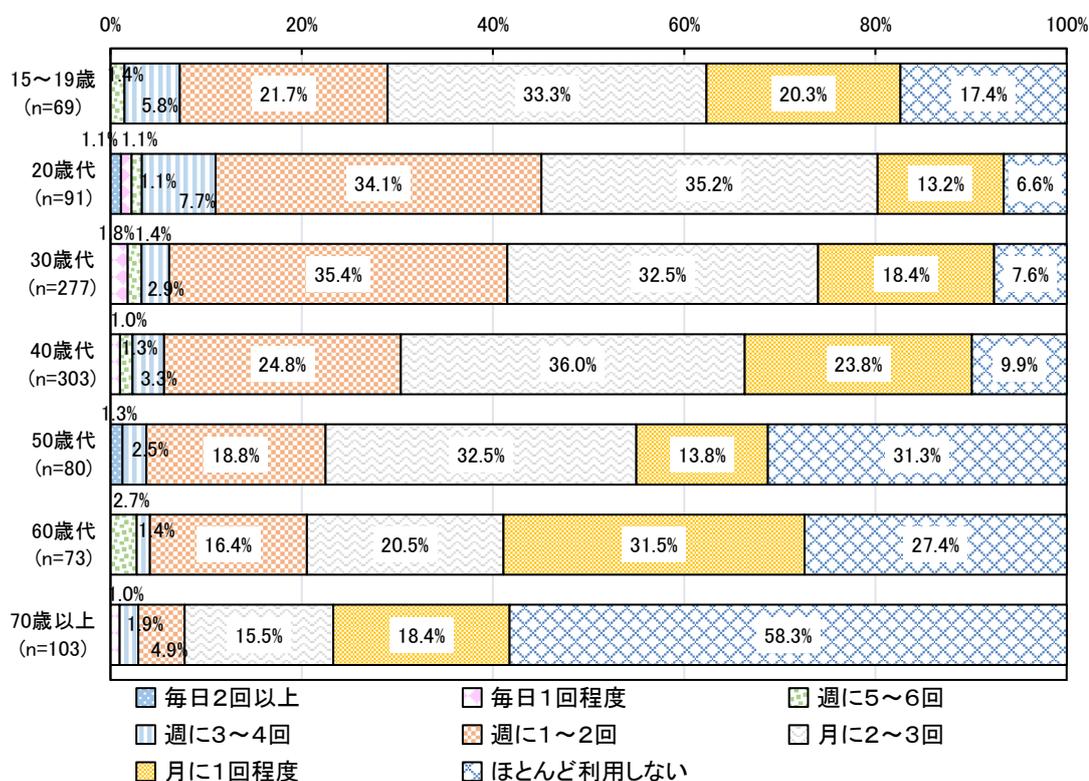


性・年齢別で見ると、外食の頻度について、「ほとんど利用しない」と回答した割合は、男女ともに70歳以上が最も高い。一方、『週に1回以上』は男性では20歳代から50歳代でいずれも5割を超えている。女性では20歳代が最も高く45.1%となった。

【15歳以上（男性）】



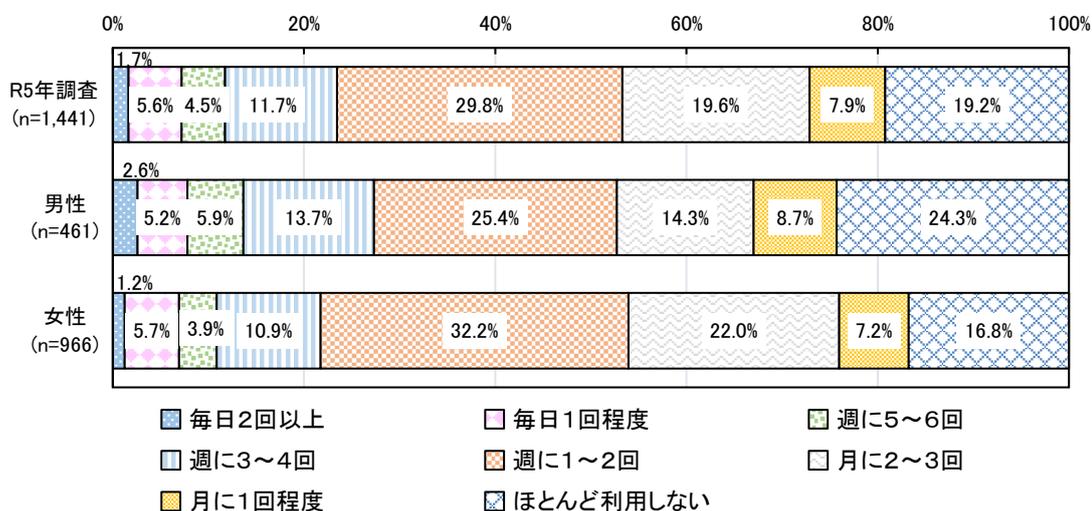
【15歳以上（女性）】



< 2. 中食 >

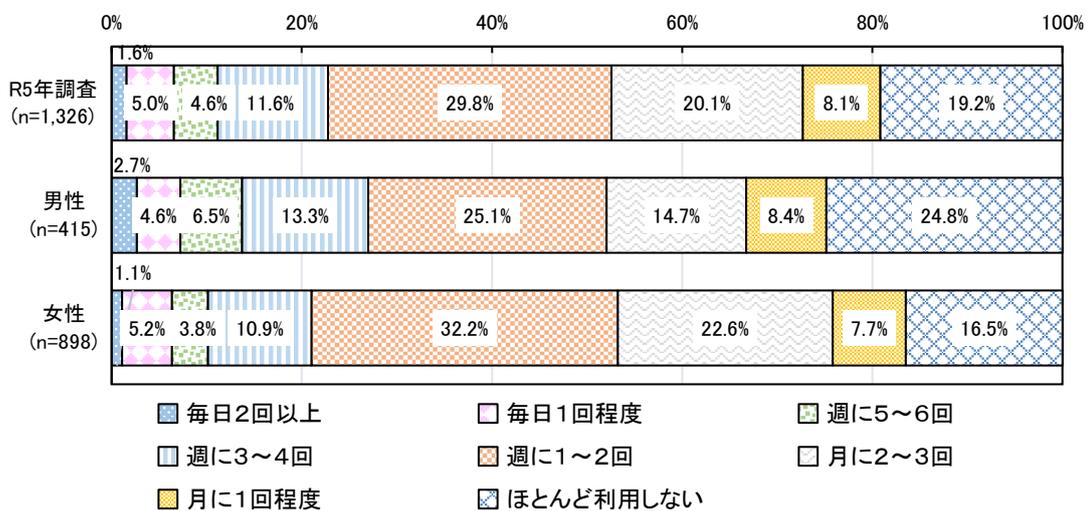
中食の頻度について、「週に1～2回」が29.8%で最も高く、次いで「月に2～3回」19.6%、「ほとんど利用しない」19.2%の順となった。性別で見ると「ほとんど利用しない」は男性が女性を7.5ポイント上回る。

【15歳以上】



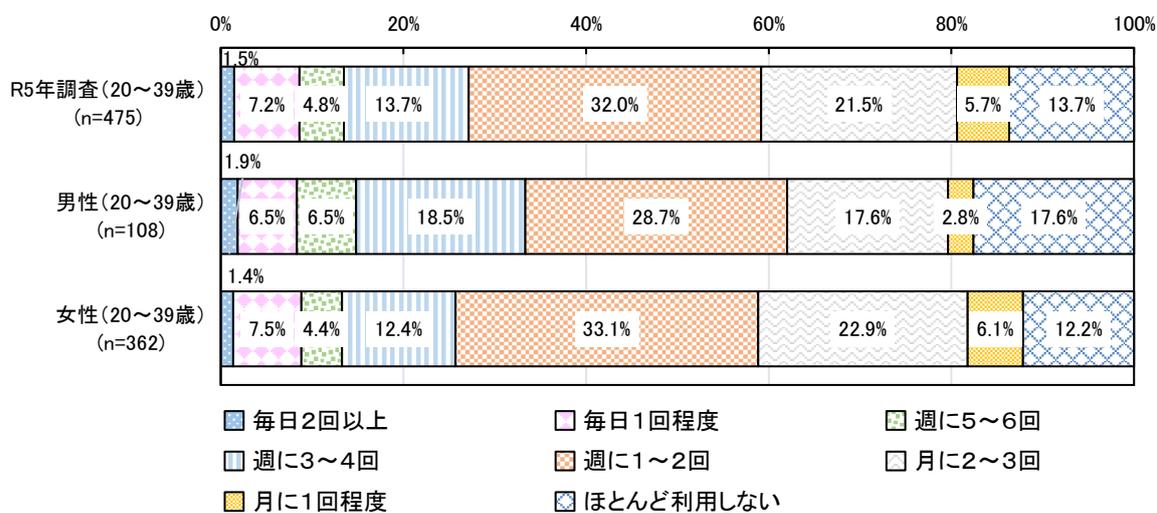
20歳以上で見ると、全体では「週に1～2回」が29.8%で最も高い。性別で見ると、「ほとんど利用しない」は男性が女性を8.3ポイント上回る。

【20歳以上】



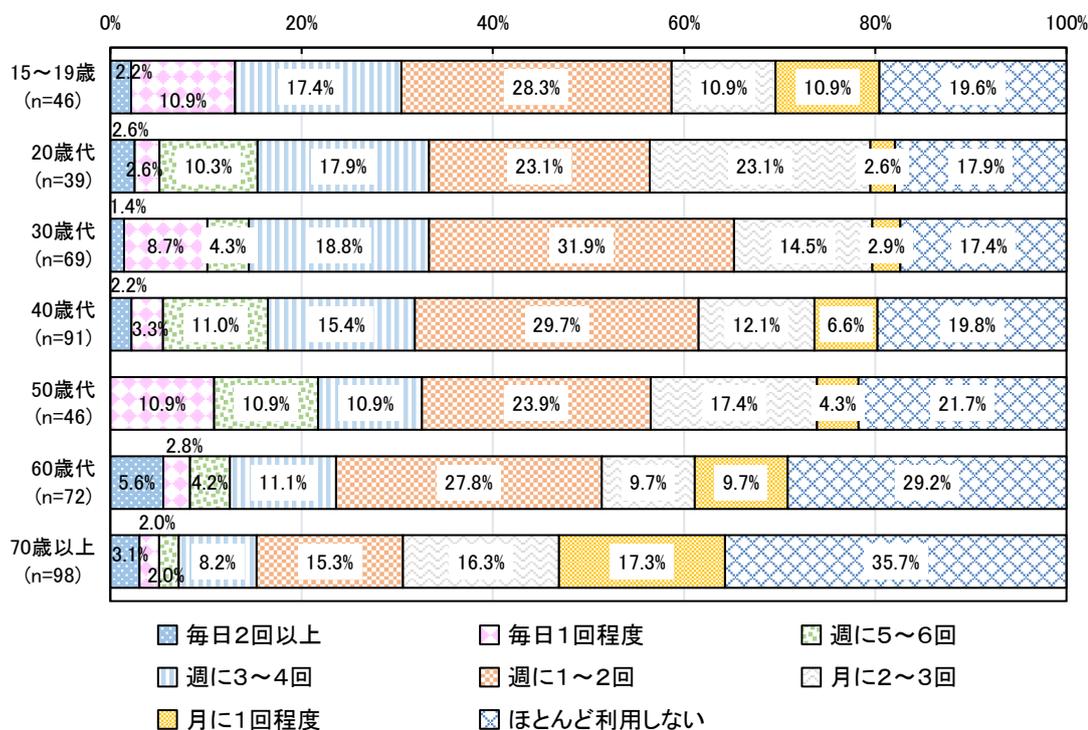
若い世代（20～39歳）でみると、全体では「週に1～2回」が32.0%で最も高い。性別でみると、「ほとんど利用しない」は男性が女性を5.4ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】

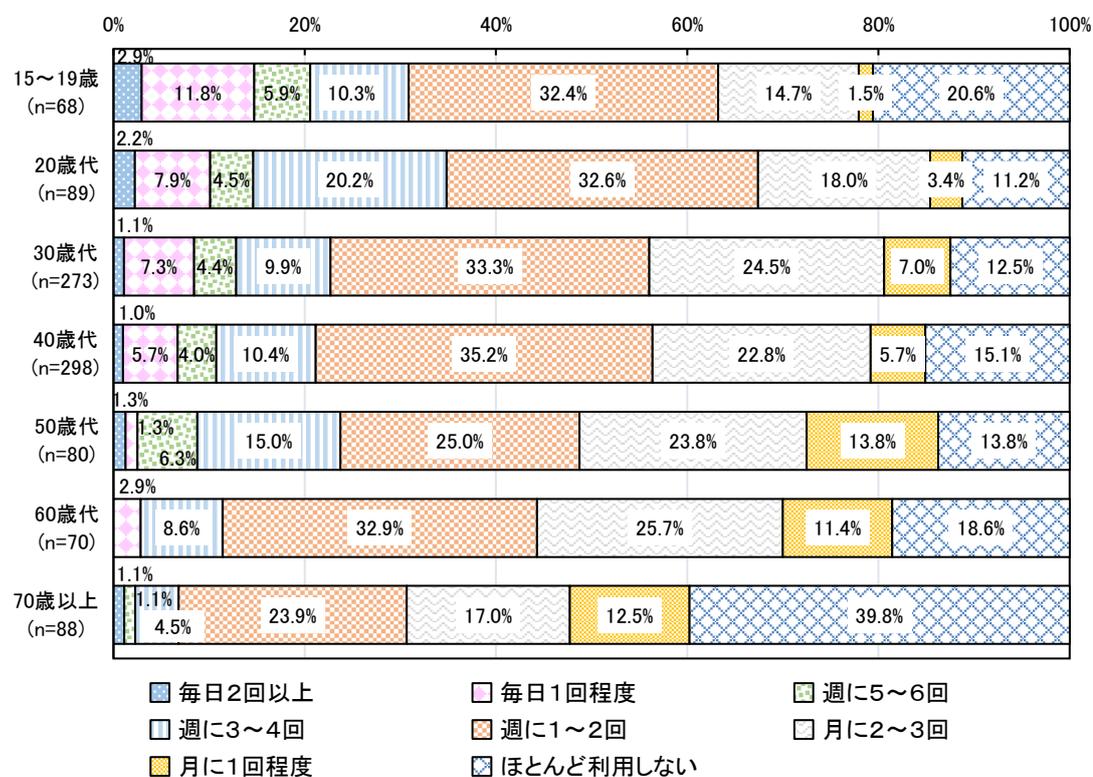


性・年齢別で見ると、中食の頻度について、「ほとんど利用しない」と回答した割合は、男女ともに70歳以上が最も高く、20歳代以降では、年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。

【15歳以上（男性）】



【15歳以上（女性）】



◎進んで地元農産物を購入する市民の割合

進んで地元農産物を購入する市民の割合は 59.7%で、平成 30 年調査と比較して 14.1 ポイント下回り、目標を 20.3 ポイント下回る。

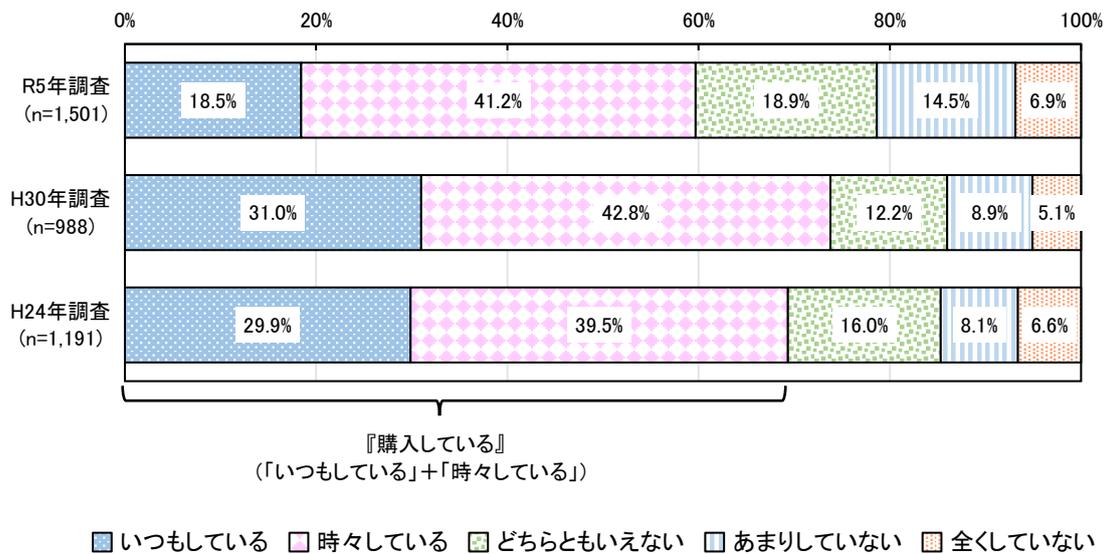
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○進んで地元農産物を購入する市民の割合	69.4%	68.3%	73.8%	59.7%	80%

<調査結果>

■地元産の農産物や水産物の購入 〈15歳以上〉

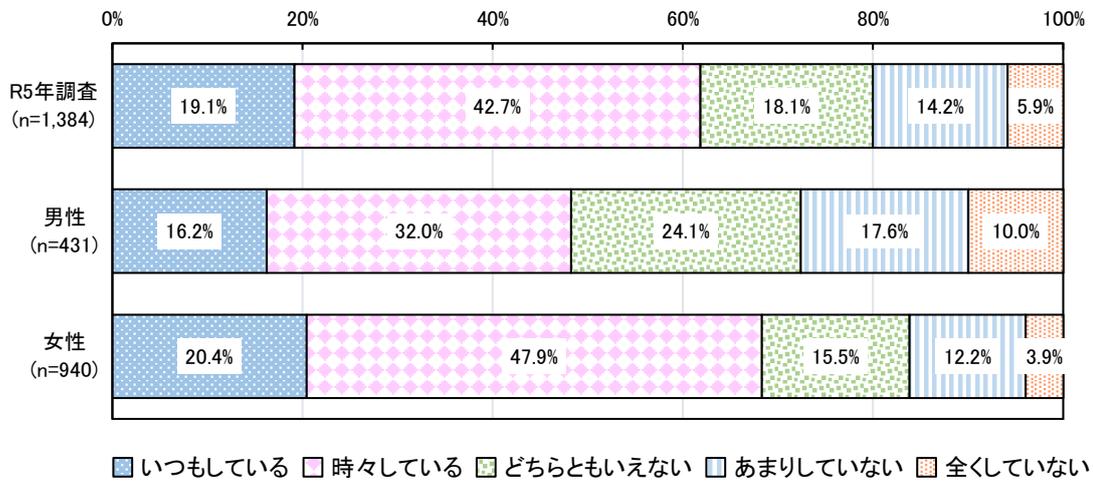
地元産の農産物や水産物の購入について、「時々している」が 41.2%で最も高く、次いで「どちらともいえない」18.9%、「いつもしている」18.5%の順となった。『購入している』（「いつもしている」+「時々している」）と回答した人は 59.7%となった。

前回調査と比較して、「いつもしている」は 12.5 ポイント下回り、「どちらともいえない」は 6.7 ポイント、「あまりしていない」は 5.6 ポイント上回る。



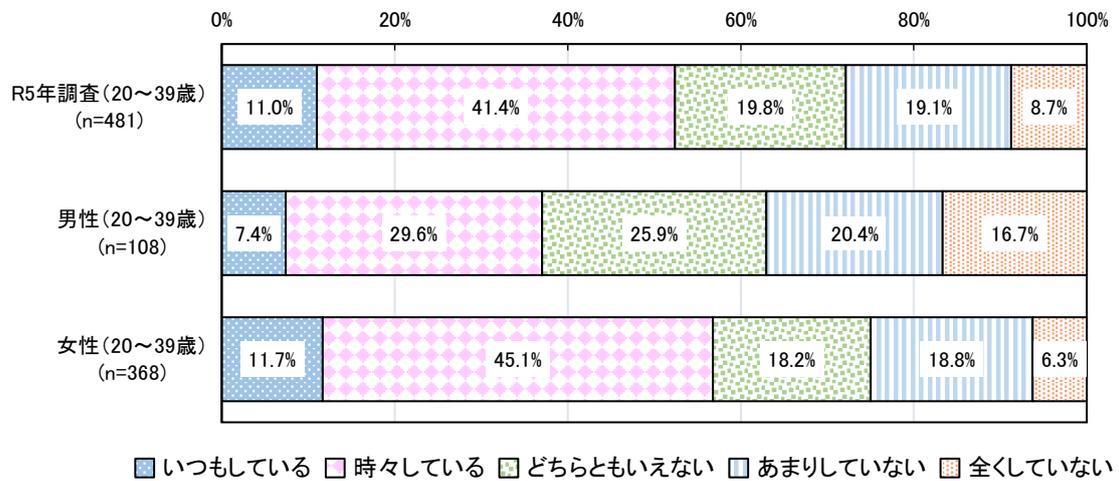
20歳以上でみると、全体では「時々している」が42.7%で最も高い。性別でみると、『購入している』は男性48.2%、女性68.3%と、女性が男性を20.1ポイント上回る。

【20歳以上】



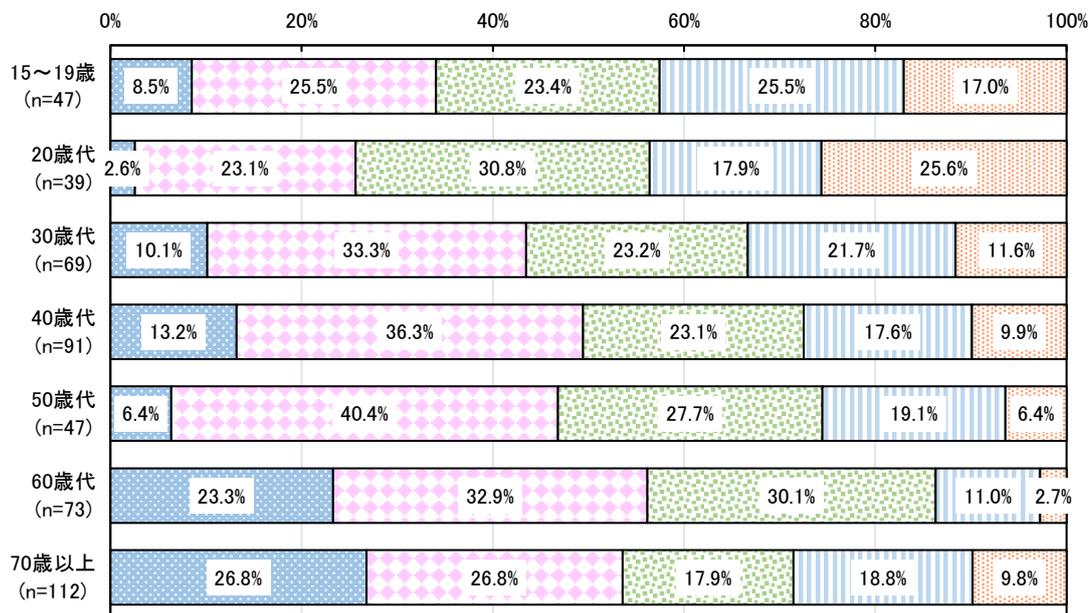
若い世代（20～39歳）でみると、全体では「時々している」が41.4%で最も高い。性別でみると、『購入している』は男性37.0%、女性56.8%と、女性が男性を19.8ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】



性別でみると、『購入している』との回答は、60歳代男性の56.2%、70歳以上女性の84.6%が最も高い。

【15歳以上（男性）】



■ いつもしている □ 時々している ■ どちらともいえない □ あまりしていない ■ 全くしていない

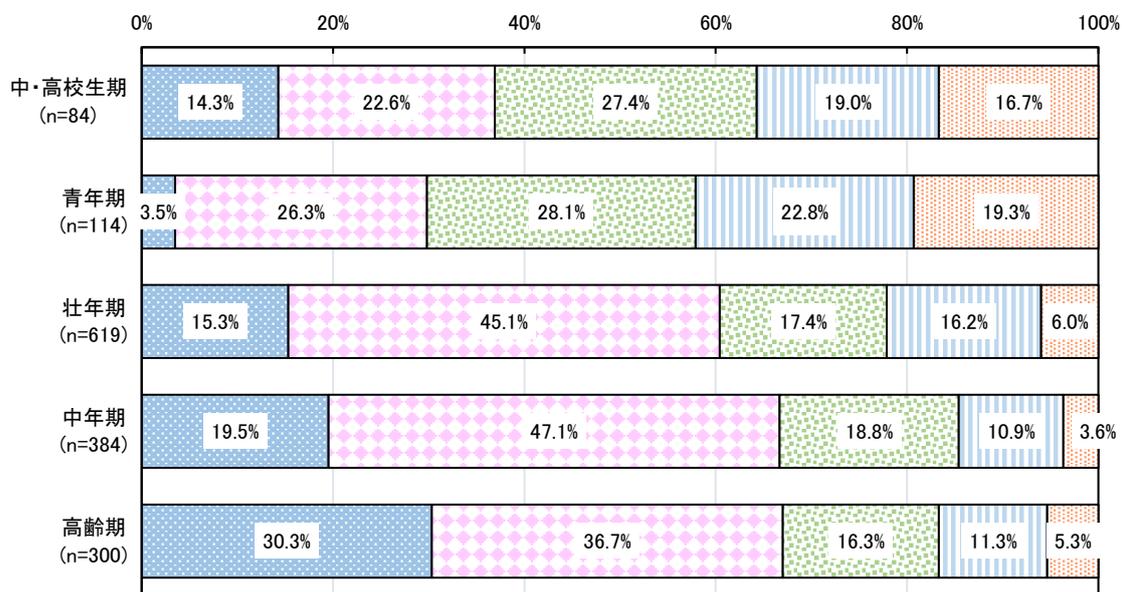
【15歳以上（女性）】



■ いつもしている □ 時々している ■ どちらともいえない □ あまりしていない ■ 全くしていない

ライフステージ別でみると、『購入している』と回答した割合が高いのは、壮年期、中年期、高齢期でいずれも6割以上を占める。

【15歳以上】

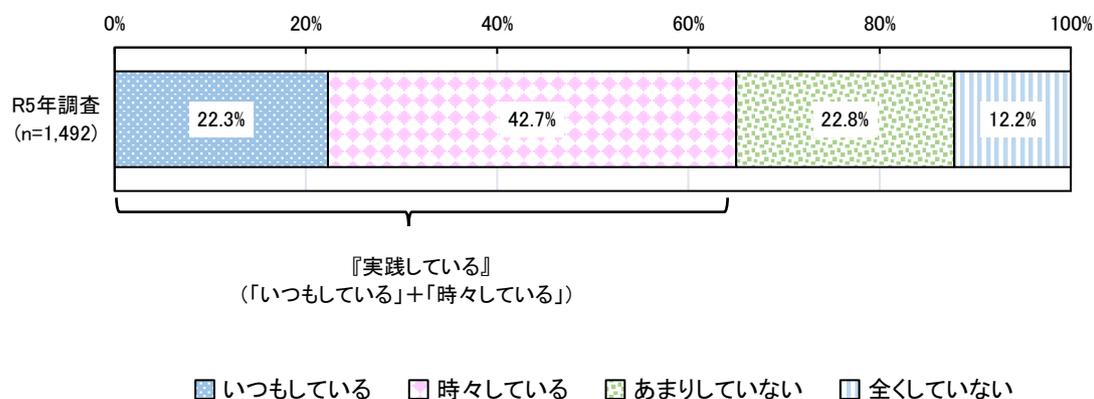


■ 14.3% ■ 22.6% ■ 27.4% ■ 19.0% ■ 16.7%

■ふだんから実践していること 〈15歳以上〉

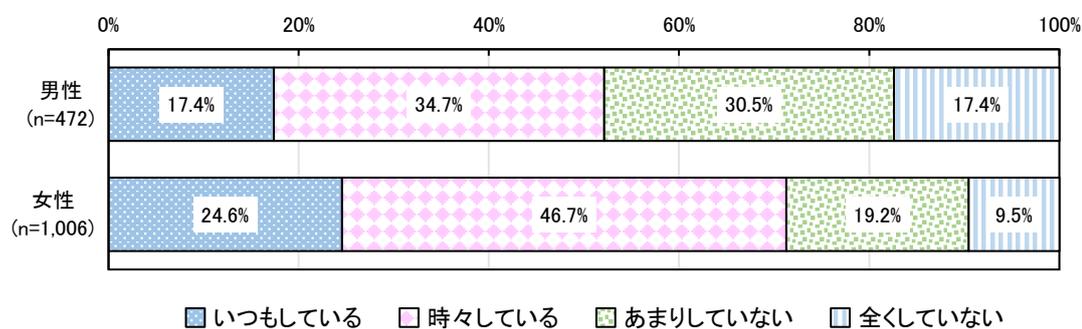
< (1) 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶこと >

ふだんから産地や生産者を意識して農林水産物や食品を選んでいるかについて、「時々している」が42.7%で最も高く、次いで「あまりしていない」22.8%、「いつもしている」22.3%の順となった。『実践している』（「いつもしている」＋「時々している」）人の割合は65.0%であった。



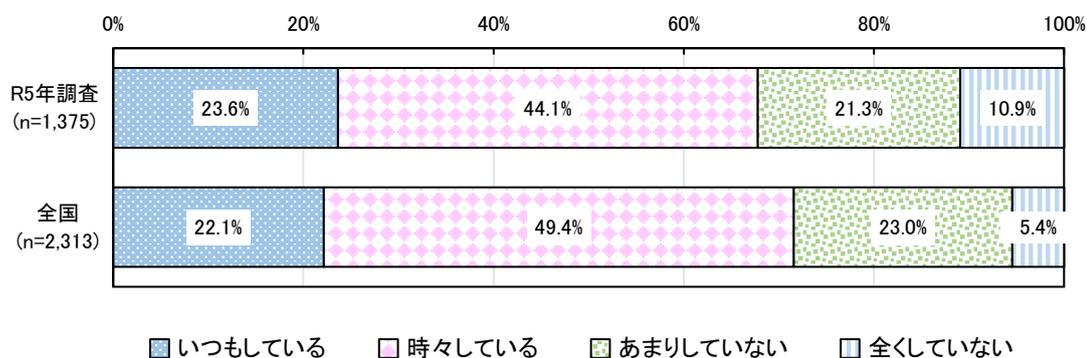
性別でみると、『実践している』は女性が男性を19.2ポイント上回る。

【15歳以上】



20歳以上で見ると、全体では「時々している」が44.1%で最も高く、『実践している』は67.7%となった。全国との比較では、『実践している』は全国より3.8ポイント下回る。

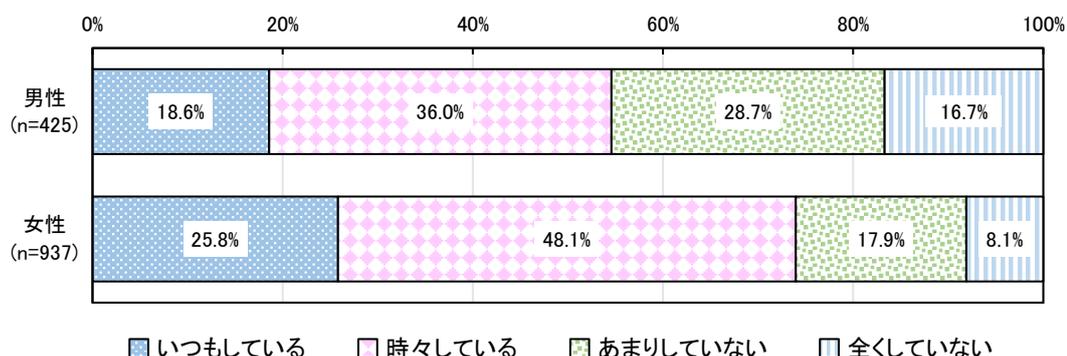
【20歳以上】



※農林水産省「食育に関する意識調査」(R5年3月)

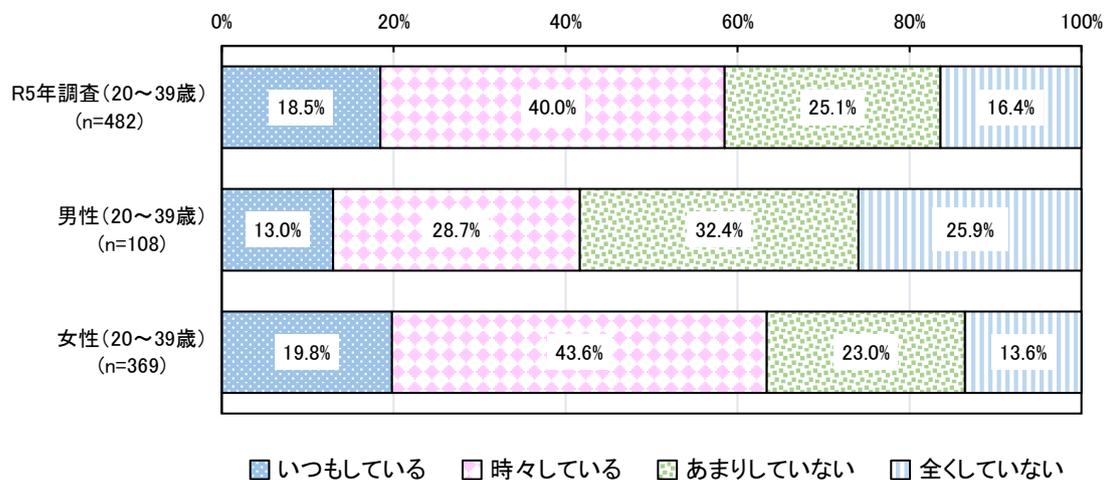
性別で見ると、『実践している』は女性が男性を19.3ポイント上回る。

【20歳以上】



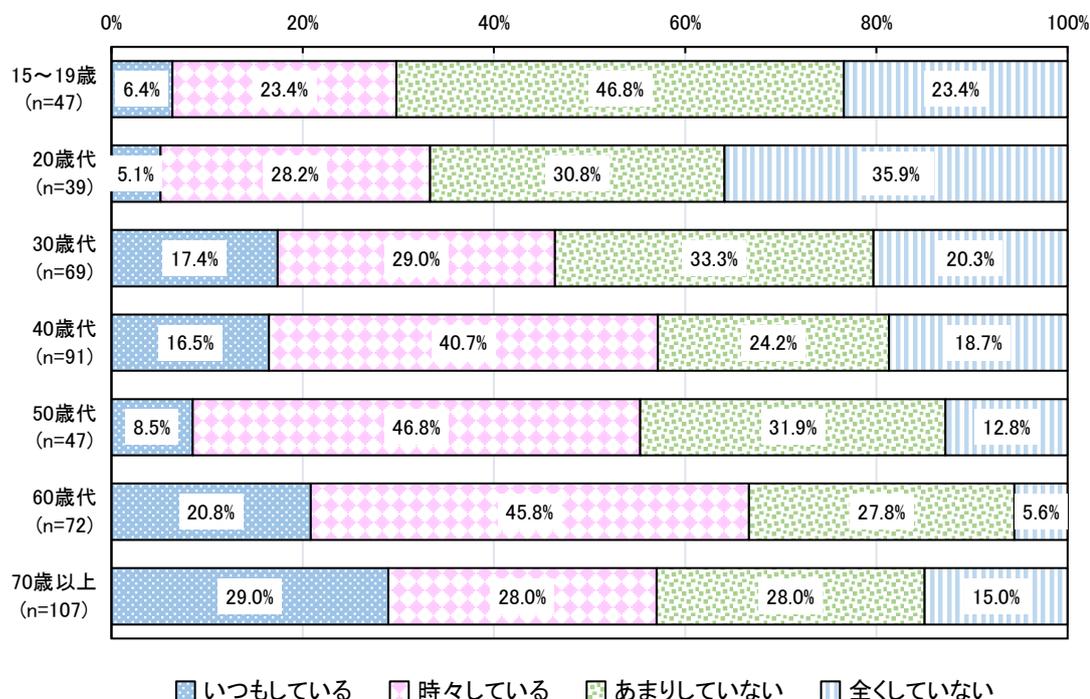
若い世代(20~39歳)で見ると、「時々している」が40.0%で最も高い。性別で見ると、『実践している』と回答した割合は女性が男性を21.7ポイント上回る。

【若い世代(20~39歳)】

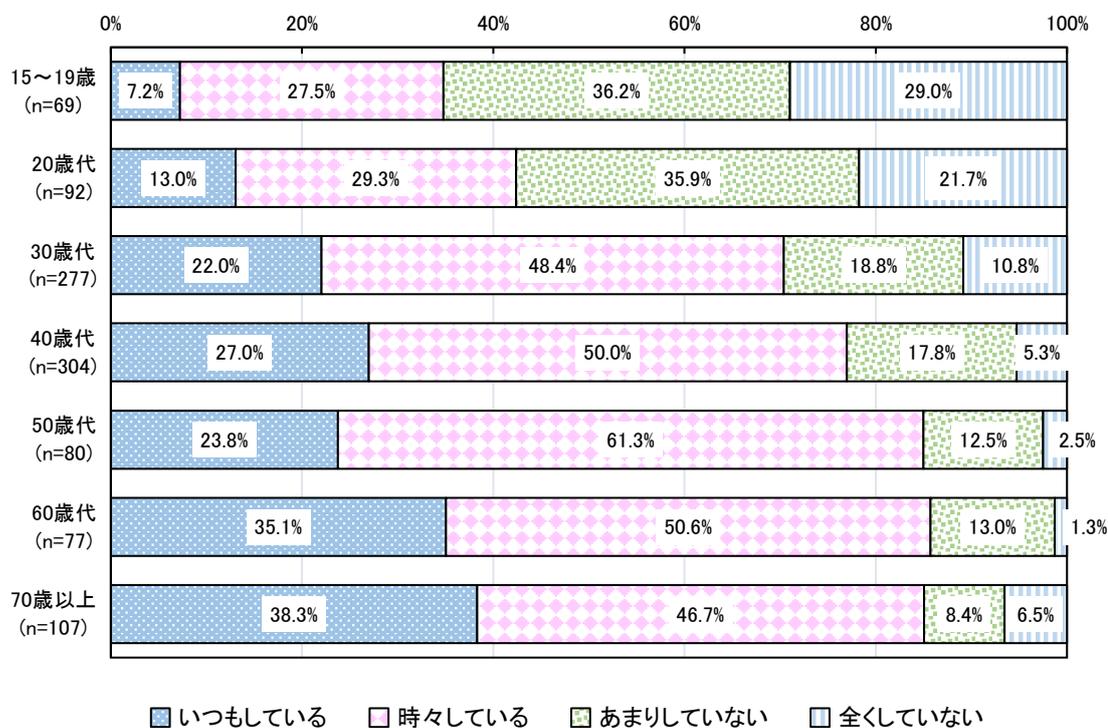


性・年齢別で見ると、男性は40歳代以上、女性は30歳代以上では、『実践している』と回答した割合が半数を超えている。女性は全ての年代で『実践している』と回答した割合が男性を上回る。

【15歳以上（男性）】

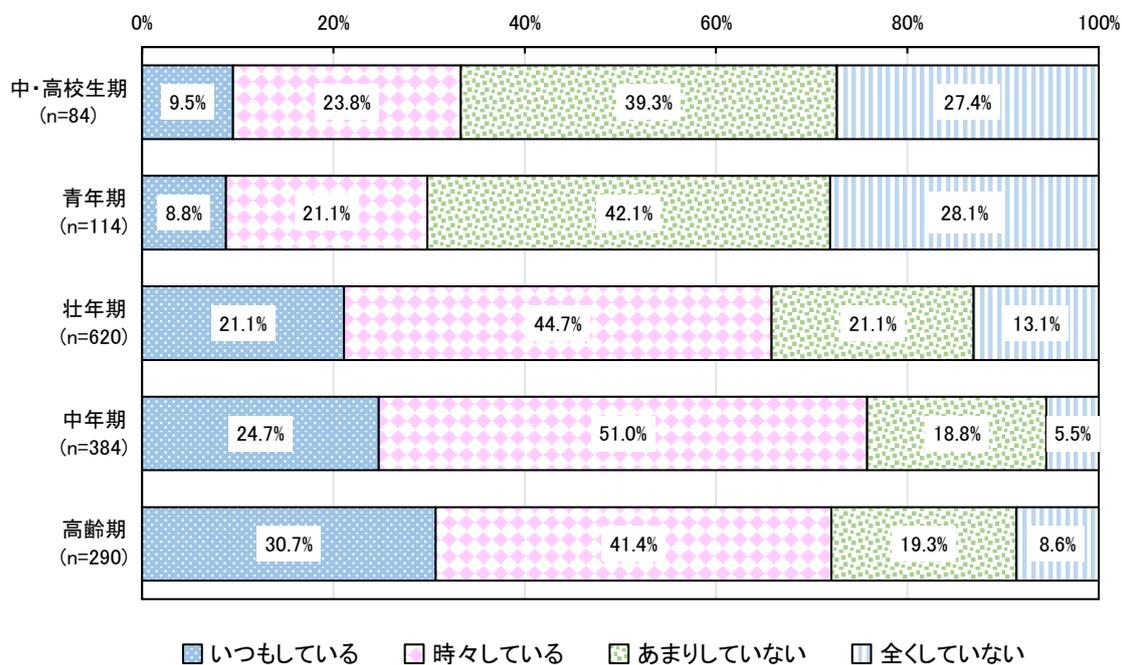


【15歳以上（女性）】



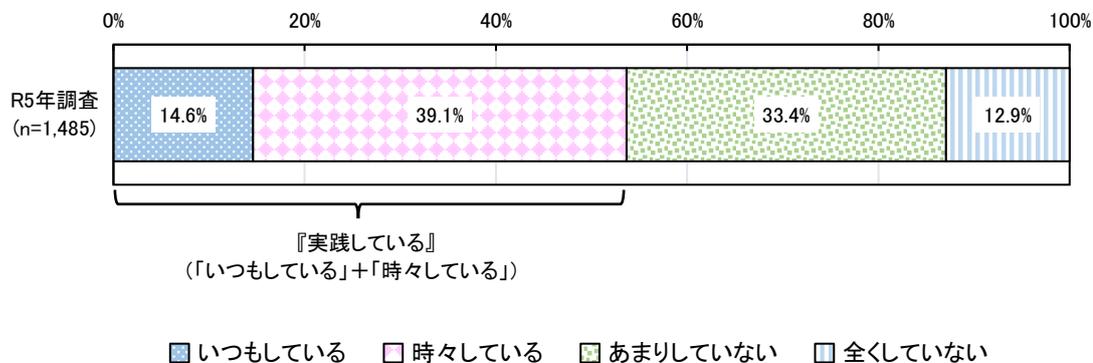
ライフステージ別でみると、『実践している』と回答した割合が高いのは、壮年期、中年期、高齢期でいずれも6割を超えている。

【15歳以上】



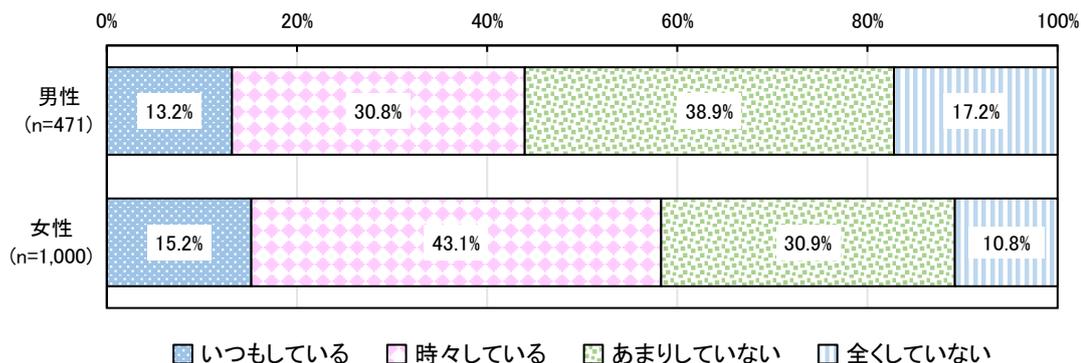
< (2) 環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶこと >

ふだんから環境に配慮した農林水産物や食品を選んでいるかについて、「時々している」が39.1%で最も高く、次いで「あまりしていない」33.4%、「いつもしている」14.6%の順となった。『実践している』（「いつもしている」＋「時々している」）人の割合は53.7%であった。



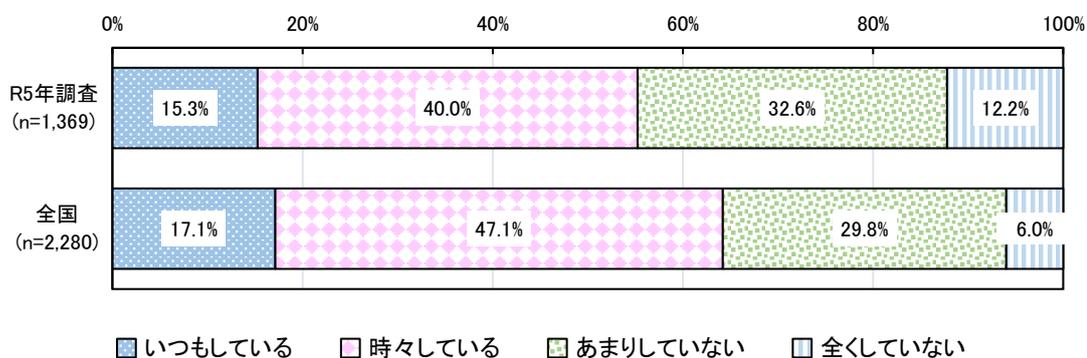
性別でみると、『実践している』は女性が男性を14.3ポイント上回る。

【15歳以上】



20歳以上でみると、全体では「時々している」が40.0%で最も高く、『実践している』は55.3%となった。全国との比較では、『実践している』は全国より8.9ポイント下回る。

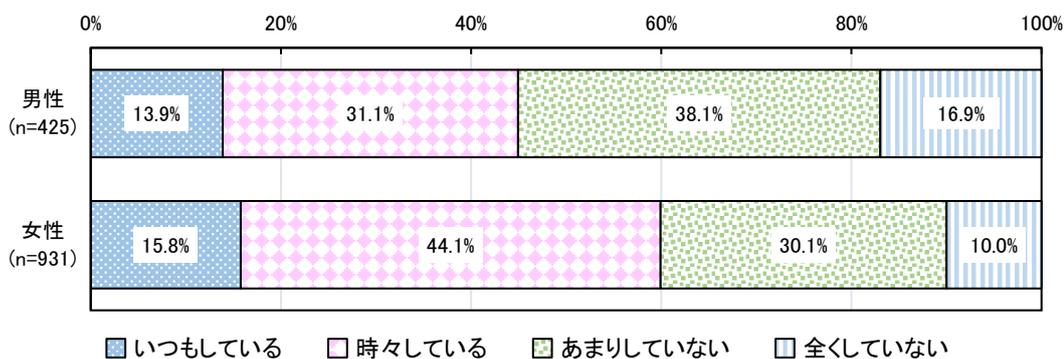
【20歳以上】



※農林水産省「食育に関する意識調査」(R5年3月)

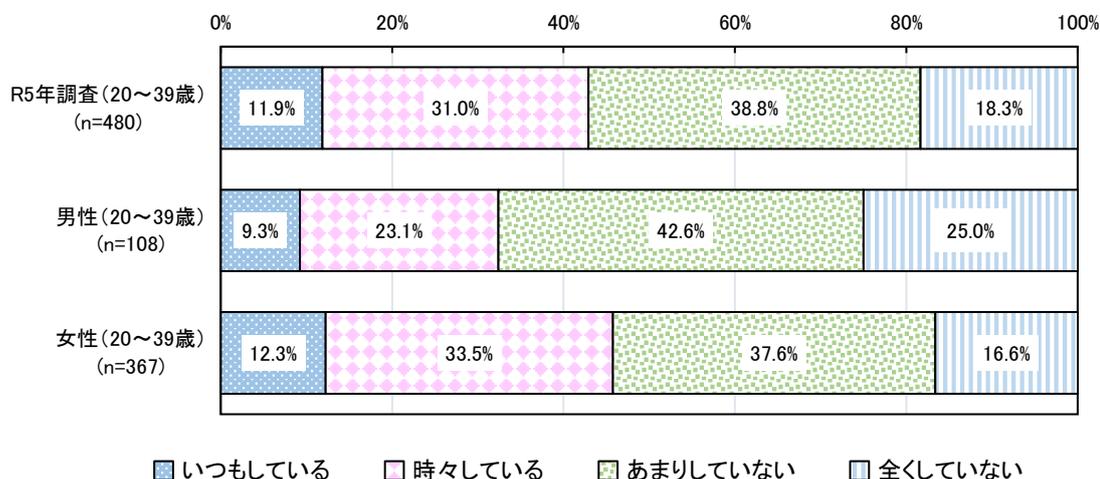
性別でみると、『実践している』は女性が男性を14.9ポイント上回る。

【20歳以上】



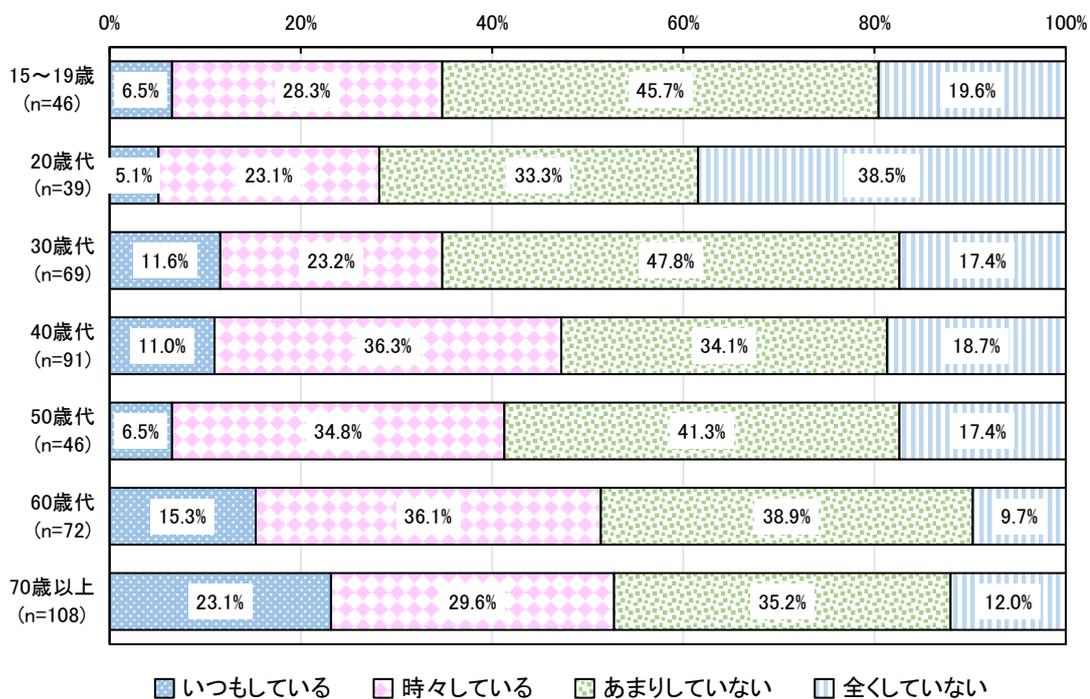
若い世代(20~39歳)でみると、全体では「あまりしていない」が38.8%で最も高い。性別でみると、『実践している』は女性が男性を13.4ポイント上回る。

【若い世代(20~39歳)】

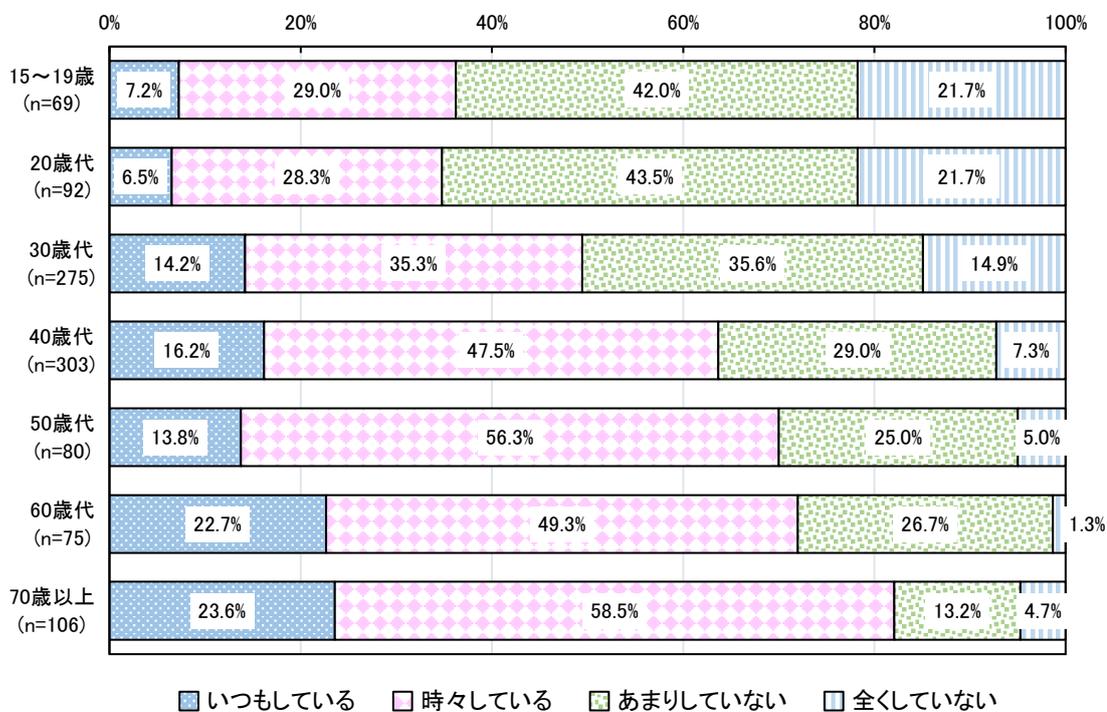


性・年齢別で見ると、『実践している』と回答した割合は、男女ともに70歳以上が最も高い。女性は年代が上がるにつれ『実践している』と回答した割合が高くなる。

【15歳以上（男性）】

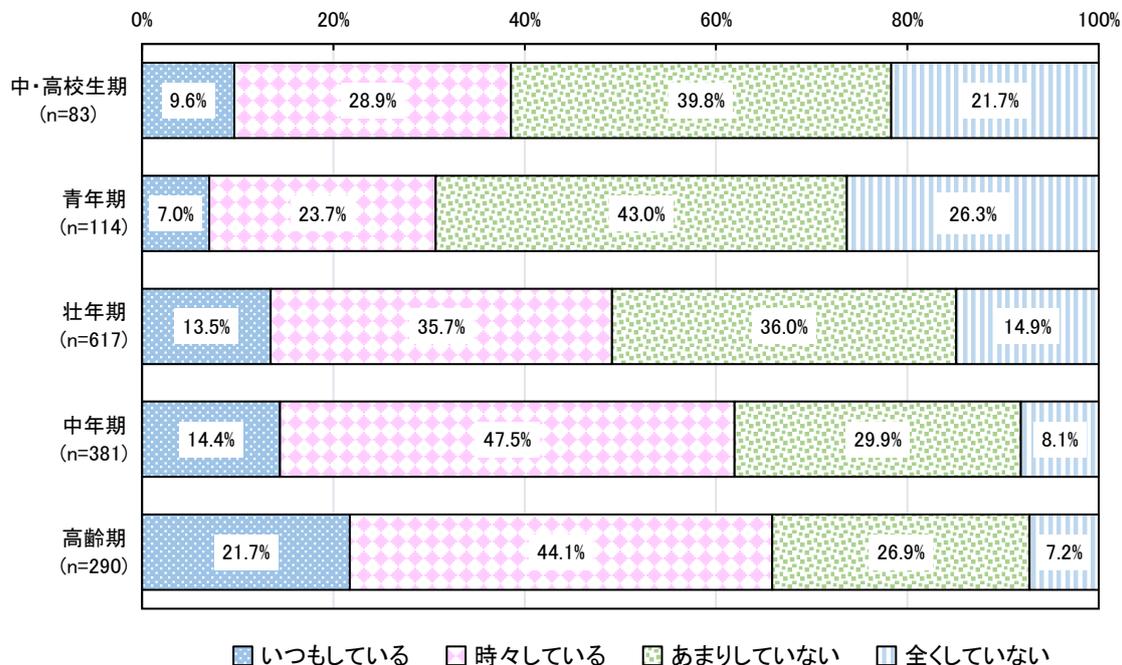


【15歳以上（女性）】



ライフステージ別でみると、『実践している』と回答した割合が高いのは、中年期、高齢期でいずれも6割を超えている。青年期以降、ライフステージが上がるにつれ、『実践している』と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

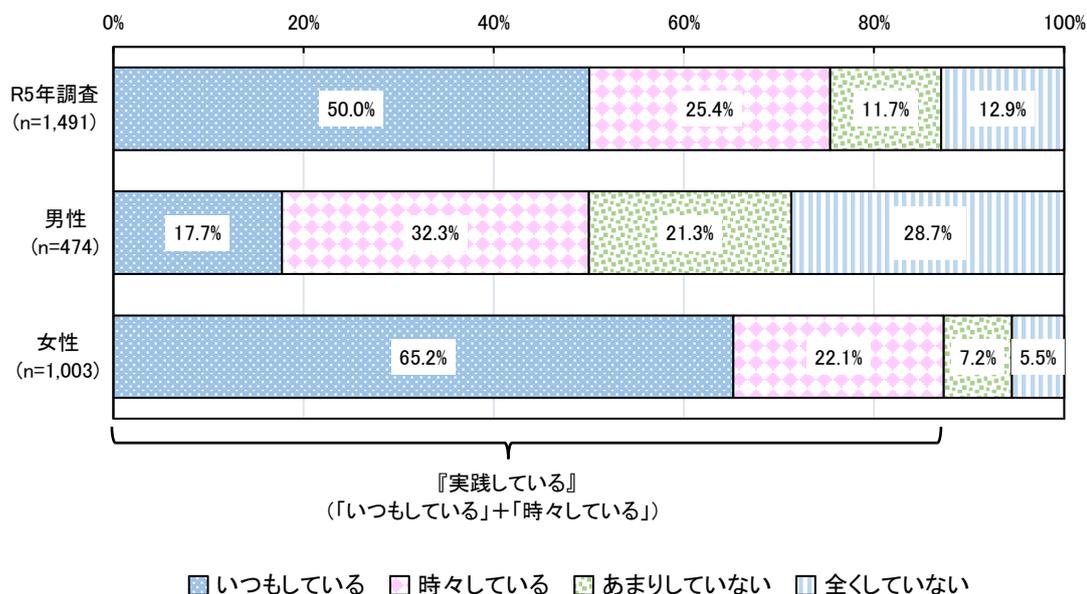
【15歳以上】



< (3) 自分で料理すること >

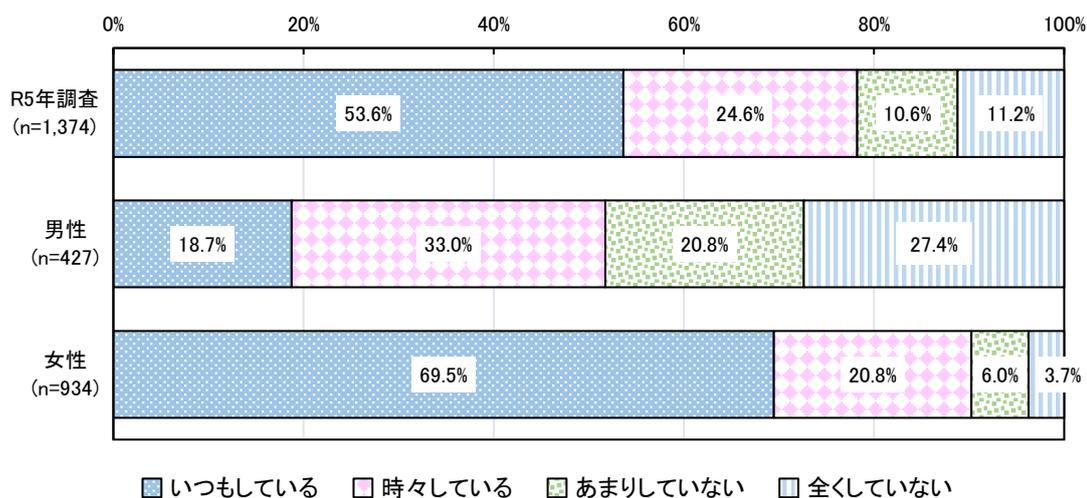
ふだんから自分で料理をしているかについて、「いつもしている」が50.0%で最も高く、次いで「時々している」25.4%、「全くしていない」12.9%の順となった。

性別でみると、『実践している』（「いつもしている」＋「時々している」）は女性が男性を37.3ポイント上回る。



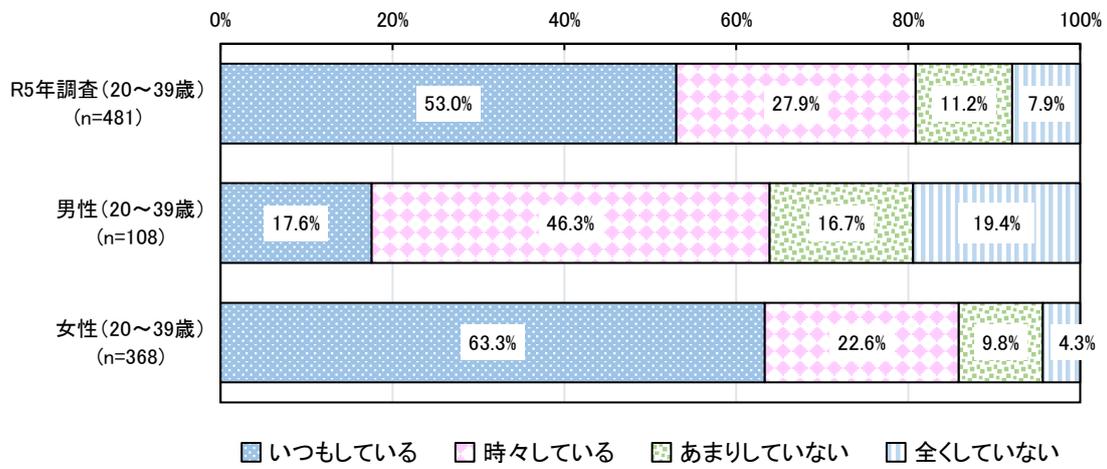
20歳以上でみると、全体では「いつもしている」が53.6%で最も高い。性別でみると、『実践している』は女性が男性を38.6ポイント上回る。

【20歳以上】



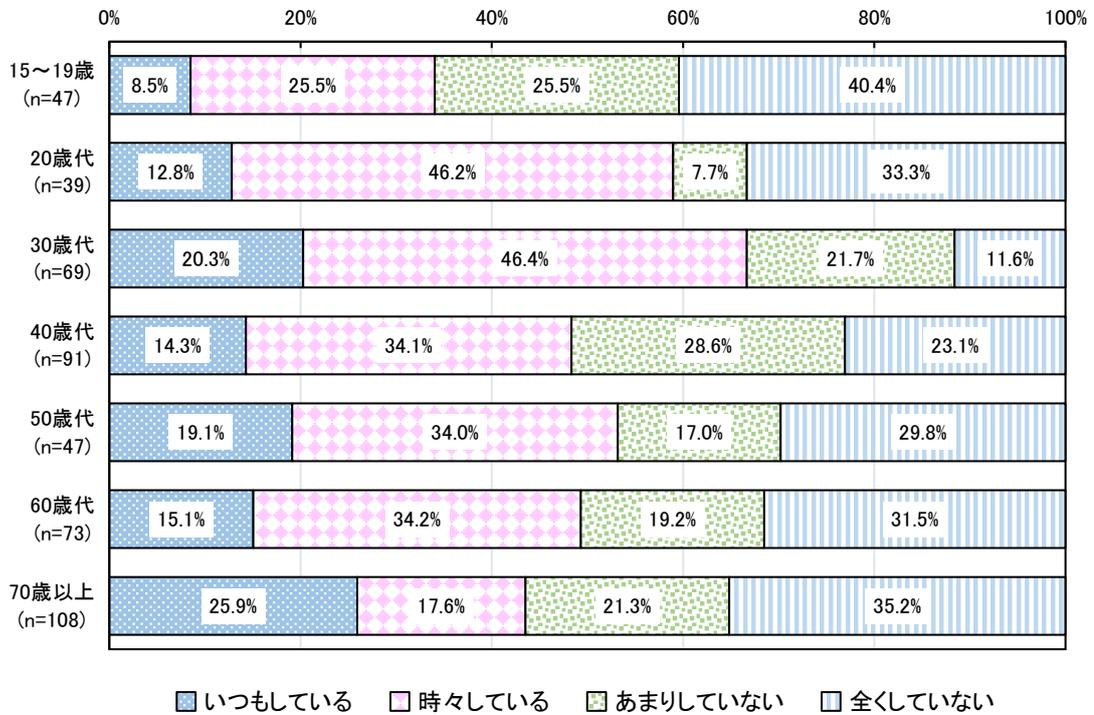
若い世代（20～39歳）で見ると、全体では「いつもしている」が53.0%で最も高い。性別で見ると、『実践している』は女性が男性を22.0ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】

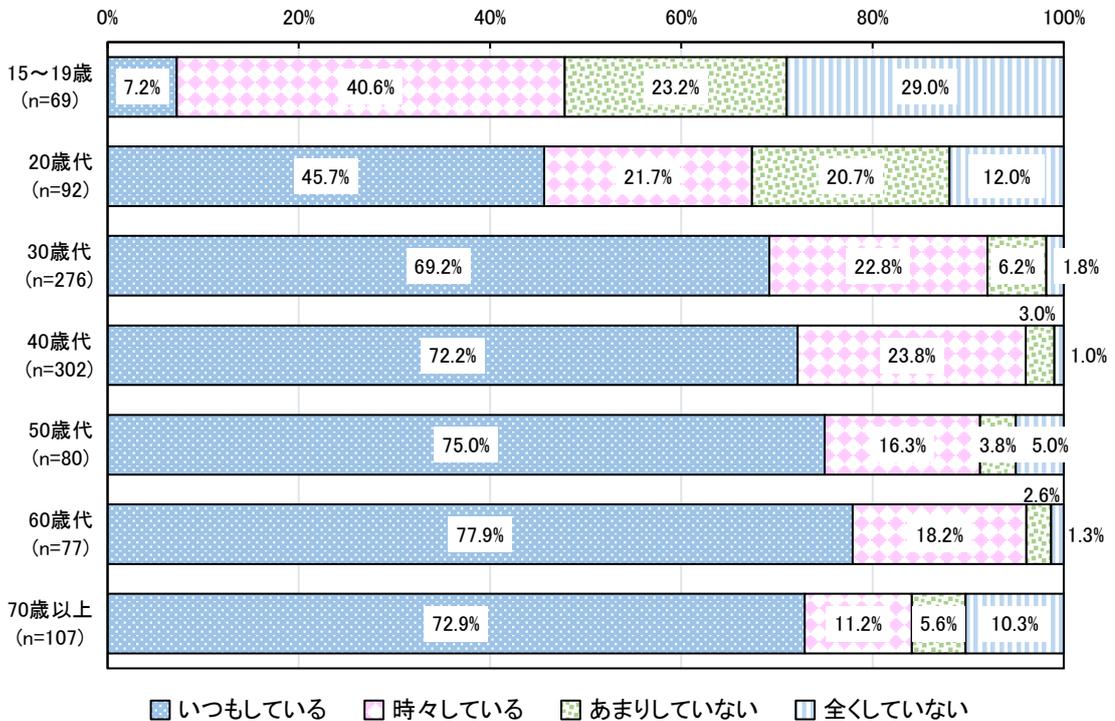


性・年齢別で見ると、『実践している』と回答した割合は30歳代から60歳代までの女性では9割を超えている。一方男性は、『実践している』と回答した割合は、30歳代の66.7%が最も高く、30歳以上では年齢が上がるにつれ「全くしていない」と回答した割合が高くなる。

【15歳以上（男性）】

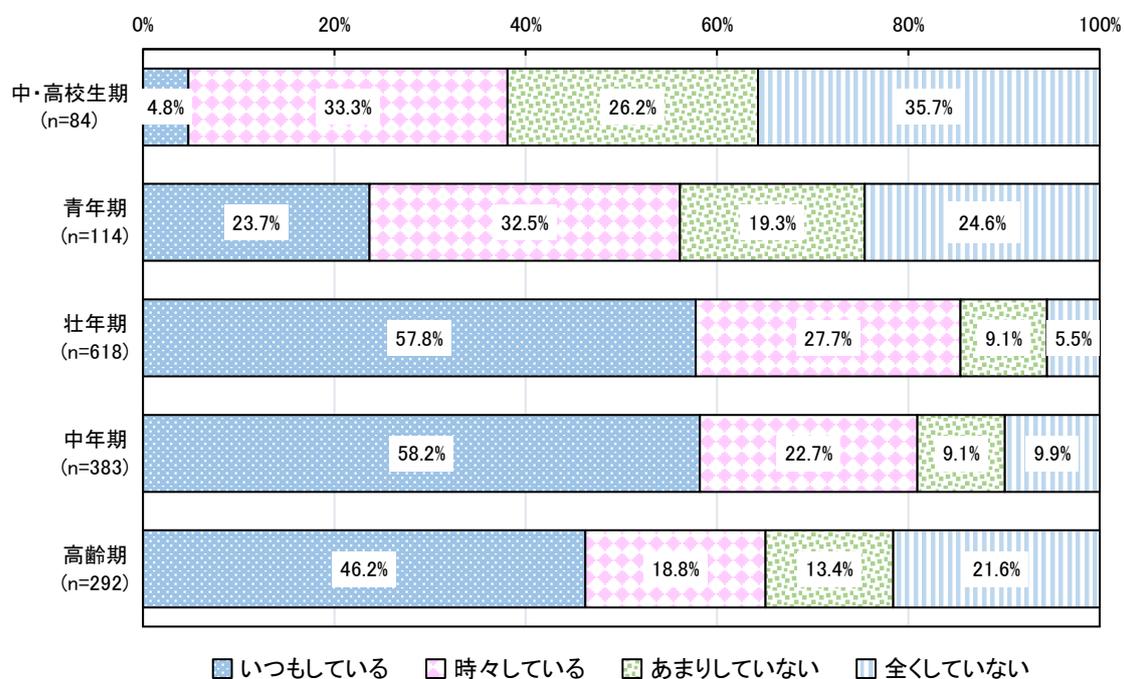


【15歳以上（女性）】



ライフステージ別でみると、『実践している』と回答した割合が高いのは、壮年期、中年期でいずれも8割を超えている。壮年期以上では、ライフステージが上がるにつれ『実践している』と回答した割合が低くなる傾向がみられる。

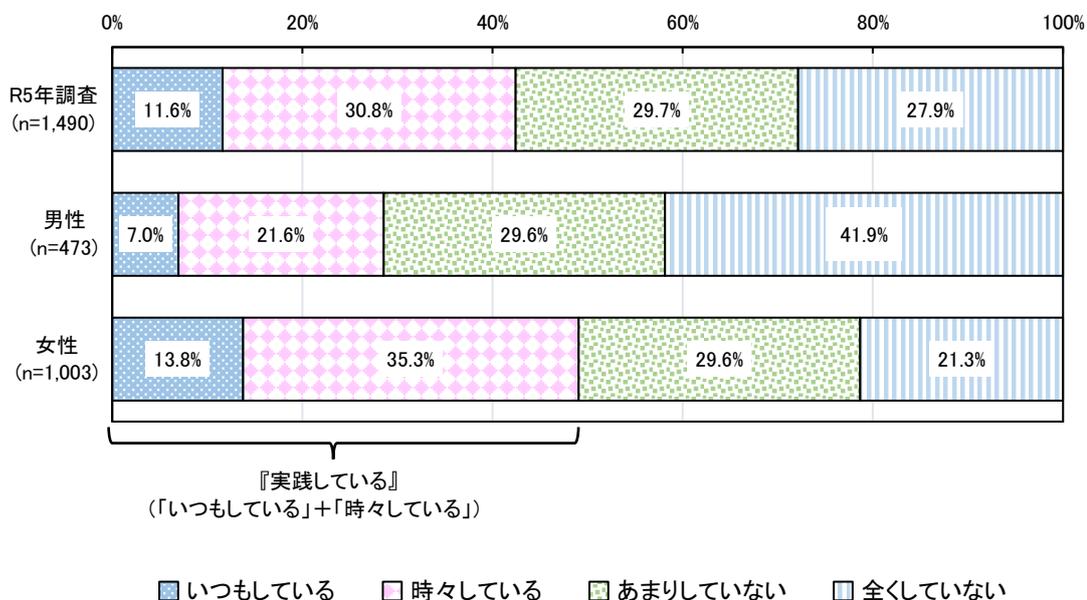
【15歳以上】



< (4) 熊本の郷土料理や伝統料理、箸づかいなどの食べ方・作法などの食文化について、地域や次世代（子どもやお孫さんを含む）に伝えること >

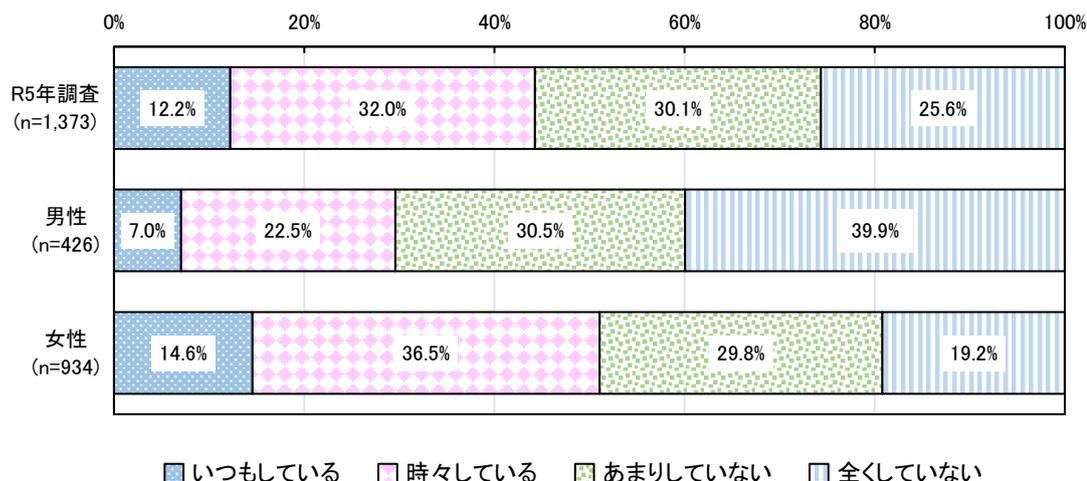
ふだんから熊本の食文化の伝承をしているかについて、「時々している」が30.8%で最も高く、次いで「あまりしていない」29.7%、「全くしていない」27.9%の順となった。

性別でみると、『実践している』（「いつもしている」＋「時々している」）は女性が男性を20.5ポイント上回る。



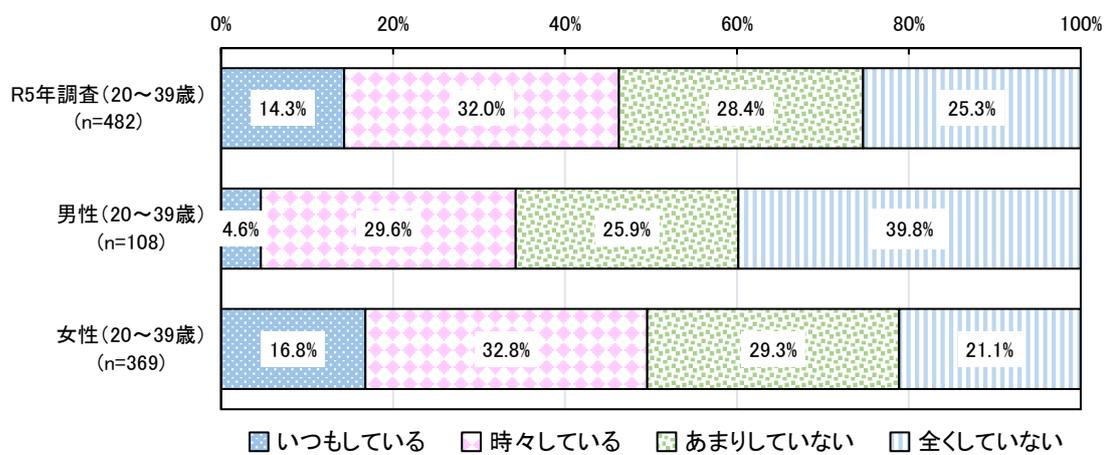
20歳以上でみると、全体では「時々している」が32.0%で最も高い。性別でみると、『実践している』は女性が男性を21.6ポイント上回る。

【20歳以上】



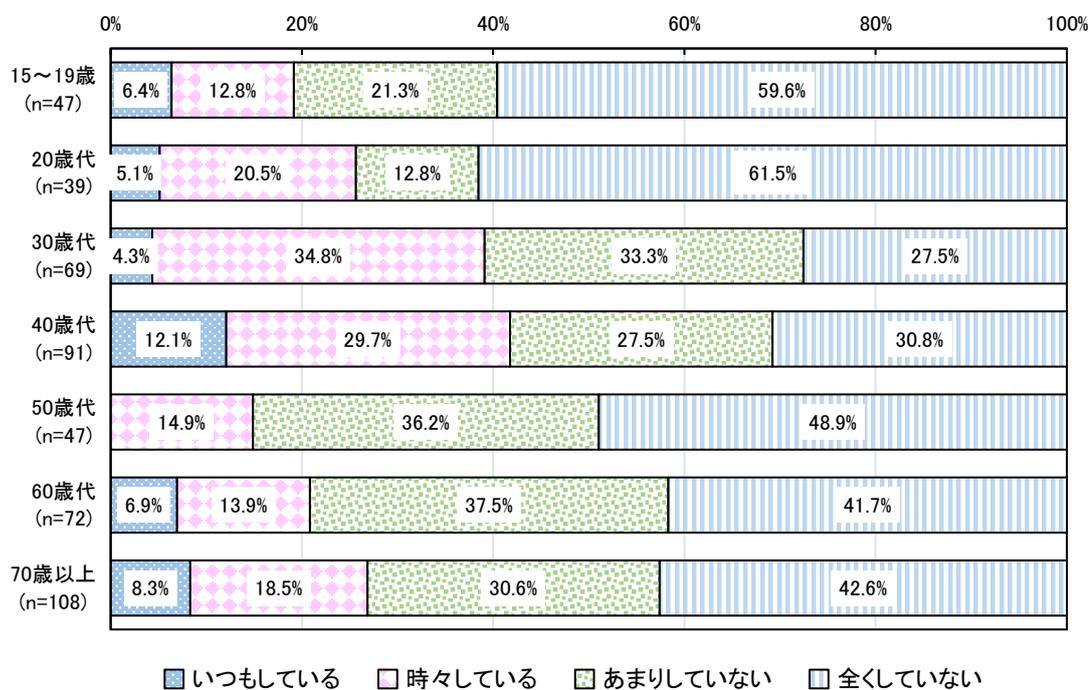
若い世代（20～39歳）でみると、全体では「時々している」が32.0%で最も高い。性別でみると、『実践している』は女性が男性を15.4ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】

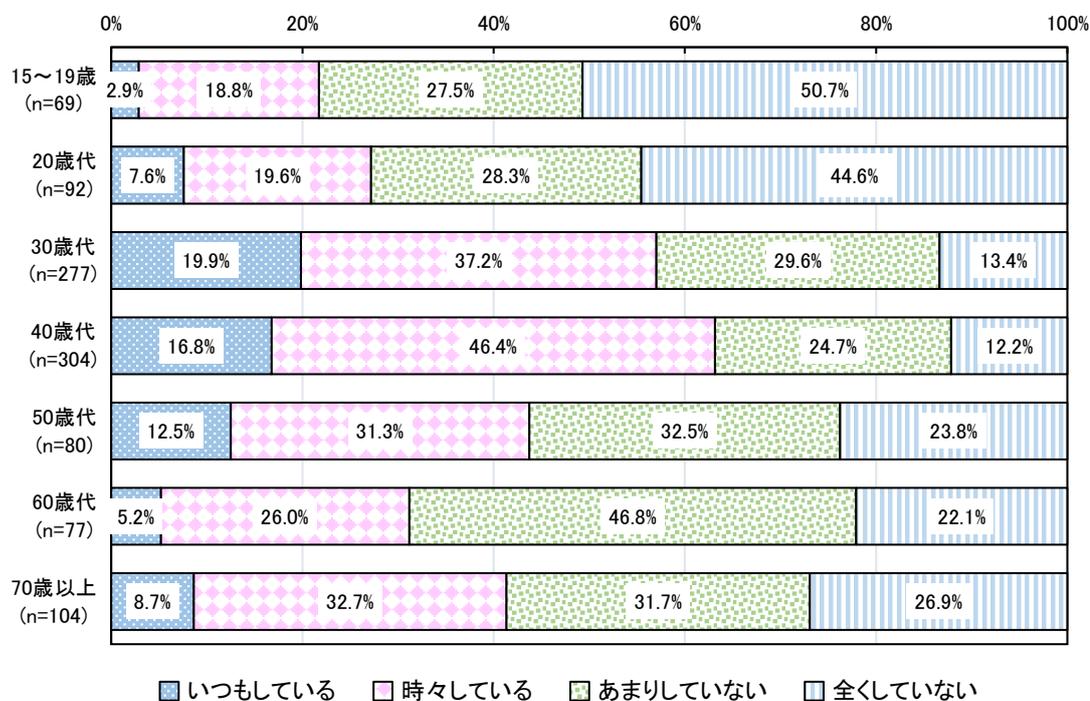


性・年齢別で見ると、『実践している』と回答した割合は男女ともに30歳代、40歳代が高く、女性では半数を超えている。

【15歳以上（男性）】

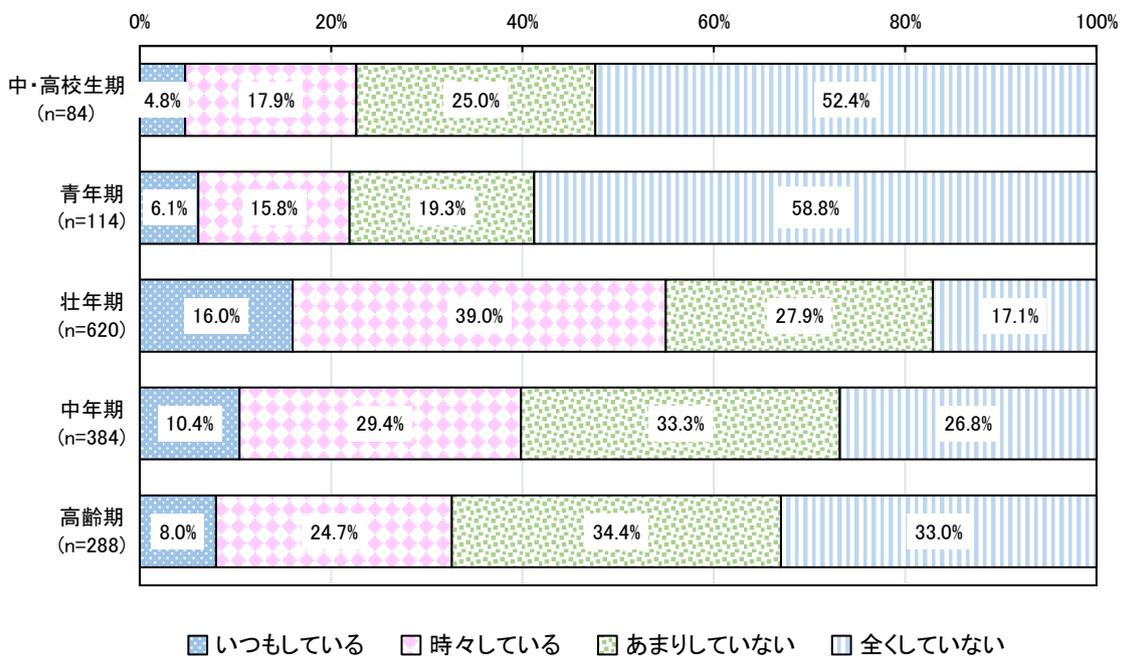


【15歳以上（女性）】



ライフステージ別でみると、『実践している』と回答した割合が最も高いのは、壮年期で半数を超えている。壮年期以上では、ライフステージが上がるにつれ『実践している』の割合は低くなる。

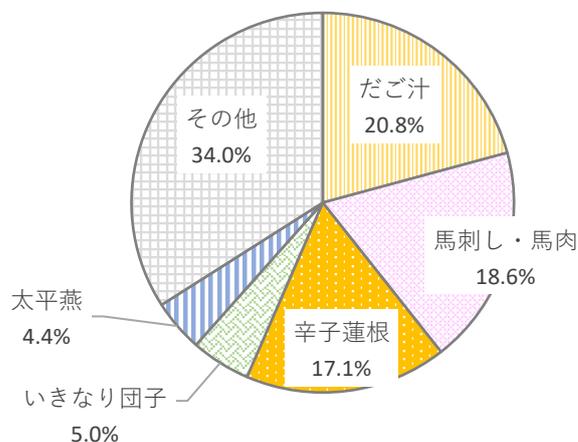
【15歳以上】



■ 「くまもとらしさ」を感じる料理や食材 〈15歳以上〉

「くまもとらしさ」を感じる料理や食材についてたずねたところ、多くの回答が寄せられた。

最も多かったのは「だご汁」20.8%、次いで「馬刺し・馬肉」18.6%、「辛子蓮根」17.1%、「いきなり団子」5.0%、「太平燕」4.4%となった。



「くまもとらしさ」を感じる料理や食材

順位	料理名	件数
1位	だご汁	136
2位	馬刺し・馬肉	122
3位	辛子蓮根	112
4位	いきなり団子	33
5位	太平燕	29
6位	一文字のぐるぐる	27
7位	のっぺ汁	6
8位	ちゃんぽん	4
9位	煮しめ	4
10位	ラーメン	3
11位	このしろ寿司	2
12位	呉汁	2
13位	けんちん汁	1
14位	がねあげ	1
15位	南関あげ	1

◎熊本市の良質な地下水がおいしさの基になっていると思う市民の割合

平成 30 年調査と比較して 0.6 ポイント上回るものの、目標を 3.7 ポイント下回る。

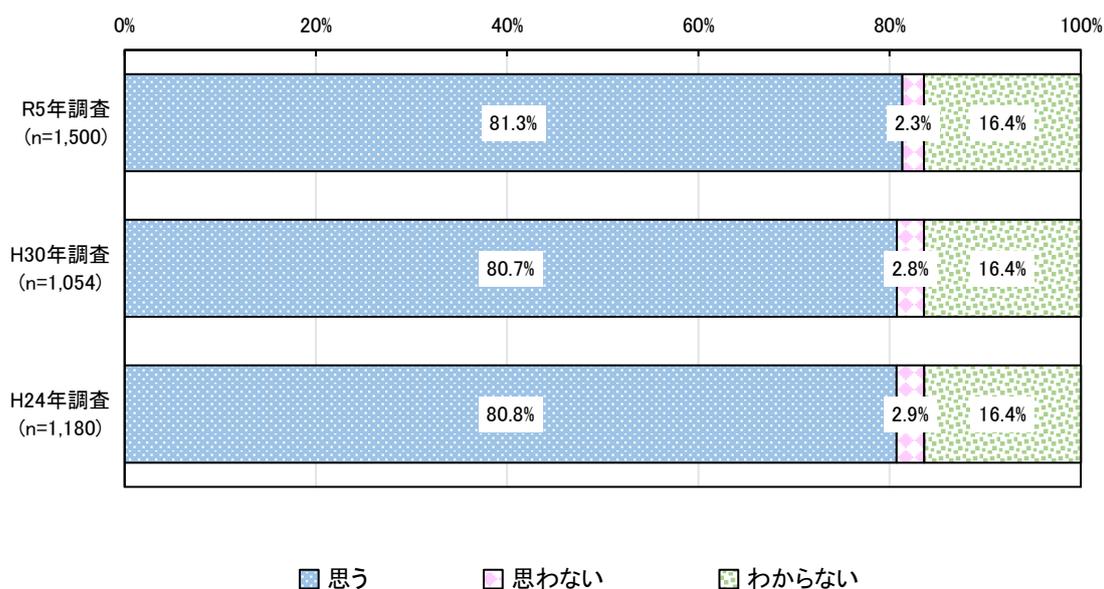
項 目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○熊本市の良質な水がおいしさの基になっていると思う市民の割合	80.8%	81.8%	80.7%	81.3%	85%

<調査結果>

■熊本市の良質な地下水が、地元の食材や料理の「おいしさ」の基になっていると思うか 〈15歳以上〉

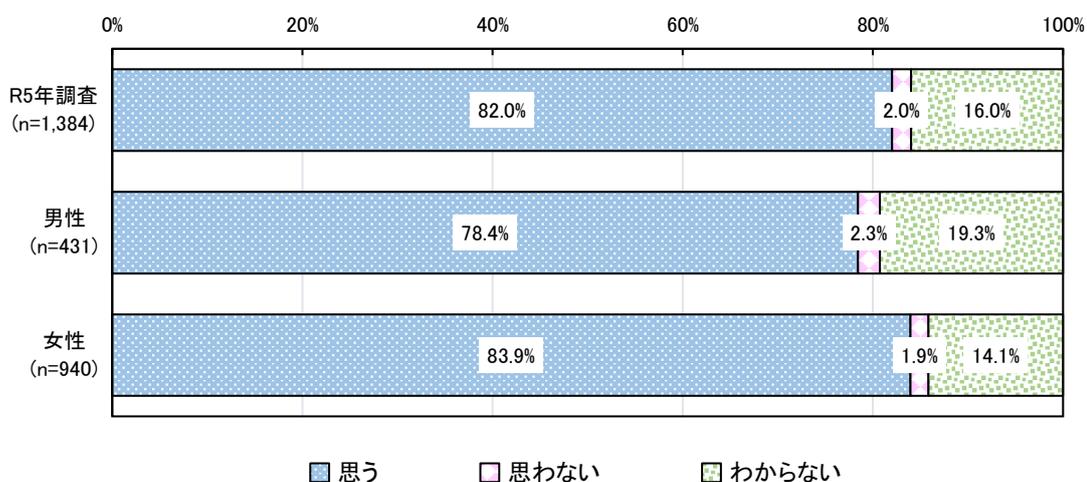
熊本市の良質な地下水が、地元の食材や料理の「おいしさ」の基になっていると思うかについて、「思う」が 81.3%、「わからない」が 16.4%、「思わない」が 2.3%であった。

前回調査と比較して大きな差はみられない。



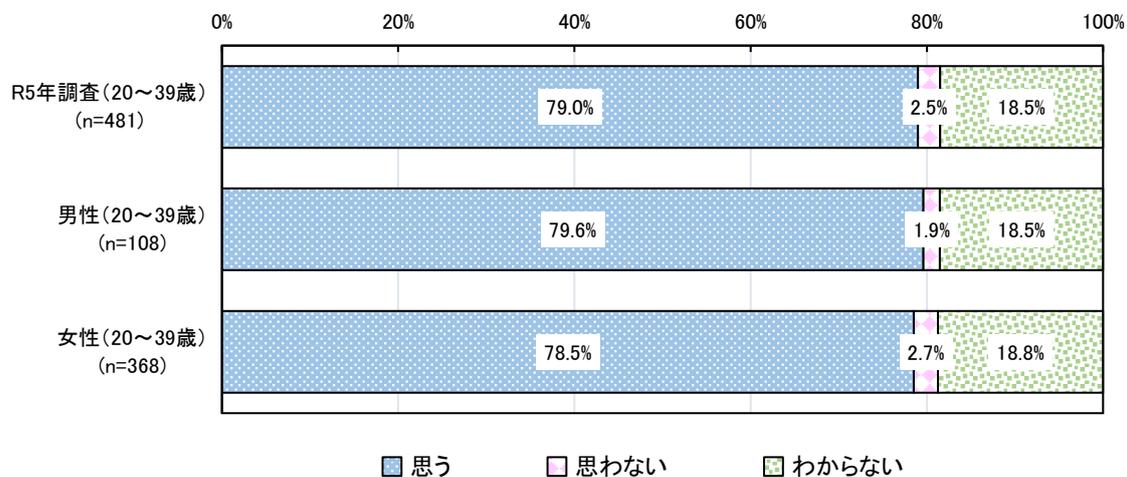
20 歳以上でみると、全体では「思う」が 82.0%で最も高い。性別でみると、「思う」は女性が男性を 5.5 ポイント上回る。

【20 歳以上】



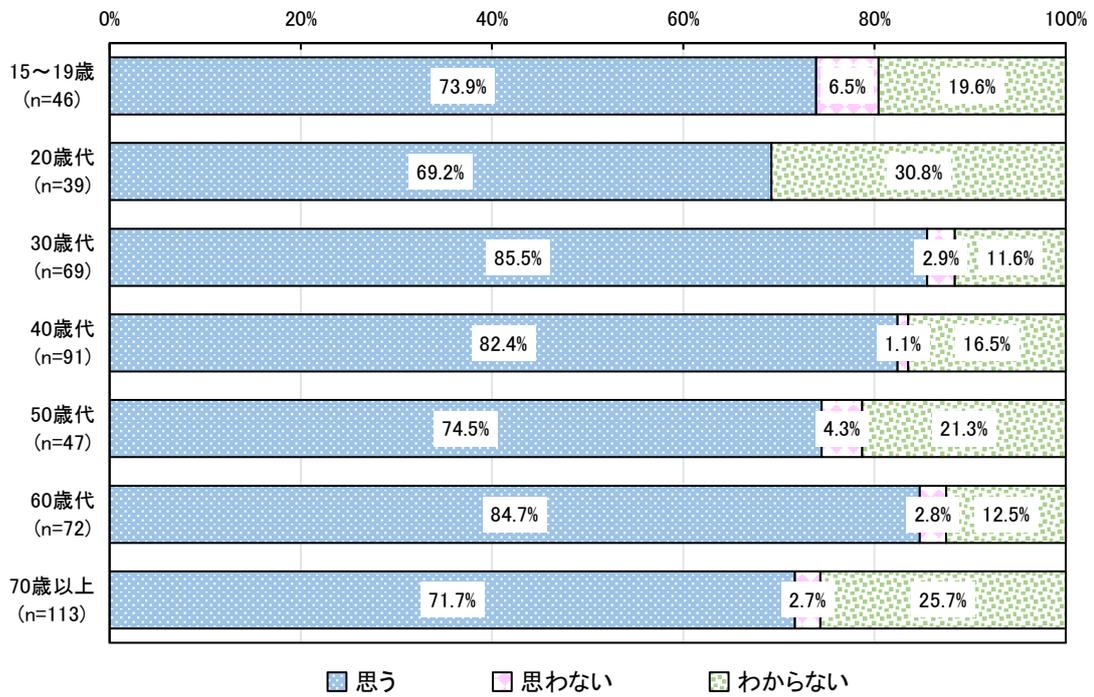
若い世代 (20~39 歳) でみると、全体では「思う」が 79.0%で最も高い。性別で大きな差はみられない。

【若い世代 (20~39 歳)】

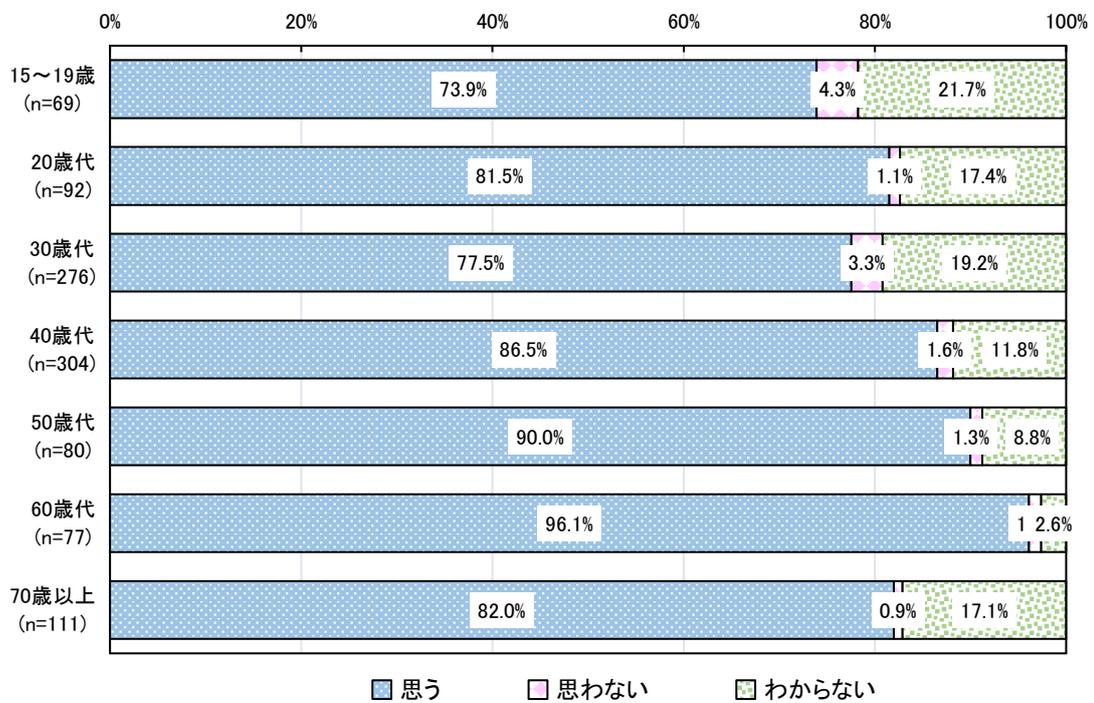


性・年齢別で見ると、「思う」と回答した割合は、20歳代男性を除き男女ともに全ての世代で7割を超えている。

【15歳以上（男性）】

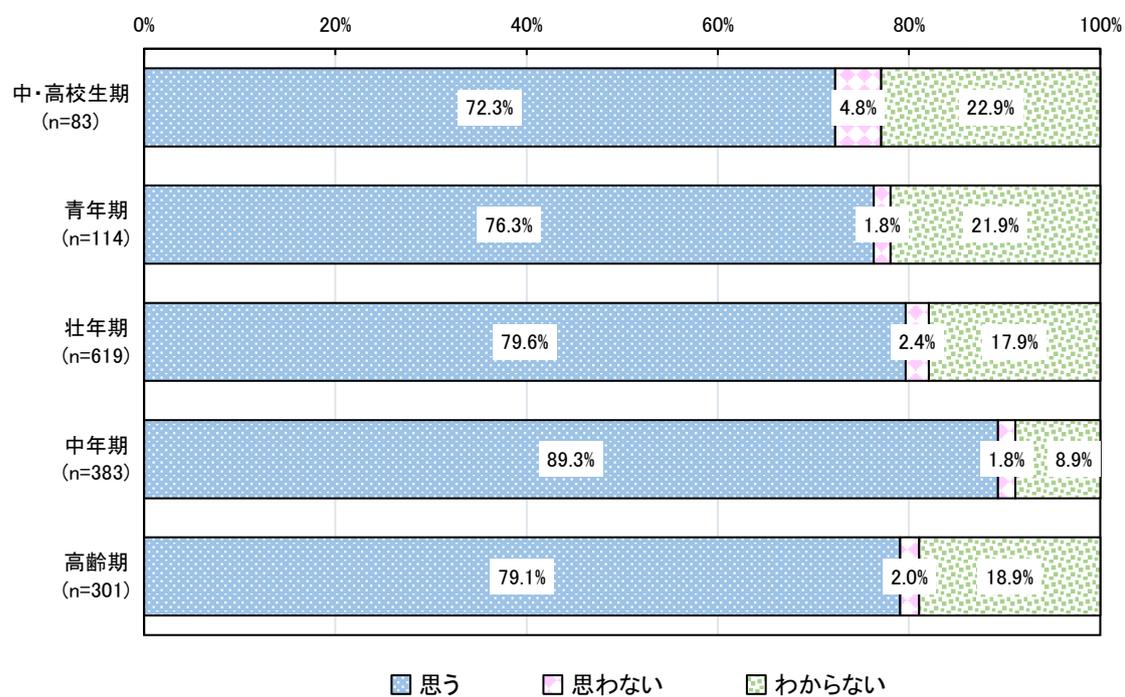


【15歳以上（女性）】



ライフステージ別で見ると、全てのライフステージで「思う」と回答した割合は7割を超えている。中年期では「思う」と回答した割合が89.3%と、他のライフステージと比較して高い。

【15歳以上】



◎家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合

平成 30 年調査と比較して 10.8 ポイント下回り、目標を 20.9 ポイント下回る。

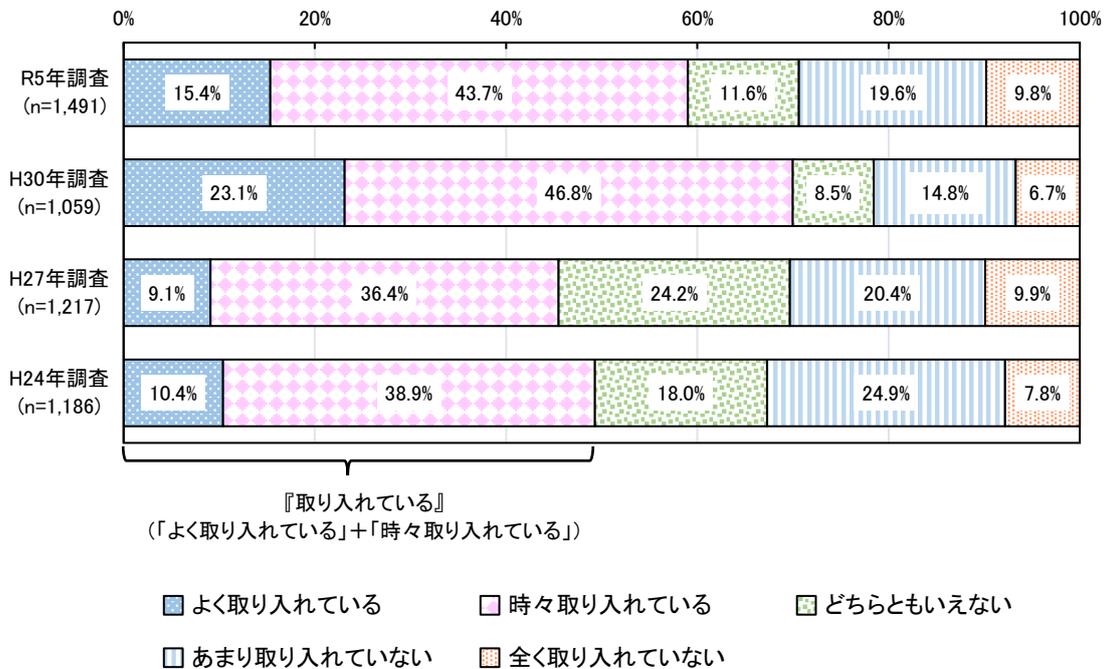
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合	49.2%	45.5%	69.9%	59.1%	80%

<調査結果>

■家庭の食事での伝統料理や郷土料理の取り入れ状況 〈15歳以上〉

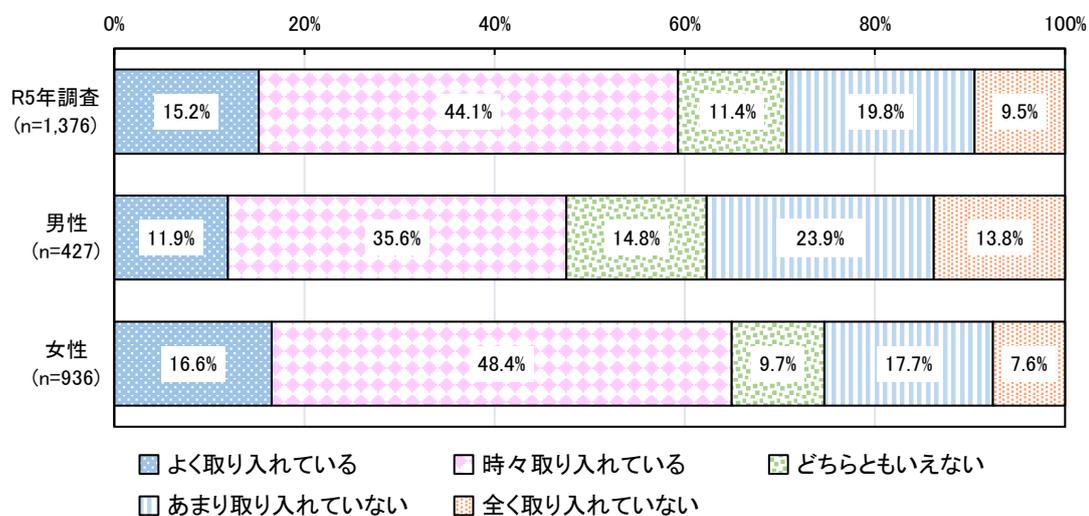
家庭の食事での伝統料理や郷土料理の取り入れ状況について、「時々取り入れている」が 43.7% で最も高く、次いで「あまり取り入れていない」19.6%、「よく取り入れている」15.4%の順となった。

前回調査と比較して、『取り入れている』（「よく取り入れている」＋「時々取り入れている」）は 10.8 ポイント下回る。



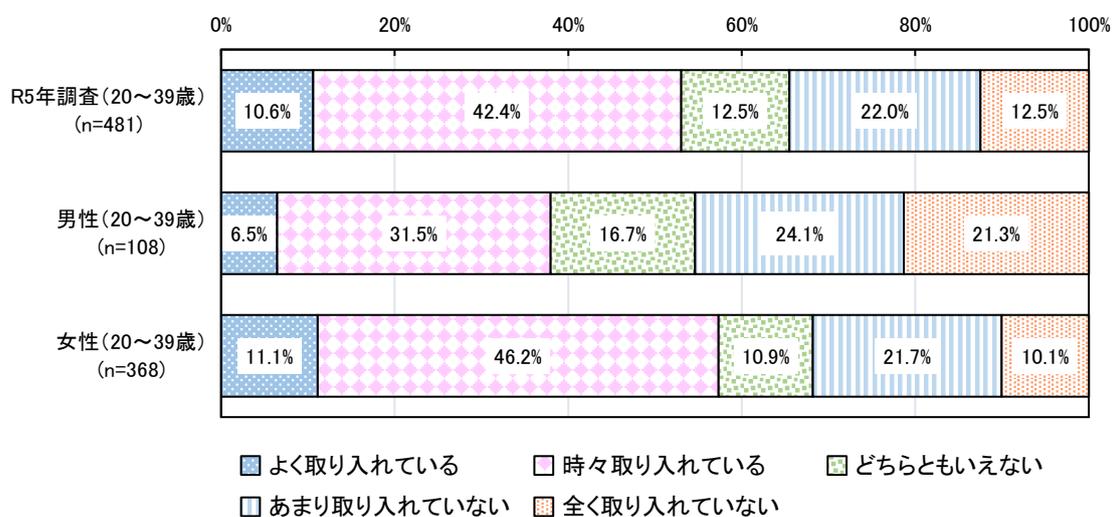
20歳以上でみると、全体では「時々取り入れている」が44.1%で最も高い。性別でみると、『取り入れている』は女性が男性を17.5ポイント上回る。

【20歳以上】



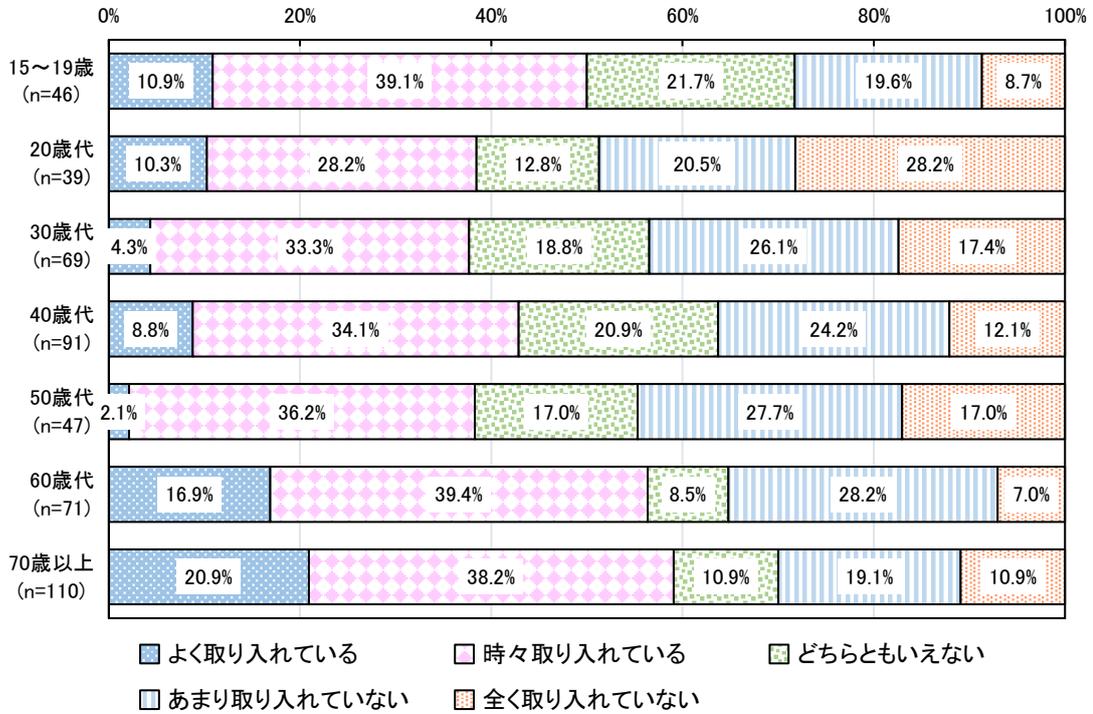
若い世代（20～39歳）でみると、全体では「時々取り入れている」が42.4%で最も高い。性別でみると、『取り入れている』は女性が男性を19.3ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】

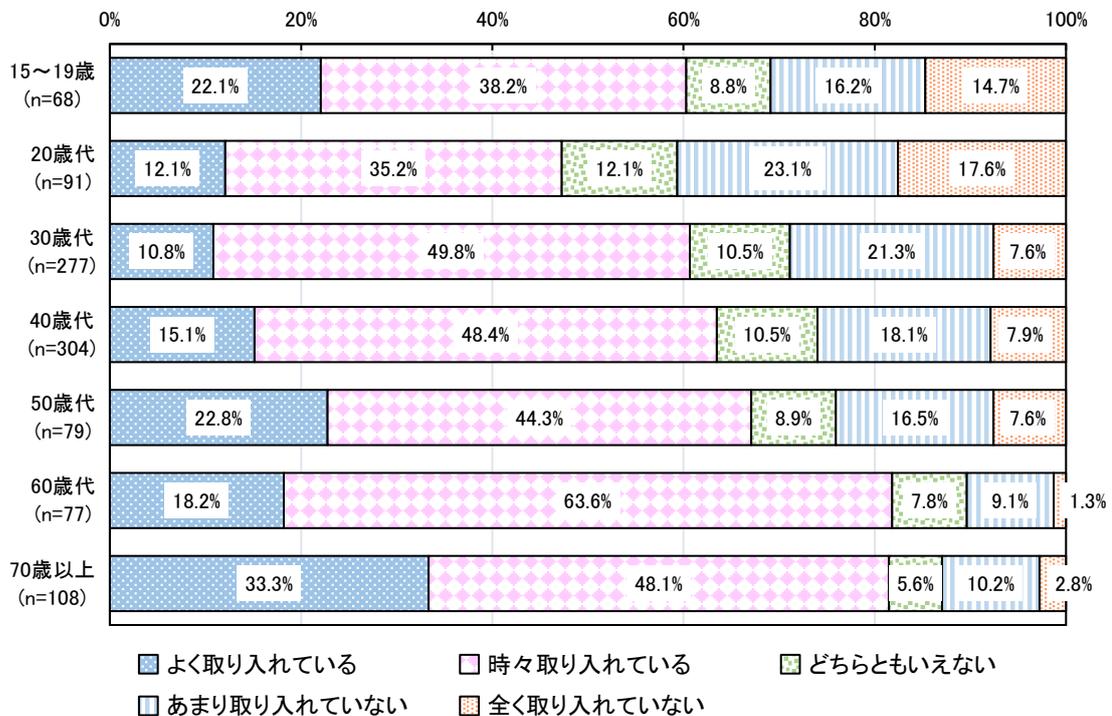


性・年齢別で見ると、『取り入れている』と回答した割合は、男女ともに60歳代以上で高い割合を占める。女性では、20歳代以上で年齢が上がるにつれ、『取り入れている』と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

【15歳以上（男性）】

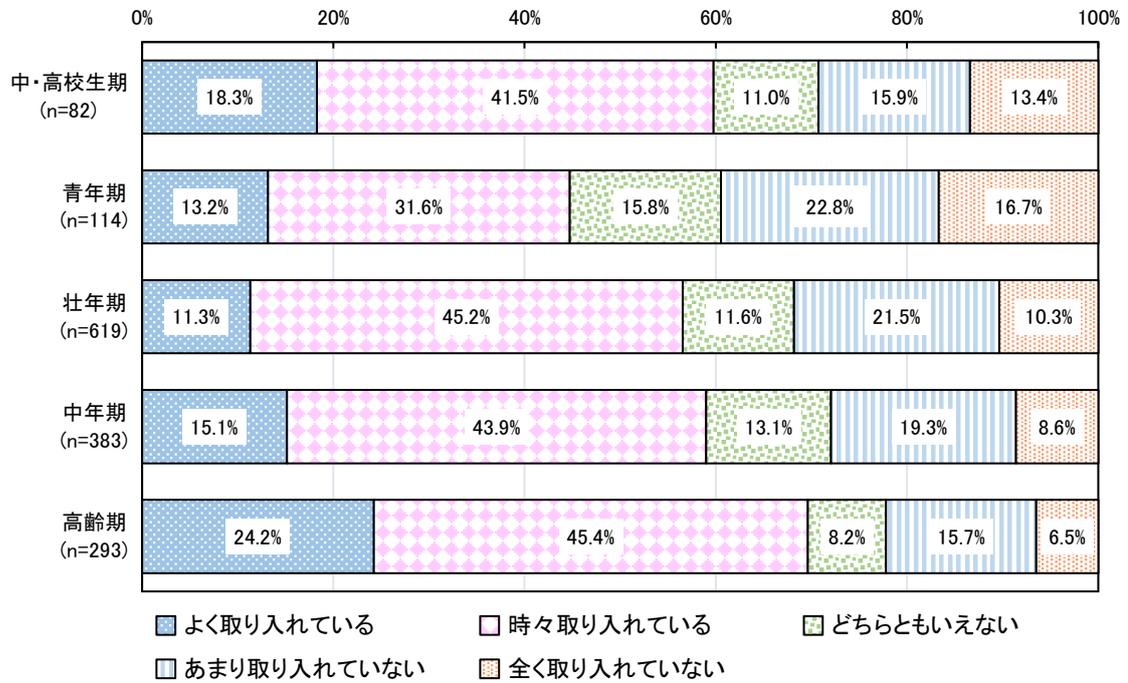


【15歳以上（女性）】



ライフステージ別でみると、『取り入れている』と回答した割合は、青年期を除く全てのライフステージで半数を超えている。青年期以降ではライフステージが上がるにつれ、『取り入れている』と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

【15歳以上】



◎ごみを少なくするため『買いすぎ』『作りすぎ』をしないよう心がけている市民の割合

平成 30 年調査と比較して、全体では前回は 2.6 ポイント上回るものの、目標を 7.8 ポイント下回る。若い世代（20 歳代・30 歳代）でみると、前回は 9.9 ポイント上回り、目標達成となった。

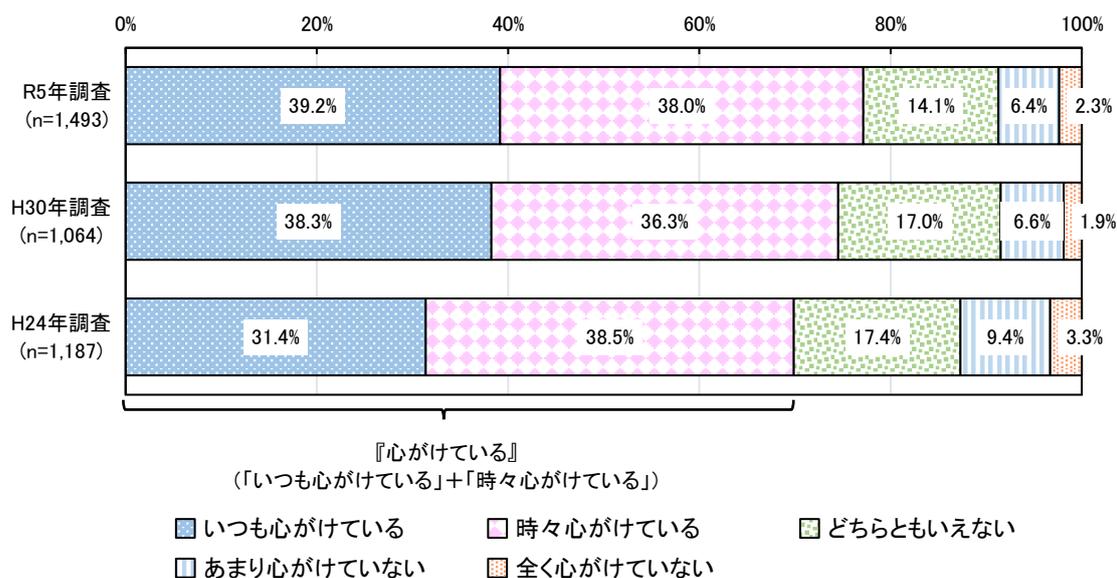
項目		(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○ごみを少なくするため「買いすぎ」「作りすぎ」をしないよう、心がけている市民の割合	全体	69.9%	66.9%	74.6%	77.2%	85%
	若い世代 【20歳代・30歳代】			68.5%	78.4%	75%

<調査結果>

■ごみを少なくするため『買いすぎ』『作りすぎ』をしないよう心がけているか <15歳以上>

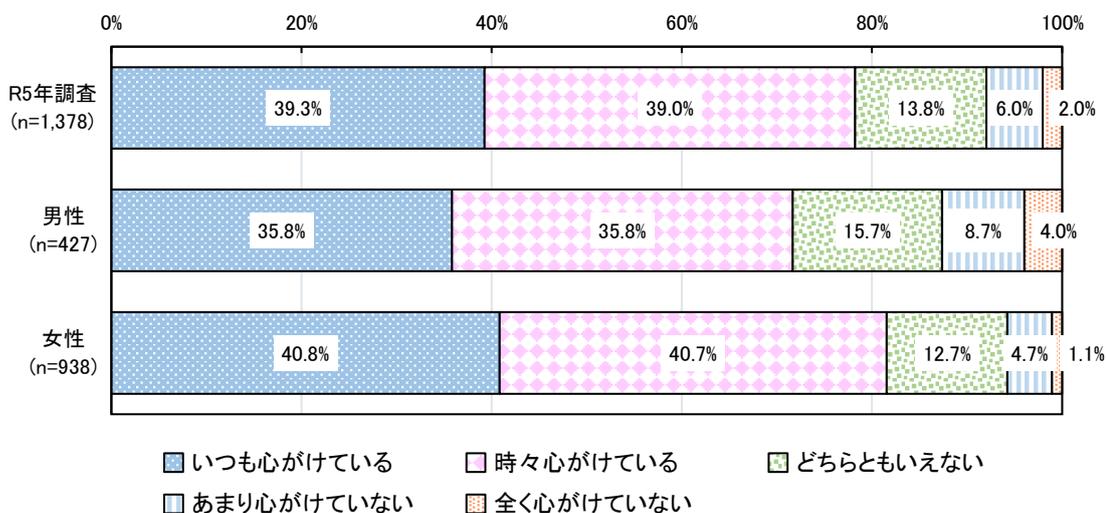
ゴミを少なくするため『買いすぎ』『作りすぎ』をしないよう心がけているかについて、「いつも心がけている」が 39.2%で最も高く、次いで「時々心がけている」38.0%、「どちらともいえない」14.1%の順となった。

前回調査と比較して、『心がけている』（「いつも心がけている」＋「時々心がけている」）は 2.6 ポイント上回る。



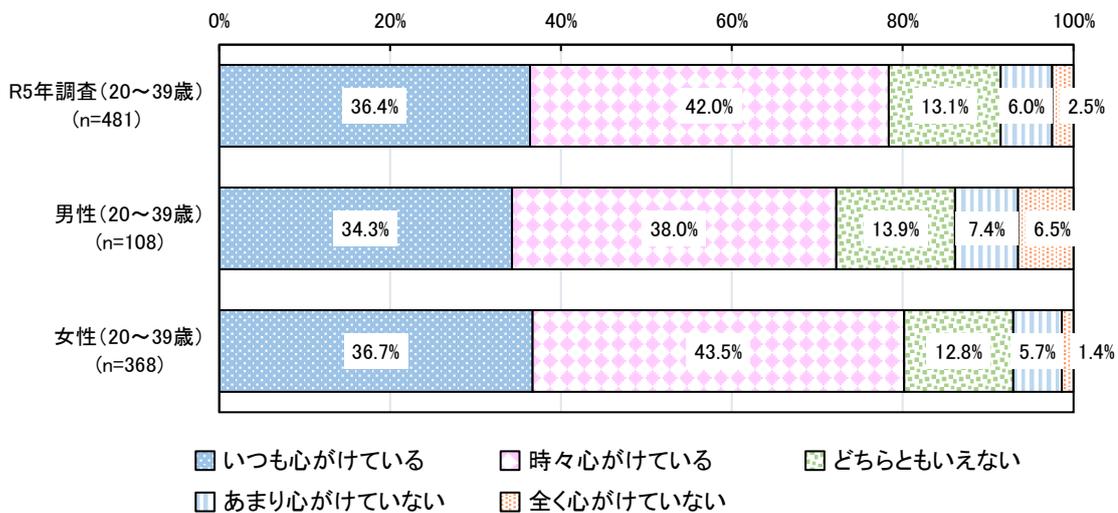
20歳以上でみると、全体では「いつも心がけている」が39.3%で最も高い。性別でみると、『心がけている』は女性が男性を9.9ポイント上回る。

【20歳以上】



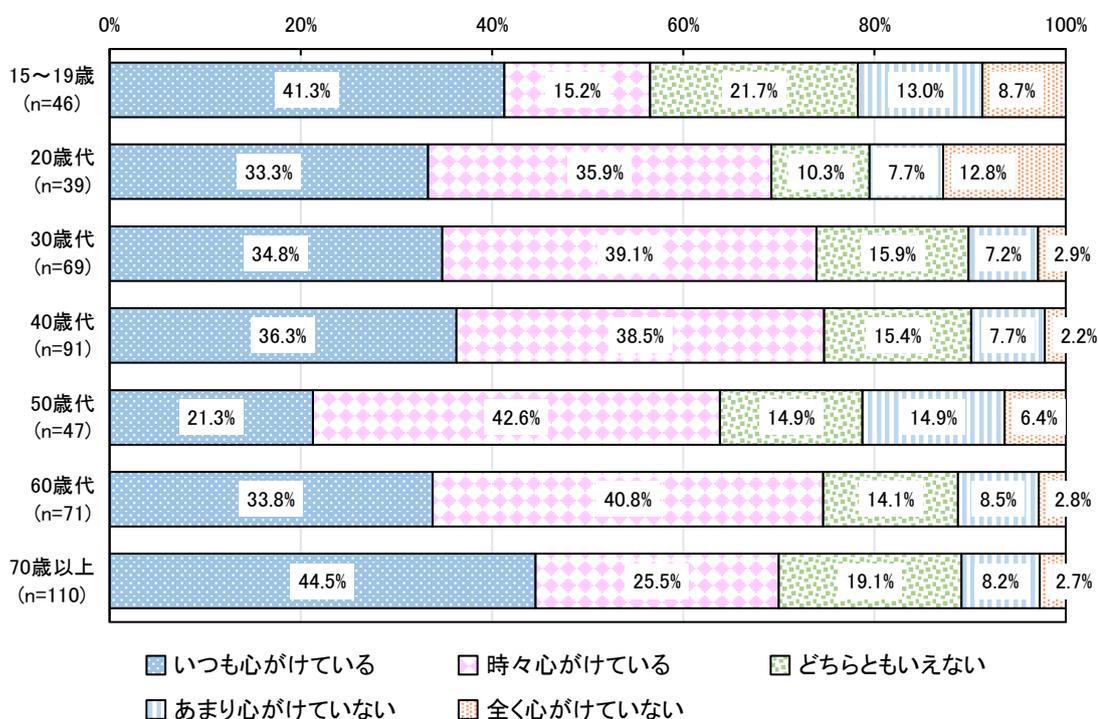
若い世代（20～39歳）でみると、全体では「時々心がけている」が42.0%で最も高い。性別でみると、『心がけている』は女性が男性を7.9ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】

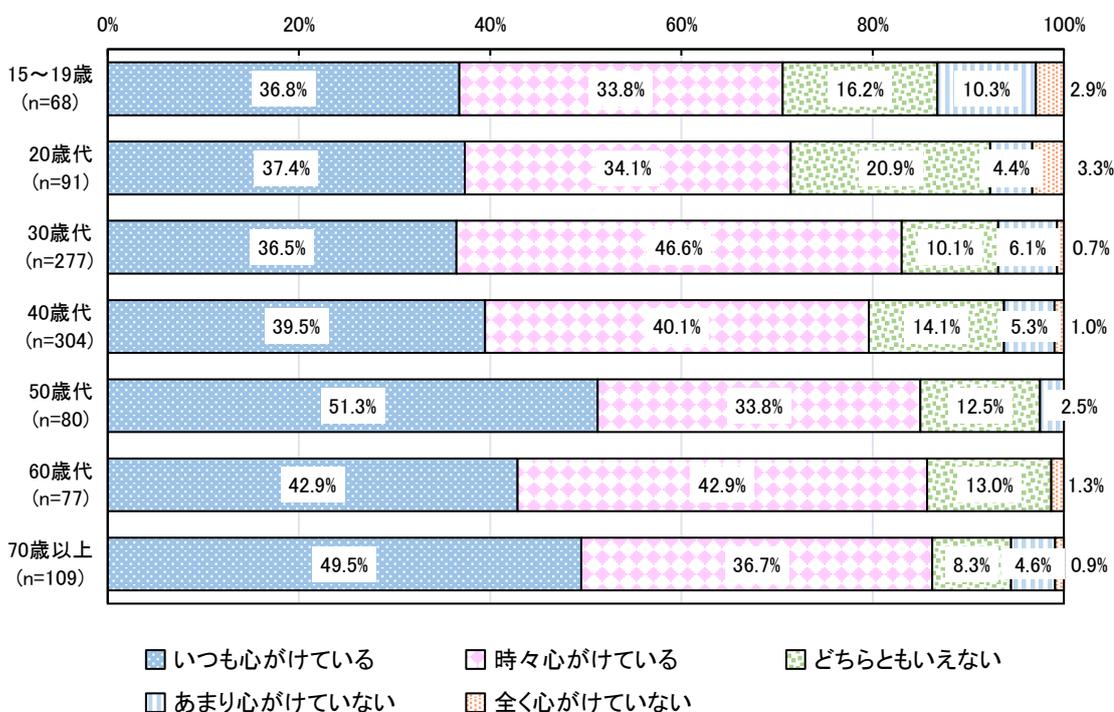


性・年齢別で見ると、『心がけている』と回答した割合は、男性は20歳以上では6割を超え、女性は全ての年代で7割を超えている。

【15歳以上（男性）】

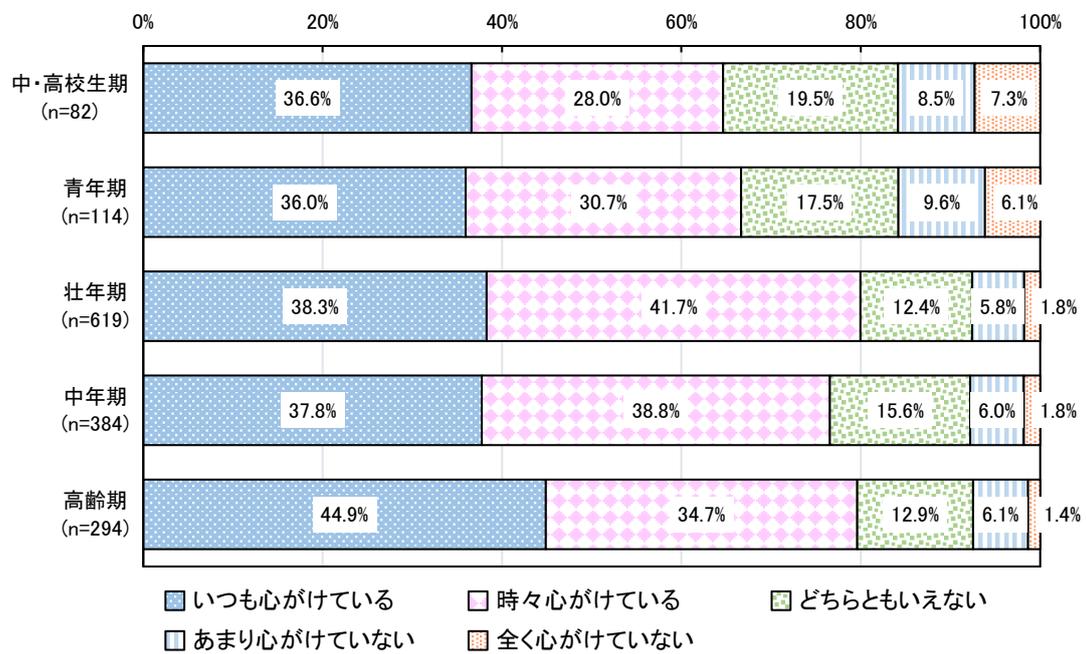


【15歳以上（女性）】



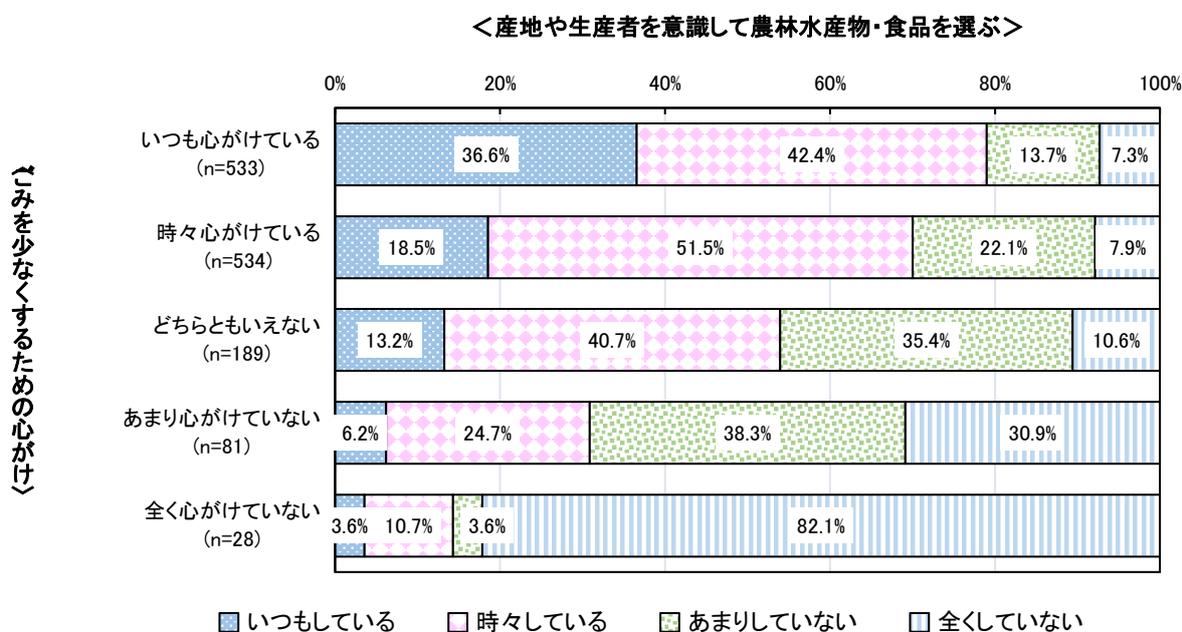
ライフステージ別で見ると、『心がけている』と回答した割合は、全てのライフステージで6割を超えている。

【15歳以上】



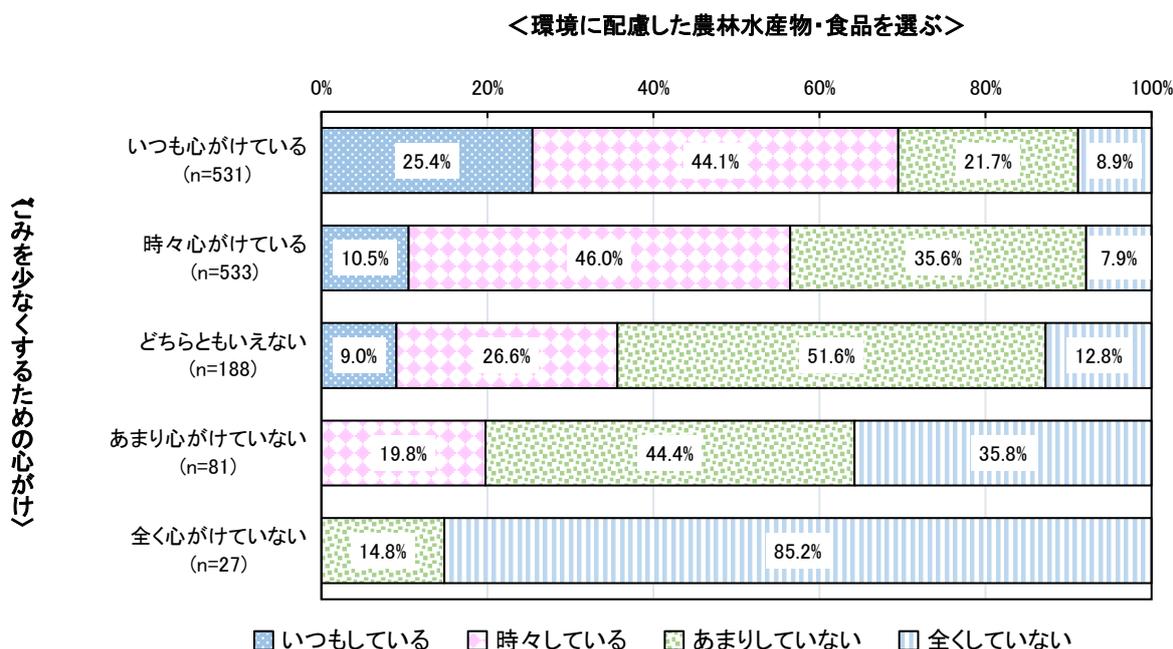
「産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶか」と「ごみを少なくするための心がけ」とでみると、「いつも心がけている」人は「産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶこと」をいつもしている」と答えた人が 36.6%と最も高い。一方で、「全く心がけていない」と答えた人は、「産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶことを全くしていない」と回答した割合が8割を超える。

【20 歳以上】



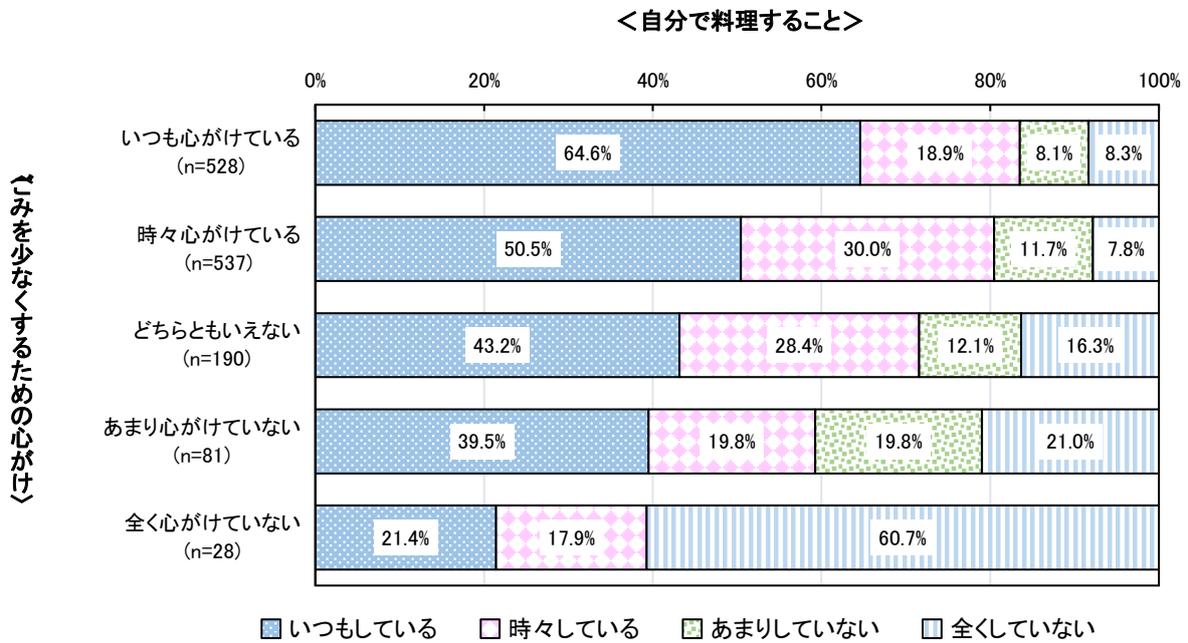
「環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶか」と「ごみを少なくするための心がけ」とでみると、「いつも心がけている」人は、「環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶこと」をいつもしている」と答えた人が 25.4%と最も高い。一方で、「全く心がけていない」と答えた人は、「環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶことを全くしていない」と回答した割合が8割を超える。

【20 歳以上】



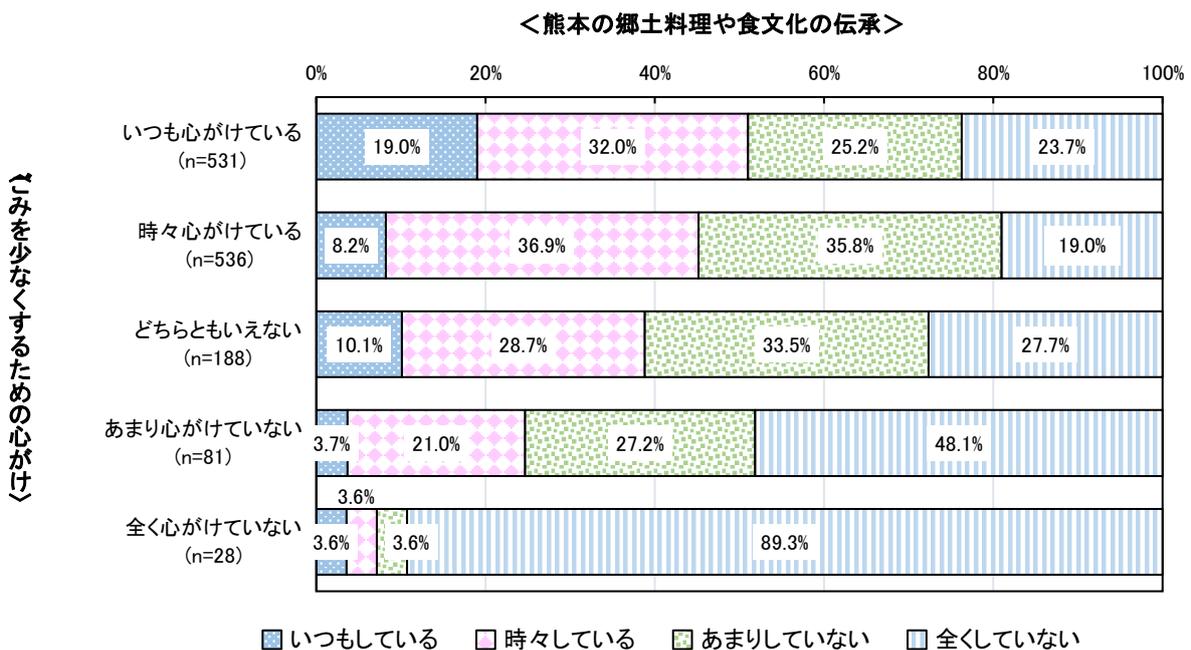
「自分で料理すること」と「ごみを少なくするための心がけ」とでみると、「いつも心がけている」人は、「自分で料理をいつもしている」と答えた人が64.6%と最も高い。一方で、「全く心がけていない」と答えた人は、「自分で料理を全くしていない」と回答した割合が6割を占める。

【20歳以上】



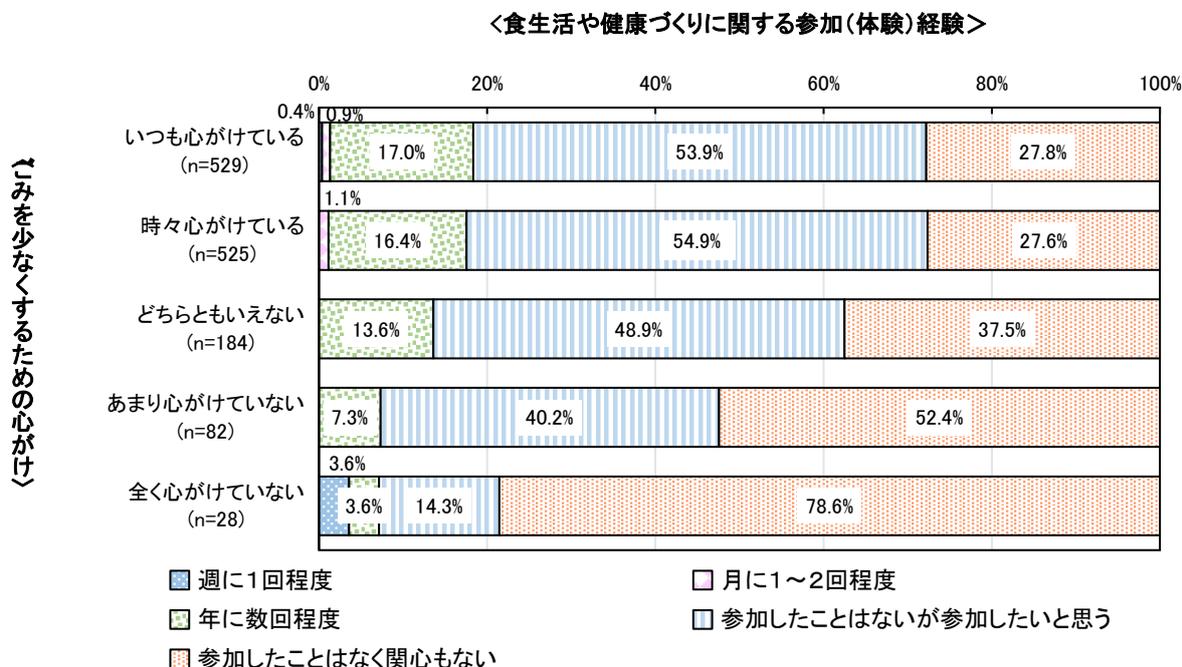
「熊本の食の伝承」と「ごみを少なくするための心がけ」とでみると、「いつも心がけている」人は、「食の伝承をいつもしている」と答えた人が19.0%と最も高い。一方で、「全く心がけていない」と答えた人は、「食の伝承を全くしていない」と回答した割合がほぼ9割を占める。

【20歳以上】



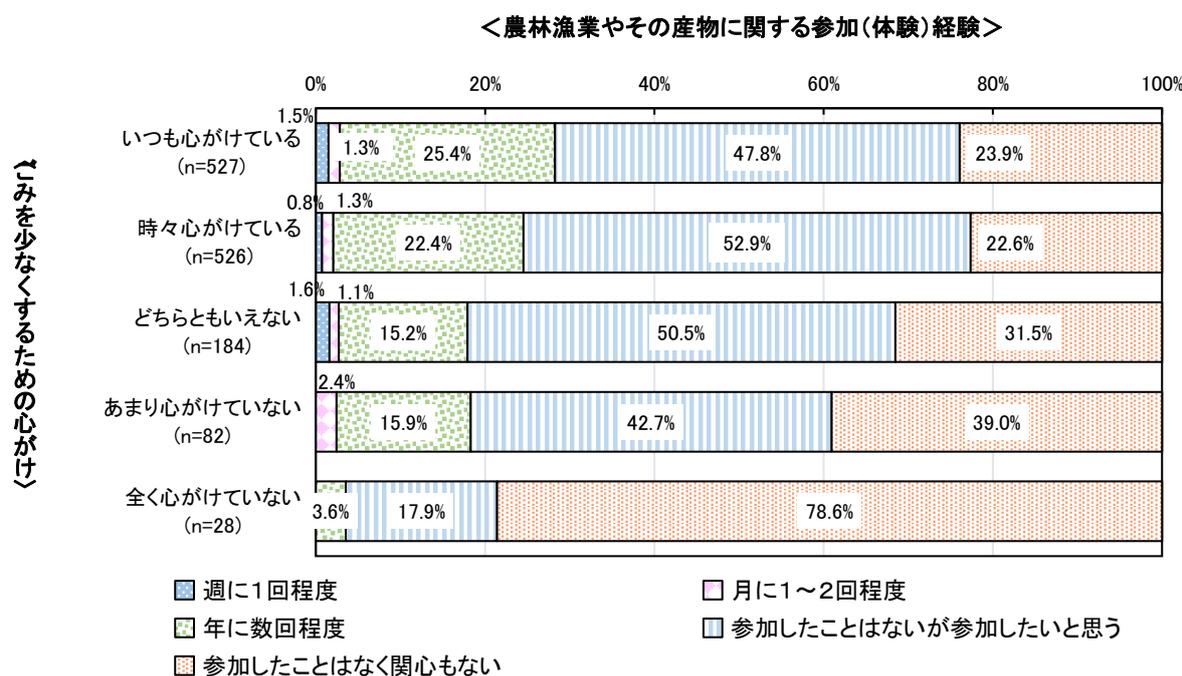
「食生活や健康づくりに関する参加（体験）経験」と「ごみを少なくするための心がけ」と
 でみると、「いつも心がけている」人は、『参加している』（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」
 ＋「年に数回程度」）と答えた人が18.3%と最も高い。一方で、「全く心がけていない」と
 答えた人は、「参加したことはなく関心もない」と回答した割合が7割を超える。

【20歳以上】



「農林漁業やその産物に関する参加（体験）経験」と「ごみを少なくするための心がけ」と
 でみると、「いつも心がけている」人は、『参加している』（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」
 ＋「年に数回程度」）と答えた人が28.2%と最も高い。一方で、「全く心がけていない」と
 答えた人は、「参加したことはなく関心もない」と回答した割合が7割を超えている。

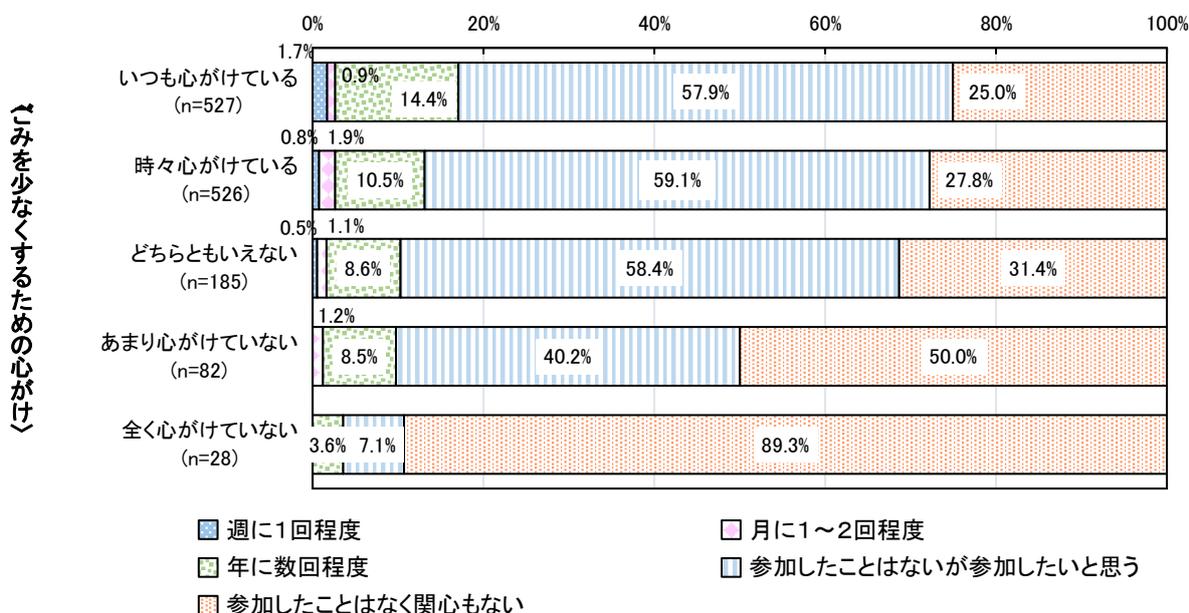
【20歳以上】



「ごみを少なくするための心がけ」と「環境保全に関する参加（体験）経験」とでみると、「いつも心がけている」人は、『参加している』（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」＋「年に数回程度」）と答えた人が17.0%と最も高い。一方で、「全く心がけていない」と答えた人は、「参加したことはなく関心もない」と回答した割合がほぼ9割を占める。

【20歳以上】

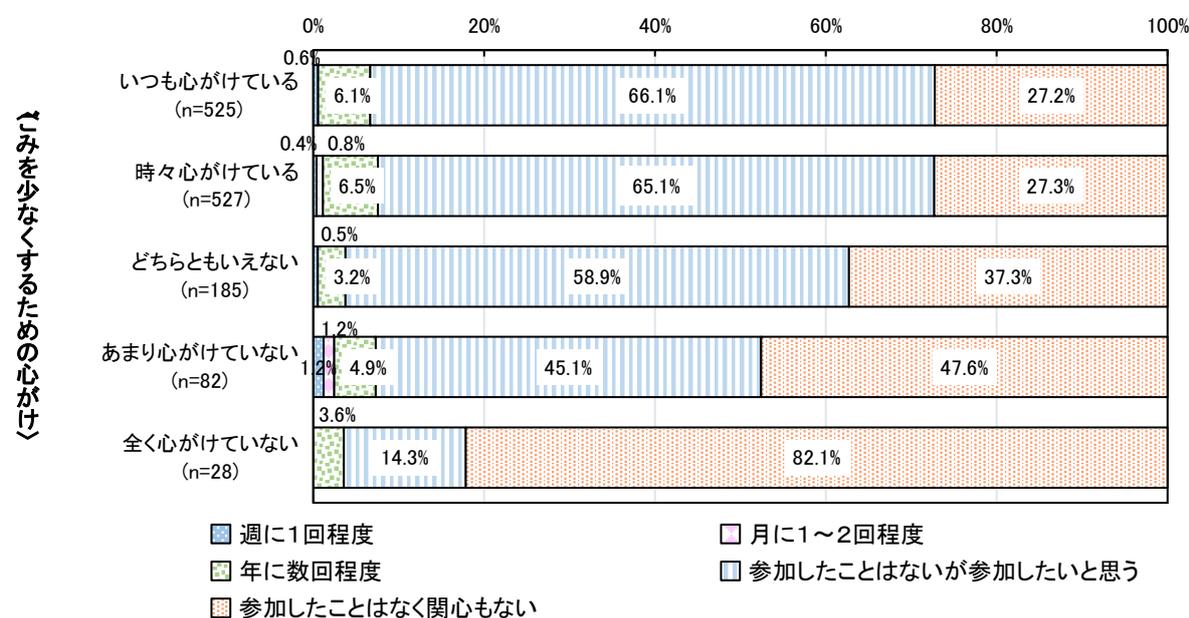
＜環境保全に関する参加（体験）経験＞



「食品の安全性や食品衛生に関する参加（体験）経験」と「ごみを少なくするための心がけ」とでみると、「時々心がけている」人は、『参加している』（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」＋「年に数回程度」）と答えた人が7.7%と最も高い。一方で、「全く心がけていない」と答えた人は、「参加したことはなく関心もない」と回答した割合が8割を超える。

【20歳以上】

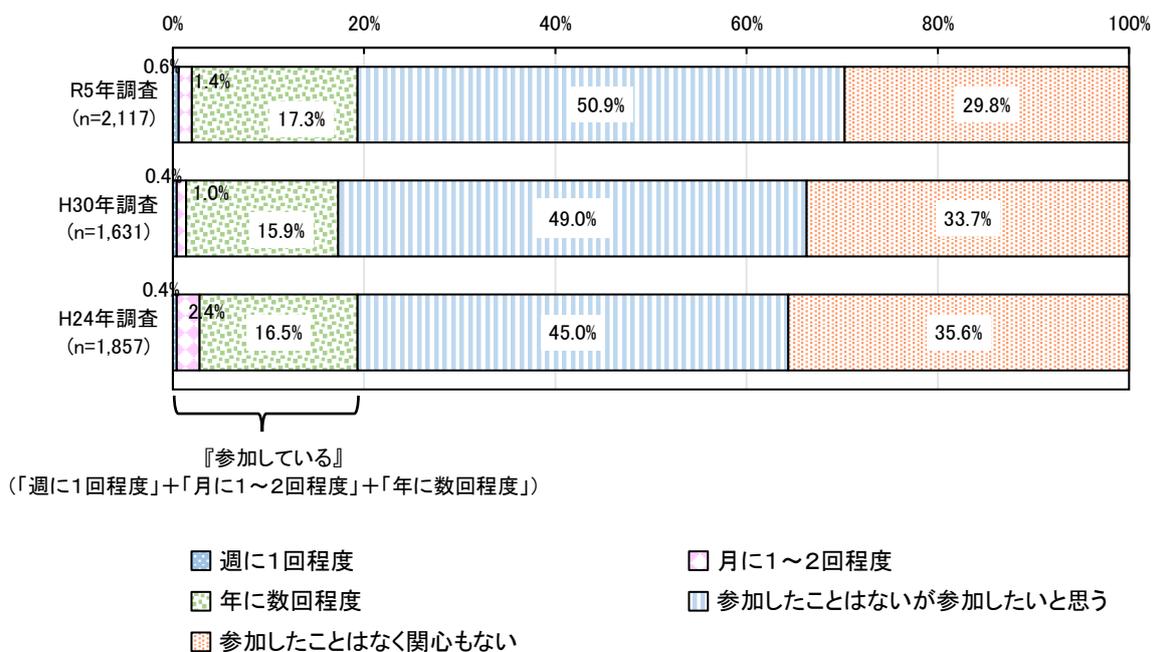
＜食品の安全性や食品衛生に関する参加（体験）経験＞



■行事等への参加（体験）経験と意向 〈1歳以上〉

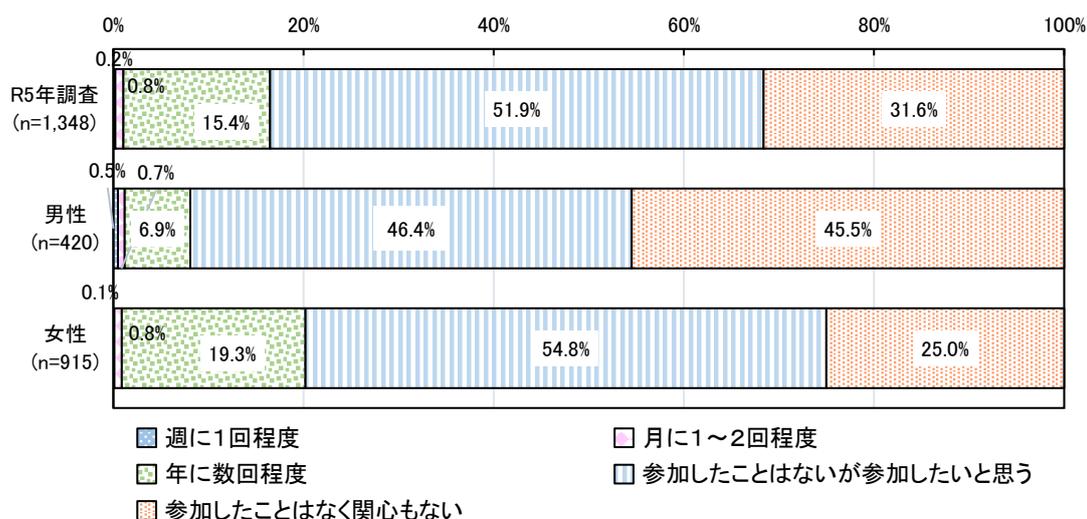
<（1）親子料理教室など、食生活改善や健康づくりに関するもの>

食生活改善や健康づくりに関する参加（体験）経験と意向について、「参加したことはないが参加したいと思う」が50.9%で最も高く、次いで「参加したことはなく関心もない」29.8%、「年に数回程度」17.3%の順となった。前回調査と比較して、『参加している』（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」＋「年に数回程度」）は2.0ポイント上回る。



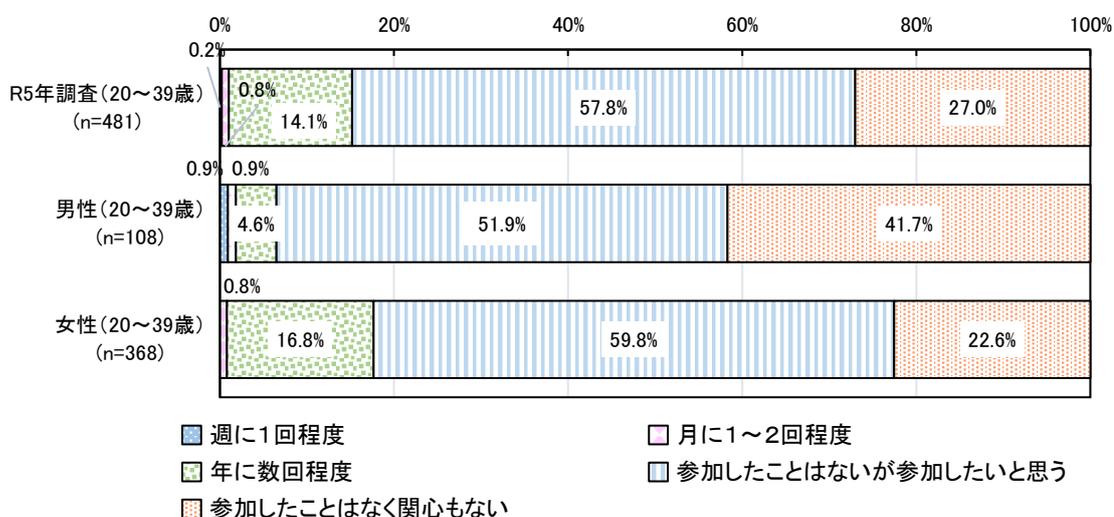
20歳以上でみると、全体では「参加したことはないが参加したいと思う」が51.9%で最も高い。性別でみると、『参加している』は女性が男性を12.1ポイント上回る。

【20歳以上】



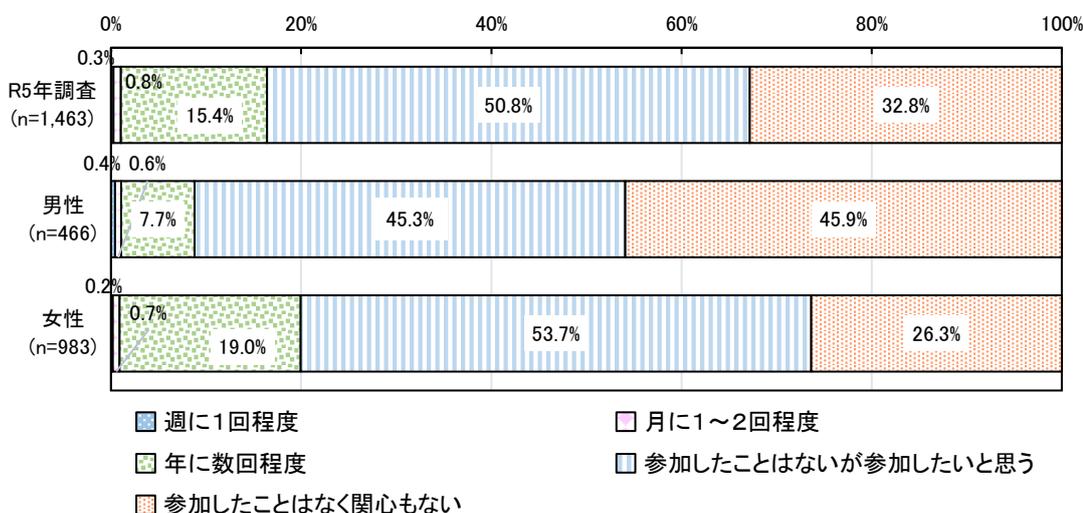
若い世代（20～39歳）でみると、全体では「参加したことはないが参加したいと思う」が57.8%で最も高い。性別でみると、『参加している』は女性が男性を11.2ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】



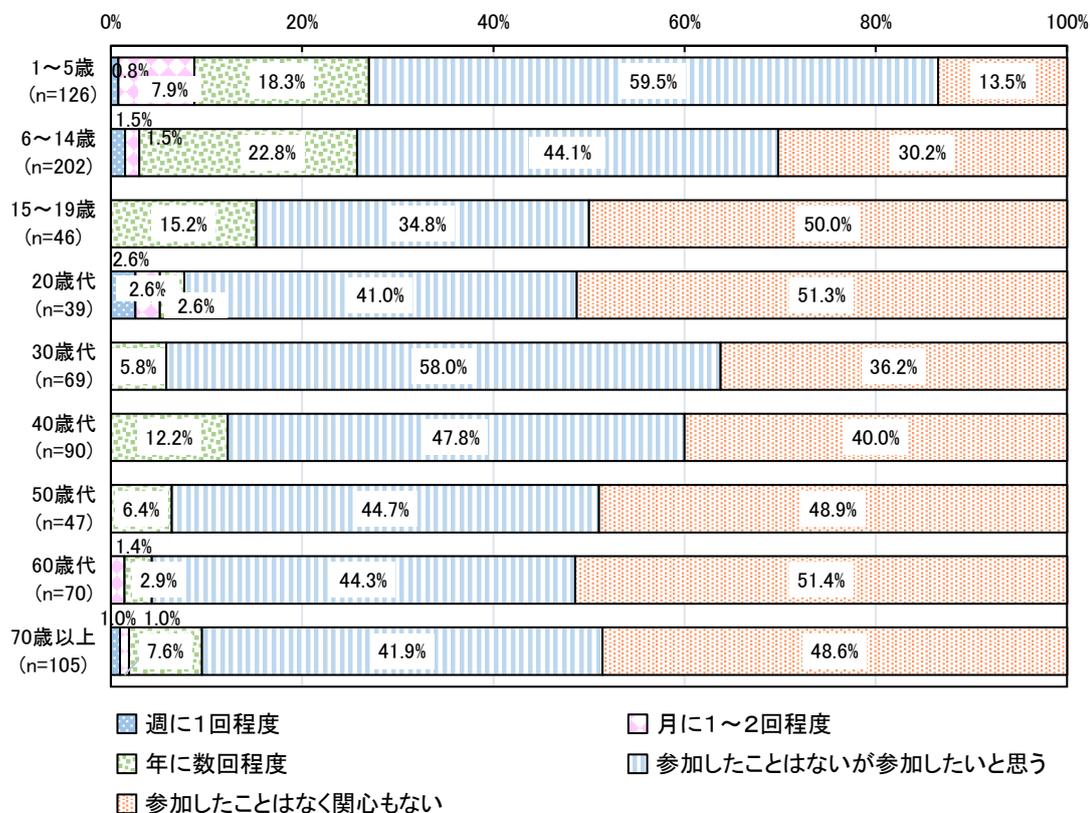
15歳以上でみると、全体では「参加したことはないが参加したいと思う」が50.8%で最も高い。『参加している』は女性が男性を11.2ポイント上回る。

【15歳以上】

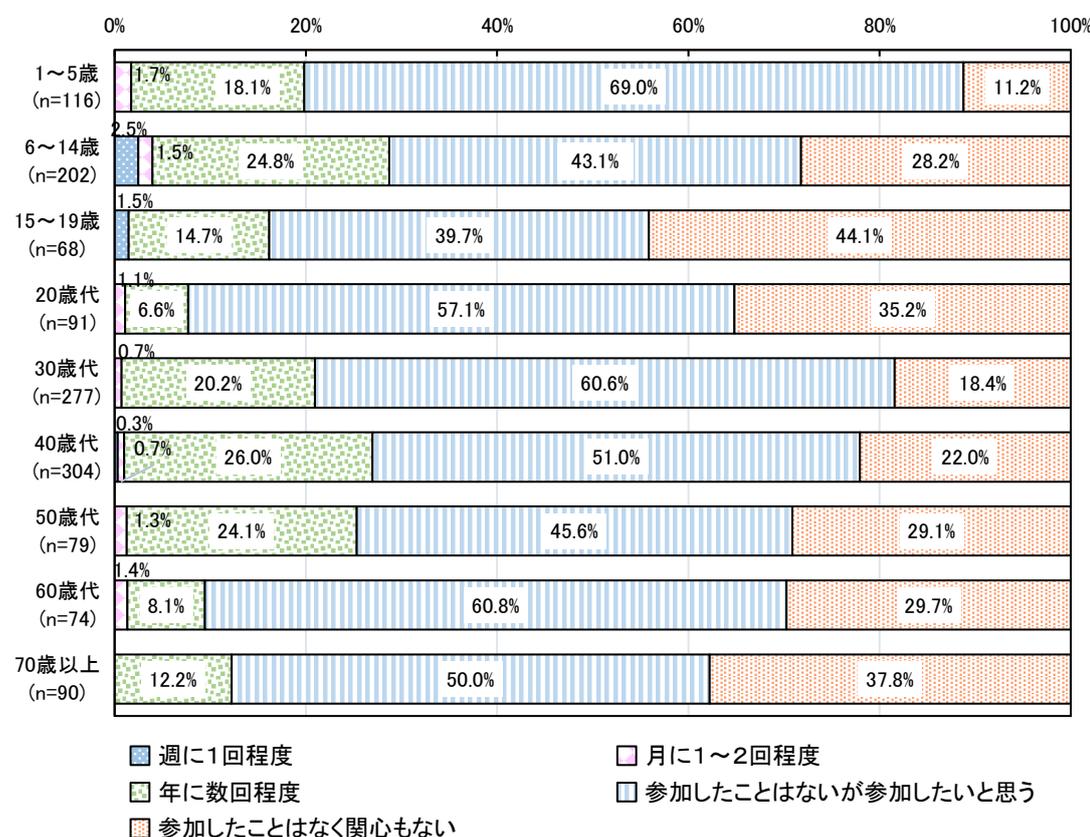


性・年齢別で見ると、男性は19歳以下、女性は19歳以下と30歳代から50歳代で『参加している』と回答した割合が高い。

【1歳以上（男性）】

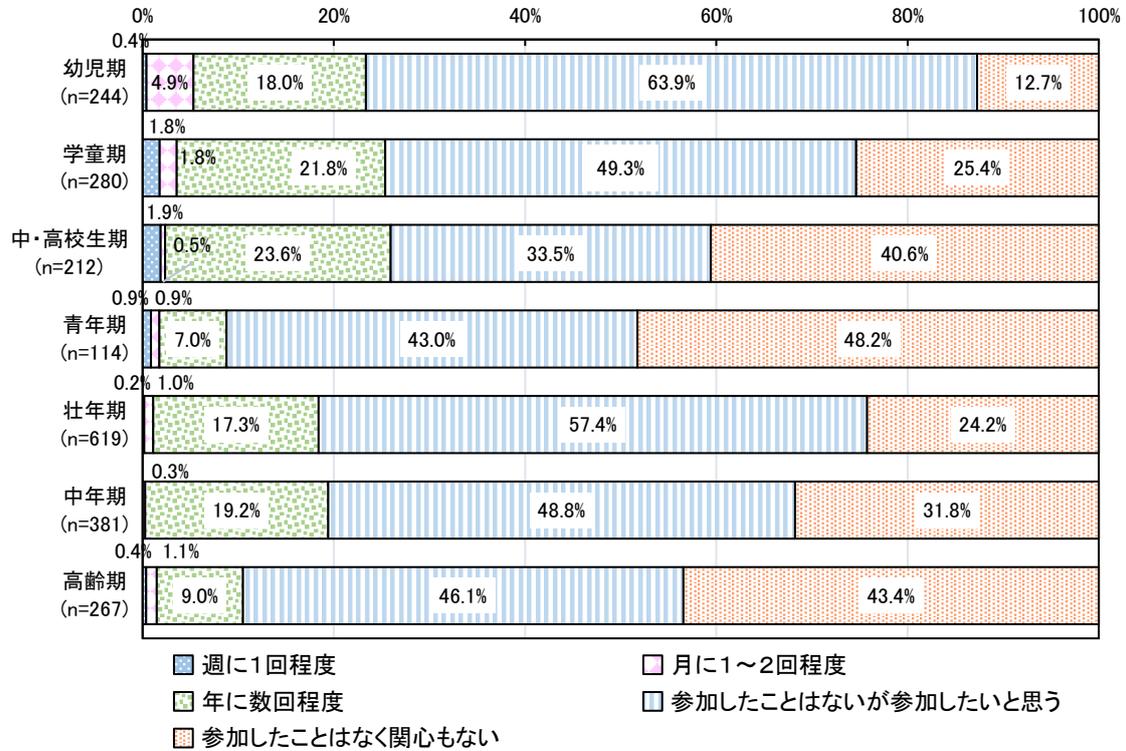


【1歳以上（女性）】



ライフステージ別でみると、『参加している』と回答した割合は、幼児期、学童期、中・高校生期では2割を超えている。一方、「参加したことはなく関心もない」は青年期の48.2%が最も高い。

【1歳以上】



◎農林漁業体験を経験した市民の割合

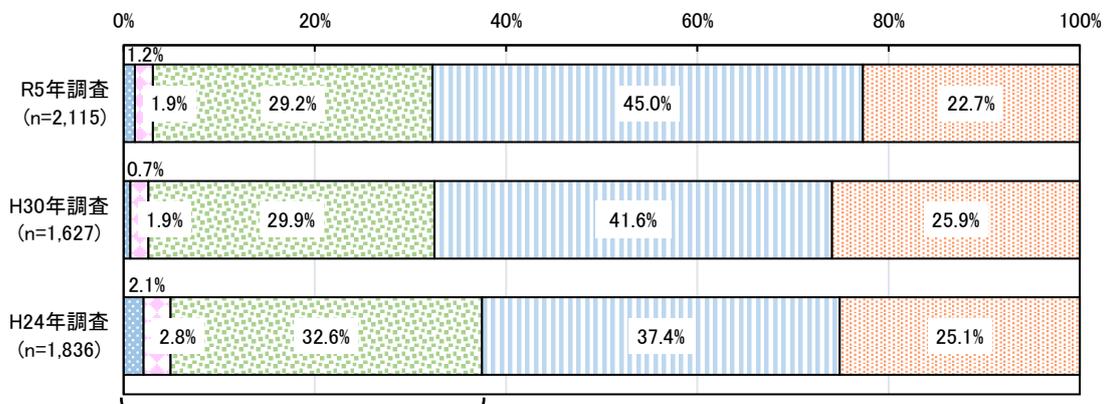
平成30年調査と比較して0.2ポイント下回り、目標を17.7ポイント下回る。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○農林漁業体験を経験した市民の割合	37.7%	27.5%	32.5%	32.3%	50%

<調査結果>

<(2) 田植えや芋ほり、野菜の栽培・収穫体験など、農林漁業やその産物に関するもの>

農林漁業やその産物に関する参加（体験）経験と意向について、「参加したことはないが参加したいと思う」が45.0%で最も高く、次いで「年に数回程度」29.2%、「参加したことはなく関心もない」22.7%の順となった。前回調査と比較して、大きな差はみられない。

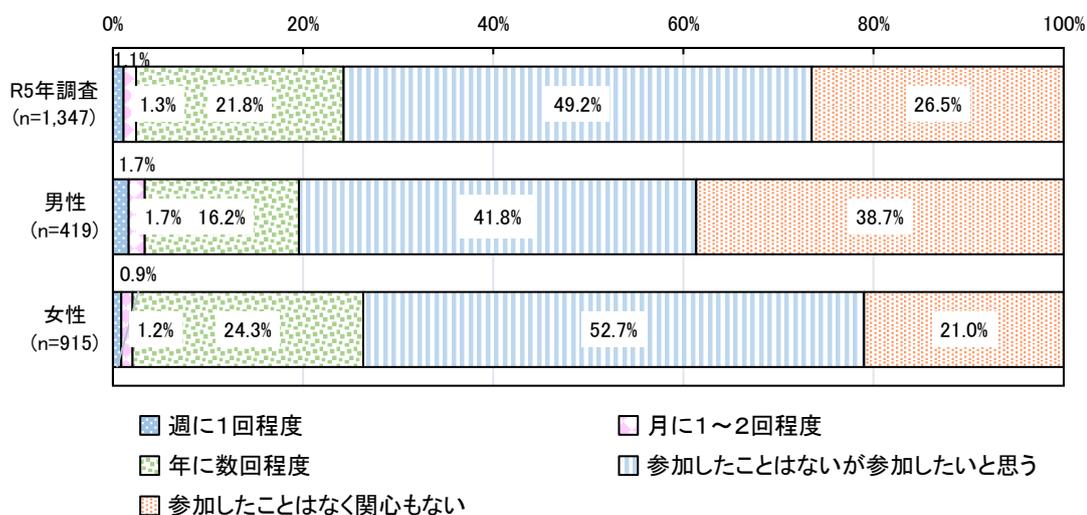


『参加している』
 (「週に1回程度」+「月に1~2回程度」+「年に数回程度」)

- 週に1回程度
- 月に1~2回程度
- 年に数回程度
- 参加したことはないが参加したいと思う
- 参加したことはなく関心もない

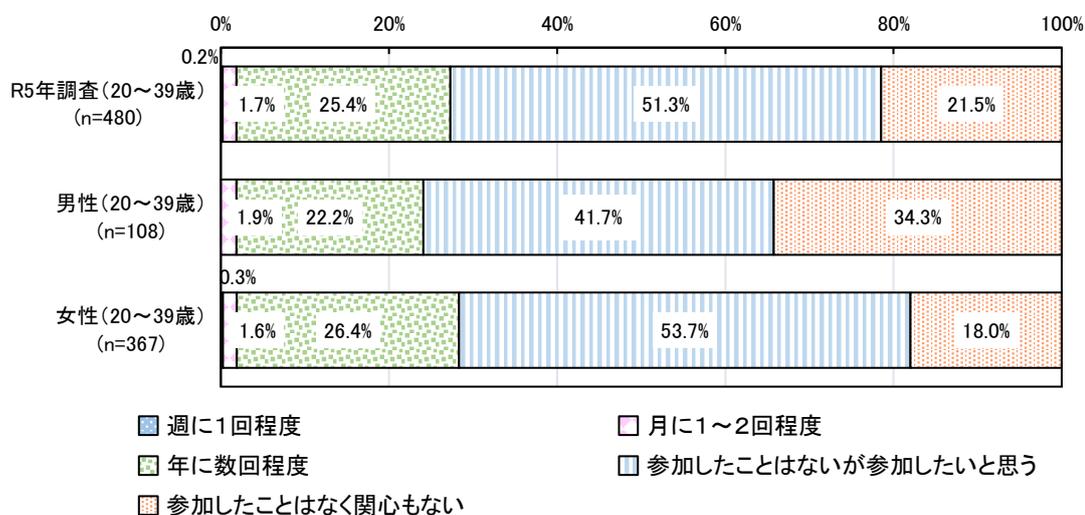
20歳以上でみると、全体では「参加したことはないが参加したいと思う」が49.2%で最も高い。性別でみると、『参加している』は女性が男性を6.8ポイント上回る。

【20歳以上】



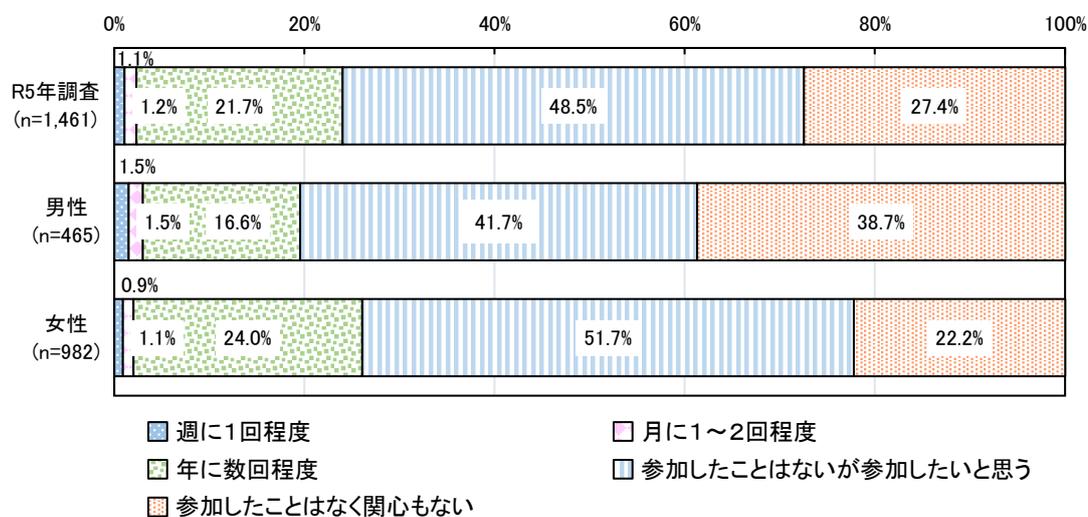
若い世代 (20~39歳) でみると、全体では「参加したことはないが参加したいと思う」が51.3%で最も高い。性別でみると、『参加している』は女性が男性を4.2ポイント上回る。

【若い世代 (20~39歳)】



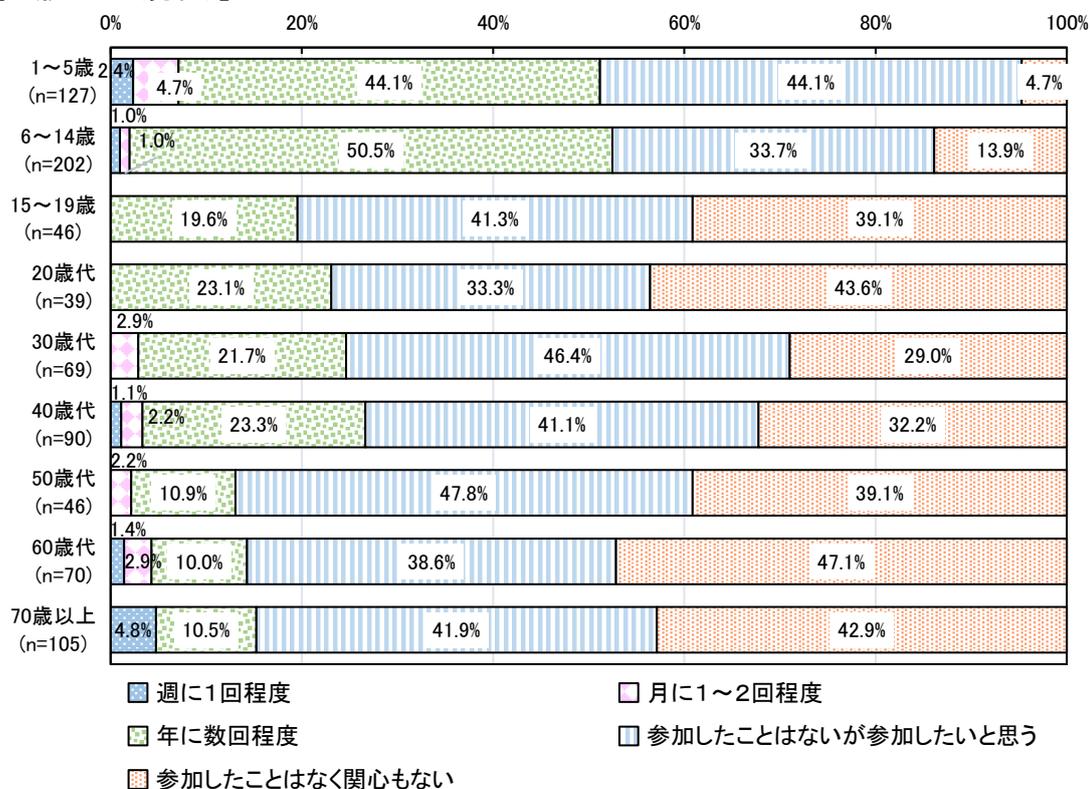
15歳以上で見ると、全体では「参加したことはないが参加したいと思う」が48.5%で最も高い。
性別で見ると、『参加している』は女性が男性を6.4ポイント上回る。

【15歳以上】

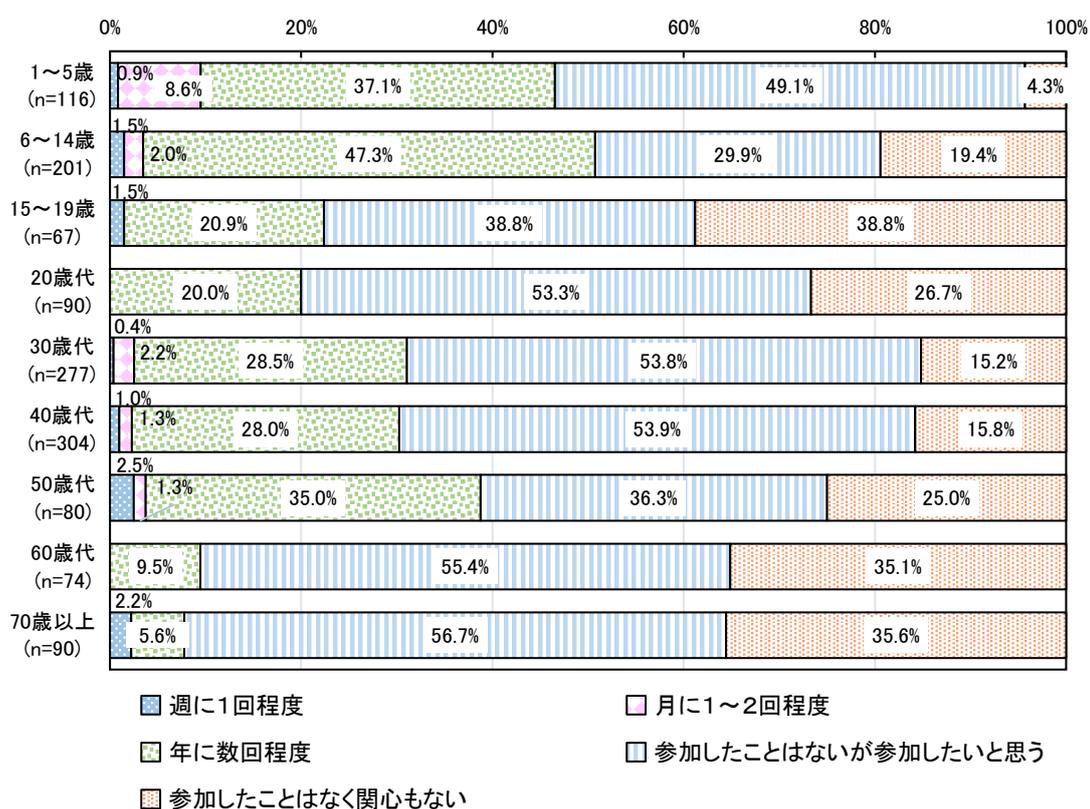


性・年齢別で見ると、男女ともに14歳以下では『参加している』と回答した割合が、他の年代と比較して高い。女性では15歳以上の全ての年代で、「参加したことはないが参加したいと思う」の回答が最も高く、男性では20歳代と60歳以上で、「参加したことはないが興味もない」の回答が最も高い。

【1歳以上（男性）】

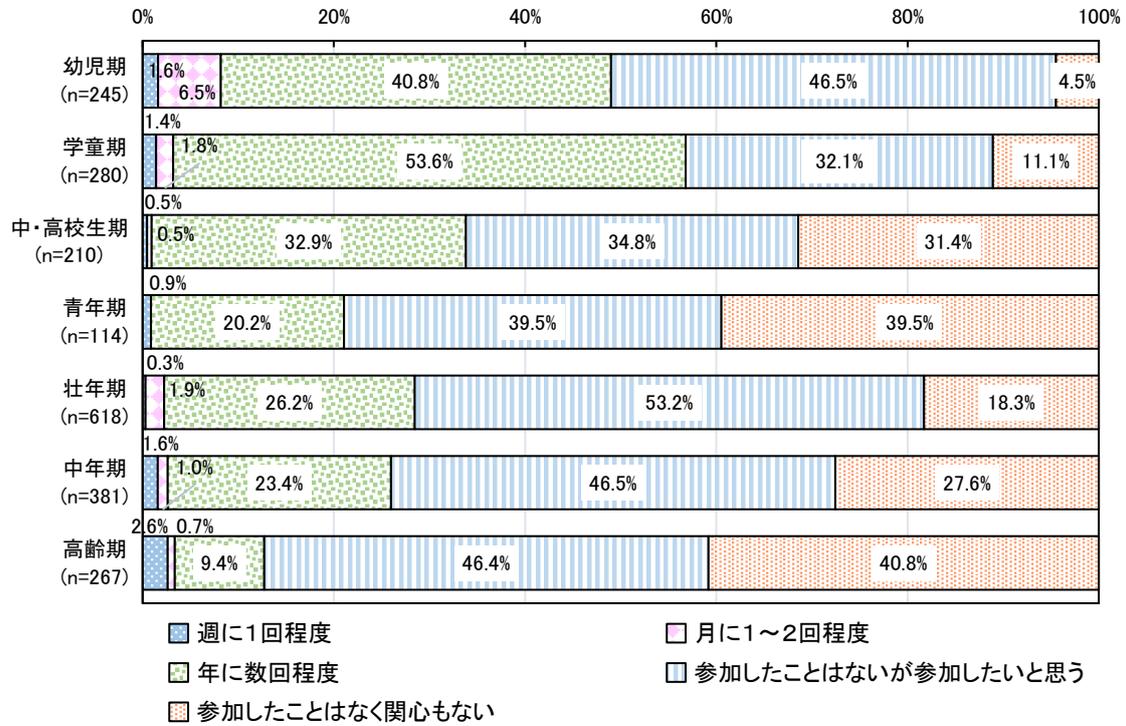


【1歳以上（女性）】



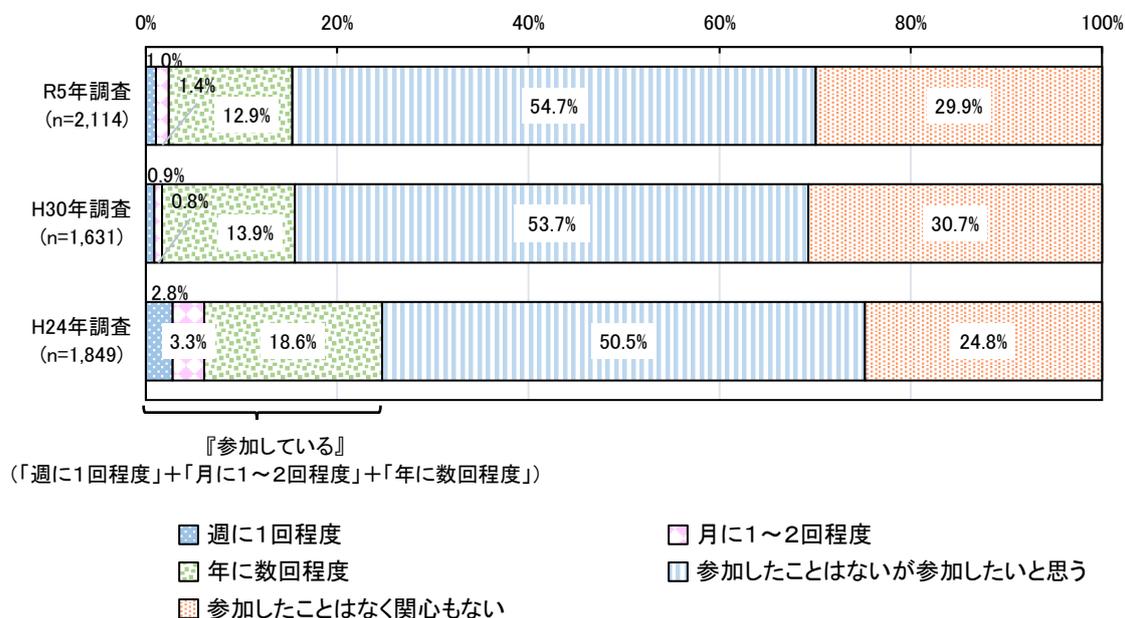
ライフステージ別でみると、『参加している』と回答した割合は、幼児期 48.9%、学童期 56.8%と他のライフステージと比較して高い。ライフステージが上がるにつれ『参加している』と回答した割合は低くなる傾向がみられる。

【1歳以上】



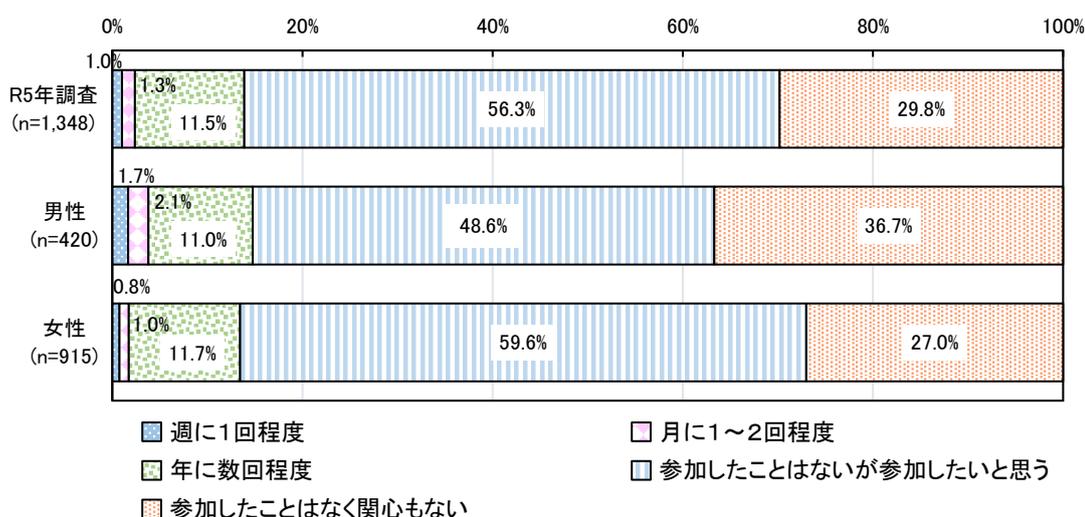
< (3) ごみ減量やリサイクルなど、環境保全に関するもの >

環境保全に関する参加（体験）経験と意向について、「参加したことはないが参加したいと思う」が 54.7%で最も高く、次いで「参加したことはなく関心もない」29.9%、「年に数回程度」12.9%の順となった。前回調査と比較して、大きな差はみられない。



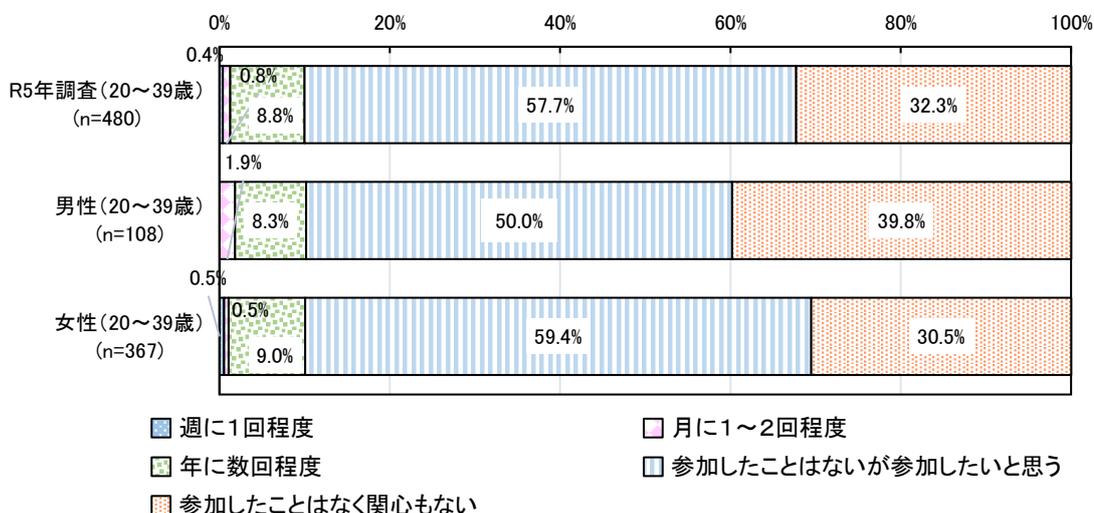
20歳以上でみると、全体では「参加したことはないが参加したいと思う」が 56.3%で最も高い。性別でみると、『参加している』は男性が女性を 1.3 ポイント上回る。一方で、「参加したことはないが参加したいと思う」と回答した割合は、女性が男性を 11 ポイント上回る。

【20歳以上】



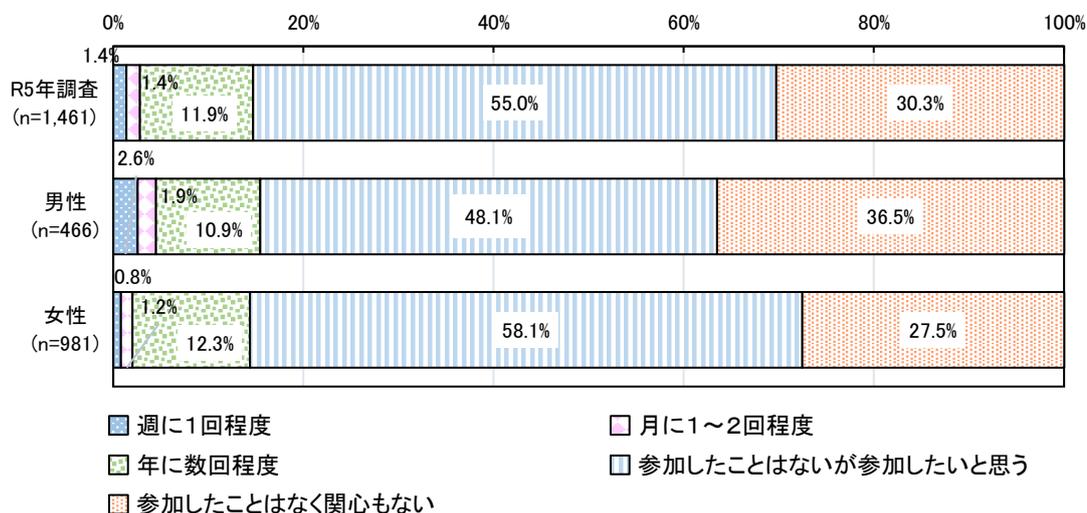
若い世代（20～39歳）でみると、全体では「参加したことはないが参加したいと思う」が57.7%で最も高い。性別でみると、参加状況については大きな差はみられないが、「参加したことはないが参加したいと思う」は男性が女性を9.3ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】



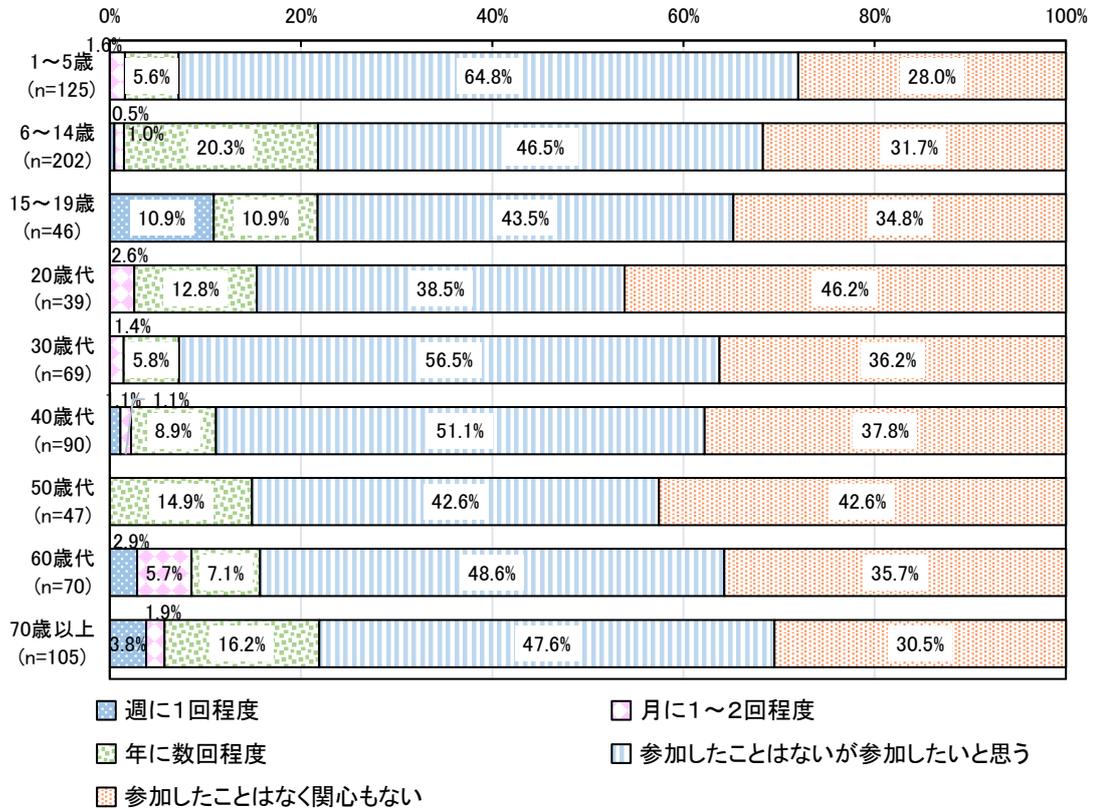
15歳以上でみると、全体では「参加したことはないが参加したいと思う」が55.0%で最も高い。性別でみると、参加状況については大きな差はみられないが、「参加したことはないが参加したいと思う」は男性が女性を9ポイント上回る。

【15歳以上】

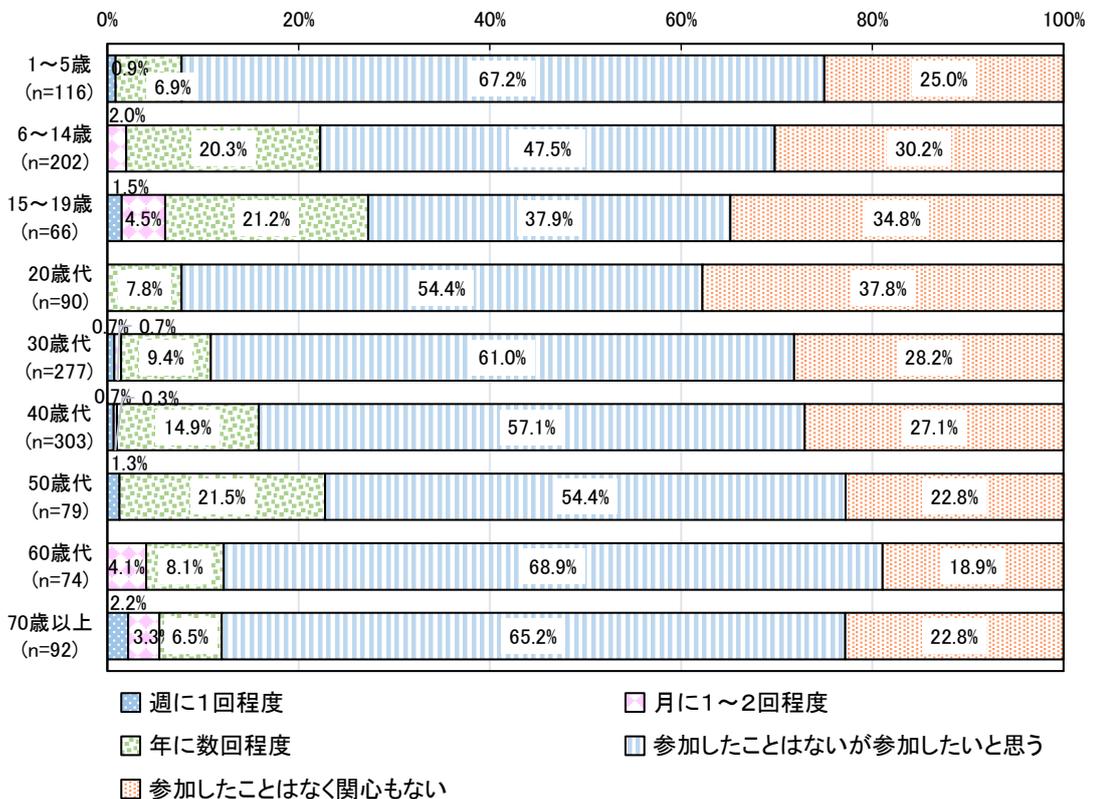


性・年齢別で見ると、『参加している』と回答した割合は、男性では6～19歳と70歳以上、女性では6～19歳と50歳代でいずれも2割を超え、他の年代と比較して高い。

【1歳以上（男性）】

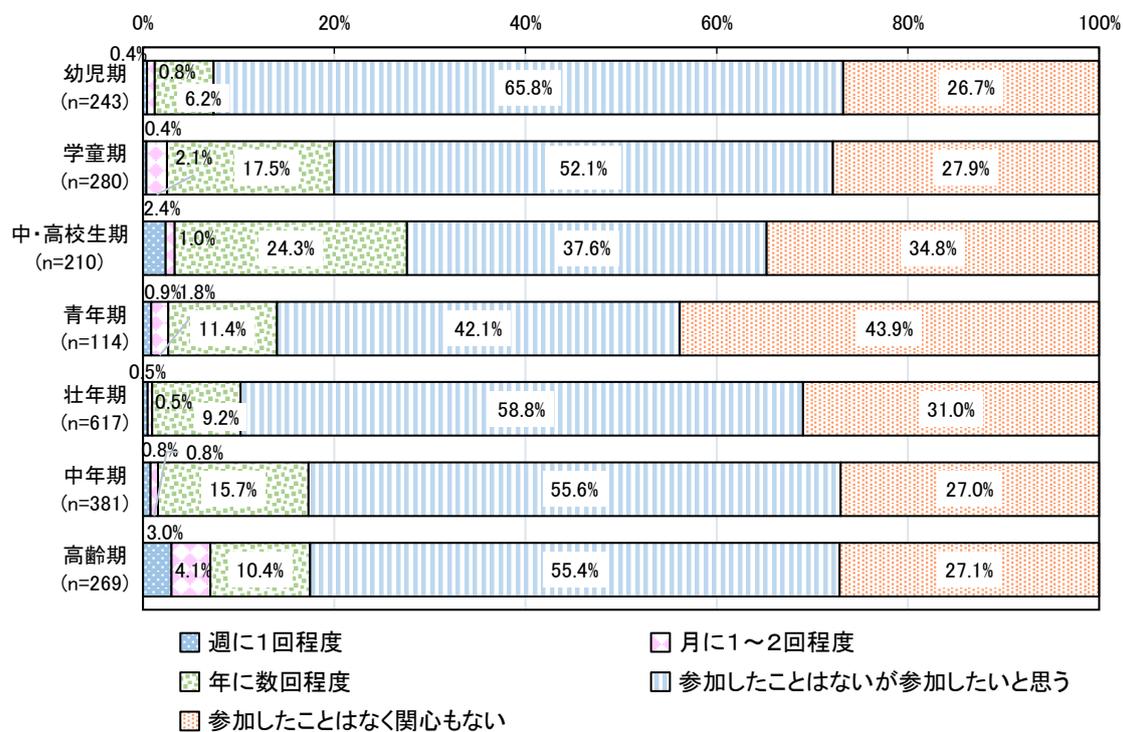


【1歳以上（女性）】



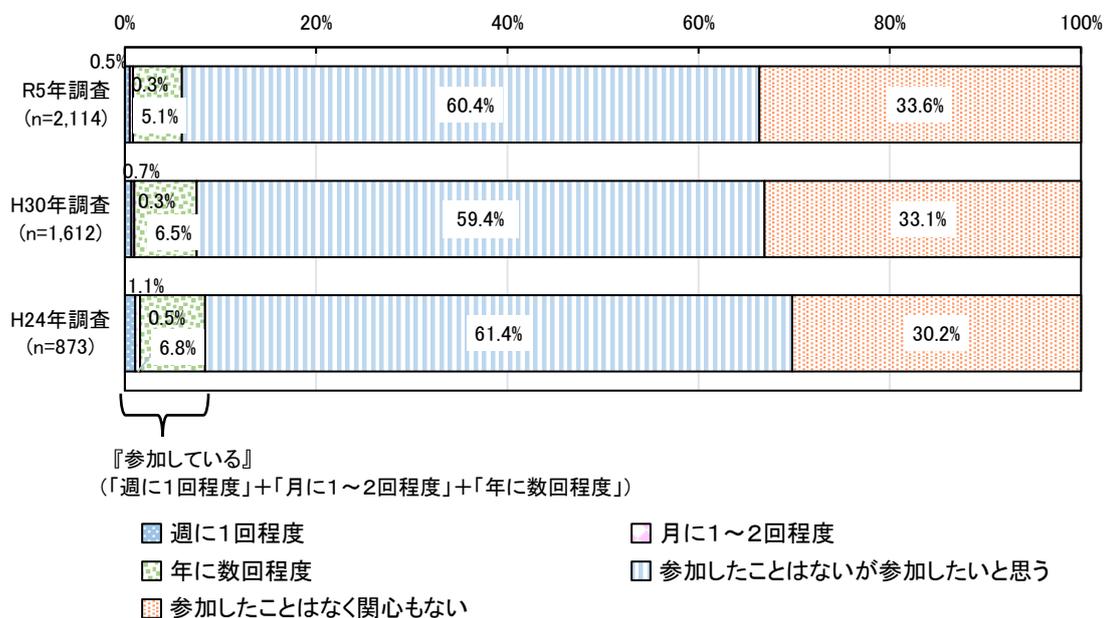
ライフステージ別でみると、『参加している』と回答した割合は、学童期、中・高校生期が高く、2割を超えている。

【1歳以上】



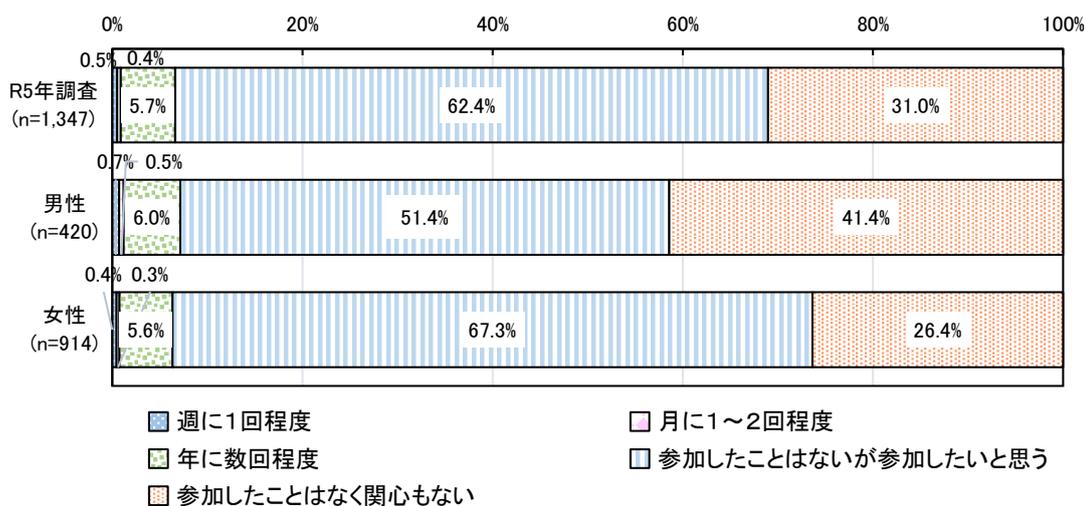
< (4) 食中毒予防講座など、食品の安全性や食品衛生に関するもの >

食品の安全性や食品衛生に関する参加（体験）経験と意向について、「参加したことはないが参加したいと思う」が60.4%で最も高く、次いで「参加したことはなく興味もない」33.6%、「年に数回程度」5.1%となった。前回調査と比較して、『参加している』は1.6ポイント下回る。



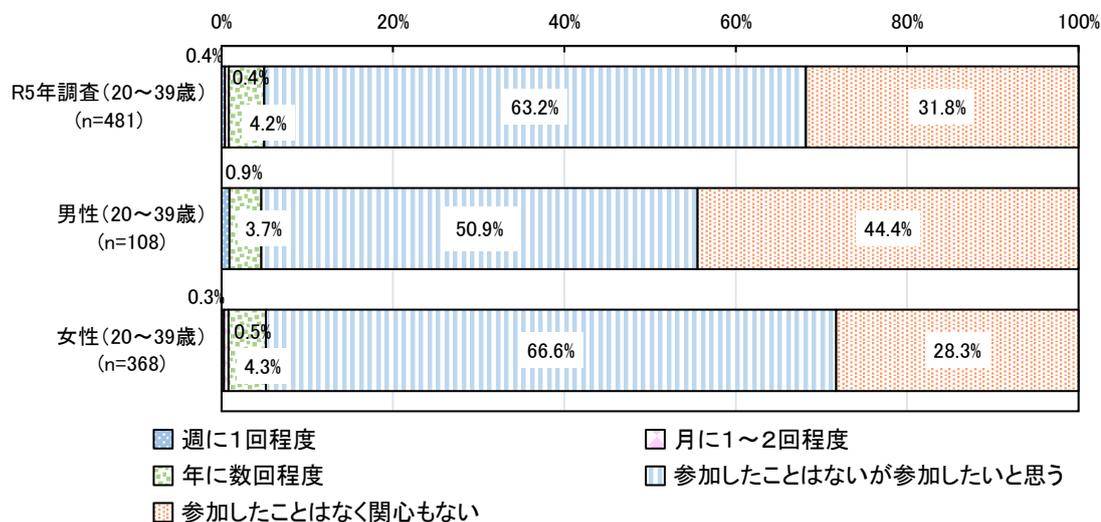
20歳以上でみると、全体では「参加したことはないが参加したいと思う」が62.4%で最も高い。性別でみると、「参加したことはないが参加したいと思う」は女性が男性を15.9ポイント上回る。参加状況については大きな差はみられない。

【20歳以上】



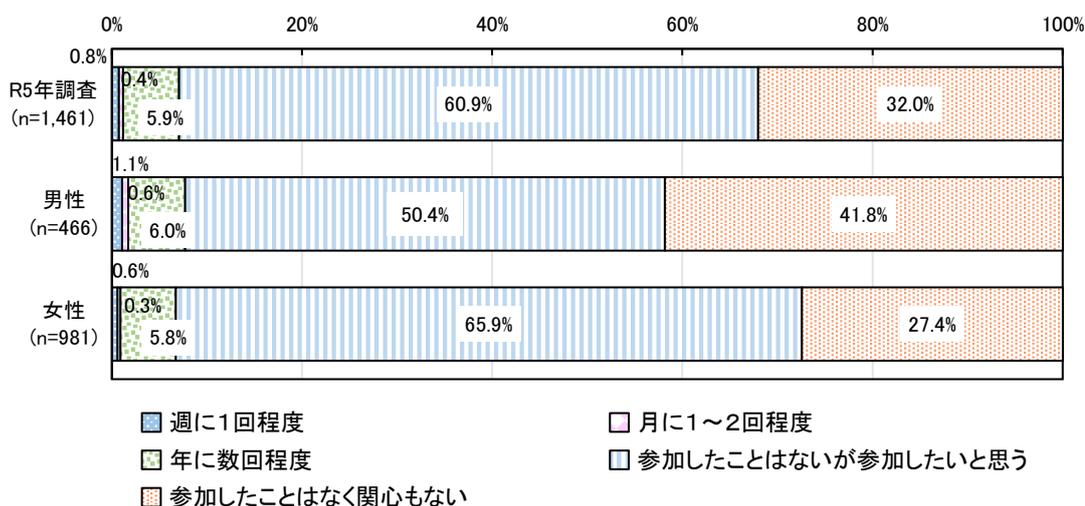
若い世代（20～39歳）でみると、全体では「参加したことはないが参加したいと思う」が63.2%で最も高い。参加状況については大きな差はみられないが、「参加したことはないが興味もない」は男性が女性を16.1ポイント上回る。

【若い世代（20～39歳）】



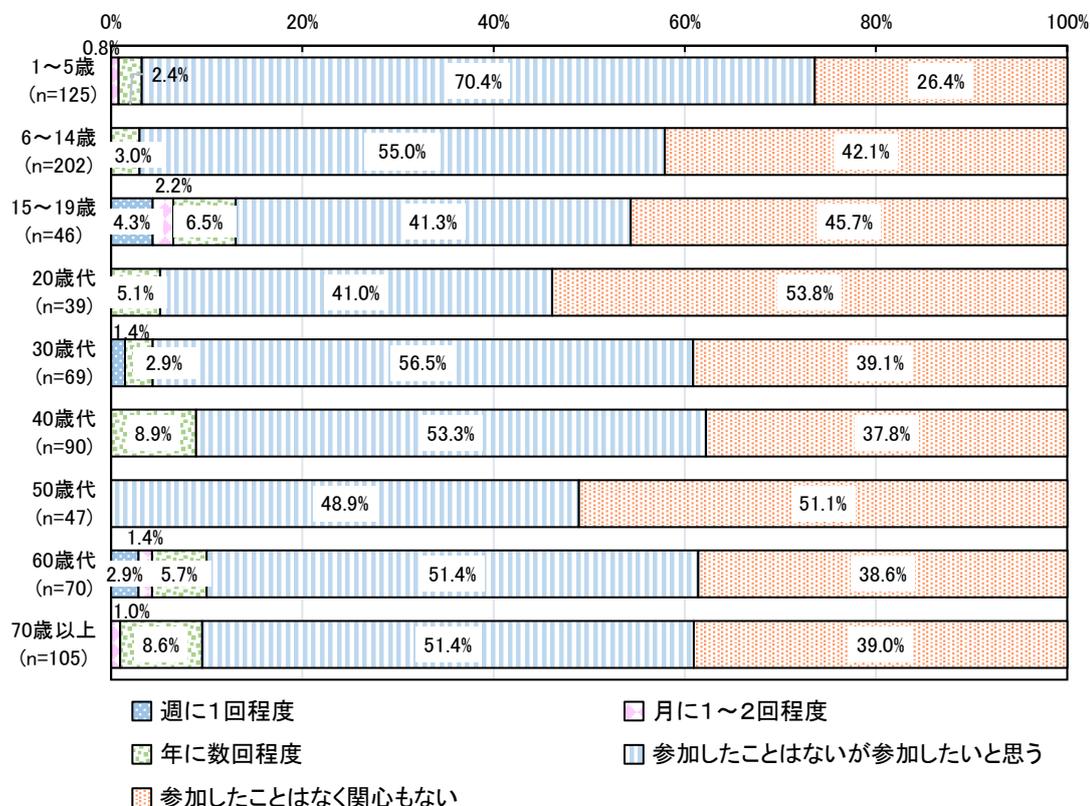
15歳以上でみると、全体では「参加したことはないが参加したいと思う」が60.9%で最も高い。参加状況については大きな差はみられないが、「参加したことはないが興味もない」は男性が女性を14.4ポイント上回る。

【15歳以上】

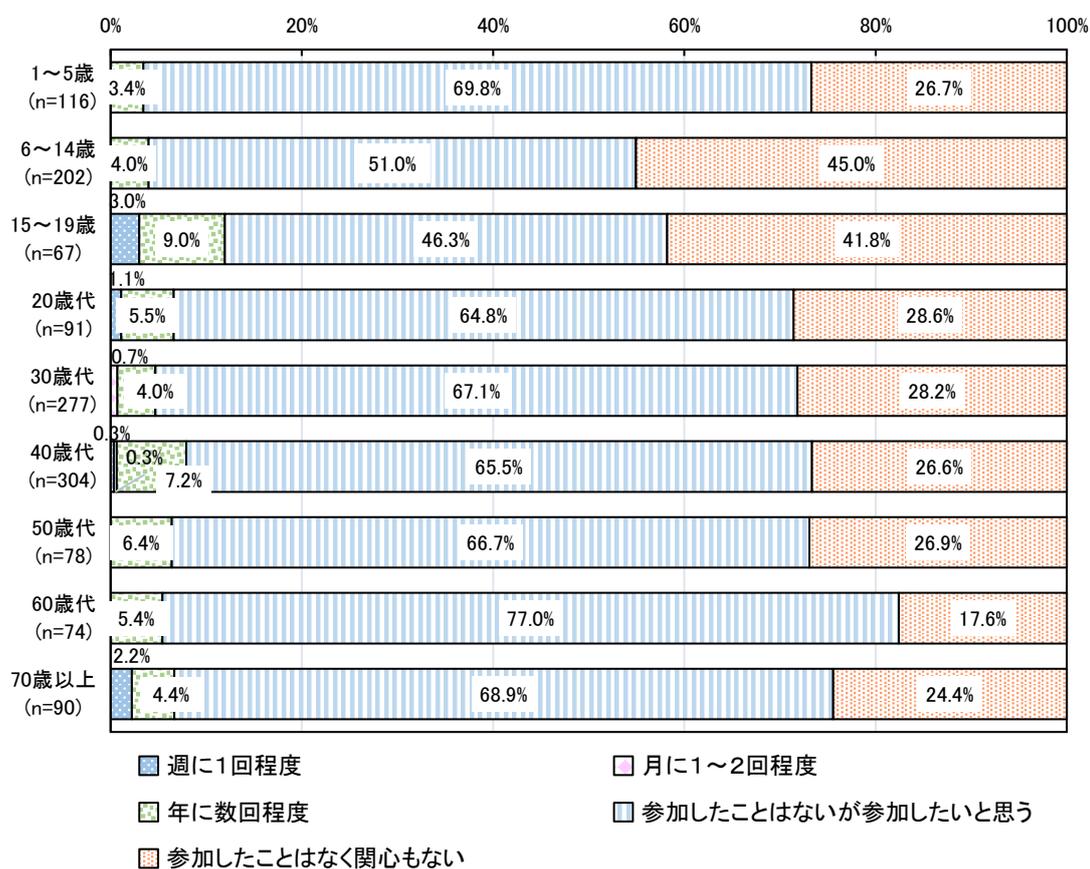


性・年齢別で見ると、『参加している』と回答した割合が高いのは、男女ともに15～19歳でいずれも1割を占める。

【1歳以上（男性）】

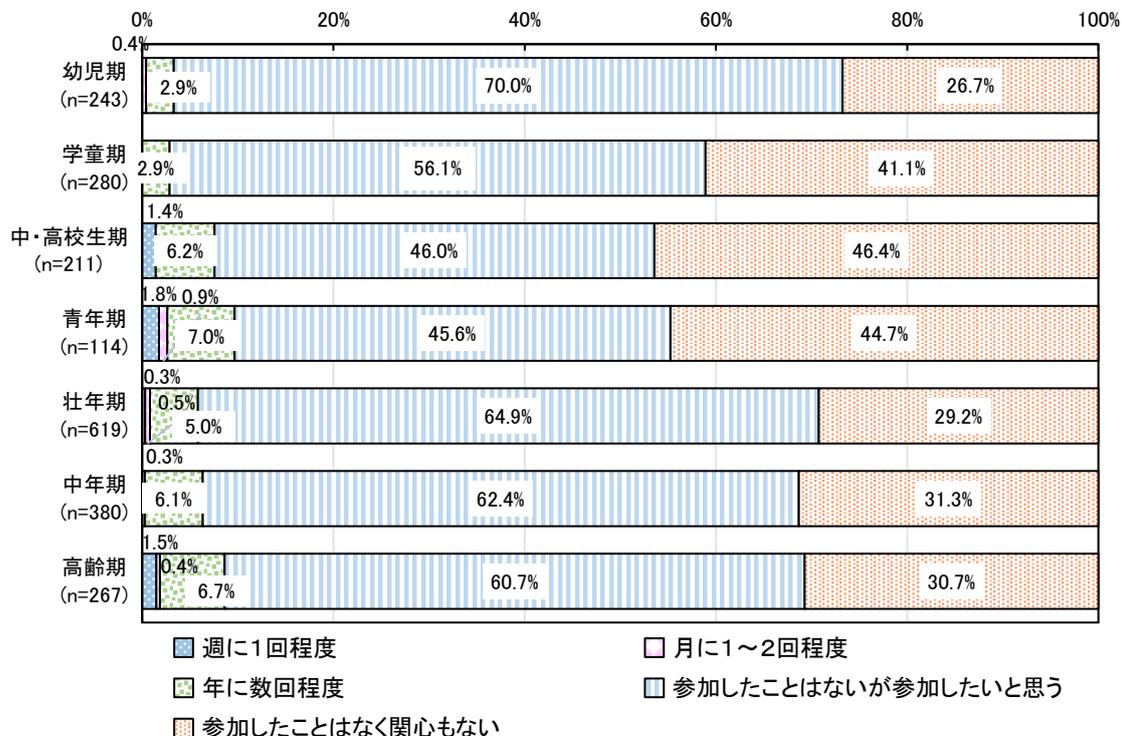


【1歳以上（女性）】



ライフステージ別で見ると、『参加している』と回答した割合は、いずれのライフステージでも1割以下となっている。幼児期、壮年期、中年期、高齢期では「参加したことはないが参加したいと思う」と回答した割合がいずれも6割以上を占める。

【1歳以上】



VII 調査結果 — 歯科保健 —

◎40 歳代で喪失歯のない者の増加

40 歳代で喪失歯のない人の割合は 74.1%となり、前回調査と比較して 2.6 ポイント上回ったが、目標にはわずか 0.9 ポイント届かなかった。

項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○40歳代で喪失歯のない者の増加	68.5%	69.2%	71.5%	74.1%	75%

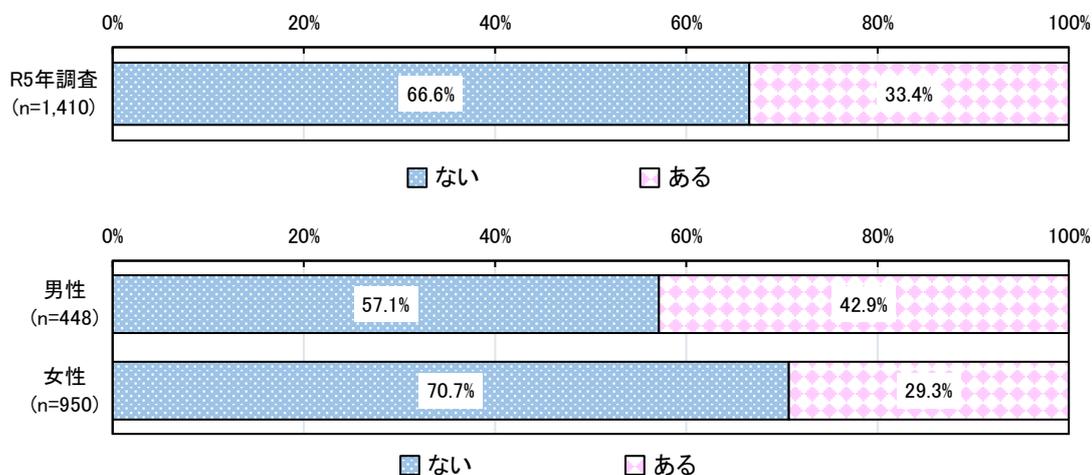
※40 歳代の回答者で「ない」を選択した人の割合

<調査結果>

■喪失歯の有無 〈15 歳以上〉

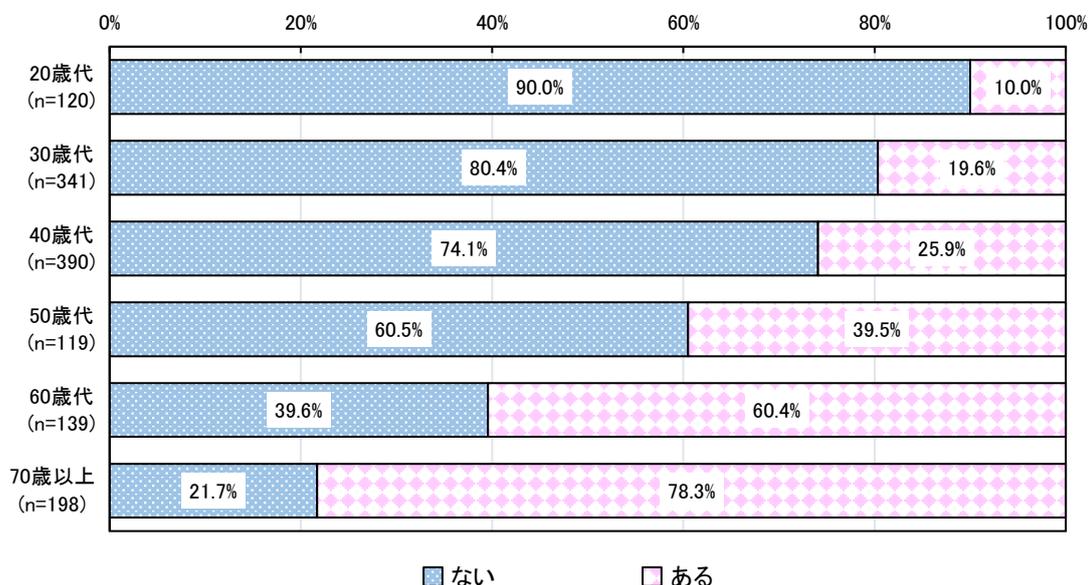
喪失歯の有無について、「ない」は 66.6%、「ある」は 33.4%となった。

性別でみると、「ない」と回答した割合は、男性が 57.1%、女性が 70.7%となり、女性が男性を 13.6 ポイント上回る。



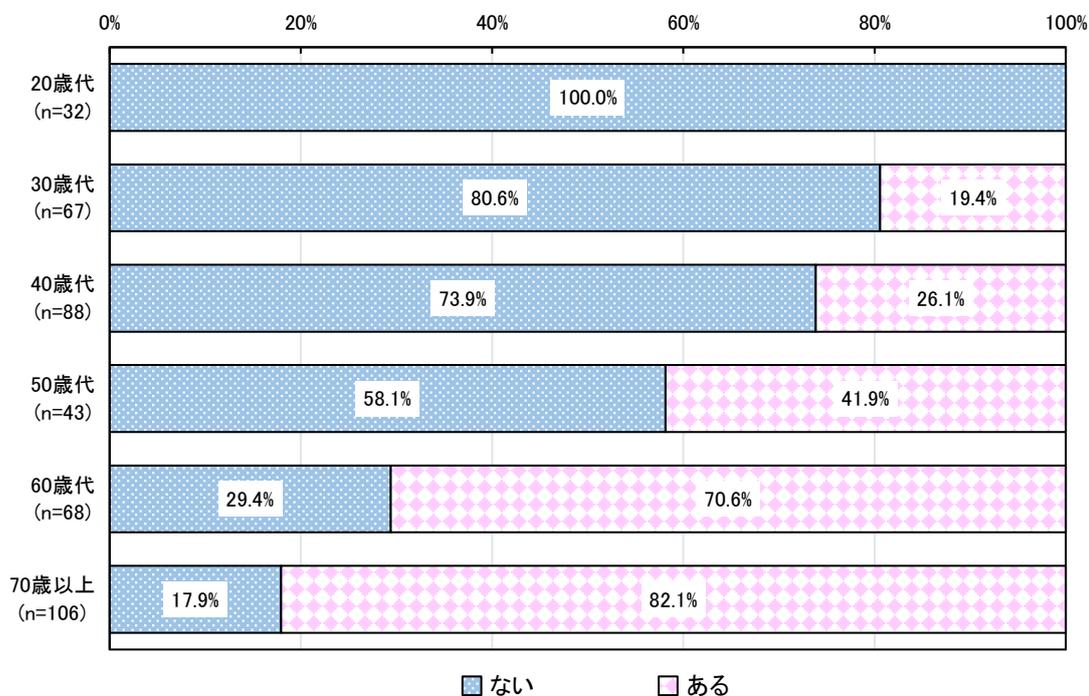
年齢別でみると、喪失歯が「ない」人は 20 歳代で 9 割を占めるが、年代が上がるにつれ低くなり、70 歳代以上は 2 割台に留まる。また、50 歳代から 60 歳代にかけて「ない」人の減少が最も高く 20.9 ポイント減少している。

【20 歳以上】

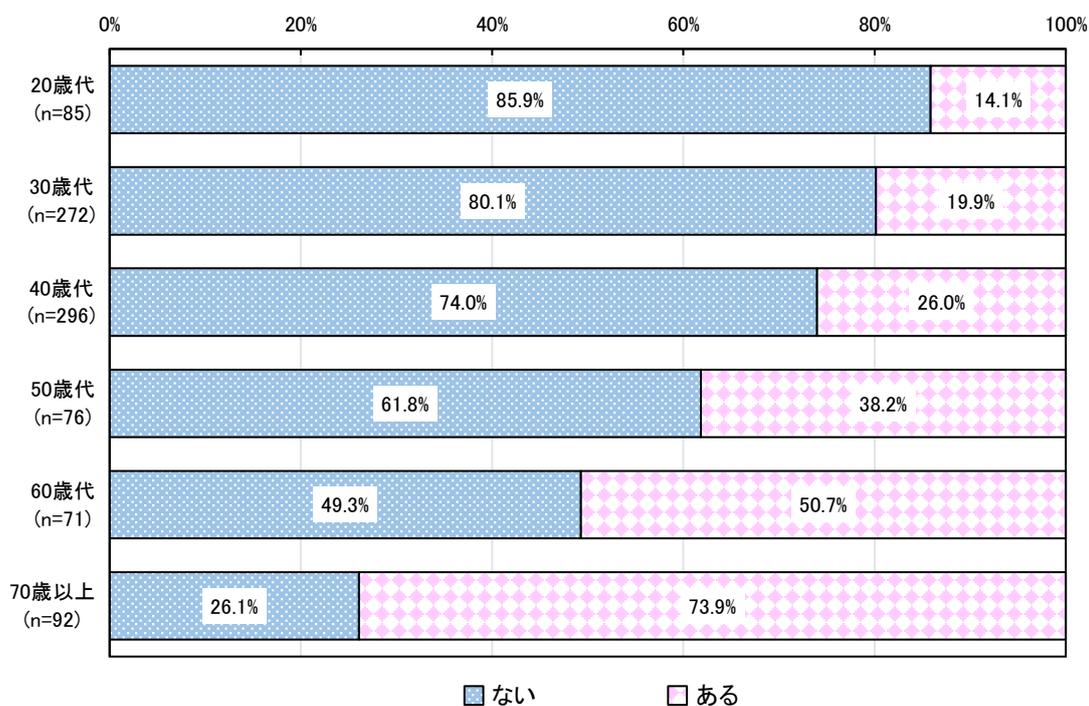


性・年齢別で見ると、喪失歯が「ない」人は男女ともに20歳代が最も高く、年代が上がるにつれ低くなる。「ない」人の割合が下がるのは、男性では50歳代から60歳代にかけて、女性では60歳代から70歳以上にかけて最も高く、いずれも20ポイント以上減少している。

【20歳以上（男性）】



【20歳以上（女性）】



◎60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加

60歳で24歯以上の歯を有する人の割合は71.6%となり、前回調査を4.5ポイント、目標を8.4ポイント下回る。

項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加	63.9%	68.2%	76.1%	71.6%	80%

※60歳～64歳の回答者で、歯の本数を24本以上と回答した人の割合

◎80歳で20歯以上の自分の歯を有する者（8020達成）の増加

80歳で20歯以上の歯を有する人の割合は、50.0%となり、前回調査と比較して12.0ポイント、目標を15.0ポイント下回る。

項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○80歳で20歯以上の自分の歯を有する者（8020達成）の増加	38.3%	54.5%	62.0%	50.0%	65%

※75歳～84歳の回答者で、歯の本数を20本以上と回答した人の割合

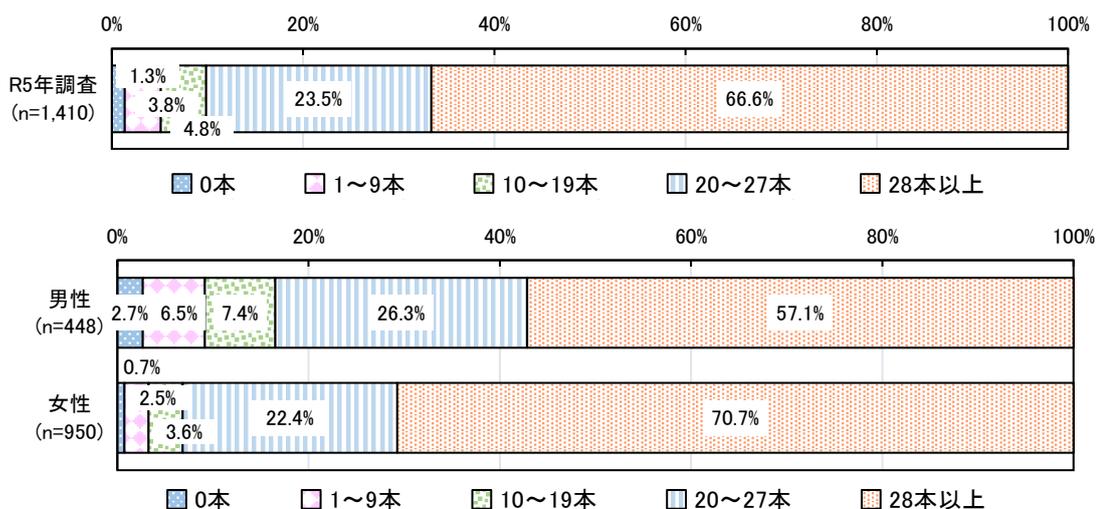
(国の調査対象年齢75～84歳)

<調査結果>

■現在の歯の本数 〈15歳以上〉

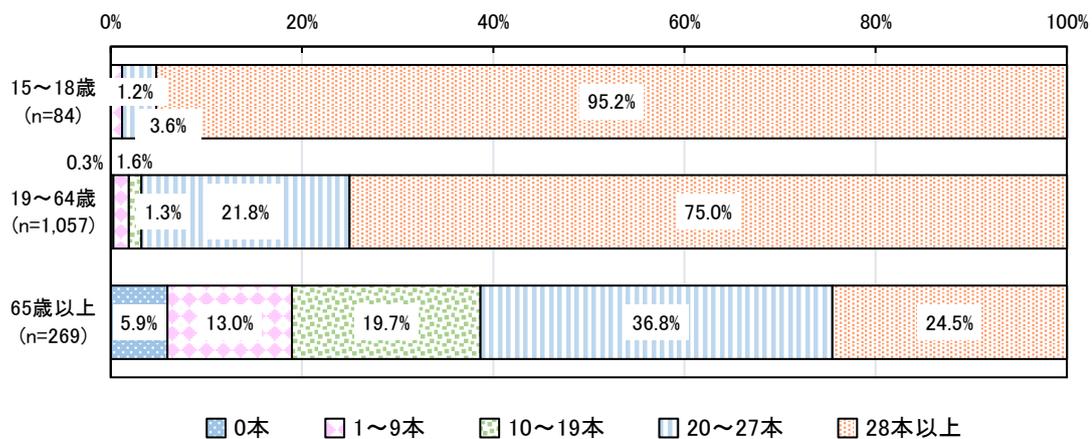
現在の歯の本数は、「28本以上」66.6%が最も高く、次いで「20～27本」23.5%、「10～19本」4.8%、「1～9本」3.8%、「0本」1.3%の順となった。

性別でみると、20本以上自分の歯を有する者の割合は、男性83.4%、女性93.1%となり、女性が男性を9.7ポイント上回る。



年齢別でみると、「28 本以上」の割合は、15～18 歳では 95.2%を占めるが、19～64 歳では 75.0%、65 歳以上では 24.5%と年齢区分が上がるにつれ低くなる。

【15 歳以上】



◎60 歳代における咀嚼良好者の増加

60 歳代における咀嚼の良好な人の割合は 77.0%で、前回調査を 2.0 ポイント、目標を 3.0 ポイント下回る。

項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○60歳代における咀嚼良好者の増加	51.6%	68.4%	79.0%	77.0%	80%

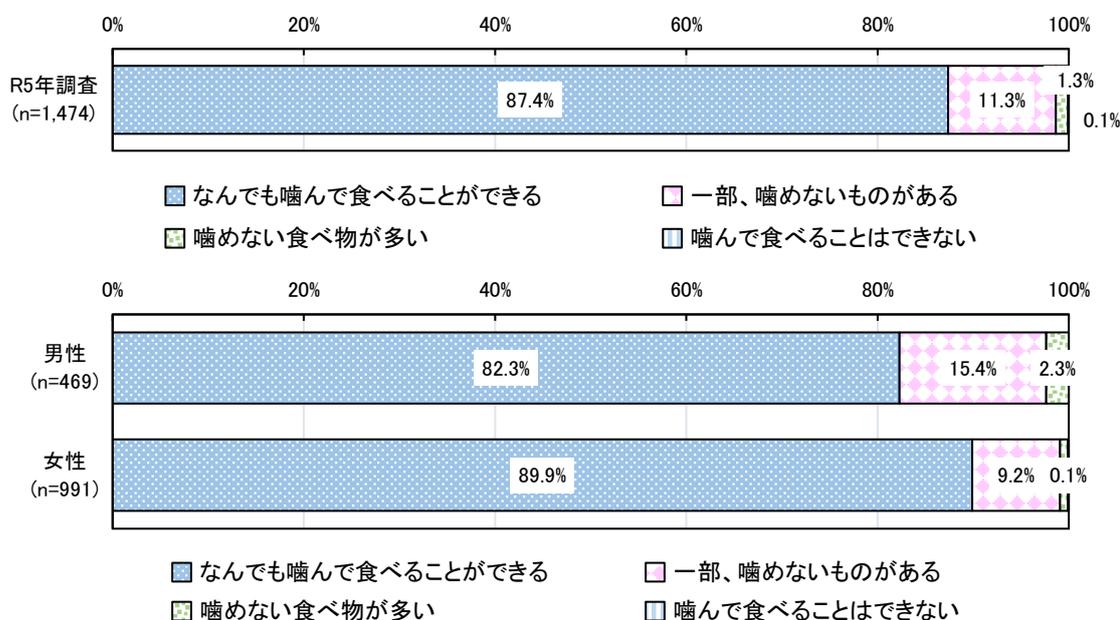
※60 歳代の回答者で、「できている」を選択した人の割合

<調査結果>

■咀嚼の状況 〈15 歳以上〉

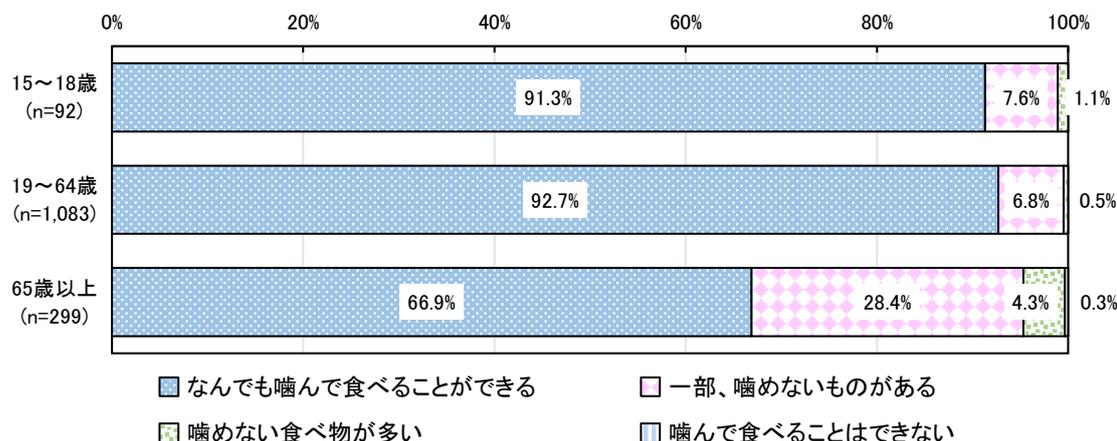
咀嚼の状況について、「なんでも噛んで食べることができる」87.4%が最も高く、次いで「一部、噛めないものがある」11.3%、「噛めない食べ物が多い」1.3%となった。「噛んで食べることはできない」全体のわずか0.1%であった。

性別でみると、「なんでも噛んで食べることができる」は、女性が男性を 7.6 ポイント上回る。



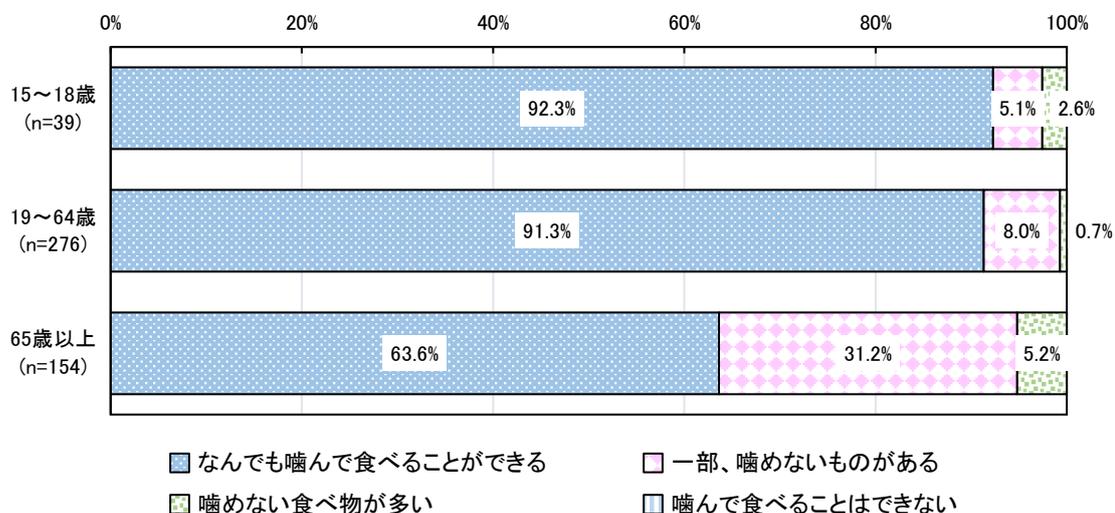
年齢別でみると、「なんでも噛んで食べることができる」は、15～18 歳、19～64 歳ではいずれも 9 割を超えているが、65 歳以上では 66.9%に留まる。

【15 歳以上】

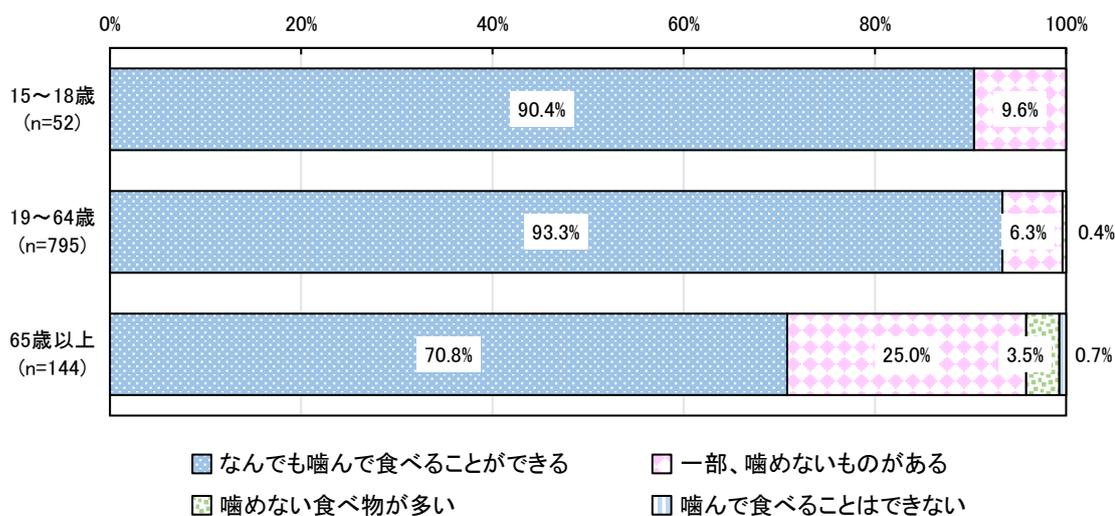


性・年齢別で見ると、「なんでも噛んで食べることができる」は、男女ともに15～18歳、19～64歳では9割を超えている。65歳以上では、「なんでも噛んで食べることができる」と回答した割合は、男性63.6%、女性70.8%に留まり、女性が男性を7.2ポイント上回る。

【15歳以上（男性）】



【15歳以上（女性）】



◎定期検診を受ける者の増加

定期健診を受ける人の割合は62.2%となり、前回調査と比較して6.6ポイント上回るが、目標には2.8ポイント届かなかった。

項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○定期検診を受ける者の増加	25.4%	48.0%	55.6%	62.2%	65%

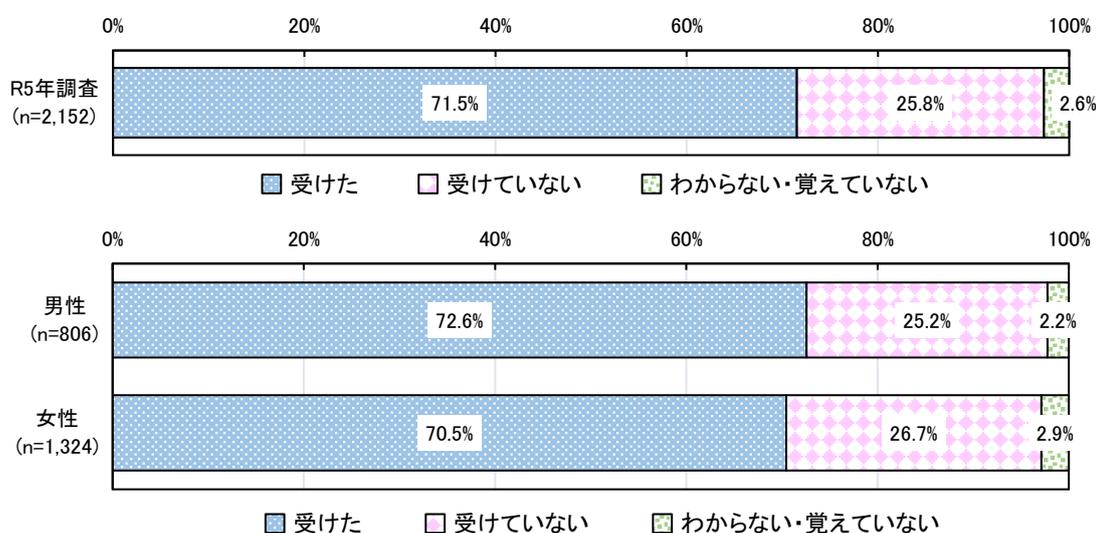
※20歳以上の回答者で、「受けた」を選択した人の割合

<調査結果>

■歯科検診の受診状況 〈1歳以上〉

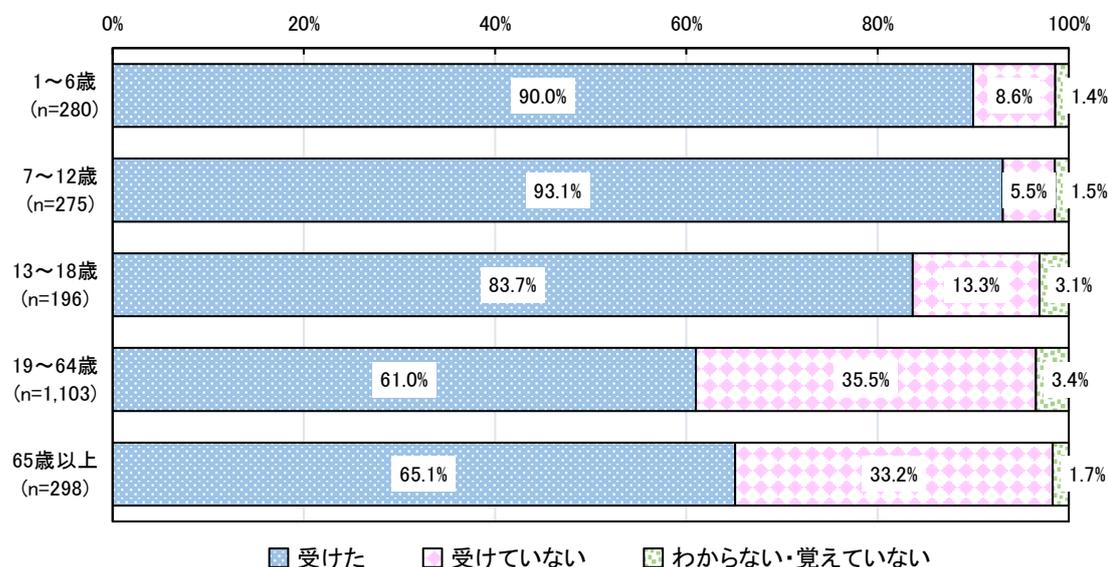
歯科検診の受診について、「受けた」71.5%、「受けていない」25.8%となった。

性別でみると、「受けた」と回答した割合は、男性72.6%、女性70.5%となり、男性が女性を2.1ポイント上回る。



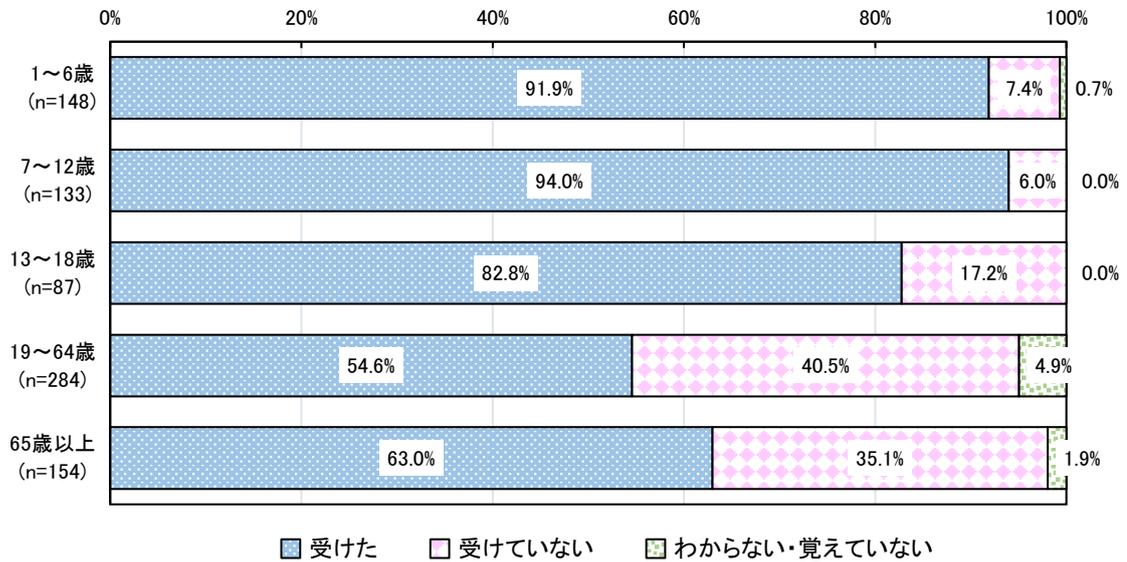
年齢別でみると、12歳以下では「受けた」と回答した割合は9割を超え、13～18歳でも8割を占める。19歳以上では「受けた」は6割台に留まる。

【1歳以上】

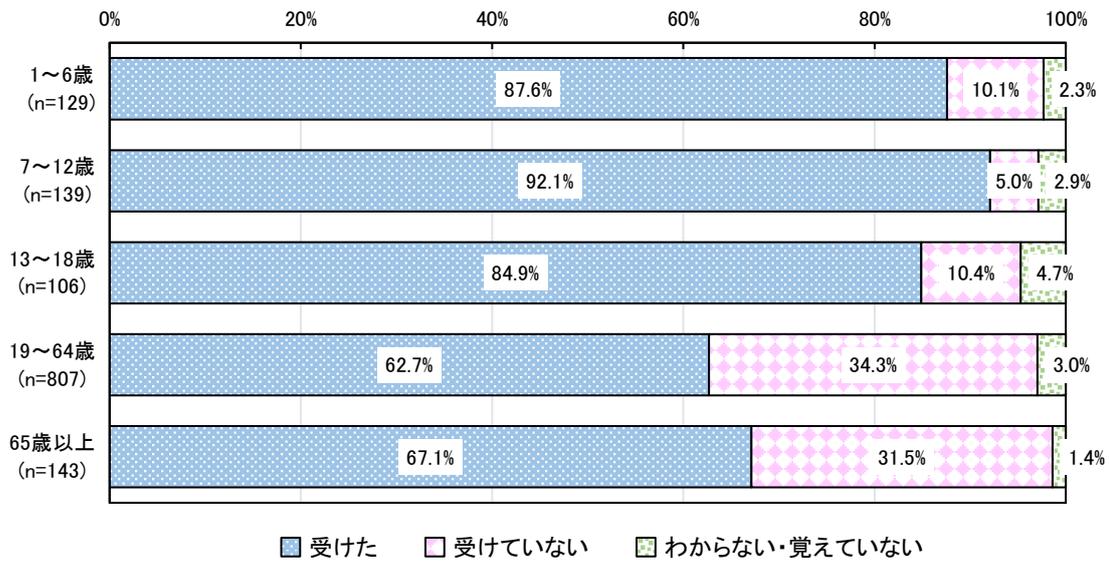


性・年齢別で見ると、男女ともに18歳以下では「受けた」が8割を超えている。19～64歳、65歳以上で「受けた」と回答した割合は5割から6割台となり、いずれも女性が男性を上回る。

【1歳以上（男性）】



【1歳以上（女性）】



◎口の健康と喫煙の関係について知っている者の増加

口の健康と喫煙の関係について知っている人の割合は61.5%となり、前回調査を6.7ポイント、目標を8.5ポイント下回る。

項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(R5年・実績)	(R5年・目標)
○口の健康と喫煙の関係について知っている者の増加	29.5%	64.2%	68.2%	61.5%	70%

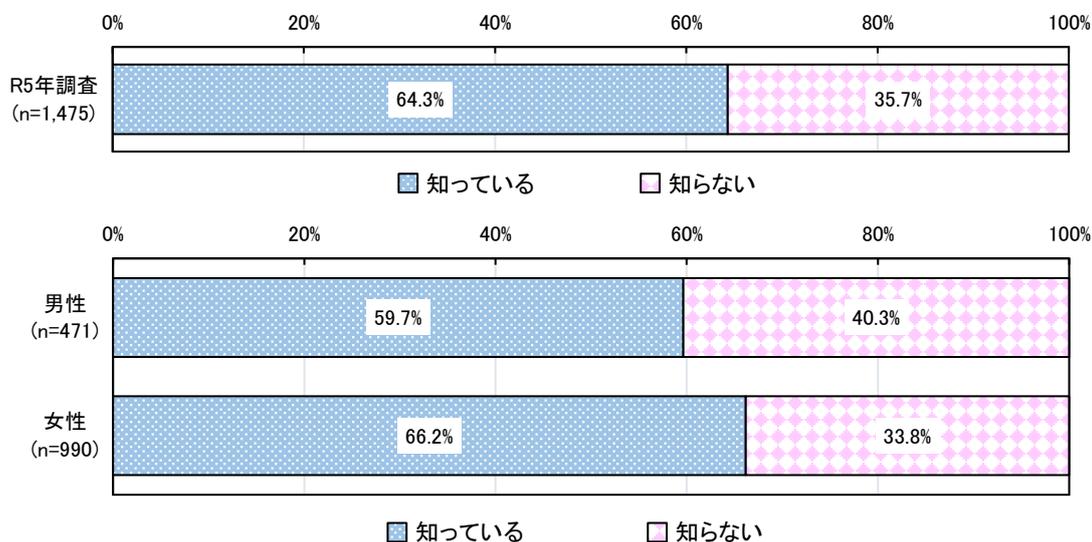
※40～69歳の回答者で、「1.知っている」を選択した人の割合

<調査結果>

■喫煙が歯周病を進行させる要因であることの認知度 〈15歳以上〉

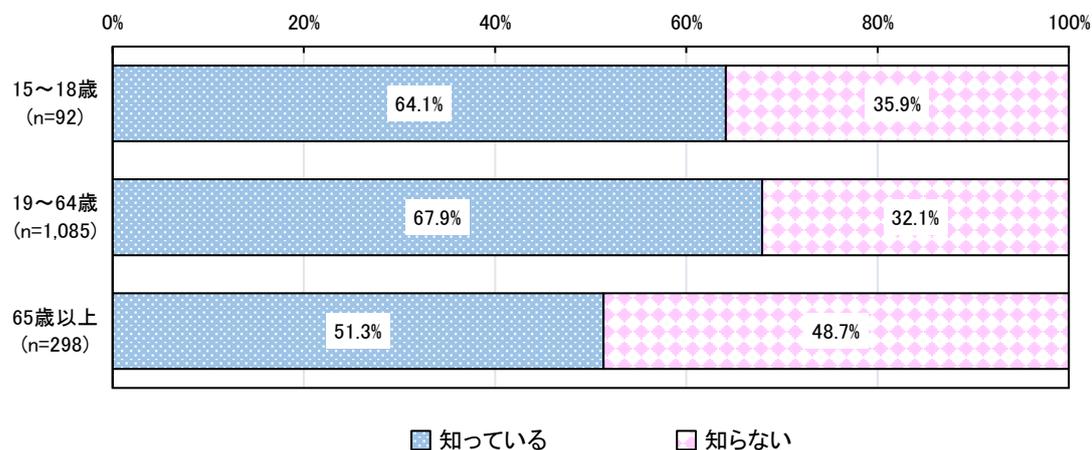
喫煙が歯周病を進行させる要因であることについて、「知っている」64.3%、「知らない」35.7%となった。

性別でみると、「知っている」と回答した割合は、女性が男性を6.5ポイント上回る。



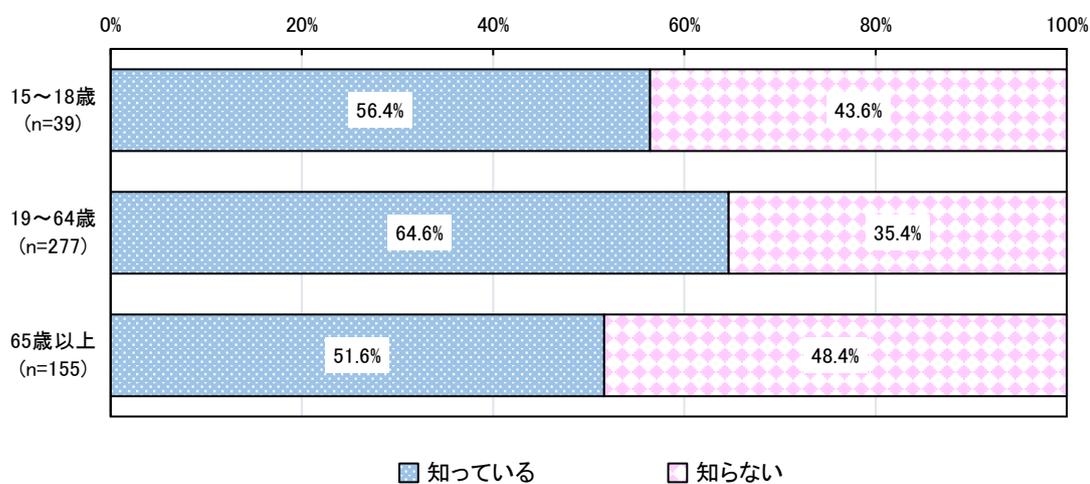
年齢別でみると、「知っている」と回答した割合は全ての年齢区分で半数を超え、19～64歳では67.9%を占める。65歳以上では「知っている」と回答した割合は、他の年齢区分と比較して低く51.3%となった。

【15歳以上】

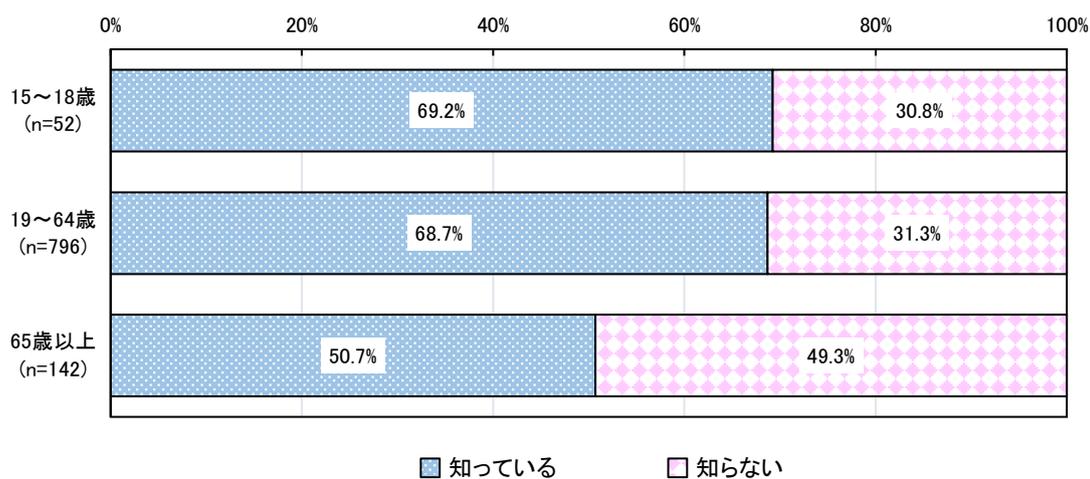


性・年齢別で見ると、「知っている」と回答した割合は、全ての年齢区分で半数を超えている。65歳以上では「知っている」は半数程度に留まり、他の年齢区分と比較して低い。

【15歳以上（男性）】



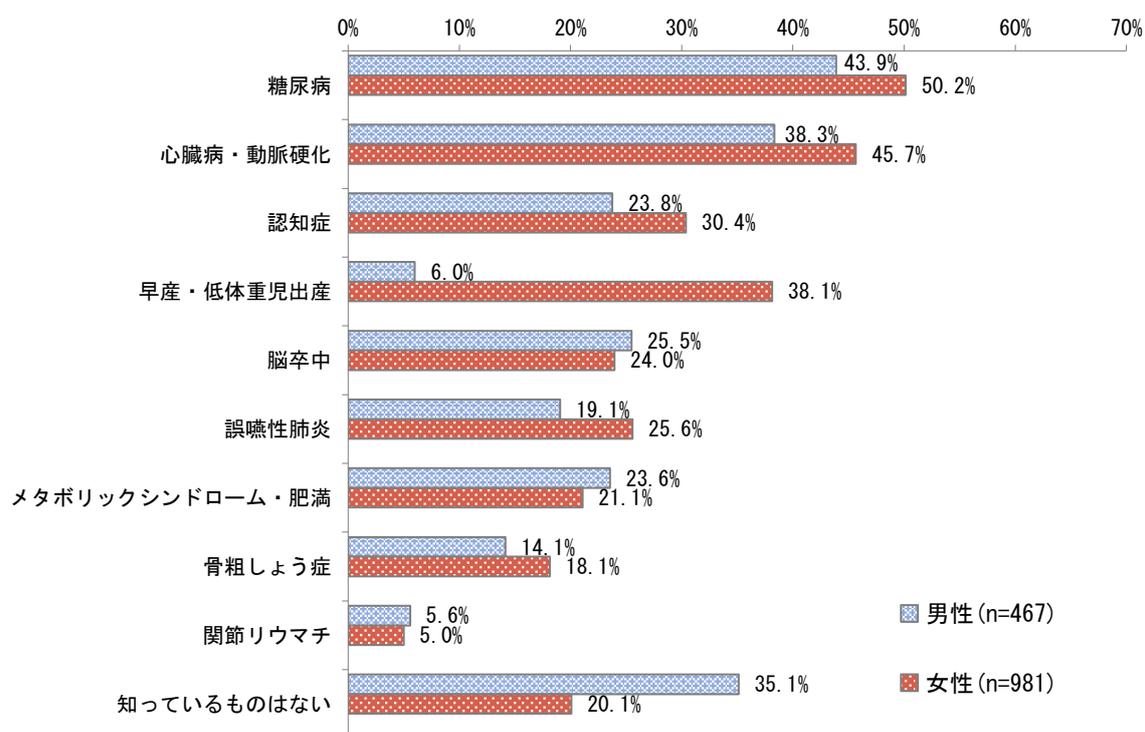
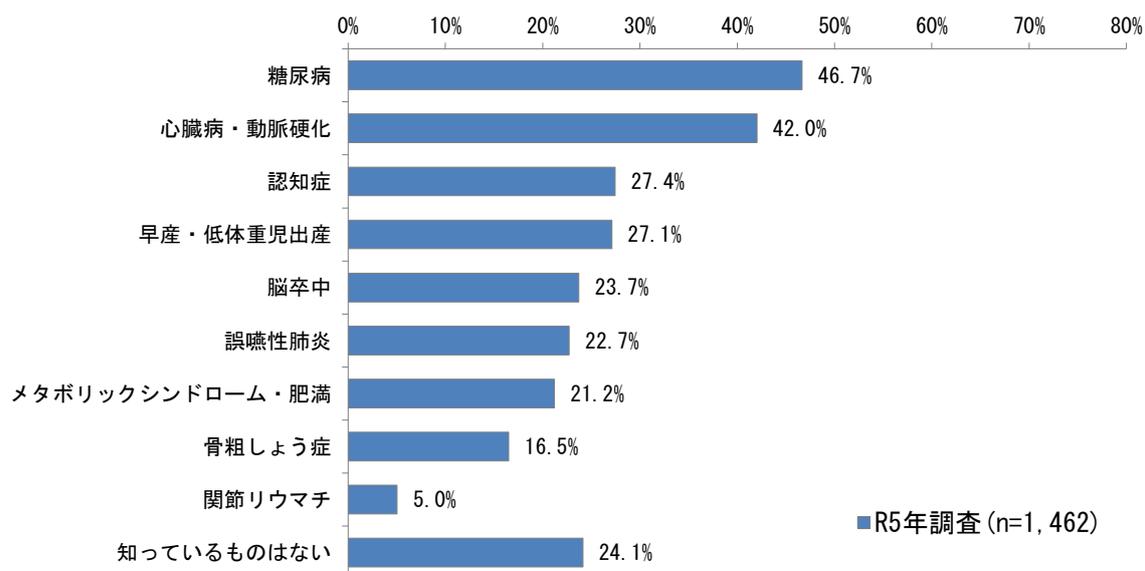
【15歳以上（女性）】



■歯周病と関係がある病気の認知度 〈15歳以上〉

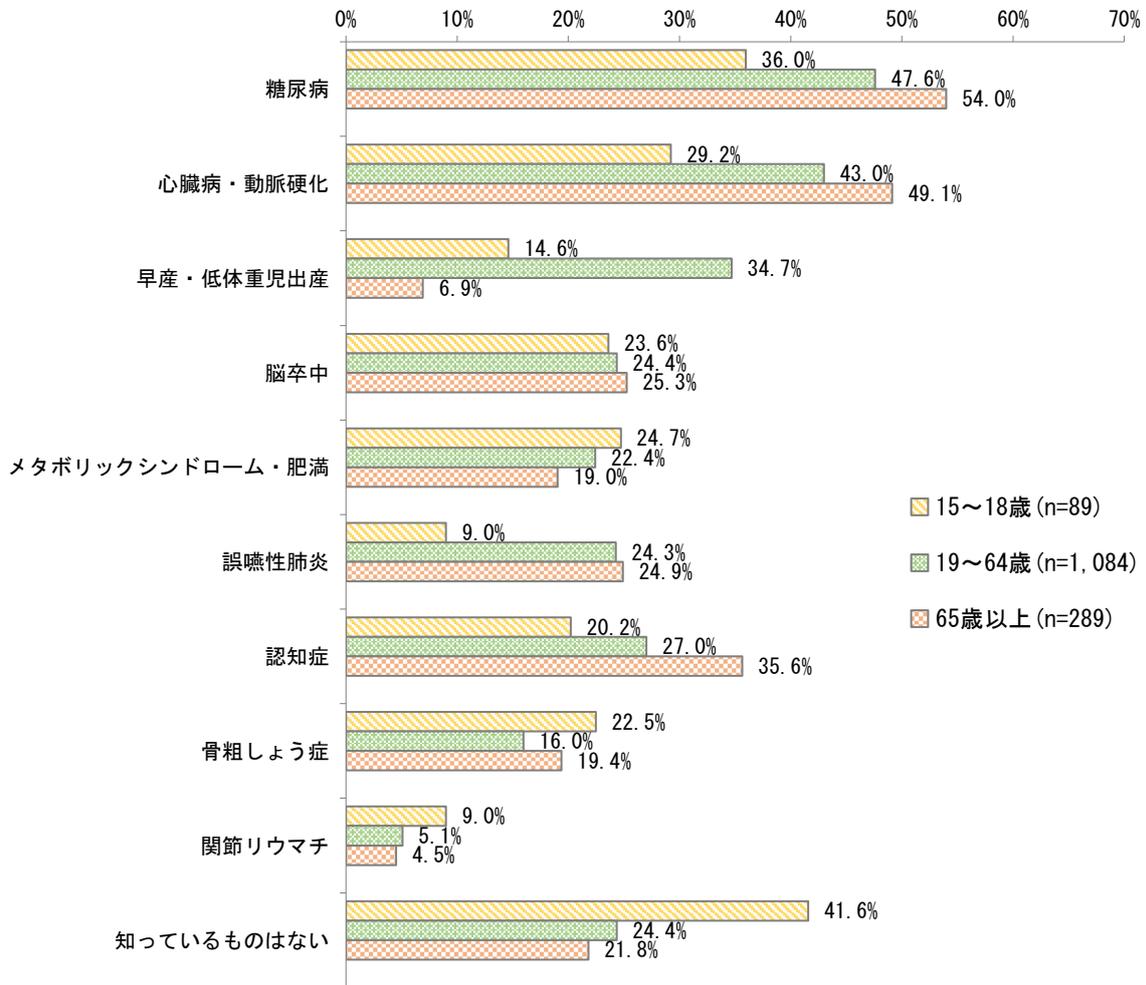
歯周病と関係がある病気として知っているものについて、「糖尿病」46.7%が最も高く、次いで「心臓病・動脈硬化」42.0%、「認知症」27.4%の順となった。一方で、「知っているものはない」と回答した割合は24.1%を占める。

性別でみると、男女ともに「糖尿病」の認知度が最も高く4割を超えている。「早産・低体重児出産」と回答した割合は、女性が男性を32.1ポイント上回る。一方、「知っているものはない」と回答した割合は男性が女性を15.0ポイント上回る。



年齢別でみると、15～18歳では「知っているものはない」と回答した割合が41.6%と他の年齢区分と比較して高い。一方、19～64歳、65歳以上では「糖尿病」と回答した割合が半数程度を占め最も高い。

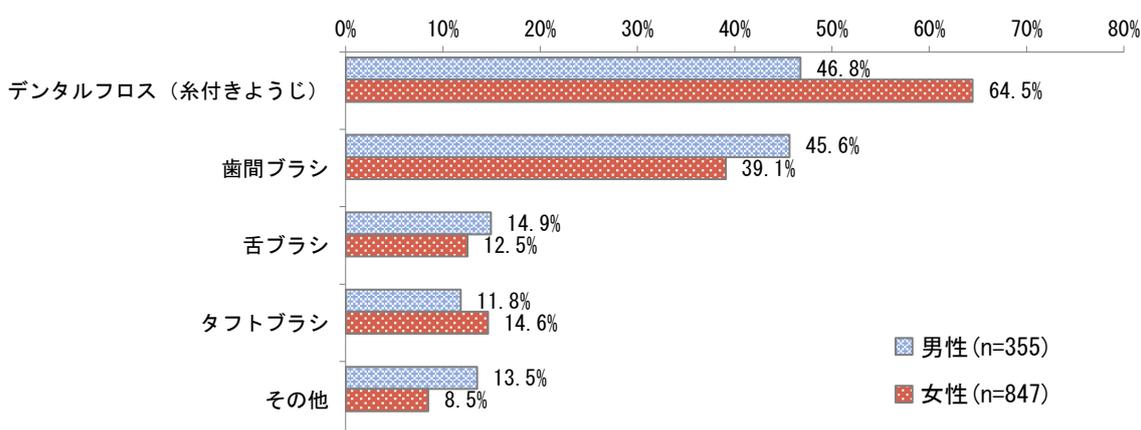
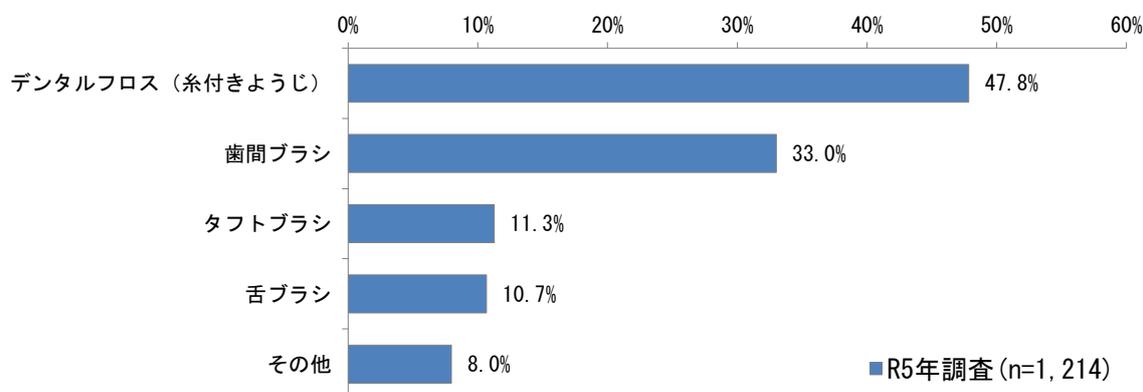
【15歳以上】



■歯ブラシに加えて使用している清掃用具 〈15歳以上〉

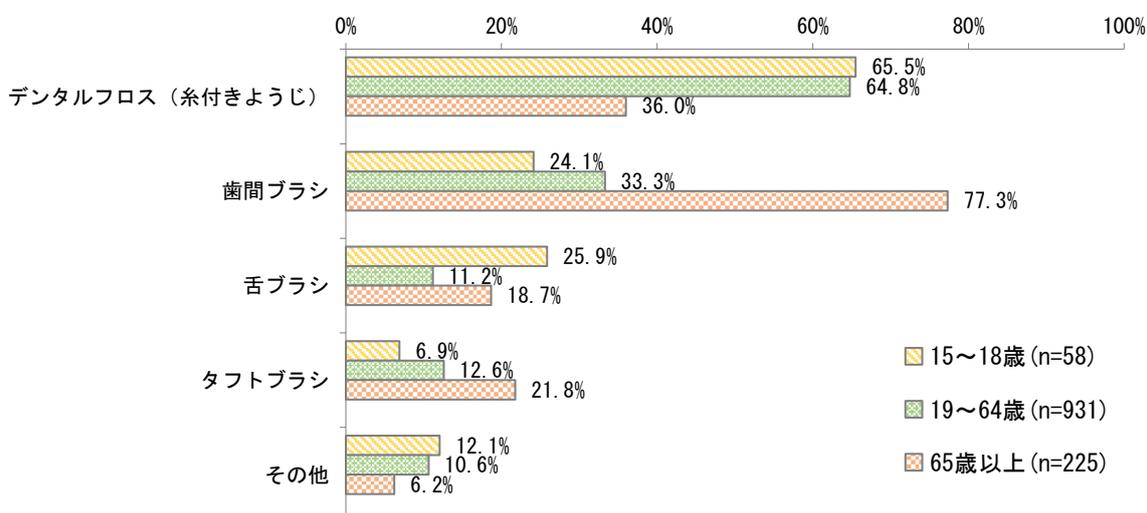
歯ブラシを用いた歯みがきに加え、週に1回以上使用している清掃用具については、「デンタルフロス（糸付きようじ）」47.8%が最も高く、次いで「歯間ブラシ」33.0%、「タフトブラシ」11.3%、「舌ブラシ」10.7%の順となった。

性別でみると、男性は「歯間ブラシ」が女性を6.5ポイント、女性は「デンタルフロス（糸付きようじ）」が男性を17.7ポイント上回る。



年齢別でみると、15～18歳、19～64歳ではいずれも「デンタルフロス（糸付きようじ）」の割合が最も高く6割を超えている。一方、65歳以上では「歯間ブラシ」77.3%が最も高い。

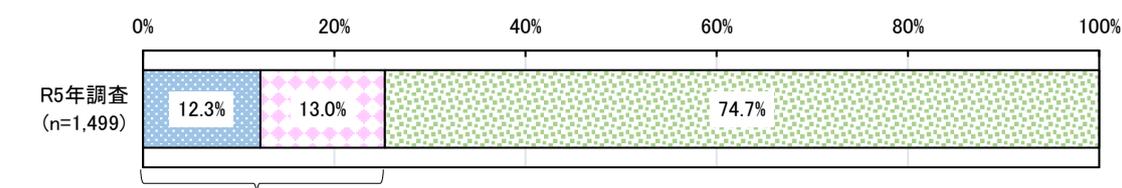
【15歳以上】



■ 「オーラルフレイル」の言葉と意味の認知度 〈15歳以上〉

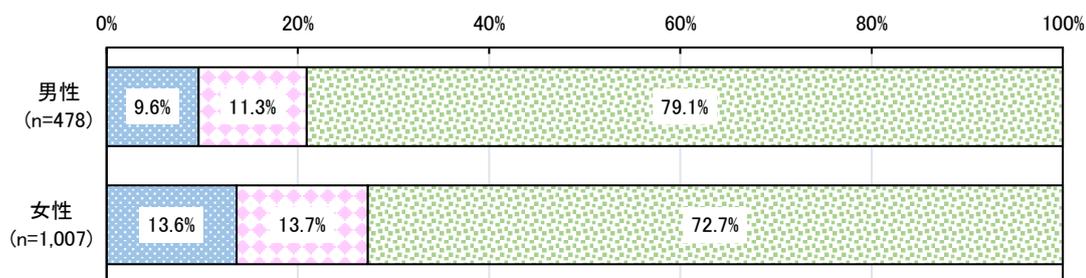
「オーラルフレイル」の言葉と意味の認知度について、「言葉も意味も知らない」74.7%が最も高く、次いで「言葉は知っていたが、意味は知らない」13.0%、「言葉も意味も知っている」12.3%の順となった。『知っている』（「言葉も意味も知っている」＋「言葉は知っていたが、意味は知らない」）人の割合は25.3%であった。

性別でみると、『知っている』人の割合は、男性20.9%、女性27.3%となり、女性が男性を6.4ポイント上回る。



『知っている』
 （「言葉も意味も知っている」＋「言葉は知っていたが、意味は知らない」）

■ 言葉も意味も知っている □ 言葉は知っていたが、意味は知らない ■ 言葉も意味も知らない



■ 言葉も意味も知っている □ 言葉は知っていたが、意味は知らない ■ 言葉も意味も知らない

年齢別でみると、『知っている』人の割合は、15～18歳では16.7%と低いですが、19～64歳では25.6%、65歳以上では26.8%と年齢区分が上がるにつれ高くなる。

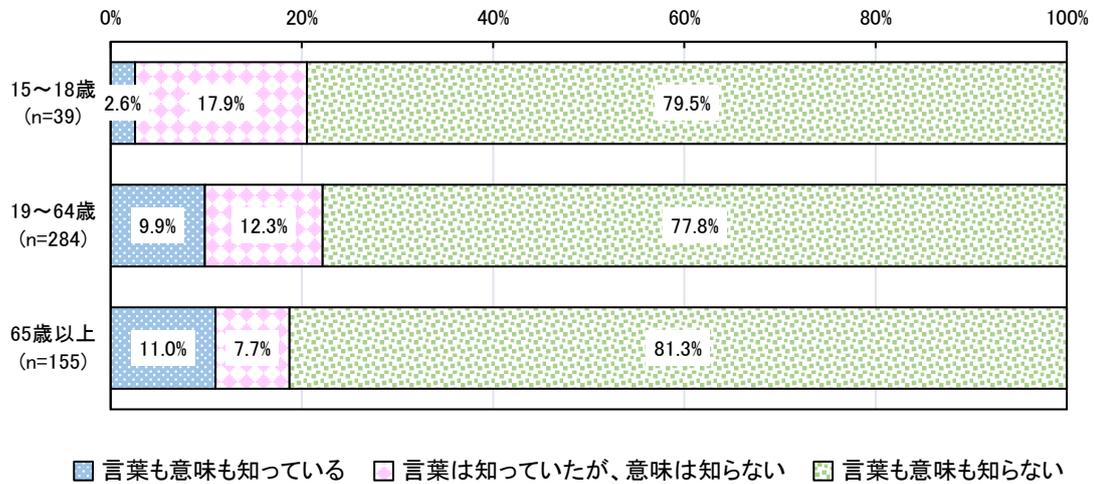
【15歳以上】



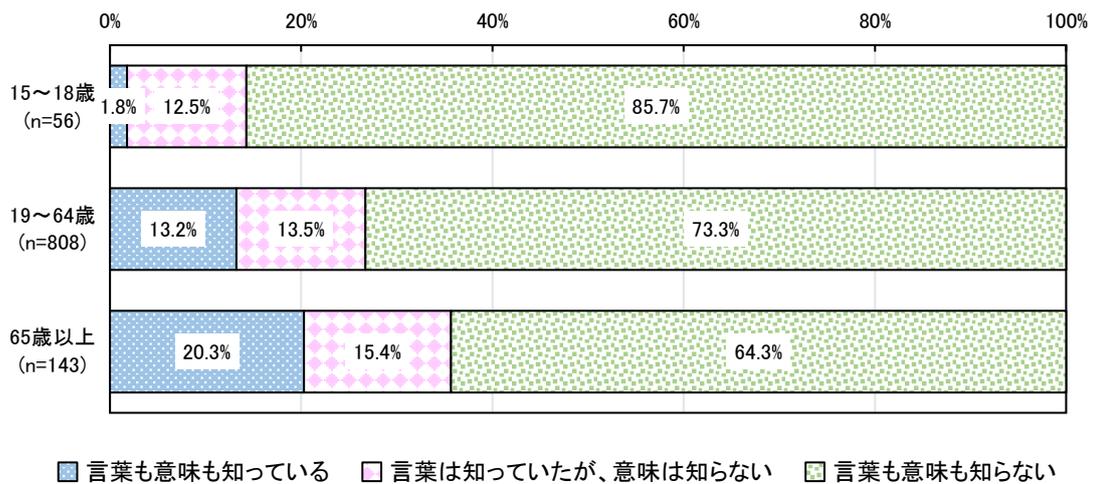
■ 言葉も意味も知っている □ 言葉は知っていたが、意味は知らない ■ 言葉も意味も知らない

性・年齢別でみると、『知っている』人の割合は、男性はいずれの年齢区分でも2割程度に留まる。女性は年齢区分が上がるにつれ、『知っている』人の割合が高くなり、65歳以上では35.7%を占める。

【15歳以上（男性）】



【15歳以上（女性）】



Ⅷ その他ご意見・自由回答

問 1	その他回答 【あなたの世帯構成は次のどれですか】		
	回答内容	年齢	性別
	寮	19	女性
	1世帯	46	女性
	知人	49	女性
	四世代	64	男性
	彼氏と同居	22	女性
	同居人	54	女性
	ホーム入居	無回答	男性
	姉妹	69	女性

問 7-2	その他回答 【朝食を食べない最も大きな理由は何ですか】		
	回答内容	年齢	性別
	起床が遅いので、朝昼兼用	49	女性
	トイレに行きたくなる可能性が高くなるから	44	男性
	朝起きてない時もある	23	女性
	昼に起きるから	19	女性
	夜食を食べるので空腹ではない	45	女性
	子どもの食べ残しがあるときだけ朝食にするため	34	女性
	健康的に体調管理している	50	女性
	昼食時間が会社で決まっていて、とても早い時間だから	39	女性
	朝食を摂るとお腹が緩くなり仕事に支障がでる	40	男性
	時間的に朝食と昼食併せての食事となる為	30	女性
	朝から仕事の為(家族とも一緒に食べれない)	無回答	無回答

問 8	その他回答 【あなたは、ふだんどのような朝食を食べることが多いですか】		
	回答内容	年齢	性別
	ヨーグルト	41	男性
	プロテイン	32	女性
	グラノーラ	38	女性
	シリアル	無回答	女性
	パンと牛乳	53	女性
	オートミール、果物、ヨーグルト	60	女性
	完全栄養食	36	男性
	そば	61	男性
	はちみつ、ナッツ類、ナチュラルチーズ、フルーツ類、ヤクルト、コーヒー	53	男性
	コーヒー、パン	76	女性
	パンにハムや卵をのせる、牛乳	85	女性
	パンとコーヒー	74	女性
	食するときはカップ麺系が多い	71	男性
	野菜ジュース、ハム、シリアル、ヨーグルト(鉄分、カルシウム)	80	男性
	ヨーグルト、青汁	66	女性
	フルグラ50g、ブラックコーヒー1杯	68	女性
	ヨーグルト、シリアル	45	女性
	コーヒー	32	女性
	もち	11	女性
	ごはん、パン・果物	5	女性
	プリン、ヨーグルト、ゼリー	9	女性

問 19	その他回答 【あなたが、「くまもとらしさ」を感じる料理や食材は何ですか】
------	--------------------------------------

回答内容	年齢	性別	回答内容	年齢	性別
馬刺し	76	女性	河内のみかん	32	男性
だご汁	66	男性	栗	49	男性
辛子蓮根	66	男性	自然の恵み	64	男性
トマト	82	男性	けんちん汁	18	男性
からしれんこん	66	男性	辛子蓮根	31	女性
馬肉	66	男性	ぐるぐる	52	男性
だんご汁	15	女性	米、野菜	37	女性
いきなり団子	66	女性	ご飯の友	48	男性
太平燕	72	男性	西瓜	61	男性
からし蓮根	66	男性	らくのうまザーズのカフェオレ	21	女性
馬刺	68	男性	車海老	37	男性
一文字のぐるぐる	75	男性	いきなり団子	53	女性
スイカ	75	男性	辛子れんこん	61	女性
タイビーエン	66	女性	甘みがある煮物や味噌汁	32	女性
いきなりだんご	65	男性	柑橘系	51	男性
米	82	女性	牛肉(赤牛)	23	女性
すいか	92	女性	黒米	33	男性
だごじる	38	女性	だご汁	27	女性
デコボン	75	女性	新鮮な食材の天草の魚と赤酒を使った煮付け料理	61	男性
ひとつじのぐるぐる	74	女性	トマト水	36	女性
野菜	81	女性	太平燕	38	女性
あか牛	20	女性	一文字ぐるぐる	45	女性
のっぺ汁	87	女性	からし蓮根など郷土料理が入ってる時	19	男性
れんこん	79	男性	だご汁(しょうゆ味限定)	59	男性
ひとつじぐるぐる	85	女性	いきなり団子がすき	18	女性
高菜	68	男性	野菜全般	15	男性
とまと	63	男性	雑煮	61	女性
ちゃんぽん	89	女性	ばさし	20	男性
団子汁	67	女性	御飯の友	51	男性
阿蘇高菜	73	男性	赤牛	30	男性
魚	69	男性	赤牛ステーキ	17	男性
みかん	71	男性	カレーのようなものにも、馬肉が使われていること	45	女性
からしれんこん	71	男性	赤酒	46	女性
高菜漬け	56	女性	あか牛のステーキ丼	62	女性
呉汁	62	女性	鮮魚	85	男性
馬肉料理	44	男性	人蔘	84	男性
なす	84	女性	旬の野菜	86	女性
蓮根	55	女性	熊本県全食材	81	男性
水前寺菜	33	男性	いなかの煮しめ	67	女性
水	20	男性	アスパラ	66	男性
だご汁	35	女性	桂花ラーメン	66	女性
熊本ラーメン	39	男性	スイカの皮の漬物	76	男性
あさり	88	女性	このしろ寿司	65	女性
のっぺい汁	73	女性	さつま芋の天ぷら	81	女性
高菜飯	51	女性	野菜炒め	80	男性
肥後牛	59	女性	葉野菜	71	女性
玉ねぎ	42	男性	きゃべつ	83	女性
季節の果物	45	女性	すず水	80	男性
長なす	60	女性	ひとつじ	65	女性
ちくわサラダ	24	男性	褐毛和種の牛肉	68	男性
ラーメン	16	男性	ねぎのぐるぐる	74	女性
たいぴいえん	17	男性	ひとつじのくるくる	78	女性
ゆべし	57	女性	きゅうり	82	女性
高菜漬け(油いため)	53	女性	お米はくまもんマークを購入	71	男性
南関あげ	48	女性	にしめ	88	女性
水田ごぼう	62	女性	ゴーヤチャンプル、肉じゃが	69	男性
阿蘇たかな	64	女性	阿蘇高菜漬け	76	女性
たかなめし	16	男性	高菜(阿蘇)	66	女性
このしろの姿寿司	62	女性	長茄子	84	女性
魚の塩焼き	20	男性	高菜漬けを使った料理	74	女性
魚や馬肉などを使う料理	23	女性	生姜料理いきなりだんご	88	男性
キャベツ	64	女性	巻きずし	78	女性
あさり貝	61	女性	煮しめ	95	男性
トマト料理	35	女性	豆だこ	78	男性
ナス、トマト	52	女性	肉めし(馬肉)	92	女性
いきなりだご	64	男性	からいもでサラダをつくります	70	女性
ナス	17	女性	辛子れんこん	65	男性
熊肉	18	男性	チャンボン	74	男性
がねあげ	23	男性	ひとつじのぐるぐる巻き	71	男性
お米	55	女性	肉料理	68	男性
馬料理	61	男性	メロン漬け	70	女性
トマトとスイカ	23	女性	野菜類	69	男性
			人もじのぐるぐる、いきなりだんご	57	男性
			昔、母が作っていたタケノコのひごずり(みそ合え)、いきなりだんご	80	女性

問 24-2	その他回答 【食の安全性確保のために、意識して実践していることはどんなことですか】		
回答内容		年齢	性別
中国産は避けている		60	女性
日本製にこだわっている		44	男性
キッチンリセット時、最後にもアルコール除菌する		無回答	女性
必要な野菜を切った後に肉魚を切つてすぐに消毒		37	女性
裏面の表示を必ず確認する		44	女性
ある国の食品は、購入しないようにしている		61	女性
中国産は使わない		30	男性
卵料理を作る際、卵を割った後に必ず手を洗う(カンピロバクターなどの予防)		22	男性
原材料含めなるべく国産のものを選び特に韓国産のものは絶対に購入しない		53	男性
中国産の食材をなるべく食べない		65	男性
化学調味料使用状況		77	男性
賞味期限を重視		84	男性
真空パックに入れ冷蔵庫に入れている		76	男性
生ごみの処分		70	女性
食材はほとんど生協の宅配を利用		71	女性
月一回皿等を塩素系漂白剤につけ、年に1回料理器具の交換		36	女性
野菜は自家栽培の無農薬の物を使う		無回答	無回答
食事するテーブルにも消毒をしてから使用する		40	女性
中国産のものは購入しない		38	女性
まな板や包丁は食材に応じてその都度洗剤で洗って使う		36	女性
添加物がないものを買っている		36	女性
傷まないようにまとめ買いの量を気を付けている		31	女性
生肉を切ったあとは毎回まな板と包丁を熱湯消毒、生肉を小分け冷凍する際は手袋を使用する		33	女性
常温放置された食材・ペットボトルを再利用しないことや封の開いた粉物を長期利用しないこと		42	女性
家庭菜園		44	女性
なるべく日本産にしている		38	女性

問 26	その他回答 【食品の安全性に関して、不安を感じるものは何ですか】		
回答内容		年齢	性別
調味料		60	男性
思い込み		57	女性
コオロギ		21	女性
韓国産の食品・加工品		53	男性
輸入先		85	男性
鳥インフルエンザ		65	女性
マイクロプラスチック		68	男性
海外プラスチック		無回答	無回答
食用コオロギ		40	女性
悪意による異物混入		39	男性
生産国		61	男性
外国の野菜、果物の残留農薬		61	女性

問 27	その他回答 【食品の安全性に関して、どんな時に不安を感じますか】		
回答内容		年齢	性別
生魚を食べるとき		19	男性
スーパーの試食や屋台の食堂を利用するとき		60	男性
気になったとき		57	女性
子供に食べさせるとき		55	女性
自宅冷蔵庫等から賞味期限切れの調味料を見つけたとき		31	女性
大量に食品添加物が使われているとき		44	女性
生物を食べるとき		18	男性
食材や料理に異物が付着しているとき		46	男性
調理者の健康状態が気になる		59	男性
産地偽装が発覚したとき		30	男性
コンビニを含め、韓国産の調味料・酒・菓子等がならんでいるとき		53	男性
納豆など国産大豆かどうか気になる		86	女性
子どもの食事を考える時		27	女性
関連するニュースをみたとき		47	女性
キッチンカーを利用するとき		30	女性
袋に入っていないパンやバイキング方式の料理を食べるとき		47	男性
しばらく放置したとき		38	男性
輸入品を購入するとき		38	女性

問 30-2	その他回答 【食品を購入する際、原材料等が表示されているうちの何を確認していますか】		
回答内容		年齢	性別
陳列場所の温度管理		56	女性
塩分量		61	女性
カロリー		46	男性

問 36	その他回答 【あなたは、飲食店や食品販売店などがHACCPを実施していることを消費者に伝える手段として、効果的だと思うものはどれですか】		
回答内容		年齢	性別
チラシ、イベント時のポスター等に記載する		53	女性
外部監査が義務化されてなければどれも意味をなさない		36	男性
チラシを配ったり、市報に入れたりする		23	男性
義務なのであれば、積極的に消費者に伝える必要はないのでは		40	女性
CMやウェブ広告		27	男性
TVCMおよび動画サイトを利用する		46	男性
取組を飲食店や自治体がSNSで発信		41	男性
ネットで飲食店を検索するので、その際に画面に表示されるとわかりやすい		36	女性
どれも効果的ではないと思うので立ち入り検査などを行いそれを公開する		40	女性
LINE		43	男性
スパイスやリビングでHACCP自体をまず周知した方が良いと思う		38	女性
SNS発信		34	女性
HACCPの意味を分かりやすく書いたステッカーにした方がよいと思う		42	女性
ニュースで流す		39	女性
HACCP自体が周知されていないと思うので、十分に周知をした後に情報発信をするべき		43	男性
メリットを感じる発信をするべき		33	男性
地域の新聞やローカル新聞などに特集したり、学生とコラボして広報する		42	女性
HACCPの認知度をまずしっかり上げる事(周知する)		39	女性

問 37	その他回答 【あなたは、食生活や食品に関してどのような情報が欲しいですか】		
回答内容		年齢	性別
原産国		59	男性
保存方法や良い食材の見分け方		27	女性
体重、生活習慣病への影響		33	男性
食中毒など被害を受けた時の症状や対処法、連絡先など		42	女性
身体によくない食品添加物の種類と、どのような食品の代替品としてその成分が使われているか		44	女性
献立が一番欲しい		42	女性

問 39	その他回答 【あなたは、食に関する情報をどこから入手していますか。よく入手する情報源を選んでください】		
回答内容		年齢	性別
職場		42	女性
学校		28	無回答
学校の授業		15	女性
家庭科の授業		16	女性
自己学習		26	男性
仕事		25	女性
生協		71	女性
グリーンコープ、ワタミ		86	女性
サプリ会社の情報紙		50	女性
保育園		33	女性
病院の待合室の掲示		50	女性

問 45	その他回答 【あなたは、歯ブラシを用いた歯みがきに加えて、次の清掃用具を使用していますか】		
回答内容		年齢	性別
マウスウォッシュ		49	女性
爪楊枝		76	男性
電動歯ブラシ		91	男性
フロス		48	女性
リステリン		18	男性
ウォーターフロス		55	男性
入れ歯専用タフデント		82	女性
糸		79	女性
リステリントータルケア		75	女性
洗口液		35	男性
マウスウォッシュ		33	女性

問 47-2-1	その他回答 【がん検診をどこで受診しましたか:肺がん検診】		
回答内容		年齢	性別
保険適用で検査		57	女性
2カ月に1回受診		74	男性
扶養家族健診		44	女性

問 47-2-2	その他回答 【がん検診をどこで受診しましたか:胃がん検診】		
回答内容		年齢	性別
保険適用で検査		57	女性
老人ホームの医療機関で		89	女性

問 47-2-3	その他回答 【がん検診をどこで受診しましたか:大腸がん検診】		
回答内容		年齢	性別
老人ホームの医療機関で		89	2

問 47-2-4	その他回答 【がん検診をどこで受診しましたか:乳がん検診】		
回答内容		年齢	性別
保険適用で検査		57	女性
扶養家族健診		44	女性

問 47-2-5	その他回答 【がん検診をどこで受診しましたか:子宮頸がん検診】		
回答内容		年齢	性別
妊婦健診		34	女性
保険適用で検査		57	女性
妊婦検診		37	女性
定期検診		30	女性
妊婦検診にて		31	女性
妊婦健診内		37	女性
出産時		29	女性
扶養家族健診		44	女性

問 47-2-6	検診名 【がん検診をどこで受診しましたか:その他の検診】		
回答内容		年齢	性別
前立腺がん		82	男性
CT		61	女性
子宮体癌検診		48	女性
泌尿器科		85	男性
卵巣癌		38	女性

問 47-2-6	その他回答 【がん検診をどこで受診しましたか:その他の検診】		
回答内容		年齢	性別
定期的に6ヶ月ごとに検診		61	女性

問 47-3	その他回答 【過去1年間(乳がん・子宮頸がんは過去2年間)にがん検診を受診しなかった理由】		
回答内容		年齢	性別
コロナ		72	男性
知的障害があるため		24	男性
2年に一度市の検診があるから		55	女性
新型コロナが気になって		56	女性
人間ドッグを18ヶ月おきに行っており、その際がん診断も行っているため		63	女性
他の病気でCTやMRIを40ヶ月ごとに撮るから、他の検診までしたくない		46	女性
コロナ禍だったから		57	女性
高齢者がいるため家をあげられない		64	女性
人間ドッグを受けたため		44	男性
コロナ流行の為		64	女性
がんである事のデメリットが今のところ無いから		31	女性
コロナ濃厚接触者のため受診できなかった		53	女性
肺のX線写真は健康診断で「毎年」撮っている		46	男性
毎年人間ドッグを受けているから		39	男性
会社の健康診断を受けているから		42	男性
一年おきに受ける予定		65	女性
毎年は受けていない		74	女性
1年4か月前に検診を受けたから次回は2年後で受けようと思っている		70	女性
血液透析治療中のため		74	男性
コロナで病院には行きませんでした		68	男性
他のがんのため3か月ごとに検診に行っている		78	男性
仕事の都合により残務整理に時間を要したため		71	女性
職場で健康診断を受けている		68	女性
通院中で定期検査しているため		71	男性
2年以内であれば胃、大腸		69	男性
毎月、かかりつけの病院で担当医の問診を受けている		70	男性
職場の定期検診を育休期間中で受けられなかった		27	女性
産前、産後だったから		40	女性
約7年前より膵臓・甲状腺・肺の疾患、1年前より泌尿器疾患・脳疾患で外来フォロー中のため、その他の検診はおろそかになってしまいました(病院通いはうんざりです)		76	女性

問 48	その他回答 【あなたは熊本市のがん検診の自己負担割合はどのくらいが適切だと思いますか】		
回答内容		年齢	性別
現状で良い		45	女性
現行のまま		70	男性
10割		70	男性
公費負担はしなくてもよい		66	男性
今まで通りで良い		84	男性
年齢により5年おきに無料		65	男性
半分		36	女性
出来れば無料が良いが不可能なら1~3割		38	女性
財政に応じた額		38	男性

問 51	その他回答 【受動喫煙をなくすための対策として、あなたが最も重要(必要)と思うものはどれですか】		
回答内容		年齢	性別
	値上げ	59	男性
	税額のアップ	61	男性
	煙草の製造・販売を禁止する	31	女性
	喫煙者は高額納税者になると思うので、喫煙を勧めようとは思わない	35	女性
	個人の自由	23	女性
	受動喫煙を無くすのは不可能だと思いますが、強いて言うならたばこ販売を止める	46	男性
	なぜたばこを販売しているのかが疑問	71	女性
	販売禁止にすれば良い	77	男性
	そのような場所に行かない	42	女性
	たばこを無くすこと	37	男性
	喫煙者のマナー向上	27	女性
	たばこを売らない作らない	47	女性
	タバコの値段を徐々にではなく、一気に2倍程度上げたり、分煙の徹底	41	男性
	たばこを売らない	35	女性
	タバコを製造販売しない	47	女性
	受動喫煙による健康被害を周知	31	女性
	ストレスフリーな社会	41	女性

問 53	その他回答 【禁煙を支援する取組として、あなたが最も重要(必要)と思うものはどれですか】		
回答内容		年齢	性別
	たばこを売らない	37	2
	禁煙をしたいと思うきっかけになる取組み	28	2
	値上げ・購入を面倒に感じる仕組み	40	2
	本人の意識向上と周囲の協力	56	2
	たばこを千円以上にする	64	2
	自分がやめたいという強い意志	44	1
	禁煙するという強い気持ち	61	1
	タバコが買えない社会	55	2
	がんや脳卒中などの病気を患うことなど喫煙のリスクを周知する	36	1
	本人の意識	51	1
	売らない	52	2
	自分の意志	61	1
	家族からの説得	64	1
	法律で取締り罰則規定を設ける	63	1
	ストレスのない社会	21	2
	家族の支援	27	1
	健康保険料の引上げ、生命保険料の引上げ	51	2
	飲食店敷地内の喫煙禁止・職場敷地内での喫煙禁止もしくは、禁煙相談窓口設置	54	1
	個人の意志	56	2
	本人の自覚	61	1
	たばこによる害の周知	46	1
	禁煙は本人ではできないので、学校施設などで子供に教える	36	2
	喫煙スペース以外での取締の強化・罰則	41	1
	喫煙所の有料化、喫煙所以外での喫煙の罰金	19	1
	たばこの販売禁止	59	1
	タバコの販売を無くす	34	2
	タバコ税を上げる	50	1
	喫煙者の自覚	71	2
	禁煙パイポの無料または安価での配布	68	1
	法律で違法にする	66	1
	禁煙施設の増加	77	1
	販売価格をアメリカと同じくらいにする	72	1

問 53	その他回答 (続き)	【禁煙を支援する取組として、あなたが最も重要(必要)と思うものは どれですか】	
回答内容		年齢	性別
本人の決断以外にない		76	1
本人の努力を促す		78	2
タバコを販売しない		77	1
なぜ良くないタバコを販売するのか		83	1
禁煙治療の周知		74	1
健康に関する影響をもっと周知すること		37	2
禁煙外来専門の病院を作る		42	2
たばこへの増税		37	2
たばこの値上げ		37	2
たばこの増税を行い、買えなくするべき		38	2
たばこの増税		37	2
たばこをなくすこと		37	1
たばこを売らない作らない		47	2
たばこ税の増税		56	1
たばこ税の増額、1箱千円とかすると止めると思う		42	2
喫煙での体への影響を早期から周知させること(子供への教育的な面で)		35	2
小中学校での教育、喫煙に頼らない生活、ストレス解消法について早期教育する		38	2
値段を高くする		36	2
喫煙の悪影響の周知、たばこ税増税		41	2
タバコを無くせばよい		32	1
CM		44	2
禁煙する事でメリット享受できる仕組み作り(ポイント、クーポン発行等)		45	1
たばこ税の大幅増税		40	1
タバコの値上げ		32	2
家族の協力、もっと値段を高くする		30	2
ストレスの原因の除去		32	1
喫煙することでの体への害を伝える		38	2
たばこ代をもっと高くする		46	2
法律の問題		43	2
タバコ税の増税		46	1

問 60-2	その他回答	【新型コロナウイルス感染症の流行前と現在で、あなたの健康状態や健康行動にどのような変化がありましたか】	
回答内容		年齢	性別
	運動量が増えた	無回答	無回答
	体調が悪くなった	38	女性
	病気になった	62	男性
	室内運動から室外運動に変更した	45	男性
	消毒等をするようになった	15	女性
	人が多いところを避ける、マスクの着用をするようになった	23	女性
	マスク・手の消毒	64	男性
	誰とも会わないから自分磨きに拍車がかかり最高に健康に過ごせた	18	男性
	自宅で運動するようになった	32	女性
	手洗いうがいをしっかりするようになった	19	女性
	マスク着用、手指消毒をするようになった	54	男性
	コロナ後遺症	56	男性
	手指消毒を心がけるようになった	19	女性
	マスクで肌が荒れた	22	女性
	消毒をよくするようになった	40	女性
	動く量が減ったので、何かしら運動をするように努力をした	45	女性
	マスクをせずに快適になった	39	男性
	ワクチンを打った方の左腕が、一年過ぎた今でも右のように上は上がらない	72	女性
	味覚・嗅覚が衰えた	80	男性
	体重が減りすぎてきつい	80	女性
	糖尿病Ⅰ型になった	40	女性
	風邪をひかなくなった	37	女性
	5類になってからは、外出する頻度は増えた	37	女性
	病気になり休職した(コロナワクチンの後遺症)	38	女性
	コロナワクチン接種後、慢性じんましんが出ている	37	女性
	衛生観念の変化、手洗いうがい手指消毒	37	女性
	出産育児と共にコロナが流行したので、行動の変化についてどちらが原因とも言えない	45	女性
	子供3人の子育てを一人で行い、身体的、精神的に疲れがあった	39	女性
	風邪を引かなくなった(マスク、手洗いなどを行うため)	40	女性
	手洗いうがいをきちんとするようになった	46	女性
	コロナの後遺症で咳が止まらない	37	女性
	健康意識が上がり、体重が減少した	33	男性
	マスク、手洗いなど予防に気をつけたため、風邪などの普通の病気にかかることが激減した	51	女性
	運動を行い体重が減少した	38	男性
	運動するようになった	41	女性
	手洗い、うがい、消毒をする癖がついた	52	女性
	マスクをしていたため、風邪を引かなくなった	44	男性
	体調管理を今まで以上に行うようになった	38	女性
	禁煙した	32	男性
	感染症に対する意識が変わった	42	女性
	家の中での運動が増えた	50	女性

問 61	その他回答 【あなたは、災害に備えて次のような準備を行っていますか】	
	回答内容	年齢 性別
	ペーパー類、子どもの荷物	無回答 無回答
	現金	61 女性
	ペット用品	16 女性
	使い捨て食器や割箸、ペーパータオル	51 女性
	電池式ランタン	54 男性
	大人用オムツ、尿パット	61 女性
	生理用品、小さい玩具、人形	15 女性
	燃料、キャンプ用調理具	77 男性
	尿取りパッド	69 女性
	スリッパ	80 女性
	貴重品	83 女性
	携帯ラジオ、懐中電灯	91 男性
	猫用のフード、リード、カイロ、紙皿、割りばし等	71 女性
	災害時用バッキー式(携帯ラジオ・携帯トイレ・笛・ライト・給水袋等入り)	43 女性
	スリッパ、電池、ガムテープ、リュック、ポリ袋、ナプキン、電気、ホイッスル	30 無回答
	ナプキン、箱ティッシュ、タオル、体温計、トイレトペーパー、箸、コップ、皿、ラップ、ライト、ブルーシート、水ボトル	36 女性
	防寒のためのカイロ、給水蛇口付きポリタンク	35 女性
	スリッパ、ビニール袋、ビニール手袋、ラップ、アルミホイルなど生活に必要なもの	39 女性
	ペットに必要なもの	無回答 無回答
	懐中電灯	46 女性
	水用バッグ	47 女性
	生活用水の備蓄	35 女性
	生理用品、ウェットティッシュ	46 女性
	懐中電灯や、電池、カセットコンロ、雨具、身体拭きシートなど	42 女性
	防災リュック	36 女性
	日ごろから余分に買うようにして、在庫を持つようにしている	80 女性

問 62	自由回答 【健康づくりに関して】		
回答内容		年齢	性別
	フレイル予防の講座でお世話になっております。受講生も増えていますが、ここ3~4年間の体力、能力低下が深刻な方が多々見受けられます。	61	女性
	減塩を目指した食事の工夫が知りたい。	24	男性
	健康維持のため、簡単に続けられる野菜スープを毎日作って食べています。	51	女性
	加齢とともに疲れやすくなり、体力低下を感じながらも、仕事をしているとなかなか積極的に取り組むゆとりがなかったが、今後は自分の体と向き合い、無理せず健康管理に日々努めたいと思います。職場により、検診項目も様々であったと感じます。	59	女性
	豊かな人生を送る上で、健康で長生きすることは必須事項なので、自分と身の回りの人たちへの心配りを怠らないようにしていきたいと思います。また、それと同時に時々息抜きとして、外食やジャンクフードがあっても良いと思います。	45	女性
	高齢化社会であっても、ひとりひとりが豊かな気持ちで過ごせるような地域や社会の取組みが必須だと感じる。様々な年代の人が交流しながら助け合う。また、意識を新たに自助の気持ちを育むことで、心身ともに健やかで過ごせるような、ごく身近な範囲での活動ができればと願っている。	56	女性
	安全な食品は大変重要だと思います。	23	男性
	食事が心身ともに健康に直結していると思います。若い世代の方々の健康への意識が、数十年後の熊本市政にも大きく影響するのだらうとも思います。認知症等、修飾薬の確立が難しいが、必ず一定の割合で発症する病気についても、広く市民に周知がなされれば良いと思っています。	24	男性
	これからの時代を担う小学生、中学生には、食事の内容がいかに大事であることを教えるべきだと思います。	64	女性
	学校の授業等であれば良い。	16	男性
	まだ知らないことも多くあり勉強になった。	60	女性
	小学校の給食に熊本産の食材を使用したり熊本メニュー(肥後マルデー)など、取り組まれていて良いことだと思いました。自然豊かで海、山、お水もあり、熊本産の食材を沢山使いたいと思いました。	48	女性
	食の安全安心に取り組んでいる飲食店を教えてください。	60	女性
	熊本市のがん検診の対象年齢を5歳くらい引き下げると受診者も増え、早期発見にもつながると思います。乳がん検診は30歳以上でも良いかと思っています。	30	男性
	食事は薄味に気を付け、体重も気になるので食事のバランスには気をつけていますが、アレルギーは無いので原材料や添加物は気にしていません。賞味期限は気にして奥からとる人軽蔑します。フードロスにならないような買い物をしています。	無回答	無回答
	健康や食に関して気を付けなければという思いはあるものの、実際は普段の忙しさなどからおざなりになってしまいます。また、子供優先で自分のことは後回しになります。	42	女性
	健康運動施設をもっと作って欲しい。	40	男性
	ホテルの禁煙室で喫煙を行う者がいる。多くの人が行き交う公園で喫煙を行う者がいる。風下にいる人間に配慮せず喫煙を行う者がいる。日本語を理解しているのであれば、喫煙者は立派な依存症患者である。「個人の努力で喫煙を中断することは不可能である」という前提で対策をしなければ改善しない。全員病院を受診してほしい。	31	女性
	SNSで簡単な言葉を使ってわかりやすく健康に生活するための方法を発信して欲しい。	18	男性
	日々の食事に取り入れるべき食材や、それらを使った調理法などがスーパーに掲示されていると、買い物の際に食の健康を意識しやすくなると思います。	24	男性
	四月から新生活を迎え、今までは両親に作ってもらっていた料理も自分で作るようになり、バランスの良い食事を作ってくれていた両親に改めて感謝の気持ちを持っています。今後は自分の体や体調は自分で管理することになるので、食生活はもちろん、日々の健康生活を意識から変えていきたいです。そして周りも変えていけたら一番かなと思います。	18	男性

問 62	自由回答 【健康づくりに関して】(続き)		
回答内容		年齢	性別
あまり興味がないので情報を取得する機会がない。		41	女性
病院、スーパーでポスターを貼る。		61	男性
そもそも熊本市がそのような取り組みを行っていることをよく知りませんでした。まずはもっと知っていただくことから始めたら良いのではないのでしょうか。特に若い人に対しての告知が必要だと思います。		27	男性
僕みたいにならないことがたくさんある人がほかにもいると思うので、学生に情報発信をインターネット等でしていただきたいです。		16	男性
大人に啓蒙するのは重要。ただ子供の頃から教育するのはもっと重要。健康な内から健康を維持する方が病気になってから健康に戻すよりお金が掛からない。故に子供の頃からその知識を維持する知恵を与える事が導く側の義務だと思う。		46	男性
初めて知った言葉がいくつかあった。		32	男性
回答が遅くなってしまい、申し訳ありません。市が市民の健康づくりの活動を行っていることを、今回のアンケートで初めて知りました。定期的に、より多く広報していただけると、そのような活動を知ることができるし、市民の健康意識も変わっていくと思います。また、熊本の食は素晴らしいので、是非今後とも安心安全と食育を推進してもらえればと思います。今回は、このような機会を設けていただき、ありがとうございました。		22	男性
遺伝子組み換え表示を無くす動きがあるようですが、絶対反対です。食品購入の目安にします。少々高くても買います。また、中国製は信用ならず極力買いません。		55	男性
対象の子は15才ですが、ダウン症で知的障害が有りましたので、保護者が、本人と一緒に答えました。食事は大事と分かっているが 無い袖は振れぬ状態です。		15	女性
アンケートの回答でも書きましたが、最近コンビニや量販店等で韓国産の食品をよく見かけます。欧州等ではインスタント麺から高濃度の発ガン性物質が検出され輸入禁止になっていますが、日本のマスコミはこれを報道しておらず、知らない人が大多数です。「報道(しない)の自由」を理由に偏向報道で正しい情報を知らせないマスコミやそれを許している政治が問題。		53	男性
健康の全てに通ずるのは「水」。熊本は恵まれていると思います。		77	男性
近くの公民館等で、週に1回健康サロンのようなものを行って欲しい。		67	女性
年を取っても、住み慣れた地域でいきいきと自立した健康生活をできるだけ長く続けることができるように、私たちの町内は日々努力しています。行きたいところに自由に自力で移動できる運動能力を維持することが、健康生活を送る絶対条件であると思います。私の町内は、地域の仲間たちと定期的に集まり、おしゃべりもしますが、足腰の柔軟体操やスクワット等、楽しく筋力強化に努めています。市からも、この活動に助成金を出して頂いてありがとうございます。		78	男性
最小限度の配慮をしていると思う。		79	女性
マイクロプラスチックが、地下水でも含まれているという情報もあるので、水の安全に不安があり次世代を心配している。TSMCにも関係していると思う。		66	男性
子どもや周囲の人に迷惑をかけたくないので、近頃は長寿を考えたくないです。		69	女性
毎日NHKのテレビ体操をしています。食育は、タンパク質、カルシウムは意識して必ず摂るようにし、なるべく国産の物を買います。		75	女性
健康づくりのために既存の図書館の活用が広まるよう、施設の充実を願っています。館内は「心穏やかに過ごせるスペース」、「冬の寒さ夏の熱中症対策としてのスペース」外は「共有スペースとして散歩や自然とのふれあいを楽しむ」ことで、認知症予防や運動不足解消になり、医療費の軽減になると思います。健康増進で家族も安心です。身近な図書館の役割の重要性を担って欲しいです。幼少期から栄養のバランスを考えての食事は「骨格形成」「学校生活が心豊かになる」「生活習慣病を防ぐ」など大きいです。お金で買えない、食を通しての親の愛情は、子どもの安心につながり、楽しい毎日を送ることができ健全育成に必須です。食事バランスガイドに塩分、糖分の摂取量目安があるとわかりやすいと思います。給食を参考に正しい認識で料理を家庭でも出して、笑顔になれば最高です。キッチンに立つ時間は、健康を作る時間と言われます。安全安心は家族にあります。		67	女性

問 62	自由回答 【健康づくりに関して】(続き)		
回答内容		年齢	性別
	食品安全基準がめっちゃくちゃになった印象。遺伝子組み換え、化学調味料、添加物いつのまにかなんでも許可の印象。産出国表示も抜け穴ばかりに。ほんとに安全を保障？熱心なのはわかるが、アンケートにまともに対応すると30分では不足、大変です！！	77	男性
	現在糖尿病の人が多く、病院代も高額となっている。病院代を補助してほしい。糖尿病を軽減したいがインスリン(膵臓)の働きがほとんどないため、どうしてもインスリン注射を打たないといけない。食事は注意しているが、どうしても病院とは切り離せない部分もある。年齢的に他の病気もあるが病院にも医療費が高くなるため、よほどのことがない限りかかれぬ。	69	女性
	健康づくりは大切だがあまりに法で強制したり、集団圧力などでがんじがらめにすべきではないと思う。穏やかに熊本弁の「でけたしこ」で良いのではないかな。あれもダメこれもダメよりまあまあで良いと思う。	85	女性
	酢は体を弱アルカリ性に保ってくれる。みりんは料理を深くおいしくする。砂糖の代わりとして使用している。手作りの万能うま味調味料を作っておくとすぐに様々な料理に利用できる。食品添加物は摂らないようにする。約1,500品目ある。	73	女性
	スーパーに2人で行って好きなものを色々買っています。	88	男性
	自分自身リハビリを頑張り、軽く足が出るよう努力します。	71	男性
	歩くことが健康の基本です。	85	男性
	知らないことが多々あり参考になりました。	72	男性
	連作障害対策として農家の使用する農薬のクロロピクリンは、EUで禁止されているほど毒性が強いと言われているが、日本は甘い！やがて”沈黙の春”が訪れるのではないのでしょうか？	78	男性
	このアンケートをして健康づくりや食の安全安心、食育について、今一度考える良い機会となりました。現在物価が高くなり、日々の生活が大変になっておりますので、この件に関する支援などがあると助かります。	66	女性
	やる気が全くでなくなるなど、コロナに負けました。外出は週一回のスーパーと月一回の病院だけ。毎日雨が降らない日は立田山を散歩して5,000歩程度歩いております。	80	女性
	コロナの3年間ですべてのことが変わった。人との交流、家族間、娯楽(映画、コンサートなど)がとても少なくなり、友人、知人が何人も介護が必要となり、グループホームに入所された。	85	女性
	原産国を加工食品にも記載してほしい。	72	女性
	体にとって本来健康的な農業のやり方が、企業の利益のための農業になりつつあると思う。アメリカ企業の大豆遺伝子組み換え種子による農業技術で、世界的に営利目的で日本の農業も健康より経済第一になるのではないかな。ネオニコチノイド系農薬が、知らないうちにまかり通っていつの間にか人体が薬漬けになってしまうのではないかと心配。行政の方は真剣に食の安全についてこのような調査プラス政策を考慮してほしい。	79	女性
	高齢者の健康づくりで考えると、家に引き込まず外で活動することだと思っています。少子化が進む中で学校施設は「空き」があると思われ、これを活用し「老人学級」の開催ができませんか。町には20～25のクラブが活動していると聞いております。そのクラブが持ち回りで発表会や体験入部会を週1回(2～3時間)でも開催してもらえれば、参加したいと思えます。老人施設を学校敷地内または隣接して設営できませんか。子供たちの声、姿は老人にとっては薬。	82	男性
	健康づくりアンケートを頂き初めて知ったことがあり大変勉強になりました。これからも頑張ってください。	87	男性
	現在79歳、元気に病気せずに生きてきました。今から残り10年健康で頑張ります。	79	女性
	商品の栄養成分表示について、100gの表示はあっても、その一袋の容量(g)に対する表示がないものがある。即座に判断するのが難しい。	95	男性
	日常はほとんど生協で済ませているが、地域の販売所(道の駅等)で野菜等購入する場合、残留農薬等安全面を少し気に掛けます。	71	女性
	買い物、病院行きが大変困っています(夫85歳妻80歳)。友人もなく毎日が寂しい思いで暮らしています。飲み薬、目薬を半年分出してもらおうこと、一年分もできるようになればいいと思います。私の考えですが、老人だけが住んでいける(部屋+食事つき)があったらどんなにいいかと思えます。近くの90歳の人たちは有料の老人ホームに入っておられます。これから病院を増やさないようにしたいと思います。軽い病気は我慢することです。90歳以上になったら生活ができず大変になってくると思えます。100人くらい住める部屋(食事つき)を作ってもらいたいと思えます。友達もできて楽しい毎日が暮らせると思えます。少し元氣なうちに希望します。スポーツしたり話をして楽しいでしょうね。	無回答	無回答

問 62	自由回答 【健康づくりに関して】(続き)		
回答内容		年齢	性別
植木町に住んでいたのですが、道の駅が沢山あり新鮮で地元の食材も置いていて助かっていたのですが、現在の住居付近では道の駅みたいに新鮮な野菜、魚も手に入りにくいのが難点。街中にもっと地場産の野菜、魚が手軽に買えるような場所がほしいと思う。		無回答	女性
食の安全を言いすぎて体に抵抗力がなくなっているのではないのでしょうか？特に日本はひど過ぎる。		93	女性
1日の歩数を10,000歩とし、雨などの日を除き2時間ほど立田山を歩いている。スマホも歩数計も持っていない。		74	男性
地域で健康作りを共有する取り組みがあれば良いと思います。		67	女性
健康教室を身近な町内の公民館等を使用しての実施。		65	男性
モチベーションが上がるような仕掛けづくり(少し広めの公園等、散歩しながらどの位歩いたかわかるようにしてあるとか)を進めたり、産後なかなか運動する事も大変で忙しいけれど情報コミュニティ等で盛り込んでいく等。		40	女性
健康づくりや食育は、精神的余裕、経済的余裕、時間的余裕があって意識できるものだと思います。そのため特に子育て世代は、健康づくりや食育に取りかかる余裕があるところは限られるのではないのでしょうか。		43	女性
乳幼児も参加できる体験イベントなどが増えると良いと思います。		34	女性
これからの未来の子どもたちが元気で過ごせるよう、有機野菜をもっと給食等に取り入れ食育に力を入れてほしい。		37	女性
最近の物価高騰により食事にも体に良いものを選びたいが、日本はまだ財布に優しくない。		34	女性
コロナ以降、熱による外来だけでなく、医療機関(特に歯科)や幼稚園機関に入りづらさを感じる。近所の歯科でも触ってもらえずに、保険点数だけつけられていたことがショックだった。		37	女性
地産地消のためにも、規格外野菜をもっと販売すれば良い。野菜づくりの相談窓口や有料で家庭に来て教えてくれるなど、そういうネットワークがあると、家庭菜園のきっかけになると思う。		38	女性
産地偽装の重罰化。たばこを売らないで欲しい。		37	女性
もっと健康！げんき！アップくまもとのおかげで、歩くことを意識するようになりました。自分の目標が達してない時は、家に帰ってから散歩に行きいつもより多めに回り道したりします。とてもありがたいです。		49	女性
アレルギー検査などもっと簡単にできると、安心して食事が取りやすくなる。		40	無回答
子供の食生活や歯ブラシをする習慣等、様々な生活習慣は保護者次第です。保護者にその適切な習慣がないと、その子たちには受け継がれていきません。保護者への啓発等の場を開催しても、参加するのは意識の高い人のみで、もっと健康づくりに取り組んでほしい層には届かないのがもどかしいところです。ただ、そういう親を今から変えようとするのは難しい事なので、まだ可能性のある子供たちにしっかり教育が行き届くといいなと思います。子供たち一人一人が、自分の健康を諦めないで済むようになっていくといいなと思います。親はしてくれなくても自分でできることや、親以外に自分の健康を大切に考えてくれる大人がいるということ、信頼できる大人がいることを知ってもらえたらと思います。		38	女性
現在潰瘍性大腸炎、髄膜種を持っています。2021年には薬剤性肝障害にもなりました。当時コロナが流行していたこともあり、どこの病院でも診てもらえず大変でした。世の中が大変な時期だったので仕方ない事だとわかっていますが、病院間(特に個人病院等)の連絡、伝達等がもう少しスムーズにいけば、重症になる前に診てもらえる方々が増えるのではないかと思います。		42	女性
今回のアンケートで聞いたことはあるが詳細が解らないワードが多くあったので、今度様々な形で多くの方に知ってもらえるよう(自分も含め)期待します。		39	女性
子供にはなるべく県産の安心安全な食品を与えたいと思っています。熊本市内にも道の駅のような県産のものが揃っているスーパー等があればいいと思います。		34	女性
煙害について長年悩んでいます。たばこの受動喫煙の問題の解決策はないのか、どこに相談したらよいかわかりません。私は特に煙が苦手なため、家族が煙が家に入ってくるたびドアを開けてくれますが、24時間ほほ漂ってくるため苦痛で仕方ありません。		48	女性
学校の授業でも食育に関することを取り入れ、子供たちの関心を高めた上で、学校給食では安心安全な食材を使ってほしいです。		51	女性
私生活を見つめ直す良い機会となりました。ありがとうございました。		32	女性

問 62	自由回答 【健康づくりに関して】(続き)		
回答内容		年齢	性別
栄養指導は現代に合わせて適宜刷新してほしい。作るチームにも偏りがないようにしないと、情報が間違っているまま伝わっていく。		41	女性
学校でも健康な食べ方を何度も教えてほしい。		50	女性
学校給食について知る機会があればいいなと思います。		39	女性
離乳食や、幼児用レシピをスーパー売り場などに設置して欲しい。		44	女性
共働きなので、時短料理教室や伝統料理を簡単に作る教室等があれば参加したい。		35	女性
子どもには、よく寝る、よく食べる、よく遊ぶの3つだけを頑張ろうと言ってきました。学校の給食がとても美味しいらしく、好き嫌いもなく毎日おかわりをしているようです。バランスの良い給食を完食していることに安心しますし、とても感謝しています。我が家では20歳になるとき、身長180センチ、虫歯なしを達成できたら賞金を出すと約束しています。そのおかげで食や睡眠、歯磨きに関して、子どものモチベーションをあげることができています。		47	女性
分からないことも多いので、もっとテレビやHP、学校でも取り上げて身近に情報として知る場があれば良いと思う。		46	男性
こういったことを実践できるような経済力が欲しい。理想と現実がかけ離れてて、答えるのに苦い思いをさせられるアンケートでした。		49	女性
健康づくりは本人の問題であるため、正しい情報の発信を継続し、周りが気がつくまで何度も何度も繰り返し情報を発信していく必要があると思います。		42	女性

問 62	自由回答 【行政へのご意見・ご要望】		
回答内容		年齢	性別
目標歩数達成日数でのポイント付与をお願いします。		64	男性
大きな災害が起きても、農業は大丈夫という安心安全な地域にしてください。健康寿命が高い市を目指して、民間が協力できると良いですね。		48	女性
熊本市は車社会で、他県に比べると運動不足に陥る傾向が高いと思います。渋滞しない道路及び交通機関の整備が必要だと思います。		61	男性
食品に関する行政の検査を厳しくして欲しい。		37	男性
外出できない人たちが身近にできるイベント、参加しやすい内容などを考えてほしいです。色々知りたくても聞くだけで質問に答えてくれるところも知りません。		64	女性
市政だより等でイベント(各地区で行っているもの)の条件が厳しかったり、月に一回しか行われておらず予定が合わない等でなかなか参加できません。また、情報が入ってこず終わった後で知ったりします。回数を増やしたり、情報をもっと気軽に手に入れられるようにして頂くと参加しやすくなると思います。		37	女性
偽装問題以降は、どんなに細かく表示してあっても偽装かもしれないと疑ってしまう。偽装ができないようにしてほしい。		無回答	女性
歩道などに1km毎のkmマーカーを塗布できないでしょうか。		56	男性
PRをもう少し増やしても良いのではないかと思います。アンケートについて「〇〇とは～です。〇〇について言葉と意味を知っていますか？」という形式が多かったが、問題文に解説が載っているので正確な結果とは言えないのではないかと思います。		23	男性
熊本の市役所食堂は全メニュー成分表を表示してください。		38	女性
日常生活を取り戻しつつある今、野外での啓発イベントなどに力をいただけると嬉しいです。		41	男性
市政だよりに詳しく掲載して欲しいです。		76	男性
2021年に癌が見つかり、コロナ禍もあって、なかなか体を動かす機会を増やす事ができず、習慣化するための動機が見つけれればと思う。今月末で介護認定なしになる事に不満はないが、助けてくれる妻に何かあった時、行政がどう手伝ってくれるのか不安である。		66	男性

問 62	自由回答 【行政へのご意見・ご要望】(続き)		
回答内容		年齢	性別
	高齢者の年金はごくわずかで、健康不安は増す一方です。けれど、今の物価高騰等を思うと、健康維持のための通院やバランスのとれた食事などのお金はとでもありません。若ければ働きますが、精一杯88年間働きつめて、体を壊すのは目に見えています。諸外国は定年後は普通に暮らしていけるようですが、日本は70代でも働くのが今は当たり前のようです。一生、体にムチを打って働いて、趣味や旅行を楽しむことなく終わる人生はどう思われているのでしょうか。また、ワクチン接種等の申込み等はインターネットばかり。インターネットなどは、月々の支払いが高く贅沢です。高齢者の人数も多いので、もう少し寄り添った配慮が欲しいと感じています。	65	女性
	上記の各項目についての啓蒙活動手段を工夫して欲しい。「市のホームページに書いてありますよ」じゃなく、ホームページまでたどり着けない人はたくさんいると思う。特に、高齢者はハードルが高いのが現状と認識して欲しい。	73	男性
	「健康づくり」や「食の安全安心・食育」に対する取組みも大切なこととは思いますが、それ以上に市の財政が心配です。負の遺産を将来に残したくないです。	66	男性
	健康診断や入院ドックを受診した特典として、受診項目ごとに健康アプリへのポイント付与をして欲しい。	66	男性
	行政は自分たちが知らせたい情報の提供に重きを置きがちだが、市民が欲しいと思う情報を提供するように努めることが広報啓発には早道だと思う。	71	女性
	私が今住んでいる家は古い借家ですが、昔ながらの井戸水を蛇口から使うようになっています。玄関前は下水が流れていて水質のことが一番気になります。今熊本市で水の汚染があるとの情報が尚更心配です。今住んでいる南区の水質検査を是非お願いします。	86	女性
	がん検診の補助の継続をお願いします。	68	男性
	コロナの前まで一年に一回、近くの集会所で夜行われていた健康に関する講話など役に立つ会合を、またできれば開催していただきたい。	72	女性
	熊本の地下水の容量、質を守るための危険因子のアンテナ網の拡充と、検査制度の充実をお願いします。	72	男性
	健康づくり、食の安全安心、食育について、特に良い睡眠について一度地区ごとの説明会、講習を開催して頂けると助かります。	67	男性
	熊本産アサリ偽装問題になってもやっている人がいることが信じられません。行政、生産、流通が統一して安全性を再アピールしてほしい。道の駅等をよく利用しますが、生産地と加工業者が違う組合があるが、熊本産と書いてあり何か安心感がありません。安心安全な旨いものの提供を今以上にお願いしたいです。健康面で悪くなることは広く知られていますが、これを食べたらこのように改善されますというような告知を行ってほしいです。	70	男性
	他府県の施策も見習ってほしい。	77	男性
	外食時やテレビ等での一般人、芸能人の箸の持ち方の悪さ、帽子を被っての食事などマナーの悪さが目立ちます。行政としてもマナー推進のメッセージを掲げてもらいたい。	71	男性
	もっと、もっと食に関する事を、発信して下さい。	68	男性
	色々な意味で健康についての情報を発信してください。	66	男性
	人間ドックの案内が分かりにくいのもっとハッキリ、半強制的に通知してくれるとありがたい。	無回答	男性
	保健師や栄養士による離乳食、幼児食相談を行ってほしいです。もっと公園が増えると親子で体を動かす機会が増えると思います。	32	女性
	公共施設の周りで喫煙する方をなんとかしてほしい。	51	男性
	江津湖を整備してくれているのがありがたい。	50	女性
	がん検診の年齢30代からに下げたい。	36	女性
	農業を学べるイベントの計画・開催(野菜を自分で作れるように畑の貸し出し等)をして欲しい。	43	女性
	何を見れば良いかわからないので、広告宣伝(特に農業体験等)をもっといろいろなメディアを使って、正確な情報を発信して欲しい。	46	男性

問 62	自由回答 【行政へのご意見・ご要望】(続き)		
回答内容		年齢	性別
	町内自治会、子供会を巻き込んだ活動があると子育て世代、子供のそれらに関する意識、関心が高まると思います。助成だけでなく、運営の協力、指導などの取り組みを期待します。	50	男性
	食品偽装などもっと厳罰に処していいと思います。	40	女性
	子供と一緒に体験型のできる講習会などがあれば、積極的に参加したいので企画をお願いします。	43	女性
	働く親にとって平日のイベントは参加が難しいので、土日にあるイベントを増やして、情報も広げて欲しい。	31	女性
	去年子供を出産しましたが、出産後の赤ちゃんの1か月健診と母親の1か月健診の助成を出して頂きたいです。ほかの自治体ではあるところがあります。自費だとかなりの金額なので、受けない方もいると思います。子育てはお金がかかるので、全額でなくともあると良いと思います。	30	女性
	北部まちづくりセンターでお仕事をされている方が、敷地内禁煙のため敷地外のゴミ置き場付近で喫煙されています。そこは小中学生の通学路です。敷地内禁煙のルールは理解できません。しかし、そのために子どもたちが副流煙を吸い込んでいることはどう考えても理解できません。ご近所の方が区役所に相談に複数回行っていただいたようですが、改善されません。この意見も無視されるのだらうと思います。アンケートをとるのであれば、このような意見も一度でもいいのでご検討いただけないでしょうか。お仕事をされている方のために喫煙所を敷地内に作ってあげてください。そして子どもたちが安心して通学できる道にしてください。改善する気持ちがなくても、せめて視察に来てください。お願いします。	50	女性
	給食費が無料になってほしい。学校が休みだと食べられない子どもがいる日本を改善してほしい。	45	女性
	健康や食に関する必要な情報を私たちが得ることができるように、これからもよりよい活動をされることをよろしく願いいたします。	53	女性
	健康寿命への意識向上に対するアプローチに病院の職員を導入する等して、盛んに行った方がいいと思います。人は大抵、無くしてから気付きますので、事前に取り組むことの大切さを周知したいものです。イオンモール等をしっかり歩いたら商品購入の際のクーポンがもらえる等あったらいいと思います。	37	男性
	沖縄に「ちびっことりで」というところがあり、坪井川緑地公園みたいなところに作ってほしい。	41	男性
	無料のジム体験や無料の体力測定等ができると、今の自分がわかる機会になると思います。	51	男性
	東区西原2丁目の「天神原公園」、「平の山公園」、「松の上公園」を「スポーツ」、「健康づくり」、「遊びを通しての地域交流」の観点から整備し直して欲しい。	39	男性
	健康づくり、食に関することに興味があります。いつまでも元気であるため、高齢者(70歳過ぎ)でも働ける事ができればと思っています。いろいろな情報をよろしく願いいたします。	72	女性
	これでもかと言う位に広報をお願いします。	66	男性
	多岐にわたりお世話になっています。禁煙支援をしてください。	80	女性

問 62	自由回答 【アンケートへのご意見・ご要望】		
回答内容		年齢	性別
	アンケート、大変勉強になりました。ただ、思ったより長かったので、5分から10分以内で答えられるものにしてもらえると回答率が上がると思いました。	32	男性
	アンケートの設問が、少し多すぎるような気がします。	55	女性
	設問が多すぎる。意見が聞きたいのであれば、設問を少なくして定期的にした方がいいと思う。それこそアプリにして、経費があまり掛からないように。	51	男性
	マークシート方式が計算しやすかったのでは？	69	男性
	アンケートをされて、この結果はどのように市民に伝えられますか？回答者にも知らせないと意味がないと思います。	71	男性

IX 調査票

熊本市健康づくりに関する市民アンケート

<アンケートにご協力ください>

熊本市では、「全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる」という考えに基づき、健康づくりの取り組みを計画的に実施しています。

このアンケート調査は、市民の皆さまから現状やご意見を聞かせていただき、本市の取り組みの評価、および新たな計画策定に反映させるために行うものです。

ご多用のところお手数ですが、アンケート調査の趣旨をご理解のうえ、ぜひご回答いただきますようお願いいたします。

1. 回答方法

①インターネットによる回答

インターネットでアンケートの回答ができます。

スマートフォン等で右の二次元バーコードを読み込むか、パソコン等で次のアドレスにアクセスしてください。

<https://questant.jp/q/kumamoto111>



②郵送による回答

同封の回答用紙にご記入いただき、回答用紙のみ同封の返送用封筒に入れて、切手を貼らずに郵便ポストにご投函ください。

※インターネットによる回答をした場合は、郵送は不要です。

2. 回答期限 令和5年5月26日(金)

この調査は、4月1日現在、本市に住民登録されている方から、無作為に4,200人を抽出し実施しています。

令和5年4月 熊本市



熊本健康アプリ「もっと健康!げんき!アップくまもと」ご利用の皆様へ

このアンケート調査にご回答いただいた方には、もれなく健康ポイント2.0ptを付与します。
歩数に関する設問において、アプリIDをご入力ください。

＜ご記入にあたっての注意＞

1. 質問は、**保護者の方が封筒の宛名のお子さんについて**ご記入ください。
2. 質問は、封筒の宛名の方のご意見で記入ください。
3. 質問に対する回答については、次の2種類があります。
 - ・【○はいくつでも】…選択肢の中から該当するものをすべてお選びください。
 - ・【○は1つ】…選択肢の中から該当するものを1つだけお選びください。
4. 黒の鉛筆またはボールペンなどではっきりと記入してください。
5. この調査は無記名でご回答いただき、調査の結果はすべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、ご迷惑をおかけすることは決してございません。あなた自身のご意見をありのままご記入ください。
6. ご記入が終わりましたら、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて**5月26日（金）**までにポストに投函してください（切手は不要です）。
※インターネットによる回答をした場合は、郵送は不要です。

【アンケートに関するお問い合わせ先】

熊本市役所 健康福祉局 健康づくり推進課

電話：096-328-2145・FAX：096-351-2183

Eメール：kenkouzukuri@city.kumamoto.lg.jp



インターネット回答はこちら

●封筒の宛名のお子さんについておたずねします。

- ・性別（男・女・回答しない）
- ・年齢(令和5年4月1日現在)（ ）歳
- ・お住まいの小学校校区（ ）校区
校区がわからない方はお住まいの町名（ ）区（ ）丁目・町（ ）
例えば「東区健軍1丁目」「中央区手取本町」
- ・身長（ ）cm 体重（ ）kg

問1 お子さんの世帯構成は次のどれですか。【Oは1つ】

- 1. 二世帯世帯（親子で暮らしている世帯）
- 2. 三世帯世帯（親、子、孫と暮らしている世帯）
- 3. その他（ ）

問2 お子さんは、ふだん食事を楽しそうに食べていますか。【Oは1つ】

- 1. とても楽しそう
- 2. 楽しそう
- 3. どちらでもない
- 4. あまり楽しそうではない
- 5. 楽しそうではない

問3 お子さんが、朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【Oは1つ】

- 1. ほとんど毎日食べる
- 2. 週に4～5日食べる
- 3. 週に2～3日食べる
- 4. 週に1日程度食べる
- 5. ほとんど食べない

問4 お子さんが、夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【Oは1つ】

- 1. ほとんど毎日食べる
- 2. 週に4～5日食べる
- 3. 週に2～3日食べる
- 4. 週に1日程度食べる
- 5. ほとんど食べない

問5 お子さんは、ふだん朝食を食べますか。【Oは1つ】

- 1. ほとんど毎日食べる ————— 問6へ
- 2. 週に4～5日食べる —————
- 3. 週に2～3日食べる ————— 問5-2へ
- 4. ほとんど食べない —————

問8 お子さんは、ふだんゆっくりよく噛んで食べていますか。【〇は1つ】

1. ゆっくりよく噛んで食べている
2. どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている
3. どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない
4. ゆっくりよく噛んで食べていない

問9 お子さんは、次の項目に関する活動（学校の授業や保育所・幼稚園での行事、地域で開催される講演会、イベント、体験活動、自主グループなどの活動）にこれまで参加（体験）したことがありますか。【それぞれ〇は1つ】

	週に1回程度	月に1〜2回程度	年に数回程度	参加したいと思う	参加したことはないが 関心もない	参加したことはなく
(1) 親子料理教室など、食生活改善や健康づくりに関するもの	1	2	3	4	5	
(2) 田植えや芋ほり、野菜の栽培・収穫体験など、農林漁業やその産物に関するもの	1	2	3	4	5	
(3) ごみ減量やリサイクルなど、環境保全に関するもの	1	2	3	4	5	
(4) 食中毒予防講座など、食品の安全性や食品衛生に関するもの	1	2	3	4	5	

問10 お子さんは、過去1年間に歯科健診を受けましたか。【〇は1つ】

1. 受けた
2. 受けていない
3. わからない、覚えていない

問 11 お子さんは、フッ化物（塗布・洗口・歯みがき剤）利用の経験がありますか。
【それぞれ○は1つ】

	あ る	な い
(1) フッ化物塗布	1	2
(2) フッ化物洗口	1	2
(3) フッ化物配合歯みがき剤	1	2

※フッ化物塗布とは、歯科医院で、歯の表面に高濃度のフッ化物溶液やジェルを塗る方法です。
フッ化物洗口とは、低濃度のフッ化ナトリウム溶液(5~10ml)で、1 分間ブクブクうがいを行う方法です。

**問 12 は、6 歳以上のお子さんについておたずねします。
5 歳以下のお子さんの保護者の方は 問 13 へ お進みください。**

問 12 食育とは、さまざまな経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育てることです。
お子さんは「食育」に関心がありますか。【○は1つ】

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 関心がある | 2. どちらかといえば関心がある |
| 3. どちらかといえば関心がない | 4. 関心がない |

●問 13 からはご記入いただいている保護者の方の生活習慣についておたずねします。

問 13 あなたの性別や年齢をお聞かせください。

- ・性別 (男 ・ 女 ・ 回答しない)
- ・年齢(令和5年4月1日現在) () 歳
- ・身長 () cm 体重 () kg

問 14 食育とは、さまざまな経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育てることです。

あなたは「食育」に関心がありますか【○は1つ】

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 関心がある | 2. どちらかといえば関心がある |
| 3. どちらかといえば関心がない | 4. 関心がない |

問 15 あなたは、食事の時間が楽しいですか。【○は1つ】

- | | |
|------------|-------------|
| 1. とても楽しい | 2. 楽しい |
| 3. どちらでもない | 4. あまり楽しくない |
| 5. 楽しくない | |

問 16 あなたは、朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【○は1つ】

1. ほとんど毎日食べる
2. 週に4～5日食べる
3. 週に2～3日食べる
4. 週に1日程度食べる
5. ほとんど食べない

問 17 あなたは、夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【○は1つ】

1. ほとんど毎日食べる
2. 週に4～5日食べる
3. 週に2～3日食べる
4. 週に1日程度食べる
5. ほとんど食べない

問 18 あなたは、ふだん朝食を食べますか。【○は1つ】

- | | | |
|--------------|-------|----------|
| 1. ほとんど毎日食べる | _____ | 問 19 へ |
| 2. 週に4～5日食べる | _____ | 問 18-2 へ |
| 3. 週に2～3日食べる | _____ | |
| 4. ほとんど食べない | _____ | |

問 22 あなたは、生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していますか。【○は1つ】

1. 実践して、半年以上継続している
2. 実践しているが、半年未満である
3. 時々気をつけているが、継続的ではない
4. 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている
5. 現在していないし、しようとも思わない

問 23 あなたは、ふだんゆっくりよく噛^かんで食べていますか。【○は1つ】

1. ゆっくりよく噛んで食べている
2. どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている
3. どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない
4. ゆっくりよく噛んで食べていない

問 24 あなたは、自分の適正体重（BMI）を知っていますか。【○は1つ】

※BMI（体重kg÷身長m÷身長m）とは、国際的に広く用いられている体格指数による肥満度の計算法です。18.5以上25未満が標準といわれています。

1. 知っている
2. 知らない

問 25 あなたは、下のコマ型の「食事バランスガイド」を見たことがありますか。
【〇は1つ】

1. ある ————— 問 25-2 へ

2. ない ————— 問 26 へ



食事バランスガイド

あなたの食事は大丈夫？

1日分
2200Kcal±200Kcalの場合

5.7 主食 (ごはん、パン、麺)
つ(SV) ごはん(中盛り)だったら4杯程度

5.6 副菜 (野菜、きのこ、
いも、海藻料理)
つ(SV) 野菜料理5皿程度

3.5 主菜 (肉、魚、卵、
大豆料理)
つ(SV) 肉・魚・卵・大豆料理から3皿程度

2 牛乳・乳製品
つ(SV) 牛乳だったら1本程度

2 果物
つ(SV) みかんだったら2個程度

料理例



※SVとは、1日当たりの摂取エネルギー量(食生活の目安)の積

「食事バランスガイド」は、「何を」「どれだけ」食べたらよいのか。それを、コマの絵で表現したものです。コマには、1日に食べることが望ましい料理の組み合わせとおおよその量がわかりやすく示されています。

問 25-2 ※問 25 で「1. ある」と回答した方におたずねします。あなたは、食事や買い物の際、「食事バランスガイド」をどの程度参考にしていますか。【〇は1つ】

1. いつも参考にしている
2. 時々参考にしている
3. たまには参考にしている
4. 全く参考にしていない

問 26 あなたは、スーパーや飲食店、レストラン、食堂などで、加工食品やメニューに栄養成分が表示してあるのを見たことがありますか。【〇は1つ】

1. ある ————— 問 26-2 へ

2. ない ————— 問 27 へ

【例】

栄養成分表示
(1枚当たり)

エネルギー	25kcal
たんぱく質	0.3g
脂質	1.1g
炭水化物	3.5g
食塩相当量	0.4g

問 26-2 ※問 26 で「1. ある」と回答した方におたずねします。その場合、栄養成分を参考にしてメニューを選びますか。【○は1つ】

1. いつも参考にしている
2. 時々参考にしている
3. ほとんど参考にしていない

問 27 あなたは、ふだん外食や中食をどれくらいの頻度で利用しますか。
【それぞれ○は1つ】

	毎日 2回以上	毎日 1回程度	週に 5～ 6回	週に 3～ 4回	週に 1～ 2回	月に 2～ 3回	月に 1回程度	ほとんど 利用しない
(1) 外食	1	2	3	4	5	6	7	8
(2) 中食	1	2	3	4	5	6	7	8

問 28 あなたは、地産地消の推進のため、すすんで地元産（熊本市産や熊本県産）の農産物や水産物を購入していますか。【○は1つ】

1. いつもしている
2. 時々している
3. どちらともいえない
4. あまりしていない
5. 全くしていない

問 32 あなたは、食品を購入したり食事を作る際に、ごみを少なくするために「買いすぎない」「作りすぎない」「食べ残さない」を心がけていますか。

【〇は1つ】

1. いつも心がけている
2. 時々心がけている
3. どちらともいえない
4. あまり心がけていない
5. 全く心がけていない

問 33 あなたは、次の項目に関する活動（学校の授業や保育所・幼稚園での行事、地域で開催される講演会、イベント、体験活動、自主グループなどの活動）にこれまで参加（体験）したことがありますか。【それぞれ〇は1つ】

	週に1回程度	月に1～2回程度	年に数回程度	参加したいと思う	参加したことはないが 関心もない	参加したことはなく
(1) 親子料理教室など、食生活改善や健康づくりに関するもの	1	2	3	4	5	
(2) 田植えや芋ほり、野菜の栽培・収穫体験など、農林漁業やその産物に関するもの	1	2	3	4	5	
(3) ごみ減量やリサイクルなど、環境保全に関するもの	1	2	3	4	5	
(4) 食中毒予防講座など、食品の安全性や食品衛生に関するもの	1	2	3	4	5	

問 34 あなたは、食の安全性確保のために意識して実践していることがありますか。

【〇は1つ】

1. ある ————— **問34-2へ**
2. ない ————— **問35へ**

問 34-2 ※問 34 で「1. ある」と回答した方におたずねします。

それはどんなことですか。【○はいくつでも】

1. 食材の購入時には、鮮度や期限をよく確認し、新鮮なものを購入している
2. なるべく生産者のわかる野菜を購入している
3. 調理前には必ず石鹸で手洗いをしている
4. 食事前には必ず石鹸で手洗いをしている
5. トイレ後には必ず石鹸で手洗いをしている
6. まな板や包丁を食材に応じて（肉用、野菜用など）使い分けている
7. キッチンを清潔に保ち、器具の消毒をしている
8. 肉はO157やカンピロバクター食中毒の恐れがあるので、十分に加熱して食べている
9. 焼肉では、生肉に触れる箸と食べる箸は別になっている
10. 肉、魚、牛乳などは買ってきたらすぐ冷蔵庫へ入れている
11. その他（ ）

問 35 あなたは、食品の安全性が高まっていると感じていますか。【○は1つ】

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 大いに感じている | 2. 多少感じている |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり感じていない |
| 5. 全く感じていない | |

問 36 食品の安全性に関して、不安を感じるものは何ですか。【○はいくつでも】

- | | |
|--|----------------|
| 1. 病原性大腸菌（O157など） | 2. 残留農薬 |
| 3. 動物用医薬品（動物が飼育されていた時に使用された医薬品）の残留 | |
| 4. 遺伝子組換え食品 | 5. 食品添加物 |
| 6. 輸入食品 | 7. 食品の不正（偽装）表示 |
| 8. 牛海綿状脳症（BSE） | 9. 健康食品 |
| 10. 環境ホルモン | 11. かび毒・自然毒 |
| 12. 食中毒を起こす細菌（カンピロバクターなど）・ウイルス（ノロウイルスなど） | |
| 13. 異物（髪の毛・金属片・ガラス片など）の混入 | |
| 14. アレルギー物質 | 15. 放射性物質 |
| 16. 生食用食肉（牛・鶏） | 17. 生食用食肉（馬） |
| 18. 寄生虫（アニサキスなど） | 19. その他（ ） |

問 37 食品の安全性に関して、どんな時に不安を感じますか。【○はいくつでも】

1. スーパー等で肉、魚、野菜等を購入するとき
2. スーパー等で調理済みの弁当・そうざい・ファストフード等を購入するとき
3. 飲食店で外食するとき
4. インターネット等で食品を購入するとき
5. その他 ()

問 38 あなたは、食品の安全な取り扱いや選び方など食品の安全性に関する知識があると思いますか。【○は1つ】

1. 十分にあると思う
2. ある程度あると思う
3. あまりないと思う
4. 全くないと思う

問 39 あなたは、栄養や食事・食品に関する正しい知識や情報を得ようと努めていますか。【○は1つ】

1. 努力している
2. どちらかといえば努力している
3. どちらかといえば努力していない
4. 努力していない

問 40 あなたは、食品を購入する際に「問 40-2」に示すような表示を確認していますか。【○は1つ】

1. 毎回確認している 問 40-2 へ
2. 時々確認している 問 40-2 へ
3. どちらでもない 問 41 へ
4. あまり確認していない 問 41 へ
5. 全く確認していない 問 41 へ

問 40-2 ※問 40 で「1. 毎回確認している」「2. 時々確認している」と回答した方におたずねします。 何を確認していますか。【○はいくつでも】

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 消費または賞味期限 | 2. 保存方法 |
| 3. 原材料の種類 | 4. 原産地・原産国 |
| 5. 食品添加物 | 6. 遺伝子組換え食品の有無 |
| 7. アレルギー物質の有無 | 8. 製造者・販売者 |
| 9. 栄養成分 | |
| 10. その他 () | |

【表示例】 原産地表示 遺伝子組換え表示 アレルギー表示

名称	豆菓子
原材料名	落花生(国産)、きなこ(遺伝子組換え)、米粉、でん粉、植物油、しょうゆ(小麦を含む)、食塩、砂糖、香辛料
添加物	調味料(アミノ酸等)、着色料(カラメル、紅麴、カロチノイド)
内容量	100 g
賞味期限	2025. 7. 1
保存方法	直射日光を避け、常温で保存してください。
製造者	〇〇食品株式会社

栄養成分表示 (1枚当たり)	
エネルギー	25kcal
たんぱく質	0.3g
脂質	1.1g
炭水化物	3.5g
食塩相当量	0.4g

問 41 あなたは、熊本市が食品の安全確保のため検査を実施していることを知っていますか。【○は1つ】

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 42 あなたは、熊本の農林漁業の生産者が生産物の安全・安心のために行っている工夫や取り組みなどを、もっと知りたいと思いますか。【○は1つ】

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 知りたいと思う | 2. どちらかといえば知りたいと思う |
| 3. あまり知りたいと思わない | 4. 知りたいと思わない |

問 43 あなたは、HACCP (ハサップ) について知っていますか。【○は1つ】

- | |
|---------------------------------------|
| 1. HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている |
| 2. 言葉は知っているが意味は知らない |
| 3. 言葉も意味も知らない |

問 44 飲食店や食品販売店などは、令和3年6月1日よりHACCPの実施（衛生管理計画を作成し、計画どおりに実施できたかを記録すること）が義務化されました。あなたは、このHACCPを実施している飲食店や食品販売店などを知っていますか。【〇は1つ】

1. 実施している店舗を知っている
2. 実施している店舗を知らない

問 45 あなたは、飲食店や食品販売店などを選ぶ際、HACCPを実施していることを重視しますか。【〇は1つ】

1. 重視する
2. 重視しない
3. わからない

問 46 あなたは、飲食店や食品販売店などがHACCPを実施していることを消費者に伝える手段として、効果的だと思うものはどれですか。【〇はいくつでも】

1. 施設の利用者の求めに応じ衛生管理計画が閲覧できる
2. 施設の利用者が見える場所に衛生管理計画を掲示する
3. 衛生管理計画を施設のホームページに掲載する
4. HACCPの情報発信に取り組んでいる施設（1～3に該当する施設など）を、市のホームページに掲載する
5. HACCPの情報発信に取り組んでいる施設（1～3に該当する施設など）に、市が作成した「HACCP見える化ステッカー」等を貼付する
6. その他（ ）

問 47 あなたは、食生活や食品に関してどのような情報が欲しいですか。【〇はいくつでも】

1. 食事の量や組み合わせなど栄養バランス
2. 食品に含まれる栄養素やその働き
3. 食事に関する作法やしつけ（マナー）
4. 調理方法（レシピ）
5. 食生活の乱れからくる影響
6. 農業や漁業などを体験する方法
7. 農畜水産物に関する生産履歴などの情報
8. 食品の安全性や健康被害などの情報
9. 食品の試験検査や監視指導の結果
10. 食品表示の見方やその内容
11. 食に関わるイベント情報
12. その他（ ）

問 48 あなたは、熊本市のホームページに「くまもとの食（安全安心のひろば・食育のひろば）」があることを知っていますか。【〇は1つ】

【参考】ホームページが開きます。

1. 知っているし、見たことがある
2. 知っているが、見たことはない
3. 知らない



問 49 あなたは、食に関する情報をどこから入手していますか。よく入手する情報源を選んでください。【〇はいくつでも】

1. テレビ
2. スーパーなど食品の購入場所
3. 新聞・雑誌
4. 本
5. 家族
6. 友人・知人
7. 同僚
8. ブログ、SNS
9. 生産者・企業・販売業者のウェブサイトや広報物
10. 動画サイト
11. インターネットのニュースサイト
12. 行政のウェブサイトや広報物
13. ラジオ
14. イベントやシンポジウム
15. 電車、バス等の広告
16. その他（ ）

問 50 あなたの歯は、現在何本ありますか。【永久歯は親知らず 4 本を含めて全部で 32 本です。親知らずが生えていない方は 28 本です。金属などを詰めた治療済みの歯（歯の根にかぶせてある差し歯含む）も本数に含めます。取り外しの入れ歯や、ブリッジなどで歯根がない歯、インプラントは除きます。】

本です。

問 51 あなたの噛んで食べる^かときの状態について、あてはまるものはどれですか。

【○は 1 つ】

1. なんでも噛んで食べることができる
2. 一部、噛めないものがある
3. 噛めない食べ物が多い
4. 噛んで食べることはできない

問 52 たばこを吸うと、歯周病が進行することを知っていますか。【○は 1 つ】

1. 知っている
2. 知らない

問 53 歯周病は歯を失う原因だけでなく、全身の健康とも深い関わりがあります。歯周病と関係がある病気としてあなたが知っているものは次のうちどれですか。

【○はいくつでも】

1. 糖尿病
2. 心臓病・動脈硬化
3. 早産・低体重児出産
4. 脳卒中
5. メタボリックシンドローム・肥満
6. 誤嚥性肺炎
7. 認知症
8. 骨粗しょう症
9. 関節リウマチ
10. 知っているものはない

問 54 あなたは、過去1年間に歯科健診を受けましたか。【○は1つ】

1. 受けた
2. 受けていない
3. わからない・覚えていない

問 55 あなたは、歯ブラシを用いた歯みがきに加えて、次の清掃用具を使用していますか。
週に1回以上使用している場合に○を付けてください。【○はいくつでも】

1. デンタルフロス（糸付きようじ）
2. 歯間ブラシ
3. 舌ブラシ
4. タフトブラシ
5. その他（



問 56 オーラルフレイルとは、嚙んだり飲み込んだり、話したりするための口腔機能が衰えることを指し、早期の重要な老化のサインとされています。

あなたは、このオーラルフレイルの言葉と意味を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っていたが、意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）

問 57 あなたが、過去1年間（乳がん・子宮頸がんは過去2年間）に受診したがん検診はどれですか。【○はいくつでも】

1. 肺がん検診 _____
2. 胃がん検診 _____
3. 大腸がん検診 _____ **問 57-2 へ**
4. 乳がん検診 _____
5. 子宮頸がん検診 _____
6. 受診していない _____ **問 57-3 へ**

問 57-2 **※問 57 で「1」～「5」と回答した方におたずねします。**

どこで受診しましたか。【○はいくつでも】

	市が行うがん検診※	職場検診（医療機関・人間ドックに委託されたものや家族検診を含む）	農協や商工会議所が実施する検診	人間ドック（個人で受診したもの）	医療機関（個人で受診したもの）	その他（具体的に）
1. 肺がん検診	1	2	3	4	5	6 ()
2. 胃がん検診	1	2	3	4	5	6 ()
3. 大腸がん検診	1	2	3	4	5	6 ()
4. 乳がん検診	1	2	3	4	5	6 ()
5. 子宮頸がん検診	1	2	3	4	5	6 ()
6. ()	1	2	3	4	5	6 ()

※市が行うがん検診は、最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

問 57-3 **※問 57 で「6. 受診していない」と回答した方におたずねします。**

受診しなかった理由はなんですか。【○はいくつでも】

1. 検診を知らなかったから
2. 時間が取れなかったから
3. 費用がかかるから
4. めんどうだから
5. 検査等に不安がある（検査が痛い、怖い）から
6. 健康状態に自信があり必要性を感じないから
7. 心配なときはいつでも医療機関を受診できるから
8. 対象年齢※ではないから
9. その他 ()

※がん検診の対象者は最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

問 58 熊本市のがん検診は、一定の検診料を公費で負担し、市民の皆様が安価※で受診できるようにしています。あなたは熊本市のがん検診の自己負担割合はどのくらいが適切だと思いますか。【○は1つ】

※自己負担は概ね検診費用の2割程度です。がん検診の自己負担金額は最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 無料 | 2. 検診費用の1割程度 |
| 3. 検診費用の2割程度 | 4. 検診費用の3割程度 |
| 5. その他 (|) |

問 59 COPD(慢性閉塞性肺疾患)とは主として長期の喫煙によってもたらされる肺の炎症性疾患です。主に咳・痰・息切れなどの症状があり、緩やかに呼吸障害が進行する、かつて「肺気腫」「慢性気管支炎」と称された疾患です。あなたはこの病気を知っていますか。【○は1つ】

- | |
|----------------------------|
| 1. どんな病気なのかよく知っている |
| 2. 名前は聞いたことがある |
| 3. 知らない(今回の調査で初めて聞いた場合を含む) |

問 60 あなたは、この1ヶ月間に、自分以外の方が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)がありましたか。【○はいくつでも】

	ほぼ毎日	週に数回程度	週に1回程度	月に1回程度	全くなかった	行かなかった
1. 行政機関 (市役所、区役所、公民館など)	1	2	3	4	5	6
2. 医療機関	1	2	3	4	5	6
3. 職場	1	2	3	4	5	6
4. 家庭	1	2	3	4	5	
5. 飲食店	1	2	3	4	5	6

問 61 受動喫煙をなくすための対策として、あなたが最も重要（必要）と思うものはどれですか。【○は1つ】

1. 公共施設の敷地内（屋内）禁煙
2. たばこをやめたい人への禁煙支援
3. 喫煙や受動喫煙の健康影響についての周知啓発（学校の授業等含む。）
4. 店内を禁煙にしている飲食店等の周知
5. 喫煙できる施設の周知
6. 分煙、喫煙施設の設置
7. 条例などによる法的な規制の強化
8. その他（ ）

問 62 禁煙を支援する取組として、あなたが最も重要（必要）と思うものはどれですか。【○は1つ】

1. 禁煙外来治療費の助成
2. オンラインでの禁煙相談
3. 区役所での禁煙相談
4. 医療機関（薬局）等での禁煙相談
5. YouTube 等での禁煙支援情報配信
6. その他（ ）

問 63 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）とは、「骨・関節・筋肉などの機能の低下による要介護の状態や要介護リスクの高い状態」を示す言葉です。あなたは、この言葉やその意味を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味もよく知っている
2. 言葉も知っている、意味も大体知っている
3. 言葉は知っている、意味はあまり知らない
4. 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない
5. 言葉も意味も知らない

問 64 あなたの1日の歩数は何歩ですか。

※日曜日と祝日を除く1日間（朝起きてから寝るまで）、スマートフォンの歩数アプリやお持ちの万歩計で測定をお願いします。

歩です。

歩数の記録には熊本健康アプリ「もっと健康！げんき！アップくまもと」がおすすめです。このアプリでは、「歩く」「検診を受ける」など日々の健康づくり活動をポイントとして貯めることができ、ポイントが貯まると協力店等で特典を受けたり、豪華賞品に応募したりできます。



※このアンケートに回答いただくと、健康ポイント10ptを付与します。アプリID10桁をご入力ください。

熊本健康アプリ ID

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(アプリIDはアプリ画面のメニューボタンから確認できます)

問 65 新型コロナウイルス感染症の流行前と現在で、あなたの健康状態や健康行動に変化がありましたか。【○は1つ】

1. 変化がとてもあった 問 65-2 へ
2. 変化が少しあった
3. 変化はあまりなかった 問 66 へ
4. 変化は全くなかった

問 65-2 ※問 65 で「1」または「2」と回答した方におたずねします。

どのような変化がありましたか。【○はいくつでも】

1. 外出する頻度が減った
2. 知人や親族との交流が少なくなった
3. 運動量が減った
4. 体重が増加した
5. 食事量が減った
6. 医療機関受診を控えるようになった
7. 持病が悪化した
8. その他 ()

問 66 健康を維持するための、災害時の備えについておたずねします。

あなたは、災害に備えて次のような準備を行っていますか。【○はいくつでも】

1. 飲料水
2. 主食（レトルトご飯、加工米、乾パン等）
3. 副食（肉・魚の缶詰、カレー等のレトルト食品等）
4. 歯ブラシ、デンタルリンスなどの口腔ケア用品
5. 災害用トイレ
6. 感染予防のための、マスク、アルコール等の消毒剤
7. 非常用持出し用衣類、毛布
8. 眼鏡、入れ歯、補聴器、杖など無いと困るものをすぐに持ち出せるようにしている
9. 常備薬（風邪薬、胃腸薬等）
10. （治療している方のみ）治療に必要な薬をすぐに持ち出せるようにしている
11. （食事療法している方のみ）治療に合わせた食事
12. （乳児期・離乳食期のお子さんがある方のみ）粉ミルクや月齢に合わせた離乳食
13. （おむつを使用している方がご家庭にいる方のみ）おむつ
14. その他（
15. 準備していない

問 67 『健康づくり』や『食の安全安心・食育』に関するご意見などありましたら何でも結構です。ご自由にお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。

■熊本市のがん検診について

熊本市の死因の第1位は「がん」です。3人に1人は「がん」で亡くなっています。がんによる死亡を減少させるには、早期発見・早期治療が大切です。本市では積極的にがん検診の受診をすすめています。

検診名		対象者	検査方法	受診間隔	自己負担金
肺がん検診	集団	40歳以上	胸部X線検査	毎年	40～64歳:300円 65歳以上:200円
	個別				500円
	集団・個別	喫煙歴による	喀痰検査		500円
胃がん検診	集団	40歳以上	胃部X線検査	毎年	1,000円
	個別	50歳以上	胃内視鏡検査	2年に1回	3,000円
大腸がん検診	集団	40歳以上	便潜血検査	毎年	300円
	個別				500円
	郵送				300円
乳がん検診	集団	40歳以上	乳房X線検査 (マンモグラフィ)	2年に1回	40歳代:1,500円 50歳以上:1,100円
	個別				
子宮頸がん検診	集団	20歳以上	内診及び 細胞診	2年に1回	1,000円
	個別				1,200円

【対象者が 15 歳～64 歳以下の方】

熊本市健康づくりに関する市民アンケート

<アンケートにご協力ください>

熊本市では、「全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる」という考えに基づき、健康づくりの取り組みを計画的に実施しています。

このアンケート調査は、市民の皆さまから現状やご意見を聞かせていただき、本市の取り組みの評価、および新たな計画策定に反映させるために行うものです。

ご多用のところお手数ですが、アンケート調査の趣旨をご理解のうえ、ぜひご回答いただきますようお願いいたします。

1. 回答方法

①インターネットによる回答

インターネットでアンケートの回答ができます。

スマートフォン等で右の二次元バーコードを読み込むか、パソコン等で次のアドレスにアクセスしてください。

<https://questant.jp/q/kumamoto222>



②郵送による回答

同封の回答用紙にご記入いただき、回答用紙のみ同封の返送用封筒に入れて、切手を貼らずに郵便ポストにご投函ください。

※インターネットによる回答をした場合は、郵送は不要です。

2. 回答期限 令和5年5月26日(金)

この調査は、4月1日現在、本市に住民登録されている方から、無作為に4,200人を抽出し実施しています。

令和5年4月 熊本市



熊本健康アプリ「もっと健康!げんき!アップくまもと」ご利用の皆様へ

このアンケート調査にご回答いただいた方には、もれなく健康ポイント2.0ptを付与します。

歩数に関する設問において、アプリIDをご入力ください。

＜ご記入にあたっての注意＞

1. 質問は、**封筒の宛名の方のご意見**でご記入ください。
2. 質問は、封筒の宛名の方のご意見で記入ください。
3. 質問に対する回答については、次の2種類があります。
 - ・【○はいくつでも】…選択肢の中から該当するものをすべてお選びください。
 - ・【○は1つ】…選択肢の中から該当するものを1つだけお選びください。
4. 黒の鉛筆またはボールペンなどではっきりと記入してください。
5. この調査は無記名でご回答いただき、調査の結果はすべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、ご迷惑をおかけすることは決してございません。あなた自身のご意見をありのままご記入ください。
6. ご記入が終わりましたら、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて**5月26日（金）**までにポストに投函してください（切手は不要です）。
※インターネットによる回答をした場合は、郵送は不要です。

【アンケートに関するお問い合わせ先】

熊本市役所 健康福祉局 健康づくり推進課

電話：096-328-2145・FAX：096-351-2183

Eメール：kenkouzukuri@city.kumamoto.lg.jp



インターネット回答はこちら

●あなたご自身のことについておたずねします。

- ・性別（男・女・回答しない）
- ・年齢(令和5年4月1日現在)（ ）歳
- ・お住まいの小学校校区（ ）校区
校区がわからない方はお住まいの町名（ ）区（ ）丁目・町
例えば「東区健軍1丁目」「中央区手取本町」
- ・身長（ ）cm 体重（ ）kg

問1 あなたの世帯構成は次のどれですか【〇は1つ】

1. 単身世帯（1人暮らし）
2. 一世代世帯（夫婦のみの世帯または兄弟姉妹のみの世帯）
3. 二世帯世帯（親子で暮らしている世帯）
4. 三世帯世帯（親、子、孫と暮らしている世帯）
5. その他（ ）

問2 食育とは、さまざまな経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育てることで、

あなたは「食育」に関心がありますか。【〇は1つ】

1. 関心がある
2. どちらかといえば関心がある
3. どちらかといえば関心がない
4. 関心がない

問3 あなたは、食事の時間が楽しいですか。【〇は1つ】

1. とても楽しい
2. 楽しい
3. どちらでもない
4. あまり楽しくない
5. 楽しくない

問4 ※一人暮らしの方は、問6へ

あなたは、朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【〇は1つ】

1. ほとんど毎日食べる
2. 週に4～5日食べる
3. 週に2～3日食べる
4. 週に1日程度食べる
5. ほとんど食べない

問5 あなたは、夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【〇は1つ】

1. ほとんど毎日食べる
2. 週に4～5日食べる
3. 週に2～3日食べる
4. 週に1日程度食べる
5. ほとんど食べない

問6 あなたは、友人や仲間、職場や地域の方と一緒に食事をする機会がありますか。
【〇は1つ】

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日ある | 2. 週に4～5日ある |
| 3. 週に2～3日ある | 4. 週に1日程度ある |
| 5. ほとんどない | |

問7 あなたは、ふだん朝食を食べますか。【〇は1つ】

- | | | |
|--------------|-------|-------|
| 1. ほとんど毎日食べる | _____ | 問8へ |
| 2. 週に4～5日食べる | _____ | 問7-2へ |
| 3. 週に2～3日食べる | _____ | |
| 4. ほとんど食べない | _____ | |

問7-2 ※問7で「2」～「4」と回答した方におたずねします。
朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。【〇は1つ】

1. 時間がない
2. 食欲がない
3. 朝食を食べるより寝ていたい
4. 減量（ダイエット）のため
5. 朝食が準備されていない
6. 以前から食べる習慣がない
7. 食べたり準備することが面倒である
8. その他（ _____ ）

問8 あなたは、ふだんどのような朝食を食べることが多いですか。【〇は1つ】

1. 一品（ごはん・パンのみ）
2. 二品（ごはん・パン+おかずなど一品）
3. 三品（ごはん・パン+おかずなど二品）以上
4. おかずのみ
5. 飲み物・果物のみ
6. 菓子
7. その他（ _____ ）
8. 食べない

問9 あなたは、主食（ごはん、パン、麺など）、主菜（肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理）、副菜（野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理）を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べていますか。（中食、外食も含む）【○は1つ】

※中食（なかしょく）とは、惣菜店やコンビニエンスストア・スーパーなどでお弁当や惣菜などを購入したり、外食店のデリバリーなどを利用して、家庭外で調理・加工されたものを購入して食べる食事形態です。

1. 食べている
2. 食べていない

問10 あなたは、野菜料理を小鉢1皿（70g）と考えて、1日にどのくらい食べますか。【○は1つ】

1. 1日に5皿以上
2. 1日に3～4皿
3. 1日に1～2皿
4. 1日に1皿も食べない

問11 あなたは、生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していますか。【○は1つ】

1. 実践して、半年以上継続している
2. 実践しているが、半年未満である
3. 時々気をつけているが、継続的ではない
4. 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている
5. 現在はしていないし、しようとも思わない

問12 あなたは、ふだんゆっくりよく^か噛んで食べていますか。【○は1つ】

1. ゆっくりよく噛んで食べている
2. どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている
3. どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない
4. ゆっくりよく噛んで食べていない

問 13 あなたは、自分の適正体重（BMI）を知っていますか。【〇は1つ】

※BMI（体重kg÷身長m÷身長m）とは、国際的に広く用いられている体格指数による肥満度の計算法です。18.5以上25未満が標準といわれています。

1. 知っている 2. 知らない

問 14 あなたは、下のコマ型の「食事バランスガイド」を見たことがありますか。【〇は1つ】

1. ある ———— **問 14-2 へ** 2. ない ———— **問 15 へ**



「食事バランスガイド」は、「何を」「どれだけ」食べたらよいのか。それを、コマの絵で表現したものです。コマには、1日に食べることが望ましい料理の組み合わせとおおよその量がわかりやすく示されています。

問 14-2 ※問 14 で「1. ある」と回答した方におたずねします。あなたは、食事や買い物の際、「食事バランスガイド」をどの程度参考にしていますか。【〇は1つ】

1. いつも参考にしている 2. 時々参考にしている
3. たまには参考にしている 4. 全く参考にしていない

問 15 あなたは、スーパーや飲食店、レストラン、食堂などで、加工食品やメニューに栄養成分が表示してあるのを見たことがありますか。【○は1つ】

1. ある _____ 問 15-2 へ
 2. ない _____ 問 16 へ

【例】

栄養成分表示 (1枚当たり)	
エネルギー	25kcal
たんぱく質	0.3g
脂質	1.1g
炭水化物	3.5g
食塩相当量	0.4g

問 15-2 ※問 15 で「1. ある」と回答した方におたずねします。その場合、栄養成分を参考にしてメニューを選びますか。【○は1つ】

1. いつも参考にしている
 2. 時々参考にしている
 3. ほとんど参考にしていない

問 16 あなたは、ふだん外食や中食をどれくらいの頻度で利用しますか。【それぞれ○は1つ】

	毎日 2回 以上	毎日 1回 程度	週に 5 ～ 6 回	週に 3 ～ 4 回	週に 1 ～ 2 回	月に 2 ～ 3 回	月に 1 回 程度	ほとんど 利用 しない
(1) 外食	1	2	3	4	5	6	7	8
(2) 中食	1	2	3	4	5	6	7	8

問 17 あなたは、地産地消の推進のため、すすんで地元産（熊本市産や熊本県産）の農産物や水産物を購入していますか。【○は1つ】

1. いつもしている
 2. 時々している
 3. どちらともいえない
 4. あまりしていない
 5. 全くしていない

問 18 あなたはふだんから、次の項目について実践していますか。【それぞれ○は1つ】

※「産地や生産者を意識」とは、地元産品や、被災地、自分が応援したい地域の産品や、応援したい生産者を意識することです。

※「環境に配慮した農林水産物・食品」とは、農薬や化学肥料に頼らず生産された有機農産物や、輸送距離が短い、過剰包装でなくごみが少ないなど、環境への負荷を低減した農林水産物・食品のことです。

	いつもしている	時々している	あまりしていない	全くしていない
(1) 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶこと	1	2	3	4
(2) 環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶこと	1	2	3	4
(3) 自分で料理すること	1	2	3	4
(4) 熊本の郷土料理や伝統料理、箸づかいなどの食べ方・作法などの食文化について、地域や次世代(子どもやお孫さんを含む)に伝えること	1	2	3	4

問 19 あなたが、「くまもとらしさ」を感じる料理や食材は何ですか。
何か一つ、ご自由にご記入ください。

問 20 あなたは、熊本市の良質な地下水が、地元の食材や料理の「おいしさ」の基になっていると思いますか。【○は1つ】

1. 思う

2. 思わない

3. わからない

問 21 あなたは、家庭での食事に郷土料理（だご汁、いきなりだんごなど）や行事食（おせち料理、お雑煮、七草がゆなど）を取り入れていますか。【○は1つ】

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. よく取り入れている | 2. 時々取り入れている |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり取り入れていない |
| 5. 全く取り入れていない | |

問 22 あなたは、食品を購入したり食事を作る際に、ごみを少なくするために「買いすぎない」「作りすぎない」「食べ残さない」を心がけていますか。

【○は1つ】

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. いつも心がけている | 2. 時々心がけている |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり心がけていない |
| 5. 全く心がけていない | |

問 23 あなたは、次の項目に関する活動（学校の授業や保育所・幼稚園での行事、地域で開催される講演会、イベント、体験活動、自主グループなどの活動）にこれまで参加（体験）したことがありますか。【それぞれ○は1つ】

	週に1回程度	月に1～2回程度	年に数回程度	参加したいと思う	参加したことはないが	参加したことはなく 関心もない
(1) 親子料理教室など、食生活改善や健康づくりに関するもの	1	2	3	4	5	
(2) 田植えや芋ほり、野菜の栽培・収穫体験など、農林漁業やその産物に関するもの	1	2	3	4	5	
(3) ごみ減量やリサイクルなど、環境保全に関するもの	1	2	3	4	5	
(4) 食中毒予防講座など、食品の安全性や食品衛生に関するもの	1	2	3	4	5	

問 24 あなたは、食の安全性確保のために、意識して実践していることがありますか。
【〇は1つ】

- 1. ある ―――― 問 24-2 へ
- 2. ない ―――― 問 25 へ

問 24-2 ※問 24 で「1. ある」と回答した方におたずねします。
それはどんなことですか。【〇はいくつでも】

- 1. 食材の購入時には、鮮度や期限をよく確認し、新鮮なものを購入している
- 2. なるべく生産者のわかる野菜を購入している
- 3. 調理前には必ず石鹸で手洗いをしている
- 4. 食事前には必ず石鹸で手洗いをしている
- 5. トイレ後には必ず石鹸で手洗いをしている
- 6. まな板や包丁を食材に応じて（肉用、野菜用など）使い分けている
- 7. キッチンを清潔に保ち、器具の消毒をしている
- 8. 肉は〇157やカンピロバクター食中毒の恐れがあるので、十分に加熱して食べている
- 9. 焼肉では、生肉に触れる箸と食べる箸は別にしてている
- 10. 肉、魚、牛乳などは買ってきたらすぐ冷蔵庫へ入れている
- 11. その他（)

問 25 あなたは、食品の安全性が高まっていると感じていますか。【〇は1つ】

- 1. 大いに感じている
- 2. 多少感じている
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり感じていない
- 5. 全く感じていない

問 26 食品の安全性に関して、不安を感じるものは何ですか。【〇はいくつでも】

- | | |
|--|------------------|
| 1. 病原大腸菌 (O157など) | 2. 残留農薬 |
| 3. 動物用医薬品 (動物が飼育されていた時に使用された医薬品) の残留 | |
| 4. 遺伝子組換え食品 | 5. 食品添加物 |
| 6. 輸入食品 | 7. 食品の不正 (偽装) 表示 |
| 8. 牛海綿状脳症 (BSE) | 9. 健康食品 |
| 10. 環境ホルモン | 11. かび毒・自然毒 |
| 12. 食中毒を起こす細菌 (カンピロバクターなど)・ウイルス (ノロウイルスなど) | |
| 13. 異物 (髪の毛・金属片・ガラス片など) の混入 | |
| 14. アレルギー物質 | 15. 放射性物質 |
| 16. 生食用食肉 (牛・鶏) | 17. 生食用食肉 (馬) |
| 18. 寄生虫 (アニサキスなど) | 19. その他 () |

問 27 食品の安全性に関して、どんな時に不安を感じますか。【〇はいくつでも】

1. スーパー等で肉、魚、野菜等を購入するとき
2. スーパー等で調理済みの弁当・そうざい・ファストフード等を購入するとき
3. 飲食店で外食するとき
4. インターネット等で食品を購入するとき
5. その他 ()

問 28 あなたは、食品の安全な取り扱いや選び方など食品の安全性に関する知識があると思いますか。【〇は1つ】

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 十分にあると思う | 2. ある程度あると思う |
| 3. あまりないと思う | 4. 全くないと思う |

問 29 あなたは、栄養や食事・食品に関する正しい知識や情報を得ようと努めていますか。【〇は1つ】

1. 努力している
2. どちらかといえば努力している
3. どちらかといえば努力していない
4. 努力していない

問 30 あなたは、食品を購入する際に「問 30-2」に示すような表示を確認していますか。

【〇は1つ】

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 毎回確認している _____ | ————— <u>問 30-2 へ</u> |
| 2. 時々確認している _____ | |
| 3. どちらでもない _____ | ————— <u>問 31 へ</u> |
| 4. あまり確認していない _____ | |
| 5. 全く確認していない _____ | |

問 30-2 ※問 30 で「1. 毎回確認している」「2. 時々確認している」と回答した方におたずねします。何を確認していますか。【〇はいくつでも】

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 消費または賞味期限 | 2. 保存方法 |
| 3. 原材料の種類 | 4. 原産地・原産国 |
| 5. 食品添加物 | 6. 遺伝子組換え食品の有無 |
| 7. アレルギー物質の有無 | 8. 製造者・販売者 |
| 9. 栄養成分 | |
| 10. その他 (_____) | |

【表示例】 原産地表示 遺伝子組換え表示 アレルギー表示

名称	豆菓子
原材料名	落花生(国産)、きなこ(遺伝子組換え)、米粉、 でん粉、植物油、しょうゆ(小麦を含む)、 食塩、砂糖、香辛料
添加物	調味料(アミノ酸等)、着色料(カラメル、 紅麹、カロチノイド)
内容量	100 g
賞味期限	2025. 7. 1
保存方法	直射日光を避け、常温で保存してください。
製造者	〇〇食品株式会社 〇〇県〇〇町 1-2

栄養成分表示 (1 枚当たり)	
エネルギー	25kcal
たんぱく質	0.3g
脂質	1.1g
炭水化物	3.5g
食塩相当量	0.4g

問 31 あなたは、熊本市が食品の安全確保のため検査を実施していることを知っていますか。

【〇は1つ】

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 32 あなたは、熊本の農林漁業の生産者が生産物の安全・安心のために行っている工夫や取り組みなどを、もっと知りたいと思いますか。【〇は1つ】

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 知りたいと思う | 2. どちらかといえば知りたいと思う |
| 3. あまり知りたいと思わない | 4. 知りたいと思わない |

問 33 あなたは、H A C C P（ハサップ）について知っていますか。【〇は1つ】

1. H A C C Pは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている
2. 言葉は知っているが意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない

問 34 飲食店や食品販売店などは、令和3年6月1日よりH A C C Pの実施（衛生管理計画を作成し、計画どおりに実施できたかを記録すること）が義務化されました。あなたは、このH A C C Pを実施している飲食店や食品販売店などを知っていますか。【〇は1つ】

1. 実施している店舗を知っている
2. 実施している店舗を知らない

問 35 あなたは、飲食店や食品販売店などを選ぶ際、H A C C Pを実施していることを重視しますか。【〇は1つ】

1. 重視する
2. 重視しない
3. わからない

問 36 あなたは、飲食店や食品販売店などがH A C C Pを実施していることを消費者に伝える手段として、効果的だと思うものはどれですか。【〇はいくつでも】

1. 施設の利用者の求めに応じ衛生管理計画が閲覧できる
2. 施設の利用者が見える場所に衛生管理計画を掲示する
3. 衛生管理計画を施設のホームページに掲載する
4. H A C C Pの情報発信に取り組んでいる施設（1～3に該当する施設など）を、市のホームページに掲載する
5. H A C C Pの情報発信に取り組んでいる施設（1～3に該当する施設など）に、市が作成した「H A C C P見える化ステッカー」等を貼付する
6. その他（ ）

問 37 あなたは、食生活や食品に関してどのような情報が欲しいですか。【〇はいくつでも】

1. 食事の量や組み合わせなど栄養バランス
2. 食品に含まれる栄養素やその働き
3. 食事に関する作法やしつけ（マナー）
4. 調理方法（レシピ）
5. 食生活の乱れからくる影響
6. 農業や漁業などを体験する方法
7. 農畜水産物に関する生産履歴などの情報
8. 食品の安全性や健康被害などの情報
9. 食品の試験検査や監視指導の結果
10. 食品表示の見方やその内容
11. 食に関わるイベント情報
12. その他（ ）

問 38 あなたは、熊本市のホームページに「くまもとの食（安全安心のひろば・食育のひろば）」があることを知っていますか。【〇は1つ】

【参考】ホームページが開きます。

1. 知っているし、見たことがある
2. 知っているが、見たことはない
3. 知らない



問 39 あなたは、食に関する情報をどこから入手していますか。よく入手する情報源を選んでください。【〇はいくつでも】

1. テレビ
2. スーパーなど食品の購入場所
3. 新聞・雑誌
4. 本
5. 家族
6. 友人・知人
7. 同僚
8. ブログ、SNS
9. 生産者・企業・販売業者のウェブサイトや広報物
10. 動画サイト
11. インターネットのニュースサイト
12. 行政のウェブサイトや広報物
13. ラジオ
14. イベントやシンポジウム
15. 電車、バス等の広告
16. その他（ ）

問 40 あなたの歯は、現在何本ありますか。【永久歯は親知らず 4 本を含めて全部で 32 本です。親知らずが生えていない方は 28 本です。金属などを詰めた治療済みの歯（歯の根にかぶせてある差し歯含む）も本数に含めます。取り外しの入れ歯や、ブリッジなどで歯根がない歯、インプラントは除きます。】

本です。

問 41 あなたの噛んで食べる時の状態について、あてはまるものはどれですか。

【○は 1 つ】

1. なんでも噛んで食べることができる
2. 一部、噛めないものがある
3. 噛めない食べ物が多い
4. 噛んで食べることはできない

問 42 たばこを吸うと、歯周病が進行することを知っていますか。【○は 1 つ】

1. 知っている
2. 知らない

問 43 歯周病は歯を失う原因だけでなく、全身の健康とも深い関わりがあります。歯周病と関係がある病気としてあなたが知っているものは次のうちどれですか。

【○はいくつでも】

1. 糖尿病
2. 心臓病・動脈硬化
3. 早産・低体重児出産
4. 脳卒中
5. メタボリックシンドローム・肥満
6. 誤嚥性肺炎
7. 認知症
8. 骨粗しょう症
9. 関節リウマチ
10. 知っているものはない

問 44 あなたは、過去1年間に歯科健診を受けていますか。【○は1つ】

1. 受けた 2. 受けていない 3. わからない・覚えていない

問 45 あなたは、歯ブラシを用いた歯みがきに加えて、次の清掃用具を使用していますか。週に1回以上使用している場合に○を付けてください。【○はいくつでも】

1. デンタルフロス（糸付きようじ）
2. 歯間ブラシ
3. 舌ブラシ
4. タフトブラシ
5. その他（ ）



問 46 オーラルフレイルとは、嚙んだり飲み込んだり、話したりするための口腔機能が衰えることを指し、早期の重要な老化のサインとされています。

あなたは、このオーラルフレイルの言葉と意味を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っていたが、意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）

ここからは 18 歳以上の方がご回答ください。
18 歳未満の方は **問 55 へ** お進みください。

問 47 あなたが、過去1年間（乳がん・子宮頸がんは過去2年間）に受診したがん検診はどれですか。【○はいくつでも】

1. 肺がん検診 _____
2. 胃がん検診 _____
3. 大腸がん検診 _____ **問 47-2 へ**
4. 乳がん検診 _____
5. 子宮頸がん検診 _____
6. 受診していない _____ **問 47-3 へ**

問 47-2 **※問 47 で「1」～「5」と回答した方におたずねします。**

どこで受診しましたか。【○はいくつでも】

	市が行うがん検診※	職場検診（医療機関・人間ドックに委託されたものや家族検診を含む）	農協や商工会議所が実施する検診	人間ドック（個人で受診したもの）	医療機関（個人で受診したもの）	その他（具体的に）
1. 肺がん検診	1	2	3	4	5	6（ ）
2. 胃がん検診	1	2	3	4	5	6（ ）
3. 大腸がん検診	1	2	3	4	5	6（ ）
4. 乳がん検診	1	2	3	4	5	6（ ）
5. 子宮頸がん検診	1	2	3	4	5	6（ ）
6. （ ）	1	2	3	4	5	6（ ）

※市が行うがん検診は、最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

問 47-3 **※問 47 で「6. 受診していない」と回答した方におたずねします。**

受診しなかった理由はなんですか。【○はいくつでも】

1. 検診を知らなかったから
2. 時間が取れなかったから
3. 費用がかかるから
4. めんどうだから
5. 検査等に不安がある（検査が痛い、怖い）から
6. 健康状態に自信があり必要性を感じないから
7. 心配なときはいつでも医療機関を受診できるから
8. 対象年齢※ではないから
9. その他（ ）

※がん検診の対象者は最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

問 48 熊本市のがん検診は、一定の検診料を公費で負担し、市民の皆様が安価※で受診できるようにしています。あなたは熊本市のがん検診の自己負担割合はどのくらいが適切だと思いますか。【○は1つ】

※自己負担は概ね検診費用の2割程度です。がん検診の自己負担金額は最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 無料 | 2. 検診費用の1割程度 |
| 3. 検診費用の2割程度 | 4. 検診費用の3割程度 |
| 5. その他 (|) |

問 49 COPD(慢性閉塞性肺疾患)とは主として長期の喫煙によってもたらされる肺の炎症性疾患です。主に咳・痰・息切れなどの症状があり、緩やかに呼吸障害が進行するかつて「肺気腫」「慢性気管支炎」と称された疾患です。あなたはこの病気を知っていますか。【○は1つ】

- | |
|----------------------------|
| 1. どんな病気なのかよく知っている |
| 2. 名前は聞いたことがある |
| 3. 知らない(今回の調査で初めて聞いた場合を含む) |

問 50 あなたは、この1ヶ月間に、自分以外の方が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)がありましたか。【○はいくつでも】

	ほぼ毎日	週に数回程度	週に1回程度	月に1回程度	全くなかった	行かなかった
1. 行政機関 (市役所、区役所、公民館など)	1	2	3	4	5	6
2. 医療機関	1	2	3	4	5	6
3. 職場	1	2	3	4	5	6
4. 家庭	1	2	3	4	5	
5. 飲食店	1	2	3	4	5	6

問 54 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）とは、「骨・関節・筋肉などの機能の低下による要介護の状態や要介護リスクの高い状態」を示す言葉です。あなたは、この言葉やその意味を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味もよく知っている
2. 言葉も知っている、意味も大体知っている
3. 言葉は知っている、意味はあまり知らない
4. 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない
5. 言葉も意味も知らない

問 55 CKD（慢性腎臓病）は、何らかの原因によって腎臓の機能が低下する病気です。あなたは、このCKD（慢性腎臓病）という言葉を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っているが、意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）

問 56 あなたは、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のために、適切な食事、定期的な運動、週に複数回の体重計測、のいずれかを実践していますか。【○は1つ】

1. 実践しており、半年以上継続している
2. 実践しているが、半年未満である
3. 時々気を付けているが、継続的ではない
4. 現在は実践していないが、近いうちにしようと思っている
5. 現在実践していないし、しようとも思わない

問 57 あなたの1日の歩数は何歩ですか。

※日曜日と祝日を除く1日間（朝起きてから寝るまで）、スマートフォンの歩数アプリやお持ちの万歩計で測定をお願いします。

歩です。

歩数の記録には熊本健康アプリ「もっと健康！げんき！アップくまもと」がおすすめです。このアプリでは、「歩く」「検診を受ける」など日々の健康づくり活動をポイントとして貯めることができ、ポイントが貯まると協力店等で特典を受けたり、豪華賞品に応募したりできます。



※このアンケートに回答いただくと健康ポイント 10pt を付与します。アプリ ID10 桁をご入力ください。

熊本健康アプリ ID

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(アプリ ID はアプリ画面のメニューボタンから確認できます)

問 58 健康寿命とは「日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間」のことです。あなたはこの「健康寿命」という言葉を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っているが、意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない (今回の調査で初めて聞いた場合を含む)

問 59 「健康まちづくり」とは、すべての市民が生涯を通じて、住みなれた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる「まちづくり」のことです。あなたは、この「健康まちづくり」という言葉やその意味を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っているが、意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない (今回の調査で初めて聞いた場合を含む)

問 60 新型コロナウイルス感染症の流行前と現在で、あなたの健康状態や健康行動に変化がありましたか。【○は1つ】

1. 変化がとてもあった [問 60-2 へ](#)
2. 変化が少しあった
3. 変化はあまりなかった [問 61 へ](#)
4. 変化は全くなかった

問 60-2 ※問 60 で「1」または「2」と回答した方におたずねします。

どのような変化がありましたか。【○はいくつでも】

1. 外出する頻度が減った
2. 知人や親族との交流が少なくなった
3. 運動量が減った
4. 体重が増加した
5. 食事量が減った
6. 医療機関受診を控えるようになった
7. 持病が悪化した
8. その他 ()

問 61 健康を維持するための、災害時の備えについておたずねします。

あなたは、災害に備えて次のような準備を行っていますか。【○はいくつでも】

1. 飲料水
2. 主食（レトルトご飯、加工米、乾パン等）
3. 副食（肉・魚の缶詰、カレー等のレトルト食品等）
4. 歯ブラシ、デンタルリンスなどの口腔ケア用品
5. 災害用トイレ
6. 感染予防のための、マスク、アルコール等の消毒剤
7. 非常用持出し用衣類、毛布
8. 眼鏡、入れ歯、補聴器、杖など無いと困るものをすぐに持ち出せるようにしている
9. 常備薬（風邪薬、胃腸薬等）
10. （治療している方のみ）治療に必要な薬をすぐに持ち出せるようにしている
11. （食事療法している方のみ）治療に合わせた食事
12. （乳児期・離乳食期のお子さんがある方のみ）粉ミルクや月齢に合わせた離乳食
13. （おむつを使用している方がご家庭にいる方のみ）おむつ
14. その他 ()
15. 準備していない

問 62 『健康づくり』や『食の安全安心・食育』に関するご意見などありましたら何でも結構です。ご自由にお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。

■熊本市のがん検診について

熊本市の死因の第1位は「がん」です。3人に1人は「がん」で亡くなっています。がんによる死亡を減少させるには、早期発見・早期治療が大切です。本市では積極的にがん検診の受診をすすめています。

検診名		対象者	検査方法	受診間隔	自己負担金
肺がん検診	集団	40歳以上	胸部X線検査	毎年	40～64歳:300円
	個別				65歳以上:200円
	集団・個別	喫煙歴による	喀痰検査		500円
胃がん検診	集団	40歳以上	胃部X線検査	毎年	1,000円
	個別	50歳以上	胃内視鏡検査	2年に1回	3,000円
大腸がん検診	集団	40歳以上	便潜血検査	毎年	300円
	個別				500円
	郵送				300円
乳がん検診	集団	40歳以上	乳房X線検査 (マンモグラフィ)	2年に1回	40歳代:1,500円
	個別				50歳以上:1,100円
子宮頸がん検診	集団	20歳以上	内診及び 細胞診	2年に1回	1,000円
	個別				1,200円

熊本市健康づくりに関する市民アンケート

<アンケートにご協力ください>

熊本市では、「全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる」という考えに基づき、健康づくりの取り組みを計画的に実施しています。

このアンケート調査は、市民の皆さまから現状やご意見を聞かせていただき、本市の取り組みの評価、および新たな計画策定に反映させるために行うものです。

ご多用のところお手数ですが、アンケート調査の趣旨をご理解のうえ、ぜひご回答いただきますようお願いいたします。

1. 回答方法

①インターネットによる回答

インターネットでアンケートの回答ができます。

スマートフォン等で右の二次元バーコードを読み込むか、パソコン等で次のアドレスにアクセスしてください。

<https://questant.jp/q/kumamoto333>



②郵送による回答

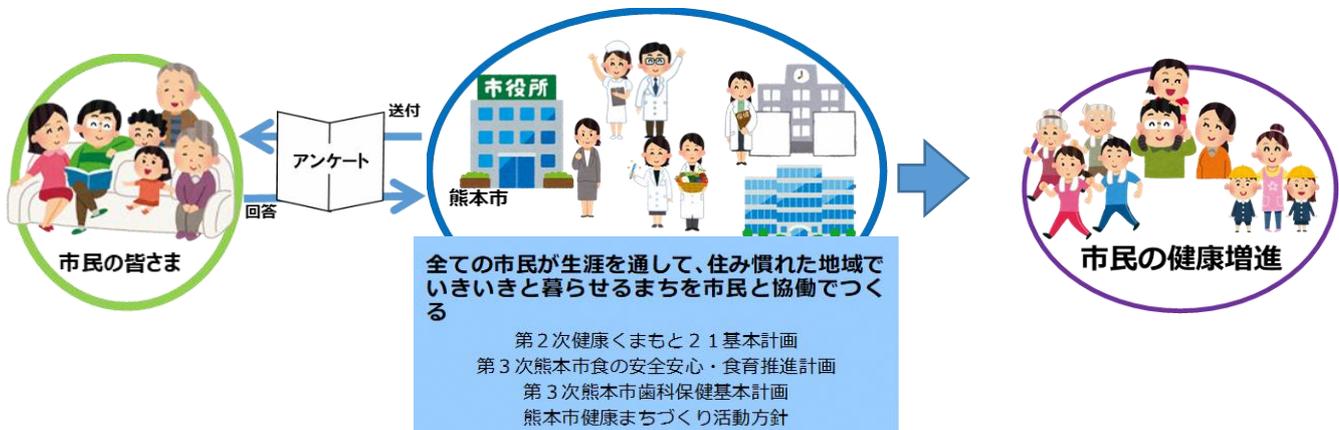
同封の回答用紙にご記入いただき、回答用紙のみ同封の返送用封筒に入れて、切手を貼らずに郵便ポストにご投函ください。

※インターネットによる回答をした場合は、郵送は不要です。

2. 回答期限 令和5年5月26日(金)

この調査は、4月1日現在、本市に住民登録されている方から、無作為に4,200人を抽出し実施しています。

令和5年4月 熊本市



熊本健康アプリ「もっと健康!げんき!アップくまもと」ご利用の皆様へ

このアンケート調査にご回答いただいた方には、もれなく健康ポイント2.0ptを付与します。歩数に関する設問において、アプリIDをご入力ください。

<ご記入にあたっての注意>

1. 質問は、**封筒の宛名の方のご意見**でご記入ください。
2. 質問は、封筒の宛名の方のご意見で記入ください。
3. 質問に対する回答については、次の2種類があります。
 - ・【○はいくつでも】…選択肢の中から該当するものをすべてお選びください。
 - ・【○は1つ】…選択肢の中から該当するものを1つだけお選びください。
4. 黒の鉛筆またはボールペンなどではっきりと記入してください。
5. この調査は無記名でご回答いただき、調査の結果はすべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、ご迷惑をおかけすることは決してございません。あなた自身のご意見をありのままご記入ください。
6. ご記入が終わりましたら、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて
5月26日（金）までにポストに投函してください（切手は不要です）。
※インターネットによる回答をした場合は、郵送は不要です。

【アンケートに関するお問い合わせ先】

熊本市役所 健康福祉局 健康づくり推進課

電話：096-328-2145・FAX：096-351-2183

Eメール：kenkouzukuri@city.kumamoto.lg.jp



インターネット回答はこちら

●あなたご自身のことについておたずねします。

・性別（男・女・回答しない）

・年齢(令和5年4月1日現在)（ ）歳

・お住まいの小学校校区（ ）校区

校区がわからない方はお住まいの町名（ ）区（ ）丁目・町

例えば「東区健軍1丁目」「中央区手取本町」

・身長（ ）cm 体重（ ）kg

問1 あなたの世帯構成は次のどれですか【〇は1つ】

1. 単身世帯（1人暮らし）
2. 一世代世帯（夫婦のみの世帯または兄弟姉妹のみの世帯）
3. 二世帯世帯（親子で暮らしている世帯）
4. 三世帯世帯（親、子、孫と暮らしている世帯）
5. その他（ ）

問2 食育とは、さまざまな経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育てることです。

あなたは「食育」に関心がありますか。【〇は1つ】

1. 関心がある
2. どちらかといえば関心がある
3. どちらかといえば関心がない
4. 関心がない

問3 あなたは、食事の時間が楽しいですか。【〇は1つ】

1. とても楽しい
2. 楽しい
3. どちらでもない
4. あまり楽しくない
5. 楽しくない

問4 ※一人暮らしの方は、問6へ

あなたは、朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【〇は1つ】

1. ほとんど毎日食べる
2. 週に4～5日食べる
3. 週に2～3日食べる
4. 週に1日程度食べる
5. ほとんど食べない

問5 あなたは、夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【〇は1つ】

1. ほとんど毎日食べる
2. 週に4～5日食べる
3. 週に2～3日食べる
4. 週に1日程度食べる
5. ほとんど食べない

問6 あなたは、友人や仲間、職場や地域の方と一緒に食事をする機会がありますか。
【〇は1つ】

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日ある | 2. 週に4～5日ある |
| 3. 週に2～3日ある | 4. 週に1日程度ある |
| 5. ほとんどない | |

問7 あなたは、ふだん朝食を食べますか。【〇は1つ】

- | | | |
|--------------|-------|-------|
| 1. ほとんど毎日食べる | _____ | 問8へ |
| 2. 週に4～5日食べる | _____ | 問7-2へ |
| 3. 週に2～3日食べる | _____ | |
| 4. ほとんど食べない | _____ | |

問7-2 ※問7で「2」～「4」と回答した方におたずねします。
朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。【〇は1つ】

1. 時間がない
2. 食欲がない
3. 朝食を食べるより寝ていたい
4. 減量（ダイエット）のため
5. 朝食が準備されていない
6. 以前から食べる習慣がない
7. 食べたり準備することが面倒である
8. その他（ _____ ）

問8 あなたは、ふだんどのような朝食を食べることが多いですか。【〇は1つ】

1. 一品（ごはん・パンのみ）
2. 二品（ごはん・パン+おかずなど一品）
3. 三品（ごはん・パン+おかずなど二品）以上
4. おかずのみ
5. 飲み物・果物のみ
6. 菓子
7. その他（ _____ ）
8. 食べない

問9 あなたは、主食（ごはん、パン、麺など）、主菜（肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理）、副菜（野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理）を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べていますか。（中食、外食も含む）

【○は1つ】

※中食（なかしょく）とは、惣菜店やコンビニエンスストア・スーパーなどでお弁当や惣菜などを購入したり、外食店のデリバリーなどを利用して、家庭外で調理・加工されたものを購入して食べる食事形態です。

1. 食べている
2. 食べていない

問10 あなたは、野菜料理を小鉢1皿（70g）と考えて、1日にどのくらい食べますか。

【○は1つ】

1. 1日に5皿以上
2. 1日に3～4皿
3. 1日に1～2皿
4. 1日に1皿も食べない

問11 あなたは、生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していますか。【○は1つ】

1. 実践して、半年以上継続している
2. 実践しているが、半年未満である
3. 時々気をつけているが、継続的ではない
4. 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている
5. 現在はしていないし、しようとも思わない

問12 あなたは、ふだんゆっくりよく噛^かんで食べていますか。【○は1つ】

1. ゆっくりよく噛んで食べている
2. どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている
3. どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない
4. ゆっくりよく噛んで食べていない

問 13 あなたは、自分の適正体重（BMI）を知っていますか。【〇は1つ】

※BMI（体重kg÷身長m÷身長m）とは、国際的に広く用いられている体格指数による肥満度の計算法です。18.5以上25未満が標準といわれています。

1. 知っている 2. 知らない

問 14 あなたは、下のコマ型の「食事バランスガイド」を見たことがありますか。【〇は1つ】

1. ある 問 14-2 へ 2. ない 問 15 へ



「食事バランスガイド」は、「何を」「どれだけ」食べたらよいのか。それを、コマの絵で表現したものです。コマには、1日に食べることが望ましい料理の組み合わせとおおよその量がわかりやすく示されています。

問 14-2 ※問 14 で「1. ある」と回答した方におたずねします。あなたは、食事や買い物の際、「食事バランスガイド」をどの程度参考にしていますか。【〇は1つ】

1. いつも参考にしている 2. 時々参考にしている
3. たまには参考にしている 4. 全く参考にしていない

問 15 あなたは、スーパーや飲食店、レストラン、食堂などで、加工食品やメニューに栄養成分が表示してあるのを見たことがありますか。【○は1つ】

1. ある _____ 問 15-2 へ
 2. ない _____ 問 16 へ

【例】

栄養成分表示 (1枚当たり)	
エネルギー	25kcal
たんぱく質	0.3g
脂質	1.1g
炭水化物	3.5g
食塩相当量	0.4g

問 15-2 ※問 15 で「1. ある」と回答した方におたずねします。その場合、栄養成分を参考にしてメニューを選びますか。【○は1つ】

1. いつも参考にしている
 2. 時々参考にしている
 3. ほとんど参考にしていない

問 16 あなたは、ふだん外食や中食をどれくらいの頻度で利用しますか。【それぞれ○は1つ】

	毎日 2回 以上	毎日 1回 程度	週に 5 ～ 6 回	週に 3 ～ 4 回	週に 1 ～ 2 回	月に 2 ～ 3 回	月に 1 回 程度	ほとんど 利用 しない
(1) 外食	1	2	3	4	5	6	7	8
(2) 中食	1	2	3	4	5	6	7	8

問 17 あなたは、地産地消の推進のため、すすんで地元産（熊本市産や熊本県産）の農産物や水産物を購入していますか。【○は1つ】

1. いつもしている
 2. 時々している
 3. どちらともいえない
 4. あまりしていない
 5. 全くしていない

問 18 あなたはふだんから、次の項目について実践していますか。【それぞれ○は1つ】

※「産地や生産者を意識」とは、地元産品や、被災地、自分が応援したい地域の産品や、応援したい生産者を意識することです。

※「環境に配慮した農林水産物・食品」とは、農薬や化学肥料に頼らず生産された有機農産物や、輸送距離が短い、過剰包装でなくごみが少ないなど、環境への負荷を低減した農林水産物・食品のことです。

	いつもしている	時々している	あまりしていない	全くしていない
(1) 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶこと	1	2	3	4
(2) 環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶこと	1	2	3	4
(3) 自分で料理すること	1	2	3	4
(4) 熊本の郷土料理や伝統料理、箸づかいなどの食べ方・作法などの食文化について、地域や次世代(子どもやお孫さんを含む)に伝えること	1	2	3	4

問 19 あなたが、「くまもとらしさ」を感じる料理や食材は何ですか。
何か一つ、ご自由にご記入ください。

問 20 あなたは、熊本市の良質な地下水が、地元の食材や料理の「おいしさ」の基になっていると思いますか。【○は1つ】

1. 思う

2. 思わない

3. わからない

問 21 あなたは、家庭での食事に郷土料理（だご汁、いきなりだんごなど）や行事食（おせち料理、お雑煮、七草がゆなど）を取り入れていますか。【○は1つ】

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. よく取り入れている | 2. 時々取り入れている |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり取り入れていない |
| 5. 全く取り入れていない | |

問 22 あなたは、食品を購入したり食事を作る際に、ごみを少なくするために「買いすぎない」「作りすぎない」「食べ残さない」を心がけていますか。【○は1つ】

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. いつも心がけている | 2. 時々心がけている |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり心がけていない |
| 5. 全く心がけていない | |

問 23 あなたは、次の項目に関する活動（学校の授業や保育所・幼稚園での行事、地域で開催される講演会、イベント、体験活動、自主グループなどの活動）にこれまで参加（体験）したことがありますか。【それぞれ○は1つ】

	週に1回程度	月に1～2回程度	年に数回程度	参加したいと思う	参加したことはないが 関心もない	参加したことはなく
(1) 親子料理教室など、食生活改善や健康づくりに関するもの	1	2	3	4	5	
(2) 田植えや芋ほり、野菜の栽培・収穫体験など、農林漁業やその産物に関するもの	1	2	3	4	5	
(3) ごみ減量やリサイクルなど、環境保全に関するもの	1	2	3	4	5	
(4) 食中毒予防講座など、食品の安全性や食品衛生に関するもの	1	2	3	4	5	

問 24 あなたは、食の安全性確保のために、意識して実践していることがありますか。
【〇は1つ】

1. ある ————— 問 24-2 へ
2. ない ————— 問 25 へ

問 24-2 ※問 24 で「1. ある」と回答した方におたずねします。
それはどんなことですか。【〇はいくつでも】

1. 食材の購入時には、鮮度や期限をよく確認し、新鮮なものを購入している
2. なるべく生産者のわかる野菜を購入している
3. 調理前には必ず石鹸で手洗いをしている
4. 食事前には必ず石鹸で手洗いをしている
5. トイレ後には必ず石鹸で手洗いをしている
6. まな板や包丁を食材に応じて（肉用、野菜用など）使い分けている
7. キッチンを清潔に保ち、器具の消毒をしている
8. 肉はO157やカンピロバクター食中毒の恐れがあるので、十分に加熱して食べている
9. 焼肉では、生肉に触れる箸と食べる箸は別にしている
10. 肉、魚、牛乳などは買ってきたらすぐ冷蔵庫へ入れている
11. その他（)

問 25 あなたは、食品の安全性が高まっていると感じていますか。【〇は1つ】

1. 大いに感じている
2. 多少感じている
3. どちらともいえない
4. あまり感じていない
5. 全く感じていない

問 30 あなたは、食品を購入する際に「問 30-2」に示すような表示を確認していますか。

【〇は1つ】

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 毎回確認している _____ | ————— <u>問 30-2 へ</u> |
| 2. 時々確認している _____ | |
| 3. どちらでもない _____ | ————— <u>問 31 へ</u> |
| 4. あまり確認していない _____ | |
| 5. 全く確認していない _____ | |

問 30-2 ※問 30 で「1. 毎回確認している」「2. 時々確認している」と回答した方におたずねします。何を確認していますか。【〇はいくつでも】

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 消費または賞味期限 | 2. 保存方法 |
| 3. 原材料の種類 | 4. 原産地・原産国 |
| 5. 食品添加物 | 6. 遺伝子組換え食品の有無 |
| 7. アレルギー物質の有無 | 8. 製造者・販売者 |
| 9. 栄養成分 | |
| 10. その他 (_____) | |

【表示例】 原産地表示 遺伝子組換え表示 アレルギー表示

名称	豆菓子
原材料名	落花生(国産)、きなこ(遺伝子組換え)、米粉、 でん粉、植物油、しょうゆ(小麦を含む)、 食塩、砂糖、香辛料
添加物	調味料(アミノ酸等)、着色料(カラメル、 紅麴、カロチノイド)
内容量	100g
賞味期限	2025.7.1
保存方法	直射日光を避け、常温で保存してください。
製造者	〇〇食品株式会社 〇〇県〇〇町1-2

栄養成分表示 (1枚当たり)	
エネルギー	25kcal
たんぱく質	0.3g
脂質	1.1g
炭水化物	3.5g
食塩相当量	0.4g

問 31 あなたは、熊本市が食品の安全確保のため検査を実施していることを知っていますか。

【〇は1つ】

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 32 あなたは、熊本の農林漁業の生産者が生産物の安全・安心のために行っている工夫や取り組みなどを、もっと知りたいと思いますか。【〇は1つ】

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 知りたいと思う | 2. どちらかといえば知りたいと思う |
| 3. あまり知りたいと思わない | 4. 知りたいと思わない |

問 33 あなたは、H A C C P（ハサップ）について知っていますか。【〇は1つ】

1. H A C C Pは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている
2. 言葉は知っているが意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない

問 34 飲食店や食品販売店などは、令和3年6月1日よりH A C C Pの実施（衛生管理計画を作成し、計画どおりに実施できたかを記録すること）が義務化されました。あなたは、このH A C C Pを実施している飲食店や食品販売店などを知っていますか。【〇は1つ】

1. 実施している店舗を知っている
2. 実施している店舗を知らない

問 35 あなたは、飲食店や食品販売店などを選ぶ際、H A C C Pを実施していることを重視しますか。【〇は1つ】

1. 重視する
2. 重視しない
3. わからない

問 36 あなたは、飲食店や食品販売店などがH A C C Pを実施していることを消費者に伝える手段として、効果的だと思うものはどれですか。【〇はいくつでも】

1. 施設の利用者の求めに応じ衛生管理計画が閲覧できる
2. 施設の利用者が見える場所に衛生管理計画を掲示する
3. 衛生管理計画を施設のホームページに掲載する
4. H A C C Pの情報発信に取り組んでいる施設（1～3に該当する施設など）を、市のホームページに掲載する
5. H A C C Pの情報発信に取り組んでいる施設（1～3に該当する施設など）に、市が作成した「H A C C P見える化ステッカー」等を貼付する
6. その他（ ）

問 40 あなたの歯は、現在何本ありますか。【永久歯は親知らず 4 本を含めて全部で 32 本です。親知らずが生えていない方は 28 本です。金属などを詰めた治療済みの歯（歯の根にかぶせてある差し歯含む）も本数に含めます。取り外しの入れ歯や、ブリッジなどで歯根がない歯、インプラントは除きます。】

本です。

問 41 あなたの噛^かんで食べる時の状態について、あてはまるものはどれですか。

【○は 1 つ】

1. なんでも噛んで食べることができる
2. 一部、噛めないものがある
3. 噛めない食べ物が多い
4. 噛んで食べることはできない

問 42 たばこを吸うと、歯周病が進行することを知っていますか。【○は 1 つ】

1. 知っている
2. 知らない

問 43 歯周病は歯を失う原因だけでなく、全身の健康とも深い関わりがあります。歯周病と関係がある病気としてあなたが知っているものは次のうちどれですか。

【○はいくつでも】

1. 糖尿病
2. 心臓病・動脈硬化
3. 早産・低体重児出産
4. 脳卒中
5. メタボリックシンドローム・肥満
6. 誤嚥性肺炎
7. 認知症
8. 骨粗しょう症
9. 関節リウマチ
10. 知っているものはない

問 44 あなたは、過去1年間に歯科健診を受けていますか。【○は1つ】

1. 受けた 2. 受けていない 3. わからない・覚えていない

問 45 あなたは、歯ブラシを用いた歯みがきに加えて、次の清掃用具を使用していますか。週に1回以上使用している場合に○を付けてください。【○はいくつでも】

1. デンタルフロス（糸付きようじ）
2. 歯間ブラシ
3. 舌ブラシ
4. タフトブラシ
5. その他（ ）



問 46 オーラルフレイルとは、嚙んだり飲み込んだり、話したりするための口腔機能が衰えることを指し、早期の重要な老化のサインとされています。

あなたは、このオーラルフレイルの言葉と意味を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っていたが、意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）

問 47 あなたが、過去1年間（乳がん・子宮頸がんは過去2年間）に受診したがん検診はどれですか。【○はいくつでも】

1. 肺がん検診 _____
2. 胃がん検診 _____
3. 大腸がん検診 _____ **問 47-2 へ**
4. 乳がん検診 _____
5. 子宮頸がん検診 _____
6. 受診していない _____ **問 47-3 へ**

問 47-2 **※問 47 で「1」～「5」と回答した方におたずねします。**

どこで受診しましたか。【○はいくつでも】

	市が行うがん検診※	職場検診（医療機関・人間ドックに委託されたものや家族検診を含む）	農協や商工会議所が実施する検診	人間ドック（個人で受診したもの）	医療機関（個人で受診したもの）	その他（具体的に）
1. 肺がん検診	1	2	3	4	5	6 ()
2. 胃がん検診	1	2	3	4	5	6 ()
3. 大腸がん検診	1	2	3	4	5	6 ()
4. 乳がん検診	1	2	3	4	5	6 ()
5. 子宮頸がん検診	1	2	3	4	5	6 ()
6. ()	1	2	3	4	5	6 ()

※市が行うがん検診は、最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

問 47-3 **※問 47 で「6. 受診していない」と回答した方におたずねします。**

受診しなかった理由はなんですか。【○はいくつでも】

1. 検診を知らなかったから
2. 時間が取れなかったから
3. 費用がかかるから
4. めんどうだから
5. 検査等に不安がある（検査が痛い、怖い）から
6. 健康状態に自信があり必要性を感じないから
7. 心配なときはいつでも医療機関を受診できるから
8. 対象年齢※ではないから
9. その他 ()

※がん検診の対象者は最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

問 48 熊本市のがん検診は、一定の検診料を公費で負担し、市民の皆様が安価※で受診できるようにしています。あなたは熊本市のがん検診の自己負担割合はどのくらいが適切だと思いますか。【○は1つ】

※自己負担は概ね検診費用の2割程度です。がん検診の自己負担金額は最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 無料 | 2. 検診費用の1割程度 |
| 3. 検診費用の2割程度 | 4. 検診費用の3割程度 |
| 5. その他 () | |

問 49 COPD(慢性閉塞性肺疾患)とは主として長期の喫煙によってもたらされる肺の炎症性疾患です。主に咳・痰・息切れなどの症状があり、緩やかに呼吸障害が進行するかつて「肺気腫」「慢性気管支炎」と称された疾患です。あなたはこの病気を知っていますか。【○は1つ】

- | |
|----------------------------|
| 1. どんな病気なのかよく知っている |
| 2. 名前は聞いたことがある |
| 3. 知らない(今回の調査で初めて聞いた場合を含む) |

問 50 あなたは、この1ヶ月間に、自分以外の方が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)がありましたか。【○はいくつでも】

	ほぼ毎日	週に数回程度	週に1回程度	月に1回程度	全くなかった	行かなかった
1. 行政機関 (市役所、区役所、公民館など)	1	2	3	4	5	6
2. 医療機関	1	2	3	4	5	6
3. 職場	1	2	3	4	5	6
4. 家庭	1	2	3	4	5	
5. 飲食店	1	2	3	4	5	6

問 51 受動喫煙をなくすための対策として、あなたが最も重要（必要）と思うものはどれですか。【○は1つ】

1. 公共施設の敷地内（屋内）禁煙
2. たばこをやめたい人への禁煙支援
3. 喫煙や受動喫煙の健康影響についての周知啓発（学校の授業等含む。）
4. 店内を禁煙にしている飲食店等の周知
5. 喫煙できる施設の周知
6. 分煙、喫煙施設の設置
7. 条例などによる法的な規制の強化
8. その他（ ）

問 52 あなたはタバコを吸いますか。※「5. 吸っている・・・1日およそ21本以上」と回答した方は、具体的に何本吸っているか数値をご記入ください。【○は1つ】

1. 吸わない _____ 問 53 へ
2. 以前は吸っていたが、今はやめている _____
3. 吸っている・・・1日およそ10本以下 _____
4. 吸っている・・・1日およそ11本～20本程度 _____ 問 52-2 へ
5. 吸っている・・・1日およそ21本以上 → () 本

問 52-2 ※問 52 で「3」～「5」と回答した方におたずねします。
禁煙に取り組もうと思いますか。【○は1つ】

1. 取り組もうと思わない
2. 禁煙に関心はあるが、今すぐ取り組もうとは思わない
3. 禁煙に関心があり、今すぐ取り組みたいと思う

問 53 禁煙を支援する取組として、あなたが最も重要（必要）と思うものはどれですか。【○は1つ】

1. 禁煙外来治療費の助成
2. オンラインでの禁煙相談
3. 区役所での禁煙相談
4. 医療機関（薬局）等での禁煙相談
5. YouTube 等での禁煙支援情報配信
6. その他（ ）

問 54 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）とは、「骨・関節・筋肉などの機能の低下による要介護の状態や要介護リスクの高い状態」を示す言葉です。あなたは、この言葉やその意味を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味もよく知っている
2. 言葉も知っている、意味も大体知っている
3. 言葉は知っている、意味はあまり知らない
4. 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない
5. 言葉も意味も知らない

問 55 CKD（慢性腎臓病）は、何らかの原因によって腎臓の機能が低下する病気です。あなたは、このCKD（慢性腎臓病）という言葉を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っているが、意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）

問 56 あなたは、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のために、適切な食事、定期的な運動、週に複数回の体重計測、のいずれかを実践していますか。【○は1つ】

1. 実践しており、半年以上継続している
2. 実践しているが、半年未満である
3. 時々気を付けているが、継続的ではない
4. 現在は実践していないが、近いうちにしようと思っている
5. 現在実践していないし、しようとも思わない

問 57 あなたの1日の歩数は何歩ですか。

※日曜日と祝日を除く1日間（朝起きてから寝るまで）、スマートフォンの歩数アプリやお持ちの万歩計で測定をお願いします。

歩です。

歩数の記録には熊本健康アプリ「もっと健康！げんき！アップくまもと」がおすすめです。このアプリでは、「歩く」「検診を受ける」など日々の健康づくり活動をポイントとして貯めることができ、ポイントが貯まると協力店等で特典を受けたり、豪華賞品に応募したりできます。



※このアンケートに回答いただくと健康ポイント 10pt を付与します。アプリ ID10 桁をご入力ください。

熊本健康アプリ ID

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(アプリ ID はアプリ画面のメニューボタンから確認できます)

問 58 健康寿命とは「日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間」のことです。あなたはこの「健康寿命」という言葉を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っているが、意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない (今回の調査で初めて聞いた場合を含む)

問 59 「健康まちづくり」とは、すべての市民が生涯を通じて、住みなれた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる「まちづくり」のことです。あなたは、この「健康まちづくり」という言葉やその意味を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っているが、意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない (今回の調査で初めて聞いた場合を含む)

問 60 新型コロナウイルス感染症の流行前と現在で、あなたの健康状態や健康行動に変化がありましたか。【○は1つ】

1. 変化がとてもあった [問 60-2 へ](#)
2. 変化が少しあった
3. 変化はあまりなかった [問 61 へ](#)
4. 変化は全くなかった

問 60-2 **※問 60 で「1」または「2」と回答した方におたずねします。**

どのような変化がありましたか。【○はいくつでも】

1. 外出する頻度が減った
2. 知人や親族との交流が少なくなった
3. 運動量が減った
4. 体重が増加した
5. 食事量が減った
6. 医療機関受診を控えるようになった
7. 持病が悪化した
8. その他 ()

問 61 **健康を維持するための、災害時の備えについておたずねします。**

あなたは、災害に備えて次のような準備を行っていますか。【○はいくつでも】

1. 飲料水
2. 主食（レトルトご飯、加工米、乾パン等）
3. 副食（肉・魚の缶詰、カレー等のレトルト食品等）
4. 歯ブラシ、デンタルリンスなどの口腔ケア用品
5. 災害用トイレ
6. 感染予防のための、マスク、アルコール等の消毒剤
7. 非常用持出し用衣類、毛布
8. 眼鏡、入れ歯、補聴器、杖など無いと困るものをすぐに持ち出せるようにしている
9. 常備薬（風邪薬、胃腸薬等）
10. （治療している方のみ）治療に必要な薬をすぐに持ち出せるようにしている
11. （食事療法している方のみ）治療に合わせた食事
12. （乳児期・離乳食期のお子さんがある方のみ）粉ミルクや月齢に合わせた離乳食
13. （おむつを使用している方がご家庭にいる方のみ）おむつ
14. その他 ()
15. 準備していない

問 62 『健康づくり』や『食の安全安心・食育』に関するご意見などありましたら何でも結構です。ご自由にお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。

■熊本市のがん検診について

熊本市の死因の第1位は「がん」です。3人に1人は「がん」で亡くなっています。がんによる死亡を減少させるには、早期発見・早期治療が大切です。本市では積極的にがん検診の受診をすすめています。

検診名		対象者	検査方法	受診間隔	自己負担金
肺がん検診	集団	40歳以上	胸部X線検査	毎年	40～64歳:300円
	個別				65歳以上:200円
	集団・個別	喫煙歴による	喀痰検査		500円
胃がん検診	集団	40歳以上	胃部X線検査	毎年	1,000円
	個別	50歳以上	胃内視鏡検査	2年に1回	3,000円
大腸がん検診	集団	40歳以上	便潜血検査	毎年	300円
	個別				500円
	郵送				300円
乳がん検診	集団	40歳以上	乳房X線検査 (マンモグラフィ)	2年に1回	40歳代:1,500円
	個別				50歳以上:1,100円
子宮頸がん検診	集団	20歳以上	内診及び 細胞診	2年に1回	1,000円
	個別				1,200円

熊本市健康づくりに関する市民アンケート
調査報告書

発 行 熊 本 市

編 集 熊本市健康福祉局 健康福祉部
健康づくり推進課
〒860-8601 熊本市中央区手取本町1番1号
電話 096-328-2145
E-mail : kenkouzukuri@city.kumamoto.lg.jp

発 行 日 令和5年11月